

青森県埋蔵文化財調査報告書 第244集

# 隠川(4)遺跡

# 隠川(12)遺跡 I

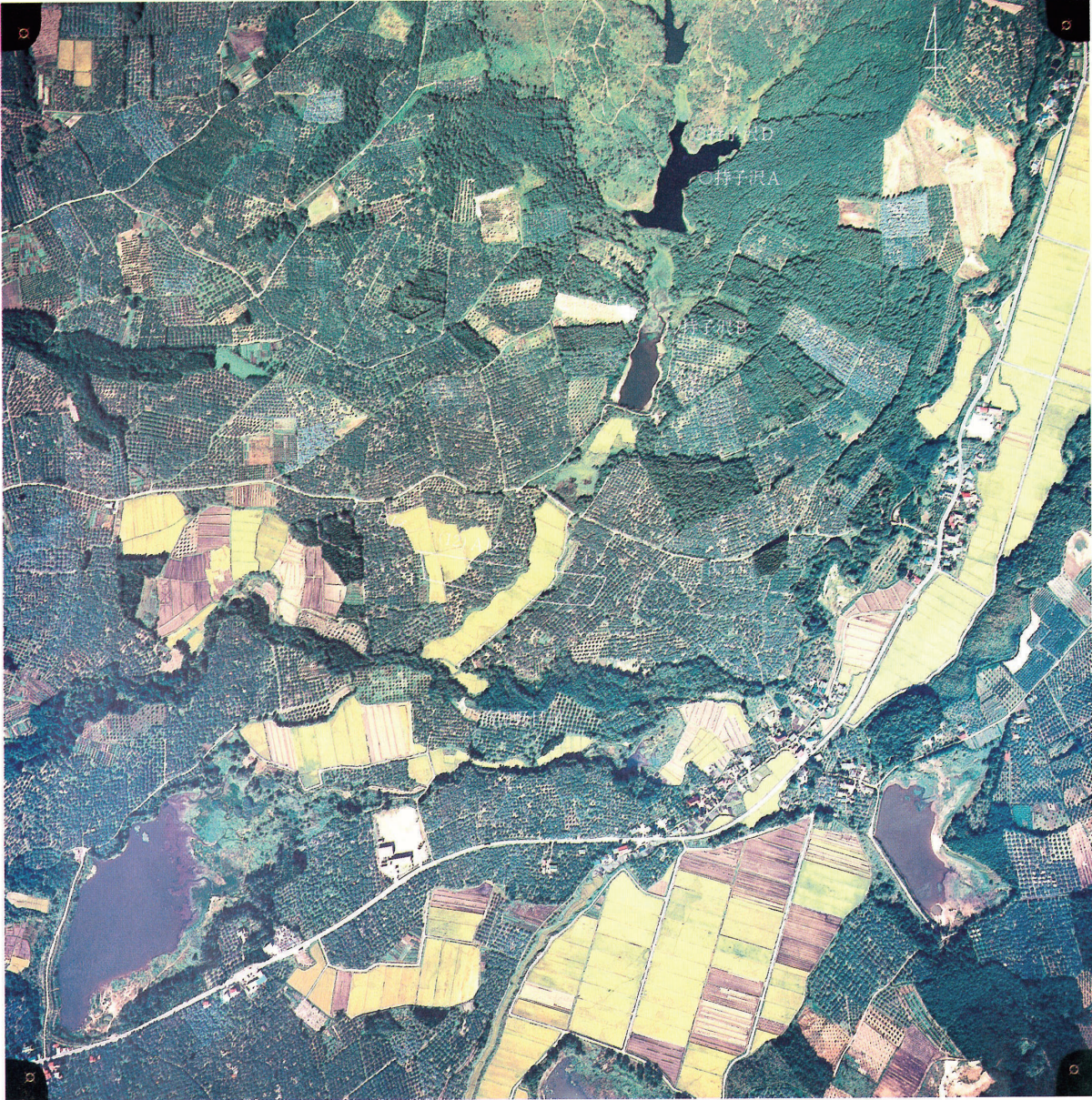
— 国道101号浪岡五所川原道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

1998年3月

青森県教育委員会

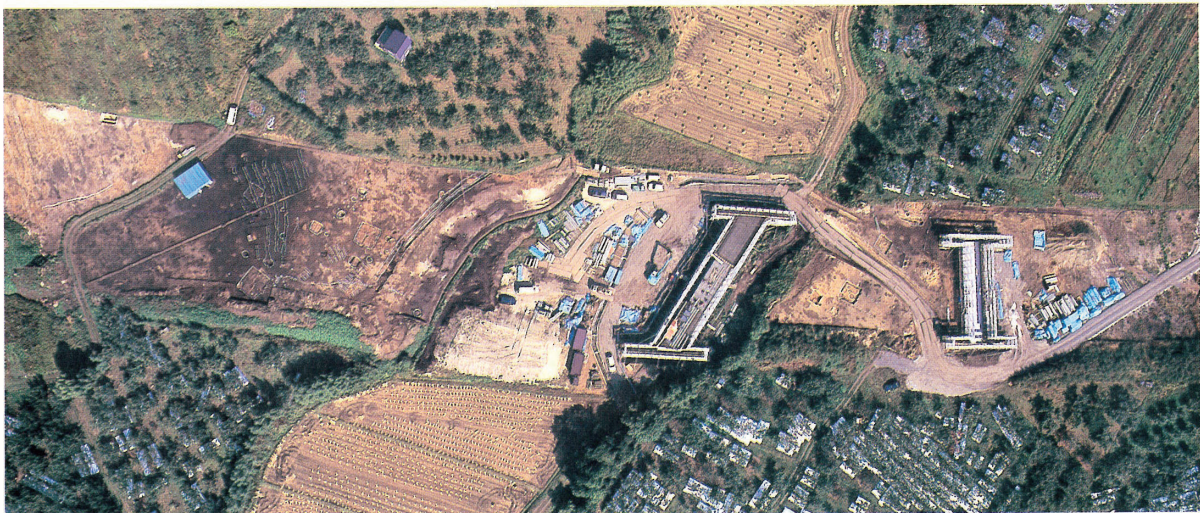






隠川(4)・(12)遺跡周辺の環境

この写真は、建設省国土地理院の承認を得て、掲載したものである。(昭和50年9月30日撮影)



調査区上空 (左(12)A区・右(4))





隠川(4)遺跡



隠川(12)遺跡





(4) 4 H (中央の黒い部分は RP 01)



(4) 4 HRP01粘土堆積状態



(4) 4 HRP01粘土除去後の状態



(4) 4 HRP02粘土堆積状態



(4) 4 HCL01 (粘土塊出土状態・16区)





(4) 1 HRP01粘土堆積状態



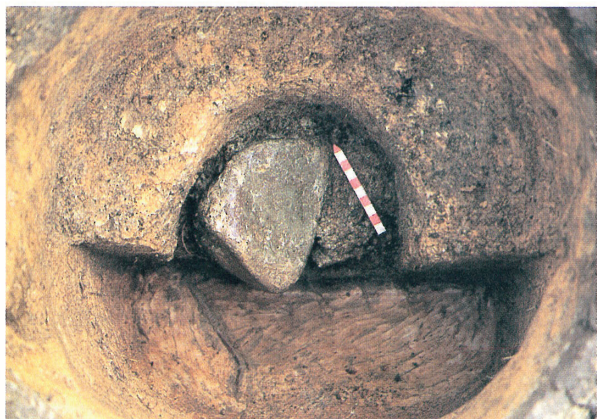
(4) 1 HRP01セクション (上位)



(4) 1 HRP01土器出土状態



(4) 3 HRP01完掘状態



(4) 4 HRP01礫出土状態



(4) 4 HRP01粘土中の赤色顔料塊検出状態



(4) 4 HRP02粘土セクション



(4) 6 HRP01確認状態





(4) 6 HRP01セクション



(4) 6 HRP01土器出土状態



(4) 6 HRP02礫・粘土塊検出状態



(4) 6 HRP02礫・シルト礫検出状態



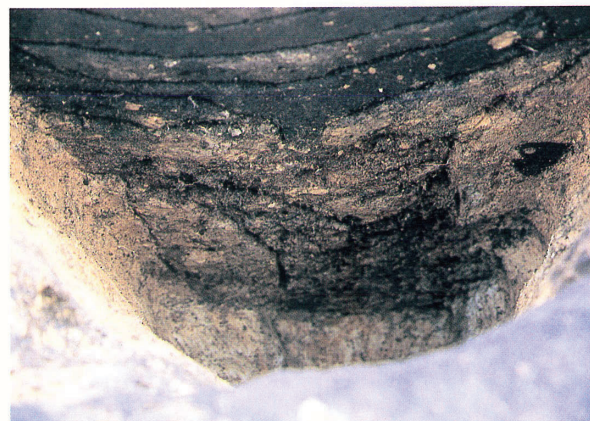
(12) 2 HRP01完掘状態



(12) 2 HRP01セクション



(12) 5 HRP01完掘状態



(12) 5 HRP01セクション





(12) 4 HRP01土器出土状態



(12) 5 HSK01粘土塊出土状態



(4) SK05完掘状態



(4) SK05土器出土状態



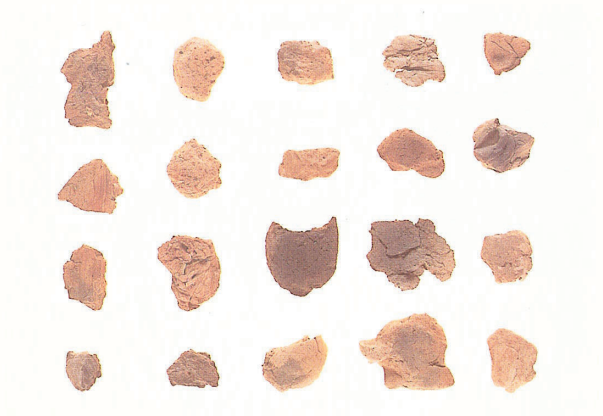
(4) SK17遺物出土状態



(4) SK17セクション



(4)・(12)土師質特殊遺物・(12)土器 (図40-26)



(4)土師質特殊遺物





(12) 4 H カマド須恵器窯壁片出土状態



(12) SK19 須恵器窯壁片出土状態



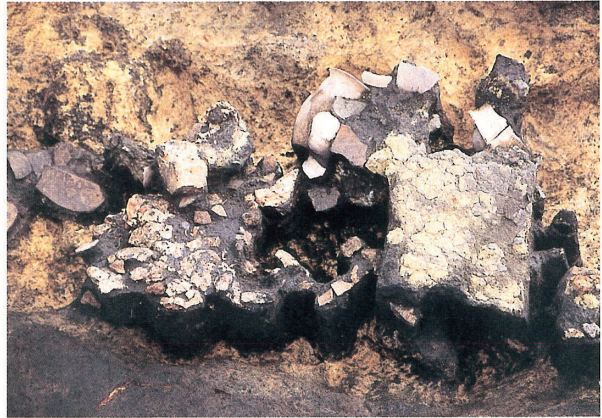
(12) 2 H 須恵器窯壁片出土状態 (5区)



(4)・(12) 須恵器窯壁片



(12) 2 H カマドシルト礫出土状態



(4) 1 HSD03シルト礫出土状態



(12) 2 Hシルト礫出土状態 (1区)



(4)・(12)シルト礫





(12) SDX01完掘状態



(12) SDX02・03・04完掘状態



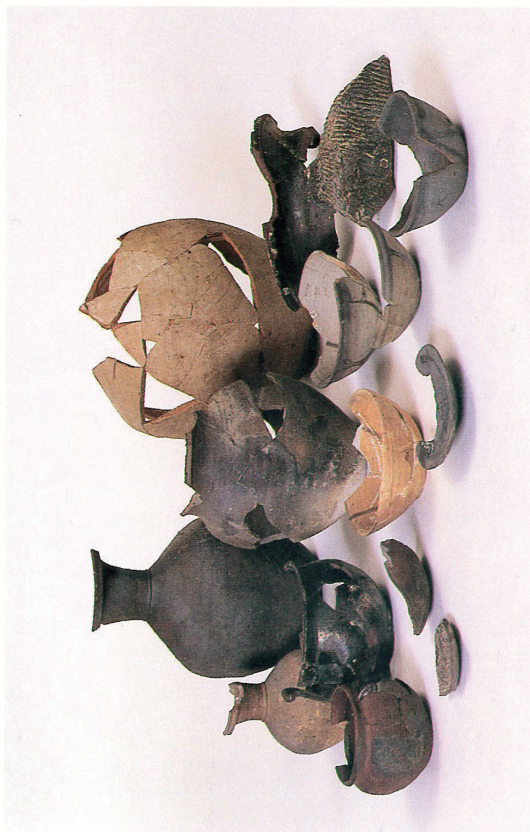


(4) SE01井戸枠・土器出土状態



(12) SE01土器出土状態





須恵器



破裂剥片



土師器



ミニチュア土器



# 序

津軽平野に位置する五所川原市には、観音林遺跡や前田野目の須恵器窯跡をはじめ数多くの埋蔵文化財が包蔵されております。青森県教育委員会では、国道101号浪岡五所川原道路（津軽自動車道）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を平成7年度から実施しております。

この度、平成8年度に発掘調査した五所川原市隠川(4)・(12)遺跡の報告書がまとまり、これを刊行することになりました。

調査の結果によると、縄文時代から平安時代までの各時代の遺物が出土し、長い時代にわたって人々が生活した遺跡であることが判明しました。特に、本県において初めて検出された土器の工房跡は、前田野目の須恵器窯跡に関連する遺構として注目されるものです。

この調査成果が広く文化財の保護と研究に活用され、また地域社会の歴史学習や地域住民の文化財保護の意識の高揚につながることを期待したいと存じます。

最後に、平素より埋蔵文化財の保護に対し御理解を賜っている建設省青森工事事務所並びに五所川原市教育委員会と、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり御指導、御協力を賜った関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐

# 例 言

- 1 本報告書は、平成8年度に実施した国道101号浪岡五所川原道路建設事業予定地内に所在する隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の遺跡番号は、隠川(4)遺跡が05064番、隠川(12)遺跡が05072番である。
- 3 資料の鑑定及び試料の鑑定・分析については次の方々と機関に依頼した(順不同、敬称略)。

火山灰の蛍光X線分析	奈良教育大学教授	三辻 利一
土師器・須恵器の蛍光X線分析	奈良教育大学教授	三辻 利一
木製品・炭化材の樹種同定	東北大学教授	鈴木 三男
石器の石質鑑定	青森県立板柳高等学校教諭	山口 義伸
植物珪酸体分析	(株)古環境研究所	
植物種子の種実同定	(株)パレオ・ラボ	
- 4 本報告書の依頼原稿の執筆者名は目次と文頭に示した。土師器・須恵器・ミニチュア土器・縄文土器の執筆は三林が、それ以外は木村が執筆した。編集は木村が行った。
- 5 本報告書に掲載した地形図(遺跡位置図)は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図(「浪岡」・「大釈迦」)を複写、合成したものである。
- 6 出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 7 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関および方々から御協力・御助言を頂いた。ご芳名を記し、感謝申し上げる次第である(順不同・敬称略)。

津軽金山焼窯業協同組合 赤熊浩一 天野哲也 新谷久雄 井上雅孝 遠藤正夫 利部修  
角張淳一 北林八洲晴 工藤清泰 鈴木徹 高橋学 田中寿明 豊田宏良 羽柴直人 半沢紀  
福田友之 松田隆二 松宮亮二 松谷純一 光谷拓実 百瀬正恒 森内秀造 森岡健治 渡辺一  
渡部学

# 凡 例

- 1 本報告書の依頼原稿については執筆者名を文頭に記した。
- 2 引用・参考文献については、本文末に収めた。文中に引用した文献名については、著者名(編集機関)と西暦年で示した。
- 3 土層の色調・注記では、『新版標準土色帖』(小山・竹原1967(17版1996.1))を参考にした。また、基本土層の番号にはローマ数字(I・II・III…)を使用し、遺構内の層序を表記する際はアラビア数字(1・2・3…)を使用した。遺構内の土層注記において、土質の記されていない土層は、全てシルト質であり、しまり具合が記されていない土層は、全て「しまりの有る」ものである。
- 4 遺構名は、基本的に調査時の名称を使用した。遺構名を変更したものは下記の通りである(())内は調査時の遺構名)。遺構原図面と遺物の注記には調査時の遺構名を使用している。

隠川(4)遺跡		隠川(12)遺跡		
1HRP01(1HSX01)	6HSD02(1HSD05)	2HSK01(2HSX06)	4HRP01(4HSX03)	SK22(第1号埋設)
1HRP02(1HPit3)	SK16(1HSK01)	2HSK02(2HSX10)	4HSD01(SD05)	SE01(SK03)
3HRP01(3HPit2)	SK17(1HSK02)	2HRP01(2HSX01)	5HRP01(5HSX01)	SDX01(連続溝状遺構)

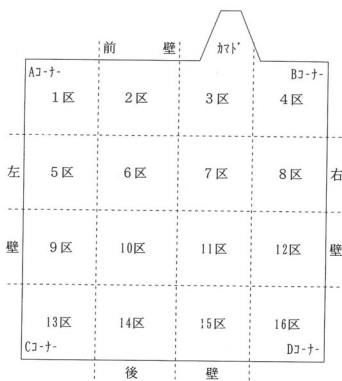
隠川(4)遺跡

4HRP01(4HSX01)	SK18(2HSK02)
4HRP02(4HSX02)	6HSB01Pit02(1HSB01Pit02)
4HCL01(4HSX03)	6HSB01Pit04(1HSB01Pit04)
6HRP01(6HSK01)	6HSB01Pit06(1HSB01Pit06)
6HRP02(6HSK02)	6HSB01Pit09(1HSB01Pit09)
6HSD01(1HSD04)	6HSB01Pit14(1HSB01Pit14)

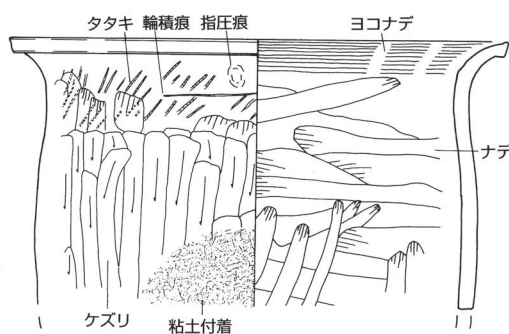
隠川(12)遺跡

2HPit2(2HSX03)	5HSK01(5HSX03)	SDX02(第2号小連続溝状遺構)
2HPit3(2HSX04)	6HSK02(4HSX04)	SDX03(第3号小連続溝状遺構)
2HPit4(2HSX05)	5HPit4(5HSX02)	SDX04(第1号小連続溝状遺構)
2HPit6(2HSX07)	SK18(2HSK01)	E-152-13 Pit3,4(2HSK04)
2HPit7(2HSX08)	SK19(2HSK02)	
2HPit8(2HSX09)	SK20(2HSK03)	

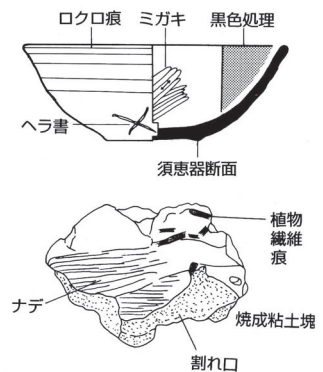
- 遺構の表記には以下に示す略号を使用し、原則として遺構の検出順に付番した。  
H:住居跡 HSD:住居跡に付随する外周溝・外延溝 HSDSK:住居跡外周溝に付随する土坑  
HSB:住居跡に付随する掘立柱建物跡 HRP:住居跡に付随するロクロピット P:住居跡に付随する柱穴・小穴  
SK:土坑 SD:溝跡 SDX:並列溝状遺構 SE:井戸跡 SX:その他の遺構
- 住居跡の規模については、原則として4壁の中間点を計測箇所とし、対峙する2壁の各中間点を結ぶ長さを平均壁長とした。
- 住居跡の四壁を表現する際に、方位で表現すると煩雑になるため、便宜的に前壁、後壁、右壁、左壁と呼称した。即ち、住居跡の中心からカマドの作りつけられる壁を見た際、その壁が前壁、後ろにある壁が後壁、右にある壁が右壁、左にある壁が左壁である(下図)。
- 住居跡の隅を、方位で呼称すると複雑になるため、便宜的にA~Dの名称で呼称した。即ち、住居跡の中心からカマドの作りつけられる壁を見た際、左前方にある隅がAコーナー、右前方にある隅がBコーナー、左後方にある隅がCコーナー、右後方にある隅がDコーナーである(下図)。
- 住居跡内における出土遺物と付属施設の平面的位置を述べる際に、住居跡の平面図を16分割し、各々の区画の名称を用いた。分割の方法は、各壁長を二等分し、前壁と後壁の中央、左壁と右壁の中央を線で結んで四分し、次に各々の区画をさらに四分するものである。あくまでも各々の住居内を等分したものであるため、各区画の形状・面積は住居跡毎に異なり、菱形の住居跡などは、各分割区も菱形となる。各々の分割区の名称は、カマドの作りつけられる壁の左端(Aコーナー)からBコーナー方向に1~16区とした(下図)。
- 掘立柱建物跡の主軸方位は、桁行方向の長軸を基準線とした。
- 遺物には、観察表を付し、出土地点や諸特徴を一覧できるようにした。
- 陶磁器の年代は廃棄年代ではなく、およその焼造年代を記載した。
- 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを掲載した。
- 挿図中のスクリーン・トーンは、各図ごとに凡例を付した。
- 挿図中の北の方位表示は、全図とも座標北である。
- 遺構図版中の土器の縮尺は、約8分の1である。なお、遺物写真の縮尺は、統一しなかった。
- 遺物図版中において、床面・底面出土遺物に●印を、床構築土(貼床)出土遺物には○を、実測図の左下に記した。



住居跡・各部の呼称法



実測図凡例





# 目 次

卷頭図版	
序	
例言 凡例	
第Ⅰ章 調査に至る経緯と調査要項	1
第1節 調査に至る経緯	1 木村鐵次郎
第2節 調査要項	1
第Ⅱ章 調査の方法と調査の経過	4
第1節 調査の方法	4
第2節 調査の経過	5
第Ⅲ章 遺跡周辺の環境	7
第1節 地形及び地質	7 山口 義伸
第2節 周辺の遺跡	10
第Ⅳ章 遺跡の概要	14
第Ⅴ章 遺物の分類	16
第Ⅵ章 隠川(4)遺跡の検出遺構と出土遺物	23
第1節 平安時代の検出遺構	25
1 住居跡	25
2 土 坑	64
3 井戸跡	68
4 並列溝状遺構	71
5 溝 跡	73
6 特殊遺構	73
第2節 平安時代の出土遺物	74
1 土師器	74
2 須恵器	76
3 ミニチュア土器	77
4 土製品	95
5 土師質特殊遺物	96
6 焼成粘土塊	98
7 粘土塊	100
8 窯壁片	101
9 石製品	101
10 鉄製品	104
11 鉄 滓	104
12 木製品	105
第3節 縄文時代の検出遺構	106
1 土 坑	106
第4節 縄文時代の出土遺物	109
1 土 器	109
2 石 器	111
第5節 弥生時代の出土遺物	114
1 土 器	114
第6節 近世以降の出土遺物	115
1 陶磁器	115
2 瓦質土器	115
3 銅製品	115
4 土製品	115

第Ⅶ章 隠川(12)遺跡の検出遺構と出土遺物	127
第1節 平安時代の検出遺構	129
1 住居跡	129
2 土坑	150
3 井戸跡	161
4 並列溝状遺構	163
5 溝跡	169
第2節 平安時代の出土遺物	170
1 土師器	170
2 須恵器	171
3 ミニチュア土器	172
4 土製品	188
5 土師質特殊遺物	189
6 粘土塊	191
7 焼成粘土塊	191
8 窯壁片	193
9 石製品	194
10 鉄製品	196
第3節 縄文時代の検出遺構	197
1 土坑	197
第4節 縄文時代の出土遺物	198
1 土器	198
2 土製品	198
3 石器	200
4 石製品	201
第5節 弥生時代の出土遺物	205
1 土器	205
第6節 近世以降の出土遺物	206
1 陶磁器	206
2 石製品	206
3 銅製品	206
第7節 時代不明の検出遺構	207
1 溝跡	207
2 ピット群	207
第Ⅷ章 調査の成果	221
第1節 遺構	221
第2節 遺物	228
第Ⅸ章 自然科学的分析	235
第1節 火山灰の蛍光X線分析	三辻 利一 235
第2節 土器類・粘土の蛍光X線分析	三辻 利一 237
第3節 木製品及び炭化材の樹種同定	鈴木 三男 244
第4節 並列溝状遺構の植物珪酸体分析	(株)古環境研究所 249
第5節 大型植物化石の同定	(株)パレオ・ラボ 255
第Ⅹ章 調査のまとめ	258
写真図版	
報告書抄録	





図Ⅰ 遺跡の位置 (本図は建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図「浪岡」・「大枳加」を複製したものである)  
 (スクリーントーン部分)



# 第 I 章 調査に至る経緯と調査要項

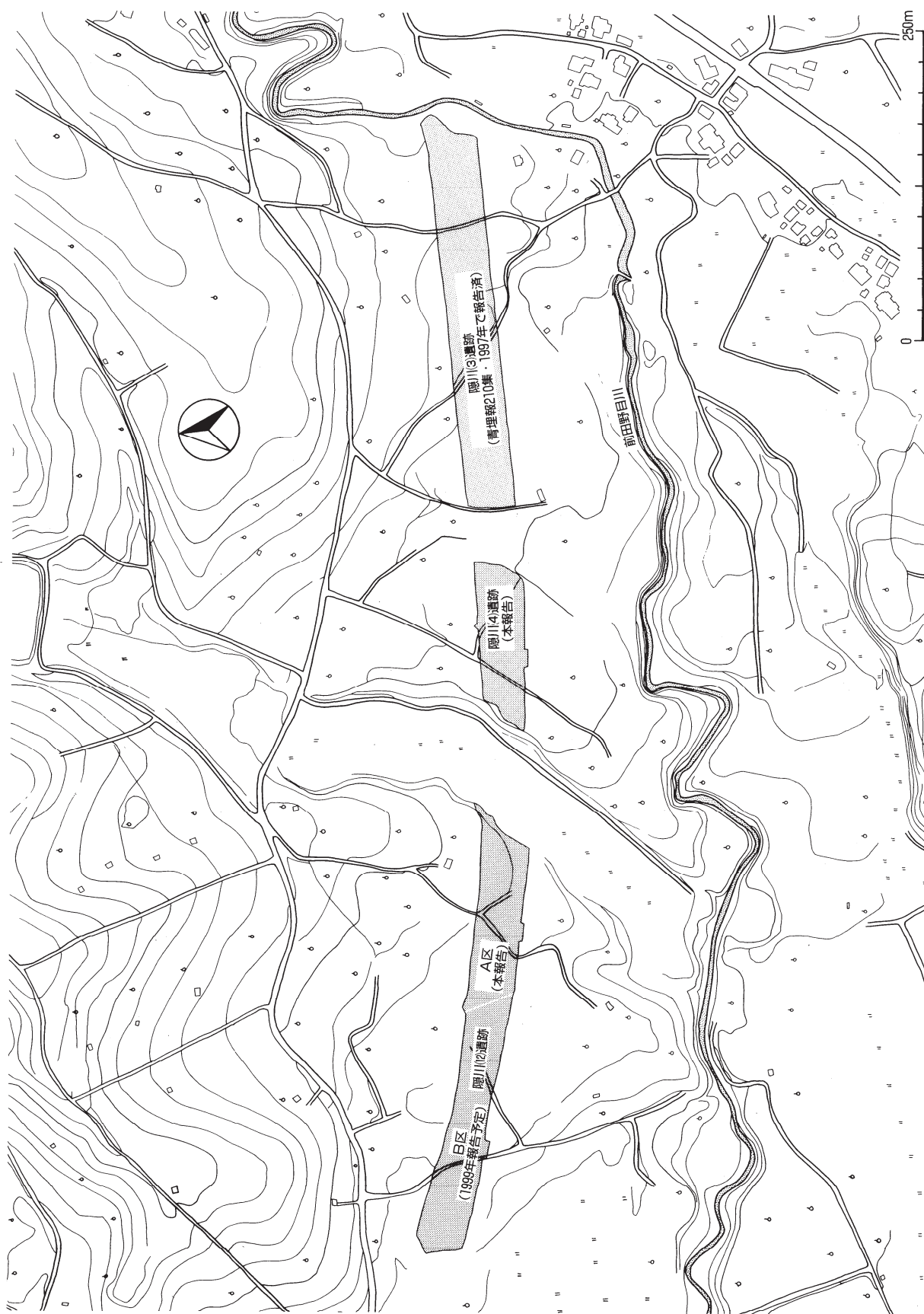
## 第 1 節 調査に至る経緯

国道101号浪岡五所川原道路は、南津軽郡浪岡町から五所川原市までの全長15.7kmを結ぶ自動車専用道路で、津軽自動車道の一部を形成するものである。平成3年度に青森県の事業として着手され、平成5年度からは建設省の事業となっている。青森県教育庁文化課では、平成3年度に津軽自動車道建設事業と文化財保護の調整を図るため分布調査を実施した（『青森県遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財報告書第146集）。隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡はその際に新たに確認された遺跡で、青森県遺跡番号は(4)が05064、(12)が05072で、平安時代の遺跡とされた。

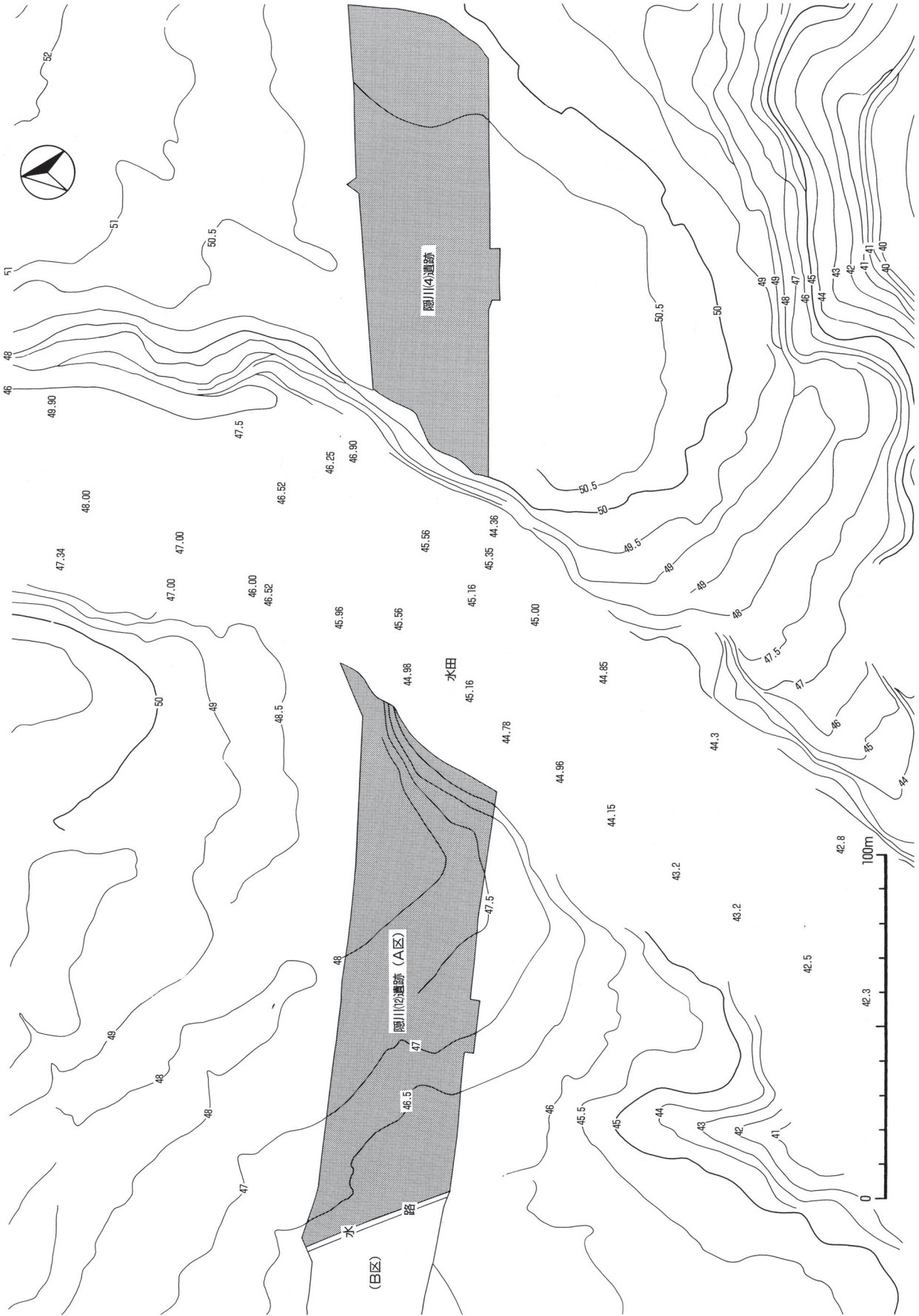
平成8年度に隠川(4)・(12)遺跡の発掘調査を青森県埋蔵文化財調査センターが実施することになり、平成8年5月8日から調査を開始した。 (木村 鐵次郎)

## 第 2 節 調査要項

1 調査目的	国道101号浪岡五所川原道路建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する隠川(4)・(12)遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。
2 発掘調査期間	平成8年5月8日(水)から同年10月30日(水)まで
3 遺跡名及び所在地	隠川(4)遺跡(青森県遺跡番号05-064)五所川原市大字持子沢字隠川616、外 隠川(12)遺跡(青森県遺跡番号05-072)五所川原市大字持子沢字隠川622、外
4 調査対象面積	隠川(4)遺跡 5,000平方メートル 隠川(12)遺跡 5,000平方メートル
5 調査委託者	建設省東北地方建設局青森工事事務所
6 調査受託者	青森県教育委員会
7 調査担当機関	青森県埋蔵文化財調査センター
8 調査協力機関	五所川原市教育委員会、西北教育事務所
9 調査員等	調査指導員 村越 潔 青森大学教授(考古学) 調査協力員 釜菴 裕 五所川原市教育委員会教育長 調査員 高島 成侑 八戸工業大学教授(建築学) 葛西 励 青森短期大学助教授(考古学) 山口 義伸 青森県立板柳高等学校教諭(地質学)
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター 調査第四課 課長 木村 鐵次郎 主 事 木村 高 主 事 三林 健一 調査補助員 中村 行西、小野 悦子 本間 小夜佳、今 直子



図Ⅱ 隠川(3)・(4)・(12)遺跡の調査区及び周辺の地形の環境



図Ⅲ 調査区周辺の地形



## 第Ⅱ章 調査の方法と調査の経過

### 第1節 調査の方法

**グリッドの設定** (図Ⅳ) 調査区域内におけるグリッドは、隠川(3)遺跡(平成7年度に調査実施)で使用したグリッド(青森県教育委員会1997)を延長して設定した。

1グリッドの規模は4m×4mに設定し、各グリッドには南北線の北から南へA・B・C……とアルファベットを、東西線の東から西へ1・2・3……と算用数字を付した。

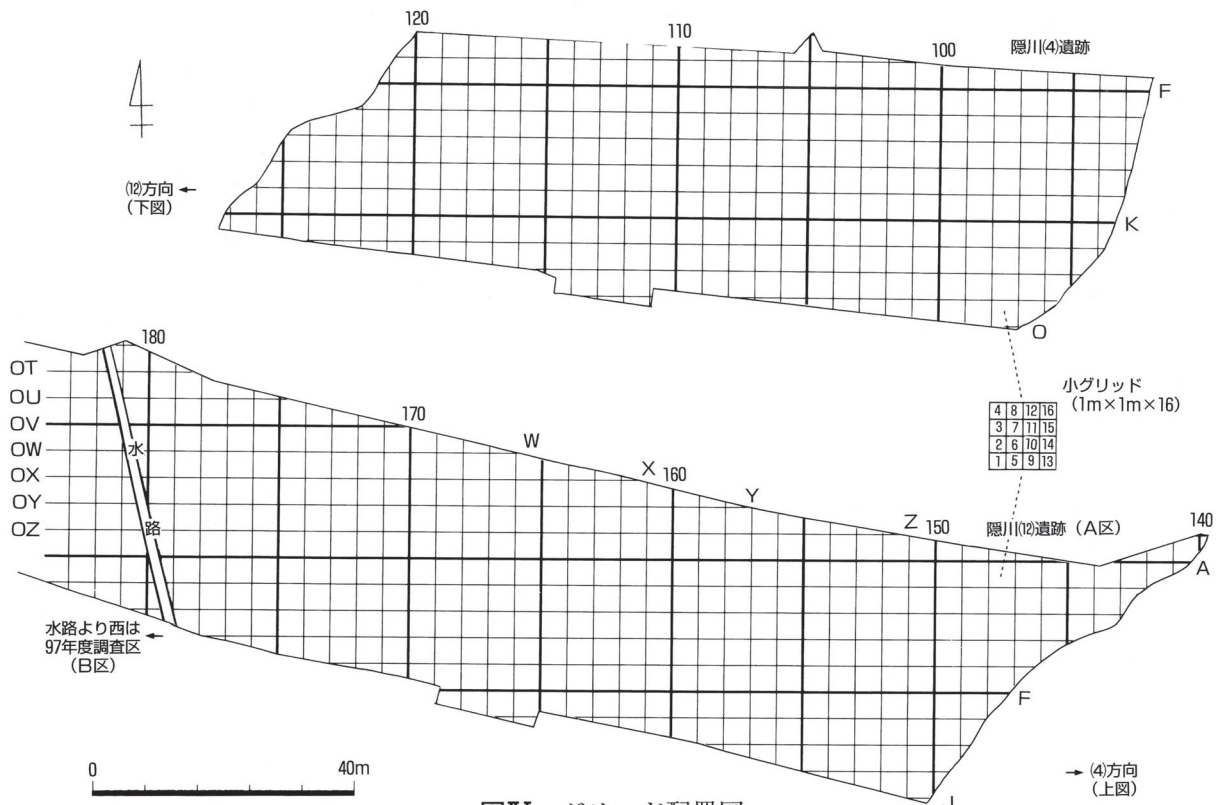
グリッドの呼称は、北東隅の交点を使用することにした(アルファベットのPは付さなかった)。さらに4m×4mの1グリッドの中には16個の1m×1m小グリッドを設け、1～16の番号を付した(グリッド配置図参照)。なお、グリッドの南北方向線は、座標北より東に2度傾いている。

**遺物包含層の調査方法** 発掘調査に当たっては、各地区ごとに適宜、遺跡に堆積する土壌の層位的な堆積状況を観察するために数本のセクションベルトを設け、各グリッドごとに掘り進めていった。

基本土層の名称は、表土から下位にローマ数字を付すことにした。土層観察にあたっては『新版標準土色帖』(小山・竹原1967(17版1996.1))を用いて注記した。

出土した遺物の取上げは、グリッド単位(小グリッド単位)・層単位に行い、必要に応じて写真を撮影した後に平面図を作成し、標高を測定、さらに番号を付すことにした。

**遺構の調査方法** 遺構の調査は、原則的に四分法で行い、堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めたが、遺構の規模や形態から四分法が困難になった場合は二分法に切り替えて行うこととした。土層の名称は、基本的に上位から下位に、左から右に算用数字を各々





付すことにした。土層観察にあたっては『新版標準土色帖』(小山・竹原1967(17版1996.1))を用いて注記した。堆積する土壌の中に火山灰を含む場合は、火山灰の純度の高い部分を中心にサンプリングし、室内において不純物を除去した。

**実測図の作成** 遺構の形態及び遺構内出土遺物の出土地点や出土状態については、全て遣り方測量によって行った。縮尺は20分の1を基本としたが、種類や規模の大小により10分の1、40分の1、その他とした。なお、隠川(4)遺跡のベンチマークは、東域と西域の2箇所にて51.00mを設定し、その際の東域の眼高レベルは100cm、西域は50cmに設定した。また、隠川(12)遺跡のベンチマークは、49mを数ヶ所に設定し、その際の眼高レベルは50cmに統一した。

**遺構番号の命名** 遺構の番号は、その遺構の種類に応じて遺跡毎の確認順に付すよう努めたが、若干の欠番が生じた。よって本報告では一部に新番号を付している(例言参照)。

**写真撮影** 土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に撮影し、その他必要に応じて基本土層、調査状況などについても記録した。カメラは、キャノンEOS 5、使用レンズはキャノンULTRASONICズームレンズEF28-105mm 1:3.5-4.5を使用し、フィルムはモノクロ・カラーリバーサル・カラーネガの3種を使用した。

(木村 高)

## 第2節 調査の経過

**平成7年度** 7月下旬から(4)の3,500㎡の粗掘及び遺構確認を行う(青埋報 第210集 1997)。

**平成8年度 4月** 17日に五所川原市中央公民館において発掘作業員の雇用説明会を実施。18日に隠川(4)遺跡(以下、(4)と言う)・隠川(12)遺跡(以下、(12)と言う)において原因者とともに遺跡の現状把握と、中杭などの目印等について確認を行う。

**5月** 調査開始日に発掘調査機材を搬入。プレハブ内清掃、調査区内に散在する危険物の除去等の環境整備を行う。その後、(4)の前年度までに粗掘りが終了している3,500㎡の遺構確認および精査を行う。調査と道路工事が同時進行するため、(4)・(12)の層序及び土量、遺構・遺物の埋蔵量の把握を行いつつも、(4)の工事範囲内を優先的に遺構精査する。5月末日段階で確認した遺構は、住居跡、土坑、溝跡(住居跡外周溝含む)、柱穴、多数の風倒木痕、溝状遺構等であり、それらのほとんどはB-Tm降下以前の構築であることが把握される。(4)の調査区域内での工事は7月頃からは行われることになり、(12)の試掘は中断し、(4)の調査に専念する。工事用道路の予定箇所には、並列溝状遺構、第1号住居跡、第2号住居跡、第3号住居跡に付随する溝跡があることから、急ピッチで精査を進める。しかし、第1号住居跡にはミニチュア土器や土製品を含むおびただしい数量の遺物が廃棄されており、拡張を行っている住居跡でもあったことから、精査には予想以上に時間を要す。また、この住居跡に付随する掘立柱建物跡の中からは、炭化したトチが5月末の時点で50点以上も出土したことより、一般的な住居跡ではないと認識する。

**6月** (4)：調査区内の東域にある前年度に粗掘した際の排土をバックホーで移動。そこから新たに井戸跡1基が確認され、B-Tm降下以前の構築であることを把握。6日：浪岡町中央公民館において原因者と調査打ち合わせ会議を行い、浪岡五所川原道路の事業概要や遺跡の概要などについて報

告を交わす。工事用道路の着工が迫ってきたため、(4)の遺構精査を急いだが、第1号住居跡の精査完了は、無理であった。工事用道路の計画変更について原因者と協議。協議の結果、工事用道路は、遺構の無い地帯を蛇行させ、その工事は2期に分けることに決定。1期目の工事用道路の完成直後、(4)の中央に在る農道を掘り下げ、遺構確認・精査を行う。農道の下には予測通り並列溝状遺構が確認され、直ぐに調査を開始。プラントオパール分析を中止することで、調査は早急に完了。しかし、並列溝状遺構の下層には縄文時代の土坑が2基確認され、加えて雨天日も続いたことから、調査は予想以上に難航。7月からは2期目の工事用道路が着工されるため、急いで調査を進める。農道の下に検出された並列溝状遺構は、その形状で見ると、畠跡に類似するが、断定できないため、便宜的に「連続溝状遺構」と呼称。

**7月** (4)：住居跡と並列溝状遺構の精査を中心に作業。並列溝状遺構、縄文時代の土坑の精査完了後、2期目の工事用道路が着工される。第3号住居跡と第4号住居跡の間の道路は深さ4m以上のものとなったため、安全確保のために作業形態を変える。「土坑」としたもののうち、3基ほど土器焼成遺構と思われるものが認識され、また、住居跡内に特殊施設が多いことに注意し始める。特に第4号住居跡の中央に検出された2基のピットがロクロ軸受けのためのピットではないかという認識を持つようになり、また、同住居跡の南コーナーに出土した3個の直方体を呈す粘土塊は、土器製作用の粘土ではないかと考える。井戸跡からは木柀や一括廃棄された土師器、須恵器などが出土し始め、火山灰が2枚あることも判明し、良好な井戸跡であることがつかめたが、湧水が著しく調査は難航。(12)：2期目の工事用道路完成後、少人数で遺構確認を行う。(12)にも並列溝状遺構が確認され始める。

**8月** (4)：第1号住居跡にもロクロピット2基を確認し、さらに同住居跡の下層には第6号住居跡が確認されたが、第6号住居跡にもロクロピットが2基確認された。井戸跡の下位火山灰の下層からはミニチュア土器2点出土し、さらに埋土には多量の種子が含まれていたため、土壌サンプルの採取を行う。8月末日に(4)の調査を完了。(12)：遺構精査及び確認を中心に作業。遺物の出土率は周辺の平安期集落よりも明らかに多い。第2号住居跡内からは土玉が出土し始める。

**9月** (12)の遺構精査を中心に作業。須恵器窯壁片が第2号住居跡、第4号住居跡、(12)の調査区東端の斜面から出土したため、調査区東端の斜面に須恵器窯跡の有無を確認するために、移植ベラで入念に掘り下げた。また、並列溝状遺構の火山灰の希薄な部分では、平面プランの確認が困難であったため、トレンチを多数設け、断面を繋ぐようにして全形、全長の把握に努めた。結果として、並列溝状遺構は非常に長いことが判明し、畠跡としては考え難いと思われる。また、その際のトレンチにより並列溝状遺構の下層に住居跡や土坑の存在が判明する。

**10月** (12)：航空撮影及び、並列溝状遺構のプラントオパールのサンプリングを行った。その後、並列溝状遺構の下層にある遺構を調査するため、並列溝状遺構の検出面を一斉に掘り下げ、住居跡1軒と、土坑数基を検出。中旬は雨天日が続き、並列溝状遺構下層の遺構精査は遅々として進まず、一時は期間内での調査完了は難しいと思われたが、調査は続行。井戸跡からは、(4)の井戸と同様に火山灰が2枚確認される。井戸跡内には須恵器片が多数廃棄されており、窯壁片も1点出土する。下旬からは好天に恵まれ、予測以上に作業が進行したことから、(12)の次年度調査区(B区)の試掘も行いながら、10,000㎡の調査の全日程を無事終了する。

(木村 高)



### 第Ⅲ章 遺跡周辺の環境

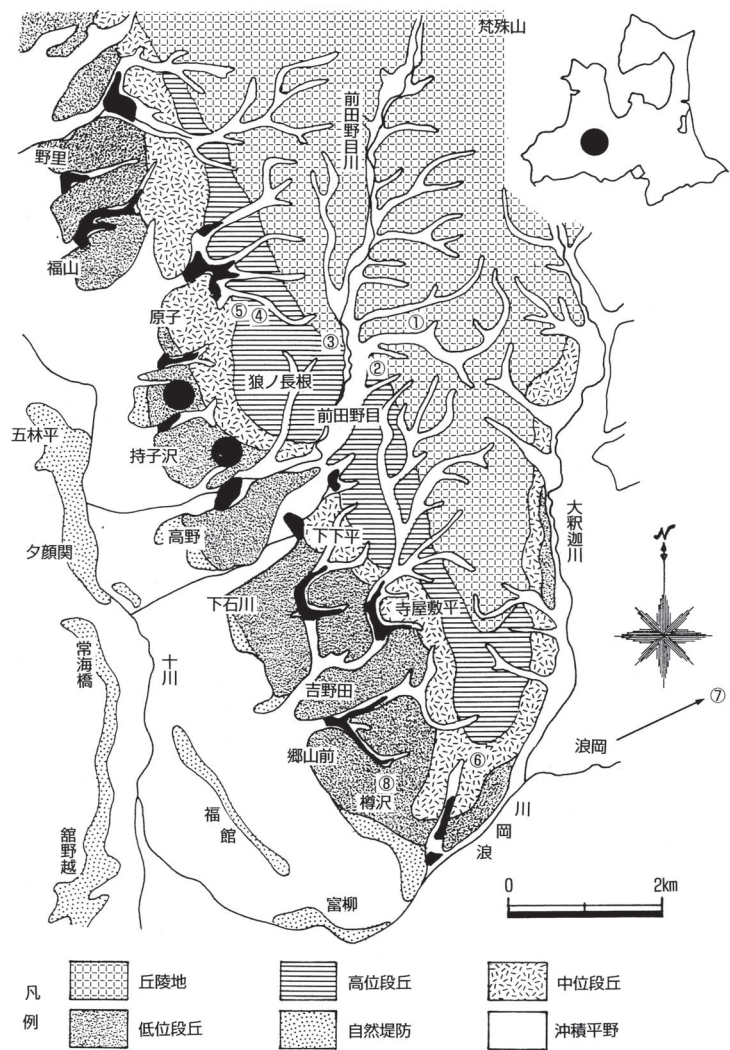
#### 第1節 遺跡の地形および地質 (隠川(4)・(12)遺跡)

青森県立板柳高等学校教諭 山口 義 伸

隠川(4)・(12)遺跡は五所川原市大字持子沢字隠川に所在し、津軽山地西縁に分布する低位段丘上に立地する。

津軽半島中央部を南北に縦走する津軽山地は津軽平野と陸奥湾に面した青森平野とを2分する脊梁をなしている。この半島脊梁部には、玉清水山(479m)・袴腰岳(628m)・赤倉岳(559m)・大倉岳(677m)・源八森(353m)・馬ノ神山(549m)・梵珠山(468m)などの山稜が連なっている。特に、袴腰岳および馬ノ神山の両山稜周辺は、地形的にも地質学的にもドーム状の構造をなしていることが明瞭に把握できる。

半島脊梁部南端の馬ノ神山ドームから南方には、緩やかに南傾斜する梵珠山地および大釈迦丘陵地が展開し、山地内には標高の低い梵珠山(468m)・鐘撞堂山(313m)などの山稜が存在する。標高200m以上の等高線はその間隔が狭く大きく入り組んでいて、浸食谷による開析で起伏の大きい山地の様相を呈している。なお、梵珠山地はグリーンタフ地域特有の軽石質凝灰岩および頁岩などを主体とする基盤岩からなっている。また、標高70m以上の等高線の間隔がやや粗く稜線部に平坦面が認められる。これは鶴ヶ坂層(村岡・長谷1989の八甲田第1期火砕流堆積物に相当)からなる火砕流台地を示すもので、開析の進んだ平頂な大釈迦丘陵地として山地外縁部に展開している。そして、丘陵地周縁部には3段の段丘群からなる前田野目台地が分布している。概ね標高20~60m、一部は100mにも及ぶ台地の等高線は平野部にほぼ平行する配置をなし、そして平

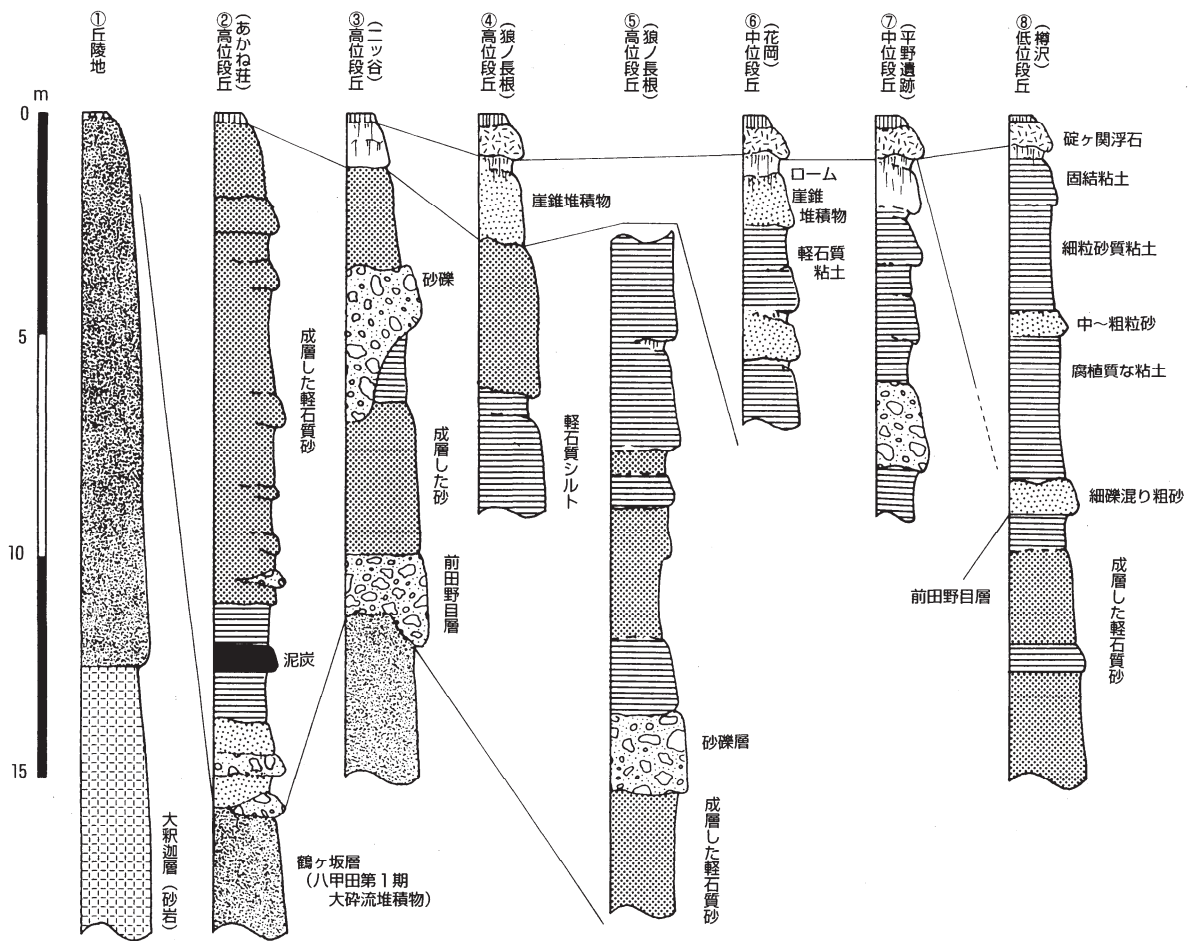


第1図 遺跡周辺の地形分類図

野部との境界部には数mの急傾斜面が認められる。高位段丘面として、前田野目付近では標高60～100m（標高107mの三角点を含む）の狼ノ長根が相当する。狼ノ長根は開析により起伏がやや大きいですが、全体的に頂部が平滑であり、かつ緩やかな南傾斜面となっている。その他は標高50～60mの、丘陵地に連続する起伏に富む平頂な面として分布している。なお、高位段丘の構成層は軽石質砂・シルト・粘土を主体とする。

中位段丘面は標高40～50mあり、等高線の配置は平野部にはほぼ平行している。五所川原市境山から豊成東方にかけては100分の4と勾配のある傾斜面として、浪岡町花岡付近では100分の2の緩傾斜面として分布している。低位段丘面は標高20～35mであり、平野縁辺部に1～2kmで幅で分布している。五所川原市野里～豊成付近では標高20～25m、勾配100分の1と平坦であり、浪岡町郷山前～吉野田付近では標高25～35mとやや高く100分の2と勾配も認められる。なお、中位段丘の構成層は北部の五所川原付近で成層した細粒砂・シルト、南部の浪岡付近では淘汰不良の砂礫層からなり、低位段丘では細礫混じりの粗砂・腐植質粘土（シルト）などからなっている（第1図・第2図）。

津軽山地南端部の水系として大釈迦川および前田野目川があげられる。大釈迦川は梵珠山を発源とし梵珠山地東縁をほぼ南流し、前田野目川は梵珠山北方に位置する馬ノ神山を発源とし同山地内を開析しながらほぼ南流している。大釈迦川は南津軽郡浪岡町で浪岡川と合流し、梵珠山地周縁の前田野目台地を大きく迂回して津軽平野へと流れ十川と合流する。前田野目川は前田野目台地で西流し、平



第2図 遺跡周辺における露頭の模式柱状図（第1図の○を付した番号と符合する）



野内を北流する十川と合流する。なお前田野目台地内には、原子溜め池、高野溜め池、姥溜め池、三太溜め池、吉野田新溜め池、熊沢溜め池などがみられるが、これらの溜め池は梵珠山地を流れる浸食谷内であって、平野部への出口付近を堰き止めて灌漑用水用として利用されている。

本遺跡は標高45~52mの、前田野目川北岸の低位段丘上に立地している。段丘面は概ね100分の2程度の勾配で平野部側に緩傾斜している。前田野目川は低位段丘東端付近で西流し、平野東端部を北流する十川に合流する。平野への出口付近にあたる五所川原市高野には高野大溜め池がある。本遺跡の調査区域には前田野目川の枝谷が認められ、谷底と比高2~3mの急崖で臨んでいる。この谷を境に西側を隠川(12)遺跡、東側を隠川(4)遺跡と呼んでいる。

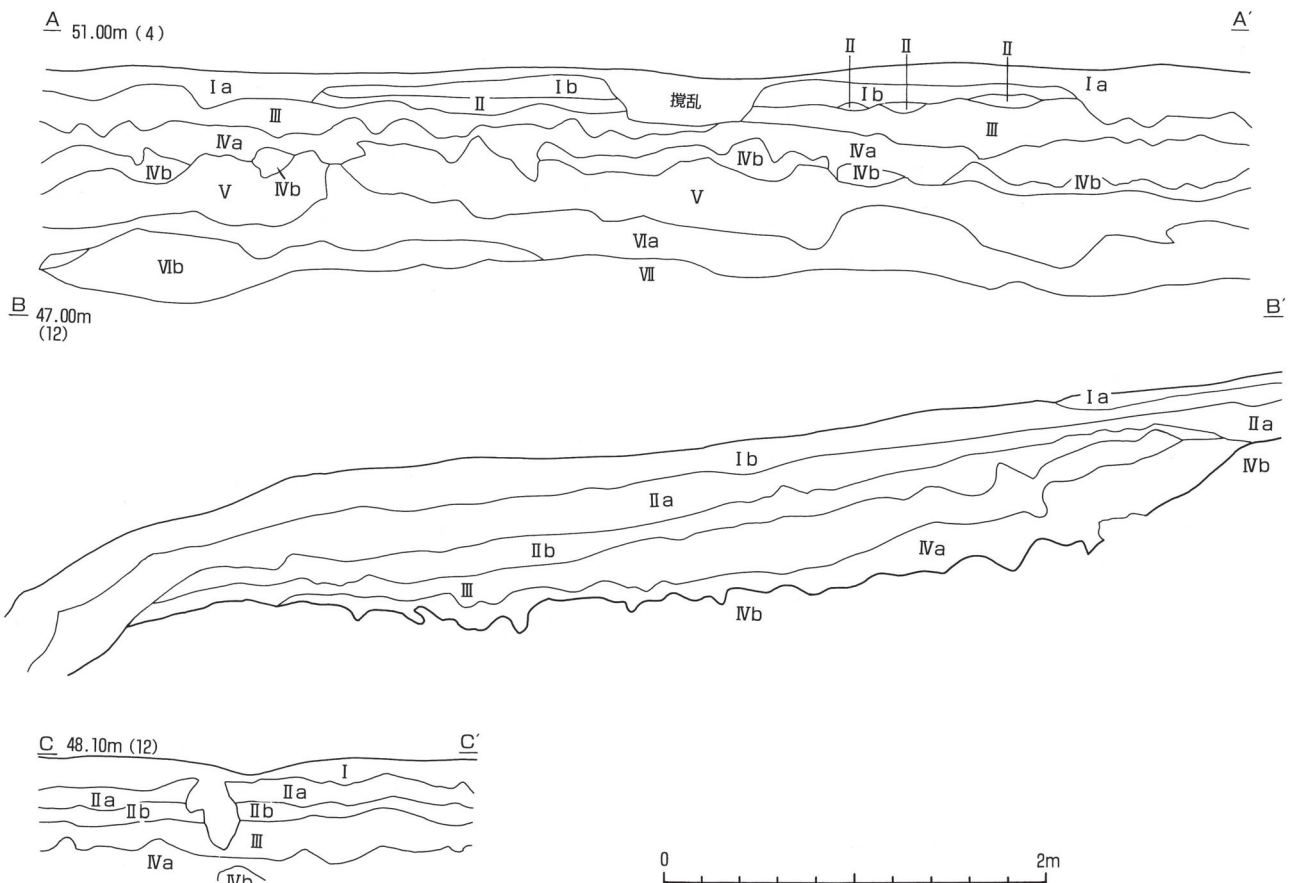
次に、隠川(4)・(12)遺跡調査区域内の基本層序を第3図に示した。これに基づいて各層の概略を述べることにする。なお、隠川(4)遺跡の東域、隠川(12)遺跡の西域は耕作による攪乱および削平を受け、基本層序第I層の下位には第IV層あるいは第V層が堆積することが多い。

**I a層** 黒色土(10YR2/1) 耕作による攪乱層である。粘性・湿性に欠け、耕作によるかたさはあるが締まりに欠け脆く崩れやすい。乾くと黒灰色に変色し、格子状の割れが目立ちボソボソとした感じである。

**I b層** 黒色土(10YR1.7/1) 耕作区域外における表土である。粘性・湿性に乏しく、I a層よりもかたさはあるが締まりに欠ける。乾くとクラックが発達しブロック状に割れやすい。

**II層** 黒色土(10YR1.7/1) 粘性・湿性がややあり、またかたさや締まりも認められる。層全体がシルト質~細粒砂質で、軽石粒および粘土粒の混入が目立つ。なお、隠川(12)遺跡調査区域では、本層下部に白頭山起源の苦小牧火山灰(B-Tm)がブロック状に堆積する黒褐色土(II b層)が認められる。このII b層は谷地形での傾斜地および凹地などの低地のみ堆積している。軽石粒および粘土粒が多量に混入している(土層断面図B-B'・C-C')。並列溝状遺構はB-Tmの筋状の堆積でもって確認されている。

**III層** 黒色腐植質土(10YR1.7/1) 腐植質で粘性・湿性が十分である。かたさおよび締まりもみられる。軽石粒および粘土粒が多少混入している。



第3図 調査区域内の基本層序

Ⅳ層 黒褐色土(10YR2/2~3/2) 漸移層である。粘性・混性がややあり、またかたさおよび締まりも認められる。下位層の軽石粒や軽石質粘土粒の混入が目立ち、層全体としてソフトな感じがする。なお、本層は軽石粒や粘土粒の混入状況により2層に細分される。上部のⅣa層は粒子状の混入物が目立ち、全体的にやや腐植質で暗い色調を呈する。下部のⅣb層はブロック状の混入物が目立ち、全体的に色調が明るく粘土質でソフトな感じがする。ただ、隠川(12)遺跡調査区域での谷地形の傾斜地では、下部のⅣb層は下部が淘汰の悪い砂礫層、中部が中粒砂層、そして上部が砂質粘土層と層相変化している(土層断面図B-B')。

Ⅴ層 黄褐色軽石層(10YR5/6) 緻密堅固なラピリ質細粒軽石層である。本遺跡調査区域では局部的に陸水の影響を受けて黄灰色軽石質粘土に層相変化する。千曳浮石(東北地方第四紀研究グループ1969)、碓ヶ石浮石(山口1993)に対比される。

Ⅵ層 明黄褐色凝灰質粘土層(10YR6/6~7/6) 背後の丘陵地および高位段丘を構成する鶴ヶ坂層の再堆積相と思われ、本遺跡の立地する低位段丘面を被覆する湿地性の環境下で堆積したものと考えられる。調査区域内での工用道路のカッティングの面で確認したところ、層相により2層に細分される。上部のⅥa層は塊状で細粒軽石質砂層であり、Ⅴ層との境界面には時間間隙を示す暗色帯が認められ、乾くとクラックが発達している。下部のⅥb層は細粒軽石質砂層と黄灰色軽石質粘土との互層からなっている。砂層中には多少未淘汰の砂礫層のレンズあるいは薄層が認められ、本層底部にも厚さ50cm程の砂礫層が下位の粘土層を大きく挟む形で堆積している。

Ⅶ層 黄褐色粘土層(10YR7/4) N値が15を示す固結した粘土層で、本遺跡・隈無遺跡 および浪岡町樽沢でのボーリング試料でも確認しているが、津軽平野周縁に発達する低位段丘の構成層をなすものと考えられる。固結粘土の下位には、N値が3~7の軟らかいシルト層~粘土層の堆積(厚さ約5~6m)が確認されている。

ところで、隠川(12)遺跡の第2号住居跡および第4号住居跡などからは粘土塊が出土している。おそらく、高位段丘を構成する前田野目層中の粘土層か、あるいは基本層序第Ⅶ層の粘土層から採取したと思われる。前田野目層中の粘土層はシルト質~細粒軽石質な粘土層であり軽石粒などの混入物が認められる。一方、基本層序第Ⅶ層は均一で粘性のある固結した粘土層であるが、地表下約2~3m付近の堆積物(厚さ約2~3m)である。

#### 引用・参考文献

- 藤井敬三 1966 5万分の1地質図幅及び同説明書「金木」(青森一第14号) 地質調査所  
 東北地方第四紀研究グループ 1969 東北地方における第四紀海水準変化 地学団体研究会 専報 V15  
 中川久夫 1972 青森県の第四系 青森県の地質第二部 青森県  
 藤井敬三 1981 油川地域の地質 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 地質調査所  
 村岡洋文・長谷紘和 1989 黒石地域の地質 地域地質研究報告(5万分の1地質図幅) 地質調査所  
 中里町・中里町教育委員会 1993 中里城跡環境整備基本構想 中里町文化財調査報告書第8集  
 山口義伸 1993 平川流域での十和田火山起源の浮石流凝灰岩について 年報 市史ひろさき V2 弘前市  
 青森県教育委員会 1996 野尻(4)遺跡 青森県埋蔵文化財調査報告書第186集

## 第2節 周辺の遺跡

### - 特に窯業関連遺跡について -

隠川(4)・(12)遺跡(以下、本遺跡と言う)から検出された平安時代の住居跡には、ロクロピットが付随し、同時代の住居跡、土坑、井戸跡からは、須恵器窯壁片が出土している。このような窯業に関連する要素が多数確認された集落は青森県域において本遺跡が初例であることから、本節では周辺に点在する平安時代の須恵器窯跡と、窯業と関連する可能性のある遺跡について簡単に触れておく。

#### 1 五所川原窯跡群

1968~73年の6年間に坂詰秀一、村越潔、新谷武の三氏によって7基の窯跡が調査されている。74年以降、調査は行われていなかったが、1997年に窯跡が新規発見され、発掘調査が行われた。この窯



跡は「犬走窯跡」と命名され、調査された窯跡としては8基目となる。1991年の五所川原市史編纂事業による現地調査により、新たに確認された窯跡を含めると現在のところ須恵器窯跡は調査済が8基、未調査が13基の計21基を数える(図V)。

**窯跡の構造** 調査済の8基の窯跡のうち、7基の図面が公表されている。4基については道路工事等による破壊のため、遺存状態が悪く、窯体構造の細部に関しては明瞭でないが、残存した諸属性の中から、確実性の高い事実のみを抽出すれば、(1)全て半地下式無階無段窯(2)全長6.6~9.4m(3)焼成部の幅は1.3~2.4m(4)焚口部の幅は1.9~2.4m(5)窯底の平均勾配は20~30度であることがわかる(図V下表)。

**製品** 坏、壺、鉢、甕が出土している(⑧、⑨文献に実測図が集成されている)。ヘラ描き記号の施されるものが多い。また、胎土の色調を断面に見ると、赤色と青色(灰色)が互層になっているものが多い。海面骨針を含むものも目立ち、海成層からも粘土を採掘していることが分かる。

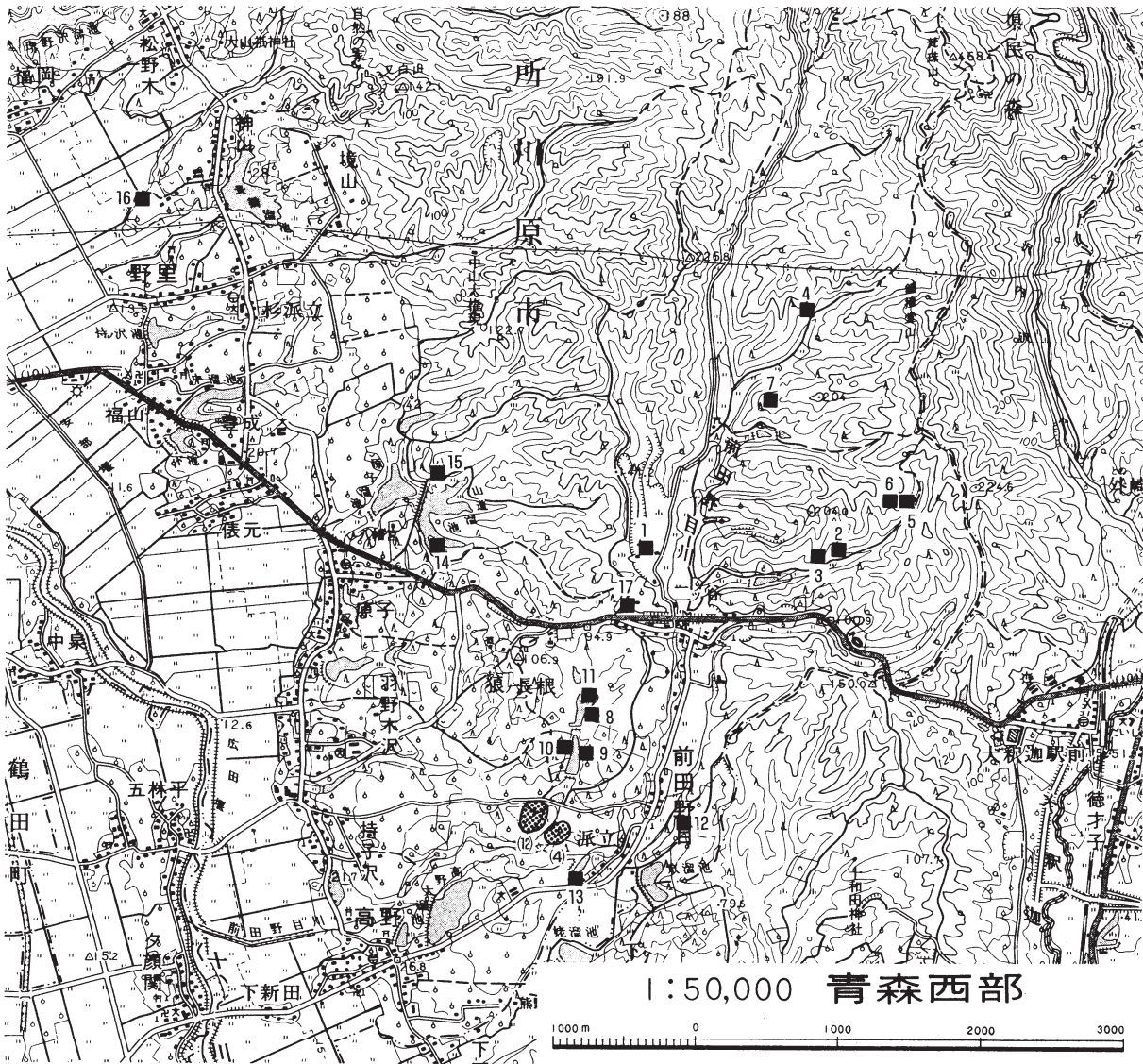
**窯跡・製品の系譜** 三浦圭介氏は、持子沢窯跡の製品が秋田県能代市十二林窯跡のものと強い脈絡を持つとし、十二林窯跡→持子沢系窯跡(持子沢B、C)→前田野目系窯跡(砂田B1号窯、鞠ノ沢、砂田D1号窯、2号窯)の変遷を考えている(三浦1995)。

**窯跡の操業期間** 操業期間については諸説ある。近年発表されたものを紹介すると、操業開始を9世紀末~10世紀初頭、終末を11世紀中葉に考える意見(三浦1995)や、10世紀中頃~11世紀前半の操業期間とする意見(福田1993)などがある。年代に関する考古学的決着は未だみておらず、また、築窯と廃絶の要因についても今のところ不明である。

**製品の供給範囲** 三辻利一氏による胎土分析の結果から、五所川原産須恵器の供給範囲(出土地)を追うと、青森県の全域、北海道豊富町や常呂町、秋田県大館市周辺、岩手県久慈市から馬淵川流域まで及んでいることが判明している。

**研究上の問題点** 報告が20年以上も前であるものがほとんどであることに加え、概報というスタイルで報告されてきた関係上、公表されたデータには不足がある。例えば、(1)窯跡のセクション図がない。(2)窯跡出土遺物の図示が非常に少ない。さらに、(3)砂田の出土遺物以外は実見が困難という悪条件が加わり、詳細な検討は不可能な状況にある。昨年調査された犬走窯跡が今後の五所川原窯跡群の実体をより明らかにするものと考えられる。

**犬走窯跡** (犬走須恵器窯跡発掘調査団・五所川原市教育委員会1997) 窯の構造は半地下式無階無段窯であり、1973年までに調査された須恵器窯跡と比較しても、最も窯幅が広く、2.4mを測る。焼成は二回行われており、上下で新旧関係を有す。古い窯には還元された製品が多く、新しい窯には小豆色の須恵器が多く認められている。焼成部の窯底勾配角度は新旧の窯跡ともに23度である。出土した須恵器の器種を見ると、甕・壺(長頸・短頸・異形)・坏・鉢・小坏等があり、特徴としては、大甕が特に多いことと、これまでの出土遺物と同様に甕・壺・鉢・坏にはヘラ描き記号が認められていることがあげられる。犬走窯跡の調査により得られた特に重要な成果としては、白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)の降下以前の構築であることと、窯の頂部において土坑が4基確認されたことの2点があげられる。



No.	遺跡／窯跡名	調査有無	立地	標高m	全長m	焼成部幅	焚口部幅 m	平均勾配	備考	文献
1	鞠ノ沢	○	前田野目川右岸 丘陵斜面	100	9.2		2.4	23		1
2	砂田B 1号窯	○	前田野目川東方 丘陵斜面	120	(5.0)		(1.7)	30	燃焼部と焚口部は破壊されていた	1
3	砂田B 2号窯		前田野目川東方 丘陵斜面	110					未調査・窯尻(煙出し)のみ残存	8
4	砂田C	○	前田野目川東方 丘陵斜面	140	(3.6)	1.7		22	燃焼部と焚口部は破壊されていた	2
5	砂田D 1号窯	○	前田野目川東方 丘陵斜面	170	(7.5)	1.65		23	窯尻は破壊されていた	5, 7
6	砂田D 2号窯		前田野目川東方 丘陵斜面	170					1号窯より30m西方 灰原のみの調査	5, 7
7	砂田E		前田野目川左岸 丘陵斜面	170					未調査 焚口部は破壊	8
8	持子沢A		奥溜池東岸 丘陵斜面	60					水没のため未発掘	2
9	持子沢B	○	中溜池東岸 丘陵斜面	55	6.6	1.3		20~23		2, 3, 3'
10	持子沢C	○	中溜池西岸 丘陵斜面	60	9.4	1.5	1.9		坂詰氏のD地点 あと2~3基確認済	6
11	持子沢D		奥溜池北岸 丘陵斜面	60					やや大型の窯跡	8
12	桜ヶ峰(1)	○	前田野目川左岸 笹溜池北東部 丘陵	65~70	(6.67)	1.7		20	焚口部、灰原部は破壊されていた	4
13	川崎		前田野目川左岸 丘陵	50					窯跡2基が確認されている	5, 7
14	山道溜池		山道溜池東岸 丘陵	30~40					窯跡2基が確認されている	5
15	原子溜池(4)		山道溜池北岸 丘陵	50					窯壁片が確認されている	8
16	鶉野		長橋溜池西方 丘陵端部	20					窯跡らしきものが確認	8
17	犬走 A窯		前田野目川右岸 丘陵斜面		不明	2.4		賦測#23	未発掘	9
	犬走 B窯	○	前田野目川右岸 丘陵斜面		7.0	2.3		賦測#23		9

・ ( ) 内の数値は検出長。

・ 現在、報告時の遺跡名は改正されており、本表における遺跡名は『青森県遺跡地図』（青森県教育委員会 1992）および『五所川原市史』（福田 1993）に掲載されている現在の登録遺跡名に拠るものである。

図V 五所川原窯跡群と隠川(4)・(12)遺跡の位置関係



## 2 周辺の遺跡（窯跡以外）

**隠川(3)遺跡**（青森県教育委員会 1997） 隠川(4)遺跡の東方に隣接し、標高は約53～54mである。平安時代の遺構として、竪穴住居跡6軒と溝跡2条が検出されている。住居跡のうち2棟には掘立柱建物跡が付随し、5棟には外周溝が付随している。出土遺物には、土師器、須恵器、土製品等がある。報告された須恵器の胎土分析は実施されていないものの、現物の観察では五所川原産のものが大半を占めている。土師器と須恵器の構成比は不明であるが、大雑把に見て土師器に対する須恵器の構成比は非常に高いように感じられる。

**実吉遺跡**（青森県教育委員会 1997） 本遺跡の北西約2.2kmのところを位置し、十川から東に約1km離れた標高14mの水田地帯に所在する。平安時代の遺構としては、住居跡3軒、溝跡21条、土坑21基、井戸跡1基が検出されている。第22号土坑からは、使用には不適な歪んだ須恵器長頸壺が出土しており、胎土分析の結果、五所川原産と報告されている。このような歪んだ須恵器は通常、一般的な消費地集落から出土することはないことから、須恵器工人との関連を想起させる。

**羽黒平(1)遺跡**（青森県教育委員会 1995） 本遺跡から南東約6.8kmのところを位置し、浪岡川から北西に約500m離れた標高50～60mの台地に所在する。平安時代の遺構としては、住居跡47軒、溝跡33条、土坑59基、井戸跡1基、掘立柱建物跡17棟、焼土遺構1ヶ所が検出されている。第18号住居跡として報告された遺構は、1.5m×1.6mのほぼ方形の竪穴状を呈すが、カマドが付設されていない点より見て、住居跡ではないと考えられる。出土遺物は、土師器の坏、甕等であるが、それらは全て細片であり、割れ方を見ると、破裂剥片であると判断できるものである。底面は焼土化していなかったが、覆土1層には、焼土粒が多量に混入している点より見て、この遺構は土師器焼成坑もしくは失敗品の廃棄土坑であった可能性が高い。なお、A区で検出された第5号住居跡は、廃絶後に粘土採掘坑として利用され、また、北壁には外延溝が付随していることから、この廃絶された第5号住居跡は、工房と関連していた可能性がある。（木村 高）

### 参考文献（○付の文献は、五所川原窯跡群についてまとめてあるもの）

- 1 坂詰秀一 1968 「津軽・前田野日窯跡」 『津軽・前田野日窯跡』 五所川原市埋蔵文化財調査報告書第1集 五所川原市教育委員会
- 2 坂詰秀一 1972 「津軽持子沢窯跡の調査」 『月刊考古学ジャーナル』第75号 ニュー・サイエンス社
- 3 坂詰秀一 1973 「津軽持子沢窯跡調査概報」 『北奥古代文化』第5号 北奥古代文化研究会
- 3' 坂詰秀一 1973 「津軽・持子沢窯跡の第2次調査」 『月刊考古学ジャーナル』第89号 ニュー・サイエンス社
- 4 新谷武 1973 『桜ヶ峰窯跡調査調査概要』 単行本 自費出版
- 5 村越潔・新谷武 1974 「青森県前田野目砂田遺跡発掘調査概報」 『北奥古代文化』第6号 北奥古代文化研究会
- 6 坂詰秀一 1974 「津軽持子沢窯跡第二次調査概報」 『北奥古代文化』第6号 北奥古代文化研究会
- 7 新谷武 1981 「五所川原市周辺の須恵器窯跡出土の長頸壺について」 『弘前大学考古学研究』第1号 弘前大学考古学研究
- ⑧ 福田友之 1993 「第四節 須恵器窯跡」 『五所川原市史』史料編1 五所川原市
- ⑨ 三浦圭介 1995 「第3章 古代」 『新編 弘前市史』資料編1(考古編) 弘前市市長公室企画課
- 10 青森県教育委員会 1992 『青森県遺跡地図』
- ⑪ 三浦圭介・岡田康博 1992 「津軽五所川原古窯跡群について」 『東日本における古代・中世の諸問題』
- ⑫ 池田明朗・伊藤博幸 1995 「(3) 東北」 『須恵器集成図録』第4巻東日本編(3) 雄山閣
- 13 犬走須恵器窯跡発掘調査団・五所川原市教育委員会 1997 『犬走窯跡現地説明会資料』
- 14 青森県教育委員会 1997 『隠川(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第210集
- 15 青森県教育委員会 1997 『隈無(4)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第209集
- 16 青森県教育委員会 1997 『実吉遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第207集
- 17 青森県教育委員会 1995 『松山・羽黒平(1)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第170集
- 18 木立雅朗 1997 「第1節 土師器焼成坑を定義するために」 『古代の土師器生産と焼成遺構』 窯跡研究会編 真陽社
- 19 望月精司 1997 「第2節 土師器焼成坑の分類」 『古代の土師器生産と焼成遺構』 窯跡研究会編 真陽社



## 第Ⅳ章 遺跡の概要

**隠川(4)・(12)遺跡(平安時代)について** 隠川(4)遺跡・隠川(12)遺跡は、五所川原市の南東、前田野目川右岸の標高45～52mの台地に立地する(図Ⅰ)。調査区は一面の果樹園(リンゴ園)に囲まれた平坦地にある。(4)遺跡と(12)遺跡は水田を挟んで東西に約90m離れて対峙し、(4)遺跡と水田面の比高差は約5.5m、(12)遺跡と水田面の比高差は約7mを測る(図Ⅲ)。

両遺跡から検出された平安時代の遺構は、住居跡、土坑(土器焼成遺構含む)、井戸跡、溝跡、並列溝状遺構等であり、遺物は土師器・須恵器を中心として、各種土製品や土師質特殊遺物、焼成粘土塊、窯壁片等で構成される。遺構・遺物の機能した時期は、降下火山灰(白頭山火山灰・町田ほか1981,1996)を基軸にすると、概ね9世紀中葉～10世紀前半と考えられる。特記事項としては、①ロクロピットが複数の住居跡に付随していること、②須恵器窯壁片の出土、③土器焼成遺構の存在、④土器の素材と考えられる粘土の出土、⑤焼成粘土塊の出土、⑥土師質特殊遺物の出土、⑦歪んだ須恵器の出土…等が挙げられる。青森県域における平安時代の集落からこのような事例はこれまで確認されておらず、本書が初の報告となる。

隠川(4)・(12)遺跡は、持子沢B遺跡=9、持子沢C遺跡=10、桜ヶ峰(1)遺跡=12、川崎遺跡=13等の窯跡から極めて近距離に位置している(図Ⅴ)。この事実と、上述の遺構・遺物の内容から、隠川(4)・(12)遺跡は土器製作工人の集落であると判断される。

以下、平安時代の工人集落に関連する内容を中心に記載し、遺跡の概要にかえる。

**隠川(4)遺跡の概要** 隠川(4)遺跡において検出された平安時代の遺構は、住居跡7軒(拡張している住居を2軒として)、土坑7基(土器焼成遺構等含む)、溝跡1条、並列溝状遺構1面、井戸跡1基である。7軒検出された住居跡を外部付属施設の有無<sup>(註)</sup>で概分類すると、A～Cの3タイプに分かれる。Aタイプは、掘立柱建物跡と外周溝の2種の遺構が付随するもの(1・2・6H)で、Bタイプは、掘立柱建物跡のみが付随するもの(3・4H)、Cタイプは、外部施設の付随しないもの(5・7H)である。

住居跡の遺存状態は概して良好であるが、1H・6H(1Hの拡張以前の住居跡)・2H・7H(2Hの拡張以前の住居跡)の4軒には、壁が検出されなかった。1Hの床面は黒色土(第Ⅲ層)中に構築されていることから、これらの住居跡は平地式である可能性が高い。また、3・4・5Hは壁高を十分に有すことから竪穴式である。1・6・2Hの3軒には外周溝が付随しているが、これら平地式の可能性のある住居跡に、外周溝が高率で付随している点は注意される。1Hの拡張前の住居跡が6H、2Hの拡張前の住居跡が7Hであるが、1Hには2基のロクロピットが付随し、6Hにもロクロピットが2基付随する。住居拡張に伴い、ロクロピットも作り替えていることが分かる。なお、6Hのロクロピットの1基(6HRP01)からは土玉やミニチュア土器、絵画的なヘラ描きを施した坏などが出土している。ロクロピットを有す3HのCコーナーからは、底面にほとんど勾配のみられない外延溝が北方向に伸びている。また、4Hの南東隅(Dコーナー)には、ほぼ直方体を呈す粘土塊3個が安置されたような状態で出土している。これらの粘土は胎土分析の結果、五所川原領域内に納まっ

ている。さらに、4 Hのほぼ中央に検出された2基のロクロピットの中にも粘土が検出され、胎土分析の結果、1基のロクロピットの粘土は五所川原領域に属し、もう一方のロクロピットの粘土は土師器の素材となった粘土である可能性が指摘されている(第IX章第2節参照)。なお、ロクロピットを伴う住居跡は、1、3、4、6 Hの4軒で、住居跡毎のロクロピット数は、1 Hに2基、3 Hに1基、4 Hに2基、6 Hに2基である。

各住居跡のカマドは、南東カマドが多いが、4 Hのみは、北東カマドであり、住居の主軸は、第4号住居跡を除いて大略一致する。一方、住居跡に付随する掘立柱建物跡の主軸はほぼすべて一致する。1 Hから24 m離れたところにある木枠の残存する井戸跡からは、土師器坏、須恵器坏が一括廃棄された状態で出土し、また、完形の土師器小型壺と土師器のミニチュア土器が埋土の下位層から出土しており、井戸に対する精神構造を考える上で注目される。

(註) A、Bのタイプの住居跡の周囲に検出される溝(外周溝)と掘立柱建物跡は、あくまでも竪穴住居跡とはやや距離をもって検出されたものであるため、本来的には個別に記載すべきであるが、本報告では、各々の遺構の一定した検出位置より判断して、それら遺構群を一体のものとしてとらえる。

**隠川(12)遺跡の概要** 隠川(12)遺跡において検出された平安時代の遺構は、住居跡6軒(拡張している住居を2軒として)、土坑18基、溝跡1条、並列溝状遺構4面、井戸跡1基である。6軒検出された住居跡を、(4)の住居跡と同様に概分類すると、2タイプに分かれる。大半の住居跡はCタイプであるが、5 Hの1軒のみは外周溝が左壁側に1条付随するものである。

住居跡の遺存状態は概して良好であり、全ての住居跡に壁が検出されており、竪穴式である。4 Hは6 Hを拡張した住居跡である。4 Hには1基のロクロピットが付随しているが、6 Hにはロクロピットが確認されていない。このロクロピットは、6 H機能段階から存在していた可能性もあるが、住居拡張に伴うロクロピットの作り替えが行われていないのは確実であり、(4)の6 H→1 Hの例と比較すると非常に興味深い。また、4 Hのロクロピットからは(4)の6 Hロクロピット(6 HR P01)から出土した坏と胎土・焼成の類似する坏が1点出土しており、さらに、4 Hの前壁からは、調査区東部の斜面に向かって外延溝が伸びており、(4)の3 Hと類似する。5 Hの1区の床下には、楕円形の土坑があり、その中には饅頭形を呈す粘土塊が複数出土している。この粘土は胎土分析の結果、土師器の素材である可能性が指摘されている。

ロクロピットを伴う住居跡は、2、4、5 Hの3軒で、各住居跡に検出されたロクロピットの数、全て1基ずつであり、(4)のように1軒の住居跡内にロクロピットが複数伴う例は無い。各住居跡のカマドは(4)と同様、南東カマドが多く、住居の主軸は大略一致する。

(12)の住居跡や土坑、井戸跡からは須恵器窯壁片が多数出土している。(4)の4 Hからも2点のみ出土しているが、(12)出土の窯壁片の点数は非常に多い。窯壁片が住居跡や井戸跡から出土する理由は判然としないが、数点の窯壁片には焼土が付着しており、また、その出土位置を見ると、カマドの付近に出土しているものもある。この出土状態が窯壁片の持ち込まれた要因を明らかにする鍵を握っていると言えよう。

2 Hから5 m離れたところに位置する井戸跡の埋土の下位層からは多量の須恵器大甕の破片とほぼ完形の小型須恵器壺が出土しており、隠川(4)遺跡の第1号井戸跡とともに注目される。

(木村 高)



## 第V章 遺物の分類

隠川(4)・(12)遺跡の主体となる時期は平安時代であり、ロクロピットや並列溝状遺構等の遺構は、両遺跡において検出されている。また、両遺跡の出土遺物には極めて強い類似性が認められる。これらのことから、隠川(4)遺跡と隠川(12)遺跡から出土した遺物の分類は、両遺跡の類似性を考慮し、同一基準のもとに行った。

両遺跡の出土遺物を時代毎に大分類すると、縄文時代・弥生時代・平安時代・近世以降の4期に分かれる。これら4期の遺物をさらに種別で分類すると、縄文時代の遺物は土器・土製品・石器・石製品の4種に、弥生時代の遺物は土器の1種のみ、平安時代の遺物は土器(土師器・須恵器・ミニチュア)・土製品・土師質特殊遺物・焼成粘土塊・粘土塊・須恵器窯壁片・石製品・鉄製品・鉄滓・木製品の12種に、近世以降の遺物は陶磁器(陶器・磁器)・瓦質土器・石製品・銅製品・土製品の6種に分かれる。本章ではこれらの遺物をさらに分類し、その基準を以下に述べる。

(木村 高)

### 1 縄文時代

(1)土 器 縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期に属すと考えられるものが出土した。出土遺物では全体の器形を判別できる資料が少ないので、口縁部破片と底部破片、胴部破片の中でも沈線・刺突などの文様を観察できるもの、及び縄文のみ観察される破片を中心に報告することにした。以下に分類基準を記す。

第I群土器：縄文早期の土器

第VI群土器：時期不明の土器

第II群土器：縄文前期の土器

1類 沈線主体の土器

第III群土器：縄文中期の土器

2類 地文の縄文のみ観察される土器

第IV群土器：縄文後期の土器

3類 無文の土器

第V群土器：縄文晩期の土器

(三林 健一)

(2)土 製品 1点のみの出土である。

(3)石 器 出土した各種の石器は、土器との共伴関係が極めて希薄であるため、帰属する土器型式毎の分類は不可能である。ただし、他遺跡で出土している資料との大まかな比較では、その大半が縄文時代のもので占められ、仮に弥生時代のもが含まれているとしてもごく少数であると思われる。大別による器種は、石鏃、スクレイパー類、使用痕の認められない剥片、敲打痕のある礫、磨石、磨製石斧、石皿の計7種<sup>(註)</sup>に分類され、各々の資料が持つ特徴に応じてさらに細分した。

(註)本報告では参考までに自然礫も若干掲載した。

第1群石器：石鏃 基部平面形で大別した。 A：平基 B：凹基 C：尖基 D：円基 E：有茎

第2群石器：スクレイパー類 調整剝離による刃部を持つものと、使用によって生じた微細剝離の認められるものを一括した。

- A：調整剥離が全周するもの  
 a：つまみを有し、石匙と呼称されるもの 1：横型 2：縦型 3：尖頭器型  
 b：上記a 2からつまみ部を除いたようなもの  
 c：石篋と呼称されるもの  
 B：調整剥離が一部に見られるもの  
 C：使用のために生じたと思われる剥離が認められるもの  
 D：BとCの属性を兼有するもの

第3群石器：使用痕の認められない剥片・碎片

- A：黒曜石を素材にしたもの B：珪質頁岩を素材にしたもの

第4群石器：磨製石斧 2点の出土であるが、1点は刃部のみの残存であるため、細分しない。

第5群石器：石皿 1点のみの出土である。

第6群石器：磨石 3種に分類される。

- A：平面形が楕円形を呈し、平坦面を磨っているもの  
 B：平面形がほぼ長楕円あるいは不整長楕円を呈し、側縁を磨っているもの  
 C：Bの属性を満たし、敲打痕を有すもの（＝第7群石器B）

第7群石器：敲打痕のある礫 2種に分類される。

- A：長台形あるいは長楕円形を呈し、平坦面の中央付近を敲いているもの。  
 B：Aの属性を満たし、一側縁を磨っているもの（＝第6群石器C）

(4)石製品 1点のみの出土である。

(木村 高)

## 2 弥生時代

(1)土器 全て破片資料であるため、型式の特定は困難である。したがって、ここでは便宜的に、須藤隆による時期区分(須藤1990、須藤・工藤1991)を基準に大別した。ほとんどが破片の状態であることから、部分的な特徴による大まかな時期分類を行うにとどめた。

第1群弥生土器：前期前半の土器(ほぼ1期弥生土器に相当するもの)

第2群弥生土器：前期後半の土器(ほぼ2期弥生土器に相当するもの)

第3群弥生土器：中期後葉の土器(ほぼ5期弥生土器に相当するもの)

第4群弥生土器：後期の土器(ほぼ6期弥生土器に相当するもの)

(木村 高)

## 3 平安時代

(1)土器 器種としては、須恵器には皿、坏、鉢、壺、大甕、土師器には皿、坏、甕、壺、羽釜、埴がみられる。ここでは、須恵器の皿・坏、土師器の皿・坏、甕についての分類を示す。他の器種についてはその特徴を後述することにし、ここでは触れない。

—坏— 本遺跡出土の土師器の坏については、非ロクロのものは皆無に等しい。よって、ロクロ調整の坏という前提のもとに分類基準を設定することにする。

また、ここでは須恵器の皿・坏、土師器の皿・坏は同一の分類基準を用いることにし、以下に示す。



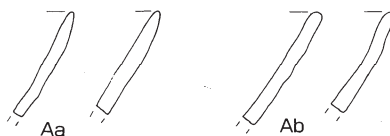
口縁・口唇部の形態により、

A. 直線的なもので、

a. 口唇部が先細りを呈するもの

b. 口唇部が丸みをもつもの

(口唇部が肥厚するものも含む)

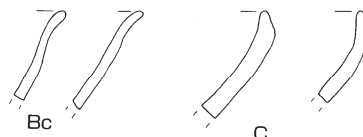


B. 外反・外傾するもので、

a. 口縁端部が外に屈曲するように折れ、  
口唇部が先細りを呈するもの

b. 口縁端部が外に屈曲するように折れ、  
口唇部が丸みをもつもの

c. 口縁下部からゆるやかに外反するもの



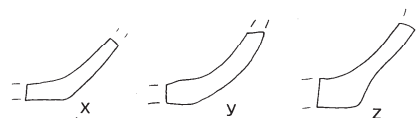
C. 内湾するもの

体部下半の形態により

x. ほぼ直線的なもの

y. やや膨らみをもつもの

z. 外反する形で屈曲しているもの



観察表に示した色調分類の基準は以下の通りである（「新版標準土色帖」小山・竹原 1990を使用）。

須恵器	青灰色系のもの … 1	土師器	赤褐色系のもの … 6
	灰色系のもの … 2		褐色系のもの … 7
	灰褐色系のもの … 3		灰白色系のもの … 8
	明褐灰色系のもの … 4		その他 … 9
	その他 … 5		

観察表に示した断面形態の分類基準は以下に示す。

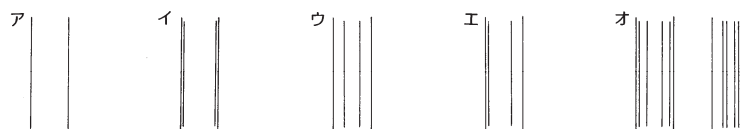
ア…内外面と断面がほぼ同色系

イ…内外面と断面の色は明確に異なるが、内外面の色がほとんど断面に出ていない

ウ…断面に内外面とほぼ同色系の色が明確に確認でき、異なる色を挟むようになっている

エ…ウが極端に内面によっているもの

オ…ウの内外面と明確に異なる色が2本あるもの



器面調整にロクロを使用するもの（I群）とロクロを使用しないもの（II群非ロクロ）とに分けられる。また、法量の違いにより長胴甕と小型甕に分けた。以下の分類はI・II群、また長胴甕・小型甕に同一の基準のものとする。

口唇部の形態により A. 口唇部にほぼ平坦な面をもつもの

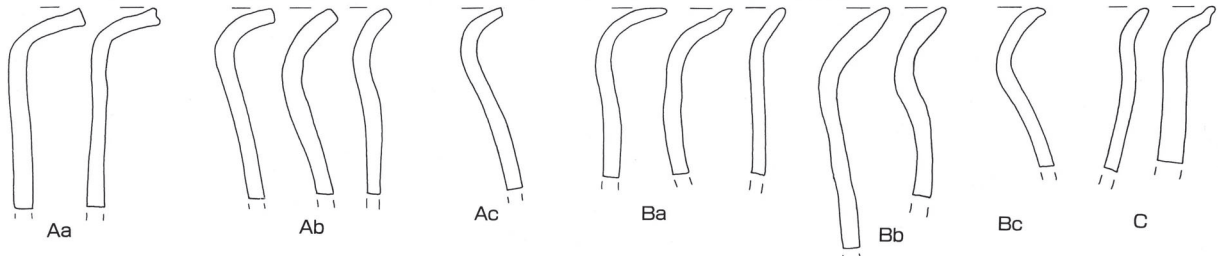
B. 口唇部に丸みをもつもの（先細り、肥厚しているものも含む）



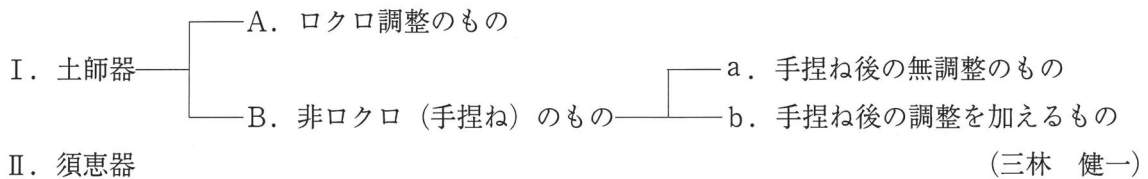
C. その他 (内面に段を有する、口縁部が極端に短いなど)

- さらに、A. B. C. はそれぞれ
- a. 口径が胴部最大径を上回るもの (口径 > 胴部最大径)
  - b. 口径と胴部最大径がほぼ同じもの (口径 ≒ 胴部最大径)
  - c. 胴部最大径が口径を上回るもの (口径 < 胴部最大径)

※胴部上半までの破片は傾きからおおよそその胴部最大径の推定をし、上記の分類に当てはめた。

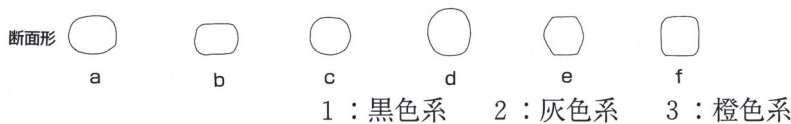


ミニチュア土器 土師器がほとんどであるが、須恵器が1点ある。成形・調整技法により、以下のよう  
に分類する。



(2)土製品 形状に規格性の認められるものを一括した。

第1群土製品：玉類 穿孔のあるものを一括した。 A：丸玉、B：勾玉



実測図における断面は、その玉の1ヶ所を測ったものであるため、上記の断面分類模式図とは異なった印象となっているものもあるが、ここでの断面分類はあくまでも360°回転させた観察結果をもとにしている。歪みの大きい玉に関しては、製作者の形状に対する志向性を筆者なりに解釈して、上記の断面分類の中におさめた。

第2群土製品：球状 1点のみの出土である。

第3群土製品：土鈴 紐部の有無で分類した。 A：紐部を有すもの B：紐部を有しないもの

第4群土製品：当具状 円形部分の形状で分類した。 A：ほぼ平坦なもの B：膨らんでいるもの

第5群土製品：棒状 1点のみの出土である。

第6群土製品：基石状 大きさと色調で分類した。 A：径23mm以上 B：径16mm以下

a：黒色系 b：灰色系

(3)土師質特殊遺物 粘土をこねたり、丸めたり、潰したり、棒状にのぼしたり、ちぎったりした状況が観察されるものを一括した<sup>(註1)</sup>。成形痕がほとんど認められず、形状に規格性も認められないものである。分類は、主として平面形<sup>(註2)</sup>をもとに行った。

(註1)土製品に含めるべきと考えられるものも数点含んでいるが、「土製品」とすると、「製品」とか「品」という表現から、製作者がある程度の規格性をもって製作したものというニュアンスが付加されるように思える。ここでは、形状の規格性に対する製作者の意識が低いと推定されるものを一括した。また、焼成粘土塊に属させるべきと思われるものも数点含まれているが、胎土中に植物性の繊維が混入していても側縁に成形痕がみつめられるものに関しては、土師質特殊遺物に含めた。

(註2)図示されている基本実測面を平面形として述べている。見た目の形状は、実測時の置き方によって様々に変化することから、本文における「平面形」の表現はあくまでも便宜的なものである。

第1群土師質特殊遺物：粘土紐状のもの

第2群土師質特殊遺物：粒状のもの



第3群土師質特殊遺物：板状のもの

第4群土師質特殊遺物：不整形のもの

(4) 焼成粘土塊 色調は、断面・外面ともに、にぶい橙～橙～明赤褐色を呈し、指や手で一面を撫でた結果、平坦面が形成され、また、裏面と割口(断面)には植物性の繊維の混入・圧痕が認められるものを一括した<sup>(註)</sup>。分類は、大半が破片の状態であることから、断面の厚さをもとに行った。

第1群焼成粘土塊：断面厚さ8～20mm

第2群焼成粘土塊：断面厚さ26mm以上

(註)主に平坦面を有すものを実測対象とした。図示していないものの中には、全面に凹凸が激しく、指、手による成形痕の全く観察されないものもかなり見られる。また、焼成粘土塊の大半は破片の状態であるが、数点ほど割口が認められないものも見られる。これらは土師質特殊遺物に含めることも可能であるものの、外面全体に著しく植物性の繊維が観察され、一般的な土師質特殊遺物とは異なった印象のものであるため、焼成粘土塊に含めた。

(5) 粘土塊 焼成されていない粘土を一括した。分類は、平面形の大きさで行った。

第1群粘土塊：長さ×幅5cm前後

第2群粘土塊：長さ×幅7cm前後以上

(6) 須恵器窯壁片 焼土の付着の有無で分類し、心材痕の有無で細分した。

第1群須恵器窯壁片：焼土が付着するもの A：心材痕のみられるもの B：心材痕のみられないもの

第2群須恵器窯壁片：焼土が付着しないもの A：心材痕のみられるもの B：心材痕のみられないもの

(7) 石製品 玉類、砥石、箱形に成形した礫の3種に分類した。

第1群石製品：玉類 A：人為的に穿孔し、外面調整あり B：自然孔を直接利用し、外面無調整

第2群石製品：砥石 A：手に持って使用するような小型のもの(130g未満) B：地に置いて使用するような大型のもの(200g以上)

第3群石製品：礫を直方体に成形しているものである。石質で分類した。 A：シルト B：凝灰岩

(8) 鉄製品 刀子と用途不明の2種に分類した。

第1群鉄製品：刀子

第2群鉄製品：用途不明 A：棒状 B：板状 C：環状

(9) 鉄滓 細分は行わない。

(10) 木製品 井戸枠部材・製品・加工痕のある木の3種に分けられる。

第1群木製品：井戸枠部材 A：板状 B：棒状

第2群木製品：製品 A：板状 B：曲物底板 C：鉋屑状 D：樹皮を加工しているもの

第3群木製品：加工痕のある木 A：一部に削りを施すもの B：縦割り後、面取りを施すもの

(木村 高)

## 4 近世以降

(1) 陶磁器 種別、産地、器種の順に分類した。

第1群：陶器 A：肥前 B：産地不明 a：鉢 b：蓋物 c：播鉢

第2群：磁器 A：肥前系 a：碗 b：皿

(2) 瓦質土器 焜炉の一種のみの出土である。

(3) 石製品 砥石1点のみの出土である。

(4) 銅製品 銭貨と煙管の2種に分類される。

第1群銅製品：銭貨 寛永通宝3点のみの出土である。細分は行わない。

第2群銅製品：煙管 吸口1点のみの出土である。

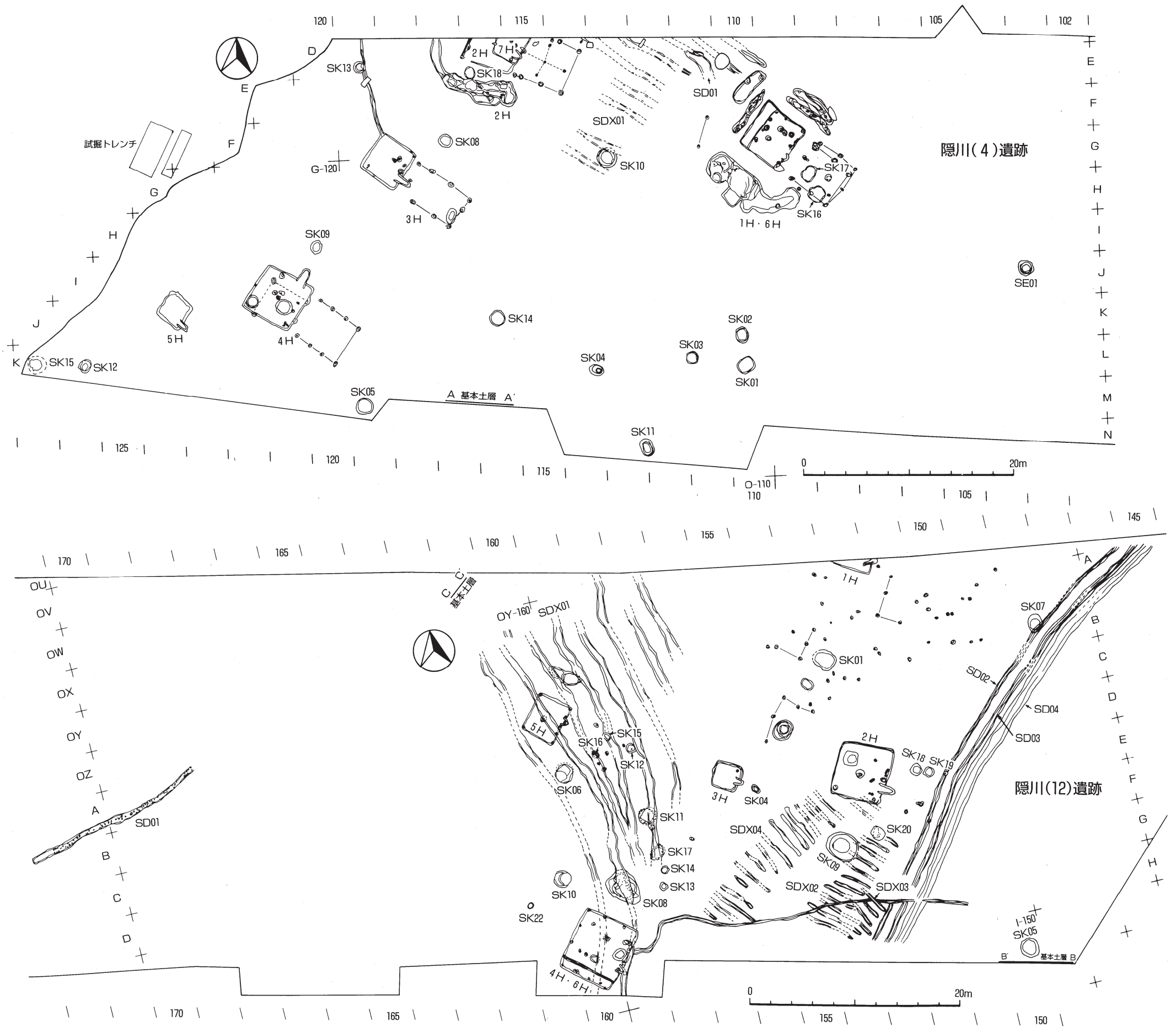
(5) 土製品 形状で分類した。

第1群土製品：碁石状

第2群土製品：人形

(木村 高)





図VI 隠川(4)・(12)遺跡遺構配置図 ((4)上図・(12)下図)



## 第 VI 章 隱川 (4) 遺跡

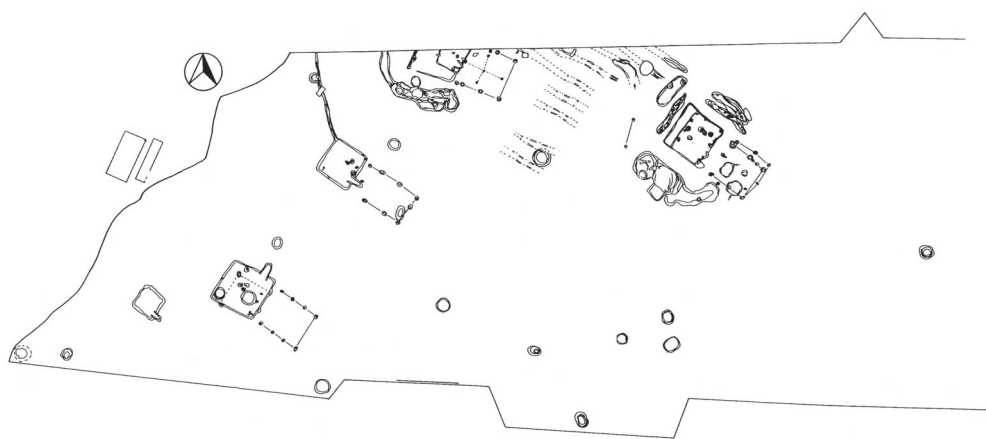




表 隠川(4)遺跡 遺構内出土遺物等一覧 (平安時代)

遺構種別	遺構名	出土遺物等
住居跡 (内外施設含)	1 H	焼成粘土塊
		石 玉
		直方体礫
		鉄 滓
		砥 石
		土師質特殊遺物
	1 H カマド	焼成粘土塊
		土 玉
		土師質特殊遺物
	1 H R P 02	土 玉
	1 H S B 01	鉄 滓
	1 H S D 01	焼成粘土塊
	1 H S D 01 S K 01	使用痕のある礫
		焼成粘土塊
		直方体礫
		鉄 滓
		土師質特殊遺物
		土 鈴
	1 H S D 01 S K 02	樹皮製品
		焼成粘土塊
		直方体礫
		鉄 滓
		土師質特殊遺物
	1 H S D 01 S K 04	焼成粘土塊
	1 H S D 02	焼成粘土塊
		直方体礫
	1 H S D 03	焼成粘土塊
直方体礫		
鉄 滓		
土師質特殊遺物		
	粘土塊	
2 H	焼成粘土塊	
	石 玉	
	土 玉	
	礫	
2 H カマド	焼成粘土塊	
	土 玉	
2 H S D 01	使用痕のある礫	
	焼成粘土塊	
	粘土塊	
2 H S D 01 S K 01	窯壁片	
2 H S D 01 S K 02	土師質特殊遺物	
3 H	焼成粘土塊	

遺構種別	遺構名	出土遺物等
住居跡 (内外施設含)	3 H	鉄 滓
		砥 石
	3 H カマド	鉄 製品
		砥 石
	4 H	使用痕のある礫
		焼成粘土塊
		土師質特殊遺物
		刀子
		粘土塊(CL01)
		窯壁片
	4 H R P 01	粘土
		礫
	4 H R P 02	粘土
	4 H S K 01	土師質特殊遺物
	5 H	鉄 滓
6 H R P 01	焼成粘土塊	
	鉄 滓	
	土師質特殊遺物	
6 H R P 02	焼成粘土塊	
	直方体礫	
	土師質特殊遺物	
	粘土塊	
6 H S D 02	焼成粘土塊	
	直方体礫	
7 H	焼成粘土塊	
	礫	
並列溝状遺構	S D X 01	焼成粘土塊
		直方体礫
井戸跡	S E 01	井戸枠部材
		加工痕のある木
		自然木
		直方体礫
		木製品
		礫
土坑	S K 05	土師質特殊遺物
	S K 11	使用痕のある礫
		砥 石
	S K 16	焼成粘土塊
		土 玉
	土師質特殊遺物	
S K 17	焼成粘土塊	
	土 玉	
	土師質特殊遺物	

※縄文時代と弥生時代の遺物、及び平安時代の土師器・須恵器、炭化種子、炭化材等を除く。

## 第Ⅵ章 隠川(4)遺跡の検出遺構と出土遺物

### 第1節 平安時代の検出遺構

#### 1 住居跡

##### 第1号住居跡(1H) (図1～図5)

**概要** 本住居跡は、グリッドF-109他の平坦地に位置し、後述する第6号住居跡(6H)の後壁側を拡張しているものである<sup>(註)</sup>。内部施設としてロクロピットが2基(1HRP01・02)と、外部施設として外周溝3条(1HSD01・02・03)と掘立柱建物跡1棟(1HSB01)が付随している(図1)。

(註) 外周溝と掘立柱建物跡は6Hにも付属しており、それらも6Hを拡張する際に拡張・作り替えが行われている。すなわち、6HSD01を埋め、1HSD03を外側に構築し、また、6HSD02を埋めて外側に1HSD02を構築している。6HSD02と1HSD02とは平面的な重複の関係に無いため、厳密には新旧関係を説明できないのであるが、6HSD01と1HSD03とは重複関係にあり、1HSD03が6HSD01の一部を壊して作られていることから、6HSD02と1HSD02の関係も自然に考え、6HSD02→1HSD02という時間的経過が想定される。6H機能段階における、右壁外側に存在する外周溝は確認できなかったが、1HSD01は他の外周溝に比べ、非常に幅広の形状を呈すものであることから、6H機能時においては幅狭の構造であって、1Hに作り替える段階で、外側に広げられたり、掘り直されたりした可能性が考えられる。詳細は後述。

**重複** (1)付近には、並列溝状遺構(SDX01)が存在し、両者の位置関係から判断し、本住居跡とSDX01は新旧の関係にあった可能性があるが、1H付近は7年度の粗掘によりかなり掘り下がっていたため新旧関係は不明。(2)縄文時代の剥片集中ブロックと重複し、本住居跡が新しい。

**構造** 規模は、455～465×465～483cmを測り、平面形はほぼ方形を呈すが、A・Cコーナーはやや張り出す。床面は7年度の調査段階で既に検出されていて、四壁は残存していない。床面の掘り込みは、ロームに達しておらず、黒色土(第Ⅲ層)を床にしている点より、平地式の住居であった可能性が高い。カマドの左右を除いて壁溝はほぼ全周している。ピットは7個(P1～7)検出され、支柱穴はP1、3、6、7の4基と考えられる。床は、6Hの床面にロームを混入する黒色土を薄く貼ってつくられている。拡張した後壁側にも床構築土が貼られている。

**土層** 7年度の粗掘で覆土は除去されていたため、床面以下の土層しか残存していない。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3・4区)に位置する。煙道部は検出されず、残存状況は不良であるが、燃焼部側壁(ソデ)と火床面が検出された。ソデは、褐色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるように構築されている。右ソデはやや攪乱を受けていたが、平面的には「ハ」字状に検出されている。火床面(11層)はよく焼けていて、煉瓦状に硬化していることから、粘土状の土を敷いてつくられていた可能性がある。天井部崩落土と考えられる2層も煉瓦状に硬化していた。一方、燃焼部側壁内面はあまり焼けていない。本カマドの下層には6Hカマドの残骸が押しつぶされた状態で残存している(図5)。住居拡張に伴ってカマドも作り替えたと思われる。カマドを通る軸の方位は、ほぼN-130°-Eをさす。

**内部施設** ロクロピット2基が6区(1HRP01)と10区(1HRP02)に検出された。RP01は支柱穴P1-P6ライン上、RP02は支柱穴P6-P7ラインに接するあたりに位置している。ともに、1Hの床面において確認されている。両者に時間的な前後関係があるのかどうかは判然としないが、RP01の方がRP02よりも明瞭に確認できた。RP01の径は49×54cm、RP02の径は51×57cmを測り、両者とも確認面の形状は不整円形を呈す。断面形は両者とも中位から下位にかけて段を1箇所有し、底面近くで窄まる。深さは、RP01が57cm、RP02が72cmを測る。RP01の土層を見ると、1層は明



らかに床構築土より粘性の少ないシルト質の土。2層は明黄褐色の粘土層であり、厚いところでは15cmを測る。2層は平面、断面の両方でも、人為的に蓋をしたかのような状況を呈すものである。3～5層は、黒～黒褐色の土で、ロームブロック、粒子が全体に混入する。3層と2層の間には、土師器甕の破片が、敷かれたような状態で出土している。6層はロームブロック主体の土で、ロクロピット構築時の、壁面からこぼれたロームが主体的に堆積したものと考えられる。R P02の土層は、住居跡セクションB-B'でしか観察できないが、最上層の1層は、明らかに床構築土より粘性の少ないシルト質の土で、1Hの床構築土とほぼ同じ厚さで水平に堆積している。2層は柱状のラインを呈す

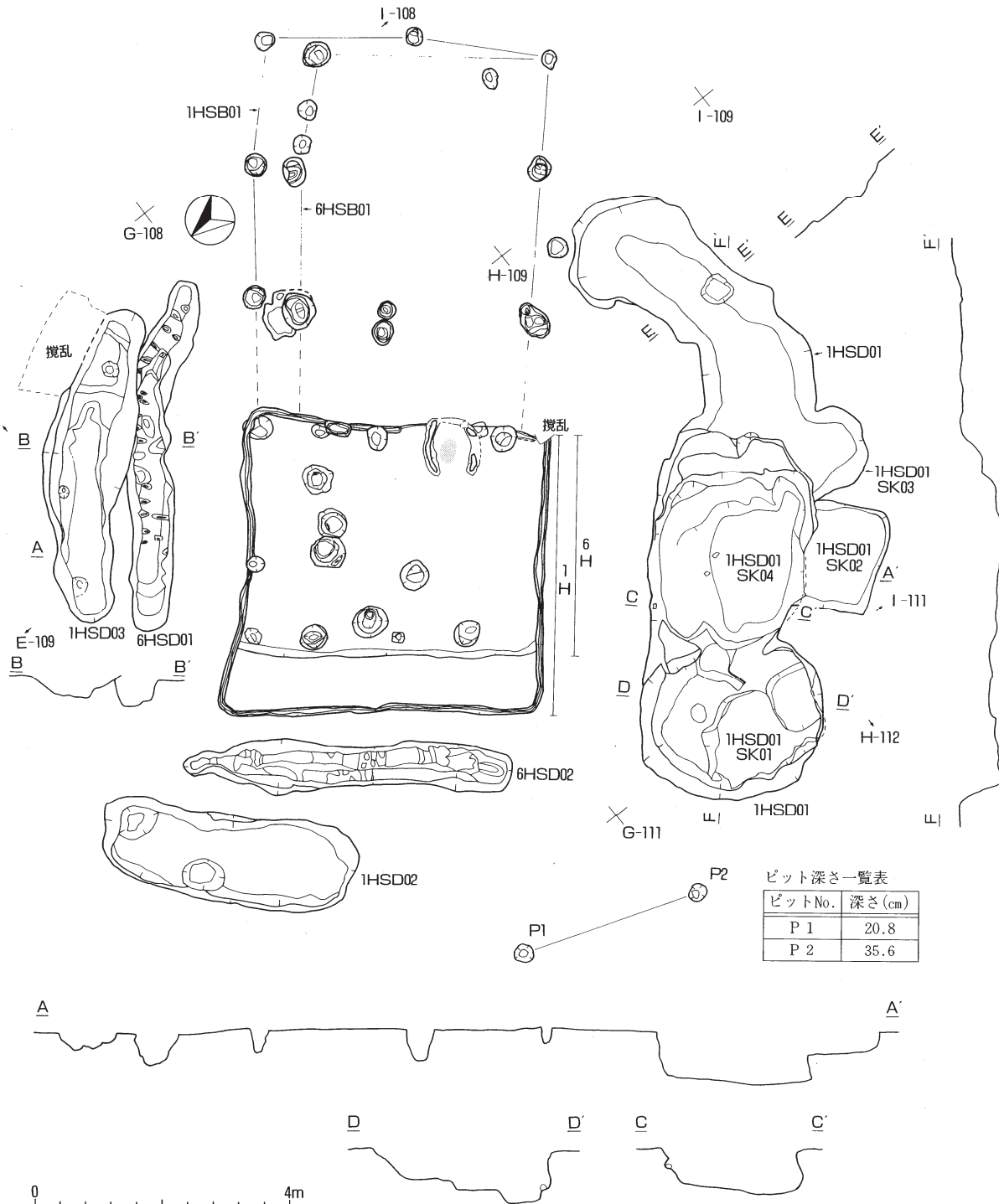


図1 第1号住居跡・第6号住居跡 (全体合成)

る層で、軸木の差し込まれていた部分に相当する可能性があり、3層は、軸木固定のための充填土と考えられる。2層の左上端には粘土ブロックが1個混入する。

**遺物等の出土状態** 床面上に土師器・須恵器の細片が出土している。1～8区に集中する傾向がある。カマドの燃焼部には土師器細片と土玉が集中して出土している。1HRP02の付近には鉄滓が出土しており、その覆土中からは土玉も出土している。14、15区の床面壁際には焼成粘土塊が集中する。1、2、5、6、11、16区の床面には、焼土と若干の炭化材が分布する。これは本住居のAコーナーからDコーナーを結ぶ対角線に沿う。焼成粘土塊と焼土は壁溝の確認面にもみられることから、これらは本住居廃絶後か廃絶時のものと考えられる。よって、床面出土の遺物も本住居跡の居住者の所有品とは即断できない。

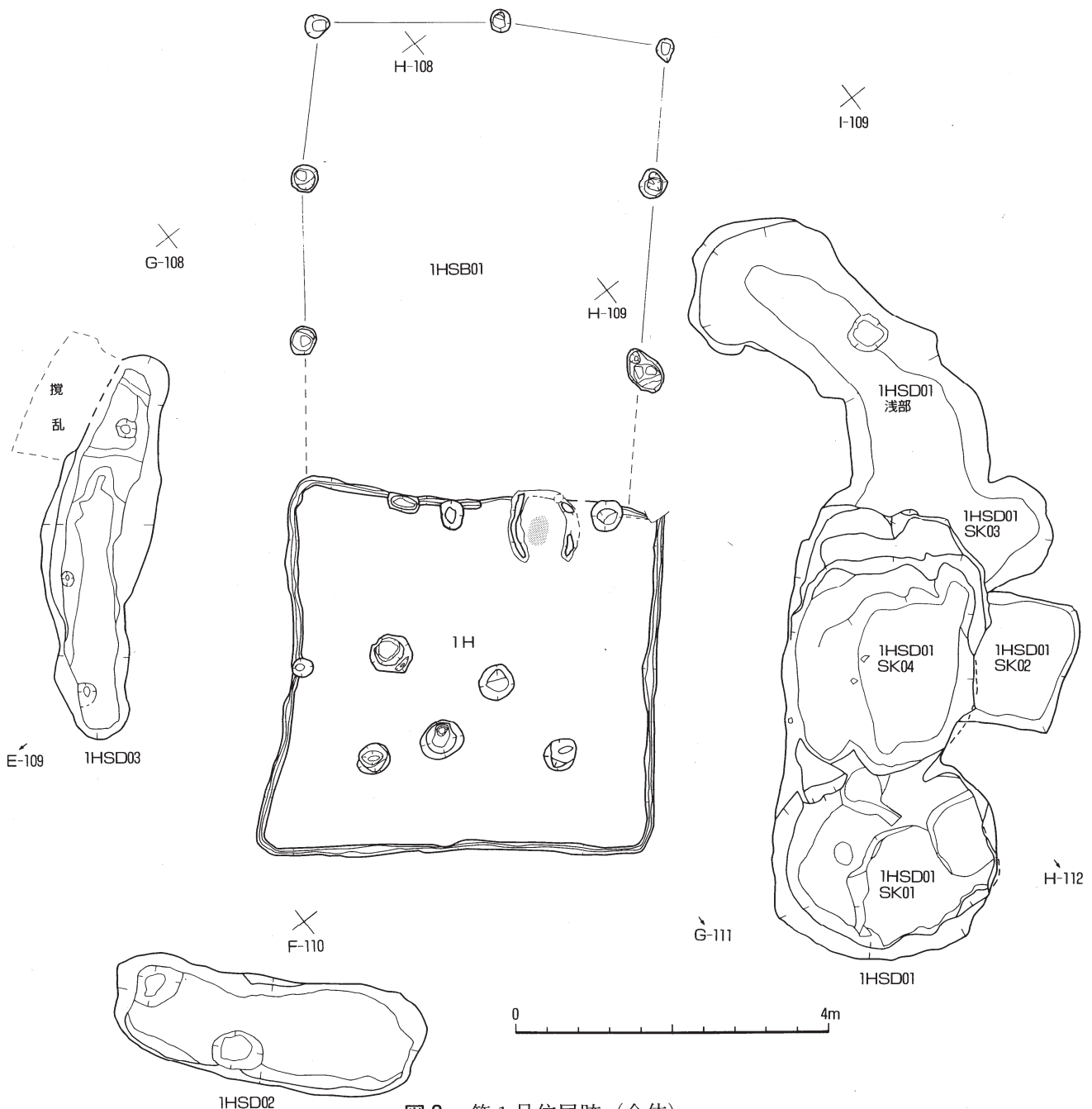
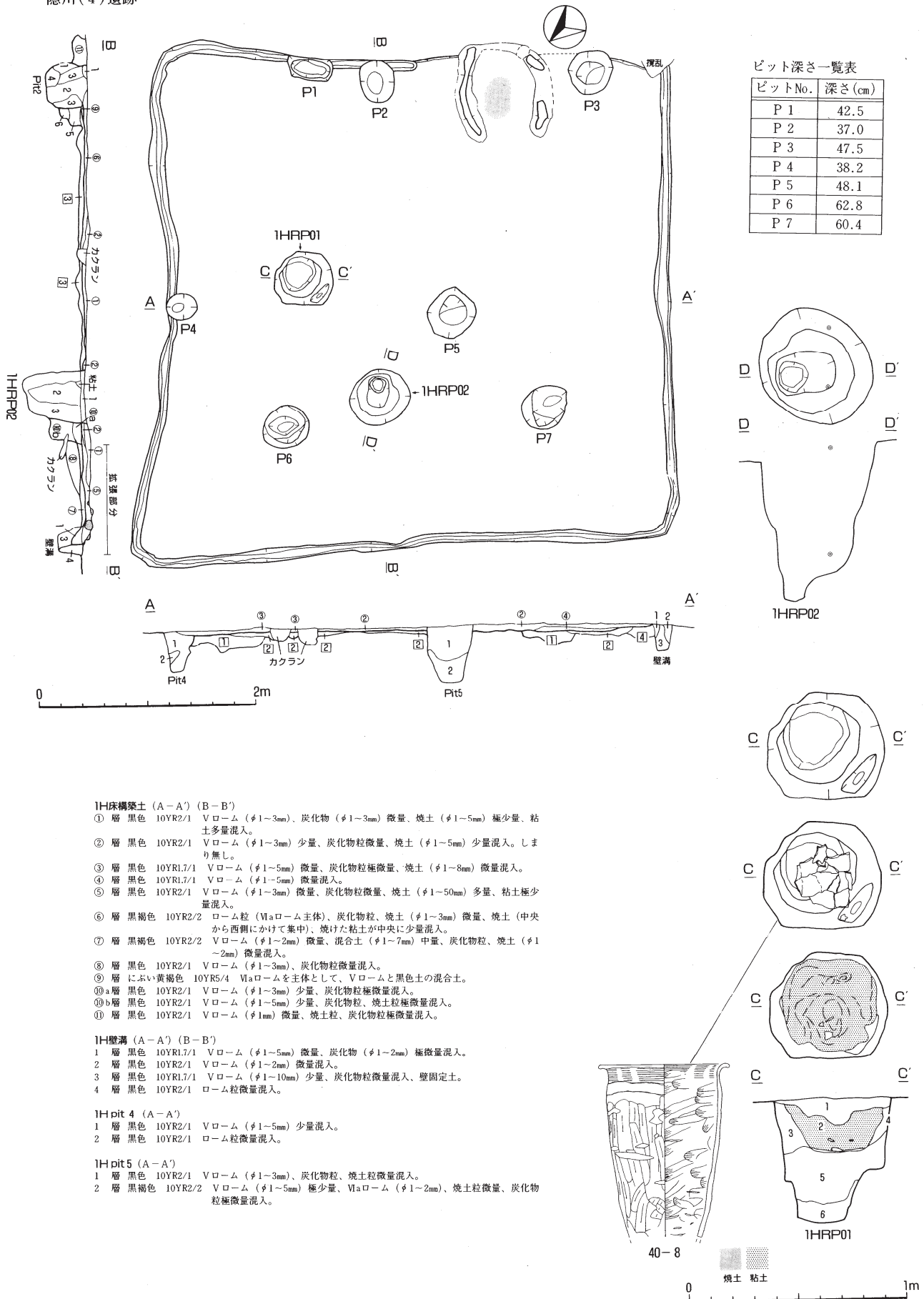


図2 第1号住居跡 (全体)



隠川(4)遺跡



- 1H床構築土 (A-A') (B-B')**
- ① 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm)、炭化物 (φ1~3mm) 微量、焼土 (φ1~5mm) 極少量、粘土多量混入。
  - ② 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm) 少量、炭化物粒微量、焼土 (φ1~5mm) 少量混入。しまり無し。
  - ③ 層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~5mm) 微量、炭化物粒極微量、焼土 (φ1~8mm) 微量混入。
  - ④ 層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~5mm) 微量混入。
  - ⑤ 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm) 微量、炭化物粒微量、焼土 (φ1~50mm) 多量、粘土極少量混入。
  - ⑥ 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒 (Vローム主体)、炭化物粒、焼土 (φ1~3mm) 微量、焼土 (中央から西側にかけて集中)、焼けた粘土が中央に少量混入。
  - ⑦ 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1~2mm) 微量、混合土 (φ1~7mm) 中量、炭化物粒、焼土 (φ1~2mm) 微量混入。
  - ⑧ 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm)、炭化物粒微量混入。
  - ⑨ 層 におい黄褐色 10YR5/4 Vロームを主体として、Vロームと黒色土の混合土。
  - ⑩a 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm) 少量、炭化物粒極微量混入。
  - ⑩b 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~5mm) 少量、炭化物粒、焼土粒極微量混入。
  - ⑪ 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1mm) 微量、焼土粒、炭化物粒極微量混入。

- 1H壁溝 (A-A') (B-B')**
- 1 層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~5mm) 微量、炭化物 (φ1~2mm) 極微量混入。
  - 2 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~2mm) 微量混入。
  - 3 層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~10mm) 少量、炭化物粒微量混入、壁固定土。
  - 4 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量混入。

- 1H pit 4 (A-A')**
- 1 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~5mm) 少量混入。
  - 2 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量混入。

- 1H pit 5 (A-A')**
- 1 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm)、炭化物粒、焼土粒微量混入。
  - 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1~5mm) 極少量、Vローム (φ1~2mm)、焼土粒微量、炭化物粒極微量混入。

図3 第1号住居跡

1H pit 2 (B-B')

- 1 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量、炭化物粒微量、焼土粒極微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm)微量、VIaローム(φ1~2mm)極微量、炭化物(φ1~3mm)、焼土(φ1~5mm)微量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~12mm)、VIaローム(φ1~5mm)極少量、炭化物粒微量、焼土(φ1~5mm)極少量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1~10mm)中量、VIaローム(φ2~3mm)極微量、焼土(φ1~3mm)微量混入。
- 5 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~2mm)焼土粒極微量混入。
- 6 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~5mm)微量混入。

1HRP01 (C-C')

- 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ2~10mm)微量混入。
- 2 層 明黄褐色 10YR6/6 粘土。やまぶき色の粘土の中に白色の粘土(φ3~15mm)、焼土(φ5~10mm)微量混入。
- 3 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ2~15mm)全体混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~2mm)全体混入。
- 5 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ2~30mm)多量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR3/2 粘土(φ30mm)1つ混入、焼土(φ5~20mm)、黒色土微量混入。L.B.主体の層。

1HRP02 (B-B')

- 1 層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒微量、炭化物(φ1~5mm)少量、焼土粒、粘土微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~3mm)少量、VIaローム(φ1~12mm)中量、炭化物(φ1~5mm)少量、焼土粒微量、粘土粒微量、粘土極少量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~10mm)少量、VIaローム(φ1~5mm)極少量、ローム粒少量、炭化物(φ1~5mm)極少量、焼土(φ2~3mm)、粘土微量混入。

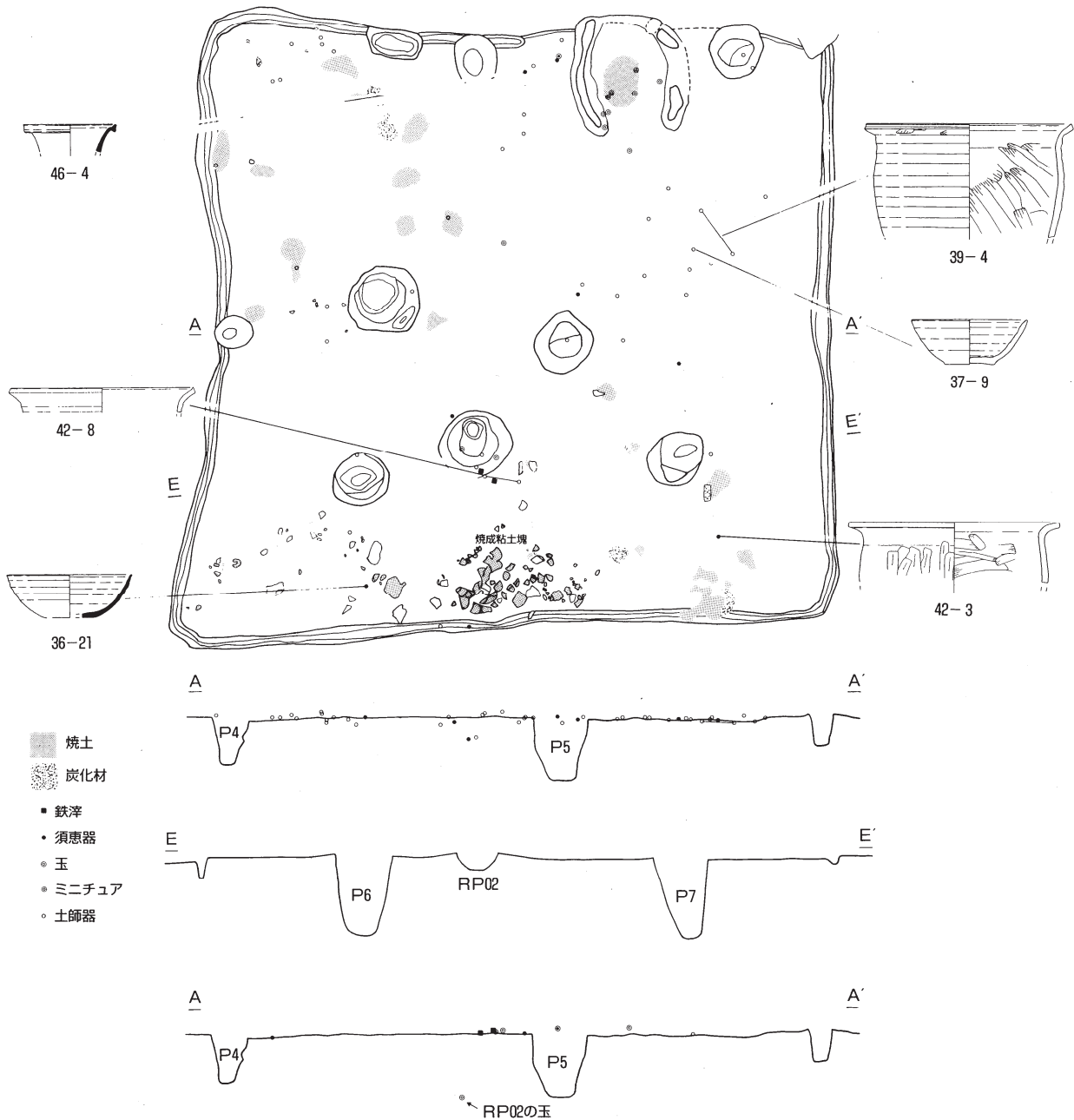


図4 第1号住居跡(遺物出土状態)



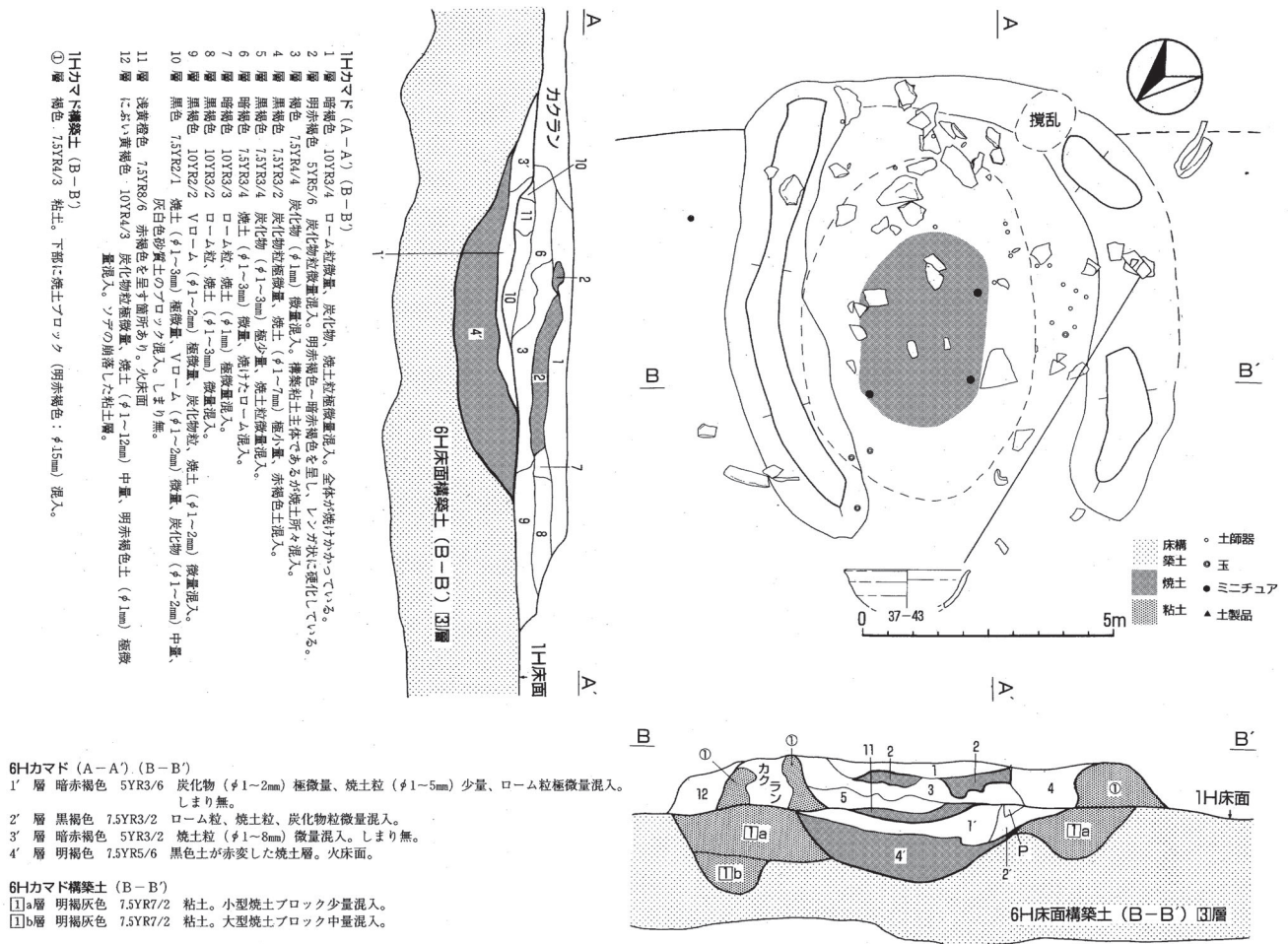


図5 第1号住居跡カマド

第1号住居跡付属外周溝 (1HSD01・1HSD02・1HSD03) (図6～図8)

**概要** 3条の溝跡で構成されており、1Hの右壁側にある外周溝(土坑状の部分も含めた全体)が1HSD01、後壁側にある外周溝が1HSD02、そして左壁側にある外周溝が1HSD03である(図2)。これら3条の外周溝をまとめて第1号住居跡付属外周溝と総称する。3条の外周溝の位置関係を見ると、1Hの右壁・左壁・後壁をコの字状に囲むように配置されている。なお、1HSD02・03は、後述する第6号住居跡に付属していた外周溝(6HSD01・02)を、1Hの新築(改築)に伴って作り替えたものである(図1)。

**重複** 前述のとおり、これらの外周溝は第6号住居跡に付属していた外周溝を作り替えたものであるが、1HSD02と6HSD02は重複の関係になっていない(図1)。よって、これらに関して新旧関係は説明できないのだが、1HSD03と6HSD01は新旧の関係にあり、1HSD03が6HSD01の壁の一部を壊して作られている(図1・B-B')。この事実から、1HSD02と6HSD02の関係も、他遺跡でこれまでに検出されている外周溝の拡張(作り替え)の例をもとに解釈すると、6HSD02→1HSD02という時間的経過が想定される。

**構造** 1HSD01～03を全体的に見ると、コの字状に配列されている<sup>(註)</sup>。1Hの壁から各外周溝の内側壁までの間隔は、1HSD01側が156～192cm、1HSD02側が160～180cm、1HSD03側が

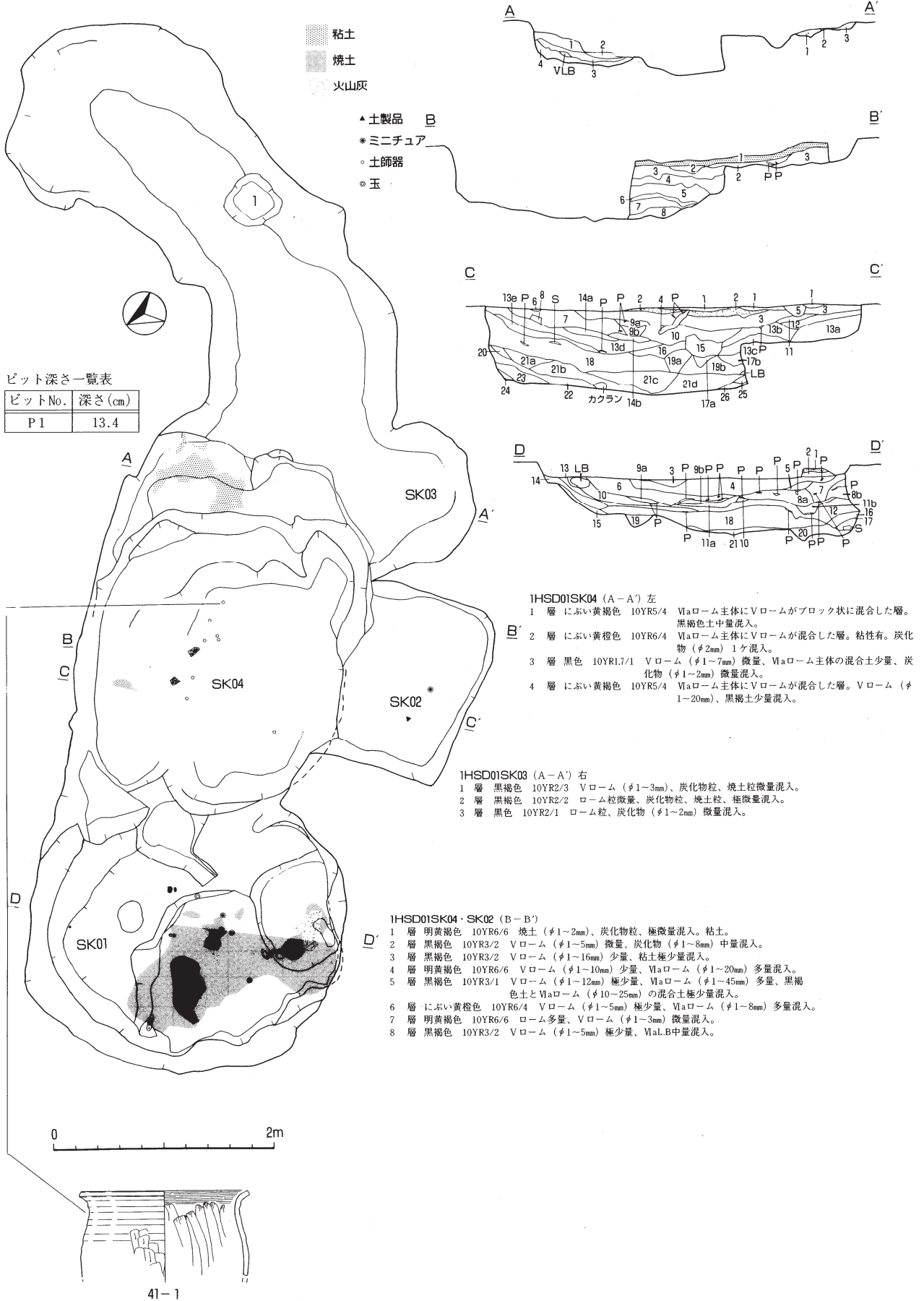


図6 第1号住居跡・外周溝(1HSD01)



隠川(4)遺跡

1HSD01SK04・02 (C-C)

- 1 層 黒色 10YR2/1 ローム粒、炭化物粒極微量混入。
- 2 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1mm)、B-Tm極微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 3 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-8mm)微量混入。
- 4 層 黒色 10YR1/1 ローム粒、炭化物粒、極微量混入。しまり無。
- 5 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1mm)炭化物粒極微量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。しまり無。
- 7 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-10mm)少量、Vlaローム(φ1-3mm)、炭化物(φ1-5mm)微量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒極微量、焼土(φ1-3mm)中量混入。
- 9a 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。
- 9b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1mm)極微量、炭化物(φ1-5mm)焼土(φ1-3mm)微量混入。
- 10 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm)極微量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 11 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-5mm)微量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。
- 12 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1mm)炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 13a 層 黒褐色 10YR2/1 Vローム(φ1-10mm)中量、炭化物(φ1-5mm)極少量、焼土(φ1-3mm)微量混入。
- 13b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-7mm)少量、炭化物(φ1-8mm)極少量、炭化物(φ5×50mm)少量混入。
- 13c 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)少量、炭化物(φ1-5mm)極少量、焼土(φ1-7mm)微量混入。
- 13d 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-10mm)少量、Vローム(φ1-5mm)微量、炭化物(φ1-12mm)極少量混入。
- 13e 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-10mm)極少量、炭化物(φ1mm)微量混入。
- 14a 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)微量、炭化物(φ1-20mm)微量混入。
- 14b 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)微量混入。
- 15 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1mm)極微量、炭化物(φ1-6mm)極少量混入。
- 16 層 黒色 10YR2/1 ローム粒、焼土(φ1mm)、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。
- 17a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-8mm)多量、ローム粒少量、炭化物粒微量混入。
- 17b 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2.5mm)中量、炭化物(φ1-5mm)微量混入。
- 18 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-7mm)微量、Vlaローム(φ1-5mm)極微量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 19a 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-20mm)少量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 19b 層 黄褐色 10YR5/6 Vローム層主体。一部Vla、LBと暗褐色土混入。
- 20 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)微量混入。
- 21a 層 黒褐色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)微量、Vlaローム(φ1-5mm)極少量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 21b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-10mm)少量、Vlaローム(φ1-18mm)極少量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。

- 21c 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-30mm)少量、Vlaローム(φ1-35mm)中量、炭化物粒微量混入。
- 21d 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-8mm)極少量、Vlaローム(φ1-5mm)、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 22 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ1mm)極微量混入。
- 23 層 明黄褐色 10YR7/6 Vローム(φ1-3mm)微量混入。Vlaローム主体。
- 24 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量混入。しまり無。
- 25 層 明黄褐色 10YR6/6 Vローム層。黒色土微量混入。
- 26 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-10mm) Vlaローム(φ1-7mm)極少量混入。

1HSD01SK01 (D-D')

- 1 層 黒色 10YR2/1 B-Tm極少量混入。
- 2 層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量混入。
- 3 層 黒色 10YR1/1 ローム粒、焼土(φ1mm)極微量混入。
- 4 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)微量、炭化物(φ1-5mm)極少量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2mm)、炭化物粒極微量混入。
- 6 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)極少量、Vlaローム(φ1-2mm)微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 7 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1mm)極微量、炭化物(φ1-3mm)微量、焼土(φ1-10mm)中量混入。
- 8a 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm)微量、Vlaローム(φ1-2mm)極微量、炭化物(φ1-5mm)極少量、焼土(φ1-3mm)微量混入。
- 8b 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)極微量、炭化物(φ1-3mm)極少量、焼土(φ1-2mm)微量混入。
- 9a 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)、炭化物粒微量混入。
- 9b 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
- 10 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-10mm)極少量、褐色ローム中量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 11a 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm)、炭化物(φ1-2mm)微量、焼土(φ1-10mm)多量混入。
- 11b 層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、焼土(φ1-12mm)多量混入。
- 12 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-8mm)微量、炭化物(φ1-2mm)極少量混入。
- 13 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 14 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-3mm)、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 15 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)少量、炭化物粒微量混入。
- 16 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)微量、Vlaローム(φ1mm)、炭化物粒極微量混入。
- 17 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-2mm)微量混入。
- 18 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-15mm)少量、Vlaローム(φ1-30mm)多量、粘土質ローム(φ1-50mm)中量、炭化物粒微量混入。
- 19 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-5mm)極少量、炭化物粒微量混入。
- 20 層 明黄褐色 10YR5/4 Vローム主体、Vlaローム少量、暗褐色土微量混入。
- 21 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-15mm)、Vlaローム(φ1-15mm)極少量、粘土(φ1-20mm)少量、炭化物粒微量混入。

176~208cmを測り、総じてほぼ160~200cm前後に保たれている。長さは、1HSD01が直線長で960cm、1HSD02が405cm、1HSD03が500cmを測る。幅は、1HSD01が170~373cm、1HSD02が138cm前後、1HSD03が70~133cmを測る。深さは、1HSD01が20~75cm、1HSD02が25~30cm、1HSD03が30~40cmを測る。(註)1HのC、Dコーナー側に空白部分が見られる。特に、Dコーナー側の空白部分の西方にはピットが2個(図7)見られることから、ここの空白部分は出入り口と関連していた可能性が想定される。

[1HSD01] 複雑な形状を呈する。北西末端には、円形の土坑状の部分(1HSD01SK01)があり、ほぼ中央部には不整楕円形の土坑状の部分(1HSD01SK04)、そして、1HSD01SK04の南西壁側には、長方形を呈す1HSD01SK02が接し、1HSD01SK04の南壁側には、半円形を呈す1HSD01SK03が位置している。また、1HSD01SK03の東側には非常に浅い溝跡(1HSD01浅部)が東に伸びていて、その末端は膨らみ、楕円形状を呈する。以下、各部位毎に述べる。

[1HSD01SK01] 平面形はほぼ円形を呈す。底面は、複雑に掘り込まれており、4個ほどの小土坑が切り合うような状況を示している。数回にわたる掘り込みの結果、このような底面になったと考えられる。断面形は、D-D'土層断面図でも分かるとおり、部分的に壁面が内傾するところも認められる。特に、底面近くの壁を横に掘り込んでいる所が多い。平面形、断面形の不規則な掘り込みの状況から、本遺構は粘土採掘坑として利用されていた可能性がある。深さは、45~55cmを測る。

[1HSD01SK02] 長方形を呈し、底面は平坦で、壁面はほぼ直線的に立ち上がっている。長軸162~167cm、深さは30~35cmを測り、隣接する1HSD01SK04と比較すると非常に浅い。平面形は非常に整った長方形を呈していることから、精査を開始した当初は1HSD01SK04との間に新旧関係があるものと考えたが、結果的に新旧関係は認められず、同時埋没していることが図6のC-C'土層断面より判明している。しかし、本遺構は、突出した検出位置と形状から、1HSD01SK04等と同時期に構築されたものとは考え難く、1HSD01SK04の機能時に追加構築されたものである可能性が高い。なお、図6のB-B'土層断面図で分かるとおり、南東壁側の覆土中位から1HSD01

SK04の上層にかけて厚さ5cm前後の粘土が多量に廃棄されている。

[1HSD01SK03] 平面形は半楕円形状を呈し、底面にはやや凹凸が認められる。深さは10cm前後と非常に浅く、掘立柱建物跡方向へ伸びるSD01浅部よりも浅い。

[1HSD01SK04] 上端の平面形は不整の楕円形を呈す。底面は、上端と同様の形状を呈さず、平坦部の面積も少ない。1HSD01浅部に接する部分の壁面は階段状になっている。この部分は粘土採掘の跡か或いは、粘土採掘のための階段である

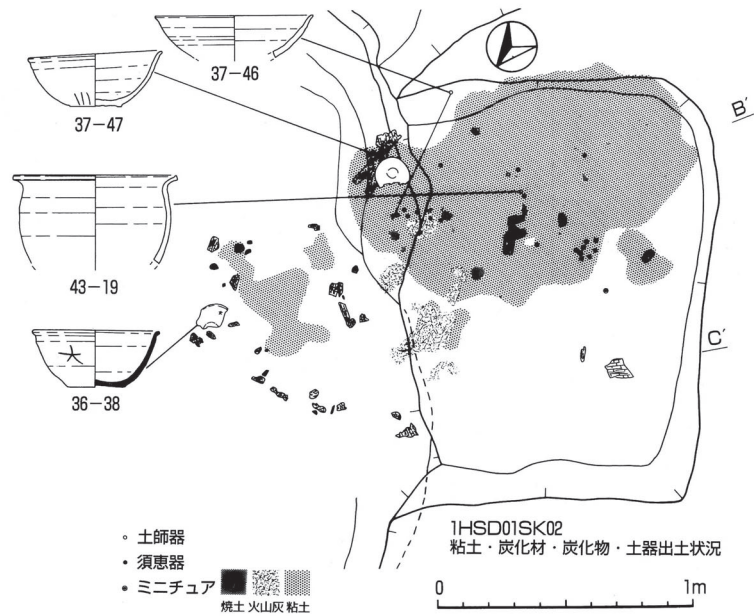


図7 第1号住居跡外周溝(1HSD01SK02・SK04)(遺物出土状態)  
可能性が高い。なお、長軸の長さは、6H右壁の長さとはほぼ等しい。

[1HSD01浅部] 掘立柱建物跡(1HSB01)のPit7・11付近にまで伸びている。非常に浅い掘り込みで、確認面とほとんど高低差を持たない程度であるが、底面には僅かに傾斜がみられ、1HSD01SK04に近づくとつれてやや低くなっている。底面にはピット状のくぼみが1個(Pit1)ある。深さは20cmを測る。

**堆積土** 部位によって堆積の状況に差が見られる。図6のB-B'~D-D'に示されているように、薄い層が幾層にもわたって堆積している。大きく土層を上中下の3層に分けると、下位層には掘り込み直後かあるいは機能していた段階に堆積したと考えられるロームブロックを多量に含む崩落土が目立ち、中位層には焼土などを含んだ人為的な排土が多くみられる。上位層は自然堆積土がほとんどで、1HSD01SK01の確認面の層(D-D'1層)および上位層(C-C'2層)にはB-Tmが混入している。

**遺物の出土状態** 1HSD01SK01、02、04からは多量の土師器、須恵器等が出土している。底面付近にはあまり出土せず、専ら覆土の中位層以上の層に多く出土する。ミニチュア土器等も少量出土している。遺物の層位的な分布状況より見て、本遺構の廃絶後に、廃棄された遺物がほとんどであると考えられる。

**その他** 1HSD01SK02の底面と1HSD01SK04の底面との間には大きな高低差が認められることから、SK02とSK04は掘り込まれた時期がやや異なる可能性が考えられる。堆積土より、1HSD01はB-Tm降下以前の構築と考えられる。

[1HSD02] 平面形は長い隅丸方形形状を呈する。底面の北東隅と北西壁のほぼ中央部にはくぼみ状のピット(P1・2)が見られる。底面は、非常に平坦で、壁面は、斜め~ほぼ直角に立ち上がっている。全体的に大変整った形状を呈しており、SD01やSD03とは対照的である。深さは、25~30cm前後を測る。

**堆積土** 底面近くに薄い層が数層堆積している。下位層には掘り込み直後かあるいは機能していた



段階に堆積したロームブロックを多量に含む土がみられる。上位の厚い1・2層は自然堆積土であり、土層断面図には無いが、南西側の1層にはB-T<sub>m</sub>が混入している。

**遺物の出土状態** 土師器、須恵器等が出土している。底面付近にはあまりみられず、専ら覆土の中位以上の層に分布する。分布状況より見て、本遺構が廃絶され、ある程度、時間が経過した後に廃棄された遺物がほとんどと考えられる。堆積土より、本外周溝はB-T<sub>m</sub>降下以前の構築と考えられる。

**[1HSD03]** 弓状に反り、中央部がややふくらむ平面形を呈す。底面には、3個のピット(P1~3)が見られる。南東側壁の一部は攪乱を受けている。底面は若干の歪みがあるもののほぼ均一な幅で弓状を呈し、凹凸も見られる。掘り込みは南側がやや浅く、中央~北側が深く掘り込まれている。中央部の壁面は緩やかに、北側と南側の壁面はやや急に立ち上がる。深さは、30~40cm前後を測る。

**堆積土** 部位によって堆積の状況に差が見られる。図8の土層断面図B-B'にあるように覆土の上層に粘土が堆積している。この粘土は本遺構の廃絶後の廃棄物と考えられる。下位層にはロームブロックを多量に含む崩落土がみられる。B-T<sub>m</sub>は確認されなかった。

**遺物の出土状態** 確認面から覆土の中位にかけて大量の土師器、須恵器等が出土しており、底面付近にはあまり出土していない。また、粘土と同時に廃棄されたと思われるシルト礫(微細図参照)も多量に出土している。全体的な分布状況より、本遺構の廃絶後に廃棄された遺物がほとんどであると考えられる。

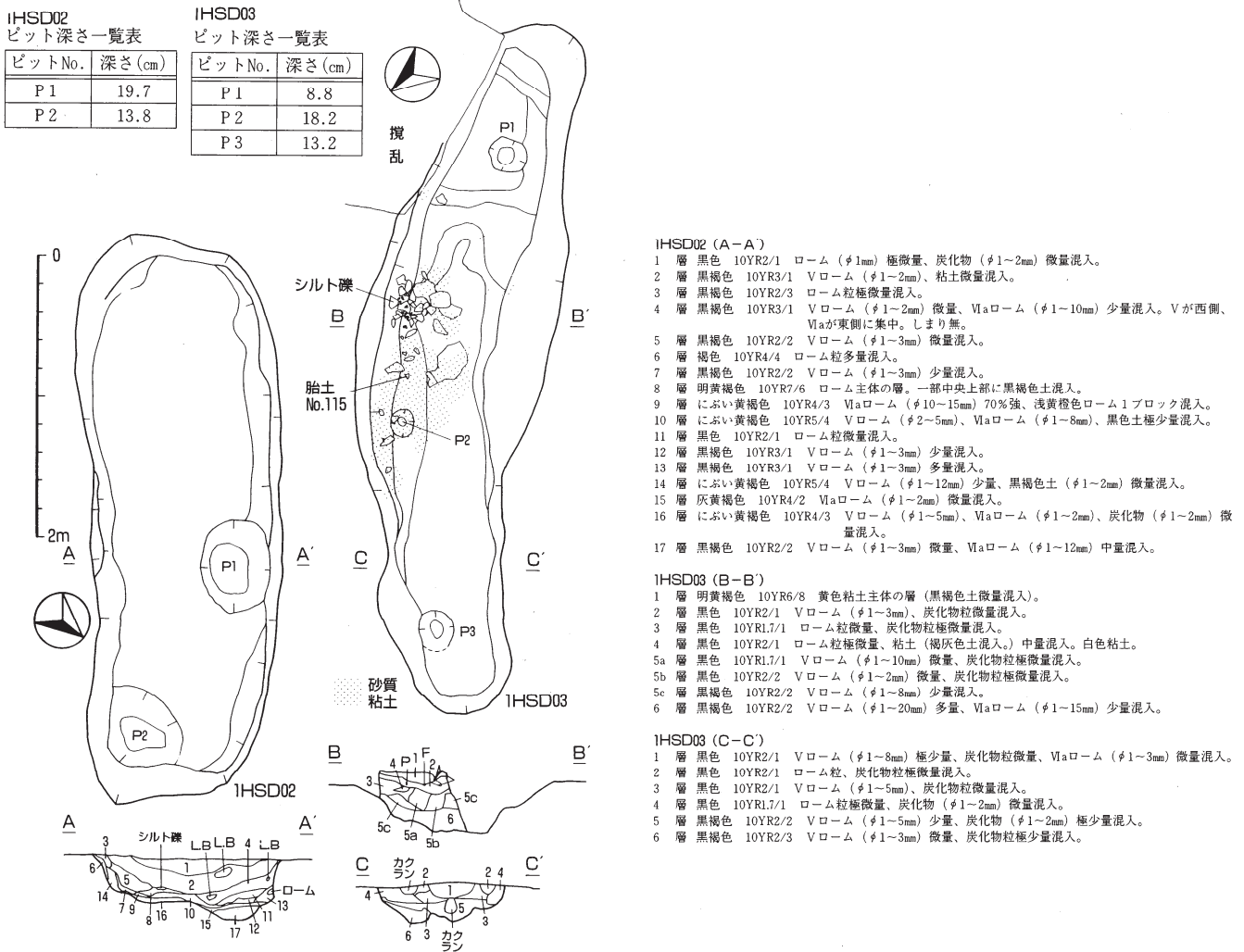


図8 第1号住居跡外周溝(1HSD02・1HSD03)

第1号住居跡付属掘立柱建物跡 (1HSB01) (図9)

概要 本掘立柱建物跡は1Hの前壁側に位置する。1Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、第1号住居跡に付属する一連の建物(1HSB01)と考えられる。なお、本建物跡

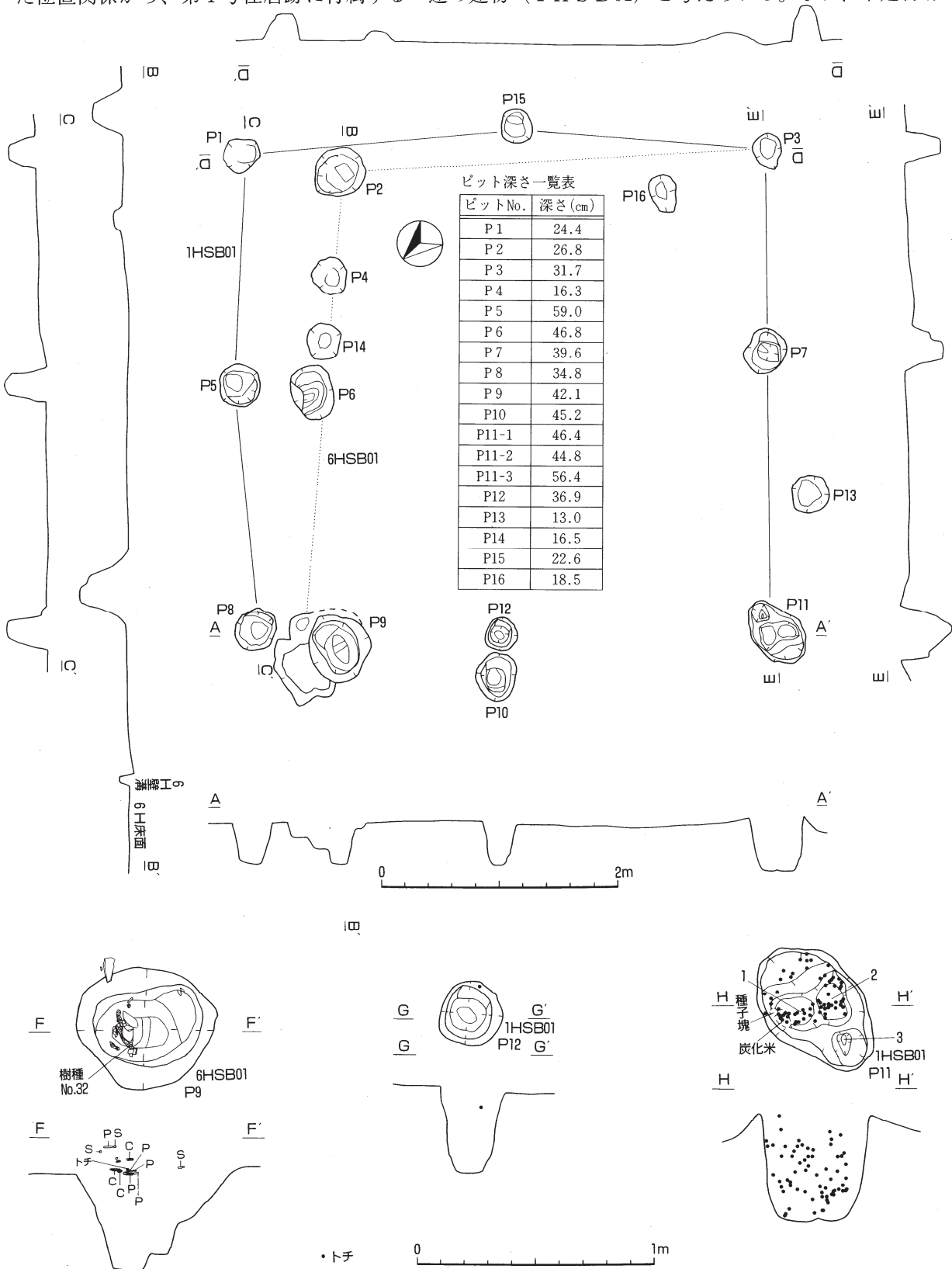


図9 第1号住居跡掘立柱建物跡 (1HSB01) ・ 第6号住居跡掘立柱建物跡 (6HSB01)



は、6 H S B01を拡張した建物跡である。6 Hを拡張して1 Hを建築すると同時に6 H S B01→1 H S B01の改築(拡張)も行われたものと考えられる、6 H S B01 P 2・4・14・6・9を北東側に移動させ、1 H S B01 P 1・5・8を新たに構築して拡張している。

**重複** (1) 1 H S B01の内部にはS K16とS K17が位置している(図IV)。S K16は1 H S B01 Pit 7に切られていることから、本建物跡が新しい。S K17と本建物跡の柱穴は、直接的に重複していないものの、S K17はS K16と形態や規模などの面において類似していることから、S K17もS K16と同様に本建物跡より古い可能性が高い。(2) 1 H S B01の内部にロームの円形盛土が見られる。柱穴と直接的な重複関係にないため、新旧関係は不明であるが、本建物跡に伴うものである可能性も否定できない。

**構造** 基本的には8基の柱穴で2間×2間に構成され、ほぼ正方形を呈す。規模は、P 1-P 5-P 8のラインが410cm、P 3-P 7-P 11のラインが415cm、P 1-P 15-P 3のラインが450cm、P 8-P 12-P 11のラインが440cmを測る。柱穴の深さは浅いもので22cm前後、深いもので59cm程度である。平面形は、円形、不整形円形、楕円形と様々みられる。

P 11は3個の柱穴が重複しているようである(P 11-1, 2, 3)が、新旧関係等については不明である。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡の前壁から、P 8は160cm、P 10は125cm、P 11は155cm離れている。P 5-P 8のラインの住居跡方向の延長線は1 HのAコーナーにぶつかる。主軸方位はN-131°-Eを測る。

**土層** いずれの柱穴も暗褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

**遺物等の出土状態** 土器類はほとんど出土していないが、P 11からは炭化したトチの実、炭化米、アサ種子が出土している。炭化トチの実は50数点出土した。位置的にはP 11-1, 2の上位から下位にかけて出土している。炭化米とアサ種子はP 11-1の中位にブロック状に検出されている。また、P 12の上位からも炭化トチの実が1点のみ出土している。P 11-1, 2における炭化種子類の平面分布よりみて、これらの炭化種子類は柱穴の抜き取り後に埋められたものと考えられ、何らかの祭祀的な場面(地鎮など)に伴ったものである可能性が高い。

## 第6号住居跡(6 H)(図10~図12)

**概要** 本住居跡は、第1号住居跡の拡張以前のものである<sup>(註)</sup>。内部施設としてロクロピットが2基(6 H R P01, 6 H R P02)と、外部施設として外周溝2条(6 H S D01, 6 H S D02)と掘立柱建物跡1棟(6 H S B01)が付随している(図10)。

(註) 6 Hおよび6 Hカマドの土層断面図は1 Hの土層断面図(図3・5)に示してある。

**重複** 1 Hの記載を参照。1 Hよりは古い。

**構造** 規模は、355~385×465~483cmを測り、平面形は長方形を呈す。床面は1 Hの床構築土の直下に確認された。四壁は1 H同様、ほとんど残存していない。壁溝は後壁に検出されなかったことから、壁溝は全く掘り込まれていなかった可能性がある<sup>(註)</sup>。ピットはP 1~P 8があり、支柱穴はP 3・4・6・7の4本柱構成と考えられる。P 6・7は1 Hと同じものであり、P 4は、1 Hカマドの右ソデの下に、P 3は1 H P 1の東側に検出されている。床は、先ず第Ⅲ層を掘り込み、ロームが混入する黒色土を薄く貼ってつくられている。

(註) 住居跡の平面図には、便宜的に1 Hの左壁溝、前壁溝、右壁溝をそのまま6 Hの平面図に組み込んでいる。

**土層** 床構築土のみの調査であり、覆土は堆積していない。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3区)に位置する。残存状況は不良で、火床面のみが検出されている。1Hカマドを構築する段階で、6Hカマドは破壊されているが、その残骸は1Hカマドの下層に埋め込まれている(図5)。ソデは、明褐色の粘土を素材としている。火床面は床面をそのまま利用していて、あまり硬化していない。カマドを通る軸方位はN-130°-Eをさす。

**内部施設** ロクロピット2基が1/5区(6HRP01)と6区(6HRP02)に検出された。RP01、RP02ともに支柱穴P3-P6ラインに接するように存在する。RP01は6Hの床面において確認したものであり、RP02は6Hの床構築土除去後に確認したものである。恐らくRP02が廃絶された後にRP01が構築されたものと思われる。RP01の上端径は45×48cm、RP02の上端径は47×48cmで、上端の平面形は両者とも不整円形を呈す。断面形はRP01が不整逆台形<sup>(註)</sup>、RP02が径と深さがほぼ同一サイズの逆台形である。両者とも中位から下位にかけて段を1箇所有す。深さは、RP01が51cm、RP02が37cmを測る。RP01の確認面には、多量のミニチュア土器や土師器片が散在し、1~3層に

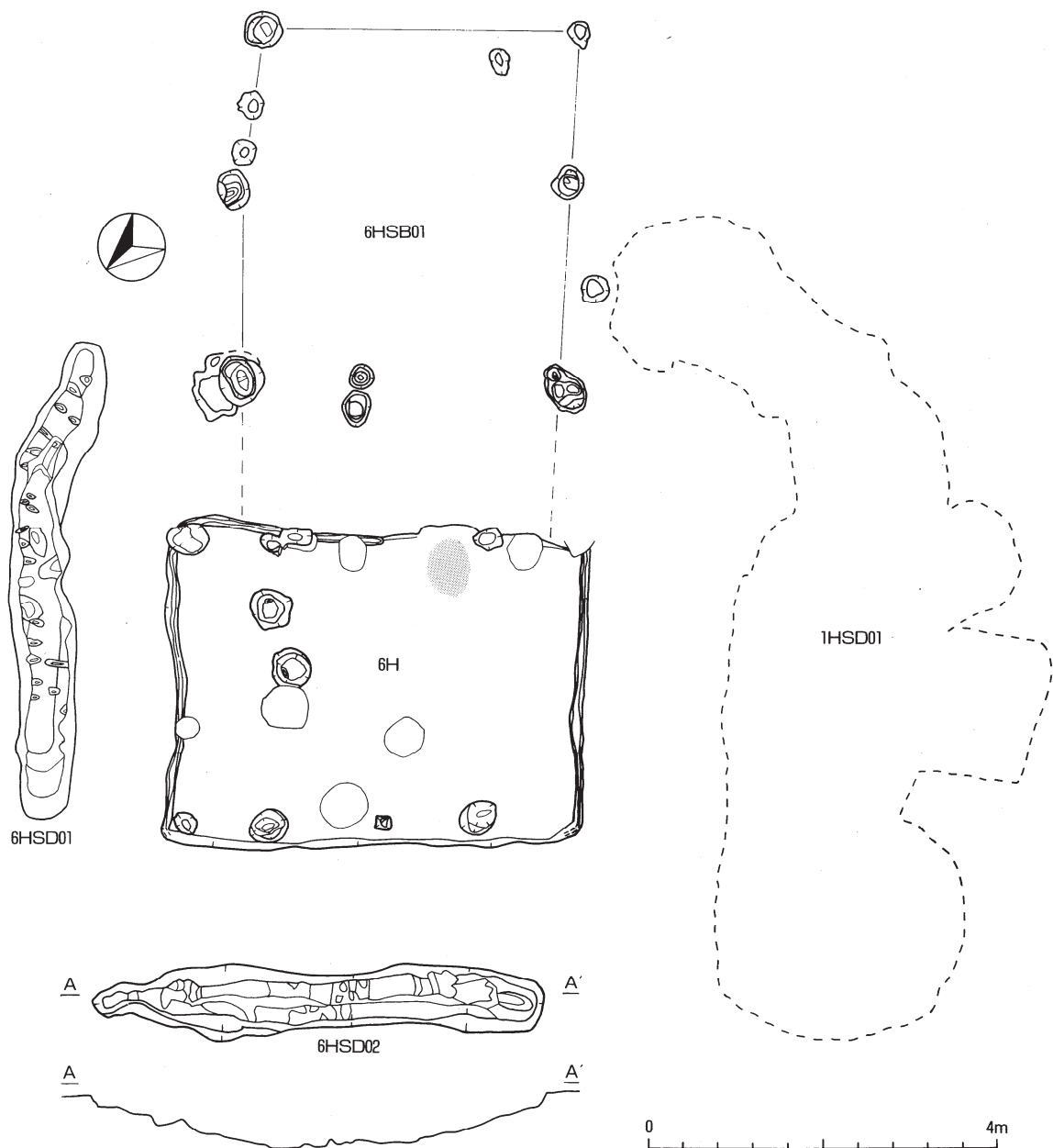
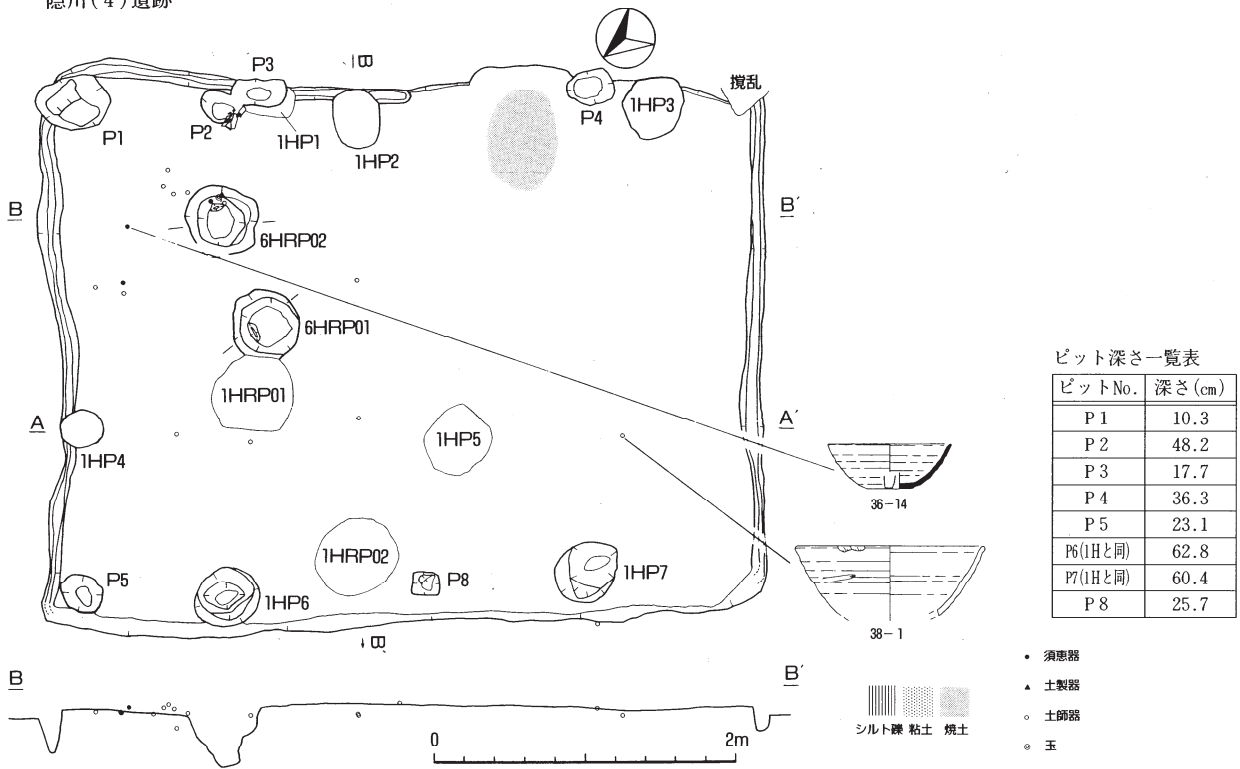


図10 第6号住居跡(全体)

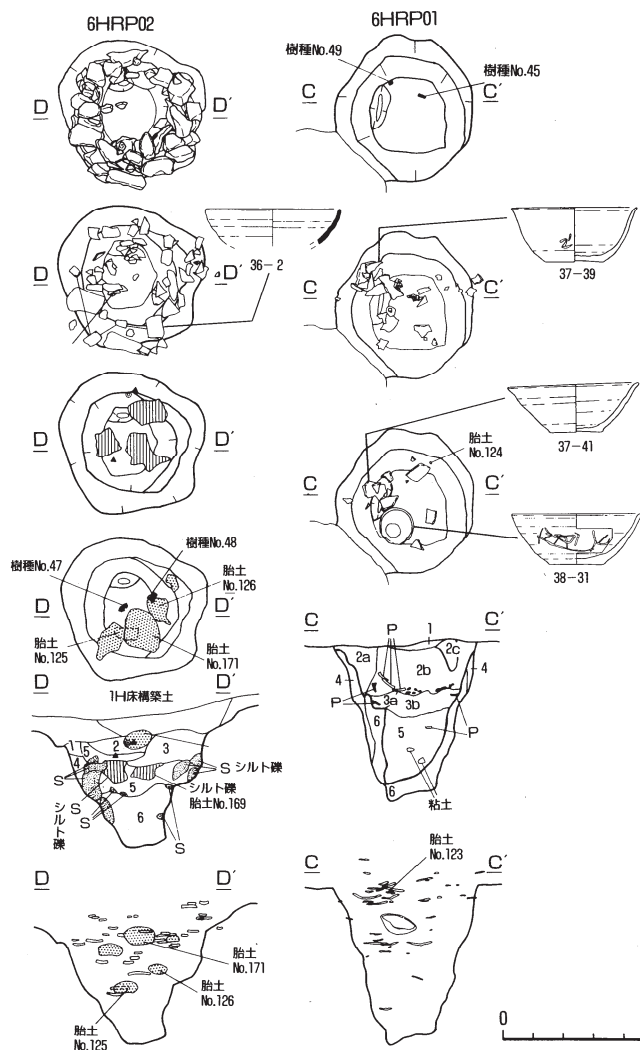


隠川(4)遺跡



ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	10.3
P 2	48.2
P 3	17.7
P 4	36.3
P 5	23.1
P6(1Hと同)	62.8
P7(1Hと同)	60.4
P 8	25.7



**6H床構築土 (A-A') (B-B')**  
 ①層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm) 極少量、炭化物粒微量、焼土粒微量、粘土(φ2-3mm) 微量混入。  
 ②層 黒色 10YR1.7/1 Vローム(φ1-2mm) 微量、焼土(φ1-5mm) 極少量、粘土(φ2-7mm) 微量混入。  
 ③層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm) 微量、Vaローム(φ1-7mm) 微量、炭化物粒極少量、焼土(φ1-5mm) 少量混入。  
 ④層 黒色 10YR1.7/1 Vローム(φ1-2mm) 微量混入。

**6HRP01 (C-C')**  
 1層 黒褐色 10YR2/3 焼土(φ1-7mm) 微量、ローム(φ1-2mm) 微量、炭化物(φ1mm) 極微量混入。  
 2a層 黒色 10YR2/1 炭化物(φ7mm) 極微量、焼土(φ1mm) 極微量、ローム(φ1-4mm) 微量混入。  
 2b層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-7mm) 微量、焼土(φ1mm) 極微量、炭化物(φ5-10mm: 下に集中) 混入。  
 2c層 黒色 10YR2/1 焼土(φ2-6mm) 全体、ローム(φ1-4mm) 微量、炭化物(φ1mm) 極微量混入。  
 3a層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-3mm) 微量、焼土(φ1mm) 極微量混入。  
 3b層 黒色 10YR1.7/1 ローム(φ1-10mm) 少量、焼土(φ1mm) 極微量、焼土塊(φ12mm) 1粒混入。  
 4層 黄褐色 10YR5/6 黒色土微量混入。しまり強い。  
 5層 黒色 10YR2/1 粘土(φ15-1-2mm) 微量、ローム(φ1-3mm) 微量、焼土(φ1mm) 1粒混入。しまり弱い。  
 6層 黄褐色 10YR5/8 10YR2/1黒色土が斑状に混入。しまり強い。

**6HRP02 (D-D')**  
 1層 黒褐色 10YR2/2 焼土塊(φ10mm) 1ヶ、ローム(φ1-10mm)、少量混入。  
 2層 黒色 10YR2/1 焼土(φ2-5mm) 微量、ローム粒(φ1-3mm) 微量混入。  
 3層 黒褐色 10YR2/2 焼土(φ2-10mm) 少量混入。  
 4層 褐色 10YR4/6 ローム(φ5-15mm) 多量混入。  
 5層 黒褐色 10YR2/2 粘土(明黄褐色: φ1-85mm・灰白色: φ5-30mm) 微量、炭化物(φ5-10mm) 極微量、ローム(φ1mm) 極微量混入。シルト礫含む。  
 6層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-20mm) 少量、焼土(φ1-13mm) 微量、炭化物(φ1-4mm) 微量、粘土(灰白色: φ1-8mm) 極微量混入。

図11 第6号住居跡

も多くの土器片が含まれている。2b層の最下には多量の炭化物が集中している。2b層からはほぼ完形の土師器坏が出土しており、この土師器坏の外面には、絵画的なヘラ描きが施されている。5層は軸木のあった部分に相当する層で、4・6層は軸木を固定するための充填土と考えられる。RP02の中位には、多量の自然礫が環状に固定されている。これは、軸木を安定させるために施されたものと考えられ、6層は、軸木の差し込まれていた部分に相当する可能性がある。

(註) RP01の土層断面図は、5層のしまりが弱かったため、土層断面の下位を垂直に出来ずに奥まってしまった。よって、図の下位は実際よりも細く見えている。

**遺物等の出土状態** 土器の細片が若干出土したにすぎない。

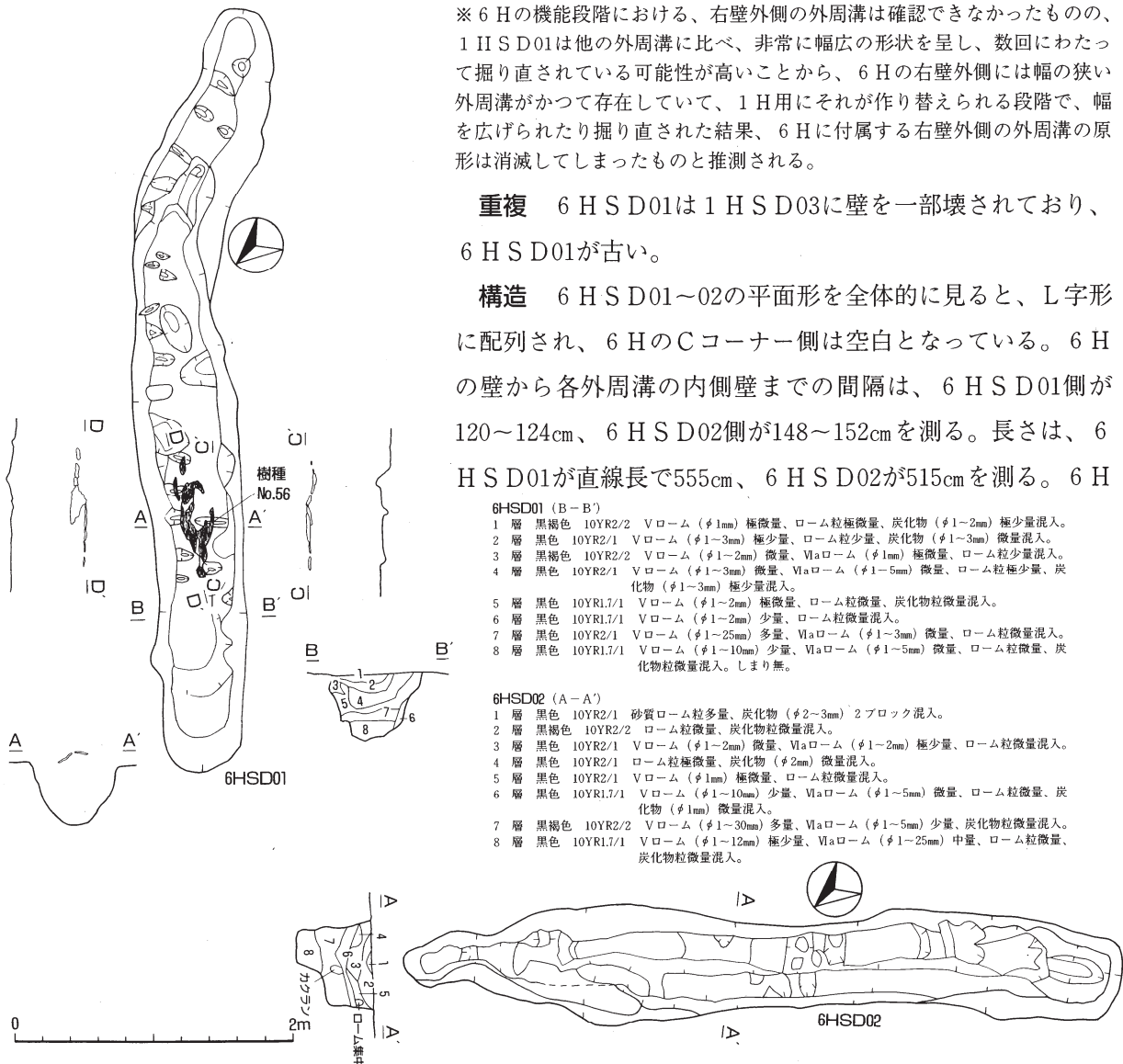
**第6号住居跡付属外周溝 (6HSD01・6HSD02) (図12)**

**概要** 2条の溝跡で構成されており、6Hの左壁の外側にある外周溝が6HSD01、後壁の外側にある外周溝が6HSD02である (図10)。これら2条の外周溝をまとめて第6号住居跡付属外周溝と呼称する。2条の外周溝の位置関係を見ると、6Hの左壁・後壁をL字状に囲むように配されている。

※6Hの機能段階における、右壁外側の外周溝は確認できなかったものの、1HSD01は他の外周溝に比べ、非常に幅広の形状を呈し、数回にわたって掘り直されている可能性が高いことから、6Hの右壁外側には幅の狭い外周溝がかつて存在していて、1H用にそれが作り替えられる段階で、幅を広げられたり掘り直された結果、6Hに付属する右壁外側の外周溝の原形は消滅してしまったものと推測される。

**重複** 6HSD01は1HSD03に壁を一部壊されており、6HSD01が古い。

**構造** 6HSD01~02の平面形を全体的に見ると、L字形に配列され、6HのCコーナー側は空白となっている。6Hの壁から各外周溝の内側壁までの間隔は、6HSD01側が120~124cm、6HSD02側が148~152cmを測る。長さは、6HSD01が直線長で555cm、6HSD02が515cmを測る。6H



- 6HSD01 (B-B')**
- 1層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1mm) 極微量、ローム粒極微量、炭化物 (φ1~2mm) 極少量混入。
  - 2層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm) 極少量、ローム粒少量、炭化物 (φ1~3mm) 微量混入。
  - 3層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1~2mm) 微量、Vαローム (φ1mm) 極微量、ローム粒少量混入。
  - 4層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~3mm) 微量、Vαローム (φ1~5mm) 微量、ローム粒極少量、炭化物 (φ1~3mm) 極少量混入。
  - 5層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~2mm) 極微量、ローム粒微量、炭化物粒微量混入。
  - 6層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~2mm) 少量、ローム粒微量混入。
  - 7層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~25mm) 多量、Vαローム (φ1~3mm) 微量、ローム粒微量混入。
  - 8層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~10mm) 少量、Vαローム (φ1~5mm) 微量、ローム粒微量、炭化物粒微量混入。しまり無。

- 6HSD02 (A-A')**
- 1層 黒色 10YR2/1 砂質ローム粒多量、炭化物 (φ2~3mm) 2ブロック混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物粒微量混入。
  - 3層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1~2mm) 微量、Vαローム (φ1~2mm) 極少量、ローム粒微量混入。
  - 4層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、炭化物 (φ2mm) 微量混入。
  - 5層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1mm) 極微量、ローム粒微量混入。
  - 6層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~10mm) 少量、Vαローム (φ1~5mm) 微量、ローム粒微量、炭化物 (φ1mm) 微量混入。
  - 7層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1~30mm) 多量、Vαローム (φ1~5mm) 少量、炭化物粒微量混入。
  - 8層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1~12mm) 極少量、Vαローム (φ1~25mm) 中量、ローム粒微量、炭化物粒微量混入。

図12 第6号住居跡外周溝 (6HSD01・02)



S D02の長さは、6 Hの後壁の長さとはほぼ等しい。幅は、6 H S D01が50～75cm、6 H S D02が35～90cmを測る。深さは、6 H S D01が45～50cm、6 H S D02が35～55cmを測る。

**[6 HSD01]** やや弓状に反る外周溝である。底面には、工具痕と考えられる多数のピットが見られる。北東側壁の一部は、1 H S D03によって壊されているが、1 H S D03が壊している範囲は非常に浅いことから、平面形状にはほとんど影響がない。断面形は、若干の歪みがあるもののほぼ半楕円形状を呈する。底面は、両末端がやや浅く、中央が深く掘り込まれている。

**堆積土** 7層に第V層ロームが多量に堆積している。このロームの堆積状況より見て、本外周溝は、人為的に埋め戻されたものと考えられる。また、その上位層は、人為堆積土が土圧により沈んだ後の自然堆積土と考えられる。B-T mは確認されなかった。

**遺物の出土状態** ごく少量の土器が出土したにすぎない。確認面には板状の炭化材が出土している。

**[6 HSD02]** ほぼ直線的な外周溝である。底面には、6 H S D01と類似する、工具痕と考えられる多数のピットが見られる。また、溝の底面には、さらにもう1条の細い溝を住居跡の側に掘り込んでおり、結果として断面形は、階段状になっている。掘り込みは、両末端がやや浅く、中央が深い。

**堆積土** 7層に第V層ロームが多量に堆積している。このロームの堆積状況より見て、本外周溝は、人為的に埋め戻されたものと考えられ、その上位層は、人為堆積土が土圧により沈んだ後の自然堆積土と考えられる。B-T mは確認されなかった。

**遺物の出土状態** ごく少量の土器が出土したにすぎない。

#### 第6号住居跡付属掘立柱建物跡(6 H S B01)(図9)

**概要** 本掘立柱建物跡は6 Hの前壁側に位置する。6 Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、第6号住居跡に付属する一連の建物であると考えられる。なお、本建物跡は、1 H S B01の拡張前の建物跡であり、P 3・7・11は1 H S B01においても機能していたと考えられる。

**重複** (1) 6 H S B01の内部にはSK16とSK17がある。SK16は1 H S B01 Pit 7に切られており、1 H S B01 Pit 7は6 H S B01の一部でもあることからSK16よりも本遺構は新しい。SK17は本建物跡と直接的な重複の関係にないため新旧関係は不明であるが、SK16とSK17は形態、規模等の特徴が類似していることから、SK17も本遺構よりも古いと考えられる。(2) 1 H S B01の内部にロームの円形盛土が見られる。柱穴と直接的な重複関係にないため、新旧関係については不明といわざるを得ないが、本建物跡に伴うものである可能性も否定できない。

**構造** 基本的には8基の柱穴で1間×2間に構成され、ほぼ長方形を呈すものと考えられる。規模は、P 2-4-14-6-9のラインが418cm、P 3-7-11のライン(1 H S B01と同)が415cm、P 2-3のラインが365cmを測る。柱穴の深さは浅いもので16cm前後、深いもので56cm程度である。平面形は、円形、不整円形、楕円形と様々みられる。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡の前壁からは、P 9が132cm、P 11(1 H S B01と同)が155cm離れている。雨降り溝の痕跡等は検出されなかった。主軸方位はN-131°-Eを測る。

**土層** いずれの柱穴も暗褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入しており、1 H S B01の柱穴の覆土と類似している。

**遺物等の出土状態** 全体的に土器類はほとんど出土していないが、P 9からは炭化したトチの実1

点と炭化材破片、土師器破片が出土している。位置的には柱痕と考えられる部分の上位に集中して出土している。平面位置よりみて、これら炭化種子や土器等は柱穴の抜き取り後に埋められていると推定され、何らかの祭祀的な場面（地鎮など）に伴ったものである可能性が高い。なお、住居跡前壁側に並ぶ6HSB01P9、1HSB01P11・12の3基の柱穴のみにトチが出土している点は注意される。

第2号住居跡（2H）（図13～17）

**概要** 本住居跡は、グリッドD-116他の、平坦地に位置する。約2分の1が、調査区域外にあるため、全体の調査はできなかった。外部施設として外周溝1条（2HSD01）と掘立柱建物跡1棟（2HSB01）が付随している（図13）。外周溝の内部には、土坑（粘土採掘坑？：2HSD01SK01～04

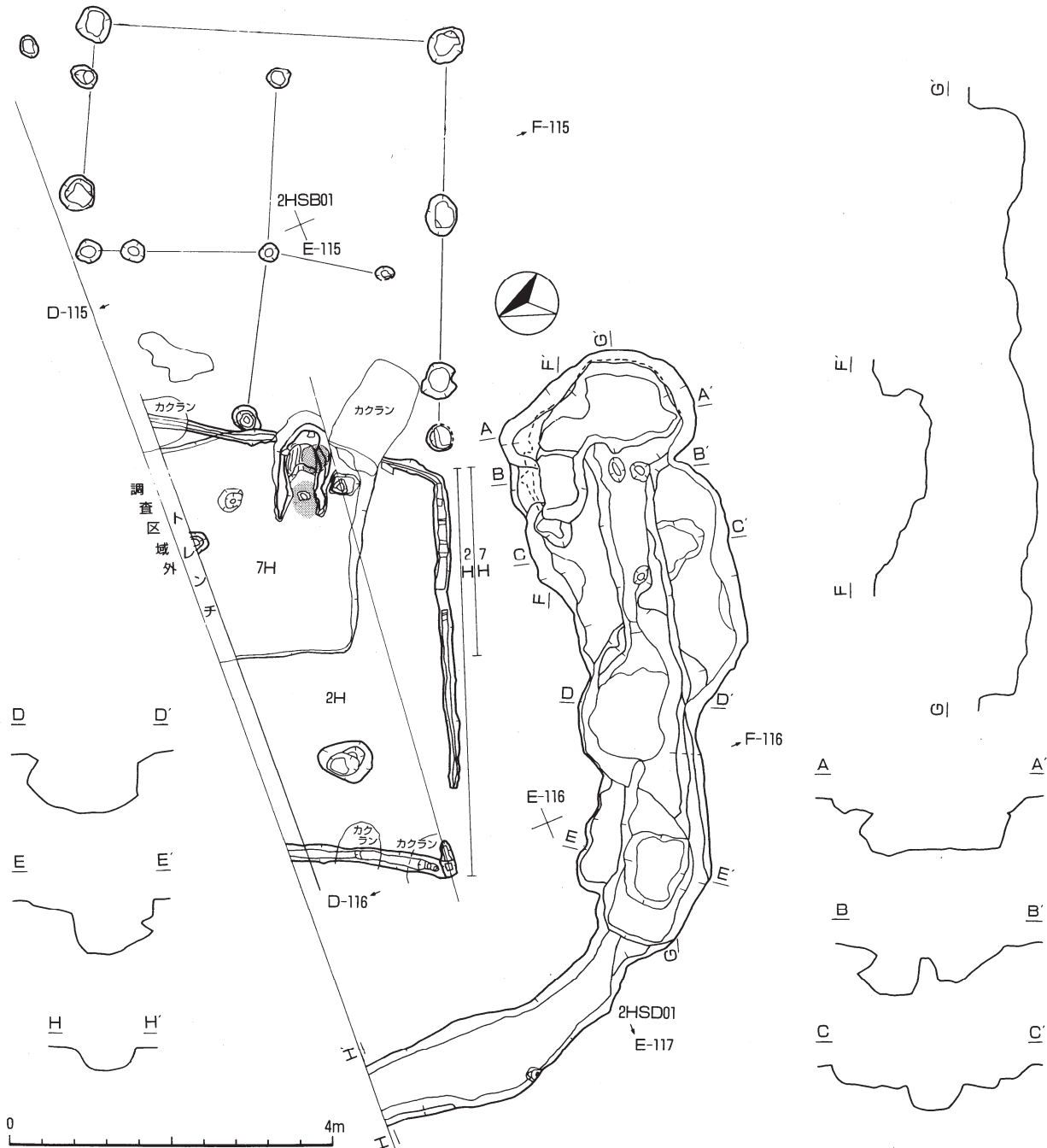


図13 第2号住居跡・第7号住居跡（全体合成）



が掘り込まれている。また本住居跡は、後述する第7号住居跡の左壁、右壁、後壁を拡張したものである<sup>(註1)</sup>(図13)。7Hに付設される外周溝は不明である。

(註1) 7Hの土層断面図も2Hの土層断面図に示してある。

**重複** (1)近くには並列溝状遺構(SDX01)があり、両者の位置関係より、本住居跡とSDX01とは新旧関係にあったと考えられるが、SDX01は7年度の粗掘により既に掘り下がっていたため、新旧関係は不明である。(2)カマドの南側と前壁の調査区際が攪乱を受けている。

**構造** 規模は、右壁で496cmを測り、平面形はやや菱形がかかる方形を呈す<sup>(註2)</sup>。壁は、A-A'のセクションで見ると、ほとんど残存していないことから、平地式の住居である可能性が高い。壁溝はほぼ全周しているものと思われるが、Dコーナーの右壁寄りの一部は途切れていることから、出入口の存在を想起させる。ピットは6区・11/12/15/16区・Dコーナーに3基あるが、支柱穴は不明である。床は、ロームが混入する黒色～黒褐色土を敷きならしてつくられており、下層にある7Hの床面に特に厚く盛られている。7Hカマドも2Hの床構築土の中に埋められている。

(註2) 右壁側の一部は、7年度の粗掘りにより既に掘り下がっており、床も残存していない。

**土層** 8層に分層された。第I層(表土)の直下には、白頭山火山灰を混入する層がみられる。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側に位置する。残存状況は不良であるが、燃焼部側壁～排煙部まで検出された。燃焼部側壁(ソデ)は、褐灰色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるようにして構築されている。燃焼部～排煙部を平面的に見ると、逆U字状に構築されており、ほぼ左右対称の構造である。火床面(8層)と燃焼部側壁内面はよく焼けている。火床面は、床面をそのまま利用している。火床面の中央には倒立させた小型の土師器甕が、支脚として置かれている。カマドを通る軸の方位は、N-117°-Eをさす。

**内部施設** P2は、ロクロピットのような平面形、断面形を呈すものであるが、断定できない。

**遺物等の出土状態** 床面上に土師器の細片が若干出土している。玉は床面の2/6区と8区に出土している。カマドの燃焼部には土師器細片が数点、火床面からは、土玉が1点出土している。Dコーナーの壁溝内柱穴から、須恵器の坏の大型破片が出土している。

## 第7号住居跡(7H) (図14)

**概要** 本住居跡は、グリッドD-115他の、平坦地に位置し、第2号住居跡の拡張以前のものであると考えられる(図13)。約4分の1が、調査区域外にあるため、全体の調査はできなかった。

**重複** なし。(2Hより古い)

**構造** 規模は、283～245×(295)cmを測り、平面形はほぼ方形を呈すが、歪みが大きい。四壁はほとんど残存しておらず、壁溝も巡らされていない。ピットは2基(4区・6区)検出されている。床は、ロームまで掘り下げ、ある程度底面ができあがった後に、凹凸をなくすようにしてロームを混入する土を平坦に敷きならしてつくられている。

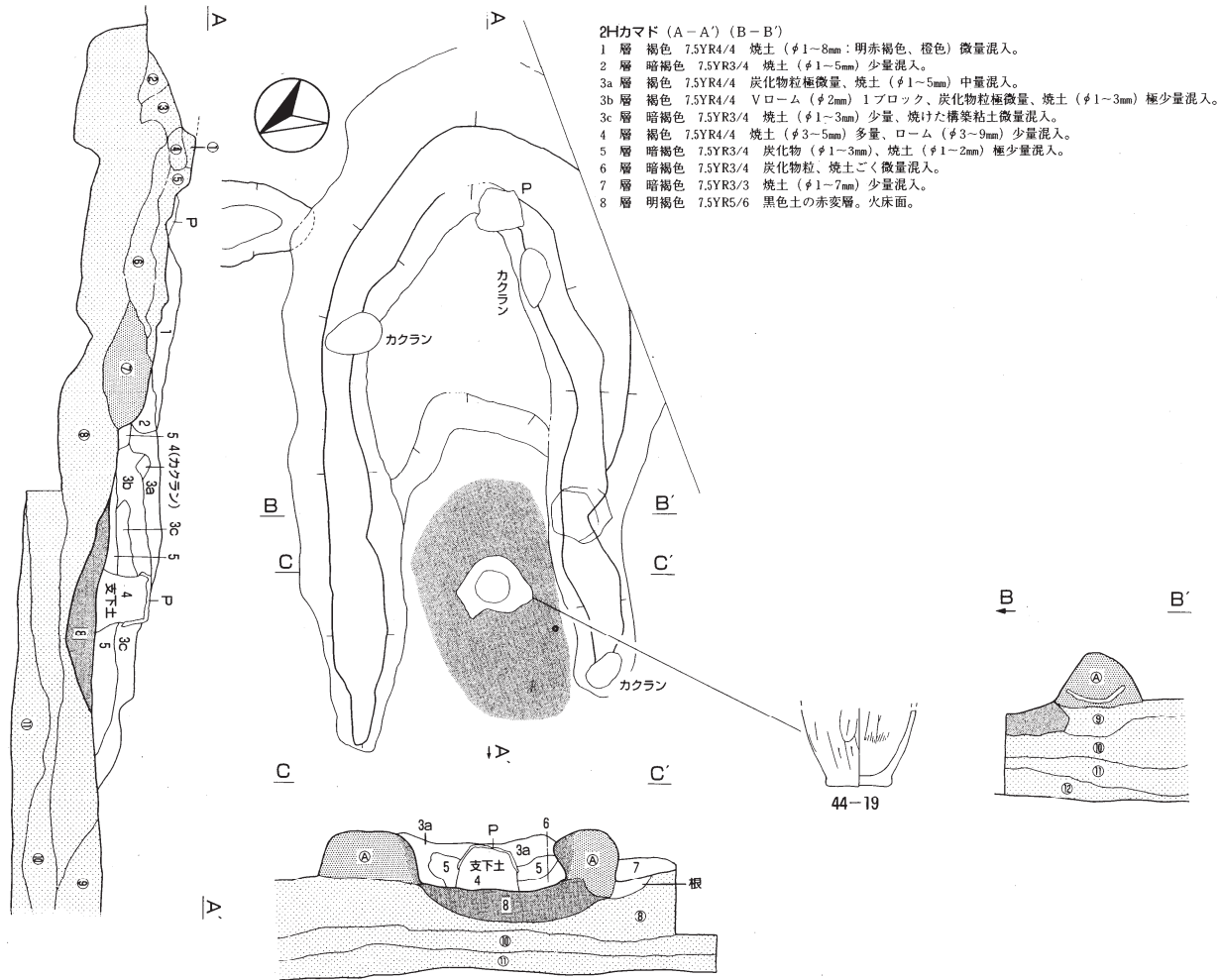
**土層** 覆土は無い。床面以下の土層(床構築土)のみの調査。

**カマド** 2Hカマドの下層に検出されている。作り替えの際に本カマドはあまり壊されることなく、床構築土でパックされている。南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。煙道部は検出されず、残存状況は不良であるが、燃焼部側壁(左ソデのみ)と火床面が2H床構築土中





隠川(4)遺跡



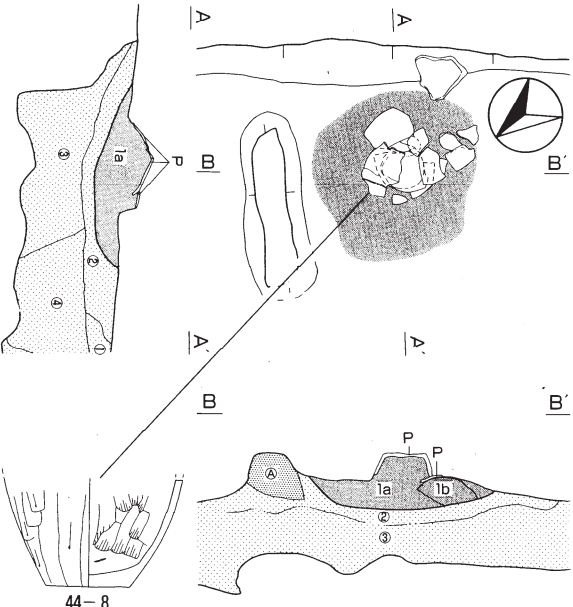
- 2Hカマド (A-A') (B-B')
- 1 層 褐色 7.5YR4/4 焼土 (φ1-8mm: 明赤褐色、橙色) 微量混入。
  - 2 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土 (φ1-5mm) 少量混入。
  - 3a 層 褐色 7.5YR4/4 炭化物粒極微量、焼土 (φ1-5mm) 中量混入。
  - 3b 層 褐色 7.5YR4/4 Vローム (φ2mm) 1ブロック、炭化物粒極微量、焼土 (φ1-3mm) 極少量混入。
  - 3c 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土 (φ1-3mm) 少量、焼けた構築粘土微量混入。
  - 4 層 褐色 7.5YR4/4 焼土 (φ3-5mm) 多量、ローム (φ3-9mm) 少量混入。
  - 5 層 暗褐色 7.5YR3/4 炭化物 (φ1-3mm)、焼土 (φ1-2mm) 極少量混入。
  - 6 層 暗褐色 7.5YR3/4 炭化物粒、焼土ごく微量混入。
  - 7 層 暗褐色 7.5YR3/3 焼土 (φ1-7mm) 少量混入。
  - 8 層 明褐色 7.5YR5/6 黒色土の赤変層。火床面。

2Hカマド構築土 (B-B') (C-C')

- ② 層 褐灰色 7.5YR6/1 焼土 (φ3-20mm) 多量、炭化物粒微量混入。

2Hカマド底面構築土 (A-A') (B-B') (C-C')

- ① 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土主体の層。焼けた構築土 (褐色) 混入。
- ② 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-2mm) 極微量、構築土中量、炭化物粒微量混入。
- ③ 層 黒褐色 7.5YR3/2 ローム粒微量混入。
- ④ 層 黒褐色 7.5YR3/2 炭化物粒極微量、焼土 (φ1-2mm)、構築土 (φ1-3mm) 微量混入。
- ⑤ 層 暗褐色 7.5YR3/4 炭化物粒極微量、焼土粒微量混入。
- ⑥ 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土 (にぶい赤褐色~赤褐色: φ1-7mm) 極少量、Vローム (φ1-5mm) 微量混入。
- ⑦ 層 にぶい橙色 7.5YR7/4 粘土。
- ⑧ 層 黒褐色 10YR3/2 焼土 (φ80mm) 混入。
- ⑨ 層 黒褐色 10YR3/1 ロームブロック少量混入。
- ⑩ 層 灰黄褐色 10YR4/2 白色粘土、焼土多量混入。
- ⑪ 層 黒褐色 10YR3/1 混入物特に無し。



- 7Hカマド (A-A') (B-B')
- 1a 層 褐色 7.5YR4/6 焼土 (φ1-10mm) 微量混入。
  - 1b 層 黄褐色 10YR5/6 炭化物 (φ1mm) 極微量混入。

- 7Hカマド構築土 (A-A')
- ④ 層 褐灰色 7.5YR6/1 黒色土少量混入。

7Hカマド底面構築土 (A-A') (B-B')

- ① 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土 (φ2-20mm) 少量、ローム (φ7mm)、炭化物 (φ1mm) 極微量混入。
- ② 層 黒褐色 10YR2/2 焼土 (φ3-7mm)、ローム (φ1-10mm) 微量混入。
- ③ 層 黒褐色 10YR2/2 ローム (φ10-100mm) 多量、焼土 (φ10mm) 極微量混入。
- ④ 層 暗褐色 10YR3/3 ローム (φ3-50mm) 多量、焼土 (φ8mm) 極微量混入。

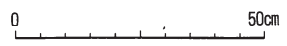


図15 第2号住居跡カマド・第7号住居跡カマド

に検出された。ソデは、褐灰色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるように構築されている。火床面(1a層)は焼けているもののほとんど硬化していない。燃焼部側壁内面もあまり焼けていない。火床面の中央には支脚として、倒立させた土師器甕が置かれている。カマドを通る軸の方位は、N-118°-Eをさす。

**内部施設** P1は、ロクロピットのような平面形、断面形を呈すものであるが、断定できない。

**遺物等の出土状態** 8区の床面上に土師器の埴1個体が破片で出土している。

### 出土遺物

#### 第2号住居跡付属外周溝(2HSD01)(図13・16)

**概要** 約2分の1が調査区域外に伸びているため、全体の形状は不明であるが、1条の溝跡で構成されていると考えられる。住居跡との位置関係を検出範囲内で見ると、2Hの右壁・後壁をJ字状に囲むように位置している。

**重複** 直接的な重複ではないが、SK18が2HSD01と2Hの間に位置している(図VI参照)。

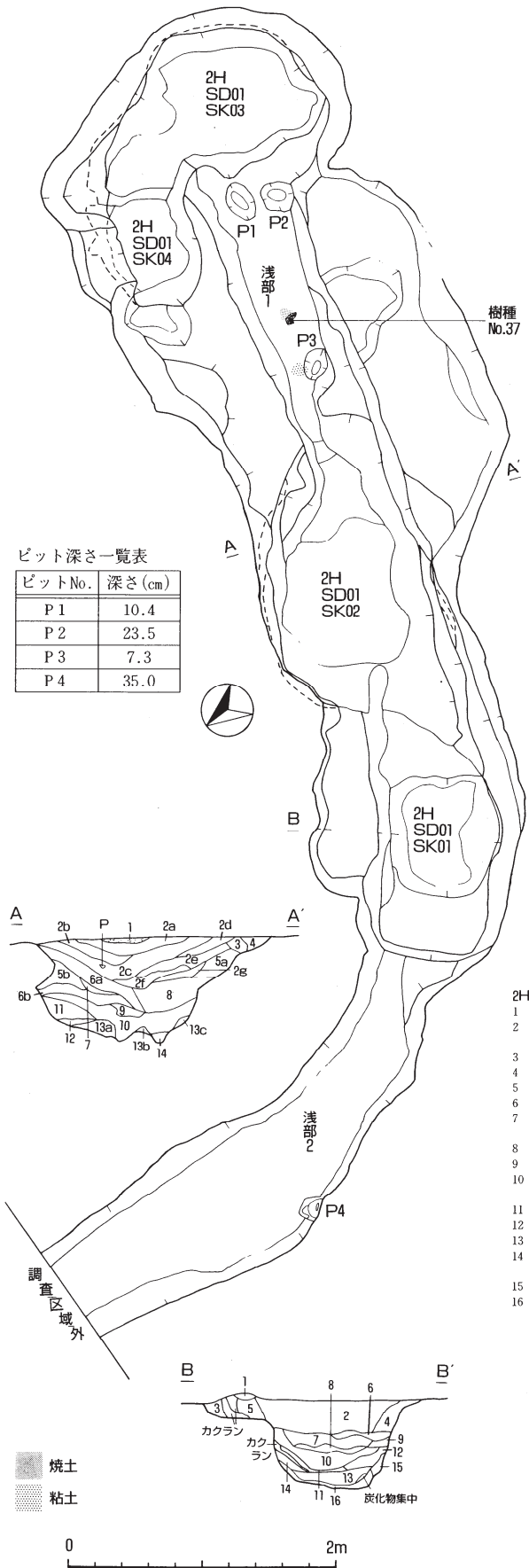
**構造** Dコーナー付近から北側(後壁側)は、深さ・幅ともほぼ均一な掘り込みである(2HSD01浅部2)のに対し、右壁側は複雑な形状を呈している。東端には、不整隅丸三角形の土坑状の部分(2HSD01SK03)があり、そのすぐ北西には小型の土坑状の部分(2HSD01SK04)がある。また、ほぼ中央部には不整長方形の土坑状の部分(2HSD01SK02)が、そして西端には、同じく不整長方形を呈す2HSD01SK01がある。これら土坑状の窪みが所々に掘られているため、右壁側の幅・深さは部位によりばらつきが激しくなっている。2HSD01SK01と2HSD01SK03を結ぶラインには、2HSD01浅部2と深さ・幅とも類似する2HSD01浅部1が見られる。これは、2HSD01SK01と2HSD01SK02によって一部壊されている。2HSD01SK02と2HSD01SK03を結ぶラインにある2HSD01浅部1の南北壁の外には、浅い不整な張り出し状の掘り込みがあり、それは2HSD01SK01の北壁側にも見られる。2HSD01浅部2は北に向かって伸びているものの、調査区域外の状況は不明である。2Hの壁から外周溝の内側壁までの間隔は、右壁側が80~168cm、後壁側が252cmを測り、右壁側が後壁側に比較してやや狭い。ただし、右壁から浅部1の内壁までの間隔は204cmを測る。2HSD01全体の長さは、直線長(検出長)で10m5cmを測る。幅は、右壁側が125~235cm、後壁側(浅部2)が55~110cmを測る。浅部1の深さは、56cm前後、浅部2の深さは24cm前後を測る。

[2HSD01SK01] 大型の長方形土坑の底面に、小型の長方形土坑を掘り込むような構造を呈している。壁はやや外反しながら直線的に立ち上がっている。北側には張り出し状の浅い部分が接している。この土坑状の部分は粘土採掘の跡である可能性が高い。深さは、65cm前後を測る。

[2HSD01SK02] 上端の平面形は不整長方形を呈す。底面、壁面とも不整で、北壁の下位は横方向に掘り込まれている。この土坑状の部分も粘土採掘の跡である可能性が高い。深さは、55~80cmを測る。

[2HSD01SK03] 上端の平面形は不整隅丸三角形を呈す。底面は平坦であるものの、平面形は非常に複雑であり、歪んだひょうたん形を呈している。数回にわたって掘り込んだ結果、このような形状になったものと考えられる。図13のA-A'断面図で分かるとおり、壁の立ち上がりも複雑で、内傾しているところも目立つ。平面形、断面形の不規則な掘り込み方より見て、本遺構も粘土採掘坑





- 2HSD01 (A-A')
- 1 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム粒極微量、B-Tm、多量混入。
  - 2a 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-2mm)、炭化物 (φ1mm) 微量混入。
  - 2b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-10mm)、炭化物 (φ1-3mm) 極少量混入。
  - 2c 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-5mm) 極少量、Vlaローム (φ1-2mm)、炭化物 (φ1-2mm) 微量混入。
  - 2d 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム (φ1-2mm) 微量、炭化物粒極微量混入。
  - 2e 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-8mm) 極少量、Vlaローム (φ1-5mm)、炭化物粒微量混入。
  - 2f 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-7mm) 微量混入。
  - 2g 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-10mm) 炭化物粒微量混入。
  - 3 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量、炭化物 (φ1-2mm) 極微量混入。
  - 4 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-3mm) 極少量、炭化物粒極微量混入。
  - 5a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物 (φ1-2mm) 微量混入。
  - 5b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-7mm) 極少量、Vlaローム (φ1-2mm)、炭化物 (φ1-2mm) 微量混入。
  - 6a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-25mm) 少量、Vlaローム (φ1-2mm)、炭化物 (φ1-3mm) 微量混入。
  - 6b 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-12mm) 少量、炭化物粒微量混入。
  - 7 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-2mm)、炭化物粒極微量混入。
  - 8 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-25mm) 多量、黒褐色土 (φ2-10mm) 極少量、炭化物 (φ1-3mm) 微量混入。
  - 9 層 灰黄褐色 10YR4/2 Vローム (φ1-10mm) 極少量、炭化物 (φ1-2mm) 微量混入。しまり無。
  - 10 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-25mm) 少量、Vlaローム (φ1-35mm)、炭化物 (φ1-5mm) 極少量混入。
  - 11 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-2mm) 微量、Vlaローム (φ1-40mm) 中量、炭化物 (φ1-3mm)、粘土極少量混入。
  - 12 層 明黄褐色 10YR6/6 Vlaローム主体の層。黒褐色土微量混入。
  - 13a 層 褐色 10YR4/3 Vローム (φ1-15mm) 極少量、Vlaローム (φ1-20mm) 少量、炭化物粒、粘土、  
にぶい黄褐色土微量混入。
  - 13b 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-2mm) 微量、粘土質ローム少量混入。
  - 13c 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-15mm) 多量、Vlaローム (φ1-10mm) 極少量混入。
  - 14 層 明黄褐色 10YR6/8 Vローム主体の層。黒褐色土微量混入。

樹種  
No.37

2HSD01SK01 (B-B')

- 1 層 黄褐色 10YR5/8 Vローム (φ1-3mm) 微量、Vlaローム (φ1-5mm) 多量、黒褐色土微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-25mm) 中量、Vlaローム (φ1-5mm)、炭化物 (φ1-2mm) 微量混入。
- 3 層 褐色 10YR4/4 ローム層。
- 4 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1-55mm) 多量混入。
- 5 層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1-20mm) 中量混入。
- 6 層 黒色 10YR1.7/1 Vローム (φ1-10mm) 極少量、炭化物粒極微量混入。
- 7 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-25mm) 中量、Vlaローム (φ1-8mm) 少量、炭化物 (φ1-2mm) 極微量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-2mm) 微量混入。
- 9 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-2mm) 炭化物粒極微量混入。
- 10 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-20mm) 極少量、Vlaローム (φ1-42mm) 多量、炭化物粒 (上方) 極微量混入。
- 11 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-12mm) 極少量混入。しまり無。
- 12 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-2mm) 少量、炭化物粒微量混入。
- 13 層 黒色 10YR2/1 Vローム (φ1-5mm)、炭化物粒 (南側下部) 極少量混入。
- 14 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-8mm)、Vlaローム (φ1-5mm) 少量、炭化物 (φ1-3mm) 微量混入。
- 15 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-10mm) 少量混入。
- 16 層 にぶい黄褐色 10YR4/2 Vローム (φ1-5mm)、Vlaローム (φ1-3mm) 少量混入。

図16 第2号住居跡付属外周溝 (2HSD01)

として利用された可能性がある。深さは、64～72cm前後を測る。

〔2 H S D01 S K04〕 2 H S D01 S K03に接している。上端の平面形は長形状を呈し、底面は平坦である。壁の立ち上がりは一定せず、北側は内傾している。断面形の不規則な掘り込みより見て、本遺構も粘土採掘坑として利用された可能性がある。

〔2 H S D01浅部1〕 浅い掘り込みで、壁の立ち上がりは非常に緩やかに外反する。底面には凹凸がみられ、くぼみ状のピットが3基(Pit 1・2・3)ある。2 H S D01 S K01と2 H S D01 S K02によって一部壊されているが、全体的に平面形、断面形の両面から見ても直線的な形状を呈している。

〔2 H S D01浅部2〕 浅い掘り込みで、壁の立ち上がりは非常に緩やかに外反する。底面には凹凸がみられ、底面壁際にはくぼみ状のピット(P 4)が1基ある。全体的に平面形、断面形の両面から見ても整った形状を呈している。

**堆積土** 部位によって堆積の状況に差異が見られる。図16A-A'土層断面図に示されているように、上位には薄い層が幾層にもわたって堆積している。土層を大きく上下層に分けると、下位層には黄褐色系の土壌が目立ち、上位層には黒褐色系の土壌が目立つ。上位層のほとんどは自然堆積土と考えられ、2 H S D01 S K02の確認面の層(A-A'1層)にはB-T<sub>m</sub>が堆積している。

**遺物の出土状態** 浅部1のP i t 1とP i t 3を結ぶラインの覆土からは少量の土師器、須恵器、粘土塊、炭化木が集中して出土しており、その部分以外にはあまり出土していない。底面付近にはほとんど出土せず、専ら覆土の中位以上の層に多く分布する。分布状況より見て、本遺構の廃絶後に、廃棄された遺物がほとんどのよう感じられる。

**その他** 堆積土より、本遺構の構築時期はB-T<sub>m</sub>降下以前と推定される。

## 第2号住居跡附属掘立柱建物跡(2 H S B01)(図17)

**概要** 本掘立柱建物跡は2 Hの前壁側に位置する。2 Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、2 Hに付属する一連の建物(2 H S B01)であると考えられる。一部調査区域外に伸びているため、全体の状況は不明である。

**重複** 2 H S B01の内部には100×43cm程の不整な硬化面があるが、新旧関係は不明である。

**構造** 一部調査区域外に伸びているため、全体の状況は不明であるが、検出範囲内では7基の柱穴で1間×2間に構成されており、長方形を呈すものと考えられる。規模は、P 1-P 10-P 4のラインが(215)cm、P 3-P 5-P 8-P 9のラインが495cm、P 1-P 3のラインが440cm、P 13-P 9のラインが(240)cmを測る(( )内は検出長)。P 1-P 3のライン上に柱穴は検出されなかった。柱穴の深さは、浅いもので10cm前後、深いもので40cm程度である。平面形は、円形、不整円形等がみられる。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。本建物跡の内部にはP 2、P 6、P 7、P 11、P 12、P 13のやや小型の柱穴があり、ほぼ十字に配置されている。これらは本建物跡を間仕切りするかのようにも見えるが、補助的な柱穴と考えたい。住居跡の前壁からP 9は24cm離れており、P 13は壁溝に接している。雨降り溝の痕跡等は検出されなかった。主軸方位はN-114°-Eを測る。

**土層** いずれの柱穴も褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

**遺物等の出土状態** 遺物は出土していない。



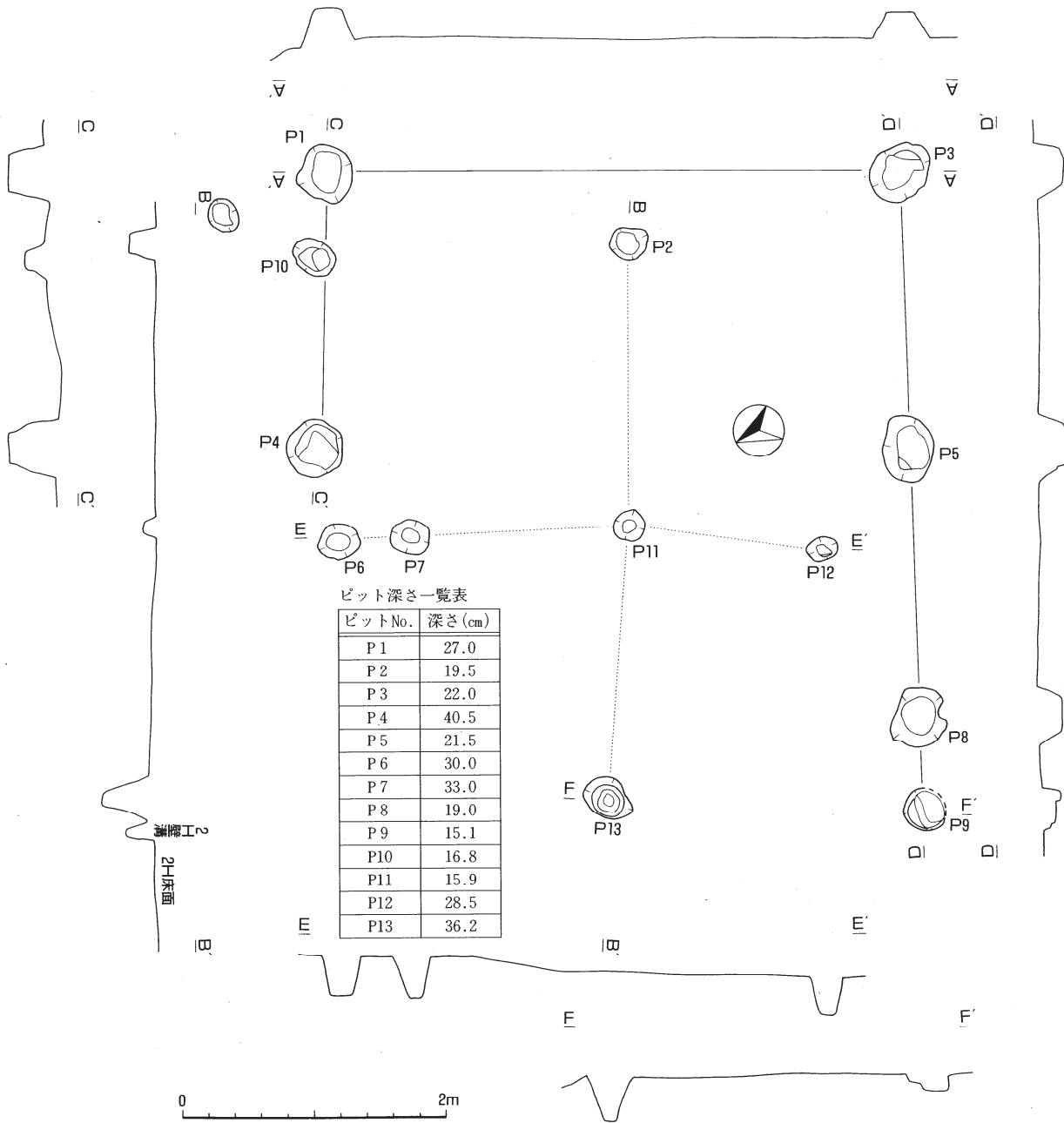


図17 第2号住居跡附属掘立柱建物跡

第3号住居跡 (3H) (図18~23)

**概要** 本住居跡は、グリッドF・G-118他の、平坦地に位置する。内部施設としてロクロピットが1基 (3HRP01) と、3基のピット (P01・02・03)、外部施設として外延溝1条 (3HSD01) と掘立柱建物跡1棟 (3HSB01) が付随している (図18)。

**重複** Bコーナーと13/14区壁溝付近が攪乱を受けている。

**構造** 規模は、中央部で400~415×410~420cmを測り、平面形はほぼ方形を呈す。四壁は良好に残存していて、30~35cmを測る。壁溝はカマド部分を除いて全周している。ピットは12基 (P1~P12) あるものの、柱穴として認めうるのは壁構内にあるもののみである。床は、先ずロームを大まかに掘

り込んだ後に、底面の凹凸をなくすようにして、ロームを混入する土を平坦に敷きならすようにしてつくられている。

**土層** 28層に分層された。黒褐色土を基調とする。図19・B-B'の土層図を見ると、レンズ状に堆積していることが分かる。ほとんどが自然堆積であると推定される。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。燃焼部から排煙部まで極めて良好に検出されている。煙道部は住居外に109cmほど伸びている。燃焼部～排煙部の形状を平面的に見ると、構築土としての浅黄色の粘土を火鉢形に固定させる構造を採っている。構築の過程は、まず溝状に掘り込み、次に粘土をその掘り込みの内側に盛り、さらに裏込め土を入れて安定させるという3段階の工程が土層断面図よりうかがえる。排煙部の底面にはピットはみられる。燃焼部側壁(ソデ)は、浅黄色の粘土を素材としており、床に貼り付けるように構築されている。この粘土は、煙道部～排煙部までと同じものである。火床面(①層)は床をそのまま利用していて、よく焼けているが、軟質である。火床面の中央には倒立させた土師器小甕が支脚として置かれている。3・7・10・12～14・19・21～31・33～36層は構築土の崩落したものと考えられる。燃焼部側壁内面もよく焼けている。右ソデの端部には、土師器甕が倒立の状態に埋め込まれている。土層を見ると、人為的に埋められた状況は呈していない。自然崩落と流入による堆積であろうと考えられる。カマドを通る軸の方位は、N-E<sup>119</sup> 134°-Eをさす。

**内部施設** ロクロピット(3HRP01)が6区に1基検出された。床面において確認したものである。径は44×52cmで、上端の平面形は不整楕円形を呈し、断面形は三角形である。土層を見る

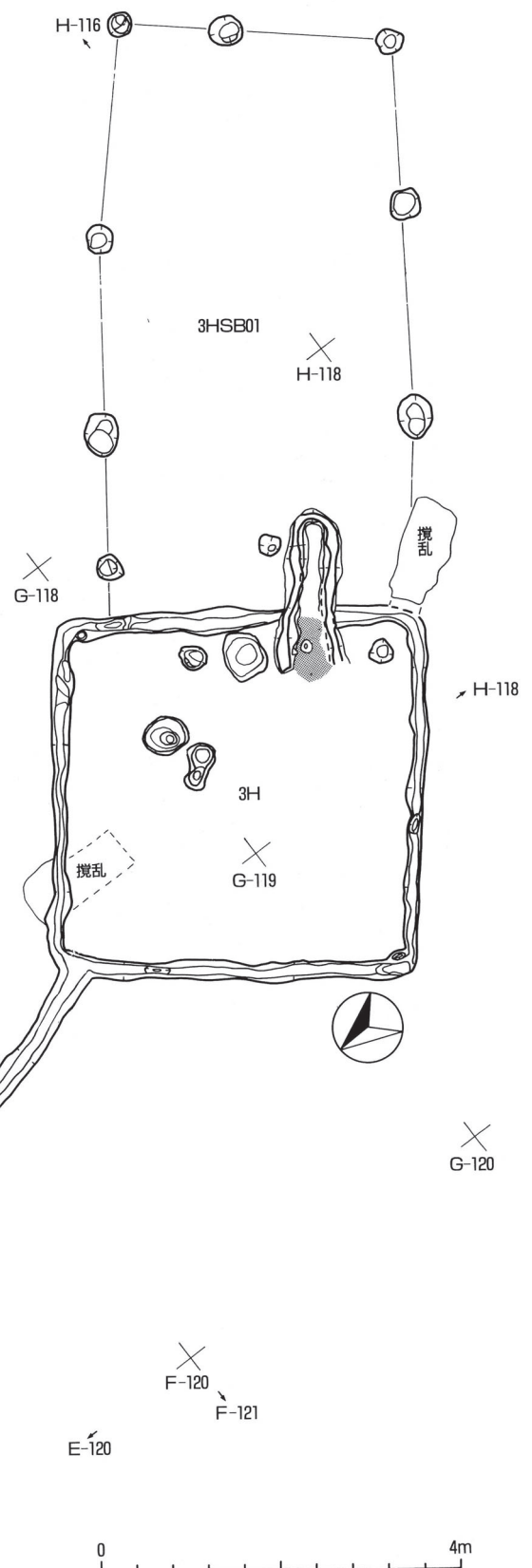
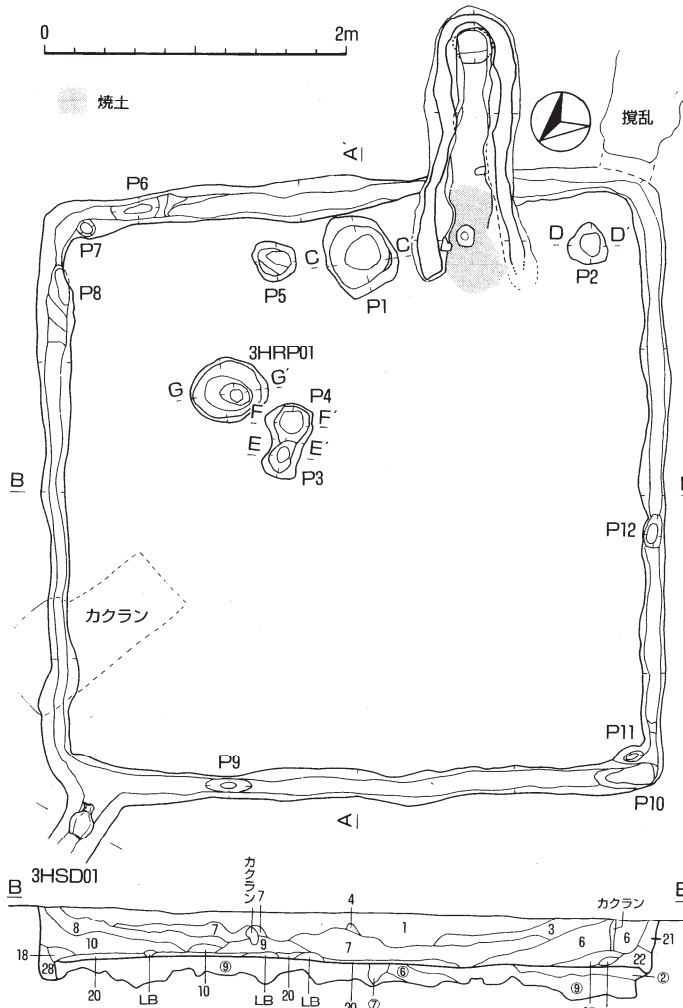


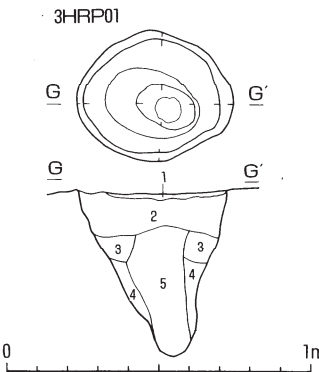
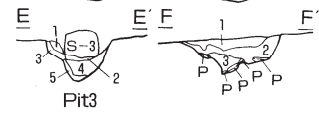
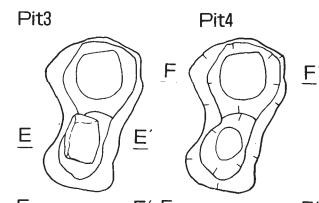
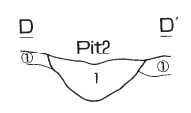
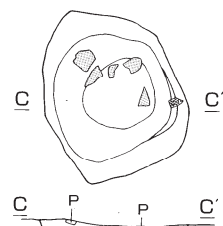
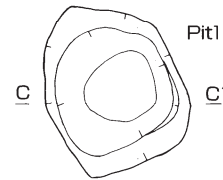
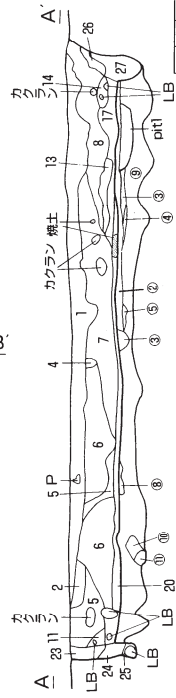
図18 第3号住居跡(全体)





ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)	ピットNo.	深さ(cm)
P1	9.5	P7	24.4
P2	17.7	P8	8.8
P3	14.0	P9	10.3
P4	13.0	P10	13.5
P5	17.8	P11	20.0
P6	7.9	P12	9.2



- 3H (A-A') (B-B')
- 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-10mm) 極少量、炭化物 (φ1-5mm)、焼土 (φ1-5mm) 微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-12mm) 少量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物 (φ2-3mm) 微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-35mm) 多量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-3mm) 極微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-30mm) 少量、炭化物 (φ1-5mm) 微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-15mm) 少量、炭化物 (φ1-5mm)、焼土 (φ2-15mm) 微量混入。
  - 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-10mm) 中量、炭化物、焼土粒微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-8mm) 少量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物 (φ1-2mm)、焼土粒微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-20mm) 微量混入。しまり無。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム粒微量混入。
  - 層 灰黄褐色 10YR4/3 Vローム (φ1-3mm) 微量、Vαローム (φ1-25mm) 多量混入。
  - 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物 (φ1-2mm) 微量混入。
  - 層 灰黄褐色 10YR6/4 Vローム (φ1-20mm) 多量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-5mm)、炭化物 (φ1-2mm) 極少量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-3mm) 微量混入。しまり無。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム粒微量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物 (φ1-3mm) 微量、焼土 (φ1-2mm) 極少量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム粒微量、炭化物 (φ2-3mm) 2ブロック混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物 (φ2mm) 2ブロック混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-2mm) 微量混入。しまり無。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1mm) 微量混入。しまり無。
  - 層 黄褐色 10YR5/6 中央にローム (φ50mm) 混入。黒褐色土と黄褐色ロームが混合。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム粒少量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1-7mm) 極少量、焼土 (φ1-3mm) 混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム粒微量混入。

- 3H床構築土 (A-A') (B-B')
- 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-5mm) 少量混入。
  - 層 褐色 10YR4/4 Vローム粒中量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム粒微量混入。
  - 層 黄褐色 10YR5/6 Vローム (φ1-5mm) 中量混入。
  - 層 灰黄褐色 10YR5/4 Vローム (φ1-180mm) 中量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-7mm) 中量混入。
  - 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム (φ1-7mm) 中量混入。
  - 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ1-15mm) 多量混入。
  - 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム (φ1-10mm) 中量混入。しまり無。
  - 層 灰黄褐色 10YR4/2 Vローム粒中量混入。しまり無。

図19 第3号住居跡

と、5層は、3層と4層にはさまれるようにして柱状を呈している。3層と4層が軸木固定用の充填土、5層が軸木痕に相当すると考えた場合、断面形は、逆凸形を呈すものと考えられる。深さは、54cmを測る。

**遺物等の出土状態** 全体的に土師器・須恵器の細片が出土している。ほとんどが覆土中のものであり、自然流入したものが多いと考えられる。カマドの焚口には土師器片が弧状に出土している。

**3HPit1 (C-C')**

1 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-7mm)極少量、炭化物(φ1-3mm)微量、焼土(明赤褐色-明褐色:φ1-18mm)極少量、粘土微量混入。

**3HPit2 (D-D')**

1 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-5mm)少量、焼土(φ1-3mm)、炭化物(φ1-2mm)微量混入。  
① 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-6mm)中量、炭化物粒(φ1-2mm)微量混入。床構築土。

**3HPit3 (E-E')**

1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量、焼土粒極少量、炭化物粒微量混入。  
2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒極微量、焼土(φ1-2mm)微量混入。  
3 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量、焼土粒極微量混入。  
4 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒、炭化物(φ1-2mm)微量、焼土(φ1-7mm)中量、粘土微量混入。  
5 層 暗褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-2mm)微量、炭化物粒極微量混入。

**3HPit4 (F-F')**

1 層 褐色 10YR4/6 ローム粒、炭化物(φ1-2mm)微量、焼土(φ1-3mm)少量混入。  
2 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-30mm)微量、焼土粒、炭化物粒極微量混入。  
3 層 におい黄褐色 10YR4/3 炭化物粒極微量、炭化物(φ5mm)1ブロック、焼土(φ3mm)極微量、粘土微量混入。

**3HPit01 (G-G')**

1 層 灰黄褐色 10YR4/2 ローム粒、炭化物粒、粘土微量混入。  
2 層 褐色 10YR4/4 粘土主体の層。におい黄褐色土、黒褐色土、L.B.微量、炭化物極微量、黒褐色土(φ20mm)1ブロック混入。粘性有。  
3 層 明褐色 10YR3/3 Vローム主体、Vローム、粘土極少量、炭化物粒極微量混入。しまり無。  
4 層 黄褐色 10YR5/6 Vローム主体、Vローム(φ1-5mm)、黒褐色土、におい黄褐色土の3種の混合土が微量混入。  
5 層 明黄褐色 10YR6/6 Vローム主体。Vロームと黒褐色土の混合土。極少量の粘土がブロック状に混入。黒褐色土のブロック(φ5-6mm)微量混入。しまり無。

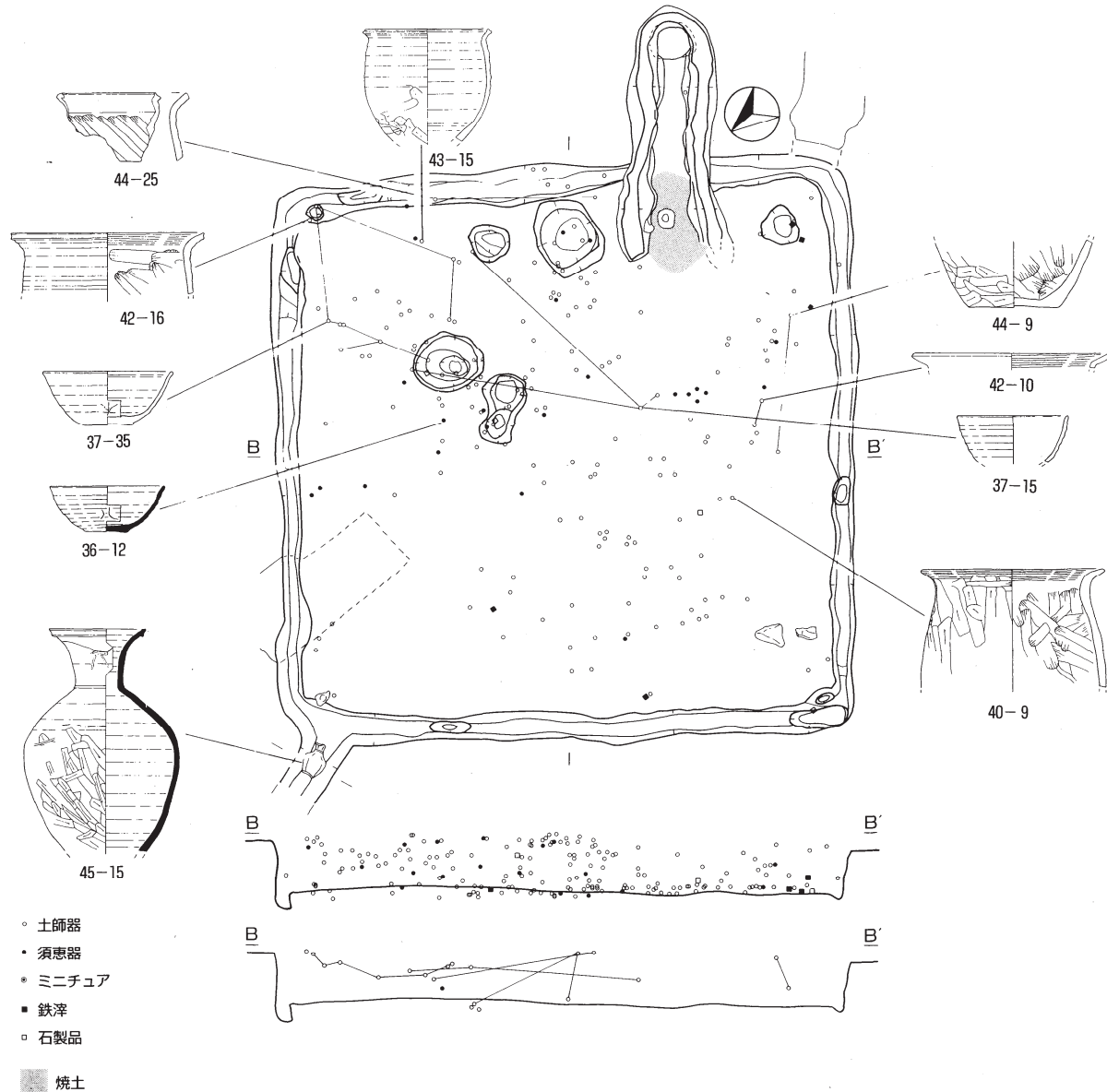


図20 第3号住居跡遺物出土状態





3Hカマド(A-A'-E-E')

- 1層 黒褐色 10YR3/3 構築粘土主体。焼土(φ2-5mm)極少量混入。
- 2層 ぶい黄褐色 10YR4/3 構築粘土(φ1-10mm)少量、焼土粒極微量混入。
- 3層 ぶい黄褐色 10YR4/3 構築粘土主体。Vローム(φ2-3mm)、炭化物粒、焼土粒極微量混入。
- 4層 暗褐色 10YR3/3 構築粘土、ローム粒微量、炭化物粒、焼土粒、極微量混入。
- 5層 褐色 10YR4/4 構築粘土、Vローム(φ1-5mm)微量、焼土(φ5mm)1ヶ混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/2 構築粘土(φ1-10mm)少量、焼土(φ1-2mm)微量混入。
- 7層 褐色 10YR4/6 焼けた構築粘土主体。軽石(φ1-2mm)極微量、焼土(φ1-2mm)微量混入。
- 8層 褐色 10YR4/6 構築粘土主体。焼土(φ1-15mm)少量混入。
- 9層 ぶい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1-3mm)微量、炭化物粒、焼土粒、極微量混入。
- 10層 褐色 7.5YR4/4 構築粘土主体。中央が焼けかけ、西側に黒褐色土が粒状に混入。焼土(φ1-2mm)微量混入。
- 11層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒、炭化物粒、焼土粒極微量混入。
- 12層 褐色 10YR4/4 構築粘土主体。焼土粒極少量微量混入。
- 13層 褐色 10YR4/4 構築粘土主体。Vローム(φ1-2mm)、炭化物粒、焼土粒微量混入。
- 14層 褐色 10YR4/4 構築粘土主体。焼けた粘土(φ20mm)、ローム粒微量混入。
- 15層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-2mm)少量、炭化物粒微量、焼土粒極微量(φ1mm)混入。
- 16層 暗褐色 10YR3/4 構築粘土(φ1-5mm)少量、炭化物粒極微量、焼土(φ1-7mm)少量混入。
- 17層 ぶい黄褐色 10YR5/4 構築粘土。
- 18層 暗褐色 10YR3/4 構築粘土(φ1-5mm)、Vローム(φ1-7mm)極少量混入。
- 19層 褐色 10YR4/6 構築粘土主体。焼土粒極微量混入。
- 20層 褐色 10YR4/6 焼けかけた構築粘土。
- 21層 褐色 10YR4/4 構築粘土。Vローム(φ1-3mm)少量、焼土(φ1-2mm)微量混入。
- 22層 暗褐色 10YR3/4 構築粘土(中央から東側が焼けかけている)。
- 23層 暗褐色 10YR3/4 構築粘土。
- 24層 明黄褐色 10YR6/6 構築粘土。
- 25層 黄褐色 10YR5/6 構築粘土。
- 26層 灰黄褐色 10YR4/2 構築粘土。
- 27層 褐色 10YR4/6 構築粘土。
- 28層 褐色 10YR4/4 構築粘土。ローム(φ1-2mm)極微量混入。
- 29層 黄褐色 10YR5/6 構築粘土主体。黒褐色土微量混入。
- 30層 褐色 10YR4/4 焼けた構築粘土主体。ローム粒極微量、黒褐色土微量混入。
- 31層 褐色 10YR4/6 構築粘土、ローム粒、炭化物粒微量混入。
- 32層 暗褐色 10YR3/4 焼土主体。焼けたローム(φ1-2mm)少量、炭化物(φ1-5mm)極少量混入。
- 33層 暗褐色 10YR3/3 構築粘土主体。Vローム(φ1mm)微量混入。
- 34層 褐色 10YR4/4 構築粘土(下部被熱)。
- 35層 褐色 10YR4/4 構築粘土(被熱)。
- 36層 褐色 10YR4/4 構築粘土。
- 37層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒、焼土(φ1-5mm)微量、炭化物(φ1-3mm)極少量混入。

- 38層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-2mm)、炭化物粒微量、焼土(φ1-15mm)中量混入。
- 39層 褐色 7.5YR4/6 焼土主体。炭化物粒(中央集中)少量混入。しまり無。
- 40層 暗褐色 10YR3/4 炭化物粒微量、焼土(φ1-2mm)微量混入。しまり無。
- 41層 褐色 10YR4/6 焼土粒少量、炭化物粒微量混入。
- 41'層 褐色 10YR4/6 焼土粒少量、炭化物粒微量混入。
- 42層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ1-20mm)少量、炭化物粒少量混入。
- 43層 極暗赤褐色 2.5YR2/2 ローム粒、炭化物粒微量、焼土粒少量混入。しまり無。
- 44層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-20mm)少量、炭化物粒(φ1-3mm)微量混入。
- 45層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒少量混入。しまり無。
- 46層 黒色 10YR1/7.1 Vローム(φ1-2mm)中量混入。しまり無。
- 47層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量混入。しまり無。

3Hカマド底面構築土(A-A'-E-E')

- ①層 極赤褐色 2.5YR3/6 炭化物粒少量混入。火床面
- ②層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)中量混入。
- ③層 黒褐色 2.5YR3/2 Vローム(φ1-3mm)少量、炭化物粒、粘土粒少量混入。しまり無。
- ④層 オリーブ褐色 2.5YR4/4 Vローム(φ1-3mm)少量混入。しまり無。
- ⑤層 黒褐色 2.5YR3/2 炭化物粒(φ1-2mm)、焼土(φ1-2mm)少量、Vローム(φ1-3mm)極微量混入。
- ⑥層 黒褐色 10YR3/3 炭化物粒(φ1-2mm)、焼土(φ1-3mm)少量、Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- ⑦層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)少量混入。
- ⑧層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-5mm)、炭化物(φ1-4mm)中量混入。焼土(φ1-6mm)少量混入。
- ⑨層 暗褐色 10YR3/4 焼土(φ1-10mm)全体混入。
- ⑩層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量混入。
- ⑪層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-15mm)中量混入。しまり無。
- ⑫層 極暗褐色 7.5YR2/3 ローム粒中量混入。しまり無。
- ⑬層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒中量混入。しまり無。
- ⑭層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1-5mm)少量混入。
- ⑮層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-5mm)中量混入。
- ⑯層 黄灰色 2.5YR4/1 Vローム(φ1-2mm)少量混入。しまり無。
- ⑰層 灰色 5YR4/1 ローム粒極微量混入。
- ⑱層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)少量混入。

3Hカマド構築土(A-A'-E-E')

- ④層 浅黄色 2.5YR7/3 粘土
- ⑤層 褐色 10YR4/4 ④層(φ1-5mm)、焼土(φ1-3mm)少量、炭化物粒極少量混入。

第3号住居跡付属掘立柱建物跡(3H S B01)(図22)

**概要** 本掘立柱建物跡は3Hの前壁側に位置する。3Hと本建物跡の軸方向の一致と両者の近接した位置関係から、第3号住居跡に付属する一連の建物(3H S B01)であると考えられる。

**重複** 住居跡付近の部分が攪乱を受けている。

**構造** 9基の柱穴で2間×3間に構成されており、長方形を呈す。規模は、P1-P4-P6-P8のラインが610cm、P3-P5-P7のラインが(425)cm、P1-P2-P3のラインが305cm、を測る(( )内は検出長)。柱穴の深さは浅いもので12.7cm、深いもので40cm程度である。平面形は、円形、不整円形、楕円形、隅丸方形等がみられる。ほとんどの柱穴の断面形は箱形～逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡のカマドの付近にあるP9は、補助的な柱穴と考えられる。住居跡の前壁からは、P8が44cm、P9が64cm離れている。雨落ち溝の痕跡等は検出されなかった。主軸方位はN-125~130°-Eを測る。

**土層** いずれの柱穴も黒褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

**遺物等の出土状態** 遺物は出土していない。

第3号住居跡付属外延溝(3H S D01)(図18・23)

**概要** 調査区域外に伸びているため、全体の形状は不明であるが、3HのCコーナーから伸びるものである。

**重複** SK13と重複し、本溝跡が古い。攪乱も受けている。

**構造** 3HのCコーナーから伸びているが、厳密には、3Hの後壁の東端から伸びているものであり、コーナーの屈曲部に接続しているものではない。深さは3Hに接続するあたり(C-C')で38cm、ほぼ中間(B-B')で18cm、調査区際(A-A')で20cmを測り、深浅がみられるが、底面の



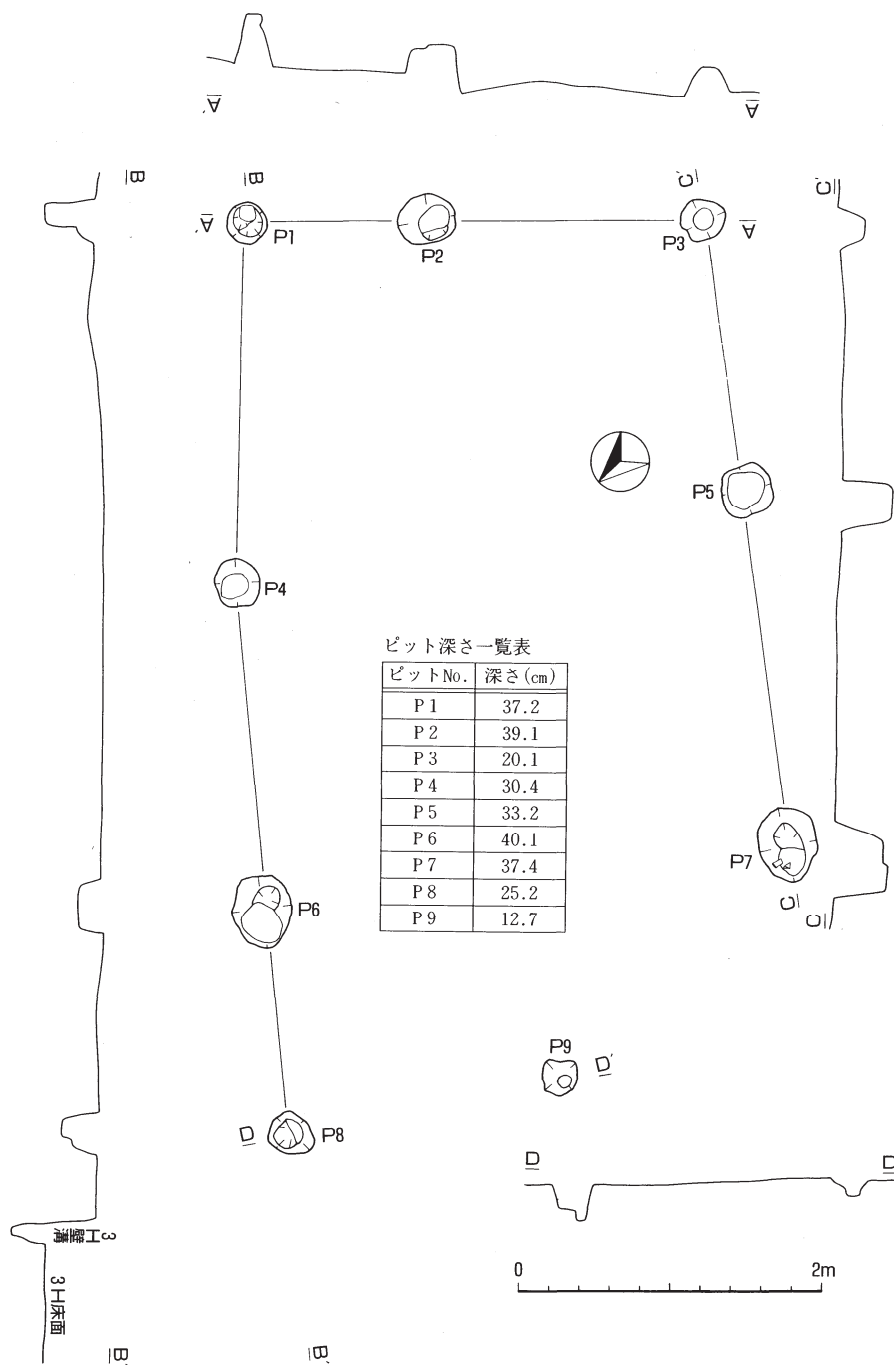


図22 第3号住居跡付属掘立柱建物跡

絶対高にはあまり高低差がみられない。また、壁溝と接続する部分の、両溝跡の底面高低差もみられない(図22・D-D')。平面図には高低を矢印で簡単に表現しておいたが、いずれにしても水などが流れるような溝跡でないことは確かである。雨の日に溝跡内に入った水を観察したところ、基底は第IV層であるために水はけが良く、後に泥が若干残る程度のものであった。幅には広狭がみられ、15~35cmを測り、長さは検出長で8.6mを測る。

**堆積土** ロームを混入する黒褐色土を基本とするが、部位によって差がみられる。調査区際に近いところでは、第II層が自然堆積している<sup>(註)</sup>。C-C'の2層はロームを多量に含んでいるが、このロー

ムは壁面からこぼれ落ちたものと思われるが、後述する須恵器長頸壺を安定させるための人為的な堆積土である可能性も否定できない。

(註)第II層はB-T<sub>m</sub>を混入する層である。

**遺物等の出土状態** 接続部の、溝跡の始まりのあたりからは、底部と口縁部の一部が欠損する須恵器の長頸壺が横になって出土している。溝跡の底面から7cmほど浮いているが、ほとんど水平に出土していることと、口縁部が住居跡側を向いていること等から、人為的に安置されたものと考えられる。なお、壺内の土壌はロームの微粒子を含む暗褐色土であり、その土壌中からはイネの炭化胚乳1点と炭化種子? 4点が検出されている。

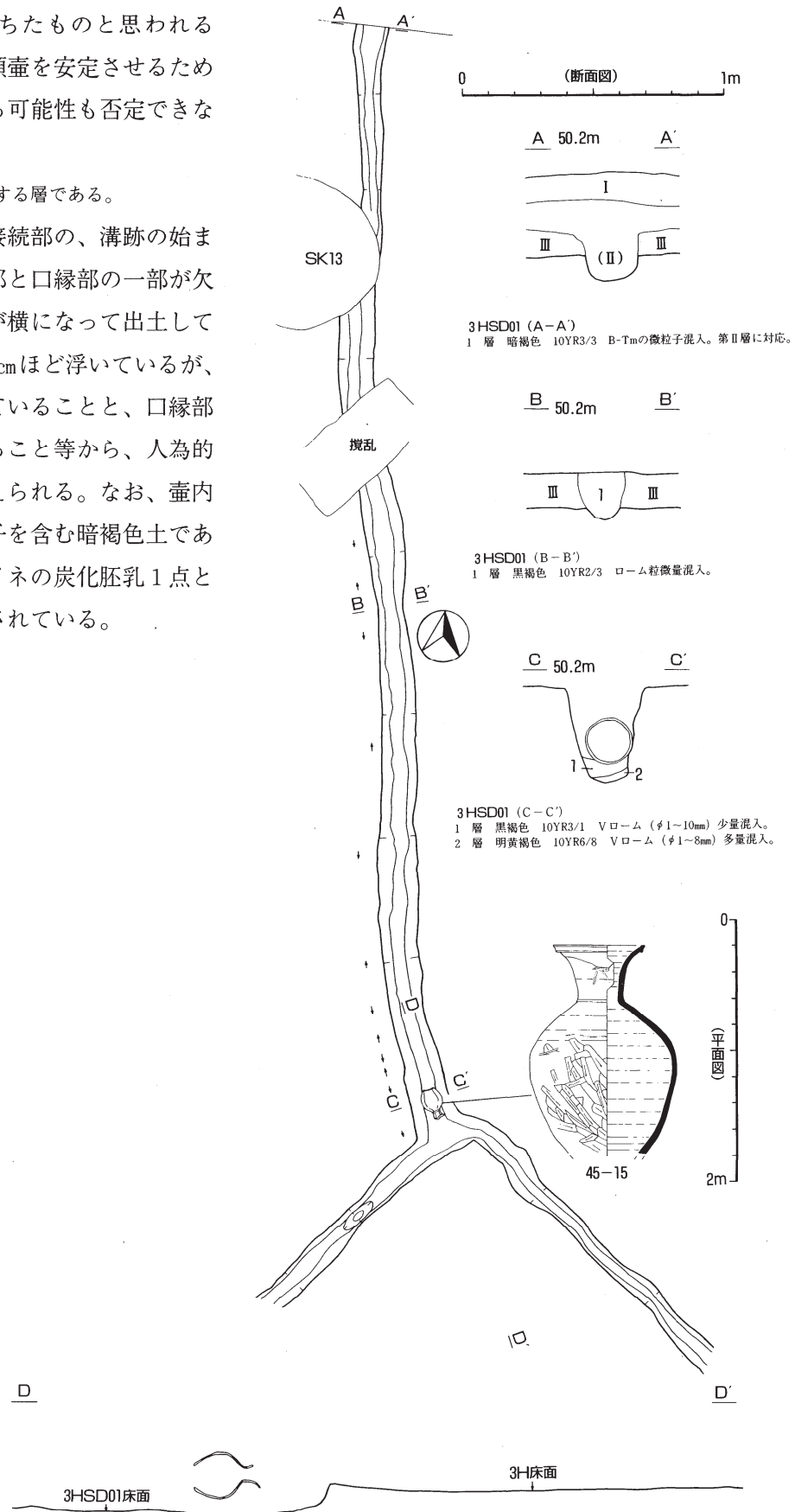


図23 第3号住居跡付属外延溝(3HSD01)



第4号住居跡 (4H) (図24~28)

**概要** 本住居跡は、グリッドJ-121他の、平坦地に位置する。内部施設としてロクロピットが2基(4HRP01、4HRP02)と、土坑2基(4HSK01、4HSK02)、外部施設として掘立柱建物跡1棟(4HSB01)が付随している(図24)。Dコーナー(16区)には不整直方体を呈す粘土塊が3点まとまって床面上に出土している。

**重複** 前壁の1、2区、右壁の4区、後壁の13区、3区の床面が、攪乱を受けている。

**構造** 規模は、中央部で490~505×510cmを測り、平面形は若干、菱形がかかる方形を呈している。四壁は良好に残存していて、深さ40cm前後を測る。壁溝はカマド部分を除いて全周している。ピットは18基あり、主柱穴はP3・5・6・7の4本柱構成と考えられるが、台形状の平面形を構築することから断定はできない。壁溝の中には大型の柱穴(P5・6・7)と小型の柱穴(P8・9・10・11)が見られる。大型の柱穴は右壁に2個、後壁の左側に1個配置される。小型の柱穴は、四壁の中央に1個ずつ配置され、それぞれ向かい合う。床は、第1次の掘り込みの段階でローム面を平坦に掘り、その後に、ロームを混入する黒褐色の床構築土を薄く貼ってつくられている。床構築土で床面を平坦にしようとしたのではなく、ロームをそのまま床にしようとした意図がうかがえる。

**土層** 大きく見て、壁際に多様な土壌が集中し、中央になるにしたがって同一の土壌が集まる。1層は自然堆積土で、それ以外は排土等が流入している可能性がある。

**カマド** 北壁に作りつけられており、壁の右側(3・4区)に位置する。隠川(4)遺跡の中で、このカマドのみ方向が異なる。全体的に古い時代の木根の影響を受けているようで、残存状況は不良であるが、燃烧部~排煙部まで検出された。排煙部の底面にはピットが見られる。燃烧部側壁(ソデ)は、にぶい橙色の粘土を素材としており、黒褐色土を敷いた後に床面上に貼り付けられている。左ソデは攪乱を受けていたため、残存は良くないが、平面的には「ハ」字状に構築されており、ほぼ左右対称の構造であったと考えられる。火床面(15~20層)は、床をそのまま利用していて、あまり焼けておらず、軟質であるが、燃烧部側壁の内面はよく焼けている。火床面の前方には土師器壺の底部が

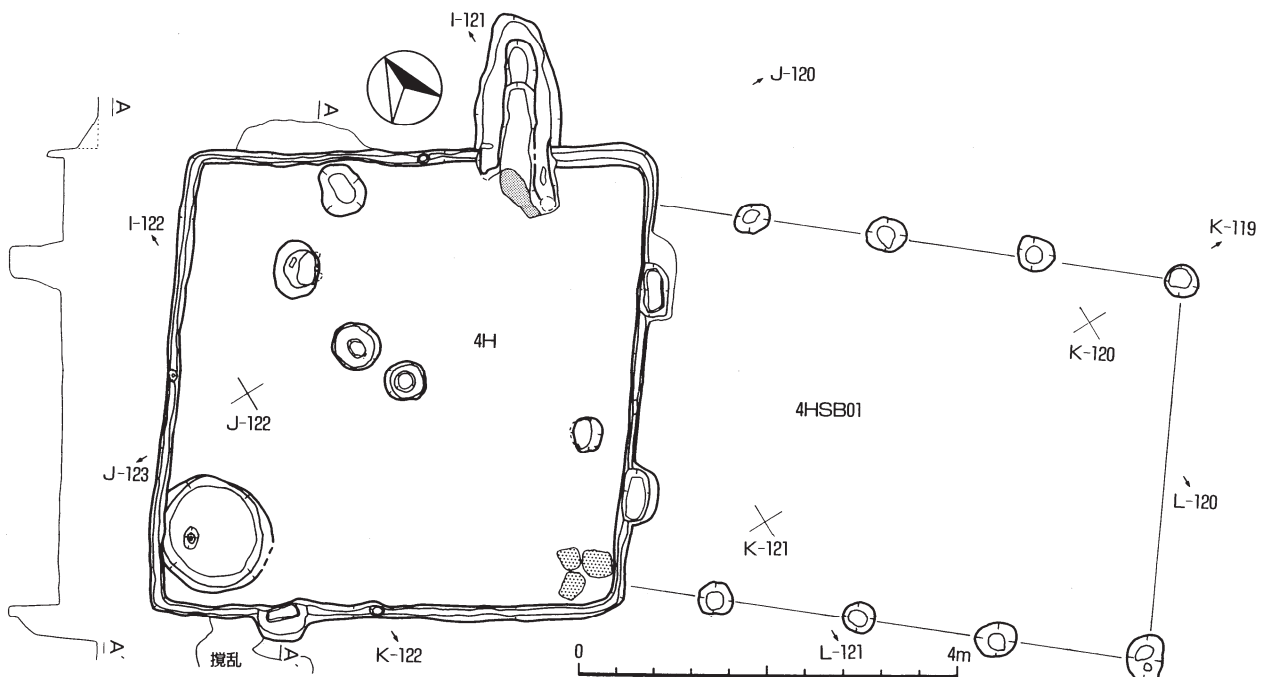
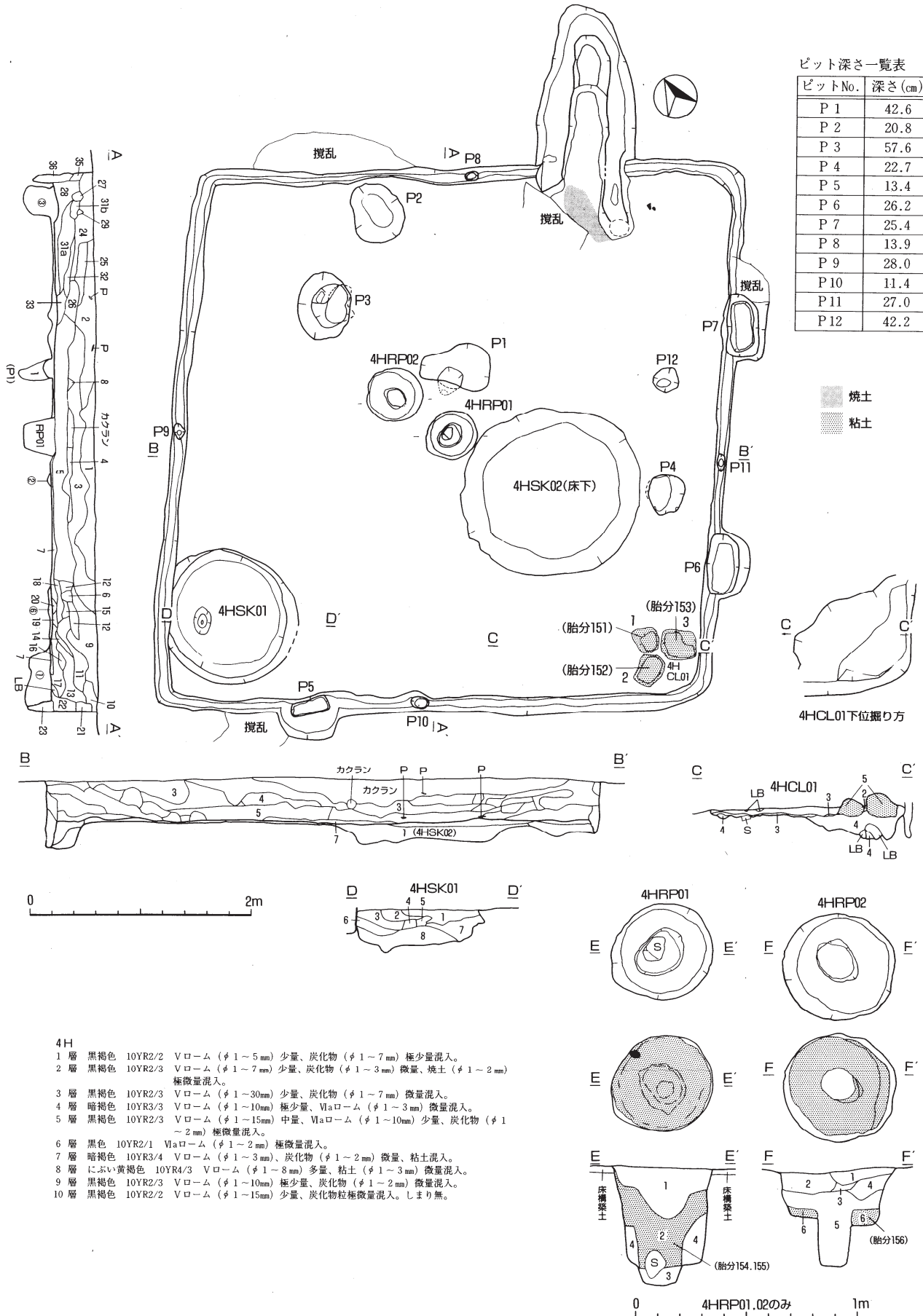


図24 第4号住居跡 (全体)

ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	42.6
P 2	20.8
P 3	57.6
P 4	22.7
P 5	13.4
P 6	26.2
P 7	25.4
P 8	13.9
P 9	28.0
P 10	11.4
P 11	27.0
P 12	42.2



- 4H
- 1層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~5mm)少量、炭化物(φ1~7mm)極少量混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~7mm)少量、炭化物(φ1~3mm)微量、焼土(φ1~2mm)極微量混入。
  - 3層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~30mm)少量、炭化物(φ1~7mm)微量混入。
  - 4層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)極少量、Vlaローム(φ1~3mm)微量混入。
  - 5層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm)中量、Vlaローム(φ1~10mm)少量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
  - 6層 黒色 10YR2/1 Vlaローム(φ1~2mm)極微量混入。
  - 7層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~2mm)微量、粘土混入。
  - 8層 にぶい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1~8mm)多量、粘土(φ1~3mm)微量混入。
  - 9層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~10mm)極少量、炭化物(φ1~2mm)微量混入。
  - 10層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~15mm)少量、炭化物粒極微量混入。しまり無。

図25 第4号住居跡



## 隠川(4)遺跡

### 4H(前頁つづき)

- 11 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~18mm)少量、Mαローム(φ1~10mm)極少量、炭化物粒微量混入。
- 12 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~5mm)少量混入。
- 13 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm)少量、Mαローム(φ1~10mm)、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
- 14 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~5mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 15 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~8mm)、炭化物粒微量混入。
- 16 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~3mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 17 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~12mm)少量、Mαローム(φ1~3mm)微量、炭化物粒微量混入。
- 18 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~7mm)少量、炭化物粒微量混入。
- 19 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム粒、炭化物粒微量混入。
- 20 層 黄褐色 10YR5/6 Vローム。
- 21 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~5mm)微量混入。しり無。
- 22 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~20mm)少量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
- 23 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)、Mαローム(φ1~15mm)少量、粘土(φ30mm)1ブロック混入。
- 24 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm)中量、Mαローム(φ1~10mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 25 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~12mm)少量、炭化物粒極微量混入。
- 26 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~8mm)少量、Mαローム(φ1~5mm)極少量、焼土粒極微量混入。
- 27 層 明黄褐色 10YR6/8 Vローム。
- 28 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~35mm)中量、Mαローム(φ1~30mm)極少量、炭化物(φ1~2mm)、焼土(φ7mm)極微量混入。
- 29 層 黄褐色 10YR5/8 Vローム。
- 31a 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~20mm)中量、炭化物(φ1~3mm)、焼土(φ1~5mm)極少量混入。
- 31b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~15mm)少量混入。
- 32 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~5mm)少量、焼土(φ1~3mm)微量、炭化物粒微量混入。
- 33 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~15mm)中量、炭化物粒、焼土(φ1~5mm)微量混入。
- 35 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~7mm)少量混入。しり無。
- 36 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)極少量、Mαローム(φ20mm)1ブロック混入。しり無。
- 4HRP01(E-E')  
1 層 黒色 10YR2/1 粒状で隙間多し。しり無。  
2 層 灰オリーブ色 5Y6/2 粘土。10YR5/6黄褐色シルト質土中量、炭化物(φ1~2mm)微量、砂(φ0.5~1mm)微量、2.5YR5/6明赤褐色砂質土少量混入。粘性有。  
3 層 黄褐色 10YR5/6 Vローム主体に、Mαロームと粘土の混合土。炭化物(φ1~3mm)微量混入。しり無。  
4 層 明黄褐色 10YR6/8 Vローム主体に、Mαロームと粘土の混合土。小礫(φ2~10mm)多量、炭化物(φ1~5mm)、粘土(φ1~10mm)少量混入。

### 4HRP01(A-A')

- 1 層 黒褐色 10YR3/2 炭化物粒少量混入。しり無。

### 4H床構築土(A-A')

- ① 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~40mm)中量混入。  
② 層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1~15mm)、炭化物(φ1~3mm)少量混入。  
③ 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~60mm)中量混入。

### 4HSK02(B-B')

- 1 層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1~20mm)多量、炭化物(φ50mm)1つ混入。

### 4HCL01(C-C')

- 1 層 黄褐色 2.5Y5/4 砂(φ0.3~1.5mm)中量、暗赤褐色砂(φ1~2mm)微量混入。  
2 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~25mm)多量混入。  
3 層 におい黄褐色 10YR5/4 粘土。  
4 層 暗褐色 10YR2/2 Vローム(黄褐色φ1~40mm)多量混入。  
5 層 灰オリーブ色 7.5Y5/2 粘土。2.5YR5/6明赤褐色砂質土(φ1~2mm)少量混入。

### 4HSK01(D-D')

- 1 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)少量、炭化物(φ1~2mm)微量混入。  
2 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1~5mm)少量、炭化物(φ1mm)極微量混入。  
3 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)中量、炭化物粒極微量混入。  
4 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~7mm)少量、炭化物粒極微量混入。  
5 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~2mm)微量、炭化物粒極微量混入。  
6 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~8mm)中量、Mαローム(φ1~3mm)微量、炭化物(φ1~7mm)極微量混入。しり無。  
7 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~18mm)少量、Mαローム(φ1~2mm)微量、炭化物(φ1mm)極微量混入。  
8 層 黄褐色 10YR5/6 Mαローム主体に、Vロームが混合した土。黒褐色土微量混入。

### 4HRP02(F-F')

- 1 層 明黄褐色 10YR6/8 粘土(φ1~5mm)、炭化物(φ1~2mm)少量、明黄褐色(10YR7/6)の小礫(φ1~3mm)少量、粘土質土ブロック状混入。  
2 層 明黄褐色 2.5Y6/8 粘土(φ1~7mm)、炭化物(φ1~2mm)、小礫(φ1~3mm)少量、橙色(7.5YR6/8)の粘性ある土壌中量混入。  
3 層 黄褐色 10YR7/8 小礫(φ1~3mm)中量、炭化物(φ1~2mm)微量混入。  
4 層 明黄褐色 2.5Y6/8 小礫(φ1~3mm)、炭化物(φ1~3mm)粘土(φ1~3mm)少量混入。  
5 層 明黄褐色 2.5Y6/8 礫(?)粘土多量混入。粒状(φ1~5mm)で、隙間多し。炭化物(φ1~10mm)中量、粘土(φ1~2mm)、小礫(φ1~3mm)少量混入。しり無。  
6 層 灰白色 10YR7/1 粘土。斑状に橙色(7.5YR6/8)を呈す箇所あり。

出土している。本カマドの焚口の右側(4区)および煙道部右壁には、破裂剥片が集中しており、4・8区の床面は焼けている。住居廃絶後に、4・8区の辺りを利用して、土器焼成が行われた可能性がある。カマドを通る軸の方位は、N-34°-Eをさす。

**内部施設** ロクロピット2基が6/7/10/11区(RP01)と6区(RP02)に検出されている。

RP01は、住居跡の真中央に位置している。RP1は、4Hの床面において確認したもので、周囲の床面上には白色の粘土が薄く、散らばるように分布している。RP02は床構築土(貼床)除去後に検出したものである。恐らくRP02が廃絶された後にRP01が新たに構築されたものと思われる。換言すれば、RP01が機能していた時点で、RP02は機能していなかった可能性が高いと言える。RP01の径は44×46cm、RP02の径は49×51cmで、RP02の規模はRP01に比較してやや大きい。両者とも上端の平面形はほぼ円形を呈す。RP01の断面形は、筒状の土坑の底に浅いピットを穿つような構造で、RP02は、円形の土坑に柱状のピットを穿つような構造を呈す。深さは、RP01が53cm、RP02が42cmを測る。RP01の土層を見ると、1層は明らかに床構築土より粘性・しり無の全くないシルト質の土で、近年の攪乱と思えるほどにやわらかく、黒色の度合いが強い。2層は赤色顔料のブロックを数個混入する灰オリーブ色の粘土であり、厚さは厚いところでは45cmを測る。2層と3層の間には、自然礫が1点出土している。RP02の6層の粘土は灰白色を呈す。RP02にある粘土は、Dコーナーに出土した不整直方体の粘土塊と同じものと思われる。

**遺物等の出土状態** 垂直分布を見ると、大きく分けて上位層と下位層のものに分けられる。上位のものは自然流入あるいは人為的に投棄されたものとして考えるのが自然であると思うが、下位層出土のものと接合したものも若干みられる。Dコーナー(16区)の床面上には粘土ブロックが3個出土している。床面に安置されたかのような出土状態を呈する。3個とも灰白色を呈す粘土であり、形状は全て不整な直方体を呈す。1は22×24cm、厚さ7.3cm、2は30×23cm、厚さ8.6cm、3は32×27cm、厚さ14.3cmを測る。3個とも何かの容器に入れられ、容器ごと逆さにして床面上に置かれたように観察される。また、粘土ブロックの下の貼床は、住居掘り込みの第1次段階で少し窪ませられている。

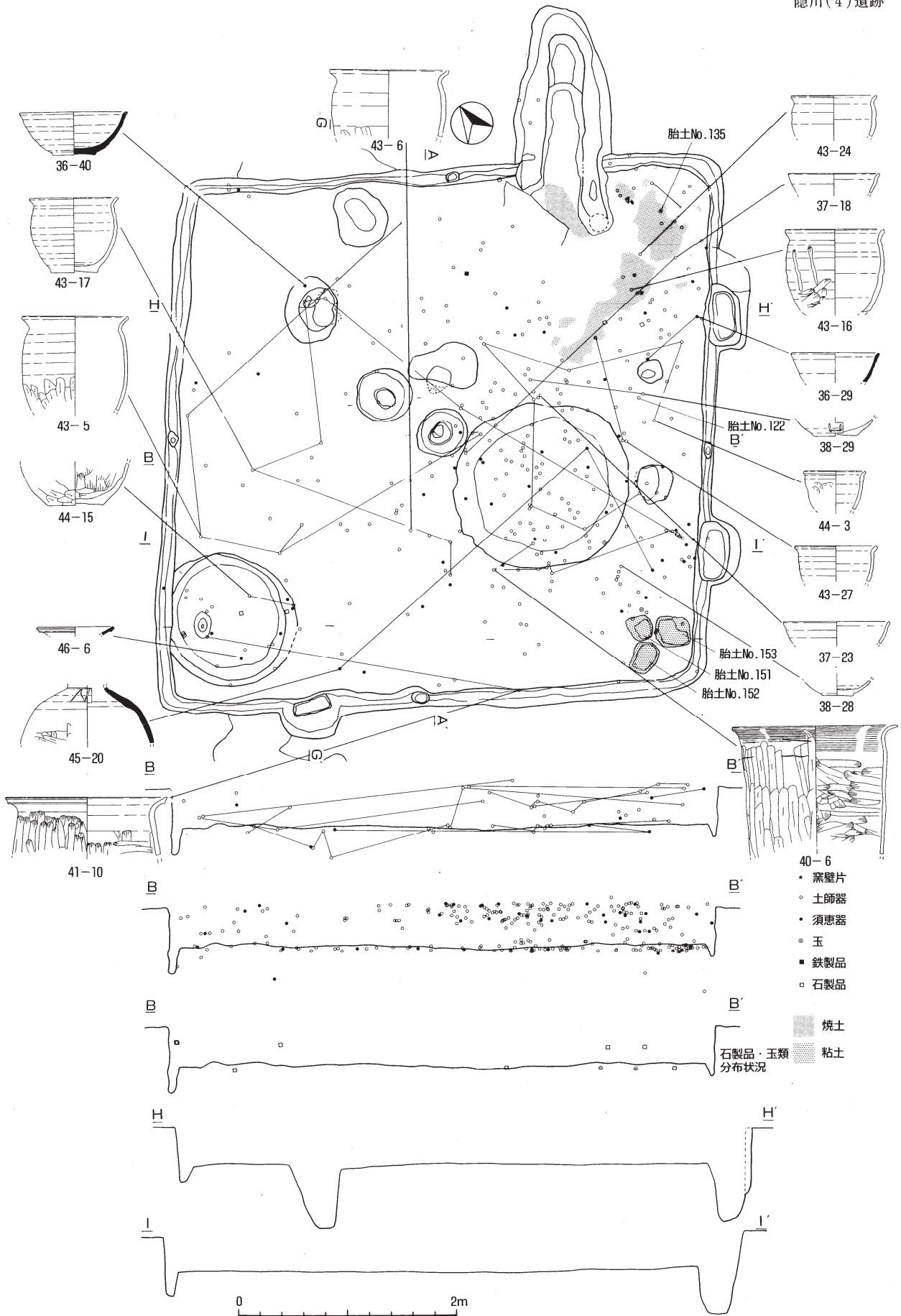


図26 第4号住居跡遺物出土状態



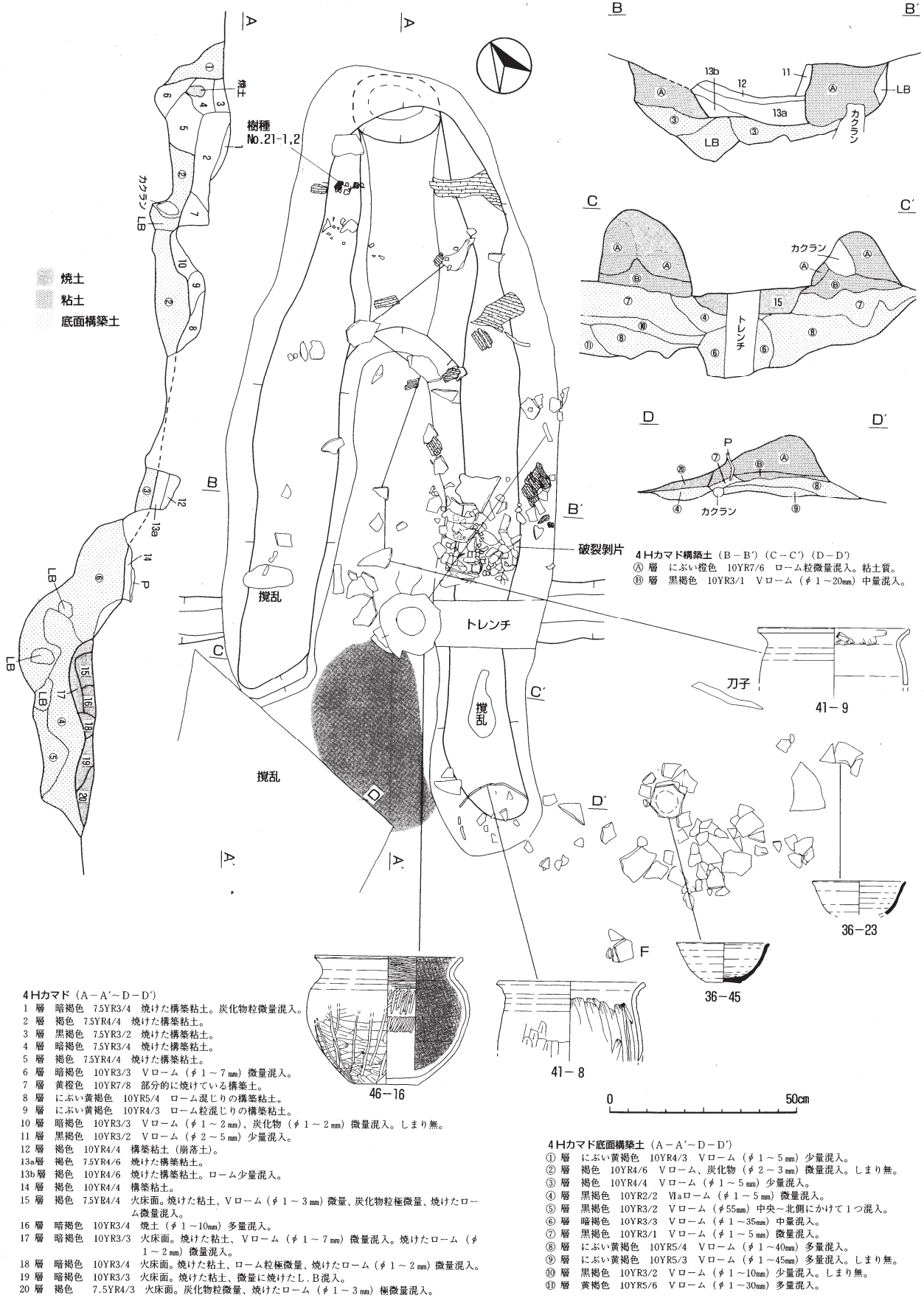


図27 第4号住居跡カマド

第4号住居跡付属掘立柱建物跡 (4HSB01) (図28)

**概要** 本掘立柱建物跡は4Hの右壁側に位置する。4Hと本建物跡の近接した位置関係から、第4号住居跡に付属する一連の建物(4HSB01)であると考えられる。重複はない。

**構造** 8基の柱穴で1間×3間に構成されており、長方形を呈す。規模は、P1-P3-P5-P7のラインが465cm、P2-P4-P6-P8のラインが460cm、P1-P2のラインが410cmを測る。P1-P2のライン上に柱穴は見られない<sup>(註)</sup>。柱穴の深さは浅いもので19.4cm、深いもので44.6cmである。平面形は、円形のものと同楕円形のものが見られる。ほとんどの柱穴の断面形は逆台形を基本とする。覆土中に柱痕を残すものは見られない。住居跡の右壁からは、P7が84cm、P8が80cm離れている。主軸方位はN-131°-Eを測る。(註)何度も薄く面下げて検出を試みたが確認されなかった。

**土層** いずれの柱穴も褐色系の覆土がほとんどであり、ローム粒子を少量混入している。

**遺物等の出土状態** 遺物は出土していない。

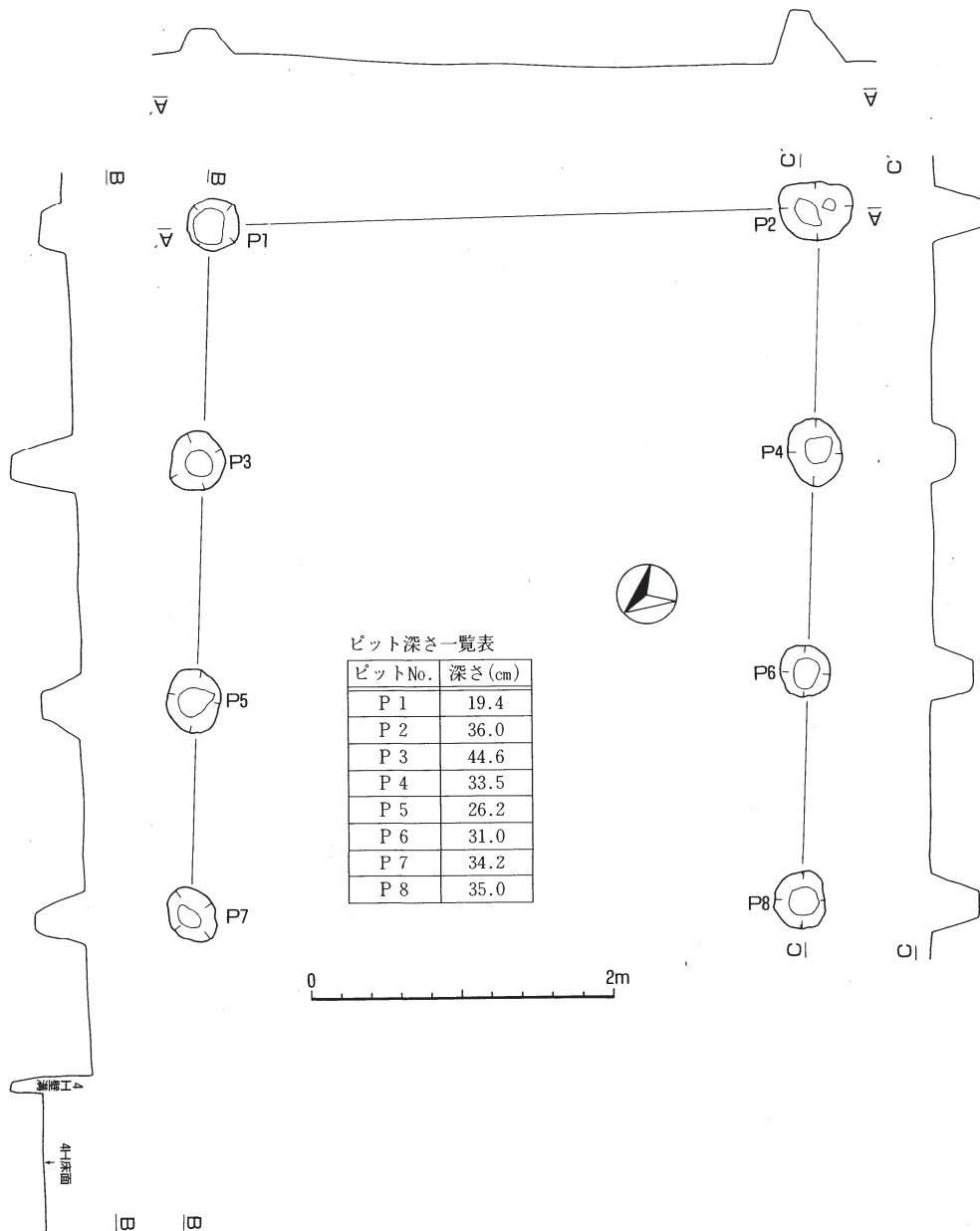


図28 第4号住居跡付属掘立柱建物跡



第5号住居跡 (5H) (図29~30)

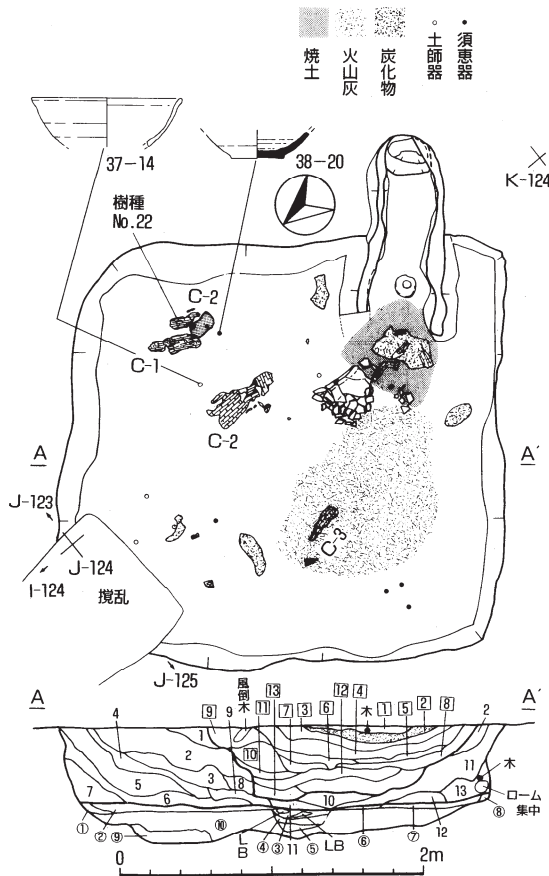
**概要** 本住居跡は、グリッドJ-124他の、平坦地に位置する。後壁の西方は、急な斜面になっている。内部施設や外部施設は認められない。

**重複** (1)風倒木に切られているが、住居の構造そのものに影響はない。(2)Cコーナー部分が壁~床まで大きく攪乱を受けている。

**構造** 規模は、275×260~300cmを測り、平面形はほぼ方形を呈す。四壁は良好に残存していて50cm~58cmを測る。壁溝は巡らされず。ピットも全く検出されていない。床は、第1次工程として、ロームまで掘り下げ、ある程度底面ができあがった後に、第2次の工程として、黄褐色土を厚く敷き、平坦にならしかためてつくられている。

**土層** 多くの層が、弓状に堆積しており、徐々に自然堆積したことが分かる。かなり埋まり切った後で、風倒木に切られている。さらにその風倒木の堆積土の中には、B-Tm層が含まれる。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3・4区)に位置する。燃烧部から排煙部まで非常に良好に検出されている。煙道部は住居外に65cmほど伸びている。燃烧部側壁(ソデ)は、明褐色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるようにして構築されている。ソデの内壁側には焼土や炭化物を含む土がもぐり込んでいる。燃烧部~排煙部の形状を平面的に見ると、構築土としての白色の粘土を火鉢形に固定させる構造を採っている。構築の過程は、先ず溝状に掘り込み、次に粘土を溝状の掘り込みのやや内側に盛り、さらに裏込め土を入れ、安定させるという3段階の工程がうかがえる。排煙部の底面にはピットが見られる。火床面(14層)は焼けてはいるがほとんど硬化していない

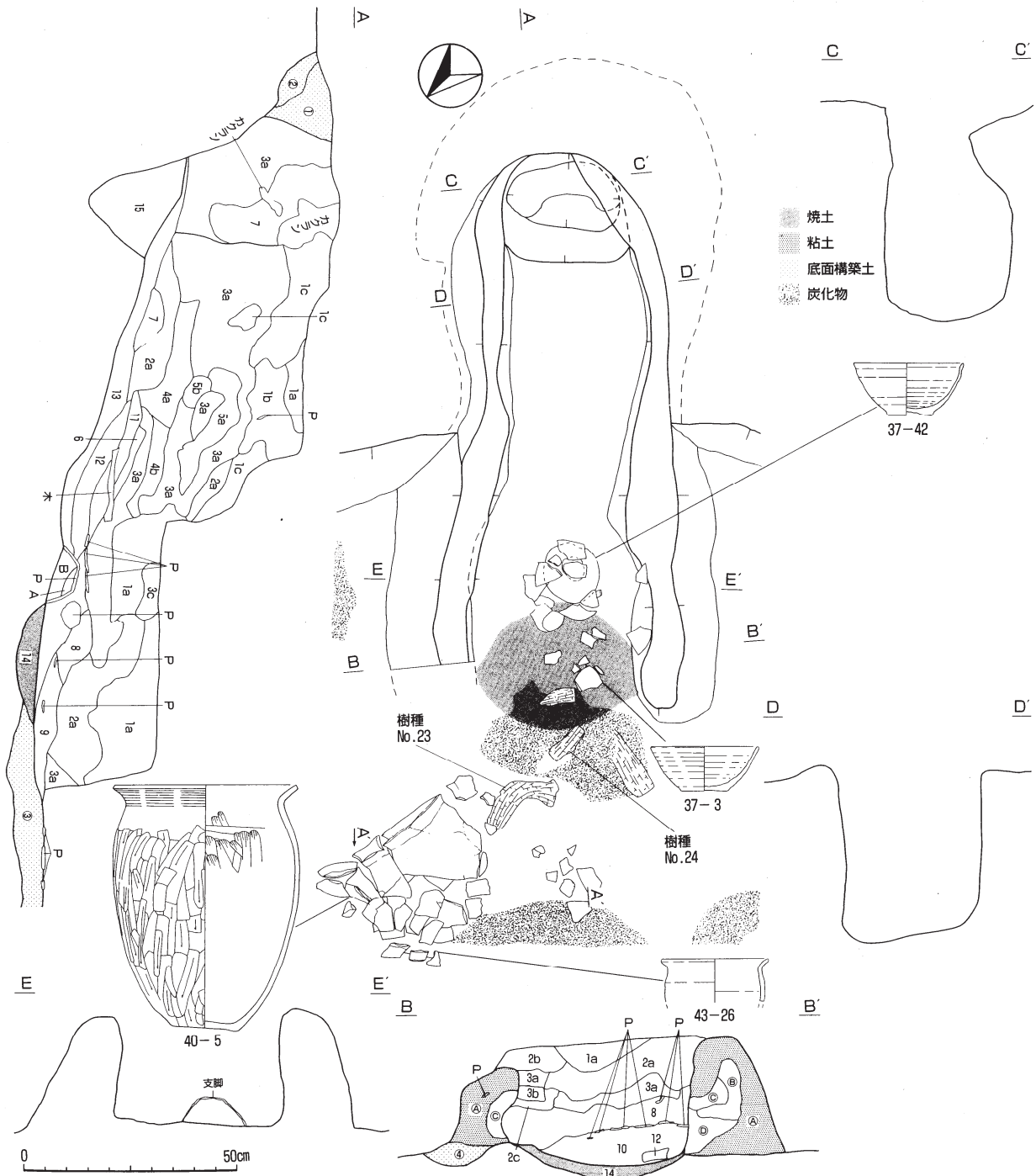


- 5H (A-A)
- 1層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ1~10mm)少量混入。しまり無。
  - 2層 にぶい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1~40mm)多量、Vlaローム(φ1~5mm)微量、炭化物粒極微量混入。
  - 3層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~12mm)中量、Vlaローム(φ1~7mm)微量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
  - 4層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm)少量、炭化物粒極微量混入。
  - 5層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~15mm)中量、Vlaローム(φ1~10mm)極少量、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
  - 6層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~8mm)極少量、Vlaローム(φ1~10mm)微量、炭化物(φ1~3mm)極少量混入。
  - 7層 黄褐色 10YR5/6 Vローム。しまり無。
  - 8層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~2mm)極少量、炭化物粒極微量混入。
  - 9層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~8mm)少量、Vlaローム(φ1~5mm)、炭化物(φ1~2mm)微量混入。
  - 10層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~2mm)微量混入。
  - 11層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~10mm)少量、Vlaローム(φ1~5mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
  - 12層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)極少量混入。
  - 13層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~5mm)微量混入。

- 5H床構築土 (A-A')
- ①層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~15mm)多量混入。
  - ②層 褐色 10YR4/6 Vローム(φ1~40mm)中量混入。
  - ③層 黄褐色 10YR5/6 Vローム(φ1~10mm)、Vlaローム(φ1~80mm)多量混入。
  - ④層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~8mm)中量、Vlaローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~2mm)微量混入。しまり無。
  - ⑤層 橙色 7.5YR6/8 Vローム(φ1~10mm)多量、Vlaローム(φ1~3mm)微量混入。
  - ⑥層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~2mm)微量混入。
  - ⑦層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ1~8mm)極少量混入。
  - ⑧層 にぶい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1~3mm)微量、Vlaローム(φ1~2mm)極微量混入。
  - ⑨層 明褐色 7.5YR5/8 黒色土(φ5~9mm)微量、淡橙色粘土(φ1~20mm)少量混入。
  - ⑩層 黄褐色 10YR5/6 混入物なし。非常にやわらかい。

- 風倒木痕 (A-A')
- ①層 黒色 10YR1.7/1 ローム粒微量混入。しまり無。
  - ②層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~2mm)微量、B-Tm(中央~南側)多量混入。
  - ③層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~2mm)、炭化物粒極微量混入。
  - ④層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~5mm)極少量、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
  - ⑤層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm)微量、炭化物粒極微量混入。
  - ⑥層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm)中量、Vlaローム(φ1~2mm)微量混入。
  - ⑦層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~5mm)微量混入。
  - ⑧層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~10mm)極少量、Vlaローム(φ1~5mm)、炭化物粒微量混入。
  - ⑨層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~20mm)極少量混入。しまり無。
  - ⑩層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~20mm)中量、Vlaローム(φ1~2mm)微量、炭化物粒極微量混入。
  - ⑪層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~8mm)極少量、炭化物(φ1mm)極微量混入。
  - ⑫層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~18mm)少量、Vlaローム(φ1~5mm)極微量混入。
  - ⑬層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~15mm)極少量混入。
  - ⑭層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~20mm)少量、炭化物粒極微量混入。

図29 第5号住居跡



5Hカマド (A-A') (B-B')

- ①層 黄褐色 10YR5/6 炭化物 (φ1mm) 極微量、ローム (φ5-25mm) 多量混入。
- ②層 暗褐色 10YR3/4 黄褐色土中量混入。
- ③層 黄褐色 10YR5/6 黒褐色土微量混入。
- ④層 明黄褐色 10YR6/6 炭化物 (φ1-3mm) 微量混入。

5Hカマド環 (支脚) 内 (A-A')

- A層 赤褐色 5YR4/6 ササ混入。
- B層 明褐色 7.5YR5/6 焼土 (φ1mm) 極微量混入。

5Hカマド構築土 (B-B')

- ①層 明褐色 7.5YR5/6 焼土 (φ1mm) 極微量混入。
- ②層 明赤褐色 5YR5/8 焼土 (φ1-30mm) 多量、ローム (φ1mm) 極微量混入。
- ③層 黄褐色 10YR5/8 焼土 (φ1mm) 極微量混入。
- ④層 暗褐色 10YR3/4 下方に明褐色土微量、焼土 (φ1-5mm) 多量、炭化物 (φ1-2mm) 極微量混入。

5Hカマド (A-A') (B-B')

- 1a層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-10mm) 少量、炭化物粒極微量混入。
- 1b層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-3mm) 微量、V1aローム (φ1-2mm) 極微量、炭化物 (φ1-3mm) 微量混入。
- 1c層 褐色 10YR4/4 Vローム (φ1-2mm)、炭化物 (φ2mm)、黒褐色土微量、V1aローム (φ1-2mm) 極微量混入。

- 2a層 褐色 10YR4/4 炭化物粒、焼土粒、Vローム (φ1-2mm) 微量混入。

- 2b層 暗褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-2mm)、黒褐色土微量混入。
- 2c層 褐色 10YR4/4 炭化物粒極微量、焼土 (φ1-2mm)、暗褐色土微量混入。しまり無。
- 3a層 黄褐色 10YR5/6 混入物なし。焼けた部分あり。
- 3b層 褐色 10YR4/6 混入物なし。焼けた部分あり。
- 3c層 褐色 10YR4/4 焼土 (φ1-8mm) 少量、炭化物 (φ1-35mm) 極少量混入。
- 4a層 褐色 10YR4/4 混合物なし。焼けた部分あり。
- 4b層 褐色 10YR4/6 炭化物粒微量、焼土 (φ3mm) 微量混入。
- 5a層 褐色 10YR4/6 炭化物粒微量混入。
- 5b層 褐色 10YR4/6 混入物なし。
- 6層 明褐色 7.5YR5/8 焼けている部分多い。炭化物粒微量混入。
- 7層 明褐色 10YR3/4 Vローム (φ1-3mm) 極少量混入。
- 8層 明褐色 7.5YR5/6 焼土 (φ5-20mm) 多量、炭化物 (φ3-10mm) 中量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 炭化物 (φ1-5mm) 少量、焼土 (φ1-7mm) 極少量、構築粘土 (φ2-5mm) 微量混入。
- 10層 黒色 10YR1.7/1 炭化物 (φ1-2mm) 微量、焼土 (φ1-10mm) 少量混入。
- 11層 暗褐色 10YR3/3 混入物なし。全体的に焼けている。
- 12層 暗褐色 10YR3/3 炭化物 (φ1-7mm) 極少量、焼土 (φ1-15mm) 中量混入。
- 13層 暗褐色 10YR3/3 焼土 (φ5-20mm) 多量、炭化物 (φ1-3mm) 中量混入。
- 14層 明褐色 7.5YR5/8 黒褐色土中量混入。マンガンの沈着あり。
- 15層 明褐色 7.5YR5/8 炭化物 (φ1-5mm) 極少量、焼土粒、粘土微量混入。

図30 第5号住居跡カマド



い。火床面の中央には、倒立させた土師器坏が支脚として置かれている。燃焼部側壁内面はよく焼けている。カマドを通る軸の方位は、N-134°-Eをさす。土層を見ると、人為的に埋められた状況は呈していない。自然崩落と流入の結果の堆積であろうと考えられる。

**内部施設** 特に認められないが、住居跡中央の床構築土には、一旦掘り窪められた後に埋められた状況が観察された(土層断面図参照)。平面的に検出することはできなかった。

**遺物等の出土状態** 7区の床面上に土師器の甕1個体が破片で出土している。床面には炭化材が散在して出土している。全体的に遺物は少ない。

**備考** 本住居跡は、廃絶後、自然堆積により埋没し、その後、木が生え、ある程度まで成長し、倒れ、その後に白頭山火山灰が流入している。この一連の過程より、本住居跡の機能していた時期は、白頭山火山灰の降下よりもかなり前であったと推定される。あくまでも推定ではあるが、本住居の機能した時期をあえて想定するならば、9世紀中葉～後葉あたりではないかと考えられる<sup>(註)</sup>。

(註) B-Tmの降下を923～924年(町田・福沢1996)とした場合。

(木村 高)

## 2 土坑

平安時代の土坑は7基検出された。平安時代の住居跡の付近に点在する傾向がみられる。

### 第8号土坑(SK08) (図31)

**概要** F-117グリッドに位置する。西に3mのところには3Hが位置している。重複はない。

**構造** 確認面、底面ともやや不整な円形を呈する。規模は、確認面で124×134cm、深さは18cmを測る。壁面は斜めに立ち上がり、断面形は逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。**土層** 10層に分層された。黒～黒褐色土を基調とし、炭化物粒子、ローム粒子を含んでいる。下位層に炭化物が多く見られる。1～4層は自然堆積と考えられる。

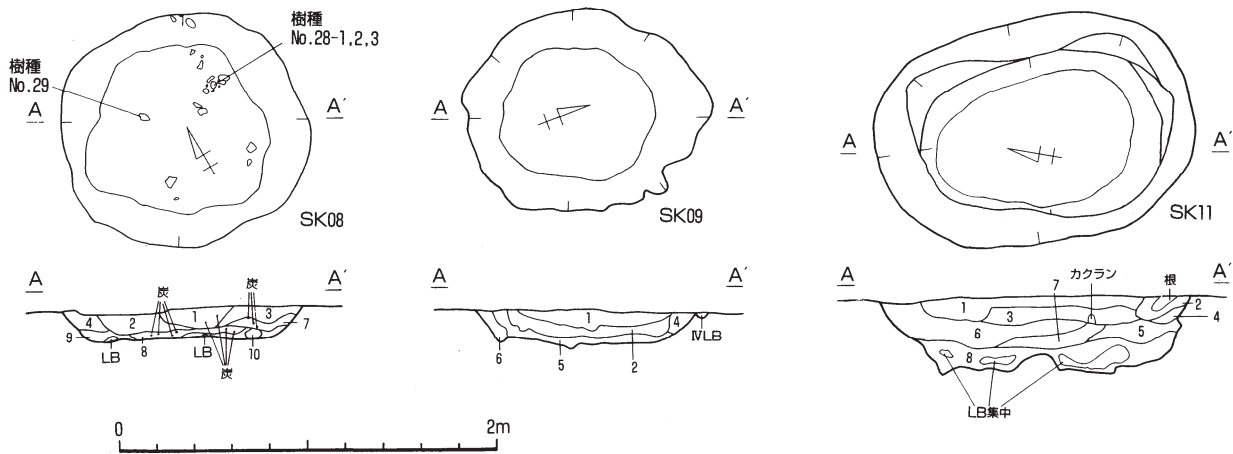
### 第9号土坑(SK09) (図31)

**概要** H・I-120グリッドに位置する。南に1.5mのところには4Hカマドが位置している。重複はなし。**構造** 平面形は開口部、底面とも不整な楕円形を呈する。規模は、開口部で108×134cm、深さは14～20cmを測る。断面形は皿状を呈し、底面には僅かな凹凸が見られる。**土層** 5層に分層された(3層は欠番層)。黒褐色土を基調とし、炭化物粒子、ローム粒子を含んでいる。土層は水平～皿状に堆積していることから、全層とも自然堆積と考えられる。

### 第11号土坑(SK11) (図31)

**概要** 調査区中央の南端、N-112・113グリッドに位置する。重複はなし。

**構造** 確認面、底面とも楕円形を呈する。規模は、確認面で118×168cm、深さは30～40cmを測る。壁面にはやや段が見られ、底面はほぼ平坦であるものの、中央はやや凸状にふくらんでいる。**土層** 8層に分層された。黒色土を基調とし、炭化物粒子、ローム粒子を含んでいる。8層にはロームの集中したブロックが含まれており、他の層とは異質である。また、この8層の上面ラインはほぼ平坦であることから、人為的に埋め戻して、貼床のようにしている可能性がある。7層以上の層は全て自然



- SK08**
- 1層 黒色 10YR1.7/1 Vローム(φ1~2mm) 極微量、Vaローム(φ1~5mm) 微量、炭化物(φ2~5mm) 極少量混入。
  - 2層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~2mm) 微量、ローム粒極微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
  - 3層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1mm) 微量、Vaローム(φ1~3mm) 微量、炭化物(φ1~5mm) 微量混入。
  - 4層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
  - 7層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、炭化物(φ1~8mm中央~西側に集中) 混入。
  - 8層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 極少量、炭化物(φ1~8mm) 少量混入。
  - 9層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒中量、炭化物粒微量混入。
  - 10層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~3mm) 極少量、ローム粒(φ30mm)、VLB.1ブロック、炭化物粒極微量混入。

- SK09**
- 1層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 極微量、ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~5mm) 微量、ローム粒微量、炭化物(φ1mm) 極微量混入。しまり無。
  - 4層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~2mm) 微量、ローム粒少量混入。しまり無。
  - 5層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~2mm) 微量、ローム粒微量混入。
  - 6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~5mm) 少量、ローム粒微量混入。しまり無。

- SK11**
- 1層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 極微量、Vaローム(φ1~2mm) 極微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
  - 2層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、炭化物粒極微量混入。
  - 3層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~2mm) 極微量、ローム粒極微量、炭化物粒微量混入。
  - 4層 黒色 10YR1.7/1 ローム粒極微量混入。
  - 5層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~5mm) 極少量、Vaローム(φ1~3mm) 微量、炭化物粒極微量混入。
  - 6層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 極微量混入。
  - 7層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~5mm) 微量、炭化物粒微量混入。
  - 8層 黒色 10YR1.7/1 Vローム(φ1~20mm) 多量、Vaローム(φ1~3mm) 微量、炭化物(φ1mm) 極少量混入。

図31 第8・9・11号土坑(平安)

堆積と考えられる。

**第5号土坑(SK05) (図32)**

**概要** L-119グリッド他に位置する。北西に4mのところには4HSB01が位置している。重複はない。北側約2分の1は、95年度の粗掘りの段階で大分掘り下がっており、壁面はほとんど残存していない。**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ円形を呈する。規模は、確認面で143×153cm、底面135×128cm、深さは18~28cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上り、断面形は皿状を呈している。ロームを底面にしており、凹凸はほとんどなく、平坦である。底面の北半は焼けている。(108×78cm)。

**土層** 10層に分層された。黒褐色土を基調とし、10層に焼土粒子が混入している。土層は水平~皿状に堆積していることから、全層とも自然堆積である可能性が高い。**遺物等の出土状態** 多量の土師器の破裂剥片と少量の土師質特殊遺物、炭化物ブロックが出土している。いずれも確認面から覆土の中位以上の層に多く見られる。**その他** 底面が焼土化していることと、破裂剥片の多量の出土により、本土坑は土器焼成遺構である可能性が高い。破裂剥片の割れ口は器表面と同様に焼成されており、また、器面の調整痕が明瞭に残存していて、使用後の廃棄というような状況は窺えない。

**第13号土坑(SK13) (図32)**

**概要** D-119グリッドに位置する。3HSD01と重複し、本土坑が新しい。

**構造** 平面形は確認面が円形、底面は不整形を呈す。規模は、確認面で115×118cm、深さは21~26cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がったたり、垂直に立ち上がったたりしており、一定していない。ロー



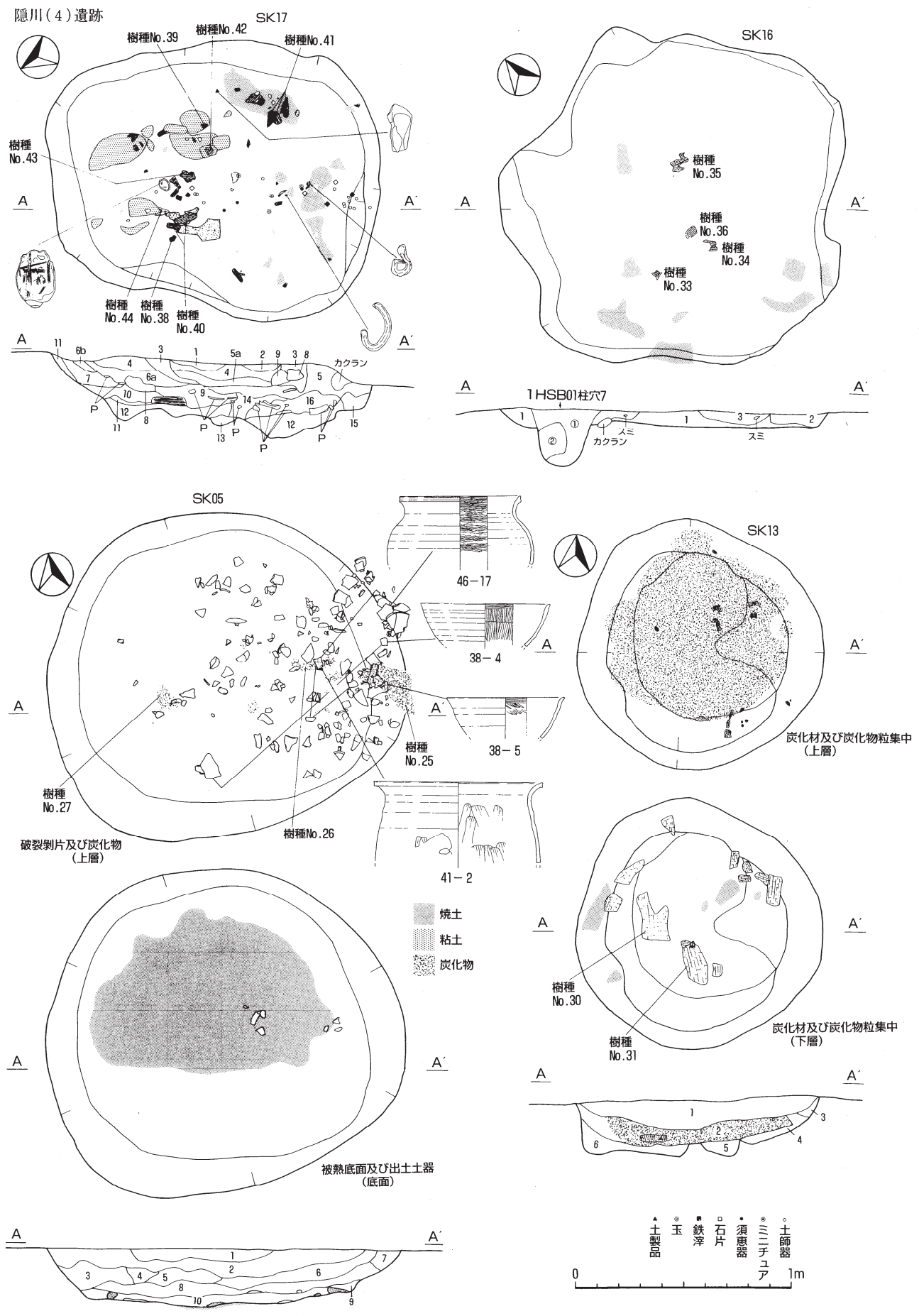


図32 第5・13・16・17号土坑(平安)

SK05

- 1層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~2mm)微量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~3mm)微量、炭化物(φ1~5mm)微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~10mm)極少量、炭化物粒極微量、焼土(φ1~2mm)微量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
- 5層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~12mm)少量、炭化物(φ1mm)極微量混入。
- 6層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~7mm)微量、炭化物粒極微量、焼土(φ8mm)1ブロック混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物(φ2~5mm)微量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~8mm)微量、炭化物(φ1~5mm)極少量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。しまり無。
- 10層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~5mm)極少量、炭化物粒少量。ローム起源の焼土(φ1~3mm)と黒色シルト起源の焼土粒とが底面付近に中量混入。

SK13

- 1層 黒色 10YR2/1 すき間の多い堆積。しまり無。
- 2層 黒色 10YR1/1 炭化物層。しまり無。
- 3層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量混入。
- 4層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1~7mm)極少量混入。
- 5層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~15mm)中量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~3mm)少量混入。

SK16

- 1層 黒褐色 10YR3/1 ローム粒極微量、炭化物(φ1~5mm)極少量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/3 炭化物(φ1~10mm)中量混入。焼土粒微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 炭化物(φ1~5mm)中量、焼土粒微量混入。

SK17

- 1層 黒色 10YR1/1 焼土粒、炭化物粒極微量混入。
- 2層 黒色 10YR2/1 焼土(φ1~2mm)微量混入。
- 3層 黒色 10YR2/1 焼土微量、粘土中量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm)極微量、炭化物粒微量、焼土(φ1mm)微量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/1 ローム粒極微量、焼土(φ1~2mm)微量、炭化物(φ1~2mm)微量混入。
- 6a層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物(φ1~12mm)1ブロック、焼土(φ1~3mm)極微量混入。
- 6b層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/3 炭化物(φ1~20mm)少量、粘土少量混入。
- 8層 におい黄褐色 10YR7/2 粘土主体。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物(φ1~2mm)微量、焼土(φ1~18mm)極少量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~5mm)微量、焼けかけたローム(φ1~5mm)微量、焼土(φ1~3mm)微量、炭化物(φ1~5mm)微量混入。
- 11層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
- 12層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~5mm)少量、炭化物粒、焼土粒、極微量混入。
- 13層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~3mm)極少量混入。
- 14層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量、焼土(φ1~2mm)微量混入。
- 15層 黒褐色 10YR2/1 焼土粒極微量混入。
- 16層 黒褐色 10YR2/2 炭化物粒極微量、焼土(φ1~5mm:暗赤褐色)極少量、焼土粒中量、炭化物粒微量混入。

ムを底面にしており、凹凸が激しく見られる。土層 6層に分層された。色調は、黒褐色、黒色、暗褐色がみられる。1層はしまりが無く、混入物もほとんど含まない層で、自然堆積層と考えられる。2層のほとんどは炭化物で占められている。この炭化物には、図示したような材の形状をとどめているものもあるが、大半は1~2cm角のブロック状になっているものである。その他 厚い炭化物層(2層)と焼土のあり方よりみて、製炭土坑である可能性がある。

第16号土坑 (SK16) (図32)

**概要** 1HSB01の内部、H-108グリッドに位置し、1HSB01Pit7と重複し、本土坑が古い。

**構造** 平面形は開口部、底面とも不整形を呈する。規模は、開口部で138~168×167cm、深さは7.5cm前後を測り非常に浅い。壁面は部位によってばらつきがあり、ゆるやかに立ち上がったたり、急に立ち上がったたりしている。底面はほぼ平坦である。土層 3層に分層された。黒褐色土を基調とし、1~3層には炭化物、2~3層には焼土粒子を含んでいる。全層とも人為堆積と思われるが、断定できない。遺物等の出土状態 焼成粘土塊・土玉が覆土中から出土している。

**その他** 炭化材の破片と焼土が覆土中に散在している。

第17号土坑 (SK17) (図32)

**概要** 1HSB01の内部、G-108グリッドに位置する。1HSB01との新旧関係は不明であるが、至近距離にあるSK16が、1HSB01Pit7に切られていることから、本土坑も1HSB01より古い可能性が高い。しかし、1HSB01に伴う可能性も否定できない。**構造** 確認面、底面とも不整の隅丸長方形形状を呈する。規模は、確認面で133×155cm、深さ10~35cmを測る。壁面はゆるやかに立ち上がったたり、急に立ち上がったたり一定していない。底面には激しく凹凸が見られる。底面や壁面が焼けているところは認められない。土層 16層に分層された。黒褐色土を基調とし、大半の層に焼土粒子が含まれている。8層は粘土の塊である。自然堆積か人為堆積か断定できないが、様々な混入物を含む点より、人為堆積と考えられる。遺物等の出土状態 多量の土師器の破裂剥片と土師質特殊遺物、土玉、炭化米等が出土している。いずれも覆土の中位以上の層に多く、下位層には少ない。その他 炭化材片と焼土、粘土が覆土中に散在している。底面が焼土化していないため、断定できないが、多量の破裂剥片と焼土等の存在により、土器焼成遺構であったか、それに関連していた遺構である可能性が高い。破裂剥片は非常に細かいもので、1×1cm以下のものも多い。(木村 高)



### 3 井戸跡

1 基のみ検出された。

#### 第1号井戸跡 (SE01) (図33)

**概要** J-103に検出された。1 Hから南東に24m離れた微低地に位置しており、周辺に平安の遺構は見られず、重複もない。

**構造** 確認面における平面形は、やや不整な円形を呈し、底面はほぼ円形を呈する。確認面は141×153cm、底面は60×60cm、深さは255cmを測る。壁はやや屈曲しながら斜めに立ち上がり、開口部は大きく広がる。壁面の上位は一部抉れているが、これは崩落した部分と考えられ、意図的な掘り込みではなさそうである。底面は極めて平坦につくられているが、開口部の中央には位置しておらず、やや東方にずれている。覆土のほぼ中位層には、井戸枠が崩れた状態で出土している。これらの井戸枠は、平面的な出土位置の状況より判断すると、板と棒を組み合わせて方形に組まれていたものと推測される。

**土層** 土層断面図は、湧水と安全確保のために上半しか作成できなかったが、上半部は30層に分層された。下半部は平面的に掘り下げながら大まかに土層を観察した。黒褐色土を主体とし、ローム、炭化物、粘土、浮石、焼土等を混入する。3・10・18・19・21・23・24・30層にはB-Tmが含まれる。B-Tmを多量に含んでいるのは、10(火山灰1)層と23(火山灰2)層のみであり、3・18・19・21・24・30は少量の混入である。ただし、10層は、23層よりも混黒褐色土が多く混入し、汚染されていることから二次的な堆積層の可能性が高いと思われる。1~30層の大半が自然堆積層と考えられる。

**遺物等の出土状態** 土師器の坏、甕、須恵器坏、自然木、井戸枠、木製品、カラス貝、シルト礫、ミニチュアの土師器2点が出土した。23層(火山灰2)の下位層からは、内黒の土師器坏1点と須恵器坏2点の計3点の坏がまとまって出土している。いずれも略完形に復元された。これら3点の坏は、一括廃棄されたものであると考えられる。なお、火山灰2の下層の覆土中には、多量の種子が含まれている。

井戸枠の大半は、23層の下位に出土しているが、いずれも直立気味に出土していることと、図63-2の板材の出土時の下端は、23層中にあったことから、井戸枠は本来、出土時の位置よりも上位にあり、23層の堆積以前に大半が崩れ、沈下し、図63-2の材のみは23層の堆積過程にあるいは堆積後に落ち込んだ可能性が考えられる。

(木村 高)

#### SE01

1層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~2mm) 微量混入。	16層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ1~3mm) 極少量、ローム粒微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~3mm) 微量、軽石(φ2~3mm) 微量混入。	17層 黒色 10YR1/1 ローム粒微量、炭化物粒全体混入。しまり無。
3層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~2mm) 極微量、B-Tm(φ5mm)、炭化物粒微量混入。	18層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1~7mm) 極少量、B-Tm(下方) 微量、炭化物粒微量混入。
4層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1~3mm) 極少量、炭化物粒多量混入。しまり無。	19層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~2mm) 微量、炭化物(φ1~2mm) 微量、B-Tm少量混入。しまり無。
5層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1~5mm) 微量、炭化物粒中量混入。しまり無。	20層 黒褐色 10YR3/1 Viローム(φ1~5mm) 極少量、炭化物(φ1~2mm) 極少量、粘土中量、所々に鉄分混入。
6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~7mm) 極少量、軽石(φ2mm) 微量、粘土1ブロック混入。	21層 黒褐色 10YR3/1 ローム粒微量、炭化物(φ3~5mm)、軽石(φ2~5mm) 極微量、B-Tm多量混入。
7層 明黄褐色 10YR6/6 Vローム主体。黒褐色土微量混入。	22層 黒色 10YR7/1 Vローム(φ1~5mm)、炭化物粒混入。しまり無。
8層 黄褐色 10YR5/6 ローム(崩落土)。	23層 暗灰黄色 2.5Y4/2 B-Tm主体。黒色土微量、黒褐色土少量混入。
9層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1~3mm) 少量混入。	24層 黒褐色 10YR3/1 ローム粒微量、炭化物(φ1~3mm) 極少量、粘土微量、B-Tm微量混入。
10層 黄褐色 2.5Y5/3 B-Tm少量、黒褐色土少量混入。	25層 黒褐色 10YR2/2 Viローム(φ1~5mm) 微量、ローム粒微量、炭化物(φ1~3mm) 極少量、粘土極少量混入。
11層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1~2mm) 極少量、粘土(φ1~5mm) 極少量、炭化物(φ1mm) 極微量混入。	26層 におい黄褐色 10YR6/3 ローム粒微量、軽石(φ1~3mm) 微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
12層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~10mm) 中量、ローム粒微量、炭化物(φ2~3mm) 微量混入。しまり無。	27層 黄褐色 10YR5/3 ローム極微量、軽石(φ1~3mm) 微量、炭化物(φ1~3mm) 微量混入。
13層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1~5mm) 極少量、炭化物粒微量混入。	28層 黒褐色 10YR3/2 Viローム(φ1~3mm) 少量、粘土(φ1~5mm) 極少量混入。
14層 黒褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~20mm) 極少量、Viローム(φ1~10mm) 極少量、粘土(φ2~25mm) 1ブロック、鉄分、焼土極微量混入。	29層 灰黄褐色 10YR5/2 炭化物粒微量、粘土(φ1~5mm) 微量混入。
15層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1~3mm) 少量混入。	30層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 微量、Viローム(φ1~5mm) 微量、炭化物粒微量、B-Tm微量混入。

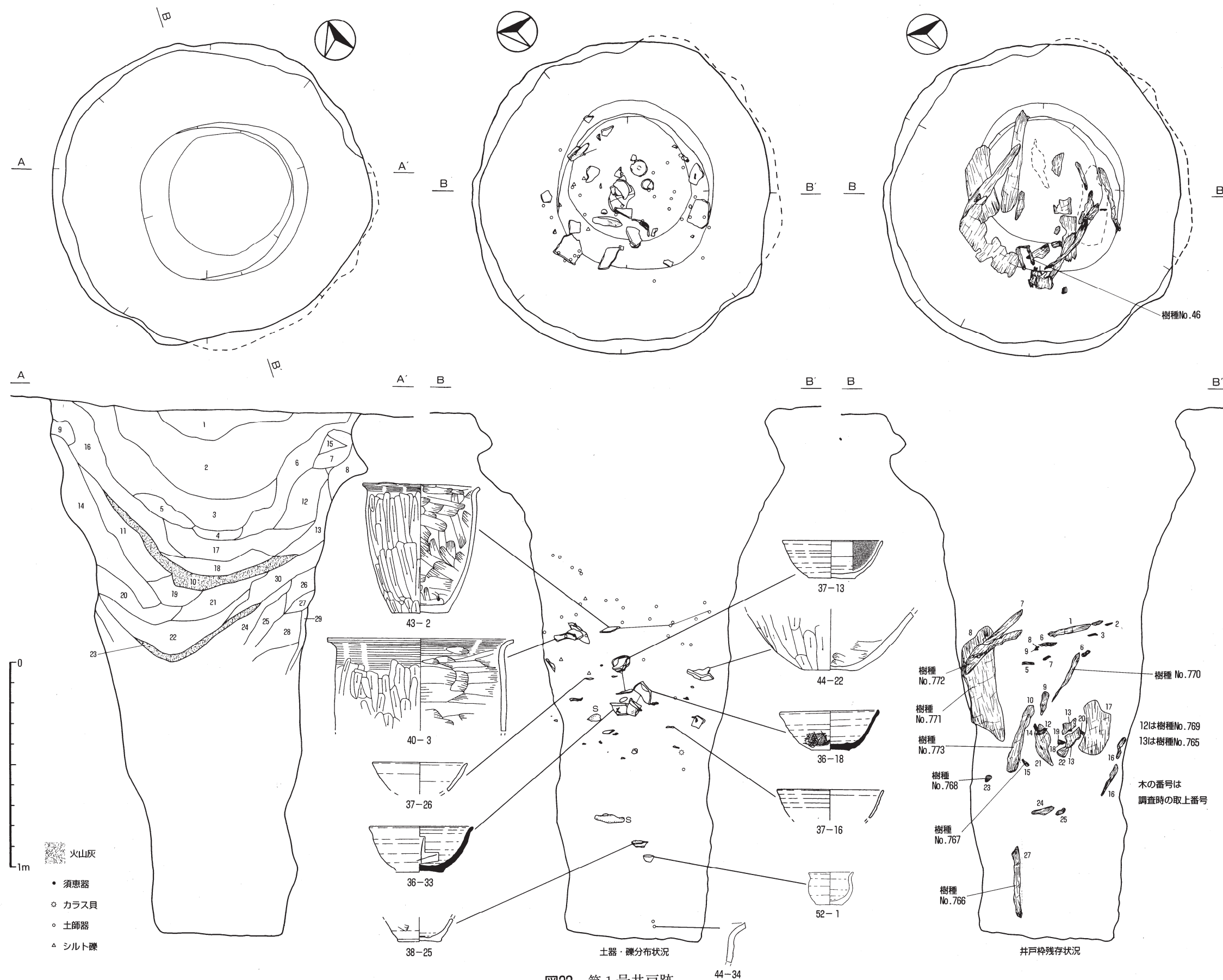


図33 第1号井戸跡



## 4 並列溝状遺構

### 第1号並列溝状遺構 (SDX01) (図34)

**概要** 調査区の中央域で一面検出された。検出範囲は現代の農道の下と調査区際限定されているため、全体の状況については不明であるが、9条(A～I)の溝跡が縞状に並んでいるものである。隠川(12)遺跡においても酷似する遺構が検出されている。確認面は第Ⅲ層の上面である。

**重複** 付近に1H、2Hが位置していることから、重複していた可能性は十分あるが、7年度の粗掘の段階で、現代道路の幅の範囲と調査区際の幅狭の範囲以外は除去されていたため、重複関係については不明である。※溝跡AとBの間にはSK10が位置しているが、SK10の掘り込み面は第Ⅳ層上面であることから、重複の関係にはない。

**確認状況** 調査区内を斜走する農道の断面を薄く削ったところ、B-T<sub>m</sub>を混入する土層が、ほぼ等間隔に分布していることに気づき、検出に至った。確認範囲の大半が道路の下であることから、遺存状況は不良で、特に農道の轍が第Ⅲ層の中位にまで食い込んでいたために、プランの確定には非常に困難を窮めた。第Ⅲ層の上面を露呈させたところ、縞状に並ぶ9条の溝跡の存在は認識できたものの、確認面における溝跡の覆土の色調は、黒色を呈する第Ⅲ層の土壌が基調であり、その土壌中にB-T<sub>m</sub>が多量に混入している場合に限り溝跡の輪郭は容易に把握できても、B-T<sub>m</sub>が微量にしか混入していない溝跡の輪郭の把握は困難であった。また、溝跡の覆土は、B-T<sub>m</sub>を混入しているために、快晴日には、火山ガラスが非常によく光り、また、手触りも非常にさらさらするものであったことから、快晴日を狙って調査をすすめた。なお、多くB-T<sub>m</sub>を含む溝跡はA・Gである。

**構造** 9条(A～I)の溝跡が縞状に並んでいるものである。各々の溝跡には広狭の差が顕著であり、また、1条の溝跡をとってみても広狭がみられる。この要因は、本遺構が農道の下に検出されたものであるために、かなりの長期間にわたって填圧が加わり、全体的に潰れていることにある。ただし、溝跡Iは、農道下には位置していないため、遺存状況は良好である。よって、溝跡Iは9条の溝跡の本来の幅、深さを代表しているものと推定される。両端部の検出された溝跡は1条も無いことから、全長は全く不明である。方向は、N-55°-Wを示す。確認面における幅は24～88cm、深さは6～12cmを測る。隣接する溝と溝との心心距離は160～236cmで、全体の平均値は210cmである。断面形は基本的に皿形を呈すものの、底面にはやや凹凸がみられるため、地点による形状差がみられ、歪んだ皿状を呈すところもある。底面には窪みが少々みられるが、工具痕として認定できるものは無い。

**土層** A～Iの全ての溝跡の覆土は、第Ⅲ層起源の黒色シルトをベースにB-T<sub>m</sub>がパウダー状、層状に混入しているものである。B-T<sub>m</sub>は底面に近づくにつれて厚く堆積する傾向がみられるものの、火山灰の平面的な混入状況を見ると、厚く堆積している部分や薄い部分、或いは微量にしか混入していない部分等があり、全面を均一に覆うものではない。

**出土遺物** 数点の土師器、須恵器の小破片と板状の礫1点が出土したのみである。これらのほとんどは、付近にある住居跡や土坑の覆土から浮上したものや、散在していたものが混入したものと考えられる。

**その他** 本遺構が、畝跡に関連するかどうかを判断するため、プラントオパール分析を実施する予定であったが、時間的制約から実施しなかった。

(木村 高)

隠川(4)遺跡

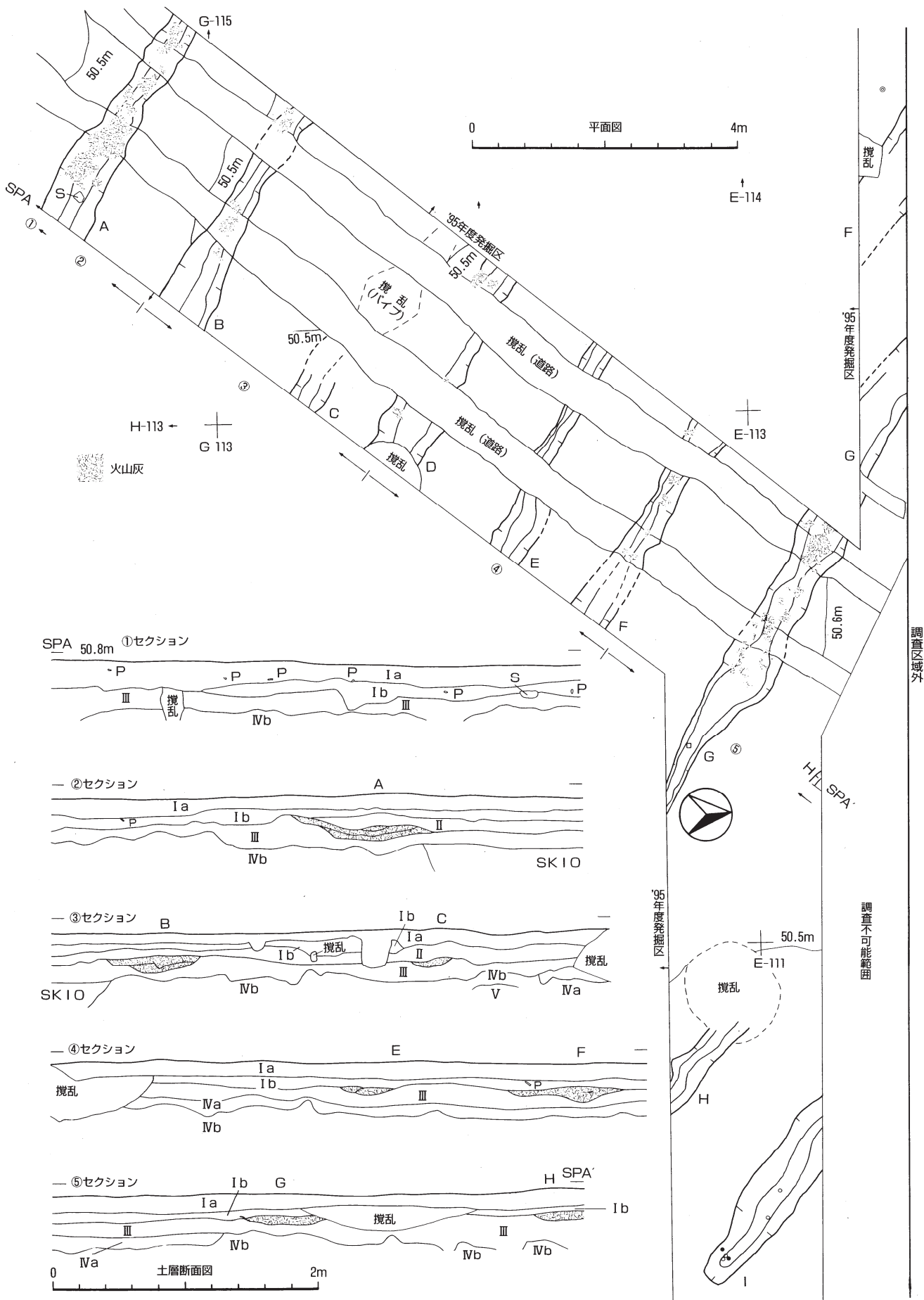


図34 並列溝状遺構



## 5 溝 跡

### 第1号溝跡 (SD01) (図35)

**概要** D・E-111グリッドに位置する。付近にはSDX01と1Hがある。

**重複** SDX01と重複し、本溝跡が古い。ただし、直接的な重複関係にはない。

**構造** 調査区外に伸びており、加えて7年度の粗掘により南側が消失しているため、全形は不明。幅72~116cm、深さ10~15cmを測る。壁は斜めに立ち上がる。

**土層** 1層のみで分層されない。10YR1.7/1の黒色土にローム粒を混入する。

**出土遺物** 土師器片が少量出土している。

(木村 高)

## 6 その他の遺構

### 第1号特殊遺構 (SX01) (図35)

**概要** 第Ⅲ層上面にマウンド状の円形ロームが検出されたことから、一般的な遺構ではないと判断したものである。1HSB01の内部、H-108グリッドに位置しているが、1HSB01と直接的に重複していないため、新旧関係は不明である。1HSB01に伴うものである可能性も否定できない。

**構造** 浅い不整円形を呈す掘り込みの中に、第Ⅵa層相当の円形でにぶい黄褐色(10YR 4/3)を呈すローム(2層)が盛られているものである。浅い掘り込みがあることから、土坑として捉えることもできなくはないが、ロームはその浅い掘り込みよりも厚く盛られている。ロームの平面規模は、60×62cm、厚さは8cmを測る。土坑状の掘り込み部分の平面規模は、ロームとほぼ同じであり、深さは8cmを測る。

**土層** 2層に分層された。1層は明黄褐色(10YR 6/6)のローム粒を多量に混入する土である。

**出土遺物** なし。

(木村 高)

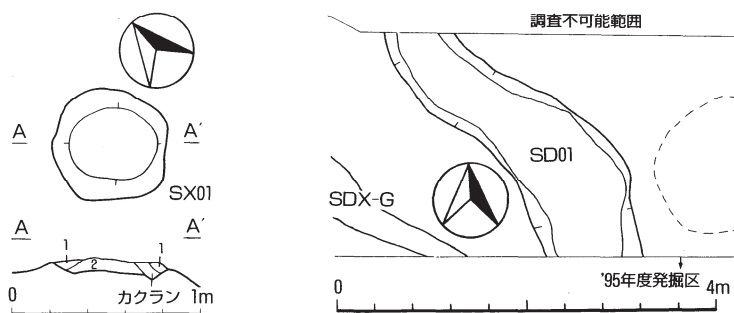


図35 第1号盛土状遺構・第1号溝跡

## 第2節 平安時代の出土遺物

### 土師器・須恵器の概要

この時期の遺物出土総量は遺構内・外合わせてダンボールで約40箱である。このうち、竪穴住居跡及びそれに伴う外周溝からの出土は、全体の約2/3である。口縁部から底部までのほぼ全体像を把握できる接合個体は出土破片数のわりに非常に少なく、ほとんどの掲載遺物は復元実測である。ここでは、土師器・須恵器の器種毎の特徴、また重要だと思われる遺物の特徴を述べる。また、出土破片数が多く、ここで実測・掲載した遺物以外にも多くの未掲載遺物があり、一部の遺物に対する記載であることをお断りしておく。

### 1 土師器

#### 皿・坏 (図37、図38-1~5、11~14、23~31、図47-8~10)

すべてロク口調整である。内面黒色のもの(37-13、38-6・7・13)、内面にミガキ調整を施すもの(38-4・5・6)、ヘラ書きを施すもの(37-12・19・34・35・39、38-31など)がある。口径は130~140mmに収まるものが多いが、38-1~7のように160~170mmのやや大きいものの出土もある。38-13は口縁部が明瞭に内側に屈曲した立ち上がりを見せるもので、内外面ともミガキにより平滑に仕上げられている。このような口縁部形態はこの1点のみである。38-31は6HRP01出土であり、絵画と思われるヘラ書きが胴部に大きく刻まれている。また、おおよそ絵画刻書の反対側と底部にも何か記号的なヘラ書きを施しており、坏1つにこれだけのヘラ書きを施すものは稀有と思われる。

#### 甕 (図39~図45-9・11)

##### 長胴甕 (I群)

外面のケズリは胴部中央又はそのやや上位より底部にかけて施すものが主流のようである(39-1・2・3など)。39-6は外面の口縁部まで粘土が付着しており、口縁部の歪みが激しい。おおよそ粘土の付着の薄い所から外面は胴部中央まではケズリによる調整を施していないと思われる。44-14は内面の調整が特徴的であり、櫛状の工具によるものと思われる。底部は砂底である。41-5は口縁部の屈曲が小さく、長さも短いものであり、本遺跡出土の長胴甕では稀有な口縁部形態である。42-18・19は外面にタタキ痕を有する。内外面とも磨滅が著しく、浅黄橙色を呈す。

##### 長胴甕 (II群) (39-5、40-2~9)

器面調整を見ると、口縁部外面はヨコナデを例外なく施し、内面はヨコナデを施すものと胴部のナデ調整とほぼ同じ調整を施すものがある。また、外面の口縁部直下を指又は何らかの工具によると思われるナデつけによる調整を施すものがあり(40-4・5・8)、その部位には接合痕が明瞭に確認できる。7は胴部内外面とも縦にナデ調整(やや水気の多い、乾燥が進んでいない段階での調整である)を施している。色調は褐色、胎土は非常に密であり、焼成は硬質で、本遺跡出土の土師器甕の中では特異なものである。胴部外面には炭化物が付着している。口縁部外面にはヘラ書きを有していることも特徴的である。8は1HRP01からの出土であり、胎土には砂粒を非常に多く含み、器厚は6~8mmと薄い。外面胴部には炭化物の付着はみられないが、黒色からにぶい赤褐色を呈し、二次焼成



を受けていると思われる。9は器厚が10～14mmとⅡ群の中では厚手の方である。やや胴部が張る器形を呈している。39-5は器形的には39-2などのロクロ調整のものと似ているが、外面胴部上半は弱いナデ調整であり、接合痕が明瞭に確認できる。

#### 小型甕 (Ⅰ群)

長胴甕に比べ、口縁部内面に炭化物が付着しているものが多い。調整を見ると、外面胴部上半にケズリ調整が確認できるのは43-23のみである。底部まで残存しているものは底部付近にケズリ調整を施しているが、胴部から口縁部にかけてはロクロ調整痕を主体としていると言える。内面もロクロ調整主体である。底部は回転糸切りがほとんどである。

#### 小型甕 (Ⅱ群)

1H及び1H外周溝からの出土が多い。器面調整から口縁部内外面にヨコナデ調整を施すもの(43-7～9・12)と口唇部近くまでケズリ・ナデ調整を施すもの(43-10・13、45-6・7)におおよそ分けられる。43-7～9は口縁部形態、器厚などが異なるが、口縁部内外面のヨコナデ調整が顕著であり、胎土も似ている。10・13は器形・調整・法量が非常に酷似しているが、別個体である。

#### 壺 (図46-16、17、19)

16は4Hカマドの本来支脚が存在したであろうと思われる箇所からほぼ胴部中央から底部にかけて底部を上にして出土した。外面調整は胴部上半まで横のケズリを施し、その後縦に胴部中央で約20mmの間隔をあけて放射状にミガキ調整を施している。このような調整は本遺跡出土破片において他に見当たらない。内面は口縁部から頸部にかけて横のミガキ、胴部は縦のミガキ調整であり、内面黒色処理を施す。底部は砂底であるが、付着している砂は疎である。胎土、器表面はSK05出土の破片と非常に酷似している。17はSK05出土であり、内面のミガキ調整はロクロ調整痕の凸部に顕著に見られ、凹部にはやや調整が行き届いていない感じである。器表面は他のSK05出土破片と同様やや光沢があり、焼成も堅緻である。19は外面口縁部直下からみて双耳であると思われる。口縁部内外面はヨコナデを施す。口唇部は面取りをしたというより、調整不良という感じである。胎土に砂粒を多量に含んでおり、焼成はやや軟質である。成形的に非常に雑な作りである。

#### 埴 (図47-1～7)

全て非ロクロである。胎土に砂粒を含むものが多い。出土個体数は少ないがあえて分類するなら、口縁部はほぼ直線的なものと外反するもの、また胴部は直線的なものとやや膨らみをもつものに分けることが出来る。炭化物の付着は1・2・7にみられ、全て外面胴部上半である。1・2は胴部の形状がやや異なるが、内外面の調整、口縁部外反、胎土・焼成などからみて非常に酷似している。2の底部はケズリ調整を施していると思われるが、磨滅が著しい。3は内外面ともケズリ調整による砂粒の動きが顕著であり、色調は黒褐色を呈する。5は口縁部外面のヨコナデが他の破片に比べ顕著であり、また器形も器高がやや深いものと思われる。胎土・焼成・色調の面では3と似ている。

#### 羽釜 (図47-20・21)

共に1HSD01からの出土である。20は手捏ねによる成形と思われ、内外面の調整が非常に顕著に観察できる。胎土には砂粒を多量に含み、焼成は堅緻である。色調は黒褐色、赤褐色を呈す。口縁部直下の張り出しは成形後に粘土紐を貼り付けている。底部はケズリによる調整を施し、表面積の約1/2は成形時の凹みが顕著である。21は器面の磨滅が著しく、口縁部直下の張り出しも成形後の貼り

付けかは不明である。

図化はしていないがSK17・18、4Hカマド、SK05から土器焼成時に割れたと思われる破片(破裂剥片)が出土している。出土数量は35cm×25cm×5cmのデスクトレで2箱である。全て土師器であり、破片の大きさは5cm四方以下のものが多い。坏、甕、壺の類の破片が見受けられる。断面形態は外器面と内器面が裂けたようになっており、器表面と断面はほぼ同じ色調(明黄褐色)を呈している。器表面はミガキは施されていないが、やや光沢がある感じである。(三林 健一)

## 2 須恵器

### 皿・坏(図36、図38-8~10、15~22)

36-44は口縁部に焼成時のものと思われる歪みがある。36-32は底部が他のものに比べるとやや厚く、その形状も特異なものである。胴部下半に故意のものとは思われないが、十分に乾燥が進んでいないうちに付いたと思われる指痕が確認できる。胎土、色調は特異な点は見られない。ヘラ書きに関しては、その比率が高いように思われる。そのうち「大」の文字が多く36-4・13・38などである。また「田」と思われるもの(36-11)、ヘラ書きの部分にミガキを施すもの(36-18)、その他何かの記号と思われるもの(36-36)など様々である。

### 鉢(図45-10~13)

10~12は非常に器厚が薄く、口縁部から胴部にかけては4~6mm程である。11・12は6HSD01からの出土であり、口縁部形態に違いが見られる他は、色調(青灰色)・断面観察(坏の分類でいうウ)・底部(ケズリによる調整)などの点で非常に酷似している。また12のヘラ書き「大」は口縁部から胴部下半にまで及ぶものである。13は内外面にぶい赤褐色を呈し、断面観察は坏の分類でいうイである。外面底部付近に若干のナデ調整を施す他は、ロクロ調整痕のみであり、胎土には砂粒を他の須恵器に比べ若干多く含む。底部はケズリによる調整を施している。色調・胎土などの面で本遺跡出土の須恵器の中では稀有である。

### 壺(図45-15~図46-15・18)

長頸壺と短頸壺に分けることが出来る(観察表に記載)。外面調整は胴部最大径より下半にケズリ、内面調整は底部付近にナデをおおむね施すと言える。長頸壺は頸部から肩部の境に1・2条の段を有する。45-15は頸部のほぼ中央にヘラ書きを有す。底部の欠損は口縁部から胴部下半にかけてほぼ完全に残存していることと断面観察から故意のものと思われる。色調は青灰色を呈し、胎土には若干砂粒を含む。45-15と色調・胎土の面でおおむね似ていると思われるものは他に、45-16・17・19・21、46-2~6などである。断面は坏分類でいうウのものが多い。45-17は法量が他のものに比べ大きく、底部はケズリ調整を施している。灰白色系のもは45-18、46-1・7・14・18であるが、菊花状の底部調整痕を有する45-18と46-18が共に灰白色系であるというのが特徴的である。

### 大甕(図47-8~10)

8は内外面とも調整が丁寧な施され、タタキ・当て具の痕跡は確認できない。9の内面もナデ調整が丁寧に施され当て具痕は不明である。10はSK05の底面と4Hの床面から出土、接合したものである。ややうすい青灰色を呈し、外面のタタキは条数7~9本の格子目風と思われ、内面は布を押し当てた



ような跡(不明)が確認できる。

(三林 健一)

### 3 ミニチュア土器

1 Hに伴う外周溝(11点)、SK17(12点)からの出土が多い。また6 HRP01、SE01からも出土している。出土数52点すべて土師器である。

#### I-A類(図52-1・2・3)

1はSE01からの出土である。全体的に歪みがなく、丁寧な作りである。胎土はやや脆い感じを受ける。3は内面のロクロ調整痕が非常に明瞭である。1~3は全て底部回転糸切り痕だが、3は棒状工具による調整を施している。

#### I-B-a類(図52-6~10、21~24、28、43、51)

6~8、10は口縁部を指でつまみ出しており、指痕が明瞭である。特に6、8は器形・法量・胎土等が酷似している。7は非常に雑な成形で、ひび割れも激しい。21~24は坏・塊を模したものと思われる。22は1と同じSE01からの出土であり、1に比べ硬質で、胎土に砂粒などの混入物もあまりない。断面は灰色を呈している。28は粘土塊に指を差し入れ、広げるようにして体部、口縁部を作り出した感がある。外面は非常に雑な調整で、底部は歪みが激しく不安定である。51は内外面には出していないが、断面観察は赤褐色を呈している。

#### I-B-b類(図52-4、5、11~20、25~27、29~42、44~50、52)

4は口縁部を指でつまみだした後、粘土紐を口縁下部に貼り付けている。羽釜を模倣したと思われる。5は外面を平滑に調整し、内面は非常に雑な調整である。胎土には砂粒をほとんど含まない。11の外面調整は5に酷似しており、平滑なものである。底部は細い粘土紐を貼り付け底上げをしている。外面口縁部近くにほぼ並行な4本のヘラ書き(?)を有する。12は口縁部を摘みだし風に形作っている。15の内外面・底部を丁寧に撫でつけた感である。16は外面は底部から口縁部に向けてのケズリを施し、底部もケズリである。口縁部にタール状の黒色物質が付着している。17は傾きが不明であるが、塊状を呈するかもしれない。18は肩部の上に調整の際に出た余剰粘土を波状に貼り付けていると思われる。19は外面の調整が非常に明瞭であり、一つ一つのケズリが面を成している。胎土には砂粒の混入が目立つ。25は口唇部をケズリにより面取りをしており、外面にはタール状の黒色物質が付着している。26は底部を撫でつけており、内面は雑な調整である。29は口縁端部を外に折り曲げている。31、32等断面のみのものは、あまりにも細片であるため、全体の器形・傾き等不明な点が多いが、内(外)面に調整を施しているのと、破片全体の微かな湾曲からミニチュア土器と判断した。(三林 健一)

隠川(4)遺跡

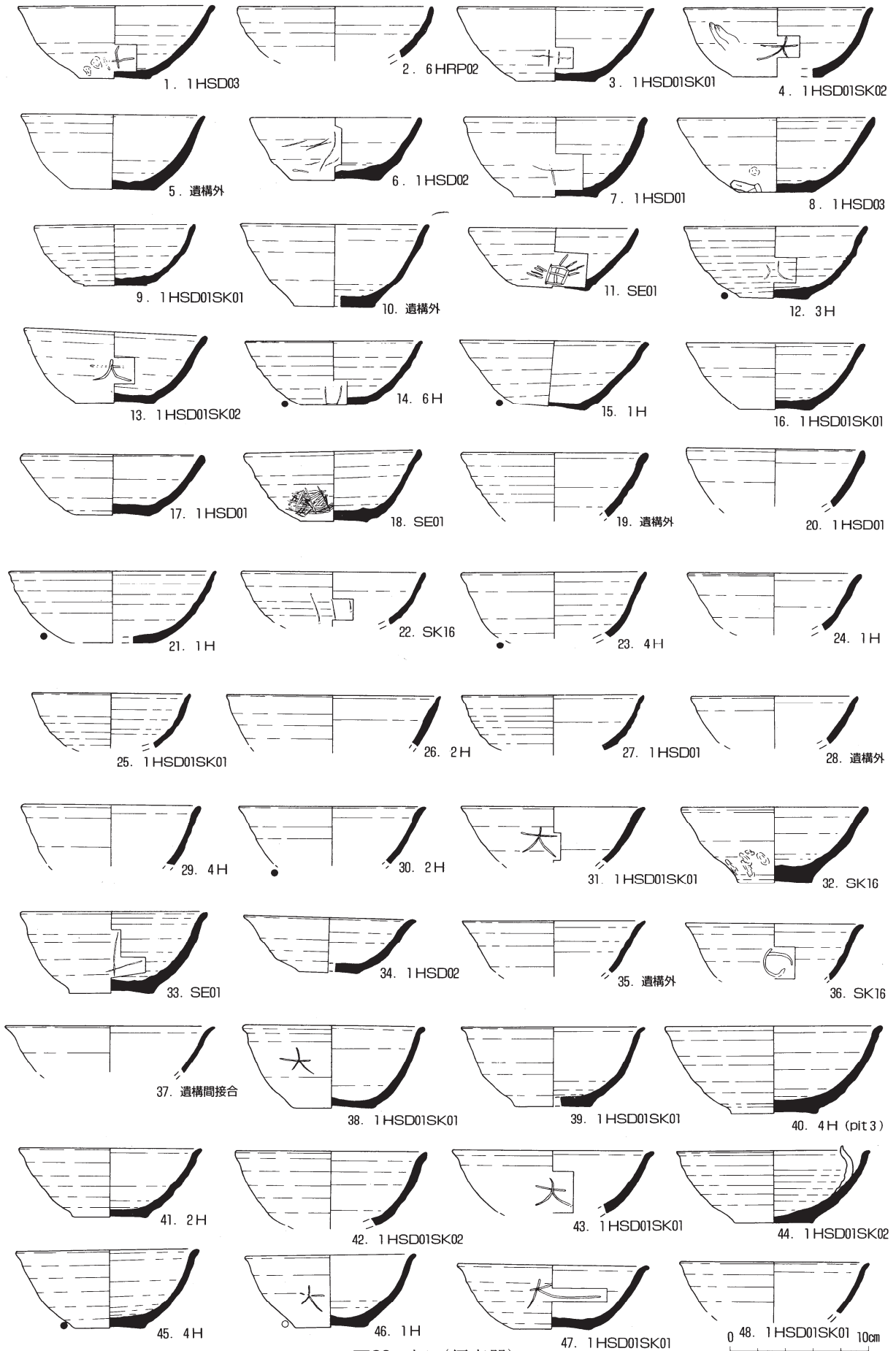


図36 坏 (須恵器)



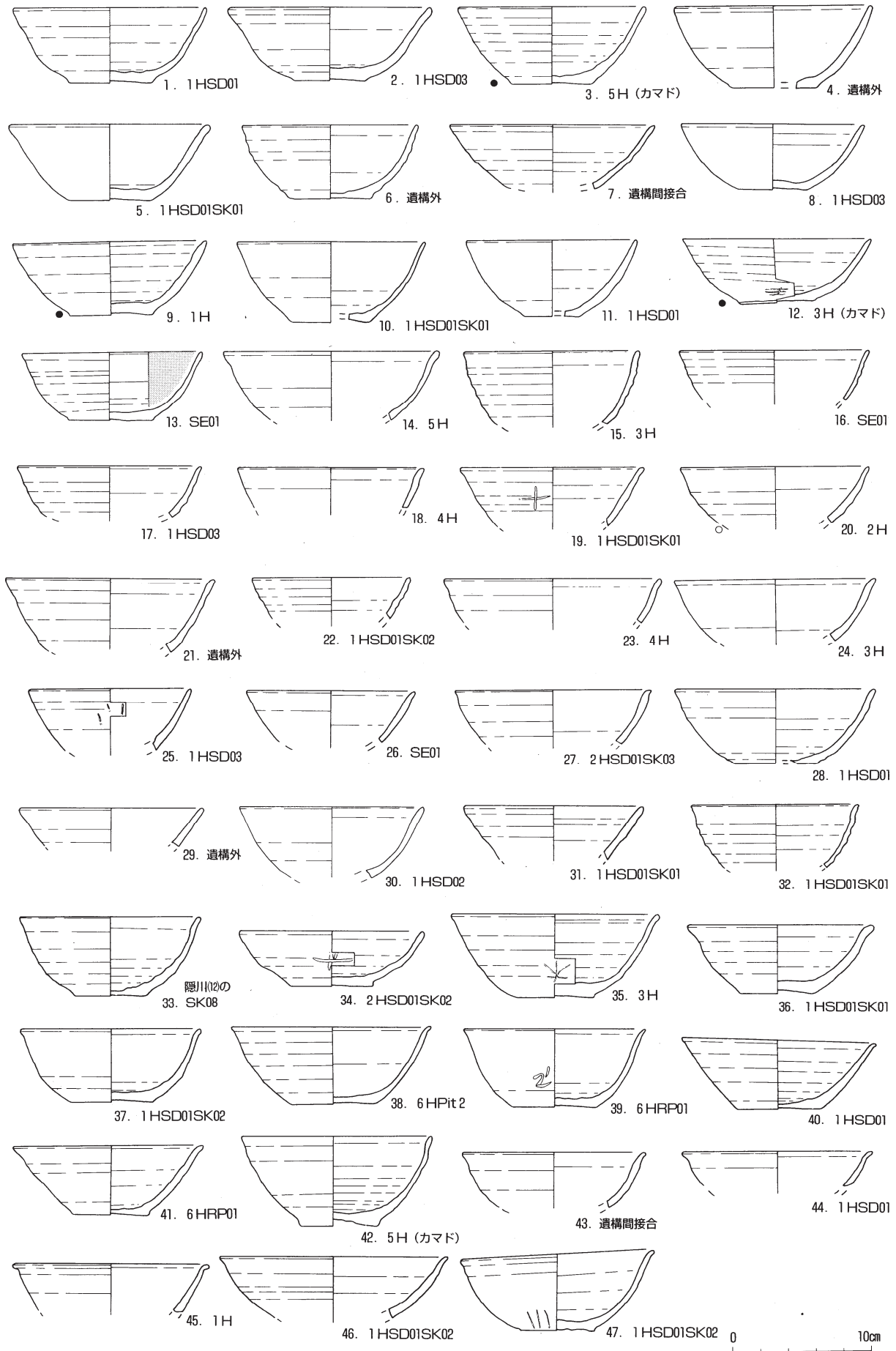


図37 皿・坏 (土師器)

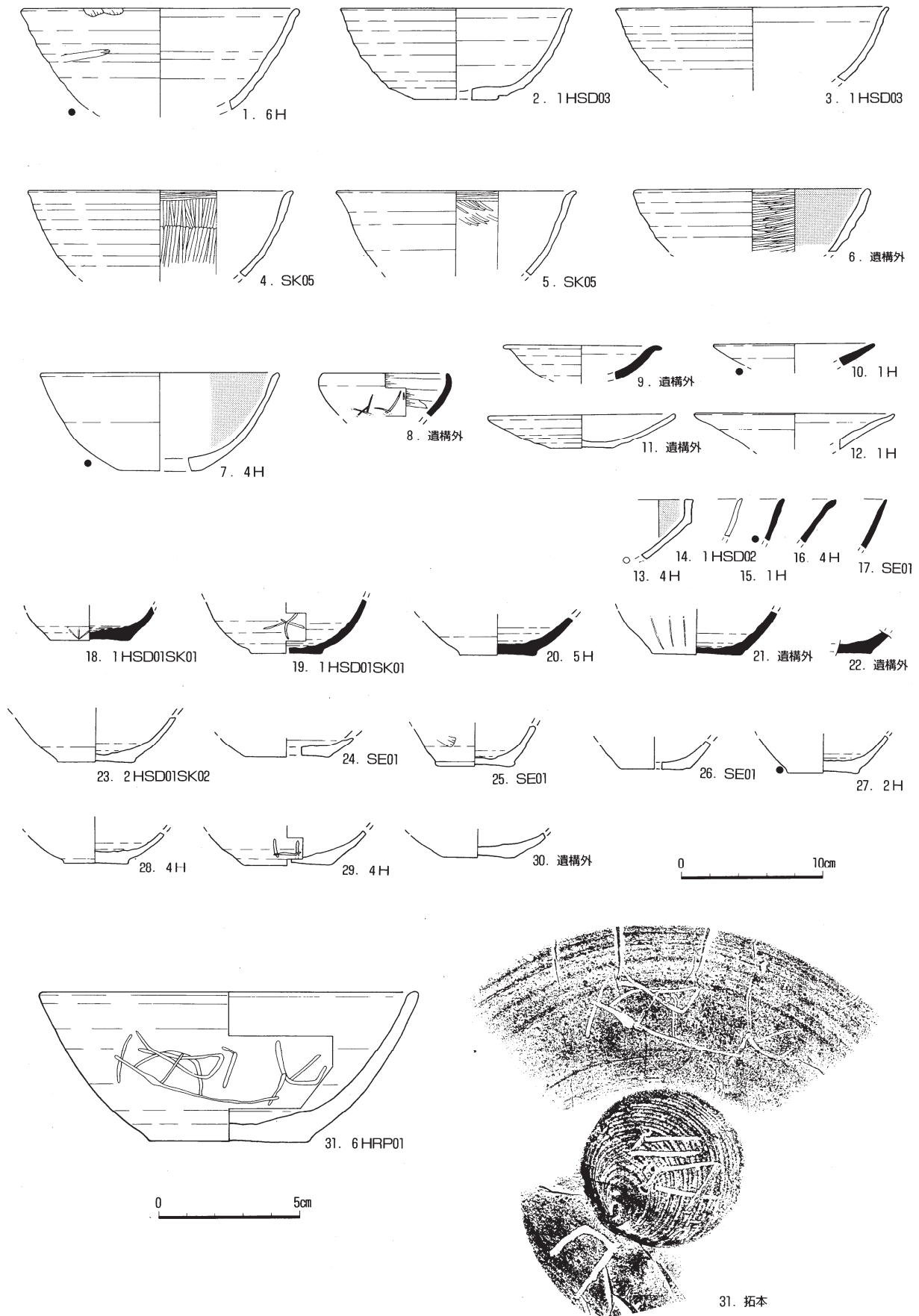
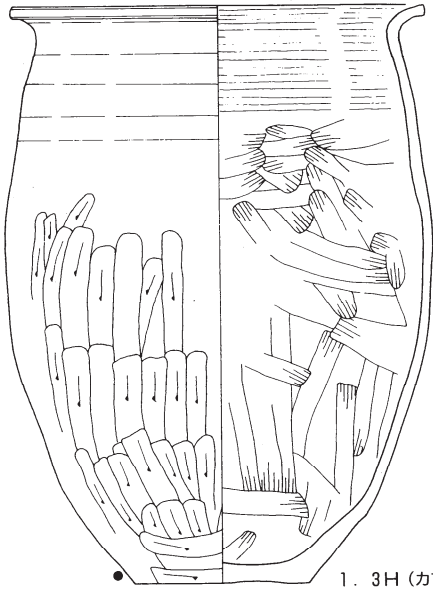
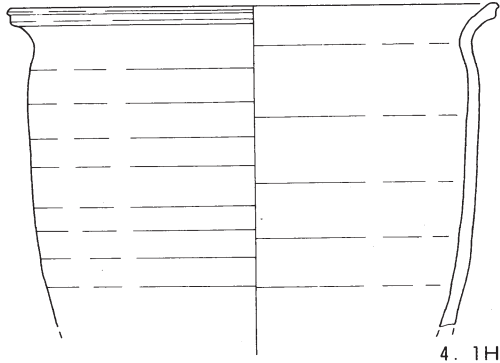


図38 皿・坏 (須恵器・土師器)

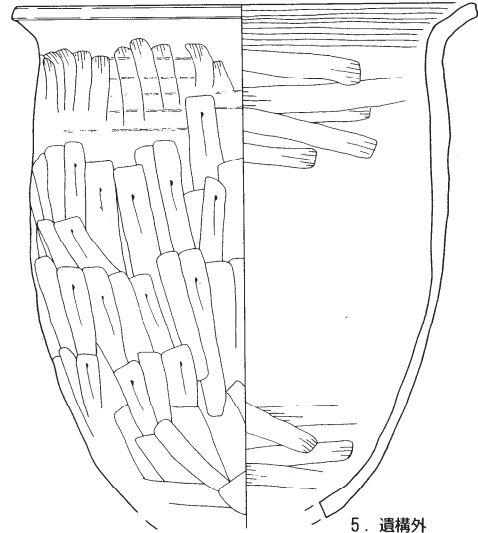




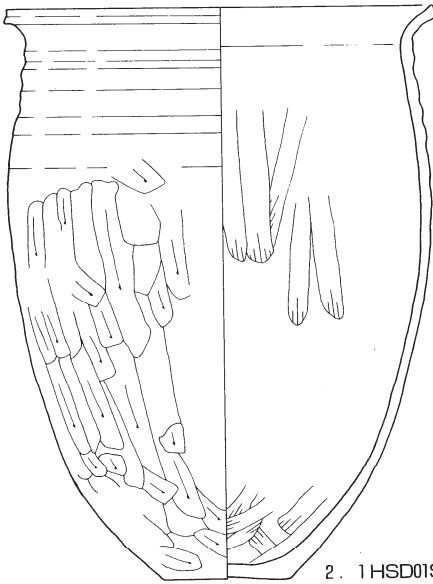
● 1. 3H (カマド)



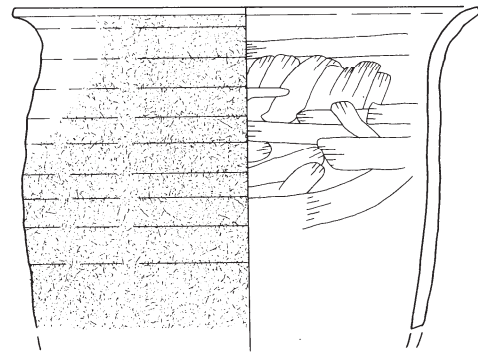
4. 1HSD03



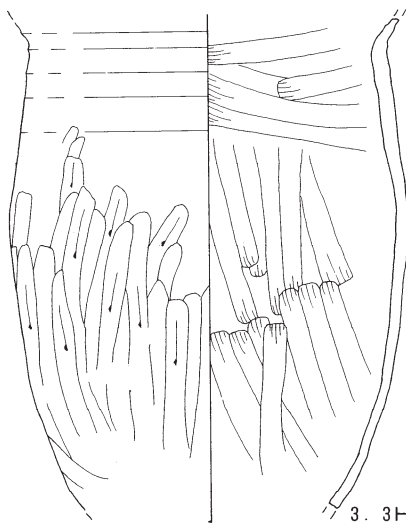
5. 遺構外



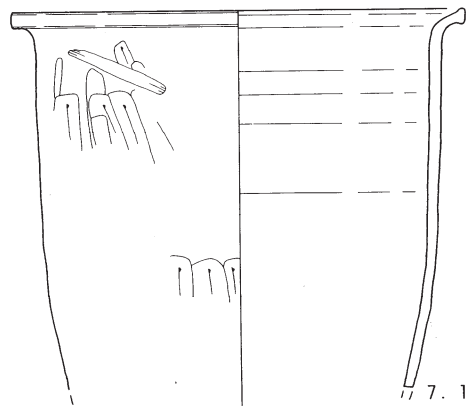
2. 1HSD01SK02



6. 1HSD01SK02



3. 3H (カマド)



7. 1HSD01SK01



図39 甕 (土師器)

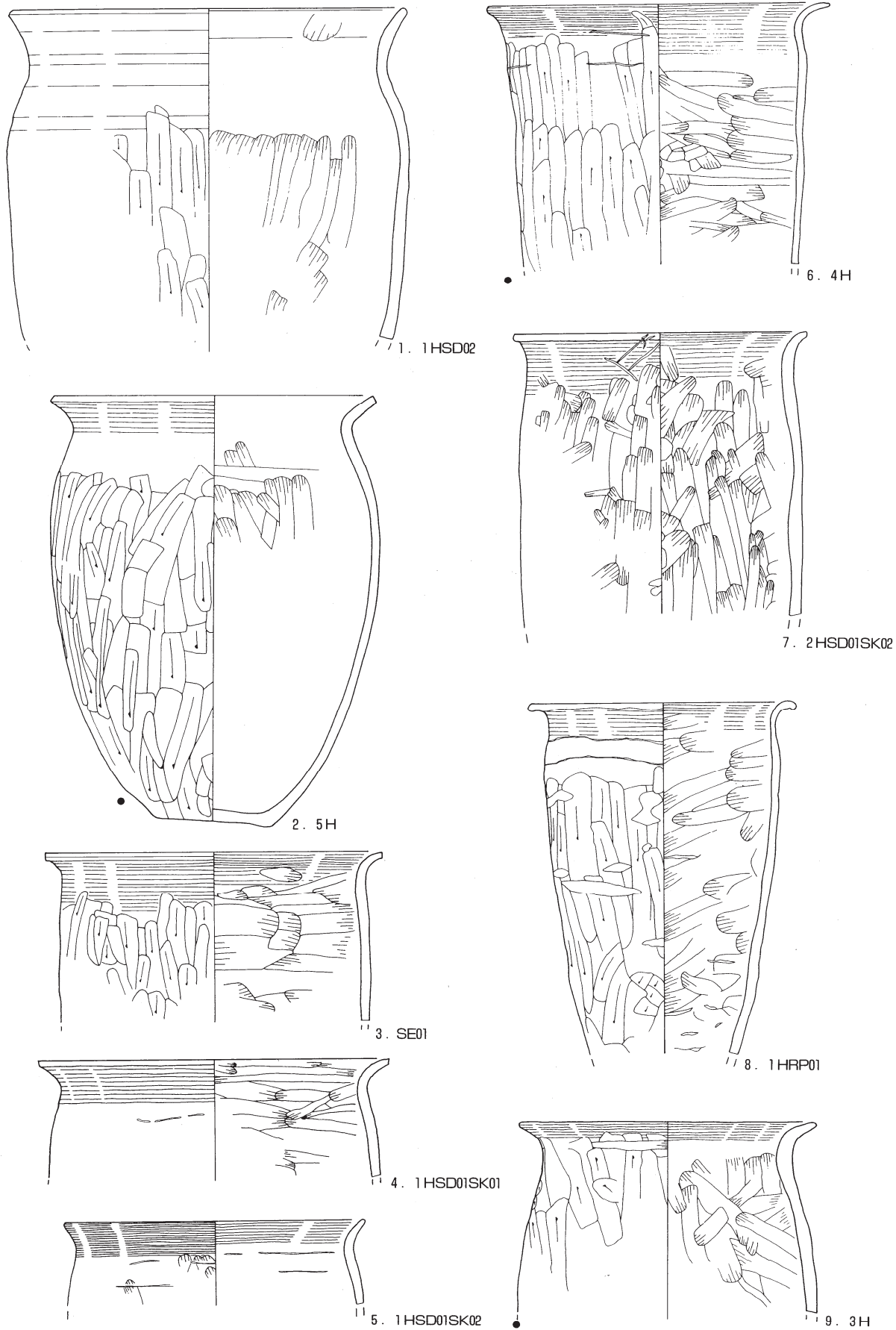
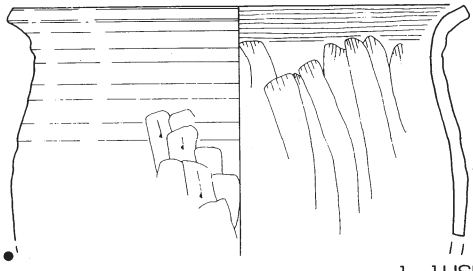
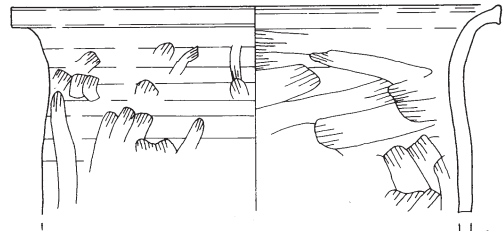


図40 甕 (土師器)

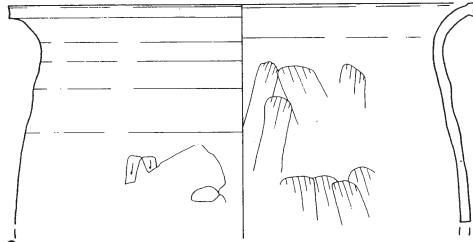
0 10cm



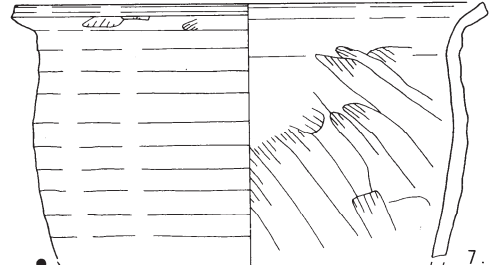
1. 1HSD01



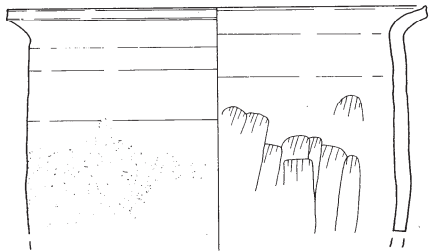
6. SK16



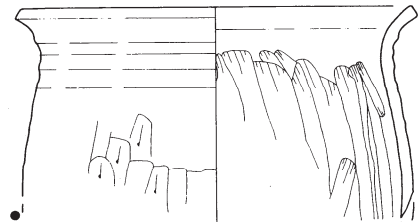
2. SK05



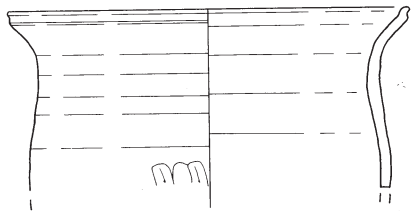
7. 1H



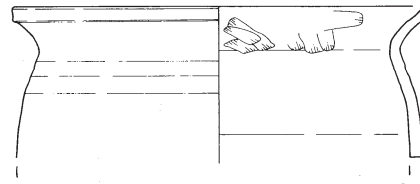
3. 3H (カマド)



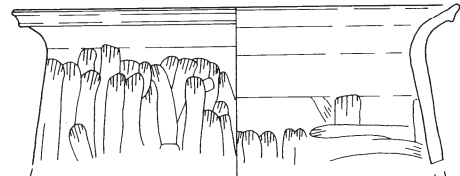
8. 4H (カマド)



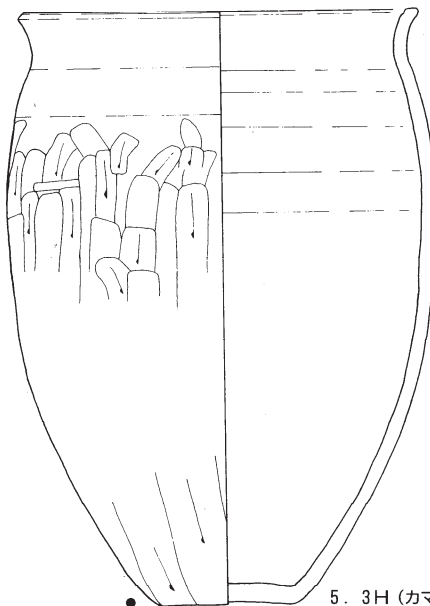
4. 2HSD01SK03



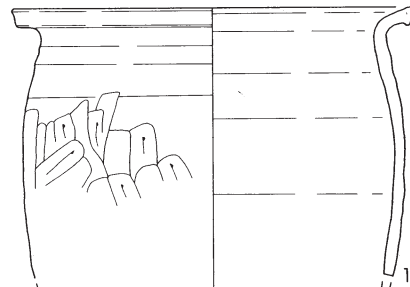
9. 4H (カマド)



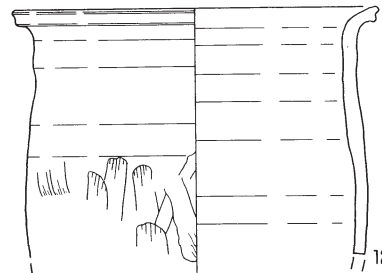
10. 4H



5. 3H (カマド)



11. 1HSD01SK02



12. 1HSD01SK02



図41 甕 (土師器)



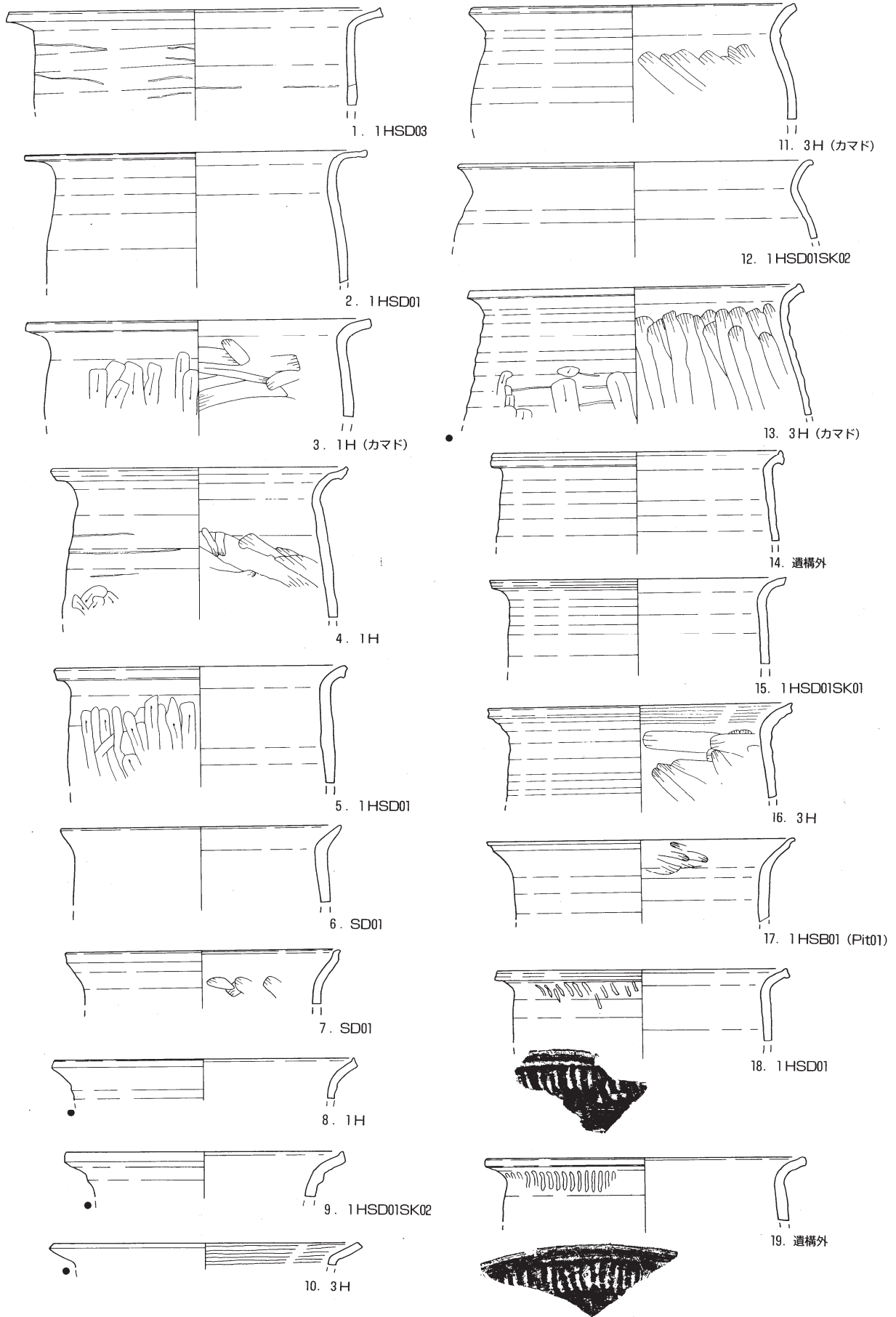


図42 甕 (土師器)

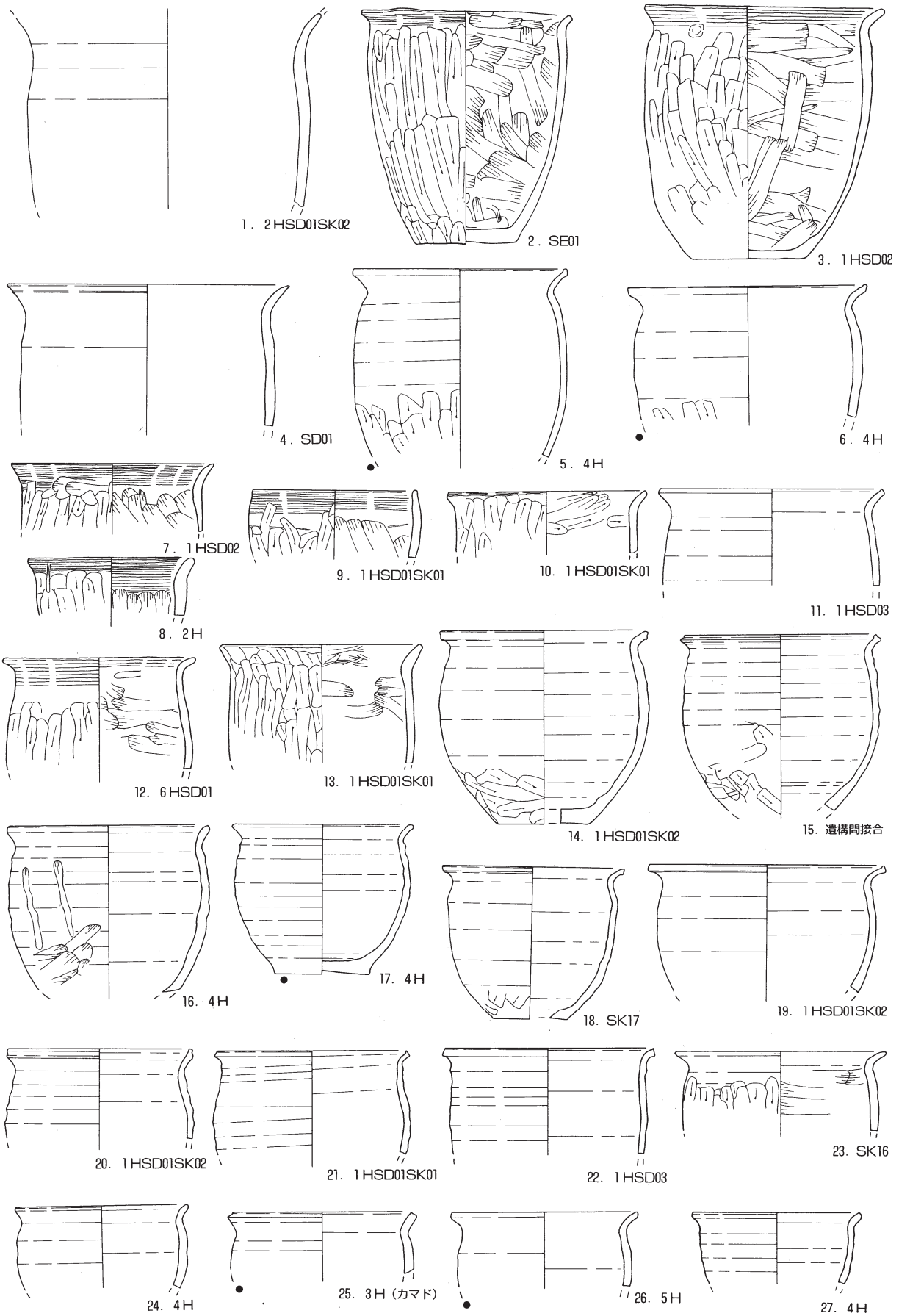


図43 甕 (土師器)

0 10cm

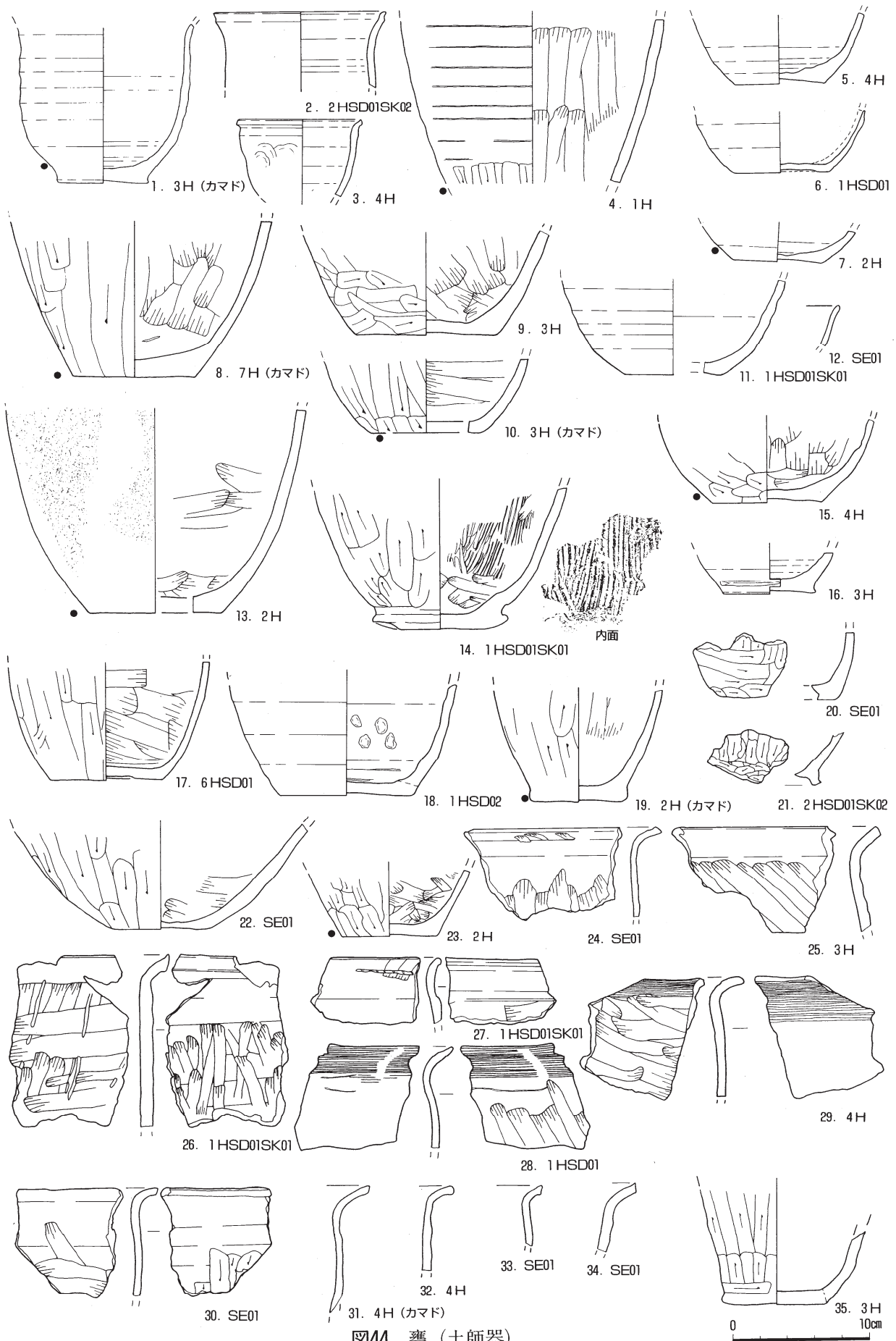


図44 甕(土師器)



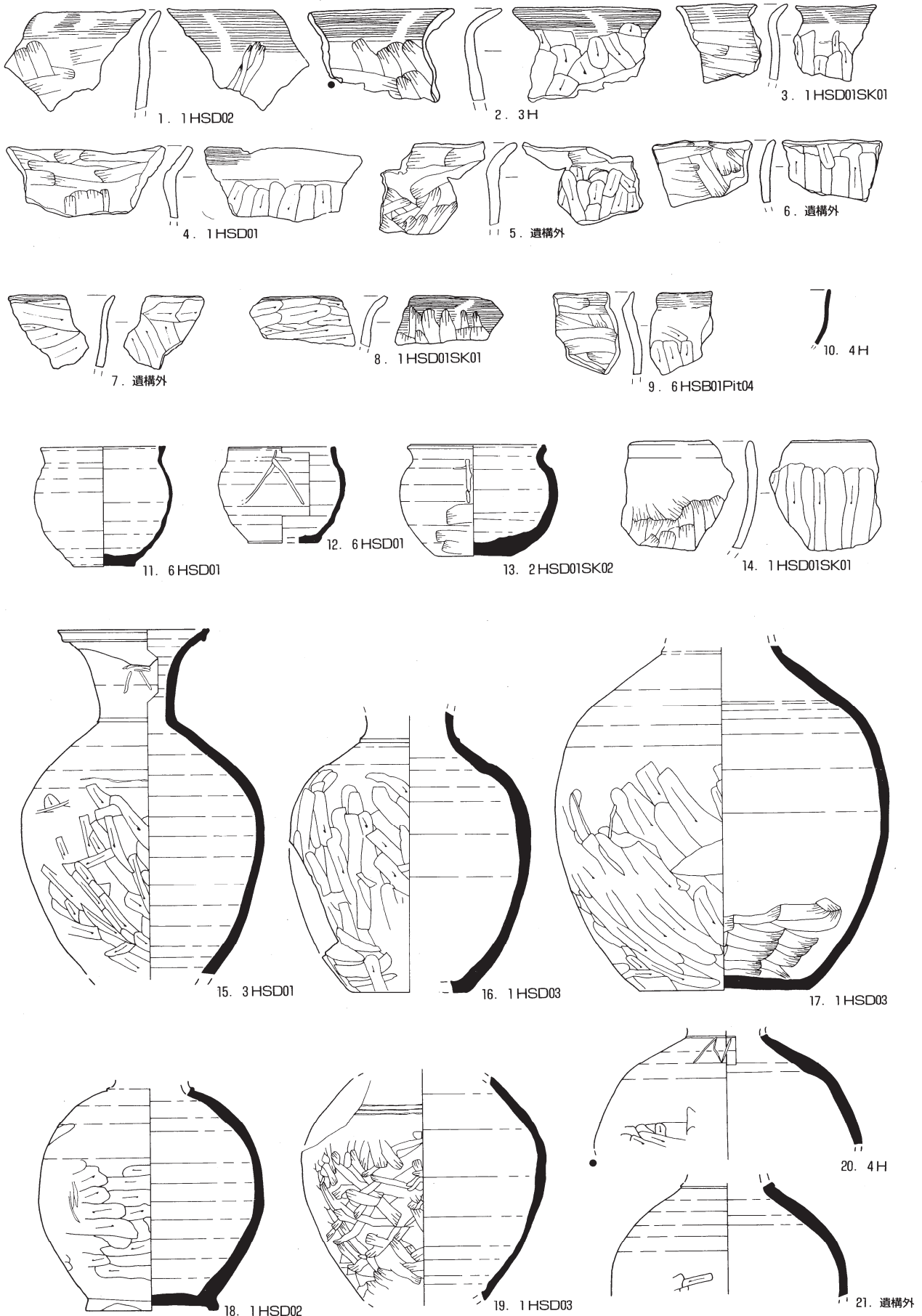


图45 甕・鉢・壺 (須恵器・土師器)

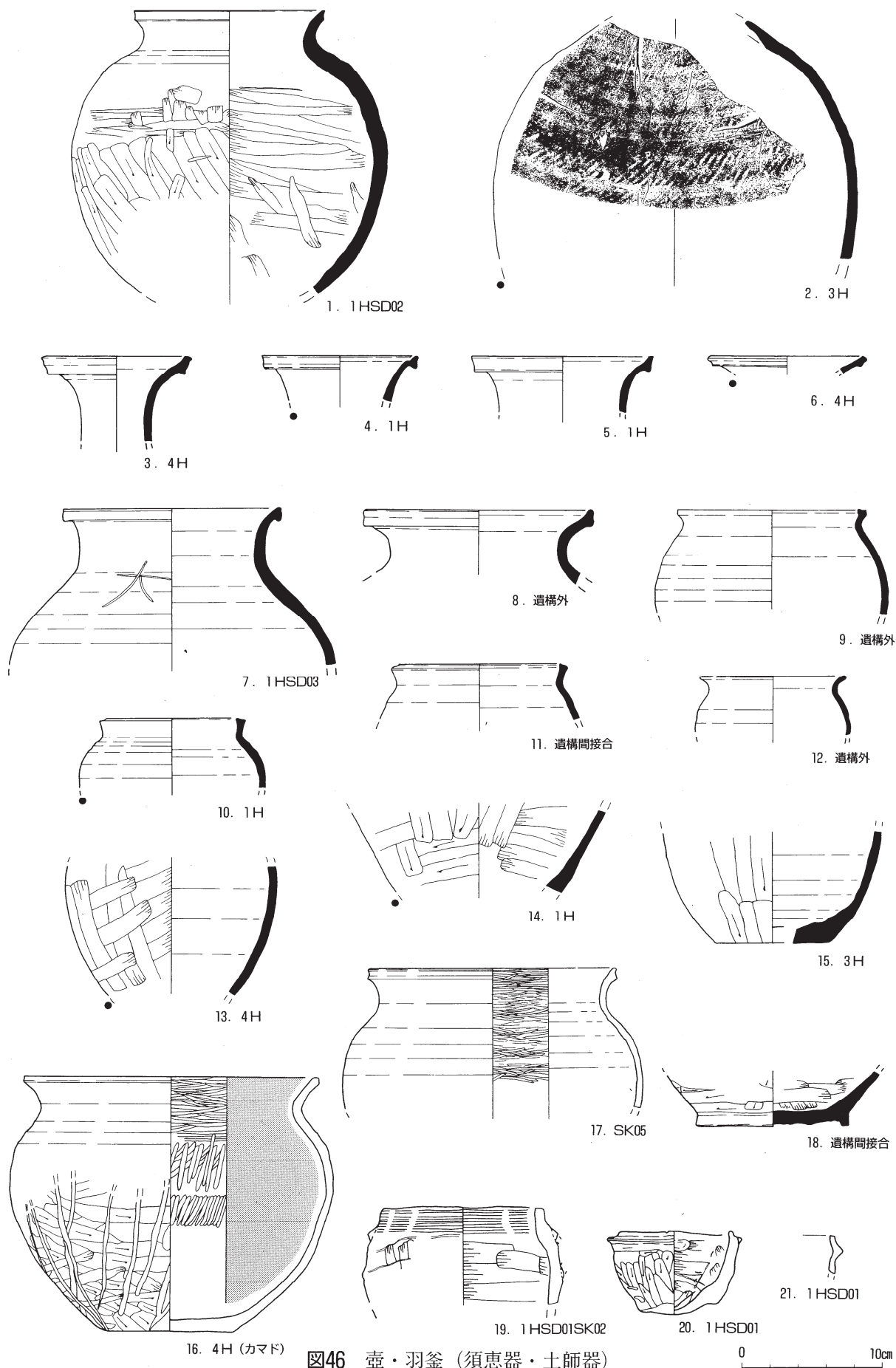


図46 壺・羽釜 (須恵器・土師器)

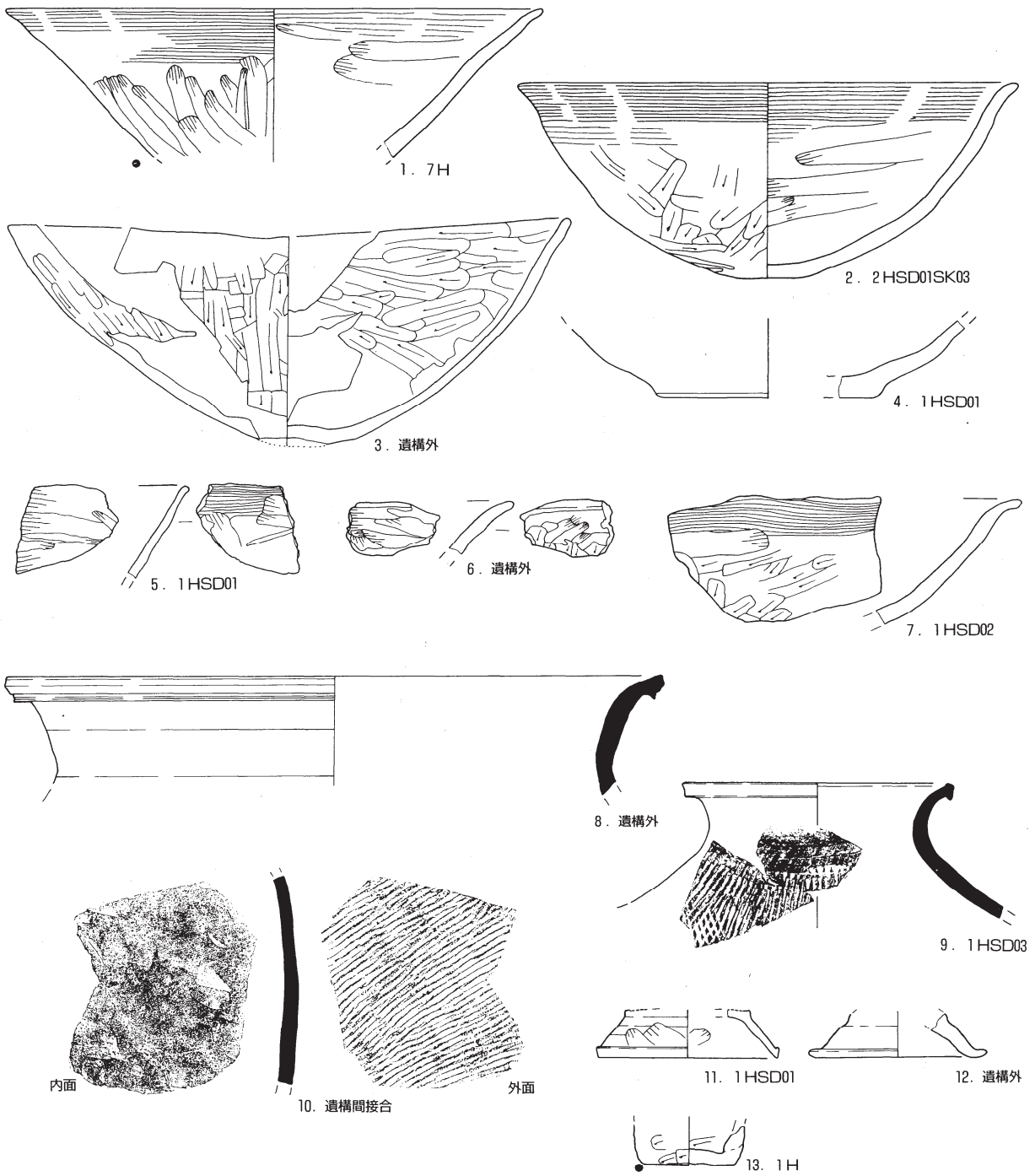


図47 埶・大甕 (須恵器・土師器)

0 10cm



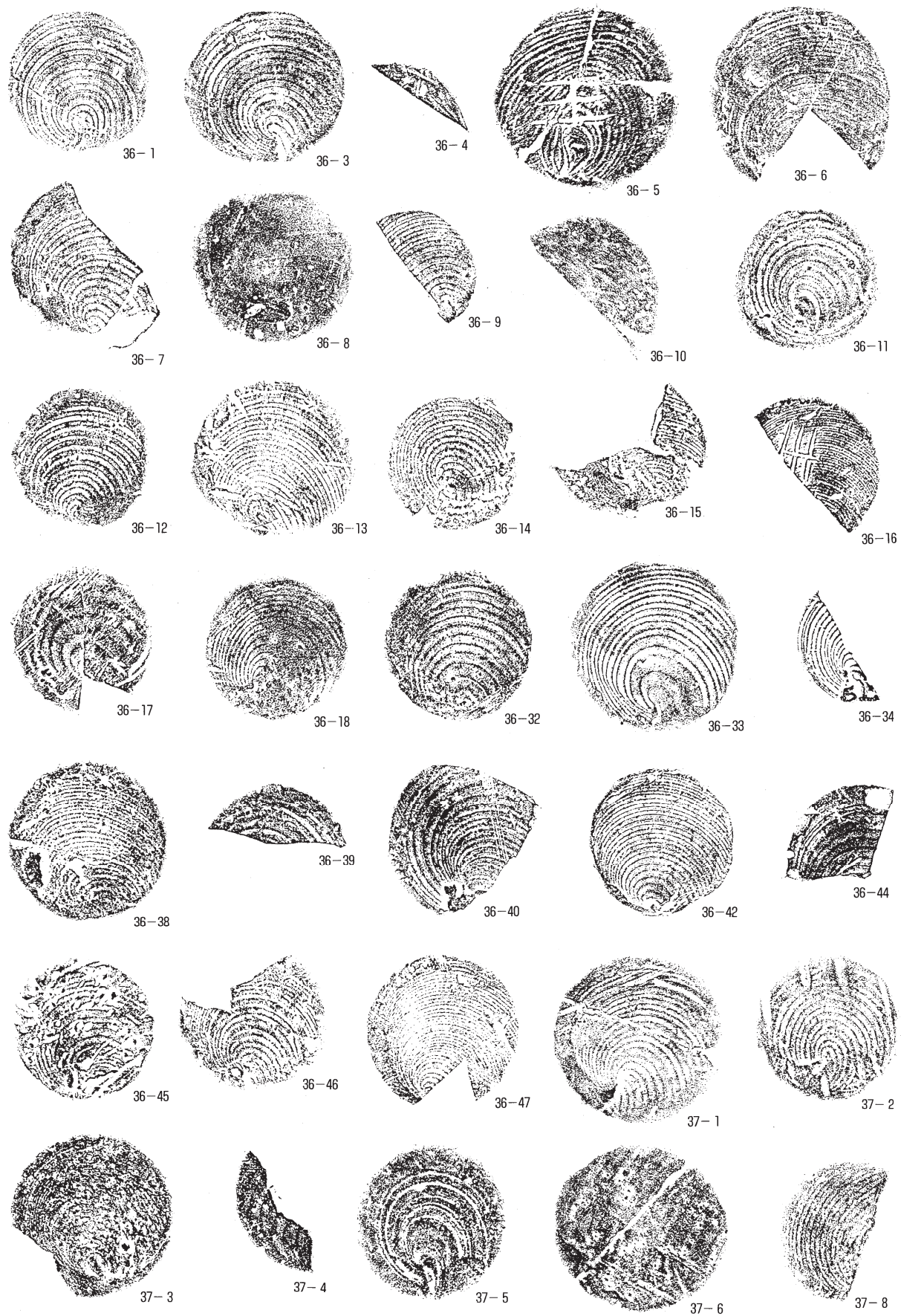


図48 底部拓本 (S=1/2)

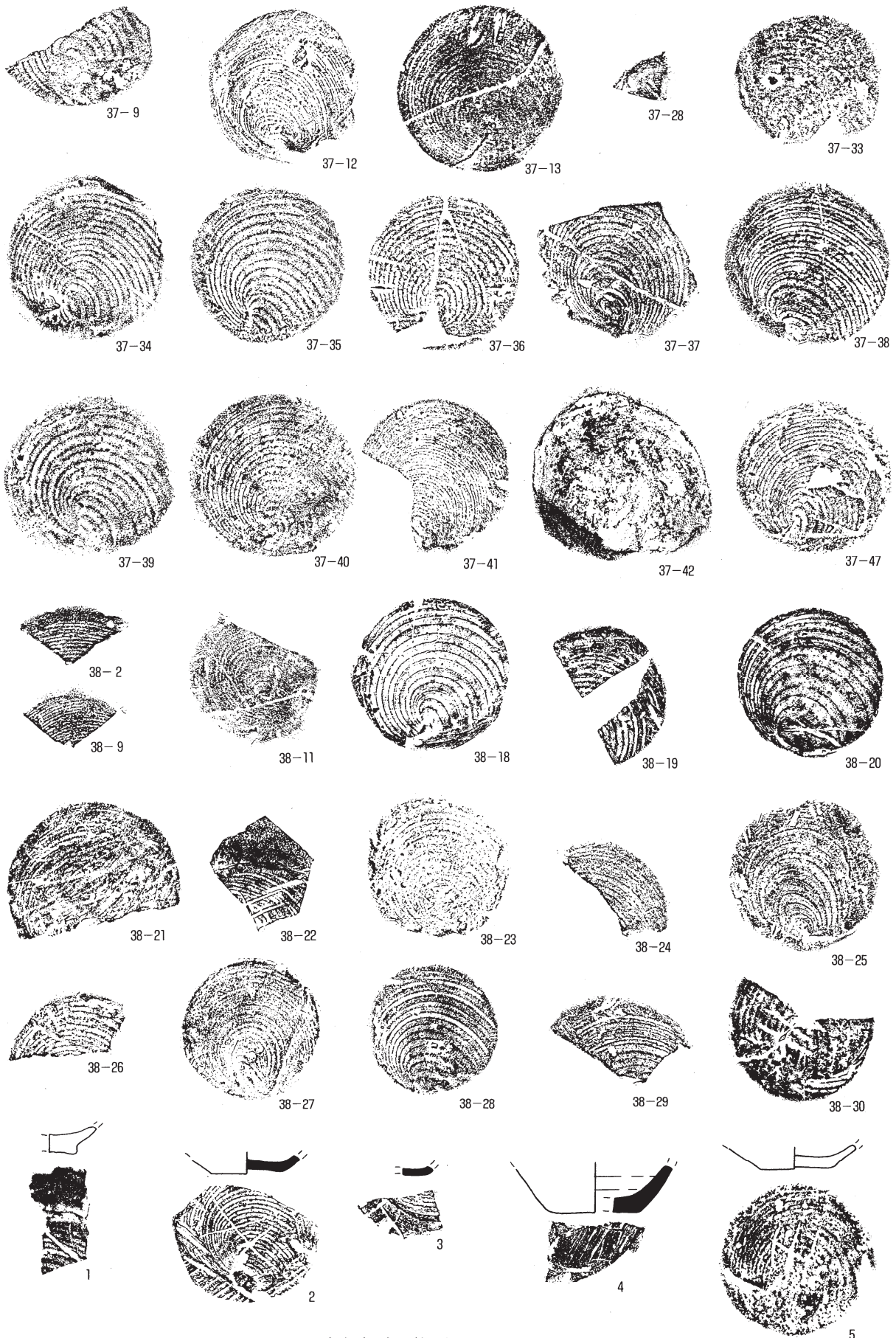


図49 底部拓本 (拓本  $S=1/2$ 、断面  $S=1/4$ )







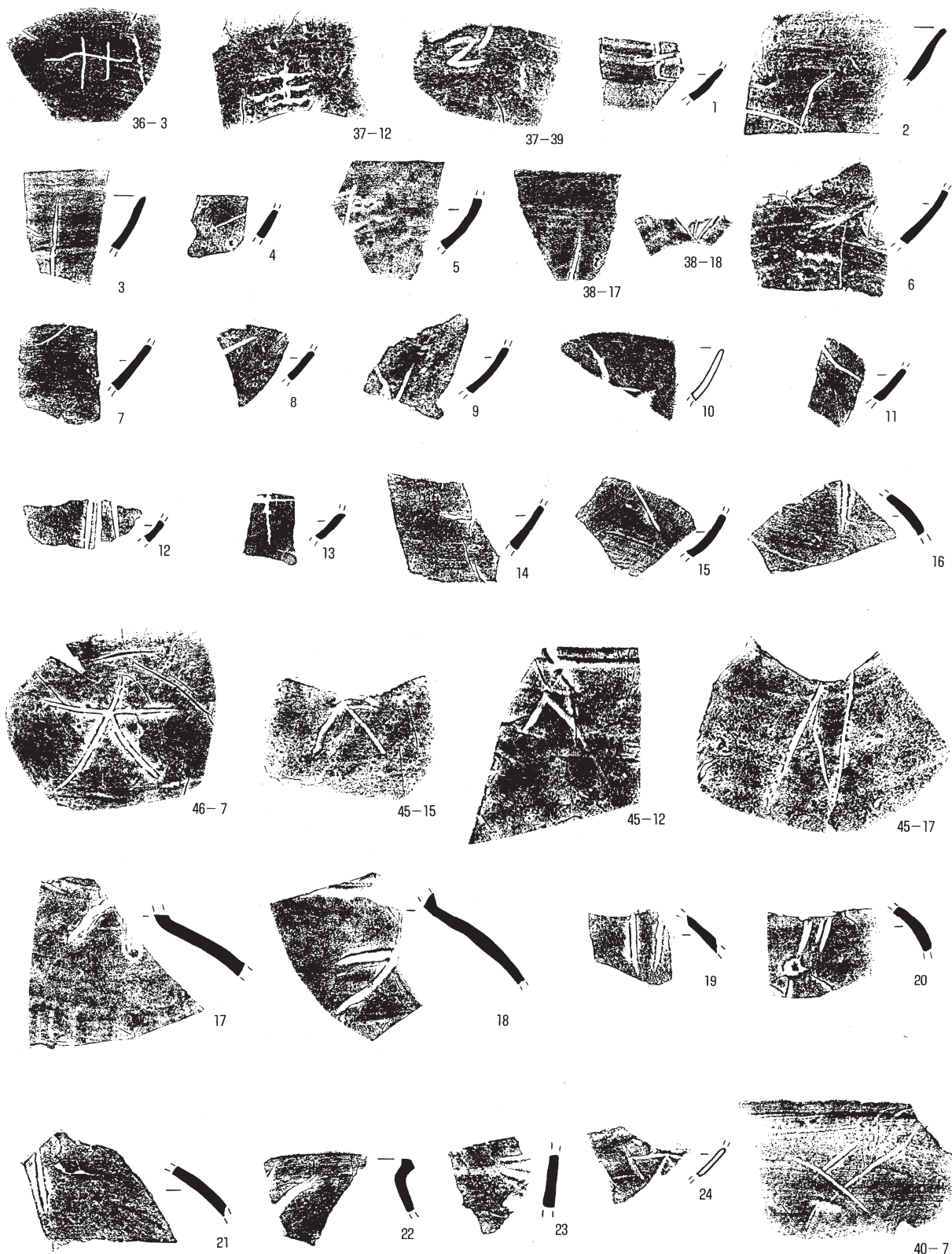


図51 へら書拓本 (拓本S=1/2、断面S=1/4)

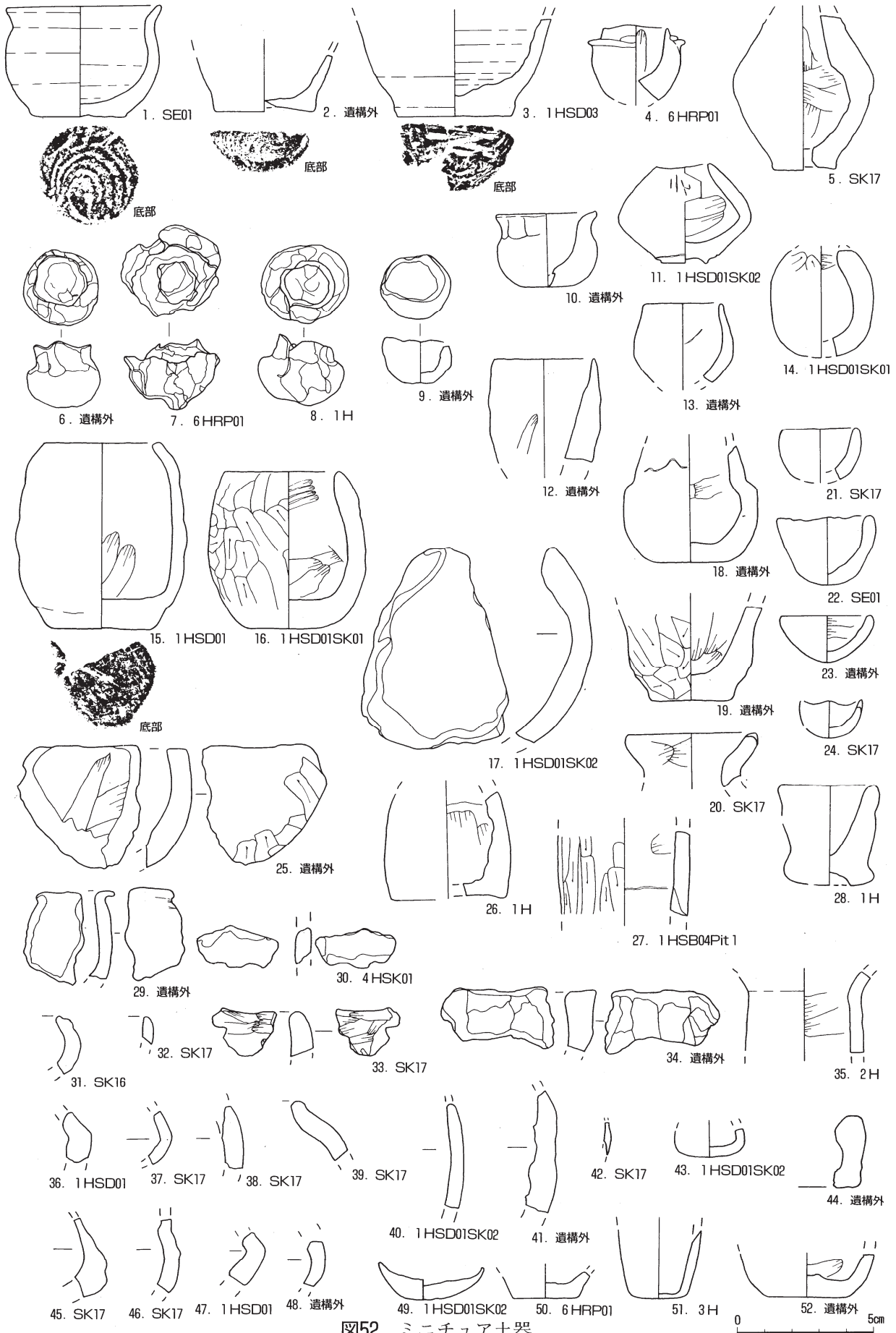


図52 ミニチュア土器

## 4 土製品 (図53)

第1群、第3群、第5群の土製品が総数で18点出土した。

### 第1群土製品：玉類 (1~15)

遺構内から14点、遺構外から1点(3)出土している。1と9の2点は2Hから、2、4、14の3点はSK17から、12の1点はSK16から、他は全て1H及び1HSB、1HSDからの出土である。特に1Hカマドからは5点も出土している。これら15点の玉の断面形は、横楕円形のものや幅に対して厚くつくられるもの等様々みられる。外面の色調には黒色系(2・6・8~10・14)、灰色系(4・12)、橙色系(1・3・5・7・11・13・15)の3種がみられ、1Hから出土している5点の内、焚口から出土した6を除いて他の4点は全て橙色系の色調を呈す。15点全て焼成前の穿孔である。

### 第3群土製品：土鈴 (16~17)

2点出土している。16は1HSD01SK01から、23は、遺構外からの出土である。16aの外面は非常に歪曲しているが、中に鈴子(16b:図は実大)が入っており、音を出せるものである。紐部はみられない。猪口状の容器に16bを入れた後に口を摘み締めて鈴口としている。鈴子は、長楕円形の薄い粘土を折って仕上げている。17は紐通しの孔を有すもので、外面全体に非常に丁寧なミガキが加えられている。上部は沈線でくびれさせており、さらに上面には縦の沈線が1条施されている。縄文晩期の土製品と見なすことも不可能ではないが、胎土と焼成の状況より平安時代のものと判断した。

### 第5群土製品：棒状 (18)

大きく欠損しており、状態は不良である。棒状を呈し、端部は指で押さえられ、やや薄くなっている。茶褐色の焼成であり、煤状炭化物?が微量に付着している。(木村 高)

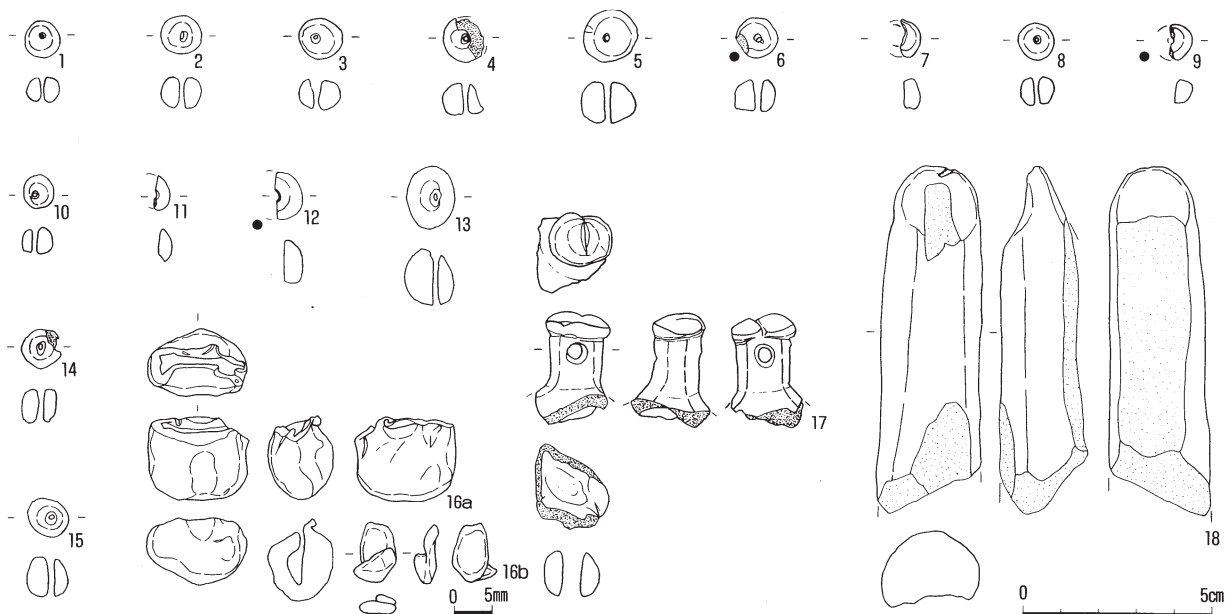


図53 土製品



## 5 土師質特殊遺物 (図54～図55)

1 H・6 Hおよび1 H・6 H付近、4 H付近の遺構からの出土が目立つ。特にS K17からの出土は多い。色調は、大半がにぶい橙～橙～明赤褐色で、まれに褐色～黒褐色のものがみられる。ここでは特徴的なものについてのみ記載する。

### 第1群土師質特殊遺物：粘土紐状のもの (図54-1～7)

7以外は全て欠損しているため、全体の形状については不明な部分が多いが、両掌で転がして棒状に仕上げた後に端部がちぎられたり(2)、摘んで平たくされたり(6、7)している。4、5は弓状、6は釣針状、7は数字の「6」のように曲げられている。5は、粘土時の水分が少なかったためかひび割れが多く認められる。

### 第2群土師質特殊遺物：粒状のもの (図54-12～14)

12、13は非常に小粒で、指先で丸めたものと思われる。13には刺突?がみられる。14は、球状に丸められた後に指で潰され、さらに側面が丸められているようなものである。

### 第3群土師質特殊遺物：板状のもの (図54-16～21)

16は、大きく欠損しているもので、裏面は粘土時の水分が少なかったためかひび割れが多く認められる。17は、表面に指頭による押圧が加えられている。19は表面がかなり平坦であることから、何か硬くて平らなもの(板?)の上でプレスされたようなものである。16、19とも原形は円形～楕円形であったと推定される。21は、表裏面ともほぼ平坦であり、側縁も不整ながら成形されている。19～21の表裏面には、植物性の繊維の圧痕がみられる。

### 第4群土師質特殊遺物：不整のもの (図54-8～11・22～33・図55 1～17)

図54-11は、勾玉状の形状を呈すが、中央の挟れた部分は、棒状のもの?による貫通によってつくられているようであり、欠損しているものではない。図54-28の表面には指頭による押圧が、32の表裏面には指による押圧がランダムに加えられている。図54-33は棒状の粘土に、指による押圧が加えられ、端部はやや薄くなっている。図54-31～33は、いずれもS K17からの出土で、胎土が類似している。

図55-6の表面には指の先?を刺したような痕がある。図55-7はやや平たい棒状の粘土をねじっているものである。4は、粘土時の水分が少なかったためかひび割れが多く認められる。これらは粘土をぐしゃぐしゃまるめたり、潰したりした結果を示していると思われる。

図55-11と12は、植物性の繊維の圧痕?が片面に幅広く、均一についている。図55-13の両面には、指或いは掌による、押しつけるようなナデがほどこされ、粘土が鉋屑状にくびれている。

図55-14は、表面が丸みを帯び、球状になっている。図55-16は両掌による押圧によってつくられていると思われる。図55-17は、不整形を呈す板状で、胎土は焼成粘土塊に類似しているが、側縁は指によってしっかりと押さえられている。図55-15は、2箇所にもロクロ痕のような、均一な横ナデが観察される。土器のロクロ成形時に生じたものであろうか。 (木村 高)



図54 土師質特殊遺物-1



図55 土師質特殊遺物-2

## 6 焼成粘土塊 (図56~57)

色調は、断面、外面ともに明赤褐色～黒褐色を呈し、指や手で一面を撫でた結果、平坦面が形成され、また、裏面（まれに割口）には植物性の繊維の混入・圧痕が認められる。胎土中には砂粒等の混入物を多量に含んでいる。分類は、大半が破片の状態であることから平面形やナデの痕跡等は基準にせず、断面の厚さをもとに行った。実測対象資料は、主に平坦面を有すものに限定した。図示していないものの中には、全面に凹凸が激しく、指、手による成形痕の全く観察されないものもかなりみら





图56 烧成粘土塊-1

れる。また、本遺物の大半は破片の状態であるが、数点ほど割口が認められないものも見られる。これらは土師質特殊遺物に含めることも可能であるものの、外面全体に著しく植物性の繊維が観察され、一般的な土師質特殊遺物とは異なった印象のものであるため、焼成粘土塊に含めておいた。出土地点を見ると、1H・6Hおよび1H・6H付近の遺構からの出土が目立つ。ここでは特徴的なものについてのみ記載する。

**第1群焼成粘土塊：断面厚さ8～20mm** (図56-1～4、6～13、15～21)

1、2、5、6、11、12、17には、指によると思われるナデが外面にみられる。1は、表裏面と側縁の一部が残存するものであり、土師質特殊遺物に含めることも可能であるが、胎土、焼成より焼成粘土塊に含めた。2には、ユビナデが明瞭に観察される。水分をよく含んだべっとりした状態でナデたものと思われる。6は、裏面に直線的な段が形成されており、細い角材状のものにでも付着していたかのような状態をうかがわせる。18～21は、植物性の繊維の圧痕やナデが観察されないもので、表面も磨滅しているのかどうか不明なものであるが、磨滅したものと想定して、本群に含めたが、後に詳細に調べたい資料である。

**第2群焼成粘土塊：断面厚さ26mm以上** (図56-5、14、22、図57-1、2)

14は、表面が球状に丸みを帯びているもので、図55-14の土師質特殊遺物に類似しているが、本資料は、胎土、焼成が一般的な焼成粘土塊に近いので、土師質特殊遺物には含めなかったものである。図57-1は、カマドから出土したものであるが、明らかに他の一般的な焼成粘土塊と異なり、どこか粉っぽく、堅緻な焼成ではない。カマド構築土の焼土化したものと思われる。参考までにあえて本群に含め、焼成粘土塊として図示した。 (木村 高)

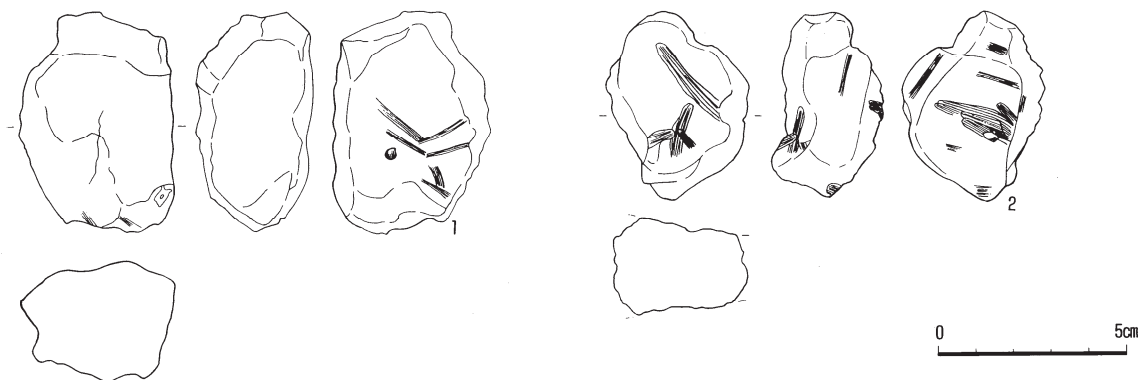


図57 焼成粘土塊-2

**7 粘土塊** (図58)

1～4の全てを胎土分析している。詳細については観察表と第IX章第2節を参照。

**第1群粘土塊：長さ×幅5cm前後** (図58-1・2)

1、2は、白色を呈し、1には植物の根による小孔が、2には指頭?による圧痕が2箇所に見られる。2はやや歪むが直方体状で、極めて人為的な形状を示している。いずれも6HRP02から出土したものである。

第2群粘土塊：長さ×幅7cm前後以上 (図58-3・4)

3、4は、黄褐色を呈す。3は、6HRP02の確認面中央に出土したもの(巻頭図版参照)で、人為的に安置されたものである。重量感が非常にあるものの、掌にちょうどる大きさである。4は粒子が少しざらつく砂質のもので、他のものとは明らかに異なった質の粘土である。また、植物性の繊維が微量混入している。(木村 高)

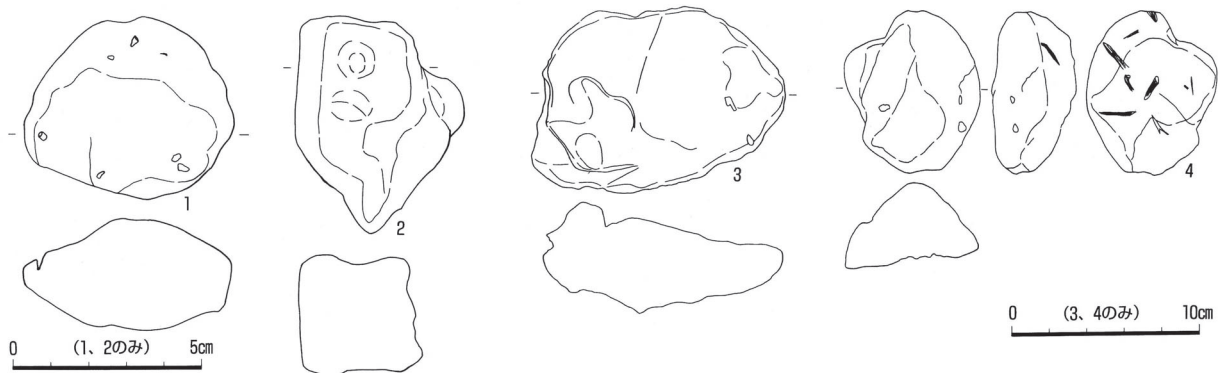


図58 粘土塊

8 須恵器窯壁片 (図59)

隠川(4)遺跡からは、第2群須恵器窯壁片が1点のみ出土した。

第2群須恵器窯壁片：焼土の付着がみられないもの (図59-1)

1は、4Hの4区床面に出土したもので、全面に還元を受けており、心材痕はみられない。一般的な窯壁片は、一面にしか還元面がみられないのに対し、本資料は、全面に還元を受けていることから、窯内において焼成中に崩落したものであろうと推定される。平坦面には須恵器片が溶着していることから上記のことが裏付けられる。全面還元を受けているため、よく焼き締まっており、法量の割には重量感がある。(木村 高)

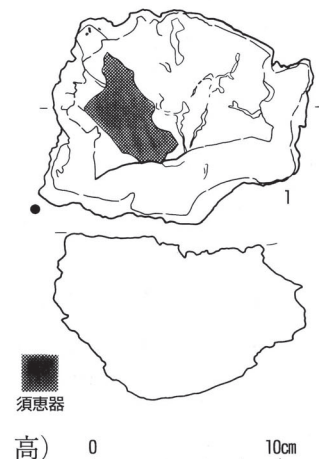


図59 窯壁片

9 石製品 (図60~61)

総数で8点の石製品が出土した<sup>(註)</sup>。1、2、3Hから2点ずつ、遺構外からは1点である。

(註) 3HP1からは土器を磨くための工具と考えられる石製品(写真5参照)が出土しているが、調査期間中に紛失した。

第1群石製品：玉類 (図60-1~3)

1、2は、孔を人為的に穿ち、外面調整を施しているものである。1は外面の腐蝕(溶解?)が著しく、状態は不良であるが、2は外面に成形痕が明瞭に観察される。3は、自然孔をそのまま利用し、外面調整を一切施さないものであるが、2Hの床構築土から出土していることから、自然遺物ではなく2H(7H)に伴うものと判断した。

第2群石製品：砥石 (図60-4~7・図61-3)

5、6は手に持って使うような小型のもので、2点とも砥面は4面で、1面のみ砥面の中央が溝状に窪んでいる。4、7は地面に置いて使うような大型のもので、砥面は4が4面、7が3面である。ただし7の主體的な砥面(広い砥面)は実測図に示された面の1面のみである。7の広い砥面の中央



は微妙に溝状に窪んでいる。4は、表裏面とも傷状の擦痕が顕著に認められる。図61-3は、砥石とは言えないものであるが、本群において記載しておく。平坦な楕円形を呈す小礫の平坦部を一面かすかに磨っている。一時的な使用品と考えられる。

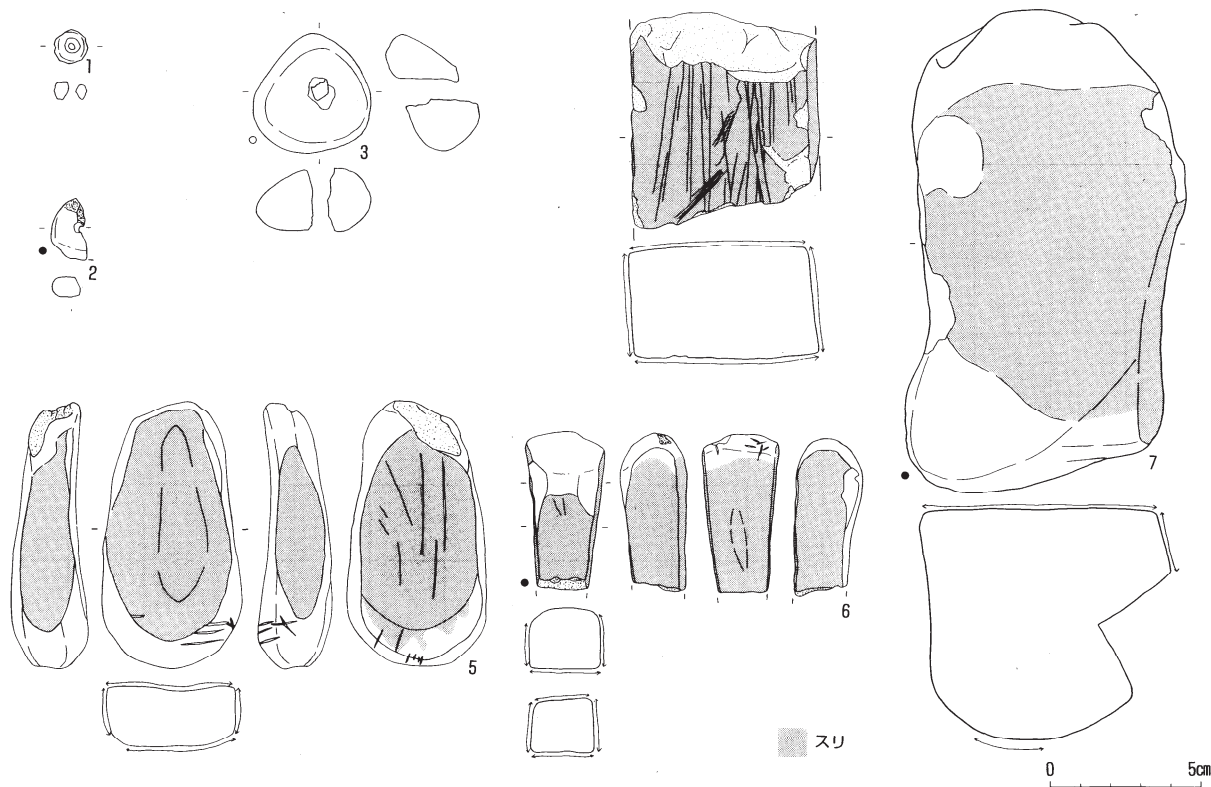


図60 石製品

第3群石製品：礫を直方体に成形しているもの (図61-1)

シルトを直方体に成形しているもので、「シルト礫」と呼称しておく。隠川(4)遺跡からは、1 H S D03、1 H S D01 S K02、S E01などから出土している。隠川(12)遺跡の2 Hカマドに状態の良いものが多数出土しているが、隠川(4)遺跡から出土したシルト礫は、いずれも破片ばかりであり、状態の良いものはほとんどない。ここでは状態の良い1点のみ図示した。1は、直方体の角部分の破片で、3面残存している。色調のベースは淡橙色で、赤い筋が縞状に入っている。非常に軟質で脆く、全面粉っぽい。図示資料以外のものの中には被熱痕の認められる資料も少なくないことから、隠川(12)遺跡の2 Hの例も考え合わせると、カマドの構築部材として使用されていたものと推定される。

第4群石製品：自然礫であるが、使用された可能性の高いもの (図61-2・4~13)

2は、被熱して外面が大きく剥落しており、6には煤状炭化物が若干付着している。4、10の外面は極めて滑沢で、光沢を有す。5は、4 H R P01の覆土中央下位に出土したもので、図示した面の中央は、僅かに円形に窪み、その外郭は自然のものと思われるが、やや赤味がかっている。12は、4 Hの床面に出土したものである。長い三角形状を呈しており、側面はやや風化している。図の上部を持って振ってみると、非常にバランスが良いものである。これら5と12は土器製作の作業に伴っていた可能性があるように思える。11は、S D X01-Aの底面から出土したほぼ方形を呈す礫で、平坦なところに置いてみてもぐらつきの少ないものである。作業用の台石であろうか。 (木村 高)



図61 礫

## 10 鉄製品 (図62-4、5)

鉄製品は総数でわずか2点のみの出土である。

### 第1群鉄製品：刀子 (図62-5)

5の刀子は4Hカマドの付近、4区の床面に出土したものである。比較的状态は良いが、関は不明瞭である。木質部がわずかに残存している。

### 第2群鉄製品：用途不明 (図62-4)

4は、釘状のものがねじれたような形状を呈する。本来の形状であるものか、後に曲がったものか不明であるが、ほぼ直角に屈曲している点は注意される。(木村 高)

## 11 鉄滓 (図62-1、2、3)

ここでは3点のみ図示した。椀形の鉄滓は出土していない。

1は、本遺跡から出土した鉄滓の中でも大型の部類に属すもので、表面にはやや錆がみられる。一部に流動した状態が観察される。2は、割れているもので、平坦面が形成されている。多くの気泡が認められ、錆の付着はあまりみられない。3は両端部が欠損する流動滓である。黒光りしていて、錆は一切みられない。(木村 高)

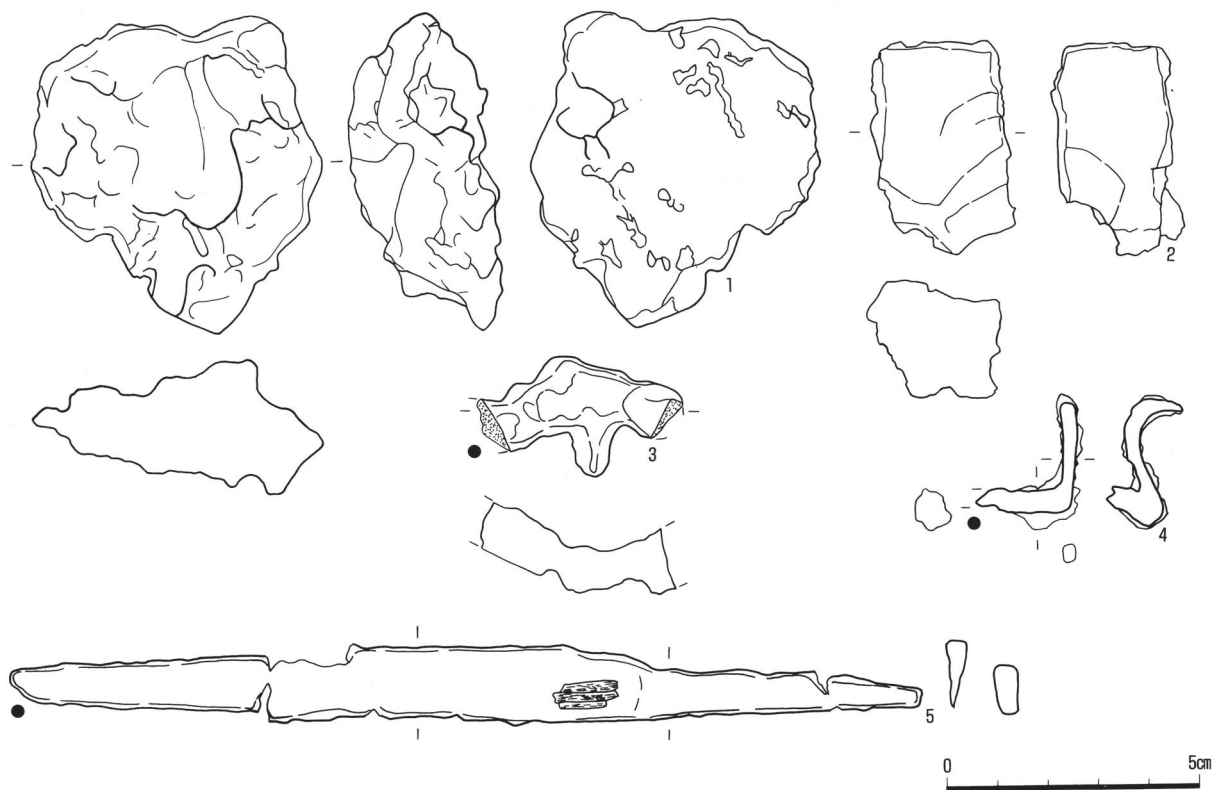


図62 鉄滓・鉄製品



## 12 木製品

井戸枠部材・製品・加工痕のある木の3種に分けられる。図64-4を除く全てがSE01から出土している。図示したもの以外にも資料はあるが、ここでは状態の良好なものに限って報告する。

### 第1群木製品：井戸枠部材 (図63)

これらは、SE01における平面的な出土位置の状況より判断して、井戸枠と認定したものである。板と棒を組み合わせて方形に組まれていたようである。本来的には遺構の一部であるが、木製品として記載する。1、2、3は板状、4は棒状を呈す。1、2は腐蝕が著しく、かなり変形しているが、3と4は非常に状態の良好なものである。図で言うところの1の上側縁、3の上側縁の方形の抉れは臍穴である可能性があるが、断定できない。3は長方形に成形されているもので、右側は欠損している。正面左側には釘穴状の小穴が2個みられるが、これも人為的なものかどうかは判断できない。4は断面形が不整であるものの、かなり直線的なものである。端部は欠損していないと思われる。

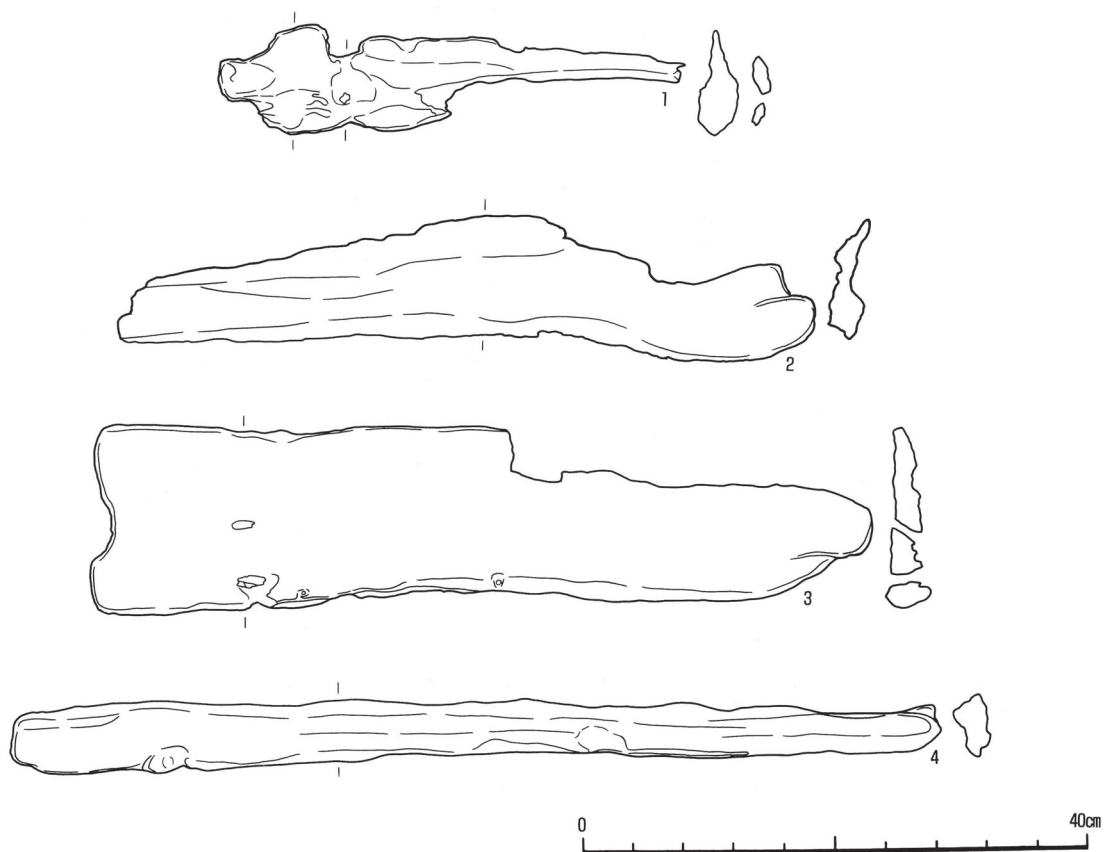


図63 井戸枠部材

### 第2群木製品：製品 (図64-2~5)

2は、曲物の底板であると思われる。側縁が弧状を呈す部分の断面形は四角張っているが、直線状

を呈す部分の側縁の断面形はやや斜めである。3は、2と組み合わされる側板の一部かと想像されるものであるが、鉤屑状で非常に薄いことから、断定できない。5は、笏形を呈す板あるいは篋である。図は2つの破片を図上で合成しているため、本来の形状とはやや異なっている可能性もある。4は1 H S D01 S K02の覆土から出土した樹皮製品である。2枚のテープ状の樹皮で構成されており、「し」の字状に曲がっている部分に、コイル状の樹皮が入っている。なお、本資料が出土した1 H S D01 S K02の覆土には炭化した樹皮片が数点散在している。

**第3群木製品：**

**加工痕のある木 (図64-1、6)**

1は二股に分かれた自然木の表面に、刃物による削りが施されているものである。上端2箇所は欠損しているが、下端は削って丸められている。6は、縦割りした後に面取りを施しているもので、図の正面は面取りした部分。左右の側縁は樹皮に近い部分で、皮を剥がしただけの面であると思われる。 (木村 高)



図64 木製品

**第3節 縄文時代の検出遺構**

**1 土坑**

検出した縄文時代の土坑は総数で10基である。これらの土坑は、調査区の南側に集中する傾向がある。確認面は全て第IV層の上面で、SK18の1層が人為的に形成された焼土層である他は、すべて自然堆積と推定されるものばかりである。平面形は円形、楕円形、不整楕円形、卵形、不整方形等がみられ、断面形は箱形、皿形、フラスコ形、逆台形の4種がみられる。 (木村 高)

※本節においては、紙数の都合上、検出位置(グリッド)、規模、出土遺物等を一覧表にまとめて記載した。

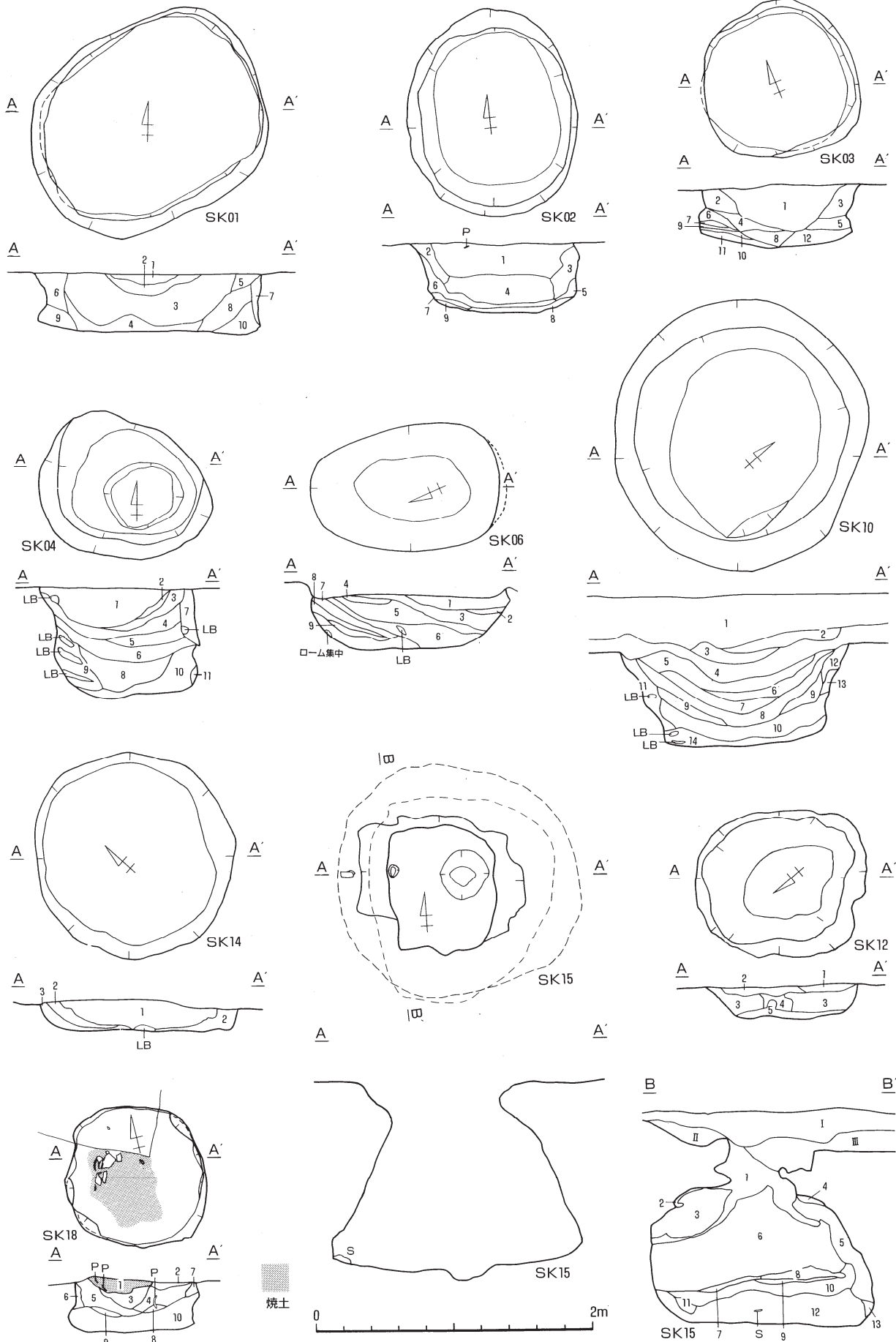


図65 土坑 (縄文時代)



表 土坑(縄文時代)観察表

土坑番号	検出位置	形態		規模 (cm)			出土遺物・備考
		平面形	断面形	長軸	短軸	深さ	
SK01	L-110	隅丸方形	箱形	176	144	36-46	
SK02	K-110	楕円形	箱形	152	124	40-52	縄文土器5片
SK03	L-111	不整形	箱形	156	120	32-46	敲打痕のある礫1点
SK04	L-114	卵形	箱形	128	104	68-80	縄文土器1片
SK06	H-117	長卵形	皿形	144	92	30-40	
SK10	G-113	円形	逆台形	190	176	72-74	縄文土器6片
SK12	K-126	不整形楕円形	皿形	128	106	22-24	
SK14	J/K-116	円形	箱形	148	148	14-22	縄文土器12片
SK15-開口	K-127	不整形	フラスコ形	184	174	118-148	縄文土器32片 礫2点
SK15-底面		円形	-	-	-	-	ピットあり
SK18	D/E-116	不整形	箱形	116	110	30-40	縄文土器5片 攪乱有

SK01

- 1層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-10mm)少量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 V・Vlaローム(φ1-8mm)少量、炭化物(φ1-8mm)少量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V・Vlaローム(φ1-3mm)微量、混入。
- 5層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量混入。
- 6層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-2mm)極微量混入。
- 7層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量混入。
- 8層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 9層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1-5mm)微量、ローム粒中量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-10mm)多量、ローム粒少量混入。

SK03

- 1層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-2mm)極微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-2mm)極微量混入。
- 4層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-2mm)微量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)極少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)微量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-3mm)中量混入。
- 8層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)微量、VlaLB微量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- 10層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-3mm)微量、ローム(φ10mm)1ブロック混入。
- 11層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)微量、ローム(φ1-8mm)微量混入。
- 12層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-15mm)少量、Vlaローム(φ1-5mm)微量混入。

SK06

- 1層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2mm)極微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-20mm)中量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-8mm)極少量混入。
- 4層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-7mm)極少量混入。
- 5層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- 6層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-10mm)少量混入。
- 7層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-7mm)少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-5mm)微量混入。
- 9層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-2mm)微量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm)微量混入。

SK15

- 1層 におい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1-10mm)極少量、Vlaローム(φ1-5mm)極少量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 2層 におい黄褐色 10YR4/3 黒褐色土とV・Vlaローム、ローム粒の混合土。Vlaローム(φ1-3mm)微量混入。
- 3層 黄褐色 10YR5/6 Vlaローム主体。Vbローム微量、粘土極少量混入。
- 4層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ1-3mm)少量、Vlaローム(φ1-5mm)微量混入。しまり無。
- 5層 褐色 10YR4/6 Vbローム主体。Vlaローム極少量、粘土少量混入。
- 6層 褐色 10YR4/6 Vla・Vbロームの混合土主体。粘土(φ5-20mm)極少量、Vローム微量混入。
- 7層 黒褐色 10YR3/2 VlaとVbロームの混合土少量混入。
- 8層 褐色 10YR4/4 VlaとVbロームの混合土主体。Vローム(φ1-3mm)微量、黒褐色土微量混入。
- 9層 黒褐色 10YR3/2 VlaとVbロームの混合土に黒褐色土微量混入。
- 10層 褐色 10YR4/6 Vla、Vbローム主体。Vローム(φ1-10mm)少量混入。
- 11層 におい黄褐色 10YR5/4 Vbローム。粘土微量混入。粘性有。
- 12層 暗褐色 10YR3/4 Vbローム中量、Va混合土極少量混入。
- 13層 暗褐色 10YR3/4 Vlaローム。鉄分含有。

SK02

- 1層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-7mm)極少量混入。
- 2層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 Vlaローム(φ2-7mm)極微量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 V(1部Vla)ローム(φ1-60mm)多量混入。
- 5層 黒色 10YR2/1 ローム粒極少量混入。
- 6層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)極少量混入。
- 7層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-3mm)少量、Vlaローム(φ1-3mm)少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR3/2 V Vlaローム(φ1-3mm)極少量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)微量混入。

SK10

- 1層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、炭化物粒極微量、軽石微量混入。
- 2層 黒色 10YR1/1 ローム粒極微量、炭化物粒極微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
- 4層 黒色 10YR1/1 ローム粒極微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 5層 黒色 10YR1/1 ローム粒極微量、炭化物(φ1-5mm)微量混入。
- 6層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-3mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
- 7層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)微量混入。
- 8層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-3mm)極少量、Vlaローム(φ1-2mm)微量混入。
- 9層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-3mm)微量、炭化物粒(φ1-3mm)微量混入。しまり無。
- 10層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-2mm)極微量混入。しまり無。
- 11層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ1-3mm)少量混入。
- 12層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-8mm)微量混入。
- 13層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-5mm)少量混入。
- 14層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)極少量混入。

SK18

- 1層 暗褐色 10YR3/4 焼土。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2mm)極微量、炭化物(φ1-3mm)極少量、焼土粒多量混入。
- 4層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1mm)極微量炭化物(φ1-2mm)微量、上部に焼土微量混入。
- 5層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、炭化物(φ1-5mm)少量、焼土粒微量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1mm)極微量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒極少量、炭化物粒微量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/1 ローム粒微量、炭化物(φ1-2mm)極少量、焼土粒極微量混入。
- 10層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-10mm)多量、炭化物(φ1-5mm)極少量、炭化物粒微量混入。

SK12

- 1層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-8mm)微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒極微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 3層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-25mm)中量、ローム粒微量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 4層 暗褐色 10YR/ Vローム(φ1-3mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 5層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-20mm)多量混入。

SK14

- 1層 黄褐色 10YR5/8 Vローム。ところどころ粘土質ローム混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)少量混入。
- 3層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-5mm)極少量混入。

SK04

- 1層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-5mm)微量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)極少量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1-7mm)少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-7mm)極少量混入。
- 7層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ1-5mm)少量混入。
- 8層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)中量混入。しまり無。
- 9層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-10mm)多量混入。
- 10層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ1-3mm)少量混入。
- 11層 におい黄褐色 10YR5/3 Vlaローム。黒褐色土微量混入。
- 12層 におい黄褐色 10YR4/3 Vlaローム(φ1-5mm)中粒混入。しまり無。

## 第4節 縄文時代の出土遺物

### 1 土器

遺構内・外出土の破片はおよそダンボール1箱分で、グリッドE-100～G-104に分布する傾向が認められる。

#### 第Ⅰ群土器 (図66-1～3)

1～3は同一個体と思われる。沈線は押し引き状の沈線と普通の沈線を使い分けている。すべて口縁部下の胴部屈曲部の破片である。文様は、沈線文・貝殻腹縁文等の組み合わせによる幾何学的文様を構成すると思われ、沈線間に貝殻腹縁文を充填している箇所も見られる。物見台式並行と思われる。

#### 第Ⅱ群土器 (図66-4・6・10)

口縁部の文様帯は、4と10はLR、6はRLの側面圧痕で、4と10は口唇部にも連続的な捺糸圧痕を施している。胴部文様はいずれも捺糸文である。胎土はやや粗く、繊維の混入が顕著である。いずれも円筒下層d式と思われる。

#### 第Ⅲ群土器 (図66-5・11・16)

5と11は幅約5mmの捺糸圧痕の施された隆帯上に深さ約3mmの捺糸圧痕を施している。11は弁状突起を有する波状口縁であり、突起のおおよそ中心が楕円形状に穿孔され、貼瘤も見受けられる。16は隆帯が細く、貼り付けも弱いものである。いずれも円筒上層c式と思われる。

#### 第Ⅳ群土器 (図66-7～9、12～15、17～24)

おおよそ後期初頭から十腰内Ⅱ式である。磨消縄文のもの(7・8・12・14・15・17～19)、無文地に沈線を施すもの(9・22～24)などに分けられる。7・8は同一個体と思われ、波頂部から垂下する貼り付けと刺突を特徴とする。沖附(2)平行と思われる。12は胎土に砂粒をそれほど含まず、磨消部分の調整がしっかりとなされず、地文の縄文が残存している。色調は黄橙色を呈する。14は炭化物の付着が顕著である。15は沈線が細く、内面・磨消部分とも平滑に調整されている。17～19は同じ文様意匠だが、地文の縄文が17・18がLRで19がRLである。17・18は同一個体か。22・23は沈線の様子から沈線施文後にも器面の調整を行った可能性がある。24は粘土紐を貼り付けており、壺の頸・肩部である。13は折り返し状の肥厚した口縁部で、地文の縄文はやや粗いものである。後期初頭に位置づけられると思われる。

#### 第Ⅴ群土器 (図66-25～31)

おおよそ大洞BC～C1式のものである。25は沈線間を磨消し、内面をミガキにより平滑に仕上げている。三叉文の一部とみられる文様も見受けられる。26は沈線施文後の器面調整により器面が波状を呈した文様意匠である。27は連続的な刻みと平行沈線を特徴とする。色調は灰黄色で、口唇部を欠損する。

#### 第Ⅵ群土器 (図66-32～43)

34・35は同一個体と思われ、多軸絡条体を施している。前期後葉のものか。43は口縁部を横に、胴部を縦に平滑に調整している。40は口縁端部を外反させ、やや波状口縁を呈する。口縁部は磨消である。41・42は沈線を施すが、41は沈線が浅く、不安定なものである。42は器厚の約半分まで沈線の深さが及ぶ。

(三林 健一)

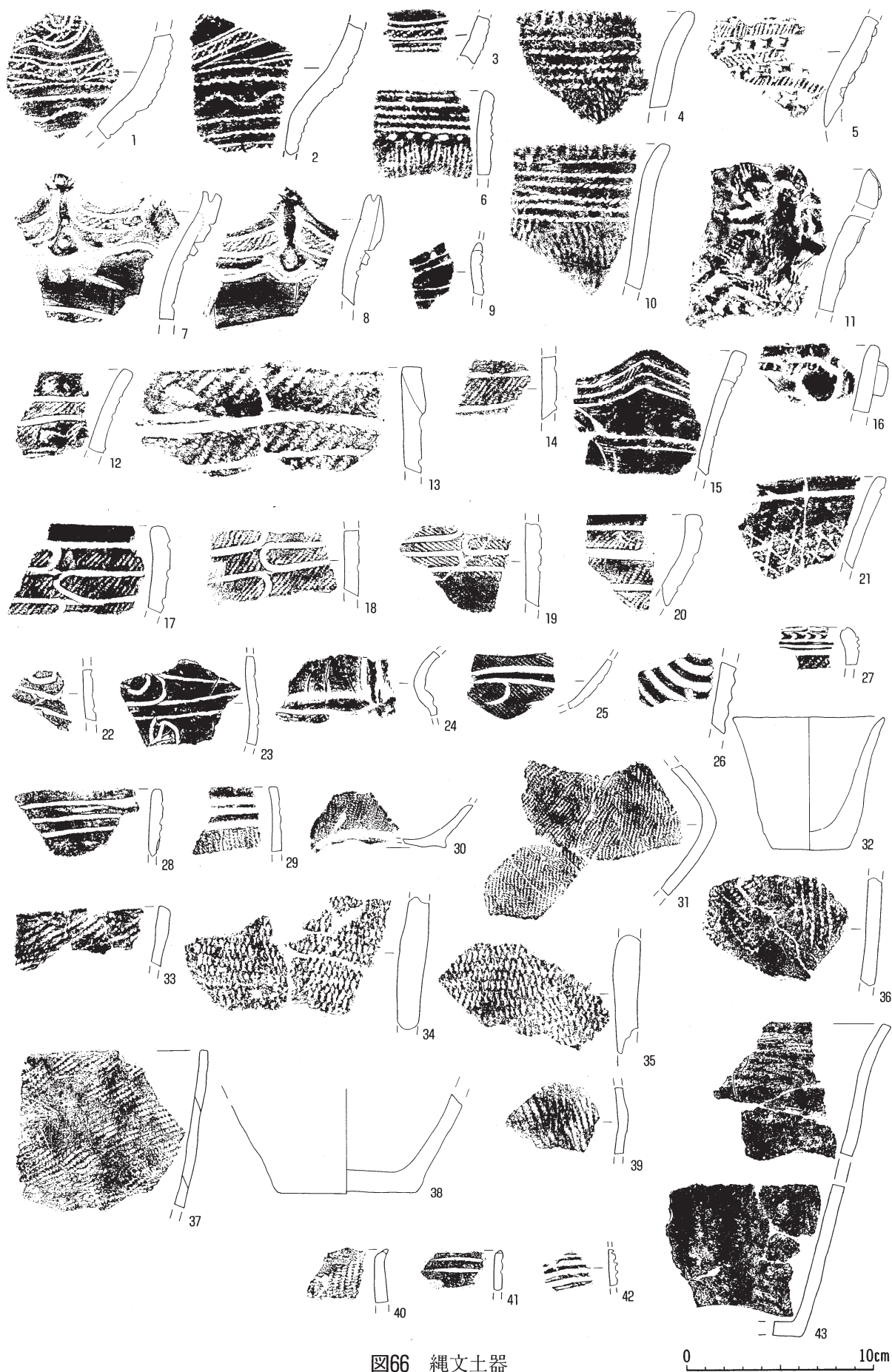


図66 縄文土器



## 2 石器 (図67~69)

石器は、土器との共伴関係が極めて希薄であるため、土器型式毎の記載は行い得ないが、他遺跡で出土している資料との大まかな比較では、縄文時代のものが主体的であると推定される。

注目すべきものとしては、黒曜石の剥片があげられる。1 H付近の第Ⅲ層~第Ⅳa層から出土しているもので、うち32点を掲載した。

※本報告ではいわゆる定形石器は全点掲載した。また、参考までに自然礫も2点掲載した。

**第1群石器：石鏃** (図67-1~4) 基部に注目すると、凹基(1)、尖基(2、3)、有茎(Y基)(4)の3種類みられる。いずれも珪質頁岩を素材とする。

**第2群石器：スクレイパー類** (図67-5~8)

5は、つまみを有すいわゆる石匙で、横型である。6は、上部が欠損しているため全体の形状は不明であるが、縦型石匙である可能性がある。7も大きく欠損しているため全体の形状は不明であるが、残存部の側縁には調整剥離が全周している。8は側縁の2箇所調整剥離が施されている。6~8は主要剥離面を大きく残す。

**第3群石器：使用痕の認められない剥片・碎片** (図68~69-8)

これらは1 H付近の、GH-109グリッド第Ⅲ層~第Ⅳa層からまとまった範囲内に出土したものである。図示していないが、碎片もわずかに出土している。母岩は数種に限られることから、石器製作の際に生じた剥片であると思われる<sup>(註)</sup>。石質を大別すると、黒曜石を素材にしたものと珪質頁岩を素材にしたものの2種類みられる。黒曜石には、非常に透明度の高いもの~低いもの、そして赤色の筋が混入するいわゆる花十勝と呼ばれるもの等がみられるが、気泡を含むものは全くみられない。一方の珪質頁岩は、大半が灰白色を呈すもので、若干茶褐色のものも含まれている。母岩識別や接合

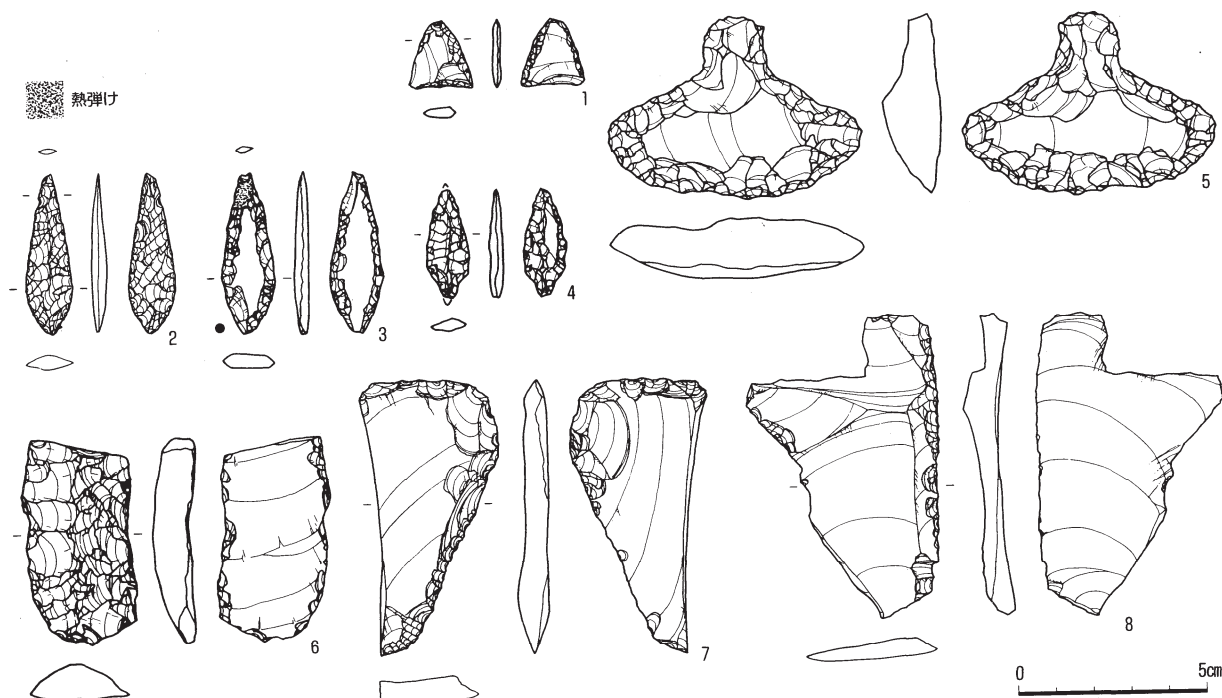


図67 石器-1

隐川(4)遺跡

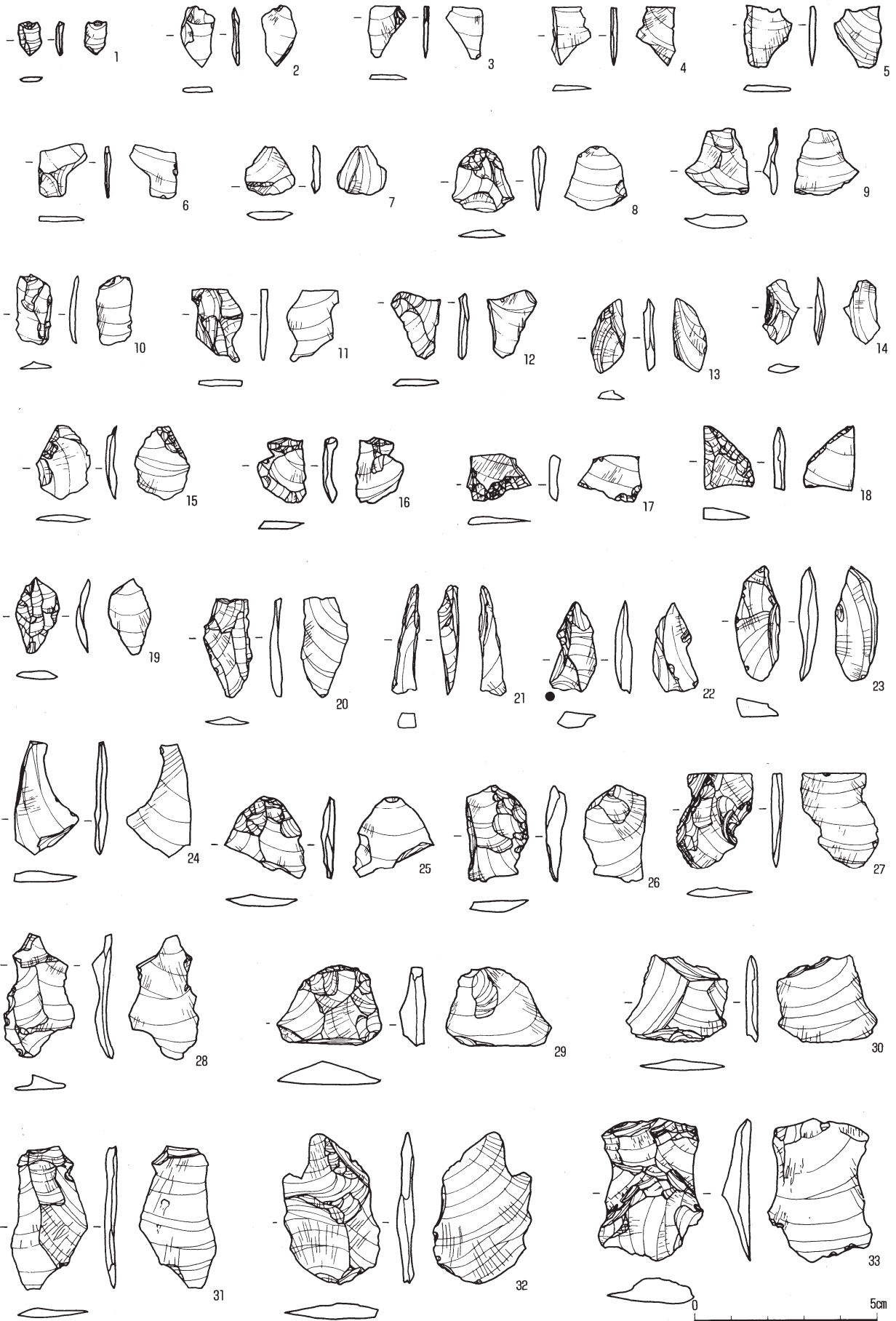


图68 石器-2

作業は行っていないため、石質に関してこれ以上述べることはできないが、図68-18の側縁には調整剥離が施されており、石鏃の未製品（失敗品）と推定されるものである。出土地点の分布図を検討して、高率で接合するようであれば、これら剥片が出土した範囲は石器製作跡として認定できよう。

(註) 出土地点の分布図は、紙数の関係上、今回は割愛した。いずれ機会を見て報告したいと考えている。

第7群石器：敲打痕のある礫（図69-9）

1点出土した。平坦面の中央付近を敲いているものである。S K03の覆土から出土している。

(木村 高)

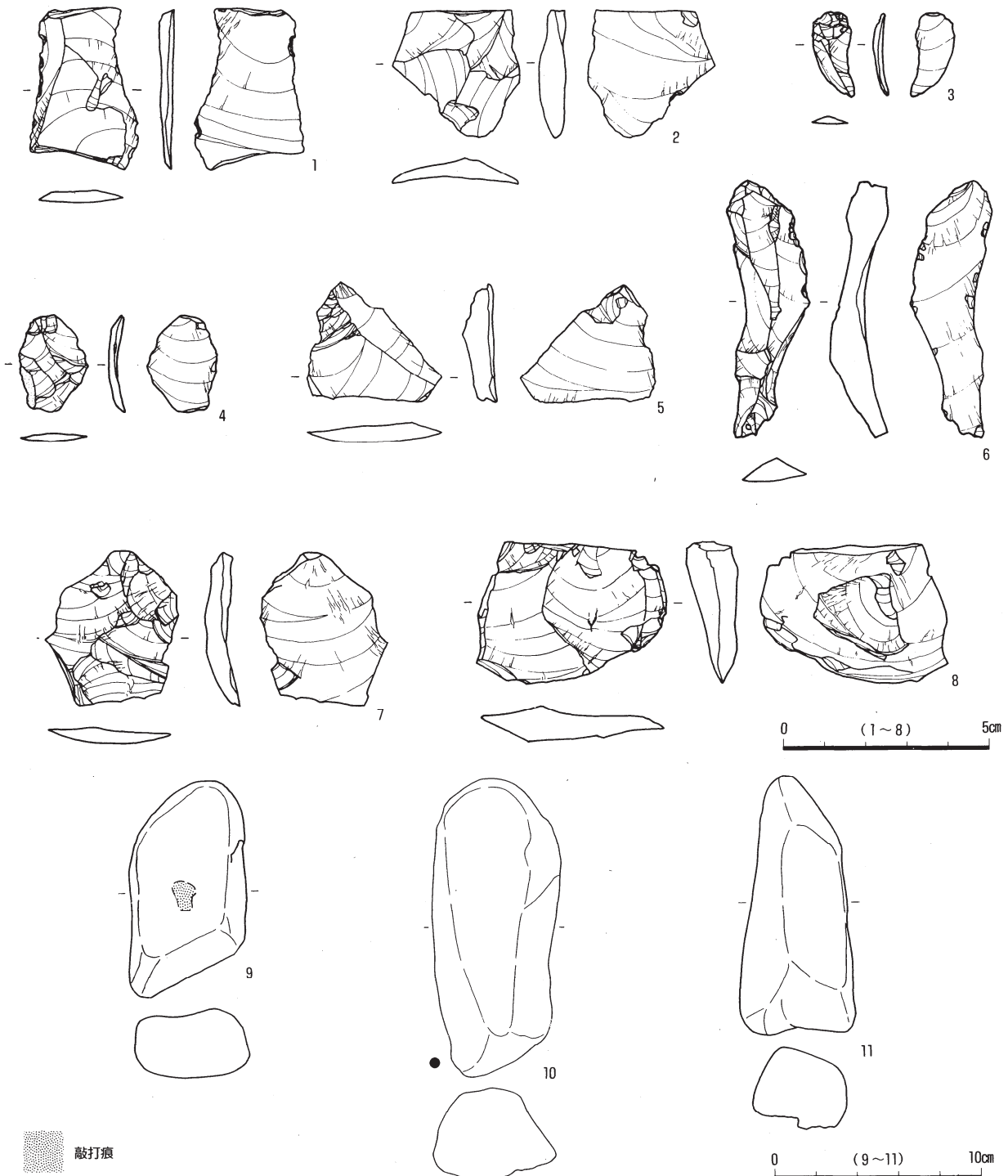


図69 石器-3



## 第5節 弥生時代の出土遺物

### 1 土器 (図70)

#### 第2群弥生土器：前期後半の土器 (1～3)

ほぼ2期弥生土器に相当するものである。1、2は、変形工字文を施した鉢で、1は浅鉢あるいは台付浅鉢(高坏)であろうと考えられる。3は沈線とD字状の彫刻的な刺突が組み合わされるもので、台付鉢の台部と思われる。1の変形工字文は、狭い文様帯の中に圧縮されるように施され、また、付される粘土瘤は非常に薄く、小型である。1、2は内面口縁部直下に横走沈線が3条巡る。1の縄文は単節R Lである。1の資料は、砂沢式平行とするには沈線幅が細すぎ、また粘土瘤も小さいことから、五所式平行あるいは、砂沢式から五所式の推移期に属するものと考えておきたい。

#### 第3群弥生土器：中期後葉の土器 (4～14)

ほぼ5期弥生土器に相当するものである。4は沈線と斜位の刺突が組み合わされるものである。小型の鉢かと思われるが、拓影図の上下を逆にして、壺の頸～肩部に相当する可能性もある。5は、鉢と思われ、底部付近に丸みを帯びた鋸歯文(波状文)が施されている。6は無文の甕であり、口唇部には連続刻目が施され、外面に横ケズリ、内面には横ナデが観察される。7は、やや軟質の焼成である。屈曲部内面には稜線が明瞭に観察される。8の甕の口唇部には、外面に施されているR L縄文と同じ縄文が施文されている。10～14は同一個体と思われ、恐らくは小型の壺である。横走沈線、連弧文、歪んだ鋸歯文、レンズ状文を複雑に組み合わせている。縄文は磨消で、単節R Lである。沈線文は、頸部から肩部にかけて集中するようで、9はそれらの体部下半の可能性もある。これら4～14の資料が同一時期のものか否かは即断できないが、6～8の甕の、明瞭に外反する形態よりみて、これら3点は同一時期に存在している可能性はあると思われる。また、9～14の壺と5の鉢には崩れた鋸歯文がみられることから、これらもほぼ同一時期のものである可能性が高い。(木村 高)

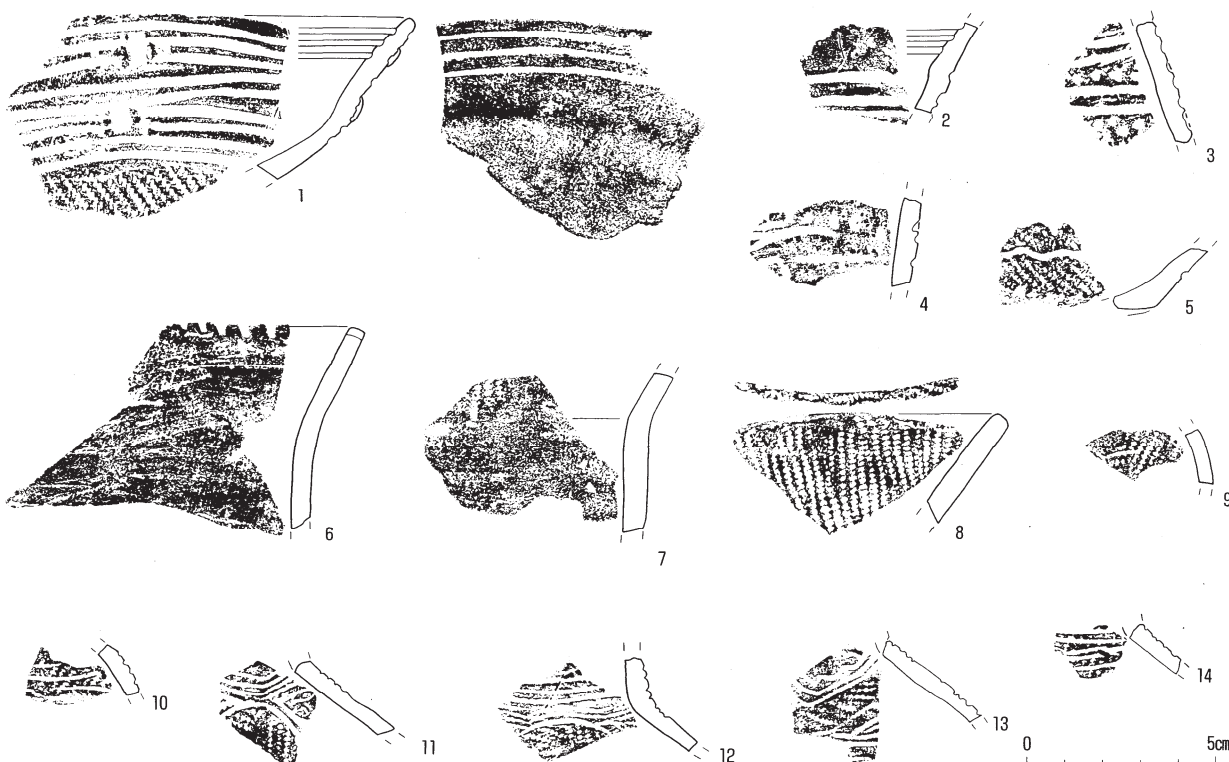


図70 弥生土器

第6節 近世以降の出土遺物 (図71)

1 陶磁器 (1,3,5,6) 3と6は陶器で、肥前の播鉢である。6は鉄釉が全面に施釉されており、3は無釉である。時期はともに肥前(5)期と考えられる。5も陶器で、卸目が密に施された産地・時期の不明な播鉢である。鉄釉は全面施釉と考えられる。1は磁器で、肥前系(6)期の染付皿である。

2 瓦質土器 (2,4) 2は焜炉の口縁~胴部下半までの大型破片である。外面は吸炭によって黒光りしているのに対し、内面には付着物が無く、がさついている。4は、2と同一個体かどうか判断できないが、同じく焜炉の底部片であると考えられる。

3 銅製品 (7) 1点出土した。7の寛永通宝は破片で、古寛永か新寛永かは不明である。

4 土製品 (8,9) 8,9ともに型打ち成形で、8は碁石状、9は鳩の人形あるいは笛であると思われる。

(木村 高)

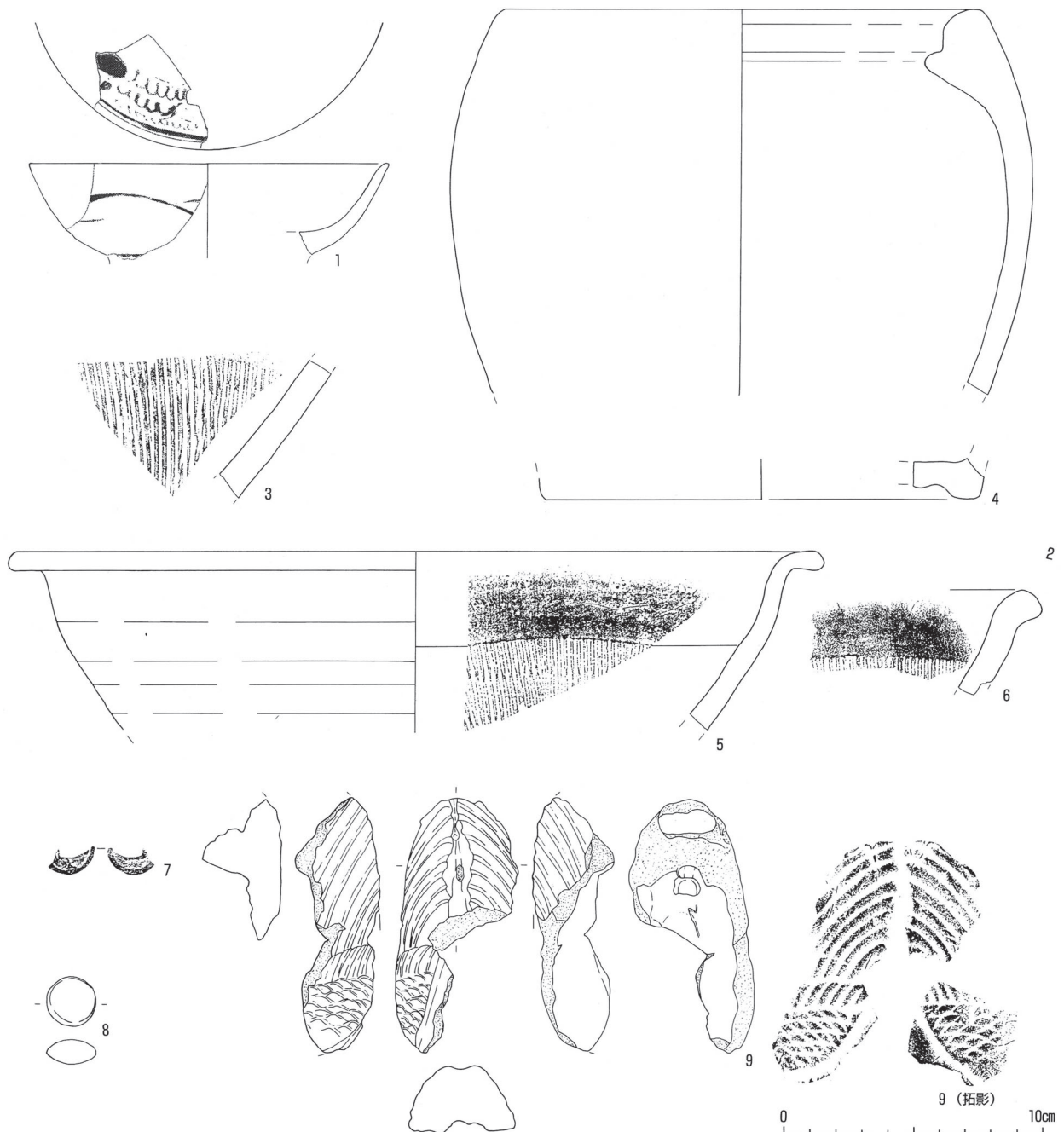


図71 近世以降の出土遺物

土師器・須恵器

図番	器種	土師1	土師2	層位	グッド	計測値(mm)	口径	高さ	容積(%)	外周調整	内周調整	底面調整	底面	調整	分類	その他特徴(備考)	整理番号																									
36 1	須恵 杯	1H	SD03	覆土 F-108-11	141	52	50	52	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	032	ハラ書き	1061
36 2	須恵 杯	6H	RP02	確認面 F-109-13	142	53	56	87	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	034	ハラ書き	1399
36 3	須恵 杯	1H	SD01SK01	覆土 G-111-14	140	53	64	45	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	034	ハラ書き	1044
36 4	須恵 杯	1H	SD01SK01	覆土 G-111-13	136	50	64	45	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	034	ハラ書き	1260
36 5	須恵 杯	遺構外	-	不明 F-102	132	54	60	26	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	047	ハラ書き	1023
36 6	須恵 杯	1H	SD02	覆土 E-109-3	126	46	64	61	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	042	ハラ書き	1048
36 7	須恵 杯	1H	SD01	確認面 G-110-6	130	58	60	56	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	042	ハラ書き	1057
36 8	須恵 杯	1H	SD03	覆土 F-108-7	140	54	54	33	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	042	ハラ書き	1063
36 9	須恵 杯	1H	SD01SK01	覆土 G-110-1	114	44	44	28	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	042	ハラ書き	1049
36 10	須恵 杯	遺構外	-	不明 G-102	138	59	58	33	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	042	ハラ書き	1024
36 11	須恵 杯	SE01	-	確認面 G-103-4	121	47	50	57	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	015	ハラ書き	1068
36 12	須恵 杯	3H	(貯)	床面 G-118-7	132	54	48	100	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1054
36 13	須恵 杯	1H	SD01SK02	覆土 H-110-3	131	55	54	100	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1047
36 14	須恵 杯	6H	-	床面 F-109-13	128	47	48	19	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1103
36 15	須恵 杯	1H	-	床面 F-109-6	136	54	50	20	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1242
36 16	須恵 杯	1H	SD01SK01	覆土 G-110-2	128	49	52	49	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1090
36 17	須恵 杯	1H	SD01	覆土 H-110-1	130	44	50	2	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1255
36 18	須恵 杯	SE01	-	確認面 G-103-4	124	(53)	48	89	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	001	ハラ書き(ミガキ入る)	1035
36 19	須恵 杯	遺構外	-	1層 H-115	136	-	-	11	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1545
36 20	須恵 杯	1H	SD01	覆土	128	-	-	63	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1220
36 21	須恵 杯	1H	-	床面 F-109-3	150	52	60	6	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1457
36 22	須恵 杯	SK16	-	覆土 H-108-3	134	-	-	19	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1447
36 23	須恵 杯	4H	-	床面 J-120-4	134	-	-	30	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1424
36 24	須恵 杯	1H	-	覆土 H-110-7	126	-	-	30	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1337
36 25	須恵 杯	1H	SD01SK01	覆土 G-111-14	134	-	-	28	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1339
36 26	須恵 杯	2H	-	確認面 G-116-7	155	-	-	13	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1515
36 27	須恵 杯	1H	SD01	確認面 H-110-14	132	-	-	16	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1432
36 28	須恵 杯	遺構外	-	1層 N-111	120	-	-	28	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1344
36 29	須恵 杯	4H	-	覆土 J-120-3	130	-	-	9	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1566
36 30	須恵 杯	2H	-	床面 D-115-7	136	-	-	8	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1564
36 31	須恵 杯	1H	SD01SK01	覆土 G-111-13	132	-	-	35	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1216
36 32	須恵 杯	SK16	-	確認面 H-108-3	134	55	52	9	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	011	ハラ書き	1109
36 33	須恵 杯	SE01	-	確認面 H-103-4	137	59	61	64	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI	ウJ	ウK	ウL	ウM	ウN	ウO	ウP	ウQ	ウR	ウS	ウT	ウU	ウV	ウW	ウX	ウY	ウZ	002	ハラ書き	1034
36 34	須恵 杯	1H	SD02	覆土 E-109-2	126	40	40	28	0	0	0	0	0	ウA	ウB	ウC	ウD	ウE	ウF	ウG	ウH	ウI																				



土師器・須恵器

図番	器種	出土層	出土地	層位	グリッド	計測値(mm)	容積(%)	外面調整	内面調整	底面	側面	色調	特徴(備考)	整理番号
37 4	土師 環	遺構外	-	II層 F-109-11	142	59	60	22	0	0	0	0	-	1256
37 5	土師 環	1H	SD01SK01	覆土 G-111-14	144	55	58	38	0	0	0	0	-	1257
37 6	土師 環	遺構外	-	I層 J-123	126	53	59	26	0	0	0	0	-	1106
37 7	土師 環	遺構間接合	-	-	148	-	-	36	0	0	0	0	-	1280
37 8	土師 環	1H	SD03	確認面 J-108-8	132	47	48	18	0	0	0	0	-	1051
37 9	土師 環	1H	-	床面 J-109-3地	146	53	58	20	0	0	0	0	-	1238
37 10	土師 環	1H	SD01SK01	覆土 G-110-14	136	58	56	31	0	0	0	0	-	1532
37 11	土師 環	1H	SD01	覆土 G-110-13	121	55	40	4	0	0	0	0	-	153
37 12	土師 環	3H	(中)	床面 G-118-2	134	50	55	70	0	0	0	0	-	1002
37 13	土師 環	SE01	-	確認面 J-103-4	129	50	51	83	0	0	0	0	-	1036
37 14	土師 環	5H	-	覆土 J-123-3	156	-	-	16	0	0	0	0	-	1517
37 15	土師 環	3H	-	証(地) F-118-4地	126	-	-	35	0	0	0	0	-	1232
37 16	土師 環	SE01	-	確認面 J-103-4	136	-	-	13	0	0	0	0	-	1299
37 17	土師 環	1H	SD03	覆土 F-108-11	132	-	-	27	0	0	0	0	-	1231
37 18	土師 環	4H	-	覆土 J-120-4地	134	-	-	17	0	0	0	0	-	1513
37 19	土師 環	1H	SD01SK01	覆土 G-110-5	132	-	-	13	0	0	0	0	-	1520
37 20	土師 環	2H	-	証(地) D-116-7	134	-	-	26	0	0	0	0	-	1288
37 21	土師 環	遺構外	-	I層 H-104	150	-	-	14	0	0	0	0	-	1538
37 22	土師 環	1H	SD01SK02	覆土 H-110-3	114	-	-	24	0	0	0	0	-	1558
37 23	土師 環	4H	-	証(地) J-121-12	156	-	-	24	0	0	0	0	-	1509
37 24	土師 環	3H	-	証(地) G-118-8	145	-	-	16	0	0	0	0	-	1512
37 25	土師 環	1H	SD03	覆土 F-108-8地	116	-	-	48	0	0	0	0	-	1224
37 26	土師 環	SE01	-	確認面 J-103-4	121	-	-	12	0	0	0	0	-	1291
37 27	土師 環	2H	SD01SK03	覆土 F-115-1	142	-	-	16	0	0	0	0	-	1510
37 28	土師 環	1H	SD01	覆土 J-108-8	144	54	60	10	0	0	0	0	-	1274
37 29	土師 環	遺構外	-	II層 F-108-11	134	-	-	19	0	0	0	0	-	1544
37 30	土師 環	1H	SD02	覆土 F-110-9	132	-	-	13	0	0	0	0	-	154
37 31	土師 環	1H	SD01SK01	覆土 G-110-1地	130	-	-	32	0	0	0	0	-	1476
37 32	土師 環	1H	SD01SK01	覆土 G-111-14	122	-	-	33	0	0	0	0	-	1478
37 33	土師 環	SK08	-	覆土 F-159-7	130	57	48	41	0	0	0	0	-	1478
37 34	土師 環	2H	SD01SK02	覆土 F-116-14	132	40	59	61	0	0	0	0	-	1008
37 35	土師 環	3H	-	証(地) F-118-5地	147	60	54	31	0	0	0	0	-	1041
37 36	土師 環	1H	SD01SK01	覆土 G-110-1地	134	49	54	22	0	0	0	0	-	1067
37 37	土師 環	1H	SD01SK02	覆土 H-110-7	130	53	58	16	0	0	0	0	-	111
37 38	土師 環	6H	Pi102	覆土	143	58	59	53	0	0	0	0	-	1039
37 39	土師 環	6H	RP01	確認面 F-109-9	130	56	60	38	0	0	0	0	-	1042
37 40	土師 環	1H	SD01	覆土 H-110-7	138	51	56	41	0	0	0	0	-	1001
37 41	土師 環	6H	RP01	覆土 F-109-9	135	51	54	47	0	0	0	0	-	1107
37 42	土師 環	5H	(中)	証(地) 証(地)	135	64	62	100	0	0	0	0	-	1003
37 43	土師 環	遺構間接合	-	覆土 G-109-7	132	-	-	22	0	0	0	0	-	1553
37 44	土師 環	1H	SD01	覆土 H-110-12	136	-	-	20	0	0	0	0	-	1543
37 45	土師 環	1H	-	覆土 G-110-9	142	-	-	11	0	0	0	0	-	1562
37 46	土師 環	1H	SD01SK02	証(地) H-110-7	164	-	-	14	0	0	0	0	-	1493
37 47	土師 環	1H	SD01SK02	覆土 G-160-13	139	59	53	73	0	0	0	0	-	1009
38 1	土師 環	6H	-	床面 F-110-13	195	-	-	12	0	0	0	0	-	1498
38 2	土師 環	1H	SD03	覆土 F-108-14	163	65	58	31	0	0	0	0	-	1253
38 3	土師 環	1H	SD03	確認面 F-108-4	194	-	-	11	0	0	0	0	-	1477
38 4	土師 環	SK05	-	覆土 L-119-5地	188	-	-	25	0	0	0	0	-	1358
38 5	土師 環	SK05	-	覆土 L-119-5	170	-	-	68	0	0	0	0	-	1359
38 6	土師 環	遺構外	-	I層 E-107	168	-	-	19	0	0	0	0	-	1540
38 7	土師 環	4H	-	床面 J-120-4	168	70	58	14	0	0	0	0	-	1606



土師器・須臾器

図番	器種	吐壺	出仕型	層位	グリット	計測値(mm)	結核率(%)	外面調整	内面調整	底面	焼成温度	その他特徴(備考)	整理番号
41	土師I長胴	1H	SD01SK01	覆土H-110-8地	192	-	24	叩	叩	-	-	-	1129
42	土師I長胴	1H	SD01SK01	覆土F-108-7地	270	-	14	叩	叩	-	-	磨滅著しい	1491
42	土師I長胴	1H	SD01SK01	覆土H-110-12	250	-	40	叩	叩	-	-	磨滅著しい	1170
42	土師I長胴	1H	(好ト)	覆土G-109-10	250	-	16	叩	叩	-	-	P-22	1168
42	土師I長胴	1H	SD01SK01	覆土F-109-8	214	-	23	叩	叩	-	-	輪稜痕	1214
42	土師I長胴	1H	SD01SK01	覆土F-108-7地	214	-	50	叩	叩	-	-	1HSD003と殆	1219
42	土師I長胴	SD01	-	覆土D-111-5	204	-	16	叩	叩	-	-	P-1, 内外面磨滅著しい	1162
42	土師I長胴	SD01	-	確認面D-111	200	-	15	叩	叩	-	-	-	1160
42	土師I長胴	1H	SD01SK02	床面G-109-7	216	-	24	叩	叩	-	-	P-5, 7, 8	1638
42	土師I長胴	1H	SD01SK02	床面G-110-8	200	-	14	叩	叩	-	-	P-5, 6	1633
42	土師I長胴	3H	-	床面G-119-15	220	-	18	叩	叩	-	-	-	1144
42	土師I長胴	3H	(好ト)	覆土G-118-10	232	-	19	叩	叩	-	-	-	1172
42	土師I長胴	1H	SD01SK02	社(社)H-111-7	258	-	20	叩	叩	-	-	P-10, 13, 24, 28, 31, 33, 40, 48, 77	1225
42	土師I長胴	3H	(好ト)	床面G-118-7	240	-	52	叩	叩	-	-	95(4)	1217
42	土師I長胴	遺構外	-	不明H-102地	208	-	16	叩	叩	-	-	-	1313
42	土師I長胴	3H	SD01SK01	覆土G-111-14	216	-	20	叩	叩	-	-	-	1135
42	土師I長胴	1H	-	社(社)F-118-13	220	-	20	叩	叩	-	-	-	1407
42	土師I長胴	1H	-	覆土F-109-6	224	-	5	叩	叩	-	-	P-80	1498
42	土師I長胴	1H	SD01SK01	確認面H-110-11	208	-	8	叩	叩	-	-	頸部タキキ有	1518
43	土師I長胴	遺構外	-	II層F-108-1	230	-	20	叩	叩	-	-	頸部タキキ有	1318
43	土師I長胴	2H	SD01SK02	覆土F-116-3地	218	-	59	叩	叩	-	-	磨滅著しい	1066
43	土師II小型	SE01	-	覆土J-103-4	154	168	74	叩	叩	砂底	008	P-4, 7, 8, 9, 13, 14	1069
43	土師II長胴	1H	SD02	覆土E-102-2地	170	186	86	叩	叩	不明	023	ロウ口の可能性有り, 1HSD003と接合	1166
43	土師I長胴	SD01	-	確認面D-111-5	202	-	14	叩	叩	-	-	-	1136
43	土師I長胴	4H	-	床面J-121-4地	154	-	20	叩	叩	-	-	P-153, 207, 221, 213, 240, 241	1632
43	土師I長胴	4H	-	床面J-121-3	170	-	24	叩	叩	-	-	P-249, 内面磨滅著しい	1632
43	土師II小型	1H	SD02	覆土E-109-2	146	-	23	叩	叩	-	-	内面の口縁から体部上半にかけて炭化物付着	1408
43	土師II小型	2H	-	II層E-112	120	-	13	叩	叩	-	-	-	1176
43	土師II小型	1H	SD01SK01	覆土G-110-2地	116	-	24	叩	叩	-	-	-	1412
43	土師II小型	1H	SD01SK01	覆土G-111-14	142	-	53	叩	叩	-	-	胎土に径1~2mmの砂粒多く含む	1406
43	土師I長胴	1H	SD03	覆土F-108-8	164	-	43	叩	叩	-	-	磨滅著しい	1311
43	土師II小型	6H	SD01SK01	覆土F-108-6	136	-	32	叩	叩	-	-	外面ナデツケ?有	1169
43	土師II小型	1H	SD01SK01	確認面G-111-13	146	-	39	叩	叩	-	-	内面やや雑なナデ調整	1310
43	土師II小型	1H	SD01SK02	社(社)H-110-7	146	139	64	叩	叩	叩	074	-	1158
43	土師II小型	遺構間接合	-	覆土	138	-	26	叩	叩	-	-	BH(P-110), 1HSD001と殆	1133
43	土師II小型	4H	-	社2層J-121-16	142	-	12	叩	叩	-	-	P-164, 304, 内面磨滅と思われ240の跡痕有	1320
43	土師II小型	4H	-	床面J-121-4地	129	109	66	叩	叩	叩	-	P-16, 154, 178, 235, 250, 251, 255, 296, 297	1202
43	土師II小型	SK17	-	覆土G-108-2地	130	110	53	叩	叩	叩	回糸	-	1157
43	土師II小型	1H	SD01SK02	社(社)H-110-4地	168	-	28	叩	叩	-	-	180内外面磨滅著しい	1167
43	土師II小型	1H	SD01SK02	覆土H-110-7	132	-	46	叩	叩	-	-	P-14, 磨滅著しい	1155
43	土師II小型	1H	SD01SK01	覆土G-110-3	134	-	41	叩	叩	-	-	IIと殆	1163
43	土師II小型	1H	SD03	覆土F-108-11	148	-	19	叩	叩	-	-	内面胴部上半炭化物付着	1173
43	土師II小型	SK16	-	覆土H-108-3地	150	-	28	叩	叩	-	-	P-244, 内面胴部上半炭化物付着	1505
43	土師II小型	4H	(好ト)	社2層J-121-8	122	-	38	叩	叩	-	-	P-46, 47	1272
43	土師II小型	3H	-	床面G-118-7	128	-	28	叩	叩	-	-	-	1272
43	土師II小型	5H	-	床面J-124-15	130	-	19	叩	叩	-	-	P-14, 15, 口縁部内面炭化物約10mmの幅で付着	1637
43	土師II小型	4H	-	覆土J-121-11地	122	-	25	叩	叩	-	-	P-52, 195, 口縁部内面炭化物付着	1271
44	土師II小型	3H	(好ト)	社(社)G-118-7	62	-	-	叩	-	回糸	-	P-支脚	1019
44	土師II小型	2H	SD01SK02	覆土E-116-14	122	-	19	叩	叩	-	-	磨滅著しい	1227
44	土師II小型	4H	-	社2層J-121-12地	90	-	45	叩	叩	-	-	P-54, 71, 77, 130, 136, 158, 168, 191, 191, 191	1270
44	土師II長胴	1H	-	床面G-109-12	-	-	-	叩	叩	-	-	P-25, 39, 54	1647





土師器・須恵器

図番	器種	出地	器位	ケリット	口径	器高(mm)	口径(%)	外周調整	内周調整	底面	底面	色澤	その他特徴(備考)	図番
45	須恵壺	遺構外	不明	H-103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1223
46	1須恵壺	遺構外	不明	H-110-9	136	-	53	叩	叩	叩	叩	-	長頸壺	1029
46	2土師壺	3H	床面	G-118-3	-	-	-	舂	舂	叩	叩	-	022短頸壺	1613
46	3須恵壺	4H	-	-	108	-	31	叩	-	-	-	-	P-22	1207
46	4須恵壺	1H	-	確認面	J-120-4	-	-	-	-	-	-	-	-	1423
46	5須恵壺	1H	-	床面	G-109-12	-	28	叩	-	-	-	-	長頸壺、P-57	1420
46	6須恵壺	4H	-	床面	F-108-2	-	15	叩	-	-	-	-	長頸壺、P-99	1546
46	7須恵壺	1H	-	床面	H-160-8	114	17	叩	-	-	-	-	061ハラ書き	1064
46	8須恵壺	遺構外	不明	H-104	164	-	21	叩	叩	叩	叩	-	-	1222
46	9須恵壺	遺構外	不明	G-103	134	-	13	叩	叩	叩	叩	-	062短頸壺	1028
46	10須恵壺?	1H	-	床面	G-110-15	104	11	叩	叩	叩	叩	-	鉢?	1431
46	11須恵壺?	遺構間接合	-	床面	-	114	20	叩	叩	叩	叩	-	2H(床面)と4H(Φ-50)、鉢形?	1421
46	12須恵壺	遺構外	-	不明	D-111	103	14	叩	叩	叩	叩	-	短頸壺	1463
46	13須恵壺	4H	-	床面	J-121-10	-	-	-	-	-	-	-	P-222, 360、外面光沢有り	1674
46	14須恵壺	1H	-	床面	F-110-13	-	-	-	-	-	-	-	P-22	1651
46	15須恵壺?	3H	-	靴(埴)	F-118-5	-	80	-	-	舂	舂	-	P-68、外面光沢有り、スサ?付着	1645
46	16土師壺	4H	(ケリット)	I-121	210	182	90	叩	舂	舂	舂	-	P-20, 35, 37, 38, 48, 50, 54, 55 内福徳、福徳蔵、蔵のミカキ	1191
46	17土師壺	SK05	-	靴土	L-119-9	178	10	叩	叩	舂	舂	-	184 P-74、内面口クロ目凸部にミカキ明瞭、残成遺構?	1360
46	18須恵壺	遺構間接合	-	靴土	G-110-2	-	110	-	-	舂	舂	-	SDX01-H(P-6), IHS001SK01靴土新	1433
46	19土師壺	壺	1H	SD01SK02靴土	H-110-7	116	60	叩	舂	舂	舂	-	077双耳壺、IHS001と接合、磨滅、輪縁良	1198
46	20土師壺	羽釜	1H	確認面	I-110-8	82	59	叩	舂	舂	舂	-	-	1053
46	21土師壺	羽釜	1H	靴土	G-110-5	-	-	-	-	-	-	-	磨滅	212
47	1土師壺	壺	-	床面	D-115	334	31	叩	舂	舂	舂	-	052 P-1、口縁部外面灰化物付着	1309
47	2土師壺	壺	2H	SD01SK03靴土	E-115-2	123	73	叩	舂	舂	舂	-	外面胴部煤付着	1263
47	3土師壺	壺	-	不明	E-113	352 (143)	15	叩	舂	舂	舂	-	-	1032
47	4土師壺	壺	1H	靴土	G-110-9	-	136	-	-	-	-	-	086	1196
47	5土師壺	壺	1H	確認面	G-110-1	-	-	-	-	-	-	-	-	1487
47	6土師壺	遺構外	-	1層	H-117	-	-	舂	舂	舂	舂	-	-	1576
47	7土師壺	壺	1H	靴土	E-110-14	-	-	舂	舂	舂	舂	-	-	1312
47	8須恵大壺	遺構外	-	1層	N-11	410	32	叩	-	-	-	-	059	1183
47	9須恵大壺	遺構外	-	靴土	F-108-8	168	3	叩	舂	舂	舂	-	-	1218
47	10須恵大壺	遺構間接合	-	底面	L-119-5	-	-	-	-	-	-	-	183 SK05 (床面P-8)と4H(床面P-292)、内面布(?)当て	1351
47	11土師壺	台部	-	靴土	H-110-8	-	112	-	-	舂	舂	-	049	1154
47	12土師壺	台部	-	1層	F-101	-	112	-	-	-	-	-	磨滅	1273
47	13土師壺	不明	1H	床面	F-109-5	-	58	-	-	舂	舂	-	-	1521
49	1土師壺	壺	-	1層	M-112	-	-	舂	-	-	-	-	ハラ書き	1366
49	2須恵壺	遺構外	-	遺構外	-	-	50	-	-	叩	叩	-	ハラ書き、(底部: 同系→棒状工具による舂り)	159
49	3須恵壺	遺構外	-	遺構外	-	-	60	-	-	叩	叩	-	ハラ書き	155
49	4須恵壺	遺構外	-	遺構外	-	-	52	-	-	叩	叩	-	ハラ書き	164
49	5土師壺	遺構外	-	遺構外	-	-	40	-	-	叩	叩	-	ハラ書き	175
50	1土師壺	壺	遺構外	-	G-100	-	76	-	-	舂	舂	-	ハラ書き、(器: 靴土網で拭く、靴土の磨滅がスリ)	183
50	2土師壺	壺	遺構外	-	G-102	-	82	-	-	舂	舂	-	(底部: 木葉痕)、砂粒多量に含む	184
50	3須恵壺	遺構外	-	M-105	-	-	-	-	-	舂	舂	-	底部中央に砂粒多量、砂底	174
50	4須恵壺	遺構外	-	G-104	-	-	-	-	-	叩	叩	-	ハラ書き	170
50	5須恵壺	遺構外	-	G-104	不明	-	-	叩	-	-	-	-	ハラ書き	162
50	6須恵壺	遺構外	-	G-107	不明	-	-	叩	-	-	-	-	ハラ書き	165
50	7須恵壺	遺構外	-	G-103	136	-	20	叩	-	-	-	-	ハラ書き	176
50	8須恵壺	遺構外	-	L-103	-	-	60	-	-	叩	叩	-	ハラ書き	154
50	9土師壺	遺構外	-	L-102	-	-	-	叩	-	-	-	-	ハラ書き、磨滅著しい	181
51	1須恵壺	遺構外	-	J-105	-	-	-	叩	-	-	-	-	ハラ書き	169
51	2須恵壺	遺構外	-	G-107	144	-	23	叩	-	-	-	-	ハラ書き	152





ミニチュア土器

図番号	遺構名	出位置	種別	内面調整	外面調整	色調(外面)	特徴	重量(g)	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	器形(長)	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)
52-24	SK17	G-108-1	土師器	てつくね	てつくね	7.5YR7/8		2.0	23	14	不明	不明	4	不明	15
52-25	遺構外	H-102	土師器	ナデ	ナデ	10YR7/2口縁		19.6	(44)	(45)			10		30
52-26	IH	H-108-4	土師器	ケズリ	ケズリ	5YR6/6覆土		12.7	(9)	(39)	41		11		23
52-27	IHSB01P101	F-109-6	土師器	ナデ	ナデ	10YR5/3埋土		9.1	(48)	(30)			7		102
52-28	IH	G-109-8	土師器	てつくね	てつくね	10YR5/2脱皮形		28.8	37	36			17		101
52-29	遺構外	N-112	土師器	ナデ	ナデ	10YR7/2I層		5.0	(20)	(32)			5		20
52-30	4HSK01	J-122-12	土師器	てつくね	てつくね	5YR5/6P-318、光沢有り		2.6	(30)	(14)			6		64
52-31	SK16	G-108-1	土師器	てつくね	てつくね	5YR6/6確認面		3.4	(18)	(22)			6		106
52-32	SK17	G-108-1	土師器	てつくね	てつくね	10YR5/2口縁		0.7	(17)	(8)			4		16
52-33	SK17	G-108-1	土師器	ナデ	ナデ	10YR3/2覆土		2.8	(15)	(17)			8		72
52-34	遺構外	J-104	土師器	ナデ	ナデ	5YR5/6		9.8	(40)	(21)			11		35
52-35	2H	D-116-7	土師器	ケズリ	ケズリ	10YR5/2覆土		5.0	(35)	(29)			5		104
52-36	IHSD01	H-110-7	土師器	てつくね	てつくね	10YR4/1確認面		4.9	(27)	(18)			9		65
52-37	SK17	G-108-1	土師器	ケズリ	ケズリ	5YR5/6埋土、底部		1.6	(20)	(21)			5		77
52-38	SK17	G-108-1	土師器	ミガキ	ミガキ	7.5YR4/3埋土		3.4	(25)	(23)	23		7		74
52-39	SK17	G-109-13	土師器	てつくね	てつくね	5YR5/4埋土、口縁		4.6	(28)	(26)			7		85
52-40	IHSD01SK02	H-110-7	土師器	てつくね	てつくね	10YR7/4粘土上層、口縁		8.2	(32)	(47)			5		24
52-41	遺構外	G-104	土師器	不明	不明	10YR4/1底部		16.3	(32)	(44)			10		84
52-42	SK17	G-108-1	土師器	不明	不明	10YR6/4覆土		0.9	(23)	(12)			3		73
52-43	IHSD01SK02	H-110-3	土師器	てつくね	てつくね	10YR4/1確認面、底部		1.0	(25)	(11)	不明		5		80
52-44	遺構外	E-112	土師器	てつくね	てつくね	10YR8/4I層		5.3	(22)	(26)			12		28
52-45	SK17	G-108-1	土師器	てつくね	てつくね	5YR5/8埋土		8.6	(30)	(29)			12		70
52-46	SK17	G-108-1	土師器	てつくね	てつくね	5YR6/6埋土		3.1	(16)	(27)			6		71
52-47	IHSD01	H-110-7	土師器	ケズリ	ケズリ	10YR7/4確認面		4.9	(28)	(19)			8		66
52-48	遺構外	I-103	土師器	てつくね	てつくね	5YR5/6		2.4	(23)	(12)			7		32
52-49	IHSD01SK02	H-110-7	土師器	ナデ	ナデ	5YR5/6底部		7.5	33	13	不明		6		105
52-50	6HRP01	F-109-9	土師器	不明	不明	7.5YR4/6確認面、底部		5.8	(24)	(10)	23		6		03
52-51	3H	F-118-6	土師器	てつくね	てつくね	10YR5/6P-43、床面直上		5.8	(30)	(25)	20		3		92
52-52	遺構外	N-113	土師器	ミガキ	ナデ	10YR7/2I層、底部		11.1	(36)	(16)	30		9		21

土製品

図No	種別	分類	出土位置	出位置	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	特徴	備考
53-1	玉類	1Aa3	2口カマド		覆土	9.0	9.5	6.5	0.5	表面が細く滑らか。	
53-2	玉類	1Aa1	S-K17	G-108-1	覆土	10.5	10.5	8.0	0.8	海綿管針含む。	9.5発掘
53-3	玉類	1Aa3	遺構外	H-104	第1層	11.0	11.0	7.6	1.0	瓜腹あり。	
53-4	玉類	1Aa1	S-K17	G-108-1	覆土	(11.0)	(11.0)	8.0	0.8	海綿管針含む。断面褐色。表面黒色。	9.5発掘
53-5	玉類	1Aa3	1H.S.D		確認面	14.0	15.0	11.5	2.2	海綿管針含む。断面灰色。	
53-6	玉類	1Aa1	1H.S.D		火床面	(10.2)	(11.0)	8.5	1.0	海綿管針含む。断面灰色。	
53-7	玉類	1Aa2	1口カマド	G-109-11	覆土	9.3	(4.8)	7.2	0.3	1/2欠損。	9.5発掘
53-8	玉類	1Aa1	1H.S.D		確認面	9.0	10.0	7.0	0.7	海綿管針含む。	
53-9	玉類	1Aa1	2H		床面	9.0	(5.0)	6.0	0.5	海綿管針含む。開口褐色。	
53-10	玉類	1Ac2	1HRP02		覆土	9.0	8.0	7.0	0.5	海綿管針含む。	
53-11	玉類	1Ac3	1口カマド	G-109-7	覆土	(9.0)	(4.0)	9.0	0.2	ミガキ？	
53-12	玉類	1Ac13	S-K16	H-108-7	底面	12.5	(6.5)	11.9	1.0	海綿管針含む。	
53-13	玉類	1Aa3	1口カマド	G-109-11	覆土	16.5	12.5	15.0	3.1	粘土？付着。	
53-14	玉類	1Aa1	S-K17	G-108-1	覆土	11.0	(11.0)	9.2	1.0	表面剥落。開口褐色。海綿管針含む。	
53-15	玉類	1A13	1口カマド		確認面	10.0	11.0	11.0	1.1	海綿管針含む。	
53-16a	土鈴	3B	IHSD01SK01	G-111-14	覆土	22.5	26.5	17.3	6.3	表面歪みあり。	胎分134
53-16b	土鈴	3B	IHSD01SK01	G-111-14	覆土	7.5	5.5	2.0	0.1	以下版取の粘土折り曲げ。	
53-17	土鈴	3A	遺構外	N-112	第1層	35.0	19.5	12.0	7.4	内面指痕。海綿管針含む。焼成前穿孔。	
53-18	棒状	5-	遺構外	I-103	第1層	(91.5)	(25.5)	20.0	32.9	外面一部煤状物質付着。先端指印。海綿管針含む。	9.5発掘

隠川(4)遺跡

土師質特殊遺物

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
54-1	粘土紐状	1-	S K 17	G-108-1	覆土	(22.0)	5.0	5.5	0.7	表面滑沢。	胎分120
54-2	粘土紐状	1-	6HRP01	F-109-9	確認面	(24.0)	6.0	7.0	1.0	先端指による擠み。	胎分123
54-3	粘土紐状	1-	遺構外	G-123	第1層	(49.0)	9.5	9.2	3.7	海綿骨針含む。先端ねじれ。指紋痕と指ナデ	
54-4	粘土紐状	1-	4 H	J-121-15	床面	(20.0)	5.0	5.0	0.4	海綿骨針含む。弓状に反る。	胎分122
54-5	粘土紐状	1-	1 H	F-109-13	床構築土	(31.0)	10.0	7.0	2.0	弓状に反る。一部粘土めくれ。海綿骨針・砂粒混入。	
54-6	粘土紐状	1-	S K 17	G-108-1	覆土	(44.2)	27.9	7.3	3.1	釣針状。先端指ツマミ。屈曲部粘土ひび。海綿骨針含む。	
54-7	粘土紐状	1-	S K 17	G-108-1	覆土	31.5	20.0	5.0	1.9	6の字状。両先端指ツマミ。海綿骨針含む。黒色。	
54-8	不整形	4-	6HRP02	F-109-13	覆土	26.0	12.5	5.7	2.2	釘状。上下端前後指オサエ。	
54-9	不整形	4-	1HSD03	F-108-8	覆土	40.0	16.0	15.0	6.5	棒状。砂粒多量混入。表面不整。握り？	
54-10	不整形	4-	1Hカマド	G-109-7	覆土	(11.5)	19.0	10.0	1.1	環状か。表面煤付着。海綿骨針含む。	
54-11	不整形	4-	4 H	J-121-10	床面	24.0	18.0	10.5	3.6	勾玉状。中央棒の差込か？。海綿骨針含む。	
54-12	粒状	2-	1 H	F-109-13	床構築土	8.8	9.3	6.7	0.5		
54-13	粒状	2-	1Hカマド	G-109-11	覆土	13.0	8.0	9.0	0.7	粘土の括れ多し。	
54-14	粒状	2-	4 H	J-121-10	床面	14.4	14.8	8.2	2.3	潰した玉状。海綿骨針含む。指紋痕。	
54-16	板状	3-	6HRP02	F-109-13	確認面	(28.0)	29.0	13.0	6.5	粘土ひび多し。海綿骨針含む。	
54-17	板状	3-	S K 17	G-108-1/2	覆土	23.0	24.0	5.5	2.3	指頭圧痕。粘土括れ。	
54-18	板状	3-	S K 17	G-108-5	確認面	24.0	8.0	8.0	2.8	空豆状。一部植物性繊維圧痕。表面不整。粘土括れ。	胎分119
54-19	板状	3-	HSD01SK02	H-110-7	社(1層)土	(42.5)	43.0	9.0	8.1	表裏面スサ圧痕。表面極めて平坦。	
54-20	板状	3-	S K 17	G-108-1	覆土	33.0	26.0	7.0	4.2	スサ混入。厚さ不均一。	
54-21	板状	3-	S K 17	G-108-1	覆土	53.0	37.0	9.0	12.5	表裏面スサ圧痕。裏面一部ナデ。黒褐色。	胎分121
54-22	不整形	4-	HSD01SK01	E-106	覆土	(22.5)	(20.0)	9.5	2.4	裏面平坦。表面不整。	
54-23	不整形	4-	S K 17	G-109-13	覆土	(26.0)	(32.0)	11.0	6.7	表面滑沢。裏面溝状。	
54-24	不整形	4-	1Hカマド	G-109-11	覆土	(24.0)	23.0	9.0	4.4	表面指頭圧痕。裏面指ナデ。表面粘土？付着。	
54-25	不整形	4-	HSD01SK02	H-110-3	覆土	25.0	19.5	9.0	2.7	表面擠みによる指頭圧痕。裏面平坦。	
54-26	不整形	4-	1 H	G-109-12	覆土	(16.0)	21.0	7.5	1.5	断面弓状。半裁筒状。	
54-27	不整形	4-	6HRP01	F-109-9	覆土	11.5	17.0	6.0	0.9	指による表裏圧痕。	胎分124
54-28	不整形	4-	1Hカマド	G-109-11	覆土	(32.0)	(18.5)	5.0	2.1	指による表裏圧痕。	
54-29	不整形	4-	HSD01SK01	E-106	覆土	(19.0)	(24.5)	9.5	2.2	表面滑沢。指紋痕あり。	
54-30	不整形	4-	1 H	G-109-12	覆土	(14.0)	(24.0)	9.5	1.7	指による表裏押圧。	
54-31	不整形	4-	S K 17	G-108-1/2	覆土	(32.5)	(16.0)	10.0	3.9	指による表裏押圧。表裏スサ圧痕。	
54-32	不整形	4-	S K 17	G-108-1/2	覆土	47.0	40.0	12.5	14.2	指による表裏押圧。一部括れ。粘土時のひび。	
54-33	不整形	4-	S K 17	G-108-1	覆土	(44.1)	23.0	13.5	10.4	指による表裏押圧。裏面指紋痕。粘土時のひび。	胎分118
55-1	不整形	4-	6HRP01	F-109-9	確認面	19.0	17.0	15.0	4.0	粘土括れ著し。	
55-2	不整形	4-	4HSD01SK01	J-122-12	覆土	15.0	16.0	8.5	1.3	左右押圧。上端引上げ	
55-3	不整形	4-	HSD01SK02	H-110	覆土	16.5	21.0	11.5	2.6	裏面指圧痕。粘土括れ著しい。	
55-4	不整形	4-	6HRP01	F-109-9	確認面	27.0	26.0	10.5	4.0	粘土括れ。粘土ひび著し。一部爪痕？	
55-5	不整形	4-	HSD01SK02	H-110	覆土	21.0	20.0	15.0	4.9	粘土括れ著し。指紋痕。	
55-6	不整形	4-	S K 17	G-108-1	覆土	25.0	21.0	29.0	9.7	一部植物性繊維圧痕。指紋痕。指先の刺突。ちぎり痕。	
55-7	不整形	4-	HSD01SK01	E-106	覆土	38.0	16.5	10.0	5.6	粘土括れ。2つの粘土が接着。爪痕。指紋痕。握り。	
55-8	不整形	4-	S K 17	G-108-1	覆土	20.0	16.0	12.5	2.3	指擠み。植物性繊維圧痕。ちぎり痕。	
55-9	不整形	4-	S K 17	G-108-1	覆土	48.5	38.0	6.0	6.0	板状を折り曲げ。	
55-10	不整形	4-	S K 16	H-108-7	覆土	52.0	30.0	11.0	8.4	板状。全面植物性繊維圧痕。	胎分116
55-11	不整形	4-	S K 05	L-119-5	覆土	47.0	26.0	9.0	9.7	板状。表面植物性繊維圧痕。裏面平坦部に押圧。	
55-12	不整形	4-	S K 05	L-119-5	覆土	(27.5)	(30.0)	8.0	4.4	表裏面植物性繊維圧痕。右側縁面取状。	胎分127
55-13	不整形	4-	S K 05	L-119-5	覆土	50.5	28.0	9.0	4.6	表裏面ナデ。右側縁面取状。	
55-14	不整形	4-	S K 17	G-108-1	覆土	36.0	25.0	12.5	8.1	表面滑沢。裏面一部平坦面。裏面ちぎり痕。	
55-15	不整形	4-	HSD01SK02	E-115-3	覆土	44.0	19.0	18.0	8.8	表面の2面に曲状の面。	
55-16	不整形	4-	HSD01SK02	H-110-7	覆土	60.0	56.5	16.0	38.9	一部植物性繊維圧痕。指圧痕。黒褐色。	
55-17	不整形	4-	HSD01SK01	G-111-15	覆土	47.5	28.0	12.5	19.8	表裏面指押圧。側縁ナデ？。表面植物性繊維圧痕。	

焼成粘土塊

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
56-1	-	1-	HSD01SK01	G-110-2	覆土	(72.0)	(45.0)	17.5	39.7	表面ナデ。裏面植物性繊維圧痕深い。	
56-2	-	1-	2HSD01	E-116-7	覆土	(53.0)	(37.0)	19.0	25.9	表面強いナデ。裏面流動状。	
56-3	-	1-	HSD01SK02	H-110-7	覆土	40.0	(27.0)	20.0	11.6	表面植物性繊維圧痕。裏面不整。	胎分114
56-4	-	1-	HSD01SK01	G-110-3	確認面	(49.0)	(40.0)	18.5	28.7	表面平坦で、粘土時のひびあり。裏面不整。	
56-5	-	2-	HSD01SK02	H-110-4	覆土	45.0	(33.0)	27.0	26.8	表面ナデ。裏面不整。	
56-6	-	1-	HSD01SK02	H-110-4	覆土	(27.0)	(25.0)	13.0	5.8	表面ナデ。裏面角材状のものの圧痕？	
56-7	-	1-	1HSD03	F-108-12	粘土下層	(31.5)	(20.0)	15.5	8.9	表面平坦。裏面不整。	
56-8	-	1-	4 H	J-121-16	覆土	36.0	34.0	16.5	13.5	表裏面植物性繊維圧痕著し。	
56-9	-	1-	2 H	D-113	覆土	(35.0)	(26.0)	18.0	11.1	表面平坦。裏面不整。	
56-10	-	1-	6HRP02	F-109-9	確認面	(38.0)	(26.0)	11.0	6.8	表面ナデ。裏面植物性繊維圧痕。	
56-11	-	1-	S K 17	G-109-13	覆土	(40.1)	(23.0)	16.0	12.0	表面ナデ。裏面植物性繊維圧痕著しい。	胎分117
56-12	-	1-	HSD01SK02	H-110-7	社(1層)土	(48.0)	(41.0)	20.0	25.2	表面ナデ。裏面やや流動状。	
56-13	-	1-	HSD01SK02	H-110-3	覆土	50.0	(32.0)	14.0	15.3	表面平坦。裏面不整。	
56-14	-	2-	1 H	F-109-13	床構築土	(60.0)	(45.0)	27.0	47.5	表面丘状。裏面粘土時のひび。	
56-15	-	1-	1HSD01	H-110-7	覆土	(23.0)	(24.0)	20.0	6.3	表面曲面。裏面不整。	
56-16	-	1-	HSD01SK04	H-110-12	粘土上層	(33.5)	(25.0)	15.0	8.0	表面平滑であるが不整。裏面不整。	
56-17	-	1-	S K 16	H-108-3	覆土	26.0	(21.0)	8.0	3.6	表面ナデ。裏面剥落。黒色。	
56-18	-	1-	S K 16	H-108-7	確認面	16.0	14.5	10.0	1.9	全面磨耗。	
56-19	-	1-	S K 16	H-108-7	覆土	31.0	27.0	16.0	9.9	全面磨耗。	
56-20	-	1-	S K 16	H-108-7	確認面	29.0	25.0	15.5	9.2	全面磨耗。	
56-21	-	1-	6HRP01	F-109-9	確認面	24.0	19.0	12.5	3.2	全面磨耗。	
56-22	-	2-	S K 17	G-108-1	覆土	24.0	24.0	27.5	4.4	半分黒色。	
57-1	-	2-	1Hカマド	G-109-11	覆土	59.0	41.0	32.0	57.3	カマド崩落土。軟質の焼成。少量植物性繊維圧痕。	胎分113
57-2	-	2-	1HSD03	F-108-8	覆土	50.0	38.0	26.0	31.2	植物性繊維圧痕混入。軟質の焼成。カマド起源か？	

粘土塊

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
58-1	-	1-	6HRP02	F-109-13	覆土	48.0	56.0	29.0	63.0	不整形塊型。植物の根？の孔あり。	胎分126
58-2	-	1-	6HRP02	F-109-9	覆土	58.0	45.0	32.0	69.1	直方体状。炭化物粒？微量混入。焼土粒微量混入。	胎分125
58-3	-	2-	6HRP02	F-109-9,13	覆土	97.0	132.0	57.0	520.3	植物の根？による孔。不整形円形状。	胎分171
58-4	-	2-	1HSD03	F-108-8	覆土	85.0	69.0	40.0	139.6	不整形。砂粒多量混入。植物性繊維圧痕。初痕？あり。	胎分115

須恵器窯壁片

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
59-1	-	2B	4 H	J-120-4	床面	112.0	145.0	87.0	857.0	須恵器片付着。全面還元。窯内で崩落したものか？	胎分135

石製品・礫

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
60-1	玉類	1A	2 H	D-114	覆土	11.3	11.5	6.2	0.6	表面磨耗著し。	凝灰岩
60-2	玉類	1A	2 H	F-109-2	床面	(20.0)	(9.0)	6.5	1.0	全面研磨整形。	凝灰岩
60-3	玉類	1B	1 H	D-115	床構築土	40.0	37.0	20.0	37.8	外面無調整。孔は自然。	安山岩
60-4	砥石	2B	遺構外	F-121	第1層	(71.0)	62.0	37.5	225.0	砥面4。全面細い直線キズ。	凝灰岩
60-5	砥石	2A	3 H	G-119-12	覆土	(88.0)	47.0	20.5	122.0	砥面4。表面中央溝状に凹む。沈線状のキズ多し。	凝灰岩
60-6	砥石	2A	3 Hカマド	G-118-7	床面	(52.5)	(26.0)	19.5	46.1	砥面4。裏面中央溝状に凹む。先端礫表皮。	流紋岩
60-7	砥石	2B	1 H	F-109	床面	158.0	92.0	77.5	1745.0	砥面3。表面中央上位溝状に凹む。	流紋岩
61-1	立方体礫	3A	HSD01SK02	H-110-7	土(1層)	97.0	100.0	61.0	224.1	平坦面3面。	
61-2	使用痕跡	-	S K 11	N-113	覆土	78.0	61.0	38.0	232.4	表裏剥離。下側縁被熱か?	頁岩
61-3	砥石	2A	S K 11	N-113	覆土	43.0	34.0	16.0	18.9	表面中央弱いスリ。	凝灰岩
61-4	使用痕跡	-	2 HSD01	E-116-6	覆土	95.0	73.5	25.5	251.0	全体極めて滑沢。	安山岩
61-5	使用痕跡	-	4 HRP01	J-120	2/3層	159.0	145.0	131.0	3000.0	表面中央円形にやや凹む。その外縁と底面の一部やや赤色。	安山岩
61-6	使用痕跡	-	S K 11	N-113	覆土	166.0	88.0	57.0	839.3	下端煤状物質付着。	安山岩
61-7	使用痕跡	-	S E 01	J-103	23層下層	147.0	49.0	36.0	246.9	下端煤状物質微量付着。	安山岩
61-8	使用痕跡	-	S E 01	J-103-4	23層下層	93.0	78.0	19.0	137.6	棒状。自然礫。	安山岩
61-9	使用痕跡	-	4 H	J-122-12	覆土	123.0	57.0	46.0	353.4	棒状。自然礫。	凝灰岩
61-10	使用痕跡	-	HSD01SK01	G-111-14	床面	170.0	50.0	40.0	528.4	棒状。全体極めて滑沢。	流紋岩
61-11	使用痕跡	-	S D X 01-A	G-113-3	底面	158.0	129.0	50.0	1825.0	台石か?。加工痕なし。	安山岩
61-12	使用痕跡	-	4 H	J-122-15	土(填土)	176.0	78.0	54.0	834.2	側縁に黒色物質付着。裏面風化。	安山岩
61-13	使用痕跡	-	4 H	J-121-16	覆土	137.0	88.0	32.0	436.0	板状。自然礫。	安山岩

鉄 滓

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
62-1	-	-	1 HSD03	F-108-11	確認面	63.0	59.0	27.0	84.4	流動滓。	
62-2	-	-	1 HSD01	G-110-2	覆土	44.0	29.0	23.0	46.8	全面割れ面。気泡多し。	
62-3	-	-	1 H	F-109-2	床面	24.0	(41.0)	17.5	11.0	流動滓。両端欠損。	

鉄 製 品

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
62-4	用途不明	2A	3 Hカマド	G-118-2	床面	26.0	21.0	8.0	2.9	曲がった釘状。	未処理
62-5	刀子	1-	4 H	I-120-1	床面	181.0	16.0	5.0	15.7	木質部残存。関は不明瞭。	保存処理済

木 製 品

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特 徴	備 考
63-1	#F#	1A	S E 01		23層下層	365.5	86.0	31.0	-	腐食著しい。上側縁の四角い罅穴状?の部分あり。	PEG処理済
63-2	#F#	1A	S E 01		23層中	547.5	115.0	31.0	-	右側腐蝕。	PEG処理済
63-3	#F#	1A	S E 01		23層下層	614.0	151.0	35.5	-	残存良好。上側縁の四角い罅穴状?の部分あり。孔3点あり。	PEG処理済
63-4	#F#	1B	S E 01		23層下層	727.0	58.0	29.5	-	-	PEG処理済
64-1	加工痕有	3A	S E 01		23層下層	182.0	12.2	42.0	-	二叉の自然木に面取。下端も面とり。	PEG処理済
64-2	製品	2B	S E 01		23層下層	153.0	37.5	12.0	-	直線の側縁は割れ面か。	PEG処理済
64-3	製品	2C	S E 01		23層下層	(63.0)	(9.0)	1.0	-	曲物側板か。切目なし。	PEG処理済
64-4	製品	2D	HSD01SK02	H-110-1	覆土	(88.5)	(35.0)	19.5	-	テープ状の樹皮とコイル状の樹皮。	未処理
64-5	製品	2A	S E 01	J-103-4	23層下層	198.5	77.0	9.0	-	笏状。整形工具か。	PEG処理済
64-6	加工痕有	3B	S E 01		23層下層	349.0	45.5	26.5	-	棒状。表面割面か。上端は面取りか。左右側縁は表皮付近。	PEG処理済

縄 文 土 器

図番号	出土遺構	出土地点	分類	器種	部位	地文	炭化物	その他の特徴
66 01	遺構外	K-123	I	深鉢	胴部	-	○	押し引き状沈線、沈線間貝殻腹線文、1~3同一個体、物見台式並行
66 04	遺構外	M-105	II	深鉢	口縁	-	-	口唇・口縁部燃系圧痕、縦雑合、10同一個体?、円筒下層d式
66 05	遺構外	H-123	III	深鉢	頸部	-	-	降帯間決り状の連続刺突、円筒上層c式
66 06	1HSD01	E-110	II	深鉢	口縁	-	-	燃系圧痕、刺突、縦雑合、円筒下層d式
66 07	遺構外	L-110	IV	深鉢	口縁	LR	-	波頂部刺突、磨消縄文、沈線断面半円形、沖附(2)並行
66 09	遺構外	D-119	IV	深鉢	口縁	不明	-	沈線やや先の尖った工具、磨消縄文、沖附(2)並行
66 11	遺構外	I-124	III	深鉢	口縁	-	-	波状口縁弁状突起部穿孔、貼瘤、降帯間連続刺突、円筒上層c式
66 12	2H	D-116	IV	深鉢	口縁	LR	-	橙色、沈線浅く施文の際の粘土のほみ出し顕著、沖附(2)並行
66 13	遺構外	L-122	IV	深鉢	口縁	LR	-	折り返し口縁、口唇部面取り、赤褐色の砂粒含む、弥栄平並行
66 14	2H	D-116	IV	深鉢	頸部?	LR	○	磨消縄文、外面炭化物付着
66 15	2H	D-113	IV	深鉢	口縁	L	-	磨消縄文、沈線施文後軽い押圧(調整)、十腰内I
66 16	遺構外	L-125	III	深鉢	口縁	-	-	波状口縁部貼瘤、降帯、円筒上層c式?
66 17	2HSD01SK01		IV	深鉢	口縁	LR	○	沈線断面浅い半円状、タール状の炭化物、18同一個体?、十腰内I?
66 19	7H		IV	深鉢	胴部	RL	-	文様意匠7・18と酷似たが粘土・地文から同一個体ではない
66 20	2HSD01SK02		IV	深鉢	口縁	LR	-	沈線施文の際の粘土のほみ出し顕著、十腰内I?
66 21	遺構外	K-116	IV	深鉢	口縁	-	-	口縁部沈線、単軸絡条体第5類(RをL巻後軸にR巻)、十腰内I
66 22	SK02		IV	不明	胴部	-	○	磨消縄文、器表面ミガキ?光沢有、十腰内I
66 23	SK02		IV	壺?	胴部	-	-	22と同一個体の可能性有り
66 24	遺構外	F-106	IV	壺	頸部	-	-	沈線、降帯貼付、断面黒褐色、十腰内I
66 25	遺構外	H-115	V	浅鉢	口縁下	LR	-	沈線間磨消、向かって右下三叉文?、大洞BC式
66 26	遺構外	F-103	V?	不明	不明	-	-	器表面黒褐色
66 27	遺構外	0-114	V	鉢?	口縁下	LR	-	沈線間竹管状工具による連続的な刻み、平行沈線、大洞C1式
66 28	遺構外	L-101	VI-1	深鉢	口縁	-	○	口縁部3条沈線、磨滅著しい
66 29	4H	J-121	VI-1	深鉢	口縁	LR	-	沈線部分調整で不明瞭
66 30	6HSD01	F-110	V	鉢?	底部	LR	○	磨滅著しい
66 31	遺構外	L-125	VI-2	壺	胴部	LR	-	内面ヨコの調整顕著
66 32	遺構外	G-115	VI-3	深鉢	口~底	-	-	無文、外面タテの調整、磨滅著しい
66 33	遺構外	I-124	VI-3	深鉢	口縁	LR	-	磨滅
66 34	6HSD01	H-108	VI-2	深鉢	口~下	多軸絡条体	-	35同一個体の可能性有り
66 36	SK15		VI-2	深鉢	胴部	燃系	-	外面口縁部ヨコ、胴部タテのケズリ調整、内外段面黒色
66 37	SK18	E-116	VI-2	深鉢	口縁	-	-	磨滅著しい
66 38	SK18	E-116	VI-3	深鉢	底部	-	-	胎土に砂粒多量に含む、接合痕明瞭
66 39	SK04		VI-2	深鉢	胴部	-	-	胎土に砂粒多量に含む、無文
66 40	SK13	D-119	VI-2	深鉢	口縁	-	-	磨滅
66 41	SK10		VI-1	深鉢	口縁	-	○	口唇部痛み上げ、波状口縁
66 42	4H		VI-1	深鉢	胴部	-	-	沈線、外面ミガキ?光沢有
66 43	SK14		VI-3	深鉢	口~底	-	-	細く深い沈線施文後調整無し



隠川(4)遺跡

石器・礫(縄文)

図-No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	石質
67-1	石礫	1B	遺構外	H-108-1	第II層	17.0	2.5	0.6	0.6	未成品か。	珧質頁岩
67-2	石礫	1C	4 H	J-122-12	覆土	43.0	13.0	4.0	1.7	剥離進行方向不明。	珧質頁岩
67-3	石礫	1C	SDX01-F	E-111	底面	(43.0)	14.5	4.0	2.3	表面面の大型剥離は古い(礫表皮か?)。表面先端被熱。	珧質頁岩
67-4	石礫	1E	遺構外	L-102	第I層	29.5	11.0	4.0	1.2	Y基。裏面の大型剥離面は礫表皮か?	珧質頁岩
67-5	剥片	2A	遺構外	I-101	第I層	50.0	67.0	15.0	37.1	黒色の素材。つまみ部白色。表面右側縁の刃部は掻器的。	珧質頁岩
67-6	剥片	2A	遺構外	F-121	第I層	(54.0)	30.5	12.0	18.6	裏面の剥離は刃こぼれか。上部欠損。	珧質頁岩
67-7	剥片	2A	遺構外	N-106	第II層	73.5	37.0	6.5	18.5	左大きく欠損。裏面ポリッシュ。	珧質頁岩
67-8	剥片	2B	遺構外	G-108-2	第II層	80.0	51.0	4.5	22.1	表面面ヒンジフラクチャー。刃部作出粗雑。	珧質頁岩
68-1	剥片	3A	遺構外	G-108-7	第II層	9.0	6.0	2.0	0.1以下	剥片。	黒曜石
68-2	剥片	3A	遺構外	G-109-9	第II層	17.0	9.0	2.0	0.2	赤色混入。	黒曜石
68-3	剥片	3A	遺構外	H-109-4	第II層	14.0	10.0	1.0	0.1	半透明。	黒曜石
68-4	剥片	3A	遺構外	H-109-8	第II層	16.5	11.0	2.0	0.3	やや半透明。	黒曜石
68-5	剥片	3A	遺構外	G-109-13	第II層	17.0	13.0	1.5	0.3	やや半透明。	黒曜石
68-6	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	14.0	15.0	1.5	0.2	半透明。	黒曜石
68-7	剥片	3A	遺構外	H-109-11	第II層	13.0	13.0	2.0	0.2	半透明。	黒曜石
68-8	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	18.0	17.0	5.0	0.8	やや半透明で赤色混入。	黒曜石
68-9	剥片	3A	遺構外	I-109-9	第II層	18.0	17.0	4.0	0.5	やや半透明で赤色混入。	黒曜石
68-10	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	19.0	10.0	2.0	0.4	一部半透明。赤色混入。	黒曜石
68-11	剥片	3A	遺構外	H-109-4	第II層	20.0	13.0	1.5	0.4	一部半透明。赤色混入。全面風化激しい。	黒曜石
68-12	剥片	3A	遺構外	H-109-8	第II層	18.0	14.0	2.5	0.4	一部半透明。赤色混入。	黒曜石
68-13	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	20.0	9.0	3.0	0.4	やや半透明。	黒曜石
68-14	剥片	3A	1 H	G-109-8	覆土	18.0	11.0	2.5	0.2	やや半透明。	黒曜石
68-15	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	21.0	15.0	3.0	0.5	やや半透明。	黒曜石
68-16	剥片	3A	遺構外	H-109-7	第II層	18.0	13.0	3.0	0.5	赤色多量混入。一部敲打痕?あり。	黒曜石
68-17	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	13.0	18.0	3.0	0.5	やや半透明。一部調整剥離あり。	黒曜石
68-18	剥片	3A	遺構外	G-109-14	第II層	17.5	14.0	3.5	0.7	やや半透明。調整剥離あり。	黒曜石
68-19	剥片	3A	遺構外	H-109-12	第II層	21.0	11.5	2.0	0.2	非常に透明。縦長の剥離あり。	黒曜石
68-20	剥片	3A	遺構外	H-109-8	第II層	27.0	13.0	3.0	0.6	非常に透明。縦長の剥離あり。	黒曜石
68-21	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	30.5	7.0	6.0	0.7	一部半透明。	黒曜石
68-22	剥片	3A	1 H	G-109-2	床面	25.0	12.5	4.5	0.8	一部半透明。	黒曜石
68-23	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	31.0	12.0	5.0	1.4	やや半透明。赤色混入。	黒曜石
68-24	剥片	3A	遺構外	H-109-4	第II層	32.0	17.0	3.5	1.1	一部半透明。	黒曜石
68-25	剥片	3A	遺構外	H-109-8	第II層	22.0	22.0	3.0	1.1	一部半透明。	黒曜石
68-26	剥片	3A	遺構外	H-109-11	第II層	26.0	17.0	5.0	1.7	一部半透明。赤色混入。ヴァルヴァースカーあり。	黒曜石
68-27	剥片	3A	遺構外	G-109-5	第II層	26.0	21.5	3.0	1.4	かなり透明。	黒曜石
68-28	剥片	3A	遺構外	H-109-8	第II層	33.0	19.0	4.5	1.4	赤色混入。	黒曜石
68-29	剥片	3A	遺構外	H-109-15	第II層	21.5	29.0	7.0	3.5	ヴァルヴァースカーあり。僅かに半透明。	黒曜石
68-30	剥片	3A	遺構外	G-109-14	第II層	23.5	28.0	3.0	1.7	やや半透明。赤色混入。	黒曜石
68-31	剥片	3A	遺構外	G-108-5	第II層	39.0	21.0	3.5	1.8	かなり透明。不純物微量混入。	黒曜石
68-32	剥片	3A	6 HSD02		確認面	41.0	26.0	4.5	4.1	かなり透明。	黒曜石
68-33	剥片	3B	遺構外	H-108-1	第II層	38.5	28.5	8.0	5.6	暗褐色の素材。	珧質頁岩
69-1	剥片	3B	遺構外	G-108-4	第II層	39.0	26.5	3.5	3.5	褐色。	珧質頁岩
69-2	剥片	3B	遺構外	G-109-5	第II層	31.0	31.0	6.5	3.0	灰白色。	珧質頁岩
69-3	剥片	3B	遺構外	H-109-16	第II層	20.5	10.5	3.5	0.3	灰黄褐色。	珧質頁岩
69-4	剥片	3B	遺構外	H-109-8	第II層	23.5	17.0	4.0	0.9	褐色。礫表皮残存。	珧質頁岩
69-5	剥片	3B	S K 17	G-108-1	覆土	29.0	33.0	8.5	3.8	褐色。	珧質頁岩
69-6	剥片	3B	遺構外	H-109-16	第II層	62.5	20.5	14.0	6.3	黒褐色。	珧質頁岩
69-7	剥片	3B	遺構外	H-109-4	第II層	38.5	32.5	8.5	5.1	黒褐色。	珧質頁岩
69-8	剥片	3B	遺構外	G-109-5	第II層	34.5	46.0	12.5	13.3	褐色。上端部礫表皮。	珧質頁岩
69-9	敲打痕	7A	S K 03	L-111	覆土	103.0	56.0	32.0	226.2	敲打痕は浅い。	安山岩
69-10	自然礫	-	S K 15		底面	140.0	59.0	43.0	459.0	自然礫。ローム中の包含礫か。	凝灰岩
69-11	自然礫	-	S K 15		覆土(下層)	123.0	56.0	39.0	303.8	自然礫。ローム中の包含礫か。	凝灰岩

弥生土器

図-No.	時期	分類	出土位置1	出土位置2	層位	器種	部位	地文	備註	特徴	備考
70-1	前期後半	2-	遺構外	I-114	第II層	筒形土器	口縁部	R L		砂~五位瘤は貼付。縄文→沈線、内面ヨコミガキ。	
70-2	前期後半	2-	遺構外	F-103	第II層	筒形土器	口縁部	-		砂~五内外面ヨコナデ?	
70-3	前期後半	2-	4 H	J-122-11	覆土	台部	-		砂~五位刺突D字状で彫刻的。外面にぶい橙色。内面黒色。		
70-4	中期後葉	3-	1 H	F-109-13	床構築土	鉢	口部	R L		念仏間外面摩滅著しい。刺突は斜位。内面ヨコナデ。	
70-5	中期後葉	3-	6 HSD02	F-110-16	覆土	鉢	底部	R L		念仏間底部剥落。	
70-6	中期後葉	3-	遺構外	J-109	第II層	甕	口縁部	-		念仏間内面横ナデ→口唇刻目→外面横ケズリ。外面煤状炭化物付着。	
70-7	中期後葉	3-	遺構外	F-102	第II層	甕	口縁部	R L		念仏間内外面ヨコナデ→外面縄文。内面屈曲部には明瞭な稜線。	
70-8	中期後葉	3-	遺構外	F-102	第II層	甕	口縁部	R L		念仏間口唇部と外面縄文。0段多条か?内面ヨコナデ。	
70-9	中期後葉	3-	1 HSD01SK01	G-110-3	確認面	甕	体部	R L		念仏間内面ナデ。	
70-10	中期後葉	3-	1 HSD01	G-110-6	覆土	甕	体部	R L		念仏間縄文→沈線。内面ナデ。	
70-11	中期後葉	3-	1 HSD01	G-110-8	覆土	甕	肩部	R L		念仏間縄文→沈線。内面ナデ?	
70-12	中期後葉	3-	1 HSD01	G-110-6	確認面	甕	頸~肩	R L		念仏間縄文→沈線。内面ヨコナデ。	
70-13	中期後葉	3-	1 HSD03	F-108-11	確認面	甕	肩部	R L		念仏間縄文→沈線。内面ナデ。	
70-14	中期後葉	3-	遺構外	不明	第II層	甕	肩部	R L		念仏間縄文→沈線。	

近世以降

図-No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
71-1	磁器皿	2A B	遺構外	J-105	第I層	14.0	-	-	-	染付。肥前系V期。瀬戸か?	95発掘
71-2	瓦質火鉢	-	遺構外	G-124	第I層	13.6	-	-	-	焜炉。外面滑沢。内面無調整。	
71-3	陶器播鉢	1A c	遺構外	K-100	第I層	-	-	-	-	肥前IV期か。内外面鉄塗。	95発掘
71-4	瓦質火鉢	-	遺構外	G-102	第I層	-	17.0	-	-	焜炉の底部か?豊付摩滅。	95発掘
71-5	陶器播鉢	1A c	遺構外	J-102	第I層	31.0	-	-	-	全面鉄塗。	95発掘
71-6	陶器播鉢	1A c	遺構外	H-124	第I層	-	-	-	-	肥前IV期。全面鉄塗。	
71-7	銭貨	1-	遺構外	F-108-14	第I層	-	-	-	(0.6)	寛永通宝。欠損。	
71-8	土製品	2-	遺構外	F-103	第I層	19.0	19.0	10.0	3.0	型打ち。基石状。側縁接合痕。非図示資料に同じも1点あり。	95発掘
71-9	土製品	1-	遺構外	F-102	第I層	(98.5)	(48.0)	(26.0)	(57.3)	型打ち。笛か。内面指紋痕多し。鳥型の人形の可能性。	95発掘

## 第 VII 章 隱川 (12) 遺跡

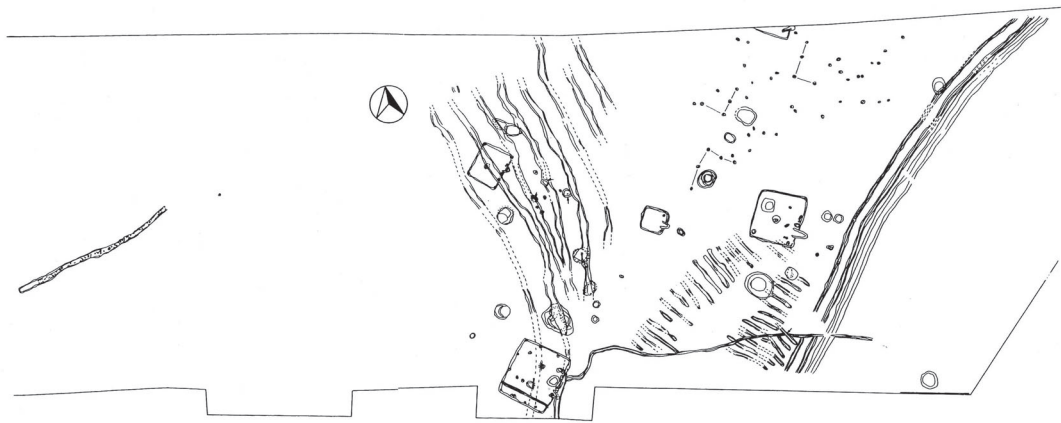


表 隠川(12)遺跡 遺構内出土遺物等一覧 (平安時代)

遺構種別	遺構名	出土遺物等
住居跡 (内外施設含)	2 H	球状土製品
		碁石状土製品
		焼成粘土塊
		直方体礫
		鉄滓
		土玉
		土師質特殊遺物
		土製勾玉
		粘土塊
		窯壁片
	2 H カマド	焼成粘土塊
		直方体礫
		土玉
		土師質特殊遺物 土師質特殊遺物 土鈴
	2 H R P 01	焼成粘土塊
		鉄滓
		土玉
		土師質特殊遺物
		土鈴 窯壁片 礫
	2 H S K 01	鉄滓
		土製勾玉
		窯壁片
	3 H	焼成粘土塊
		土師質特殊遺物
	4 H	使用痕のある礫
		焼成粘土塊
		鉄製品
		鉄滓
		砥石
		土師質特殊遺物 粘土 窯壁片
	4 H カマド	鉄製品
	4 H S D 01	使用痕のある礫
焼成粘土塊		
直方体礫		
5 H	直方体礫	

遺構種別	遺構名	出土遺物等
住居跡 (内外施設含)	5 H	土玉
		刀子
		当具状土製品
		窯壁片
	5 H S K 01	焼成粘土塊
5 H S D 01	粘土塊	
	焼成粘土塊	
並列溝状 遺構	S D X 01	土師質特殊遺物
	S D X 04	土玉 焼成粘土塊
井戸跡	S E 01	焼成粘土塊
		鉄滓
		窯壁片 礫
土坑	S K 06	焼成粘土塊
		土師質特殊遺物 窯壁片
	S K 07	直方体礫
		窯壁片
	S K 08	使用痕のある礫
		石玉
		直方体礫
		土師質特殊遺物
		粘土塊 窯壁片
	S K 09	焼成粘土塊
		土師質特殊遺物 窯壁片
	S K 10	焼成粘土塊
		窯壁片 礫
S K 11	焼成粘土塊	
S K 13	窯壁片	
S K 19	直方体礫	
	窯壁片	
S K 20	焼成粘土塊	
	土玉 土師質特殊遺物	
ピット	E-152-13 P3,4	窯壁片

※縄文時代と弥生時代の遺物、及び平安時代の土師器・須恵器、炭化種子、炭化材等を除く。



# 第Ⅶ章 隠川(12)遺跡の検出遺構と出土遺物

## 第1節 平安時代の検出遺構

### 1 住居跡

#### 第1号住居跡（1H）（図1～図2）

**概要** 本住居跡は、グリッドOY-152他の、平坦地に位置する。住居跡全体の約4分の3は調査区域外にある。内部施設、外部施設ともに検出されなかった。右壁側の南方には、建物跡の可能性のある柱穴状のピットが多数検出されているが、本住居跡との関連については不明である。重複は無し。

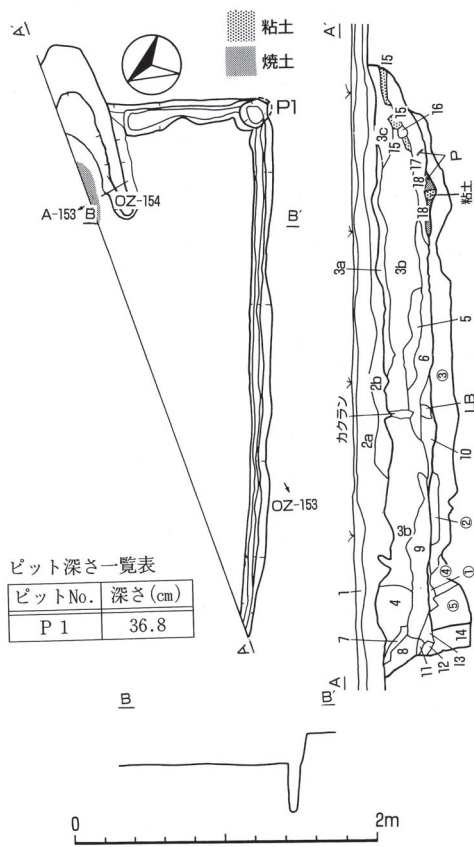
**構造** 規模は、右壁の検出長で355cmを測り、平面形は方形あるいは長方形を呈するものと思われる。Bコーナーの壁溝内には柱穴が1個見られるが、主柱穴については不明である。壁高は、35cm前後を測る。壁溝は、カマドの下位のみ掘り残されている。床は、ロームの混入する褐色土（床構築土）を5～27cmの厚さで敷きならしてつくられている。

**土層** カマドの堆積土を含めて18層に分層された。暗褐色～黒褐色土を主体とし、ローム粒子を混入する。土壌中の混入物と、層のラインよりみて、人為的に混和された土壌が自然流入したものではないかと推定される。火山灰は確認されなかった。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側に位置する。残存状況は良好であるが、約2分の1が調査区域外にあるため、煙道部の右半分と右側燃焼部側壁（右ソデ）と火床面の一部が検出されたにすぎない。燃焼部側壁は、褐色の粘土を床面上に貼り付けるようにして構築されている。煙道部の

底面もソデと同一の粘土で構築されている。火床面（18層）と燃焼部側壁内面はあまり焼けていない。火床面は、床面（床構築土）をそのまま利用している。カマドを通る軸の方位は、推定でN-123°-Eをさす。

**遺物等の出土状態** カマド火床面に土師器の甕と坏の破片が若干出土している。住居跡の覆土中



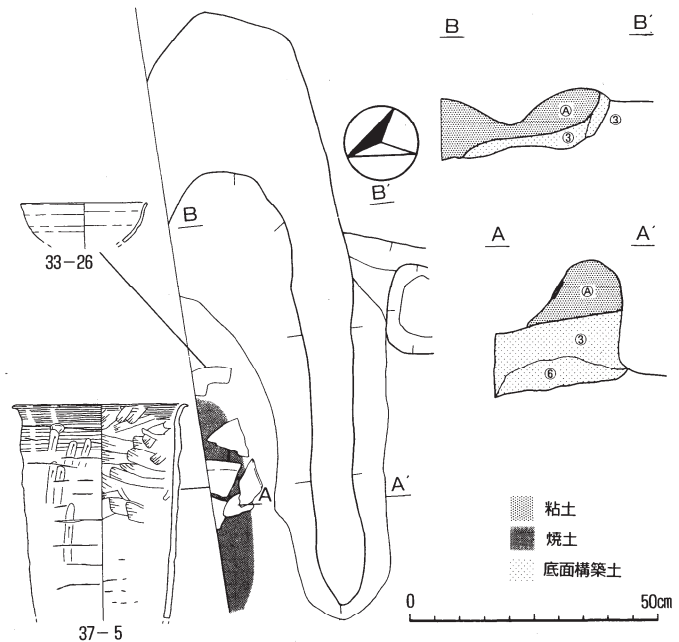
- 1H
- 1層 黒褐色 10YR2/2 表土。
  - 2a層 黒褐色 10YR2/2 ローム（φ1～3mm）微量混入。
  - 2b層 黒褐色 10YR1/3 ローム（φ1～5mm）微量混入。
  - 3a層 暗褐色 10YR3/3 ローム（φ1～8mm）微量混入。
  - 3b層 暗褐色 10YR4/3 ローム（φ1～50mm）中量混入。
  - 3c層 暗褐色 10YR3/3 ローム（φ1～30mm）中量混入。
  - 4層 暗褐色 10YR2/3 ローム（φ1～15mm）少量混入。
  - 5層 褐色 10YR4/4 ローム粒多量、ローム（φ1～10mm）少量、炭化物（φ10mm）極微量、黄色土混入。
  - 6層 暗褐色 10YR4/3 ローム（φ1～50mm）少量混入。
  - 7層 褐色 10YR4/4 ローム（φ1～10mm）中量混入。
  - 8層 暗褐色 10YR3/4 ローム（φ1～80mm）多量、黒色土微量混入。
  - 9層 暗褐色 10YR4/3 ローム（φ1～70mm）少量混入。
  - 10層 におい黄褐色 10YR3/4 ローム（φ1～35mm）中量、ローム（φ100mm）極微量混入。
  - 11層 暗褐色 10YR3/3 ローム（φ1～10mm）中量混入。
  - 12層 黄褐色 10YR5/6 ローム。
  - 13層 黄褐色 10YR5/6 ローム（φ1～10mm）少量混入。しまり無。
  - 14層 暗褐色 10YR3/4 ローム（φ1～30mm）中量混入。壁溝覆土。
  - 15層 褐色 10YR4/6 焼土（φ1mm）極微量混入。V、VIaロームの混合土。
  - 16層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土（φ1～5mm）少量混入。
  - 17層 暗褐色 7.5YR3/4 炭化物（φ2mm）極微量、ローム（φ1～10mm）微量、焼土（φ1～25mm）多量混入。カマド崩落焼土。
  - 18層 黒褐色 10YR2/3 ローム（φ1～15mm）、焼土（φ1～10mm）微量混入。火床面。
- 1H床構築土（A-A）
- ①層 褐色 10YR4/4 ローム（φ1～10mm）混入。
  - ②層 褐色 10YR4/4 ローム（φ1～20mm）多量混入。
  - ③層 黒褐色 10YR3/2 ローム（φ1～100mm）多量混入。
  - ④層 褐色 10YR4/4 ローム（φ1～25mm）中量混入。
  - ⑤層 褐色 10YR4/4 ローム（φ1～25mm）多量混入。

図1 第1号住居跡

にも僅かに土師器片が出土しているが、覆土の中位以上に出土しているものがほとんどであることから、本住居跡に伴うものではないと思われる。

第2号住居跡(2H) (図3~図7)

**概要** 本住居跡は、グリッドD-153他の、平坦地に位置し、前壁の東方には、斜面が広がっている。内部施設としてロクロピットが1基(2HRP01)と、土坑2基(2HSK01、2HSK02)が付随している(図4)。外部施設は見られないが前壁の東方には、建物跡として認定できない柱穴状のピットが6基検出されている。また、同じく前壁の東方には、土坑2基(SK18、SK19)、右壁の南方にも土坑1基(SK20)があり、本住居跡と関連していた可能性がある。



1Hカマド構築土・底面構築土(A-A'・B-B')  
 ①層 褐色 10YR4/6 構築土。焼土(φ1~10mm)微量混入。  
 ②層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1~10mm)微量混入。  
 ③層 褐色 10YR4/4 ローム。

図2 第1号住居跡カマド

**重複** (1)右壁の8/12区、左壁の13区、後壁の13区、14区、カマドの排煙部が攪乱を受けている。(2)並列溝状遺構(SDX04-i)と重複し、本住居跡が古いと思われるが、確実には把握できなかった。

**構造** 規模は、490~525×520~560cmを測り、平面形は、後壁が若干短いため、やや台形がかかる方形を呈する。四壁は良好に残存していて、深さ38~40cmを測る。壁溝はカマド部分とAコーナーを除いて全周している。燃焼部側壁(左ソデ)の下位にも僅かに壁溝が確認されているが、カマド構築に伴って埋められている。ピットはP1~P8までの8個みられる。P6とP5は、それぞれBコーナーとDコーナーにあり、対応しそうであるが、P5の深さは15cmと浅いことからP5は柱穴として認めがたい。床は、ある程度ロームを掘り込んだ後に、ロームを混入する褐色~黄褐色土を5~15cmの厚さで敷きならしてつくられている。

**土層** 1層は黒色土で、B-T<sub>m</sub>を微量に含む自然堆積土。2層以下は人為堆積と自然堆積が繰り返されているものと考えられる。RP01の上位には、RP01の覆土と類似する層(25層)がみられ、RP01の廃絶に伴う土壌の可能性はある。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。燃焼部から煙道部の先端近くまで検出されているが、排煙部は近年の攪乱により破壊されている。燃焼部~排煙部は、構築土としての明黄褐色の粘土が火鉢形に固定されているものである。構築の過程は、先ず溝状に掘り込み、次に粘土をその掘り込みのやや内側に盛り、粘土と掘り込みのすき間に充填土を入れて安定させるという3段階の工程が確認されている。煙道部底面は、住居外に至って急に登るものである。燃焼

部側壁（ソデ）は、明黄褐色の粘土を素材としており、床に貼り付けるように構築されている。支脚は、転用の土師器（坏、小甕、甕の下半部）を重ね合わせているもので、高さ調節を数回にわたって行った結果を示しているものかと想像される。支脚は、3箇所にみられるが、これは数回にわたる改修の結果か、あるいは2個掛けのものであると思われる。火床面の範囲と支脚の位置とを見比べると、1号支脚の下の被熱痕の範囲はあまり広くなく、一方、2号支脚と3号支脚の下の被熱痕は広く、厚く見られる。また、2号支脚の上には3号支脚が約3分の1程重なっている。これらのことから、2個掛けではなく、支脚に新旧関係があるものとして考えた場合、1号支脚→2号支脚→3号支脚という変遷を想定できる<sup>(註)</sup>。なお、2号支脚の上位の坏と、3号支脚の上位の坏は接合する。火床面（①層）は床をそのまま利用して、よく焼けているが、軟質である。燃烧部側壁内面もよく焼けている。全体的に土層を見ると、人為的に埋められた状況は呈しておらず、自然崩落と流入の結果の堆積状況を示していると考えられる。カマドを通る軸の方位は、N-122°-Eをさす。（註）ただし、1号支脚と3号支脚は同時機能していて、偶然3号支脚の位置のみが強く被熱する回数が多かったとも考えられる。

**内部施設** ロクロピット(RP01)

1基が住居跡の真中央、6/7/10/11区にまたがって検出されている。RP01の上端径は79×83cmで、平面形はほぼ円形、断面形は逆台形状を呈し、深さは80cmを測る。堆積土は、9層に分層され、全層とも軟らかいシルト質の土壌である。7、8層のほぼ中央には拳大の自然礫が含まれている。軸木痕と思われる土壌は見られなかったが、8、9層に粘土のブロックが僅かに含まれている。また、前述のように、RP01の上位（2H覆土）には、RP01の覆土と類似する25層がみられ、RP01の廃絶に伴った土壌である可能性がある。2HSK01はカマドの左ソデ付近に位置する円形の土坑である。床構築土は覆っていない。土層断面図をみると、1、2層に焼土粒が混入している。深さは23cm前後を測る。2HSK02は9/10/13/14区に跨って床構築土の下層に検出された。平面形は隅丸方形状で、深さは25~40cmである。底面は平坦ではなく、南側がやや円形に窪む。内部の東側底面からは粘土塊が多量に出土

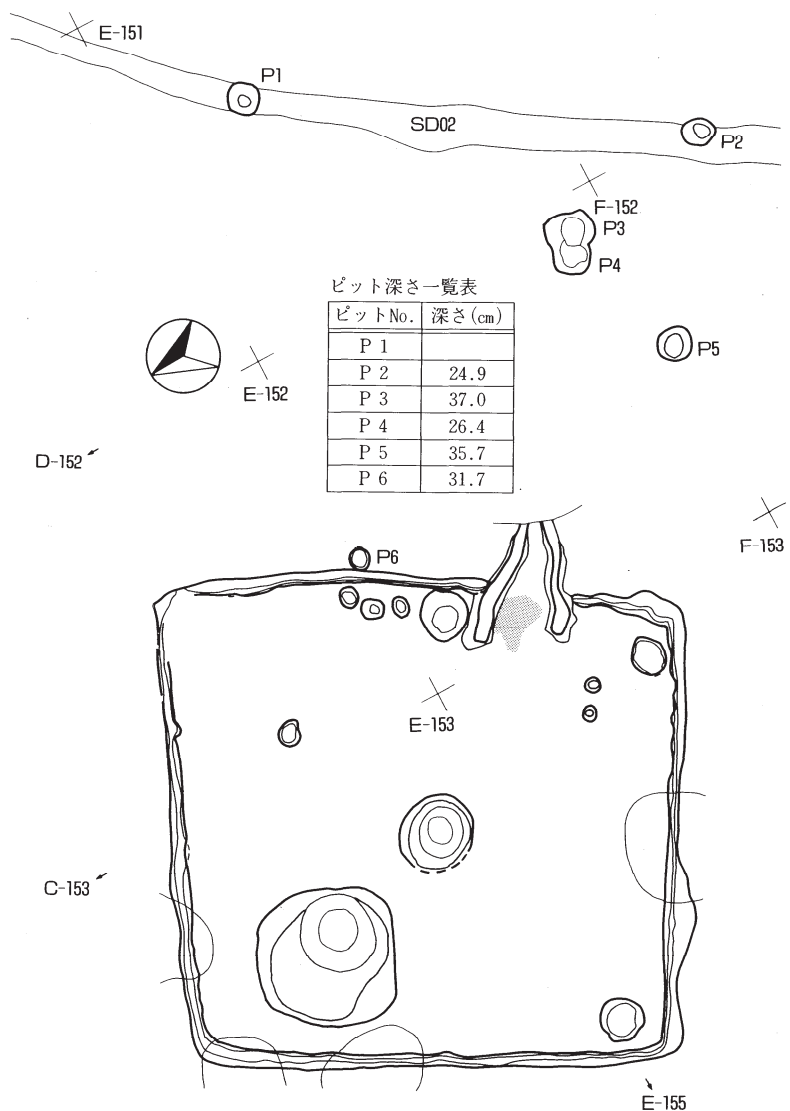


図3 第2号住居跡・ピット



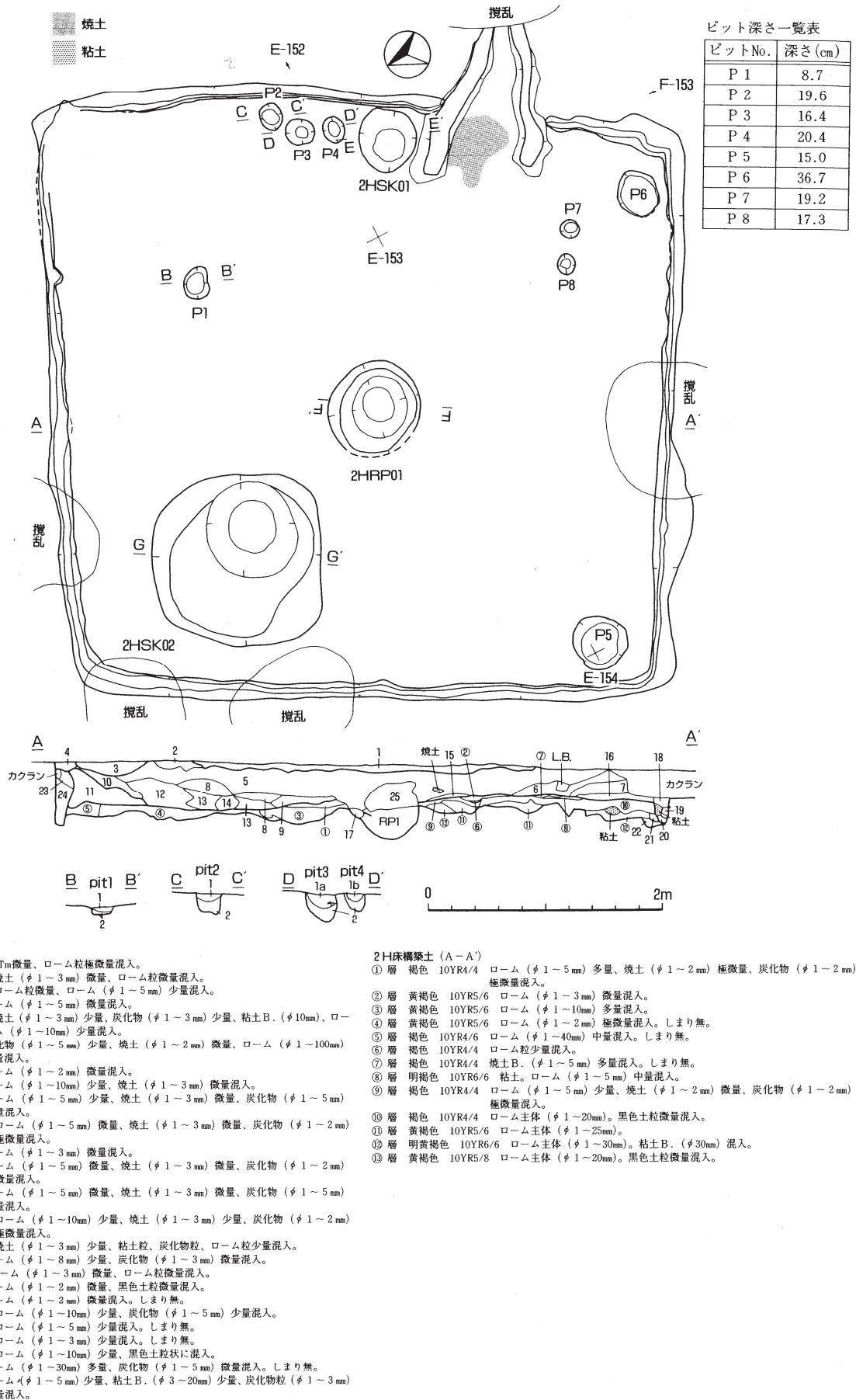
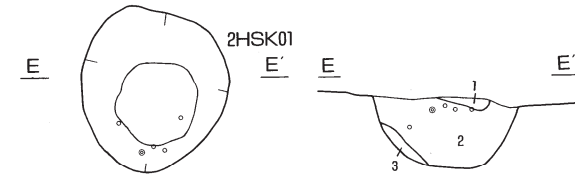
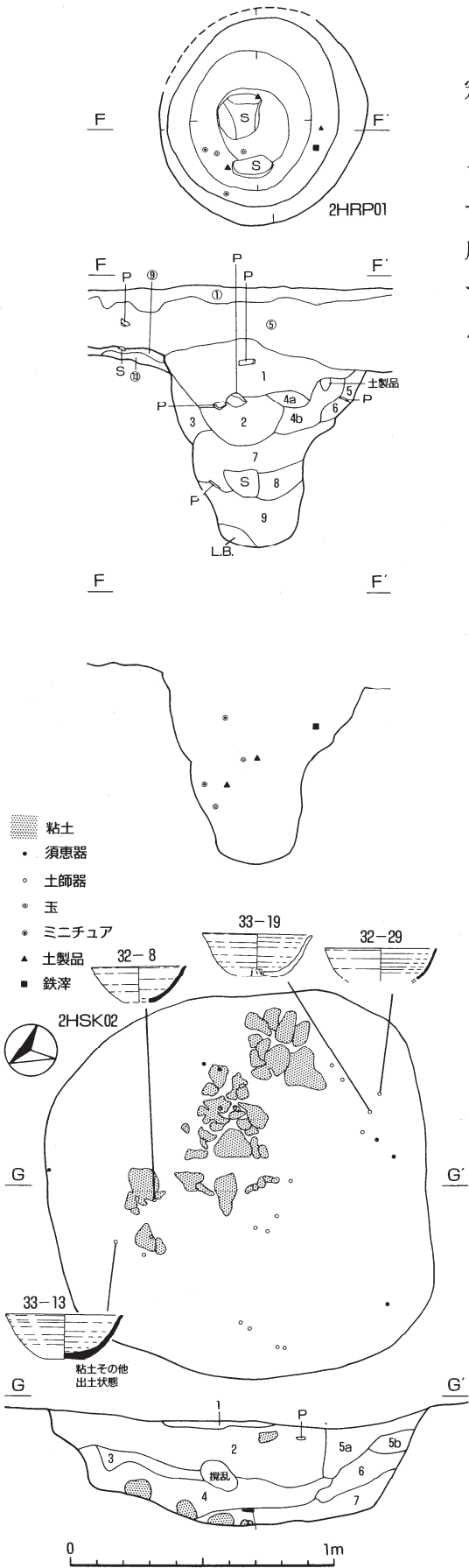


図4 第2号住居跡

しているが、これらは廃棄、あるいは貯蔵されたものと推定され、ロクロピットに伴った素材粘土の可能性もある。

**遺物等の出土状態** 床面上に土師器・須恵器・窯壁片・シルト礫が出土している。平面的には住居跡の壁際に分布する傾向がうかがえるが、特に1・2・4区に多い。窯壁片は主として1/5区に出土している。土玉は主としてカマド付近・RP01の覆土・8/12区の壁溝に出土している。RP01の覆土からは土鈴が1点出土している。



**2Hpit1 (B-B')**  
 1層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-3mm)微量、焼土粒(φ1-3mm)少量、粘土粒(φ1-2mm)微量、炭化物(φ1-3mm)少量混入。粘性有。  
 2層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-5mm)微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。粘性有。

**2Hpit2 (C-C')**  
 1層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-4mm)少量、炭化物(φ1-2mm)極微量、焼土(φ1-3mm)微量混入。  
 2層 黄褐色 10YR5/6 ローム。黒褐色土微量混入。

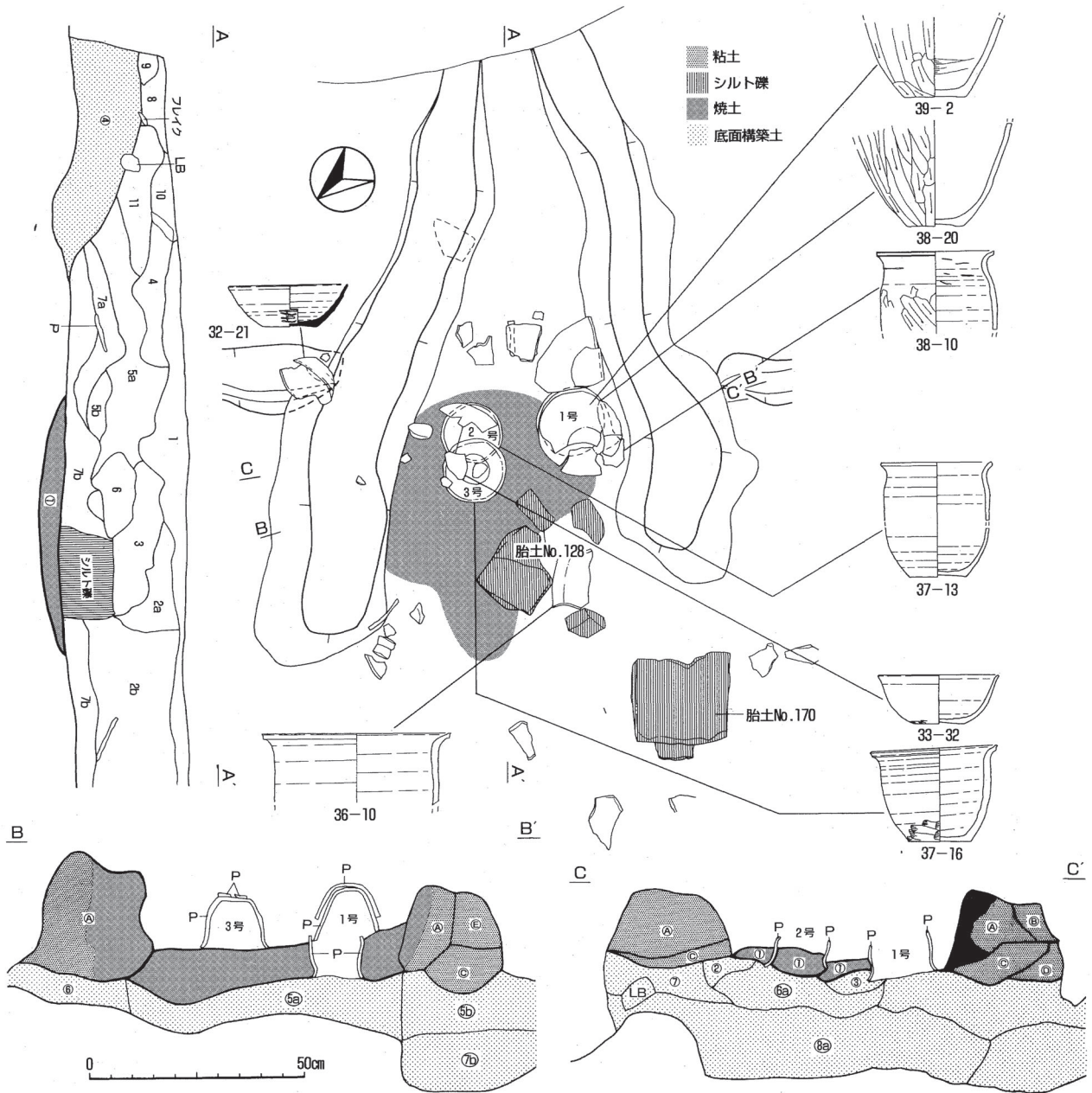
**2Hpit3・4 (D-D')**  
 1a層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2-5mm)少量、焼土(φ1-3mm)微量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。  
 1b層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ1-2mm)極微量、焼土(φ1-2mm)極微量混入。  
 2層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ2-5mm)中量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。

**2HSK01 (E-E')**  
 1層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-2mm)極微量、焼土粒(φ1-3mm)微量、炭化物粒(φ3mm)1ヶ混入。  
 2層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-3mm)極微量、焼土粒(φ1-2mm)極微量、炭化物粒(φ1-15mm)少量混入。  
 3層 褐色 10YR4/6 ローム粒微量、Vローム(φ1-20mm)中量混入。

**2HRP01 (F-F')**  
 1層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ1-7mm・φ15-20mm)少量、Vローム(φ1-5mm)微量、ローム粒少量、炭化物(φ1-5mm)微量、焼土粒極微量混入。  
 2層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-3mm・φ25mm)極少量、Vローム(φ1-8mm)微量、ローム粒少量、炭化物(φ2-3mm)微量混入。  
 3層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1-8mm)微量、Vローム(φ3-8mm)微量、ローム粒微量、炭化物(φ2-3mm)微量混入。  
 4a層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-3mm)微量、ローム粒微量、炭化物粒、焼土粒極微量混入。  
 4b層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-5mm)微量、ローム粒微量、焼土粒極微量混入。  
 5層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-3mm)微量、ローム粒微量、炭化物粒微量、焼土(φ2-7mm)微量、焼土粒微量混入。  
 6層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ2-3mm)極微量、焼土(φ1-15mm)微量混入。  
 7層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-2mm)極微量、ローム粒微量、炭化物(φ2-3mm)極少量混入。しまり無。  
 8層 暗褐色 10YR3/4 粘土質ローム(φ2-12mm)2ブロック、炭化物粒、焼土粒極微量混入。  
 9層 黄褐色 10YR4/3 VロームとVロームの混合土主体。炭化物(φ2-5mm)微量、炭化物粒微量、焼土(φ1-5mm)微量、黄褐色、粘土(φ3-12mm)極少量混入。粘性有。

**2HSK02 (G-G')**  
 1層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ2-4mm)多量、炭化物(φ1mm)微量混入。  
 2層 黄褐色 10YR5/8 ローム(φ5-70mm)多量、炭化物(φ2-5mm)中量混入。  
 3層 黄褐色 10YR5/8 ローム(φ5-10mm)多量混入。  
 4層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ5-15mm)多量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。底面に粘土ブロック(黄褐色)あり。しまり無。  
 5a層 褐色 10YR4/6 ローム(φ1-3mm)微量、粘土(φ5-20mm)混入。  
 5b層 褐色 10YR4/6 ローム(φ1-2mm)極微量混入。  
 6層 褐色 10YR4/4 黄褐色土、ローム(φ1-3mm)微量混入。  
 7層 黄褐色 10YR5/6 黄褐色、粘土ブロック底面にあり。

図5 第2号住居跡・ロクロピット(RP01)・土坑(SK01、02)



2Hカマド (A-A')

- 1 層 におい黄褐色 10YR5/3 Viaローム (φ1~3mm) 微量、焼土 (φ1~3mm) 極微量、粘土微量混入。
- 2a 層 におい黄褐色 10YR4/3 Viaローム (φ2~8mm) 微量、白色バミス粒状極微量、焼土粒極微量混入。
- 2b 層 におい黄褐色 10YR4/3 Viaローム (φ1~7mm) 極少量、ローム粒微量、白色バミス粒状 (φ1~2mm) 極微量、焼土 (φ2~7mm) 微量混入。
- 3 層 におい黄褐色 10YR5/3 Viaローム (φ1~10mm) 極少量、ローム粒微量、焼土粒極微量混入。
- 4 層 暗褐色 10YR3/4 Viaローム (φ1~2mm) 極微量、焼土 (φ1~3mm) 微量、ローム粒極微量混入。
- 5a 層 褐色 10YR4/4 Viaローム (φ1~15mm) 1ブロック微量、ローム粒微量、白色バミス (φ1~2mm) 微量、炭化物 (φ1~3mm) 微量、焼土 (φ1~10mm) 1ブロック混入。
- 5b 層 褐色 10YR4/6 ローム粒極微量、焼土 (φ1~2mm) 微量、焼土粒中量混入。
- 6 層 におい黄褐色 10YR5/4 ローム粒微量、白色バミス (φ1~2mm) 極微量、焼土 (φ1~3mm) 微量、粘土少量混入。
- 7a 層 褐色 7.5YR4/4 ローム粒微量、焼土 (φ1~8mm) 中量混入。焼けた土主体。
- 7b 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼けた土主体。焼土 (φ1~3mm) 中量、炭化物粒微量混入。
- 8 層 暗褐色 7.5YR3/3 Vローム (φ2~3mm) 極微量、ローム粒微量、焼土粒極少量混入。
- 9 層 褐色 7.5YR4/4 焼土粒多量、炭化物 (φ4mm) 1ブロック混入。
- 10 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒微量、焼土粒極微量混入。
- 11 層 暗褐色 7.5YR3/4 Viaローム (φ1~2mm) 微量、ローム粒微量、焼土 (φ1~2mm) 極微量 (中央部に集中) 混入。

2Hカマド構築土 (A-A'~C-C')

- ① 層 明黄褐色 10YR6/6 粘土。炭化物粒、焼土粒、微量混入。被熱部は褐色土。
- ② 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒微量、焼土粒極微量混入。
- ③ 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒微量、炭化物粒極微量、焼土 (φ1~3mm) 微量混入。暗褐色土と④層の混合土極少量混入。しまり無。
- ④ 層 におい黄褐色 10YR4/3 VロームとViaロームの混合土少量、ローム (φ2~8mm) 極少量混入。しまり無。
- ⑤ 層 暗褐色 10YR3/4 VロームとViaロームの混合土極少量、焼土粒極微量混入。

図6 第2号住居跡カマド



2Hカマド底面構築土 (B-B') (C-C')

- ①層 暗褐色 7.5YR3/4 焼土(φ1-5mm)少量、炭化物粒極微量混入。火床面。
- ①'層 暗褐色 7.5YR3/4 火床面。ローム粒微量、焼土(φ2-3mm)極少量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- ②層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ2-8mm)極少量(北側集中)、ローム粒極微量混入。
- ③層 黒褐色 10YR2/2 炭化物粒、焼土粒極微量混入。(上方焼けている)
- ④層 暗褐色 7.5YR3/4 ローム粒極少量、焼土(φ1-5mm)微量混入
- ⑤a層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-10mm)1ブロック、VIaローム(φ1-3mm)微量、ローム粒微量混入。しまり無。

- ⑤b層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-5mm)極少量、ロームと黒褐色土の混合土少量混入。
- ⑥層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-5mm)極少量、VIaローム(φ3-5mm)微量、ローム粒微量、焼土粒極微量混入。
- ⑦a層 黒褐色 10YR2/2 VIaローム(φ1-40mm)多量、炭化物粒極微量混入。黒褐色土とVIaロームの混合土主体。しまり無。
- ⑦b層 明黄褐色 10YR6/6 VIaローム。黒褐色土微量混入。しまり無。

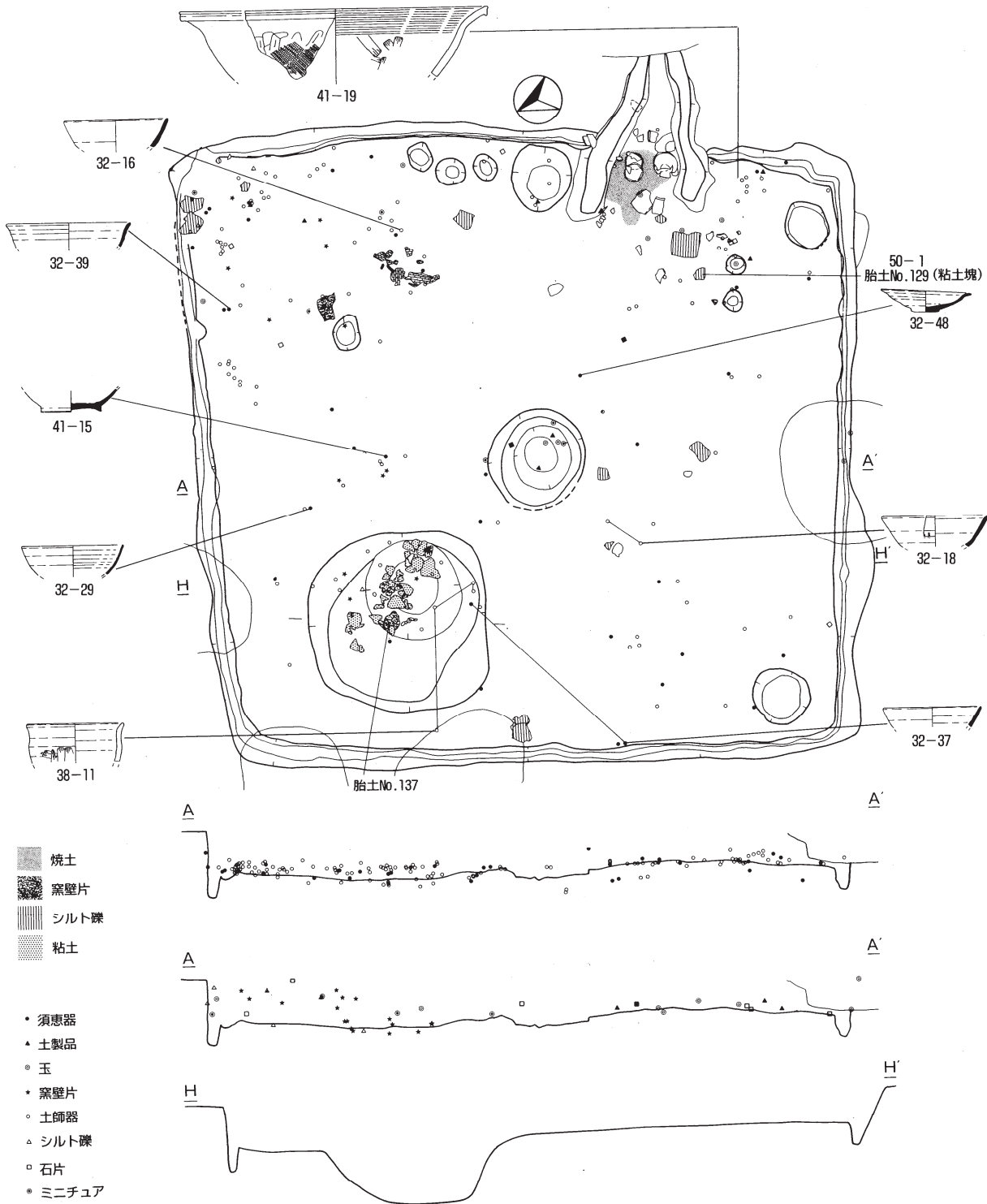


図7 第2号住居跡・遺物出土状況

第3号住居跡 (3H) (図8・9)

**概要** 本住居跡は、グリッドD-156他の、平坦地に位置する。前壁の東方僅かのところには、SK04がある。内部施設や外部施設は認められない。

**重複** 13区後壁の一部が攪乱を受けているが、住居の平面形状にほとんど影響はない。

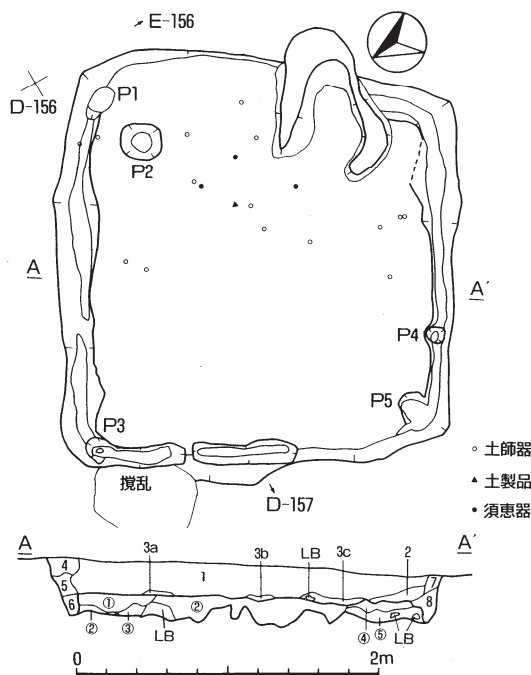
**構造** 規模は、250~275×253~258cmを測り、ほぼ方形の平面形を呈す。四壁は良好に残存していて、20cm前後を測る。壁溝は前壁の1・2区と後壁の15・16区を除いて全周している。ただし、後壁の13区と14区の境あたりは一部途切れる。また、壁溝はロームを掘り込んでいない。ピットは5基検出され、1区と12区の壁溝内及びA・C・Dコーナーに検出されている。床は、第1次工程として、ロームまで掘り下げ、第2次工程として、ロームを多量に混和させた土を8~20cmの厚さで、平坦に敷きならしてつくられている。土層断面図より、腰板は第2次工程の時に、同時に固定されているようである。

**土層** ほとんど細分されない層であり、大半が1層で占められる。1層はローム粒子を多量に含んでいることから、本住居跡は人為的に埋められた可能性が高いと考えられる。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3/4区)に位置する。燃烧部から排煙部まで検出されているものの、煙道部は非常に短く、住居外に僅かにしか伸びていない。燃烧部側壁(ソデ)は、褐色の粘土を素材としており、床面上に貼り付けるようにして構築されている。燃烧部~排煙部の平面形状は、褐色の粘土がU字を呈するものである。火床面として認識できる範囲は検出されていない。燃烧部側壁内面はほとんど焼けていない。火床面のほぼ中央には土師器甕の底部破片1個が出土しているが、倒立していないことから、支脚ではないと思われる。煙道部底面は住居外に至って急に立ち上がるものである。カマドを通る軸の方位は、N-123°-Eをさす。土層を見ると、人為的に破壊されているものの可能性がある。

**遺物等の出土状態** 1~8区の床面上に土師器片が少量出土しており、9~16区にはほとんど遺物が

が出土していない。7区(カマド焚口)の床面には炭化材が出土している。全体的に遺物は少ない。



ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	22.0
P 2	19.7
P 3	25.9
P 4	16.3
P 5	12.3

3H

- 1層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~50mm)多量、炭化物(φ1~3mm)微量、焼土(φ1~2mm)極微量混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2~10mm)多量、炭化物(φ1~3mm)微量、焼土(φ1~2mm)極微量混入。
  - 3a層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~10mm)中量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
  - 3b層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~10mm)多量、炭化物(φ1~3mm)少量混入。
  - 3c層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~10mm)多量、炭化物(φ1~3mm)微量、焼土(φ1~2mm)極微量混入。
  - 4層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~20mm)多量、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
  - 5層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1~15mm)多量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
  - 6層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~5mm)中量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
  - 7層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~3mm)多量混入。
  - 8層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
- 3H床構築土
- ①層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~50mm)多量、炭化物(φ1~2mm)微量混入。
  - ②層 黄褐色 10YR5/8 ローム。黒褐色土混入。
  - ③層 黄褐色 10YR5/8 ローム(φ1~10mm)中量混入。
  - ④層 黄褐色 10YR5/8 ローム。黒褐色土混入。
  - ⑤層 黒色 10YR2/1 ローム(φ2~50mm)多量混入。

図8 第3号住居跡

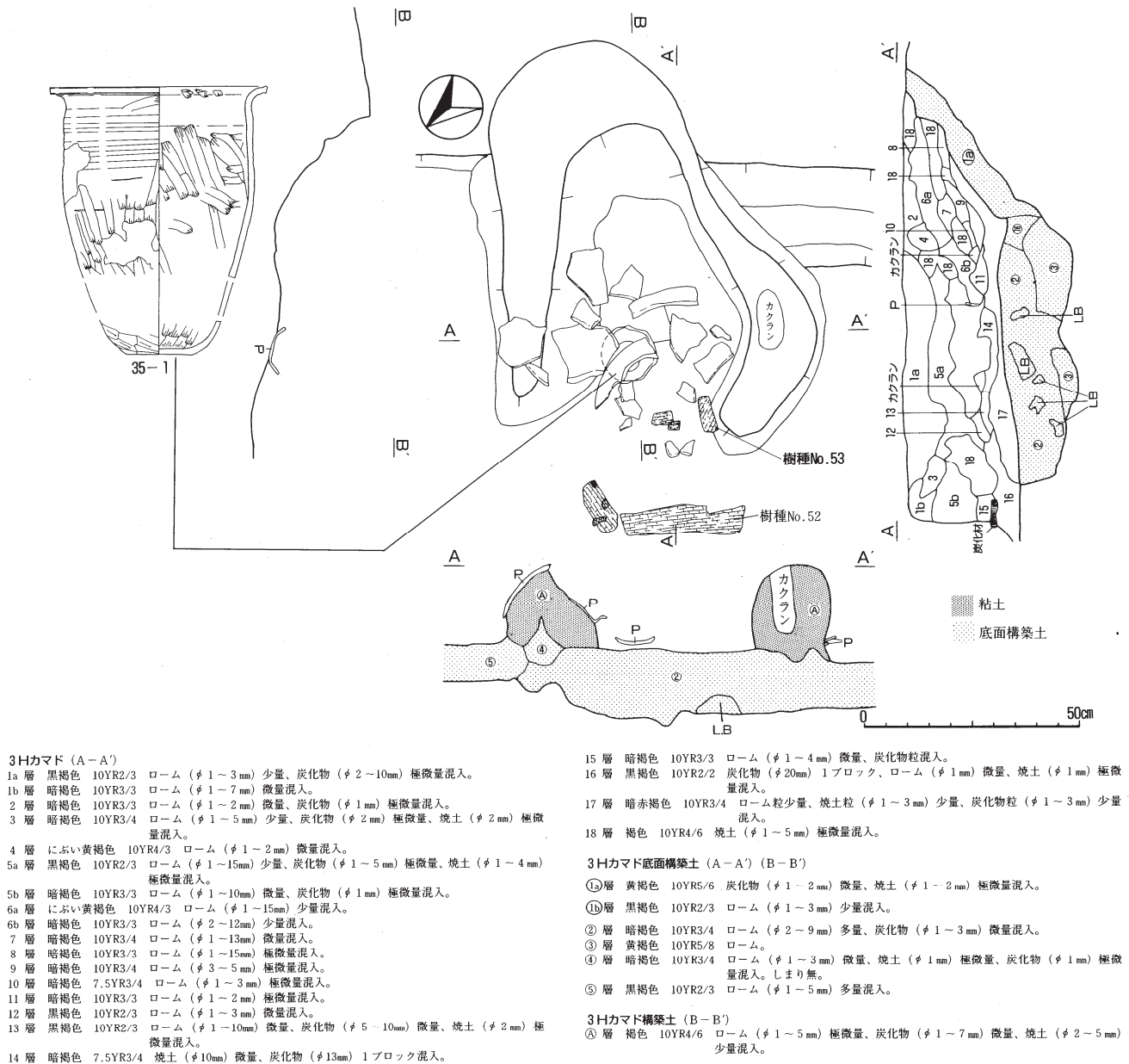


図9 第3号住居跡カマド

第4号住居跡 (4H) (図10~14)

**概要** 本住居跡は、グリッドG-160他の、平坦地に位置し、後述する第6号住居跡(6H)の右壁を拡張したものである(図10参照)。内部施設としてロクロピット1基(4HRP01)が、外部施設として、外延溝が2区の前壁から調査区東部の斜面に向かって伸びている(図10)。ロクロピットと外延溝は、6Hの機能していた段階においても付随していた可能性がある。なお、左壁の北東約2mのところにはSK08(粘土採掘坑)、Cコーナーの北約3mのところにはSK10があり、本住居跡と関連していた可能性がある。

**重複** 左壁の5/9区とDコーナーが攪乱を受けており、また、並列溝状遺構(SDX01)のa、bと重複している。SDX01より本住居跡は古いが、平面的な影響はほとんど受けていない。

**構造** 規模は、515~578×635~638cmを測り、平面形は、右壁と左壁がやや短い長方形を呈す。特に拡張した側の右壁が短い。四壁は良好に残存していて、深さ30~40cmを測る。壁溝は1区の左壁の



一部、Bコーナーの一部、2区の前壁の一部を除いて全周している。燃烧部側壁(ソデ)の左側の下位にも僅かながら壁溝が確認されている(図13)が、カマド構築の際に埋められている。ピットはP1~P23まであり、支柱穴と判断できるものはP2・7・17・18の4基であり、平面構成は長方形を呈す。ただしこの柱穴は、6Hの平面形に対して安定する位置にあるため、6Hに伴うものである可能性も高い。壁溝内もしくは壁溝に接する部分には、補助柱穴と考えられるいわゆる壁柱穴が巡る。床は、第1次の掘り込みの段階で、平坦に掘られている部分(特に中央部)が多い。ただし、壁溝付近はやや深く掘り込まれ、床構築土を充填する際に腰板も同時に固定させていると考えられる。

**土層** 2層以下は人為堆積と自然堆積が繰り返されている状態と考えられる。3層を切る1層は、並列溝状遺構(SDX01-a)の堆積土で、微量にB-Tmが混入している。1・5区には焼土と粘土の混合した土が薄く敷かれている(点線部分)。これはカマドを修理、あるいは再構築時の排土である可能性がある。

**カマド** 南東壁に作りつけられており、壁の右側(3区)に位置する。燃烧部から排煙部の付近まで検出されたが、煙道部~排煙部の左側壁は残存していない。また、排煙部は古い時代の攪乱を受けているようで、検出できなかった。燃烧部~排煙部の残存形状を平面的に見た場合、左ソデがやや長い「ハ」字状を呈している。燃烧部

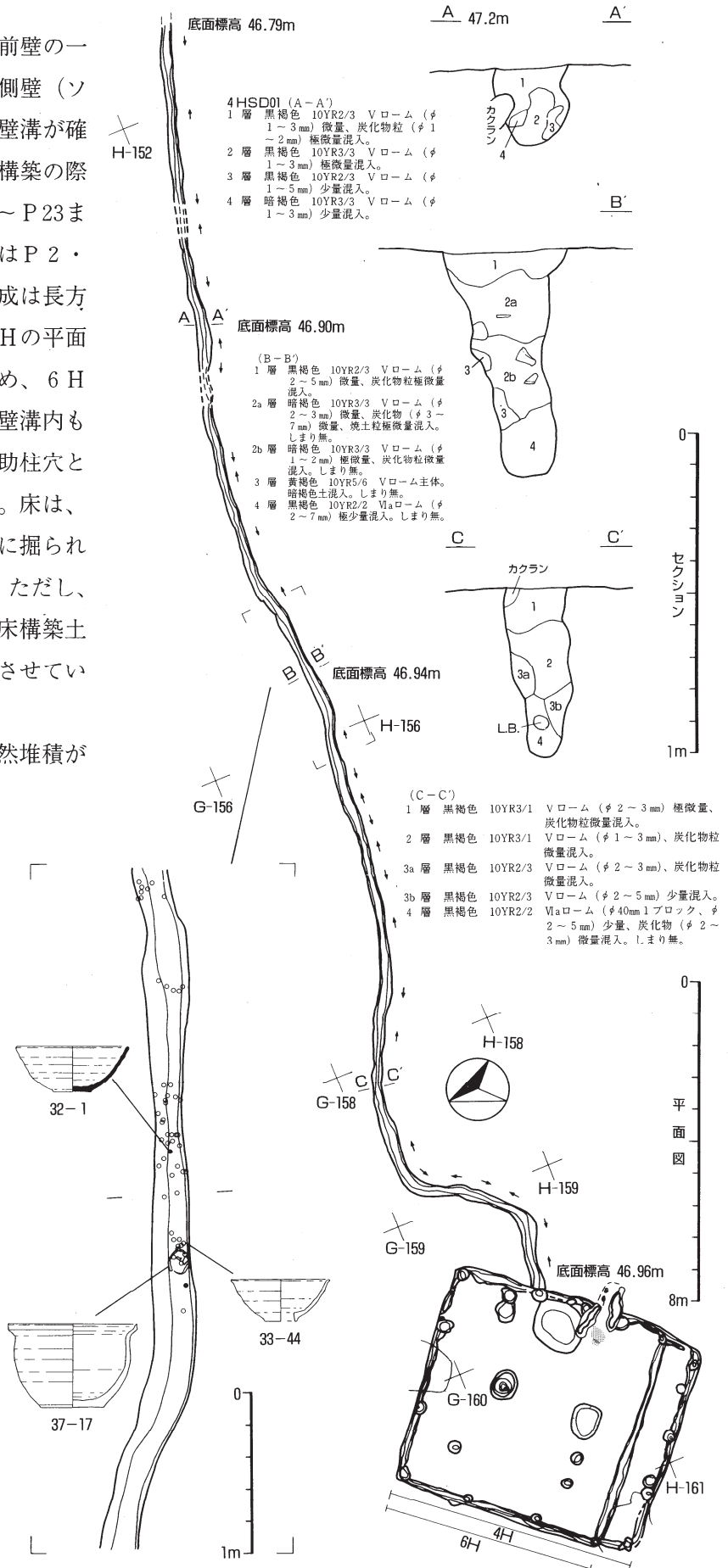
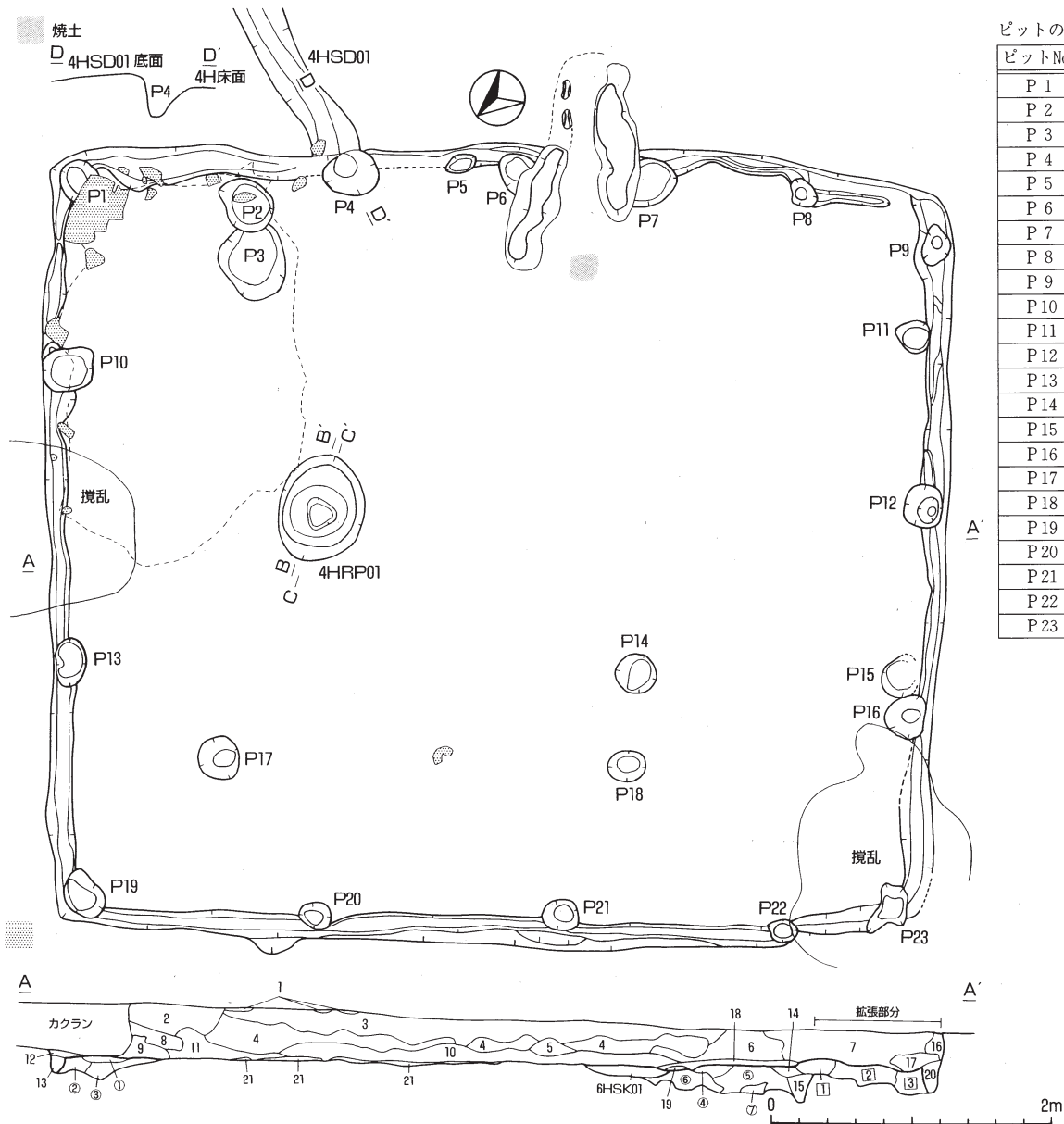


図10 第4号住居跡・第6号住居跡(全体合成)

ピットの深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	21.2
P 2	35.5
P 3	12.3
P 4	27.4
P 5	26.4
P 6	22.0
P 7	38.7
P 8	22.4
P 9	23.9
P 10	36.2
P 11	33.8
P 12	40.0
P 13	28.7
P 14	27.3
P 15	28.3
P 16	46.2
P 17	39.9
P 18	22.0
P 19	32.8
P 20	29.4
P 21	38.8
P 22	41.9
P 23	10.6



4H (A-A')

- 1層 黒色 10YR2/1 ローム粒、B-Tm極微量混入。しまり無。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~12mm)中量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~10mm)微量混入。B-Tm微量混入。
- 4層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm)中量混入。
- 5層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~10mm)少量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~12mm)少量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm)中量、炭化物(φ1~3mm)極微量混入。
- 8層 褐色 10YR4/6 Vローム(φ1~8mm)少量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
- 9層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~10mm)、炭化物(φ1~10mm)少量、焼土(φ1~3mm)微量混入。
- 10層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~10mm)少量混入。
- 11層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~15mm)少量混入。
- 12層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~5mm)少量混入。
- 13層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~5mm)微量混入。しまり無。
- 14層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1~10mm)中量、炭化物(φ1~2mm)少量混入。
- 15層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~3mm)微量混入。しまり無。
- 16層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1~3mm)微量混入。
- 17層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1~8mm)中量、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
- 18層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~5mm)少量、粘土(φ10~100mm)、焼土(φ7mm)1ヶ、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
- 19層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1~60mm)、炭化物(φ1~3mm)少量混入。
- 20層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~5mm)少量、炭化物(φ1~3mm)微量混入。
- 21層 ぶい黄褐色 10YR4/3 ローム(φ1~3mm)、炭化物(φ1~3mm)微量、粘土ブロック微量混入。粘性強い。

4H・6H床構築土 (A-A')

- ①層 ぶい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1~10mm)中量混入。
- ②層 褐色 10YR4/4 Vローム(φ1~17mm)中量混入。
- ③層 黄褐色 10YR5/6 Vローム(φ1~35mm)多量、黒色土少量混入。
- ④層 ぶい黄褐色 10YR4/3 Vローム(φ1~10mm)中量、粘土(φ40mm)1ヶ、炭化物(φ1~2mm)少量混入。
- ⑤層 ぶい黄褐色 10YR4/3 ローム(φ1~30mm)中量、粘土(φ1~5mm)、炭化物(φ1~5mm)少量混入。
- ⑥層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~5mm)、炭化物(φ1~3mm)少量、粘土粒少量混入。しまり無。
- ⑦層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1~15mm)少量、炭化物(φ1~5mm)微量混入。しまり無。

4H床構築土(拡張部分)(A-A')

- ①層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1~5mm)、炭化物(φ1~3mm)、粘土(φ1~3mm)微量混入。
- ②層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1~35mm)中量、炭化物(φ1~5mm)少量、焼土(φ1~3mm)微量混入。
- ③層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1~10mm)中量、炭化物(φ1~2mm)少量混入。しまり無。

図11 第4号住居跡

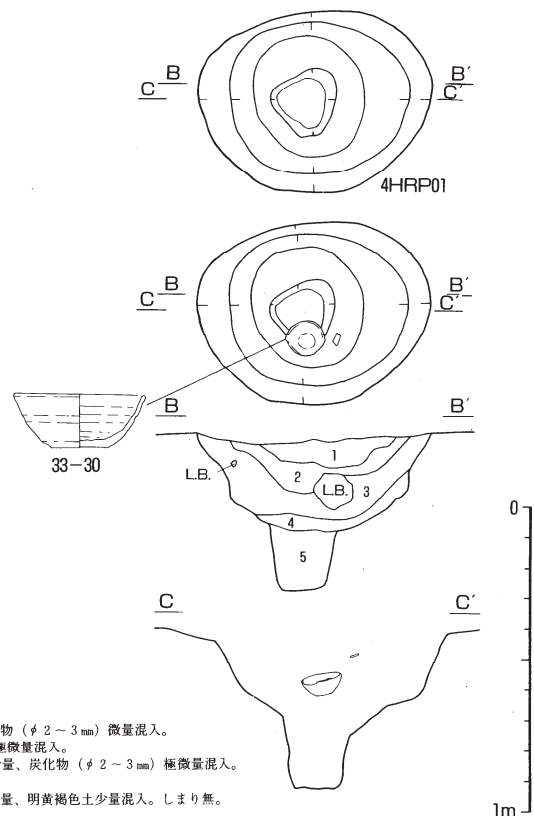
側壁（ソデ）は、にぶい黄褐色の粘土を素材としており、床に一部埋め込むように構築されている。また右ソデ端部には須恵器の坏が埋め込まれている。支脚は、土師器坏を利用しており、倒立させている。火床面（①層）は床（床構築土）をそのまま利用して、よく焼けているが軟質であり、焼土化の範囲も小さい。一方、燃烧部側壁内面はよく焼けている。左ソデの端部には、窯壁片が接する状態で出土しており、ソデの芯材として埋め込まれていた可能性がある。なお、この窯壁片には焼土が付着していることから、窯からとり出して住居内に持ち込み、二次利用されていることが確実に分かる。土層を見ると、人為的に破壊されたり、埋められたりした状況は呈していない。自然崩落と土壌流入の結果の堆積であろうと考えられる。カマドを通る軸の方位は、N-131°-Eをさす。本カマドの下層（床構築土下層）には前段階の住居である6Hカマドの火床面が残っている<sup>(註)</sup>（A-A'土層図参照）。住居拡張に伴ってカマドも作り替えた可能性が高いが、6Hカマドの残骸と特定できる土壌は確定できなかった。なお、本カマドの左ソデの下層には、6Hに伴う土坑（6HSK01）があることから、本カマドは、6Hカマドの燃烧部を延長させる（手前に伸ばす）ようにしてつくられている可能性も考えられる。

<sup>(註)</sup> 6Hの平面図には便宜的に4Hカマドと同じ平面図を組み込んでいる。

**内部施設** ロクロピット（4HRP01）1基が床面の6区に検出されている。周辺の床面上には白色の粘土が微量に分布していたが、本ロクロピットに関連していた可能性もある。ロクロピットの床面における平面形は楕円形を呈し、底面に柱状のピットを穿つような上下二重構造を呈す。上端の径は約77×60cmで、深さは49cmを測る。土坑状部分の2層からは、ほぼ完形の土師器坏が1個体出土している<sup>(註)</sup>。この土師器坏は、(4)の6Hロクロピットから出土した坏と胎土、焼成が類似している。

土層を全体的に見ると、弓状に堆積しており、一見、自然堆積的なラインを形成しているが、5層を除く全層に、ロームが混入し、また、2層と3層の間には大型のロームブロックが含まれていることから、人為的な埋戻しがなされていると考えられる。5層は、ぼろぼろしてしまりの全く無い、混入物も含まないので、断面を削っている最中に、一気に崩れ、壁面がしっかり露出したほどである。この状況は、軸木を残したまま埋め戻された結果を示しているのではないと推定される。

**遺物等の出土状態** 床面上に土師器、須恵器、窯壁片、粘土塊が出土している。平面的には1・5・5・6区に集中する傾向がみられる。窯壁片は主として1・3区に集中している。縄文時代の石鏃や土製品も床面上に出土しており、本住居跡の居住者が持ち込んでいたものと思われる。



- 4HRP01 (B-B')
- 1 層 黒褐色 10YR2/3 V<sub>a</sub>ローム (φ2-15mm) 中量、炭化物 (φ2-3mm) 微量混入。
  - 2 層 黒褐色 10YR2/2 V<sub>a</sub>ローム (φ30mm) 微量、炭化物粒極微量混入。
  - 3 層 黒褐色 10YR2/3 V<sub>a</sub>混合ローム (φ2-10mm) 少量、炭化物 (φ2-3mm) 極微量混入。しまり無。
  - 4 層 暗褐色 10YR3/4 V<sub>a</sub>混合ローム (φ2-8mm) 微量、明黄褐色土少量混入。しまり無。
  - 5 層 黒色 10YR2/1 混入物なし。しまり全く無し。

図12 第4号住居跡ロクロピット (4HRP01)



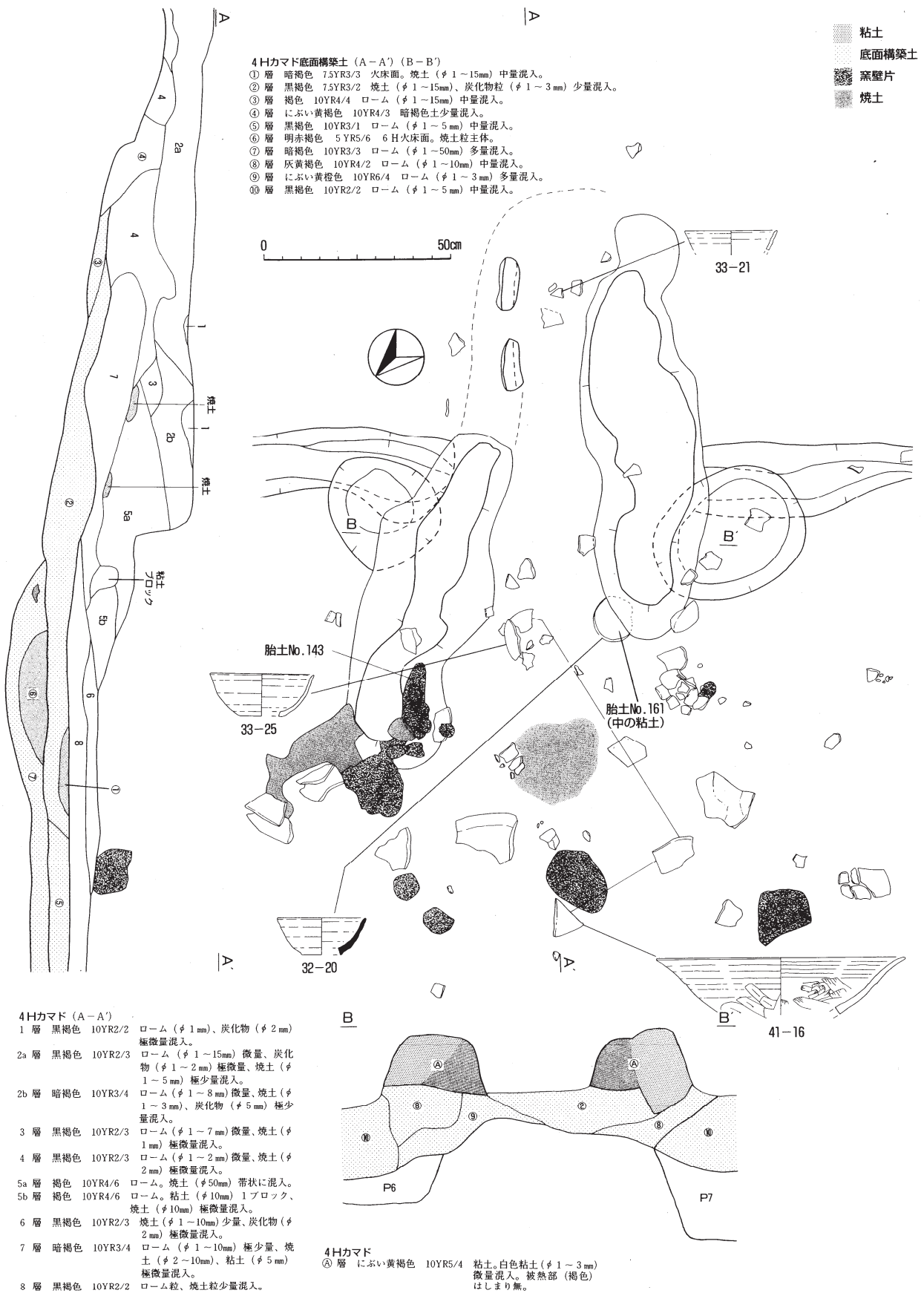


図13 第4号住居跡カマド

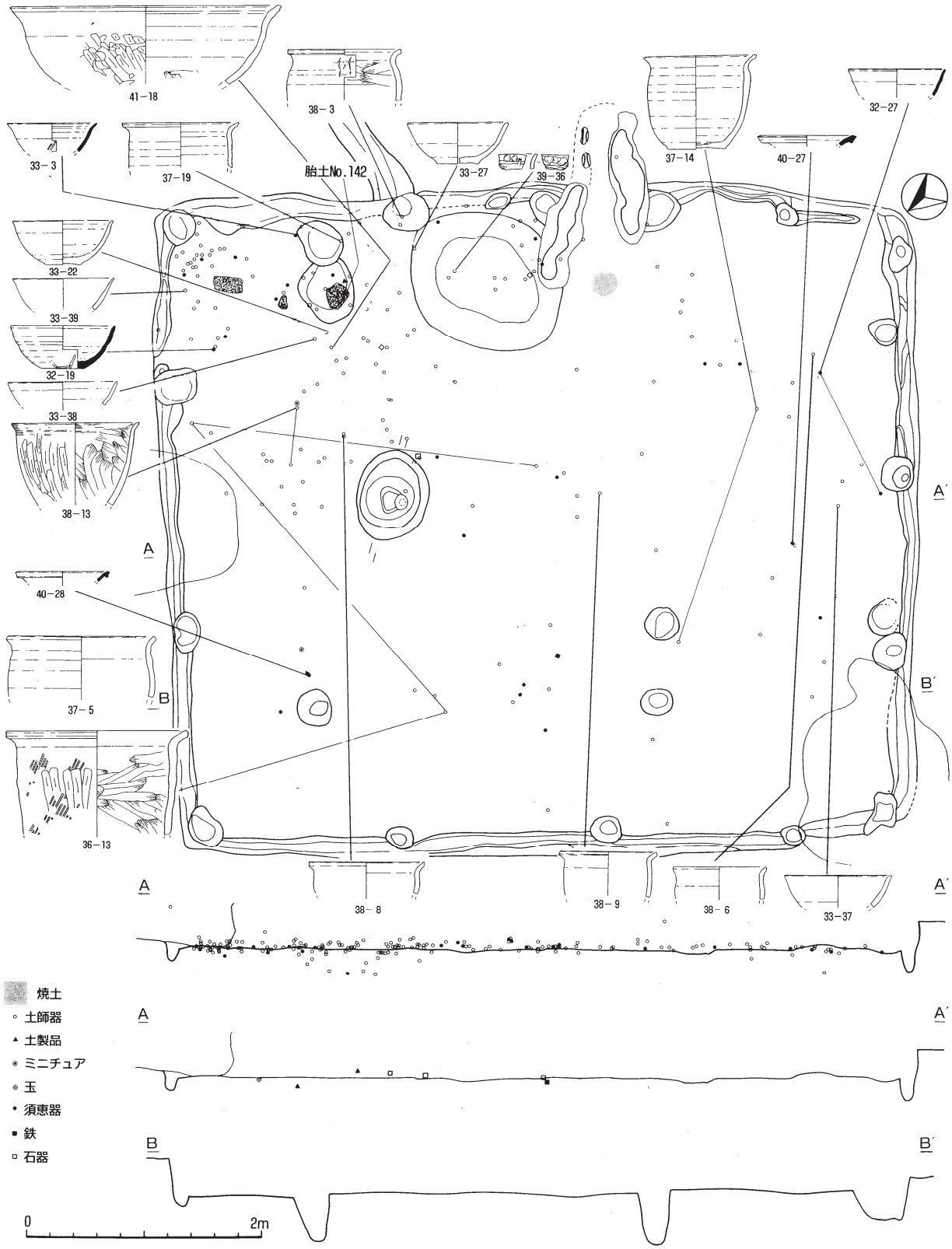


図14 第4号住居跡遺物出土状態

その他 ロクロピット（4HRP01）は、6Hの機能段階から存在していた可能性もある。

#### 第4号住居跡付属外延溝（4HSD01）（図10）

**概要** 調査区東域の斜面方向に伸びている。H-151グリッドにおいて途切れているため全体の形状は不明である。4H前壁（2区）から伸びるものである。

**重複** SDX02・03・04・SD02・03・04と重複し、いずれよりも本溝跡が古い。一部攪乱を受けている。

**構造** 前壁（2区）から伸びているが、厳密には、2区の北東よりにあるP4の上端から伸びているものである。深さはC-C'で53cm、B-B'で70cm、A-A'で24cmを測り、大幅な深淺がみられるが、底面の絶対高は46.90～46.96mを測り、ほとんど差がみられない。住居の床面と溝跡の底面の高低差は10cm程である（図11・D-D'）。平面図には底面における高低を矢印で簡単に表現しておいたが、いずれにしても水などが流れるような傾斜ではない。溝跡内に入った雨水を観察したところ、水はけが非常に良く、後に泥が若干残る程度のものであった。幅は広狭がみられ、16～38cmを測り、長さは検出長（直線長）で32m88cmを測る。

**堆積土** ロームを混入する黒褐色土を基本とするが、部位によって差がみられる。G-157・158グリッド辺りにおける底面には、2～46mmの礫がわずかに堆積している。

**遺物等の出土状態** G-155グリッドにおける確認面には、土師器坏や土師器小型甕がまとまって出土している。小型甕（図37-17）は、口縁部が上を向いて出土しており、人為的に安置されたものと考えられる。

#### 第6号住居跡（6H）（図15）

**概要** 本住居跡は、前述した第4号住居跡の拡張以前のものである（図10参照）。6H右壁溝は4Hの底面にかすかに確認された。4Hの項で述べた4HRP01と4HSD01は、6Hの機能段階においても付随していた可能性がある。

**重複** (1)左壁の5、9区とDコーナーが攪乱を受けている。(2)並列溝状遺構（SDX01-a、b）と重複し、いずれよりも本住居跡が古い。平面的な影響は受けていない。

**構造** 規模は、550～560×525～565cmを測り、平面形は、ほぼ方形を呈す。前壁、後壁、左壁は良好に残存しているが、右壁は拡張時に取り壊されている。深さは4Hと同一と考えられる。壁溝は1区の左壁の一部と2区の前壁の一部を除いて全周している。ピットは4Hのものと6Hのものに分離できないが、17基あり、支柱穴と判断されるものは4Hと同じP2・7・17・18である。壁柱穴が壁溝内もしくは壁溝に接して12個みられ、これらは補助柱穴と考えられるが、中には4Hに伴うものも含まれている。床のつくりは、基本的に4Hと同じと考えられる。

**土層** 4Hを参照。基本的に覆土は無く、床構築土も4Hと同じである。

**カマド**<sup>(註)</sup> 4Hカマド燃焼部の下層には6Hカマドの火床面が検出されている（図13A-A'）。6Hの火床面の方が4Hの火床面よりも焼土化の範囲は広い。6Hカマドの残骸と断定できる土壌は見いだせなかったが4Hの1・5区に広がっている粘土と焼土の混合土が6Hカマドの排材である可能性がある。いずれにしても6Hカマドは住居拡張に伴って作り替えている可能性が高い。

(註)6Hの平面図には、便宜的に4Hカマドをそのまま組み込んでいる。



**内部施設** 土坑2基（6 H S K 01、6 H S K 02）が検出されている。6 H S K 01は、2、3区に位置し、平面形は楕円形を呈している。4 H カマドの燃焼部の左側壁の下層にあることから、4 H カマドの燃焼部の左側壁よりは古いことが分かる。6 H S K 02は、7 / 8 / 11 / 12区、P 7 - 14ライン上に位置しており、平面形は五角形状を呈している。非常に浅い掘り込みで、堆積土には焼土ブロックが含まれている。なお、4 H R P 01は本住居跡にも伴っていた可能性がある。

**遺物等の出土状態** 4 H と 6 H の床構築土は同じものであることから、4 H に伴う遺物と 6 H に伴う遺物を分離できないため、床面出土遺物は全て 4 H 出土遺物として取り上げた。

**その他** ロクロピット（4 H R P 01）は、本住居跡の機能段階から存在していた可能性もあるが、住居拡張に伴うロクロピットの作り替えが行われていないのは確実と言える。

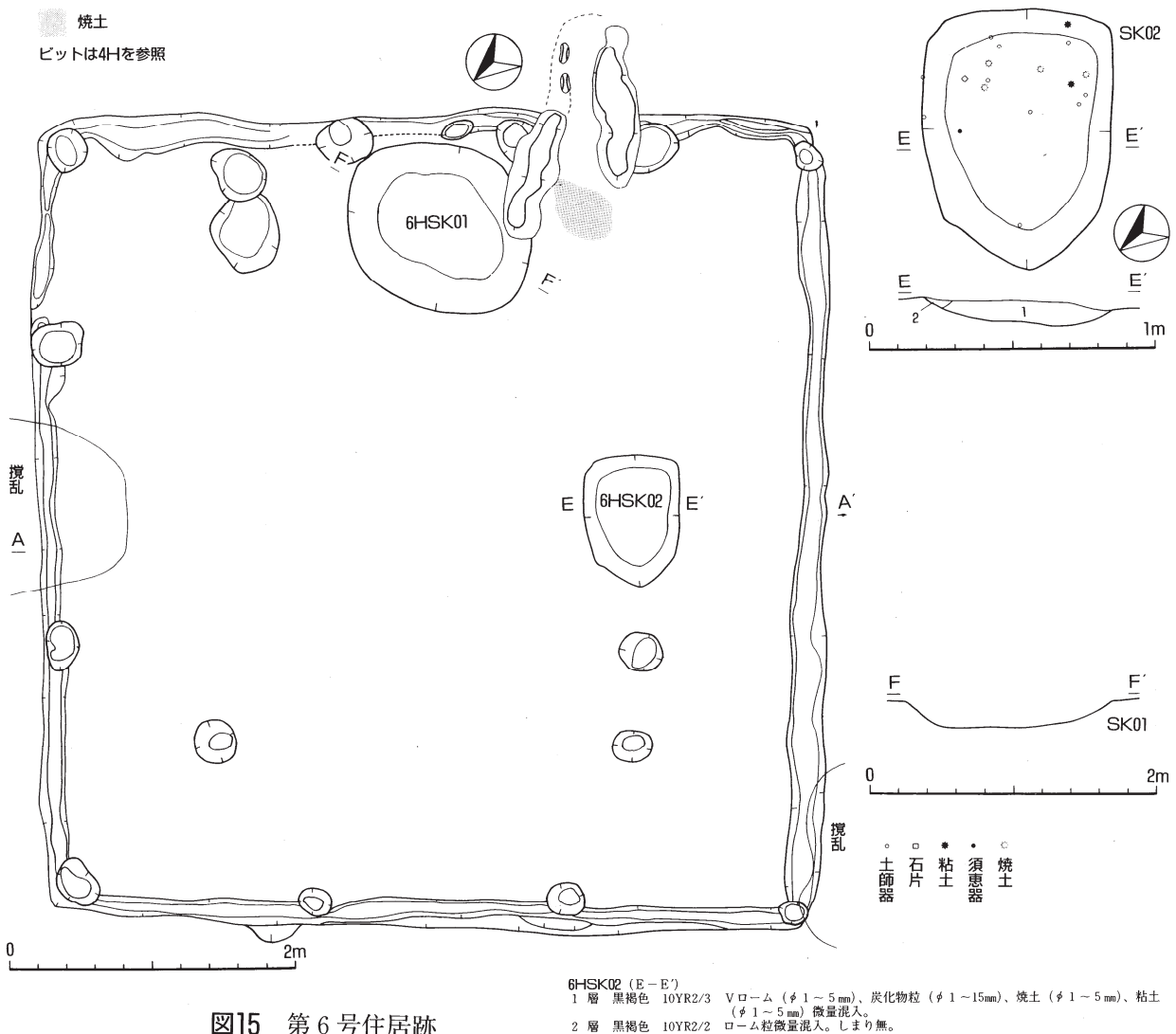


図15 第6号住居跡

**第5号住居跡 (5 H) (図16~20)**

**概要** 本住居跡は、グリッドA-160他の、平坦地に位置する。内部施設としてロクロピットが1基（5 H R P 01）と土坑（5 H S K 01）が付随している。外部施設として、外周溝（5 H S D 01）が左壁外側に付随する。前壁の南東数mのところには柱穴状のピットが6基検出されているが、本住居

跡と関連するものかどうかは不明である。

**重複** 並列溝状遺構 (SDX01-b、c) と重複する。本住居跡が古いが、平面的な影響はほとんど受けていない。

**構造** 規模は、330~340×405~425cmを測り、平面形は、右壁と左壁がやや短い長方形を呈す。四壁は良好に残存している、深さ20cm前後を測る。壁溝は前壁の一部(3・4区)と後壁(14・15区)の一部を除いて全周している。3・4区の前壁の一部が途切れている理由は、後述する旧カマドを設置するために意図的な掘り残されたためと考えられる。燃烧部側壁(左ソデ)の下位にも僅かながら壁溝が確認されている(図18)が、カマド構築の際に埋められている。ピットは7個あり、Aコーナーを除く3コーナーに1個ずつと、前壁際と前壁溝内に4個みられるが、支柱穴と断定できるものはみられない。床は、第1次掘り込みの段階の凹凸をなくすようにロームを混入する土を入れ、平坦に敷きならし、かためられている。

**土層** 大半が1層の黒色土で占められ、これは自然堆積土と考えられる。また、1層は、並列溝状遺構(SDX01-b)に切られている(スクリーントーン部分)。

**カマド** カマドは作り替えがなされており、2区にあるカマドが新しい段階のカマド(新カマド)で、3区と4区の間にある焼土は、古い段階のカマド(旧カマド)の火床面であると考えられる。新カマド、旧カマドともに南東壁(前壁)に作りつけられており、新カマドは壁の左側に、旧カマドは壁の右側に位置する。

[新カマド] 燃烧部~排煙部の形状を平面的に見ると、逆V字状を呈している。燃烧部から排煙部まで検出されているものの、煙道部は非常に短く、住居外に僅かしか伸びていない。火床面から煙道部底面の中間には僅かな段がみられる。構築土には褐色~暗色の粘土が使われており、燃烧部側壁(ソデ)は、床に貼り付けるように構築されている。支脚には、土師器坏の底部が利用されている。火床面(①層)は床面(床構築土)が被熱しているもので、よく焼けているものの軟質である。また、燃烧部側壁内面はあまり焼けていない。煙道部や燃烧部の底面は、予めロームを深く掘り込んだ後に、ロームが混入する黒~黒褐色土をならしてつ

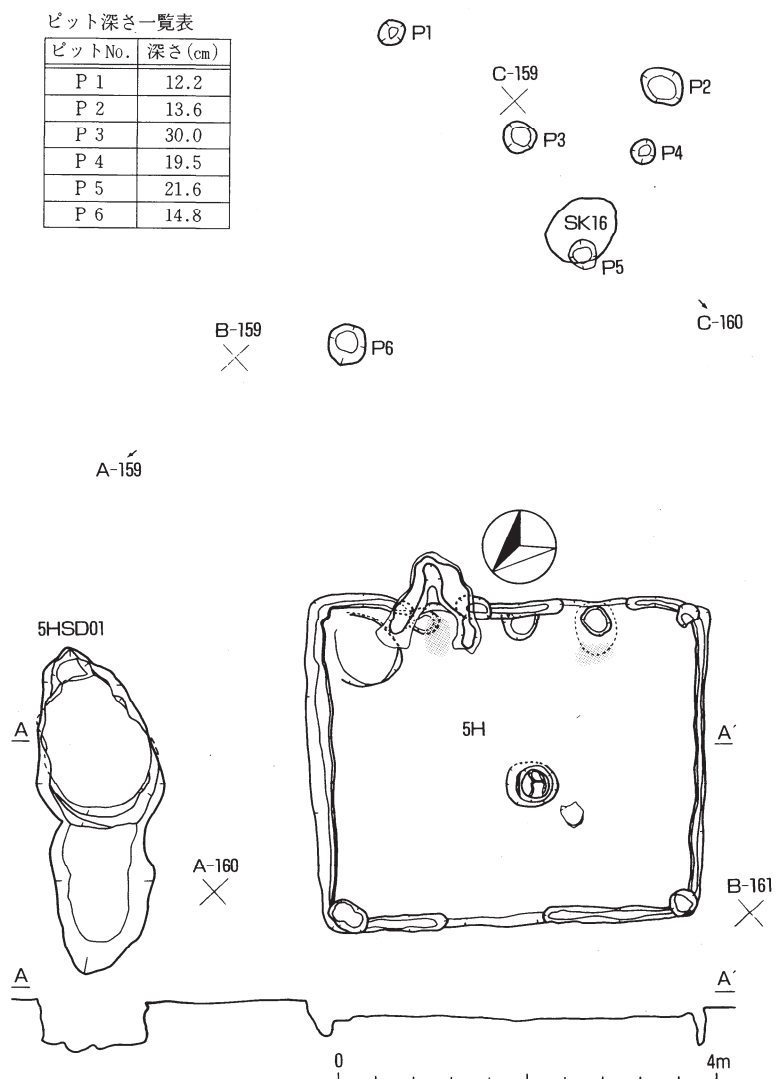
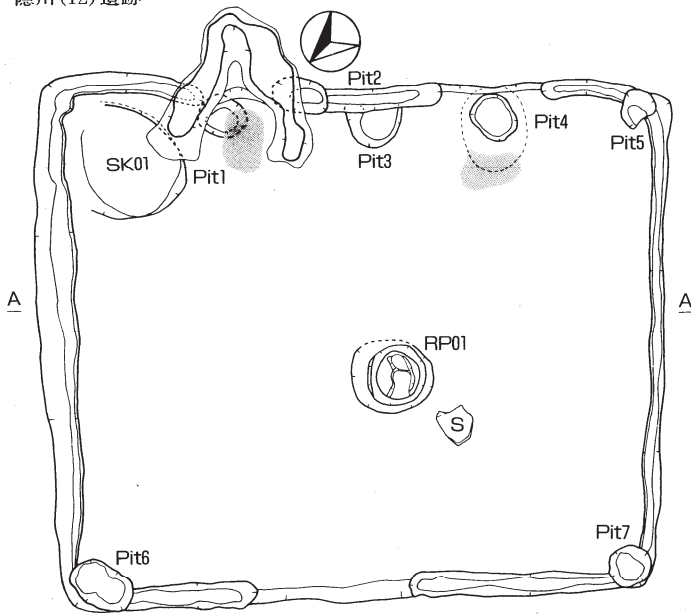


図16 第5号住居跡(全体)

隠川(12)遺跡

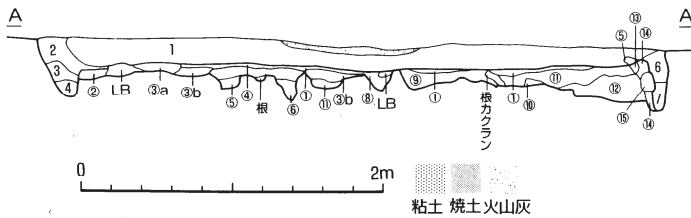


5H(A-A')

- 1層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~3mm) 極微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~30mm) 少量混入。
- 3層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量混入。しまり無。
- 4層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~10mm) 少量混入。しまり無。
- 5層 褐色 10YR4/6 Vローム主体。
- 6層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1~3mm) 微量混入。
- 7層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量混入。しまり無。

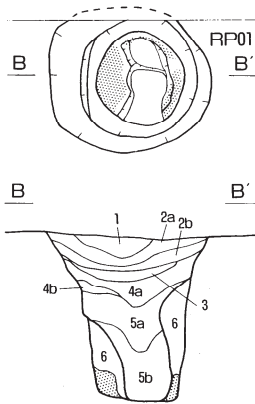
5H床構築土壁溝裏込土(A-A')

- ①層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~5mm) 少量、粘土粒(φ1~3mm) 微量混入。
- ②層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1~5mm) 多量混入。
- ③a層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~5mm) 少量混入。粘性有。
- ③b層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~7mm) 少量混入。
- ④層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1~10mm) 微量混入。粘性有。
- ⑤層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1~2mm) 微量混入。
- ⑥層 におい黄褐色 10YR5/6 ローム粒中量混入。
- ⑦層 褐色 10YR4/4 ローム粒(φ1~3mm) 微量混入。
- ⑧層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。
- ⑨層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~2mm) 微量混入。北側黒色強く、南側ローム多い。
- ⑩層 褐色 10YR4/4 Vロームブロック。
- ⑪層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~5mm) 少量混入。
- ⑫層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1~3mm) 少量混入。しまり無。
- ⑬層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~5mm) 少量混入。
- ⑭層 黒色 10YR2/2 ローム(φ1~10mm) 多量混入。
- ⑮層 褐色 10YR4/6 ローム(φ1~10mm) 多量混入。



ピット深さ一覧表

ピットNo.	深さ(cm)
P 1	35.4
P 2	45.3
P 3	17.5
P 4	43.3
P 5	33.5
P 6	37.7
P 7	51.0



5HRP01(B-B')

- 1層 黒色 10YR2/1 ローム(φ2~20mm) 微量、炭化物(φ2~15mm) 少量、焼土粒微量混入。
- 2a層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ2~3mm) 少量、炭化物(φ2~3mm) 極少量、焼土粒微量混入。
- 2b層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1~2mm) 極微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ1~3mm) 少量、炭化物(φ1~2mm) 極少量、灰黄褐色土少量混入。
- 4a層 黒色 10YR2/1 ローム(φ2~15mm) 微量、炭化物粒極少量混入。しまり無。
- 4b層 黒色 10YR2/1 ローム(φ2~15mm) 微量混入。しまり無。
- 5a層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ3~50mm) 多量、炭化物粒極少量、におい黄褐色粘土(φ15~25mm) 微量混入。しまり無。
- 5b層 暗褐色 10YR3/2 ローム(φ2~30mm) 中量、炭化物粒微量、黒褐色土少量混入。しまり無。
- 6層 明黄褐色 10YR7/6 黒色土少量、におい黄褐色土極少量、炭化物(φ1~2mm) 極微量混入。しまり無。

5HPit 4(C-C')

- 1層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2~3mm)、炭化物粒、焼土粒微量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~5mm)、炭化物(φ1~3mm) 微量、焼土(φ1~3mm) 極少量混入。
- 3層 黒褐色 7.5YR3/2 ローム粒、炭化物粒極微量、焼土(φ1~3mm) 極少量混入。
- 4層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム(φ1~3mm)、炭化物粒微量、焼土(φ1~3mm) 少量混入。
- 5a層 褐色 7.5YR4/3 ローム(φ2~5mm) 少量、焼土粒微量混入。しまり無。
- 5b層 暗褐色 7.5YR3/3 ローム(φ2~3mm) 微量、炭化物粒極微量、焼土(φ1~3mm) 微量混入。しまり無。
- 5c層 黒褐色 7.5YR3/2 ローム(φ2~3mm) 微量、焼土粒極微量混入。
- 6層 褐色 7.5YR4/3 ローム(φ1~15mm) 多量混入。

5H旧カマド火床面以下(C-C')

- ①層 褐色 7.5YR4/4 火床面。被熱は弱い。炭化物粒極微量、焼土(φ1~5mm) 少量混入。
- ②層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2~8mm)、炭化物粒極微量混入。しまり無。

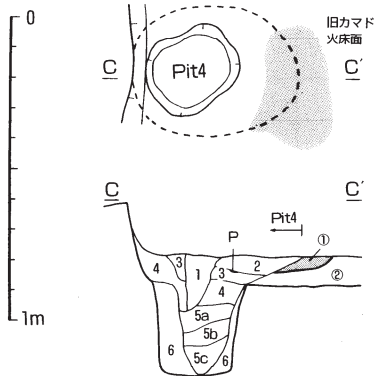
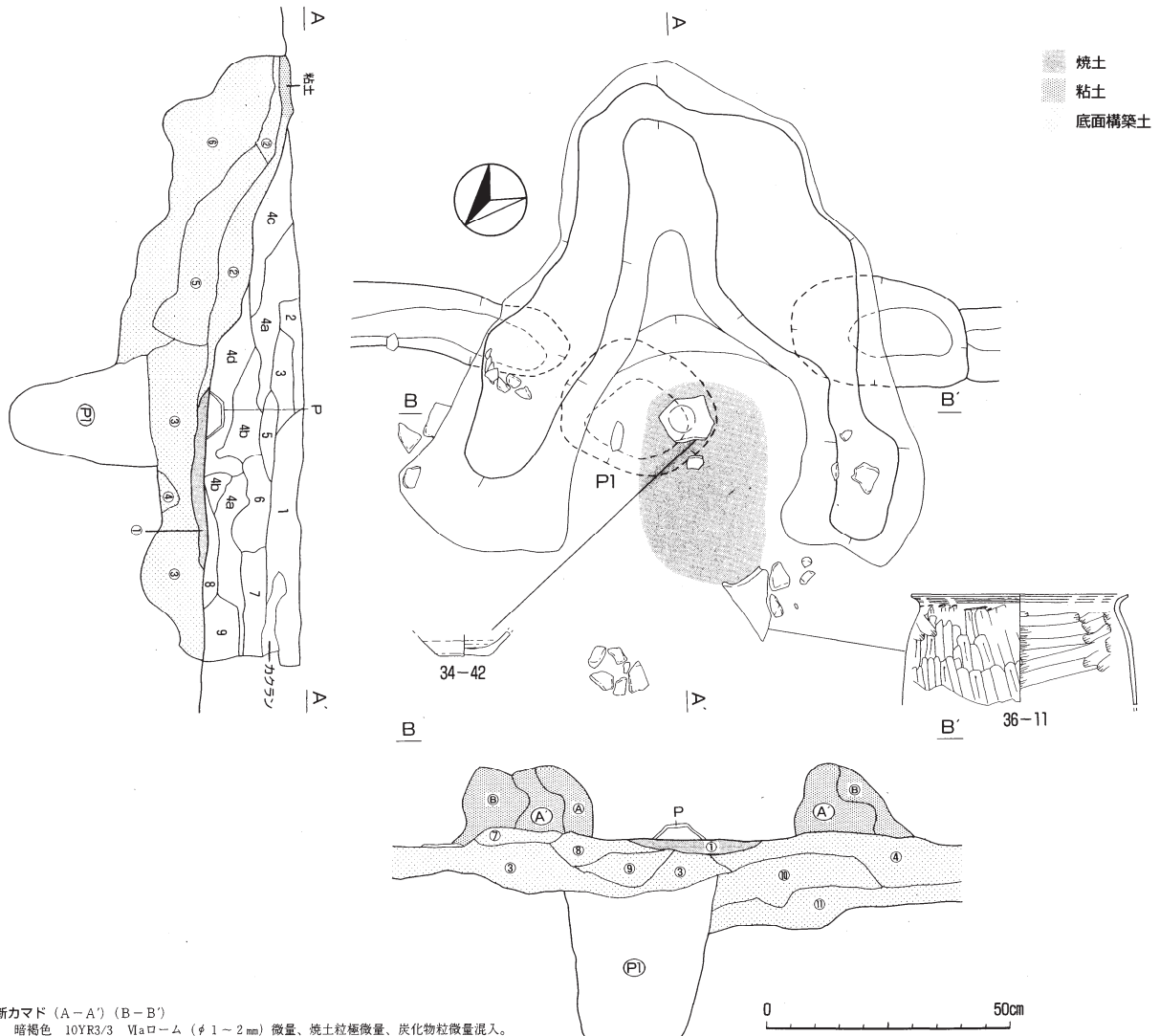


図17 第5号住居跡



くられている。燃烧部の床構築土の下位には、ピット (P1) があり、旧カマドの機能していた段階における柱穴と考えられる。また、旧カマドの火床面は、P4と重複関係にあり、P4が新しい。旧カマドを廃してカマドを左側に新構築する際、P1を廃してP4を新しくつくるといのように、カマドを左側に、ピットを右側に移動させたものと考えられる。新カマドの軸の方位は、N-131°-Eをさす。

旧カマドの構築土は、新カマドを構築する際に破壊されたようであり、その残骸は、3区周辺にみられる粘土 (図19) ではないかと考えられる。火床面は新カマドと同様に床面 (床構築土) がそのま



5H新カマド (A-A') (B-B')

- 1 層 暗褐色 10YR3/3 V1aローム (φ1~2mm) 微量、焼土粒極微量、炭化物粒微量混入。
- 2 層 褐色 10YR4/4 V1aローム (φ1~3mm) 微量、焼土粒極微量、構築土極少量混入。
- 3 層 にぶい黄褐色 10YR5/4 構築土主体。焼土粒、炭化物粒微量、パミス極微量混入。
- 4a 層 褐色 7.5YR4/4 焼けた天井部構築土。V1aローム (φ1~3mm) 微量、焼土 (φ2~8mm) 極少量混入。
- 4b 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼けた天井部構築土。焼土 (φ2~10mm)、炭化物粒微量混入。
- 4c 層 暗褐色 10YR3/4 焼けた天井部構築土。V1aローム (φ1~7mm)、焼土 (φ1~3mm) 微量混入。
- 4d 層 暗褐色 7.5YR3/4 焼けた天井部構築土。焼土 (φ1~5mm) 少量、炭化物粒微量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 V1aローム (φ1~2mm) 極微量、炭化物粒微量、構築土 (φ1~3mm) 極少量混入。
- 6 層 暗褐色 10YR3/4 構築土主体。焼土粒微量、ローム粒、炭化物粒極微量混入。
- 7 層 暗褐色 10YR3/3 焼けた構築土主体。褐色焼土 (φ1~3mm) 極少量、炭化物粒極微量混入。
- 8 層 褐色 7.5YR4/6 天井部被熱部構築土主体。焼けかけた土 (暗褐色土) も所々あり。
- 9 層 黒褐色 10YR2/3 褐色焼土 (φ1~3mm) 炭化物 (φ2~3mm) 微量混入

5H新カマド構築土 (A-A') (B-B')

- Ⓐ 層 褐色 7.5YR4/6 被熱した粘土。赤褐色焼土 (φ2~5mm) 極少量、炭化物粒極微量混入。
- Ⓒ 層 暗褐色 10YR3/4 粘土主体 (黒色土混入)。赤褐色焼土 (φ3~5mm) 微量、混入。
- Ⓑ 層 黒褐色 10YR2/3 シルトと粘土の混合土。Vローム (φ1~2mm) 微量、炭化物粒極微量混入。

5H新カマド底面構築土 (A-A') (B-B')

- ① 層 褐色 7.5YR4/6 火床面。赤褐色焼土 (φ2~8mm) 中量、炭化物粒極微量混入。しまり無。
- ② 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒極微量、炭化物粒、焼土粒極微量混入。しまり無。
- ③ 層 黒褐色 10YR2/2 V1aローム (φ2~20mm) 中量、V1aロームと黒褐色土との混合土ブロック、炭化物粒微量、焼土粒極少量混入。
- ④ 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒、焼土粒極微量混入。
- ⑤ 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム (φ1~2mm) 微量混入。しまり無。
- ⑥ 層 黒褐色 10YR2/2 ローム (φ1~2mm) 微量、炭化物粒極微量混入。
- ⑦ 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム (φ2~5mm) 極少量、ローム粒微量混入。
- ⑧ 層 黒褐色 10YR2/3 構築粘土少量、炭化物粒、焼土粒極微量混入。
- ⑨ 層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量混入。
- ⑩ 層 暗褐色 10YR3/3 構築粘土多量、浮石 (φ3~5mm)、炭化物粒、焼土粒極微量混入。
- ⑪ 層 黒色 10YR2/1 ローム (φ2~3mm) 微量、黒色土とV1aロームの混合土下位に極少量混入。
- ⑫ 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。

5H新カマド下位 Pit1 (A-A') (B-B')

- ① 層 暗褐色 10YR3/3 暗褐色土とV1aロームの混合土。ローム (φ2~5mm) 極少量、炭化物粒極微量、Vロームと黒褐色土の混合土中量混入。しまり無。

図18 第5号住居跡カマド (新)

ま利用されているもので、よく焼けているが、軟質である。

**内部施設** ロクロピット1基(5HRP01)が床面のほぼ中央、11区に検出されている(図17)。同区の床面には板状の礫(図54-8)も出土しており、本ロクロピットと関連していた可能性がある。

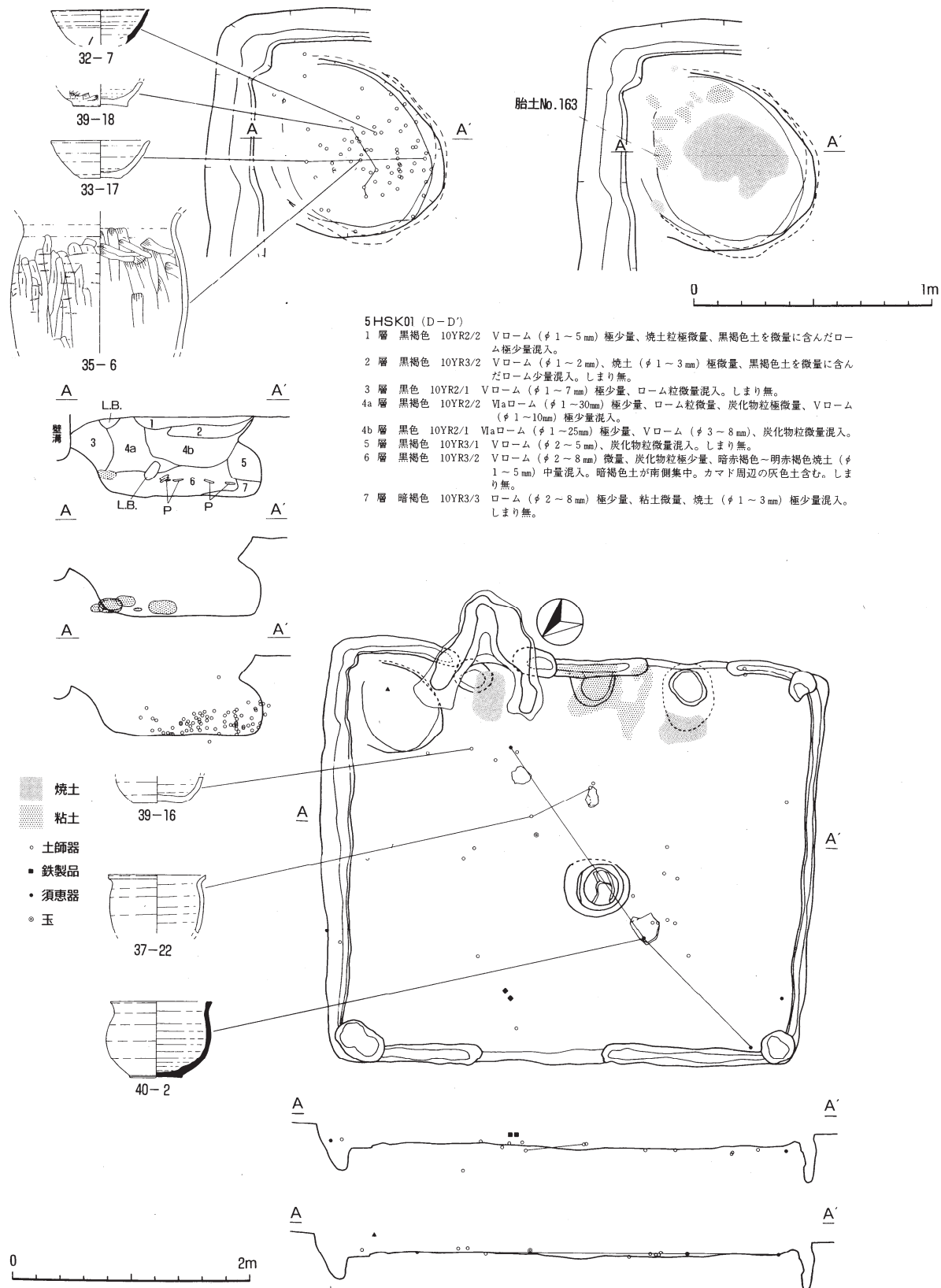


図19 第5号住居跡遺物出土状況・5HSK01

上端の平面形は49×54cmで、やや歪む楕円形を呈し、深さは54cmを測る。断面形は、掘り方で含めると筒形を呈すが、6層の下位には、粘土が堆積しており、この層を軸木固定のための充填土と見た場合、断面形は柱状のピットが穿たれる上下二段の構造を呈すと言える。ただし、軸木に相当すると考えられる5b層は、垂直ではなく傾いている。1～4a層は弓状に堆積しているが、焼土や粘土の混入状況よりみて、人為堆積と考えられる。SK01は、Aコーナー（1区）に位置し、新カマドの下層にあることから、旧カマド機能段階の掘り込みと考えられる。上面は床構築土（1層）でパックされており、底面を覆う6層の中からは、複数の粘土塊と土師器の破片が多量に出土している。これら粘土塊や土師器は廃棄されたものと考えられ、堆積土は人為堆積である。

**遺物等の出土状態** 床面上に土師器、須恵器、玉、礫等が出土しているが、あまり多くはない。平面的には住居のほぼ中央に集中する傾向がみられる。鉄製品は刀子で、覆土中の出土である。

**第5号住居跡付属外周溝（5HSD01）（図20）**

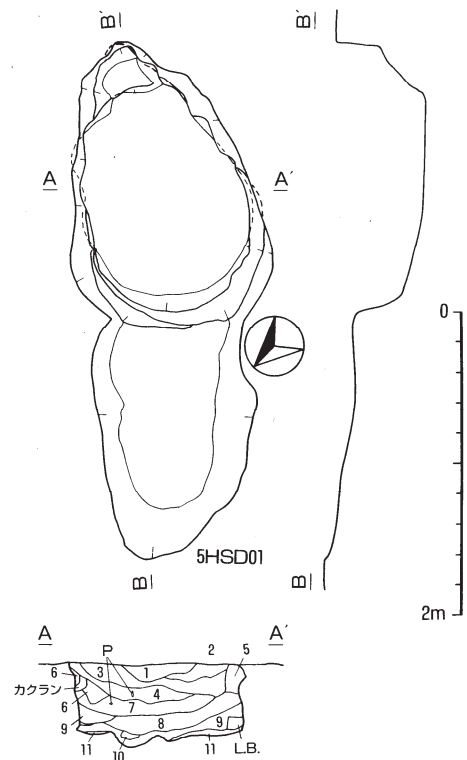
**概要** 1条で構成され、浅い土坑と深い土坑が連結したような形状を呈する<sup>(註)</sup>。重複はない。

(註)住居跡の周りを囲んでいないことから、「外周溝」という表現は適切でないが、住居跡の左壁から、本遺構の住居側の上端までの距離が、(4)遺跡の1Hの例に近いことと、5Hの左壁にほぼ平行していること、そして長さも左壁とほぼ等しいという3点の事実から、5Hに付属するものと判断した。無論、本遺構を単独の遺構として捉えることも可能である。なお、「外周溝」という名称は今回便宜的に使用している。

**構造** 南東側は、平面形が不整の卵形を呈す深い土坑状（以下、深部と呼称）、北西側は不整楕円形の浅い土坑状（以下、浅部と呼称）を呈している。浅部と深部の接する部分は、くびれていることから、両者は同時構築されたものではなく、どちらかが追加構築されている可能性が高い<sup>(註)</sup>。浅部、深部とも底面には凹凸がみられる。深部の壁面は屈曲が激しく、部分によっては内傾しているところも認められ、南東端には3基の小土坑が切り合うような状況がみられる。浅部と深部を合わせた全体の直線長は34.5cm、幅は深部が最大135cm、浅部が最大108cm、深さは、深部が55～63cm、浅部が18cmを測る。(註)堆積土に新旧関係は確認されなかった。

**土層** 土層断面図は深部のみ作成した。幾層にもわたって皿状に堆積しており、特に3、7、8層には大型のロームブロックが混入している。これらの層は人為堆積と考えられ、また、それ以外の層は混入物が少ないことから自然堆積ではないかと推定される。

**遺物の出土状態** 深部の南東端にある3基の小土坑が切り合っているような箇所あたりにまとまって土師器、須恵器等が出土している。底面付近にはあまりみられず、専ら覆土中に分布する。略完形の坏も1点出土している。(木村 高)



- 5HSD01
- 1層 黒褐色 10YR2/2 炭化物(φ1~10mm)微量、焼土(φ1~2mm)極少量、ローム(φ1mm)微量混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~10mm)微量、炭化物(φ1~10mm)極微量、焼土(φ1~2mm)極少量混入。
  - 3層 黒褐色 10YR2/2 焼土(φ1~8mm)微量、ローム(φ1~30mm)少量、炭化物(φ2~35mm)微量混入。
  - 4層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~15mm)極少量、炭化物(φ2~5mm)微量、焼土(φ1~2mm)極微量混入。
  - 5層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~3mm)極微量混入。
  - 6層 黒色 10YR2/1 焼土(φ1mm)極微量、ローム(φ1~3mm)極少量、炭化物(φ1~4mm)極微量混入。
  - 7層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~50mm)少量、焼土(φ1~25mm)、炭化物(φ2~15mm)微量混入。
  - 8層 黒色 10YR1.7/1 ローム(φ1~50mm)少量、焼土(φ2~60mm)炭化物(φ2~50mm)極微量混入。
  - 9層 黒色 10YR1.7/1 ローム(φ1~2mm)極少量混入。
  - 10層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~10mm)微量、炭化物(φ3mm)極微量混入。
  - 11層 明黄褐色 10YR6/6 黒色土20%混入。

図20 第5号住居跡外周溝



## 2 土 坑

平安時代の土坑は18基検出された。平安時代の住居跡の付近に点在する傾向がみられる。

### 第12号土坑 (S K12) (図21)

**概要** B-158グリッド他に位置する。重複はない。**構造** 確認面における平面形はほぼ円形を呈する。規模は確認面で88×88cm、深さは52cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上り、断面形は箱形を呈している。ロームを基底にしており、底面に凹凸はほとんどなく、平坦である。**土層** 7層に分層された。黒色土を基調とし、炭化物粒、ローム粒が混入している。層のラインより、人為堆積である可能性が高いと思われる。**遺物等の出土状態** 底面付近に須恵器壺の胴部下半が出土している。S K10の覆土から出土した破片と接合している。

### 第4号土坑 (S K04) (図21)

**概要** D-155グリッドに位置する。付近には3 Hが位置している。重複はない。**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ楕円形を呈する。規模は、確認面で74×90cm、底面44×58cm、深さは56cmを測る。壁面は外反しながら立ち上がり、断面形はやや歪む逆台形を呈する。底面はほぼ平坦である。

**土層** 8層に分層された。黒褐色土を基調とし、ローム(φ1~55mm)を多量に含んでいる。ロームの大きさよりみて、全層とも人為堆積と考えられる。

### 第16号土坑 (S K16) (図21)

**概要** B-159グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構(S D X01-c)、B-159のP5(図16)と重複している。いずれよりも本遺構は古い。北西には5 Hが位置している。**構造** 平面形は確認面、底面とも不整な楕円形を呈する。規模は、確認面が62×78cm、深さは16~20cmである。断面形は浅い箱~皿状を呈し、底面には僅かに凹凸が見られる。**土層** 3層に分層された。黒~黒褐色土を基調とし、ローム粒子~ブロックを含んでいる。土層は水平~皿状に堆積していることから、全層とも自然堆積と推定される。**遺物等の出土状態** 大型の炭化材が確認面~覆土の上位に出土している(図21右上)。また、確認面には焼土も微量にみられる。**その他** 焼土と炭化物の出土から、本遺構内において燃焼行為がなされたものと推定される。

### 第17号土坑 (S K17) (図21)

**概要** E-158グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構(S D X01-e)と重複しており、本遺構が古い。**構造** 平面形は確認面、底面とも不整楕円形を呈する。規模は、確認面で110×136cm、底面118×158cm、深さは62~68cmを測る。壁面は内傾し、ややフラスコ状を呈す。底面はほぼ平坦である。**土層** 15層に分層された。黒褐色~暗褐色土を基調とし、ローム・炭化物・粘土等を含んでいる。1層はB-Tmを含むS D X01-eの覆土である。層のラインにやや乱れはあるものの、中央は皿状を呈していることから、大半が自然堆積土であると考えられる。**遺物等の出土状態** 須恵器が覆土より出土している。

第14号土坑 (S K14) (図21)

**概要** E-158グリッド他に位置する。至近距離にS K13、S K17が位置している。重複はなし。

**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ円形を呈する。規模は、確認面で76×86cm、深さは54cmを測る。壁面はやや段がつくものの、ほぼ垂直に立ち上がり、断面形は箱形を呈している。ロームを底面にしており、かなり平坦である。**土層** 10層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒、炭化物粒が含まれている。1～3層は層のラインより、自然堆積層と考えられるが、4層以下層は自然堆積か人為堆積か推定できない。

第13号土坑 (S K13) (図21)

**概要** F-158グリッドに位置し、至近距離にS K14が位置している。重複はなし。**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ円形を呈する。規模は、確認面で80×80cm、深さは32～38cmを測る。壁面は斜めに立ち上がり、断面形は半円形を呈している。ロームを底面にしており、丸みがかっている。

**土層** 8層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒が含まれている。自然堆積か人為堆積かは推定できない。

第15号土坑 (S K15) (図21)

**概要** B-158～159グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構 (S D X01) のdと重複しており、本遺構が古い。北西には5 Hが位置している。**構造** 平面形は確認面、底面とも不整楕円形を呈する。規模は、確認面で84×68cm、深さは28～32cmを測る。壁面はやや段がつくものの、ほぼ斜めに外反しながら立ち上がり、断面形は逆台形を呈している。底面は、ロームを基底にしており、かなり平坦である。**土層** 3層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にロームが含まれている。3層は多量のロームブロックの混入よりみて人為堆積層と考えられるが、1～2層は層のラインより、自然堆積かと思われる。

第2号土坑 (S K02) (図21)

**概要** B-154グリッド他に位置する。至近距離にS K01、S E01が位置している。重複はなし。

**構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ楕円形を呈する。規模は、確認面で94×130cm、深さは16～32cmを測る。壁面は丸みを帯びている部分や垂直に立ち上がるところが認められる。底面は、ロームを基底にしており、やや凹凸があるものの、ほぼ平坦である。**土層** 5層に分層された。色調は、黒褐色・明褐色・褐色・黄褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒が含まれている。3層以下はロームの混入が多い点より、人為堆積層と推定される。

第7号土坑 (S K07) (図21)

**概要** 斜面の落ち際のB-148グリッドに位置する。S D02と重複し、本遺構が古い。**構造** 平面形は確認面がほぼ楕円形、底面は不正楕円形を呈する。規模は、確認面で174×120cm、深さは28～36cmを測る。壁面はやや段がつくものの、ほぼ斜めに外反しながら立ち上がる。底面は、ロームを基底にしており、歪んでいる。

**土層** 3層に分層された。色調は、黒褐色を基調としている。ほとんどの層にローム粒、炭化物粒が含まれている。

#### 第1号土坑（SK01）（図21）

**概要** A・B-153グリッドに位置する。至近距離にSK02が位置している。重複はなし。 **構造** 平面形は確認面、底面ともほぼ楕円形を呈する。規模は、確認面で224×192cm、深さは62～74cmを測る。壁面にはやや段がつくところも認められるがほぼ垂直に立ち上がる。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦である。 **土層** 22層に分層された。大きくは3層に分かれ、7層は褐色のロームが主体の層で、その上層は暗褐色系、下層は黒褐色系の土壌が主体である。7層は、明かな人為堆積層。7層の下層は、自然堆積層、7層の上層は人為堆積層と推定される。堆積層と推定される。

**遺物等の出土状態** 3層の上位確認面付近から完形の耳皿が1点出土している。

#### 第6号土坑（SK06）（図21）

**概要** C-160グリッドに位置する。北に2mのところ5Hが位置している。重複はなし。

**構造** 平面形は確認面、底面とも不整な円形を呈する。規模は、確認面で184×206cm、開口部で144×120cm、底面180×184cm、深さは72～90cmを測る。段面形はフラスコ形であるが、一部あまり内傾しないところも認められる。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦である。 **土層** 9層に分層された。大きくは4層に分かれ、5層は暗褐色で、ローム粒を多量に混入し、6層はロームをあまり含まない黒褐色土層である。焼土が混入する層は多い。混入物よりみて、6層以外は人為堆積土であると推定される。

**遺物等の出土状態** 窯壁片が覆土の中位から出土している。

#### 第11号土坑（SK11）（図21）

**概要** D-158グリッドに位置する。第1号並列溝状遺構（SDX01-e）と重複しており、本遺構が古い。 **構造** 平面形は、確認面が円形、開口部はほぼ方形、底面は不整円形を呈する。規模は、確認面で146×172cm、開口部で128×127cm、底面170×170cm、深さは64～90cmを測る。段面形はフラスコ形であるが、壁面の形状は一定していない。底面は、ロームを基底にしており、やや凹凸がある。

**土層** 12層に分層された。黒色～黒褐色土を基調とし、層のラインは全体的に皿状を呈していることから、全層とも自然堆積層の可能性がある。なお、①、②層はSDX01-eの堆積土である。

**遺物等の出土状態** 焼成粘土塊が覆土の中位より出土している。





## 隠川(12)遺跡

### SK01

- 1 層 黒褐色 10YR4/4 ローム(φ1-2mm)少量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。
- 2 層 暗褐色 10YR2/4 ローム(φ1-3mm)少量、炭化物(φ1-2mm)微量、焼土(φ1mm)極微量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-5mm)中量、焼土(φ1mm)極微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)多量、焼土(φ1mm)極微量、炭化物(φ1mm)極微量混入。
- 5 層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1-15mm)多量、炭化物(φ1-5mm)微量、焼土(φ1-3mm)中量混入。
- 6 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-15mm)中量、炭化物(φ1mm)極微量混入。
- 7 層 褐色 10YR4/6 ローム(φ1-3mm)中量、炭化物(φ1-2mm)微量、黄色土微量混入。
- 8 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-20mm)少量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。
- 9 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-2mm)中量、褐色土微量混入。
- 10 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-3mm)多量混入。
- 11 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)多量混入。
- 12 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-3mm)多量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。
- 13 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-2mm)少量混入。
- 14 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-10mm)多量混入。
- 15 層 黄褐色 10YR5/8 ローム。炭化物(φ1mm)微量混入。
- 16 層 褐色 10YR4/6 ローム。黒色土混入。
- 17 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)多量混入。
- 18 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-3mm)多量混入。
- 19 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)多量混入。
- 20 層 明黄褐色 10YR6/6 ローム。黒褐色土少量混入。
- 21 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2-10mm)多量、粘土(φ-20mm)帯状混入。
- 22 層 黒色 10YR2/2 ローム(φ2-50mm)少量混入。

### SK02

- 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-5mm)中量混入。
- 2 層 明褐色 10YR3/3 ローム(φ1-3mm)中量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-2mm)多量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。
- 4 層 褐色 10YR4/6 ローム。
- 5 層 黄褐色 10YR5/6 ローム(φ1-50mm)多量混入。

### SK04

- 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-55mm)多量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-20mm)多量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-5mm)多量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)微量混入。
- 5 層 黄褐色 10YR5/6 ローム(φ1-20mm)多量混入。
- 6 層 黄褐色 10YR5/6 ローム。
- 7 層 明黄褐色 10YR6/6 ローム。
- 8 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)多量混入。

### SK06

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-4mm)少量、ローム粒微量、炭化物粒極微量、焼土粒極少量混入。
- 2 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ1-2mm)微量、ローム粒微量、炭化物(φ2-3mm)微量、灰白色土粒、極少量、焼土粒極少量混入。しりり無。
- 3 層 黄褐色 10YR5/8 Vローム。黒褐色土少量、小礫極微量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ2-3mm)微量、ローム粒少量、炭化物(φ2-5mm)微量、焼土(φ2-10mm)少量、焼土粒微量、灰黄褐色土(φ10mm)1粒混入。
- 5 層 暗褐色 10YR3/4 V・V混合ローム(φ2-10mm)中量、ローム粒多量、炭化物(φ2-8mm)少量、炭化物粒微量、焼土(φ2-8mm)少量、灰黄褐色土、少量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-3mm)極少量、ローム粒少量、炭化物(φ2-3mm)微量、焼土(φ20mm)1粒混入。
- 7 層 黒褐色 10YR2/2 V・V混合ローム(φ2-5mm)少量、ローム粒少量、炭化物(φ1-3mm)微量、焼土(φ3-30mm)中量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-10mm)少量、ローム粒中量、炭化物粒微量、焼土(φ1-3mm)極少量混入。
- 9 層 黒褐色 10YR2/2 V・V混合ローム(φ5-15mm)微量、炭化物粒極微量混入。

### SK07

- 1a 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-15mm)微量、炭化物(φ5mm)極少量混入。
- 1b 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-15mm)微量、炭化物(φ3-5mm)極少量混入。
- 1c 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-8mm)微量、炭化物(φ1mm)極微量混入。
- 2a 層 黒褐色 10YR2/4 ローム(φ1-40mm)少量、炭化物(φ1mm)極微量混入。粘性強く、粘土(φ1-5mm)少量混入。
- 2b 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-60mm)少量、炭化物(φ1mm)極微量混入。粘土(φ1-3mm)微量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-30mm)少量混入。

### SK11

- ① 層 黒色 10YR1/1 ローム(φ1mm)極微量、B-Tm全体に微量混入。
- ② 層 黒褐色 10YR2/2 B-Tm多量、炭化物(φ1-10mm)極微量、焼土(φ2mm)極微量、ローム(φ2-7mm)極微量混入。
- 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1mm)極微量、炭化物(φ1-8mm)極微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)微量、焼土(φ2-8mm)極少量、炭化物(φ1-4mm)極少量混入。
- 3 層 黒色 10YR1/1 ローム(φ1-5mm)微量、焼土(φ2-3mm)極微量、炭化物(φ1-10mm)少量混入。
- 4 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-2mm)少量、炭化物(φ1-10mm)極少量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-7mm)微量、炭化物(φ1-8mm)極微量混入。
- 6 層 黒色 10YR1/1 ローム(φ1-8mm)微量、炭化物(φ2mm)極微量混入。
- 7 層 褐色 10YR4/6 ローム。黒色土少量混入。しりり無。
- 8 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1mm)少量混入。
- 9 層 暗褐色 10YR3/1 ローム(φ1-25mm)中量、炭化物(φ1-10mm)極少量混入。
- 10 層 黒色 10YR1/1 ローム(φ1-2mm)微量、炭化物(φ2-5mm)極微量混入。
- 11 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-10mm)少量、炭化物(φ1-5mm)極微量混入。
- 12 層 暗褐色 10YR3/1 ローム(φ1-20mm)微量混入。

### SK12

- 1a 層 黒色 10YR1/1 炭化物(φ1-3mm)少量、ローム(φ1-3mm)中量、焼土(φ1-2mm)極微量混入。
- 2a 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ2-14mm)少量、ローム粒中量、炭化物(φ1-2mm)極少量混入。
- 2b 層 黒色 10YR1/1 Vローム(φ2-3mm)少量、ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
- 2c 層 黒褐色 10YR2/2 炭化物(φ1-3mm)微量、ローム(φ1-3mm)少量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)微量、焼土粒極微量、炭化物粒極微量混入。しりり無。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-10mm)少量、ローム粒少量混入。しりり無。
- 5 層 黒色 10YR2/1 Vローム(φ2-5mm)微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-10mm)微量、ローム粒少量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 7 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-10mm)少量、ローム粒少量、炭化物(φ1-2mm)極微量混入。

### SK13

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。
- 2a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
- 2b 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR3/1 Vローム(φ8mm)極微量、炭化物(φ2-3mm)極微量、炭化物(φ5mm)1ブロック混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-3mm)微量、炭化物(φ10mm)1ブロック、炭化物粒極微量混入。
- 5 層 暗褐色 10YR3/4 Vロームと黒褐色土の混合土。Vローム(φ2-3mm)微量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。しりり無。
- 7 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-5mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-3mm)微量、炭化物粒極微量混入。

### SK14

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-3mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量混入。しりり無。
- 4 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-10mm)微量、Vローム(φ2-5mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-7mm)極少量、Vローム(φ2-3mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
- 6a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-5mm)微量、Vローム(φ1-2mm)極微量、炭化物(φ3mm)、炭化物粒極微量混入。
- 6b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)極微量混入。
- 7 層 褐色 10YR4/6 Vローム(φ2-15mm)少量、Vローム(φ2-8mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-3mm)微量混入。
- 9 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-10mm)極少量、Vローム(φ2-3mm)微量、炭化物粒極微量混入。
- 10 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ2-5mm)微量混入。しりり無。

### SK15

- 1a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-3mm)極微量、炭化物粒極微量混入。
- 1b 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2-7mm)微量、ローム粒極微量、炭化物粒極微量混入。
- 1c 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、炭化物(φ5mm)1ブロック、炭化物粒極微量混入。しりり無。
- 2 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2mm)極微量混入。
- 3 層 暗褐色 10YR3/4 VロームをベースとしたVロームと黒褐色土の混合土。Vローム(φ2-25mm)多量混入。

### SK16

- 1 層 黒色 10YR1/1 ローム(φ1-2mm)極微量混入。
- 2a 層 黒色 10YR1/1 ローム(φ1mm)極微量混入。
- 2b 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-5mm)微量混入。
- 3a 層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ5-30mm)混入。
- 3b 層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ-7mm)混入。

### SK17

- 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-8mm)微量、炭化物(φ2-4mm)極微量、B-Tm少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-15mm)微量、ローム(φ30mm)、炭化物(φ3-10mm)極少量混入。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-20mm)微量混入。しりり無。
- 4 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2-10mm)微量、炭化物(φ3-8mm)極微量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-25mm)少量、炭化物(φ3-7mm)極微量混入。
- 6a 層 暗褐色 10YR3/1 ローム(φ1-20mm)少量、炭化物(φ3mm)極微量混入。
- 6b 層 暗褐色 10YR3/1 ローム(φ1-15mm)少量、炭化物(φ2mm)極微量混入。
- 7 層 暗褐色 10YR3/1 ローム(φ1-15mm)少量、粘土(φ30mm)1ブロック混入。
- 8a 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-5mm)極少量、炭化物(φ2mm)極微量混入。
- 8b 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-10mm)微量混入。
- 9 層 黄褐色 10YR5/5 黒褐色土微量混入。しりり無。
- 10 層 黒褐色 10YR2/1 ローム(φ1-5mm)微量混入。
- 11 層 黒褐色 10YR2/1 ローム(φ3-20mm)少量混入。
- 12 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-35mm)少量、粘土(φ50mm)1ブロック混入。
- 13 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-3mm)微量混入。しりり無。
- 14 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-5mm)微量混入。しりり無。
- 15 層 黄褐色 10YR5/6 ローム。暗褐色土微量混入。

## 第8号土坑 (SK08) (図22)

**概要** F-159グリッド他に位置している。第1号並列溝状遺構(SDX01-b)と重複しており、本遺構が古い。南西に2mほどのところには4Hが位置している。

**構造** 平面形、断面形ともに非常に複雑な形状を呈している。平面形は不整な隅丸三角形状で、断面形は部位によって様々な形状を呈し、全く一定していないが、フラスコの的に内傾する部分が多い。

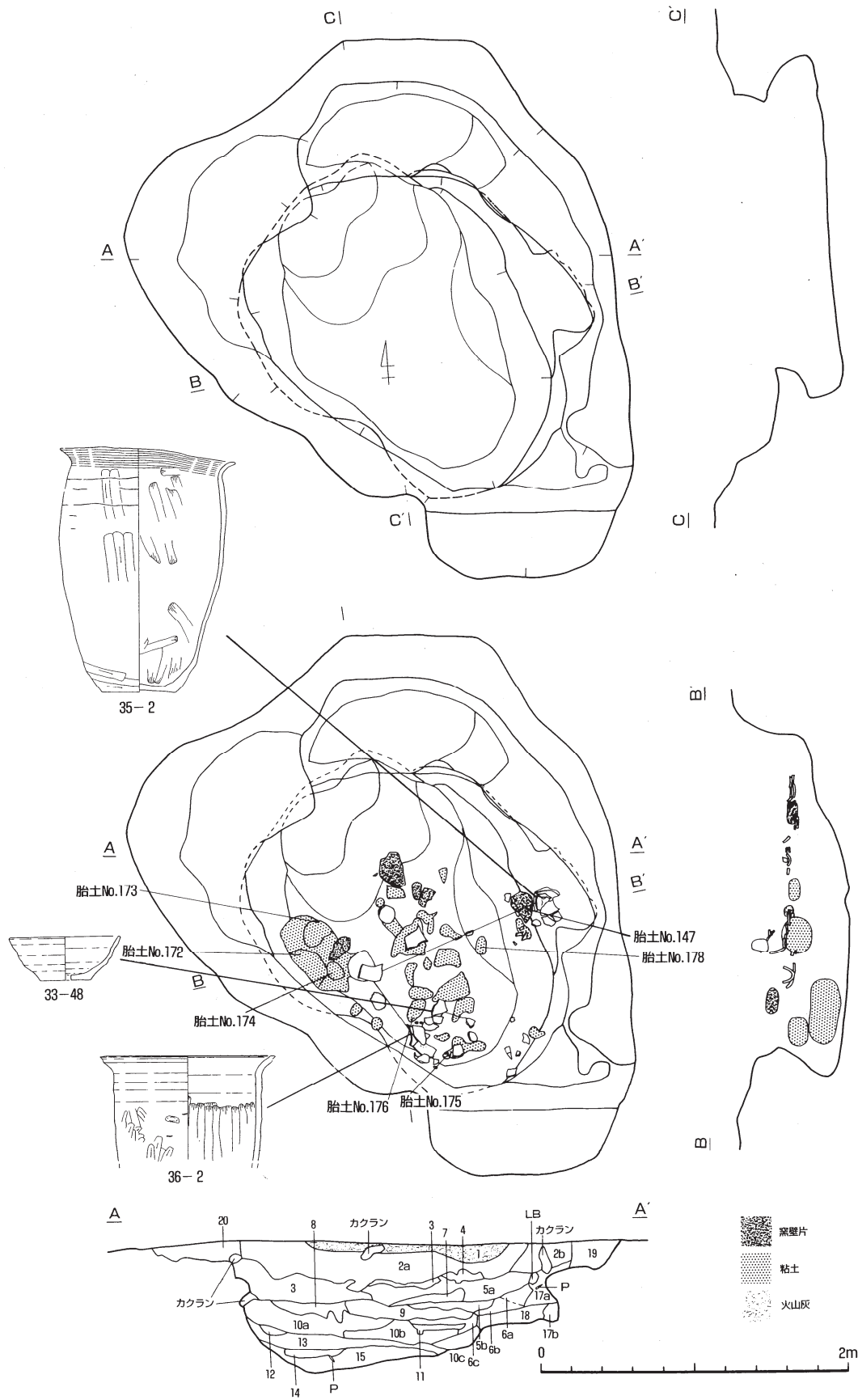


図22 第8号土坑



## 隠川(12)遺跡

SK08

1 層	黒褐色	10YR2/2	ローム粒微量、焼土粒極微量、炭化物(φ1-2mm)微量、灰白色土粒、B-Tm極微量混入。	10a 層	黒褐色	10YR2/2	Vaローム(φ2-3mm)微量、炭化物(φ2-5mm)少量混入。
2a 層	黒褐色	10YR2/2	V・Vaローム(φ2-20mm)少量、ローム粒中量、焼土(φ2mm)極少量、焼土粒極微量、炭化物(φ2-10mm)少量、炭化物粒微量、灰白色粒極微量混入。	10b 層	黒褐色	10YR2/2	Vローム(φ2-3mm)極少量、ローム粒少量、炭化物粒極少量混入。粘性有。
2b 層	黒褐色	10YR2/2	Vローム(φ2-15mm)少量、ローム粒微量、炭化物粒極少量混入。	10c 層	黒褐色	10YR2/2	ローム粒少量、焼土粒少量、炭化物(φ2-3mm)微量、炭化物粒極少量混入。
3 層	黒褐色	10YR2/3	V・Vaローム(φ3-40mm)中量、ローム粒少量、焼土粒極微量、炭化物粒極少量混入。	11 層	暗褐色	10YR3/3	Vaローム(φ3-6mm)微量、炭化物粒極微量、黒褐色土、少量混入。しまり無。
4 層	暗褐色	10YR3/3	Vaローム(φ20-40mm)少量、Vローム(φ1-3mm)中量、黒褐色土微量、炭化物粒極微量混入。	12 層	黒色	10YR2/1	Vローム(φ2-10mm)極少量、ローム粒少量、しまり無。
5a 層	黒褐色	10YR2/2	ローム粒少量、炭化物(φ2-3mm)微量、焼土粒極微量。	13 層	明黄褐色	10YR7/6	Vaローム主体。Vローム(φ3-10mm)少量、炭化物粒極微量、粘土(φ25mm)1粒、黒褐色土少量混入。粘土ブロック内部は酸化している。しまり無。
5b 層	黒褐色	10YR2/2	ローム粒少量混入。	14 層	黒褐色	10YR2/2	ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。しまり無。
6a 層	黒色	10YR2/1	ローム粒微量、焼土粒、炭化物粒極微量混入。	15 層	黒褐色	10YR2/2	V・Va混合ローム(φ2-40mm)多量、ローム粒少量、焼土(φ2mm)極微量、炭化物(φ2-3mm)微量、炭化物粒微量混入。
6b 層	黒色	10YR2/1	Vローム(φ2-3mm)極微量、ローム粒微量混入。	16 層	黒褐色	10YR2/3	Vローム(φ1-4mm)微量、ローム粒中量混入。
6c 層	黒色	10YR2/1	Vaローム(φ2-18mm)少量、ローム粒微量、炭化物(φ2-3mm)極微量混入。	17a 層	黒色	10YR2/1	Vaローム(φ2-10mm)微量、ローム粒多量混入。しまり無。
7 層	黒褐色	10YR3/1	Vaローム(φ2-6mm)極微量、焼土(φ2-3mm)少量、炭化物(φ2-9mm)微量、灰白色粒少量混入。	17b 層	黒色	10YR2/1	Vaローム(φ2-3mm)微量、ローム粒多量混入。しまり無。
8 層	黒褐色	10YR2/3	Vaローム(φ2-35mm)中量、ローム粒中量、炭化物粒少量、粘土(φ40mm)1個混入。	18 層	黒色	10YR2/1	V・Va混合ローム(φ2-15mm)中量、炭化物粒微量、ローム粒中量混入。しまり無。
9 層	明黄褐色	10YR7/6	Vaローム主体。Vローム(φ3-22mm)少量、灰白色土粒極微量、黒褐色土少量、炭化物粒極少量混入。	19 層	黒褐色	10YR2/2	Vローム(φ2-20mm)極微量、ローム粒極少量混入。
				20 層	黒褐色	10YR2/3	Vaローム(φ1-5mm)少量、炭化物粒極微量混入。

底面は、粘土層を基底にしており、やや傾斜、凹凸がみられる。壁面の下位は、幾重もの小土坑が重複しているような形状を呈しており、これは長楕円形の土坑の壁面の下位を数回にわたって掘り広げた結果であろうと考えられる。具体的には、楕円形状の土坑を粘土層まで垂直方向に掘り下げた後に、下位の粘土のみを採掘するように水平方向に掘り進めているものと考えられる。規模は、計測箇所によって随分異なるが、任意箇所での計測値では確認面378×324cm、深さは48～88cmを測る。

**土層** 20層に分層された。黒色～黒褐色土を基調とし、層のラインは全体的に水平～皿状を呈していることから、大半の層は自然堆積層の可能性が高いが、9層と13層はロームを主体にした明黄褐色土であることから、これらの層のみは人為堆積土であると考えられる。なお、1層はB-Tmを含むSDX01-bの堆積土である。

**遺物等の出土状態** 9層を中心に土師器片、須恵器片、窯壁片、粘土塊が多量に出土している。これらの遺物は、平面的、垂直的な分布状況より、9層の黄褐色土と同時に、1回か2回にわたって廃棄されたものである可能性がある。

**その他** 上記のような、不規則な掘り込みの状況より見て、本遺構は粘土採掘坑として利用されていた可能性が高いと思われる。また、多くの窯壁片の出土から、近くにある4Hとの関連が強いと思われる(註)。

(註) 4Hの左壁から本遺構の南西壁までの距離は約2mを測る。この距離は、隠川(4)・(12)遺跡における住居跡と外周溝の間の平均的な距離に近似している。

## 第9号土坑(SK09)(図23)

**概要** F-154グリッド他に位置する。第2号並列溝状遺構(SDX02-9)と重複しており、本遺構が古い。至近距離にSK20が位置している。

**構造** 平面形は確認面が楕円形、底面が円形を呈する。規模は、確認面で328×224cm、深さは78cmを測る。壁面は、やや歪んでいるものの、丸みを帯びながら垂直に立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、やや皿状を呈す。

**土層** 40層に分層された。色調は、暗褐色～黒褐色を基調としている。5層より下位の層はローム粒が目立つ非常に薄い層で、幾層にも皿状に堆積している。2c、3層以上の層は、自然堆積層がほとんどであると推定される。

**遺物等の出土状態** 窯壁片が覆土の中位より出土している。

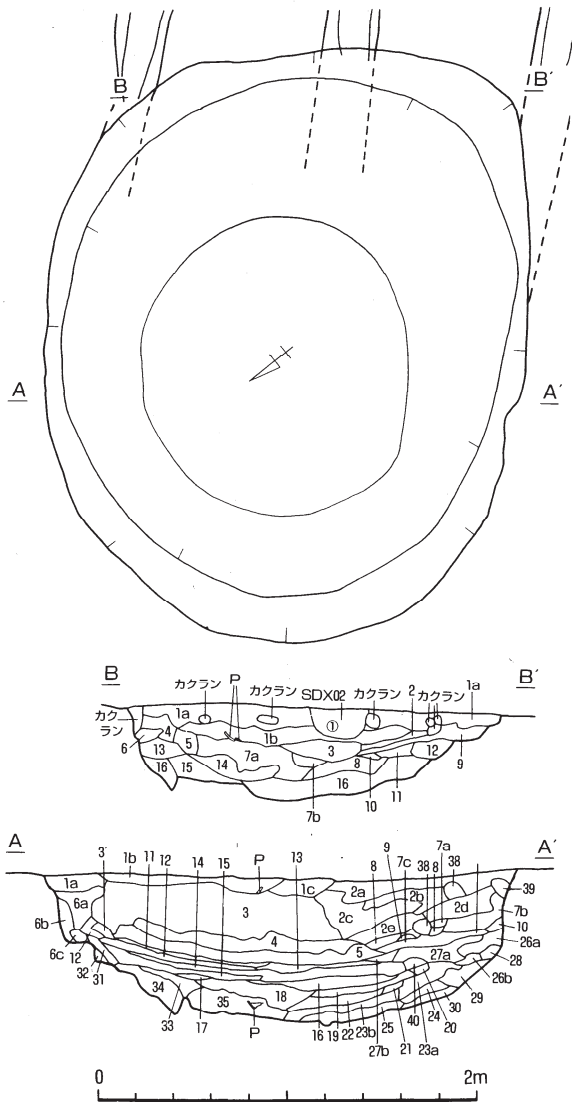


図23 第9号土坑

- SK09
- 1a 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2~3mm) 微量、ローム粒微量混入。
  - 1b 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒極微量、炭化物(φ2mm) 極微量混入。
  - 1c 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2~3mm) 極微量、ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
  - 2a 層 黒褐色 10YR3/4 Vローム(φ2~8mm) 微量、Vローム(φ2~5mm) 極微量、炭化物(φ2~3mm) 極微量混入。
  - 2b 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒微量、炭化物(φ2~3mm) 微量混入。
  - 2c 層 暗褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~5mm) 微量、Vローム(φ1~3mm) 極微量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
  - 2d 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm) 微量、Vローム(φ2~3mm) 極微量混入。
  - 2e 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~5mm) 微量、Vローム(φ1~2mm) 極微量、炭化物粒極微量混入。

- 3 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~10mm) 微量、炭化物(φ1~5mm) 微量混入。
- 3' 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、炭化物粒極微量混入。
- 4 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~8mm) 極少量、ローム粒極少量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
- 5 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~5mm) 微量、ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
- 6a 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~7mm) 微量、ローム粒極少量混入。
- 6b 層 黒褐色 10YR2/3 シルトとVロームの混合土少量混入。しりり無。
- 6c 層 黒褐色 10YR2/2 Vロームとシルトの混合土、Vローム(φ2~5mm) 少量混入。しりり無。
- 7a 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒微量混入。
- 7b 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~5mm) 微量、Vローム(φ2~3mm) 極微量、炭化物粒極微量混入。
- 7c 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~5mm) 微量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR3/4 Vローム(φ2~3mmとφ15mm) 少量、ローム粒極少量、炭化物(φ3mm) 1ブロック混入。
- 9 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量混入。
- 10 層 褐色 10YR4/6 V・Vロームの混合土。Vローム(φ1~3mm) 極少量混入。
- 11 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒微量、Vローム(φ1~2mm) 微量混入。
- 12 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2~3mm) 極微量、ローム粒微量、炭化物(φ2mm) 2ブロック混入。
- 13 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~15mm) 少量、ローム粒極少量混入。
- 14 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~2mm) 微量、Vローム(φ1~5mm) 少量、ローム粒中量、炭化物(φ2~3mm) 微量混入。
- 15 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 微量、Vローム(φ1~5mm) 微量、炭化物粒極微量、ローム粒微量混入。
- 16 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1~2mm) 極微量、Vローム(φ1~8mm) 中量、ローム粒中量、炭化物粒微量、粘土質土微量混入。
- 17 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm) 極少量、ローム粒極少量、炭化物粒極微量混入。
- 18 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~3mm) 微量、Vローム(φ2~5mm) 少量、ローム粒少量、粘土質土(橙色土) 微量、炭化物粒微量混入。
- 19 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm) 微量、Vローム(φ2~5mm) 少量、炭化物(φ2~5mm) 微量混入。
- 20 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ3mm) 1ブロック、ローム粒微量混入。
- 21 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ3~5mm) 微量、ローム粒中量、粘土質土(橙色土) 微量混入。
- 22 層 褐色 10YR4/6 Vローム。Vローム(φ2~5mm) 微量、粘土質土(φ2~20mm) 極少量、炭化物粒微量混入。
- 23a 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~5mm) 極少量、Vローム(φ1~2mm) 極微量、炭化物粒極微量混入。
- 23b 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm) 極少量、Vローム(φ1~3mm) 微量、炭化物粒極微量混入。
- 24 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム。粘土質土(橙色土) 微量混入。
- 25 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2~3mm) 微量、Vローム(φ1~3mm) 微量、炭化物(φ1~3mm) 微量、粘土質土(φ3~5mm) 極微量混入。
- 26a 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ1~2mm) 微量、ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。しりり無。
- 26b 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2~3mm) 微量、ローム粒微量、炭化物粒極微量混入。
- 27a 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1~3mm) 極少量、Vローム(φ1~3mm) 微量、炭化物(φ1~2mm) 極微量混入。
- 27b 層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ3~5mm) 微量、ローム粒微量、炭化物粒微量、Vローム(φ5~7mm) 微量混入。
- 28 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ1~5mm) 極少量、Vローム(φ1~5mm) 微量混入。しりり無。
- 29 層 褐色 10YR4/6 VロームとVロームの混合土。
- 30 層 褐色 7.5YR6/8 粘土質土。
- 31 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ2~8mm) 極少量(下部に集中)、ローム粒微量混入。
- 32 層 褐色 10YR4/6 Vローム少量混入。
- 33 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~2mm) 微量、炭化物粒微量混入。
- 34 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~3mm) 微量、Vローム(φ1~2mm) 微量、炭化物粒微量混入。
- 35 層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1~8mm) 微量、炭化物(φ1~2mm) 極微量混入。
- 38 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒微量、炭化物(φ2~3mm) 極微量混入。しりり無。
- 39 層 褐色 10YR4/6 Vローム(φ1~2mm) 極微量、しりり無。
- 40 層 暗褐色 10YR3/4 Vローム(φ2~5mm) 微量混入。炭化物粒極微量混入。

SK09 (B-B')

- 1a 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ2~4mm) 微量、炭化物(φ1~2mm) 微量、焼土粒微量混入。
- 1b 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~3mm) 微量、炭化物(φ1~2mm) 微量、焼土粒極少量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~4mm) 少量、炭化物粒微量、焼土粒微量混入。しりり無。
- 3 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒少量、炭化物粒微量混入。
- 4 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒多量、炭化物粒極微量混入。
- 5 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒微量、炭化物(φ5mm) 1粒混入。
- 6 層 明黄褐色 10YR6/8 ローム。暗褐色土少量、炭化物粒極微量混入。
- 7a 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1~3mm) 少量、炭化物(φ1~2mm) 微量混入。
- 7b 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~3mm) 少量、炭化物粒極微量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2~10mm) 微量、炭化物粒極少量混入。
- 9 層 明黄褐色 10YR6/8 ローム。暗褐色土少量、炭化物粒微量混入。
- 10 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒少量、粘土(φ50mm) 1粒混入。しりり無。
- 11 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量、炭化物粒微量混入。
- 12 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒多量、炭化物(φ5mm) 1粒、炭化物粒微量混入。
- 13 層 褐色 10YR4/4 ローム粒中量、炭化物粒微量混入。しりり無。
- 14 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2~15mm) 中量、炭化物粒微量混入。しりり無。
- 15 層 明黄褐色 10YR6/6 ローム。暗褐色土微量、炭化物粒極少量混入。
- 16 層 明黄褐色 10YR6/4 ローム。暗褐色土少量、黒褐色土微量、炭化物粒極微量混入。しりり無。
- ① 層 黒褐色 10YR3/1 ローム(φ2~40mm) 少量、炭化物(φ2~3mm) 微量混入。

第10号土坑 (SK10) (図24)

**概要** E-160グリッドに位置する。南側約3mのところには4Hが位置している。重複はない。

**構造** 平面形は、確認面が円形、底面が不整円形を呈する。底面の西側はやや段状に高まった部分がある。規模は、確認面で160×177cm、深さは68cmを測る。壁面の東側は、ほぼ垂直に立ち上がっているものの、横方向に掘り窪められている。底面は、ロームを基底にしており、低い部分は平坦である。

**土層** 13層に分層された。色調は、大半の層が黒褐色を基調としているが、8、9、11、12、13層

は褐色～黄褐色を呈すローム主体の層である。8層の上面は水平なラインを形成している。混入物や層のライン等よりみて、6、8、11層以下の層は、掘り込み直後の壁面から崩落したロームブロックや東壁を横方向に掘り進めた際にこぼれた土が堆積し、踏み固められたような状況がうかがえる。また、6、8、11層より上層は自然堆積層がほとんどであると考えられる。

**遺物等の出土状態** 4a・2d層から主体的に窯壁片や土師器片、須恵器片、礫等が出土している(註)。

(註)平面図と断面図に示した遺物の微細図は、北側から出土したもののみを示している。

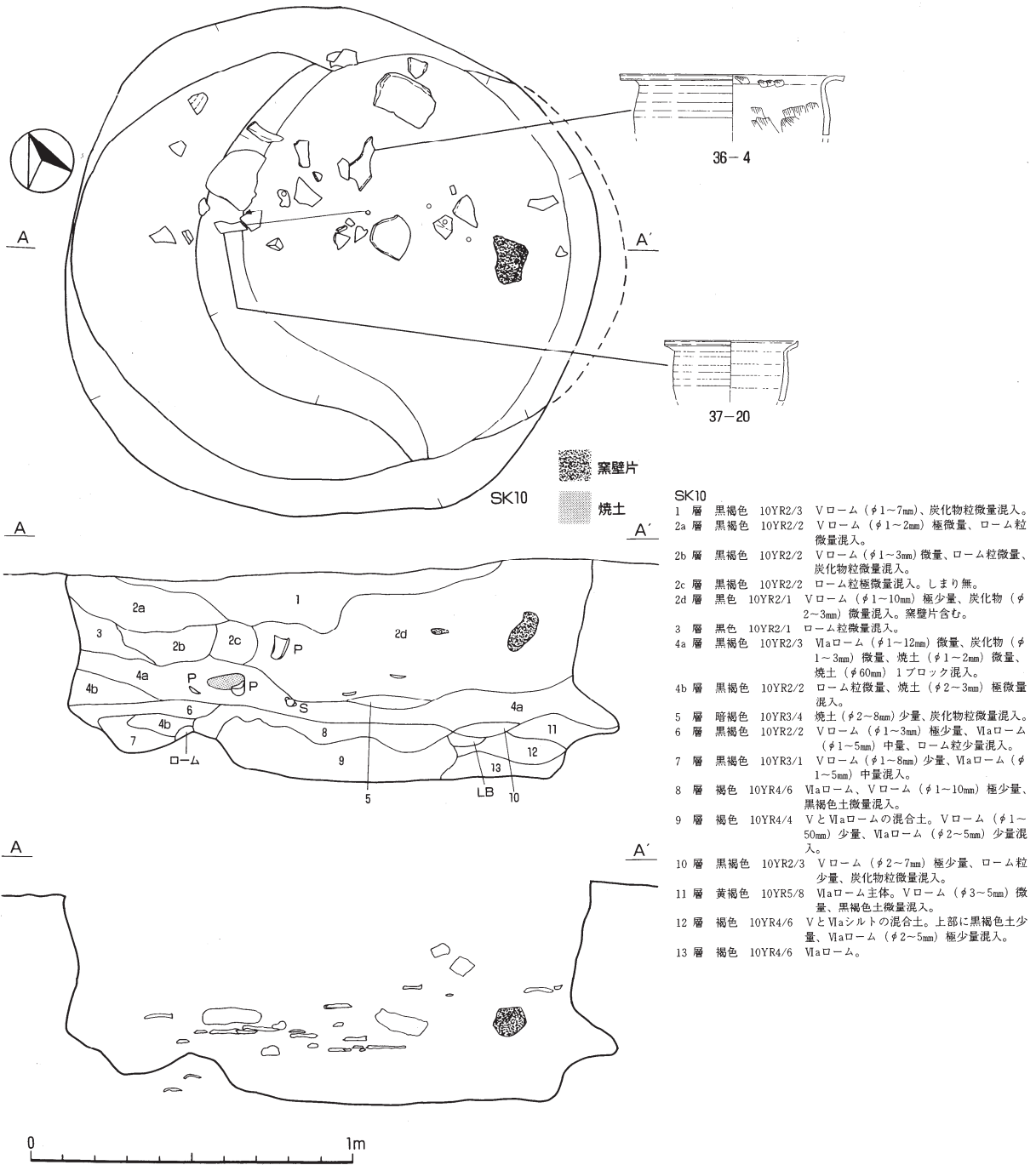


図24 第10号土坑



第18号土坑 (SK18) (図25)

概要 E-151・152グリッド他に位置する。至近距離にSK19、西側2mのところには2Hが位置している。重複はない。

構造 平面形は、確認面、底面ともやや歪む円形を呈する。規模は、確認面で123×115cm、深さは63cmを測る。壁面は、やや歪んでいるが、大体垂直に立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、やや中央が高まるものの、ほぼ平坦である。

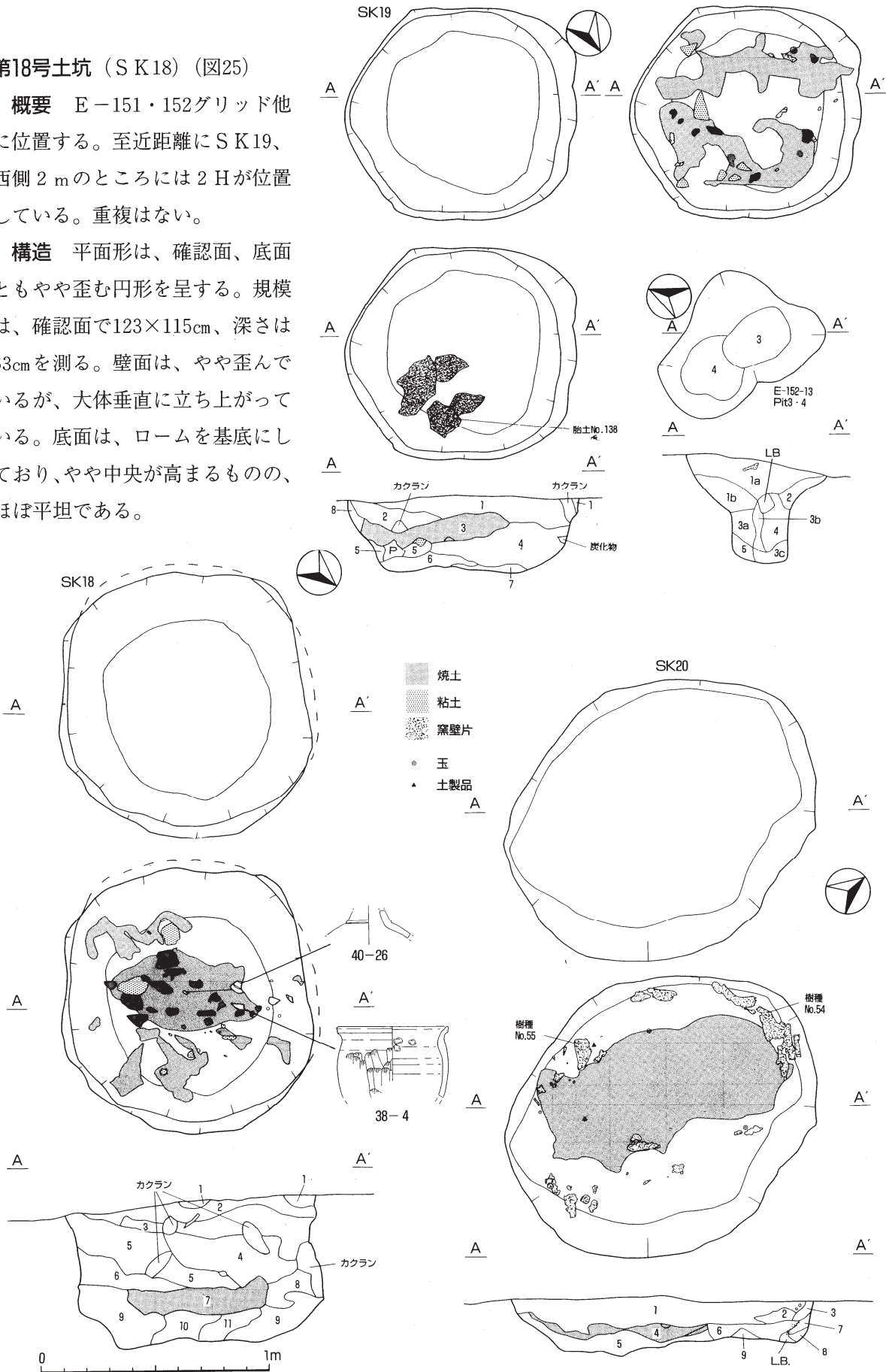


図25 第18・19・20号土坑ピット

## 隠川(12)遺跡

### SK18

1層	黒褐色 10YR2/2	Vローム(φ1~3mm)少量混入。
2層	黒褐色 10YR2/3	ローム粒極微量、焼土(φ20mm)1粒、焼土粒微量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
3層	黒褐色 10YR2/2	Vローム(φ2~5mm)微量、ローム粒少量、焼土(φ2~6mm)極微量、炭化物粒微量混入。
4層	黒褐色 10YR2/3	Vローム(φ2~15mm)中量、ローム粒中量、焼土(φ2~6mm)少量、にぶい赤褐色粘土(φ20mm)1粒、炭化物粒微量混入。
5層	黒褐色 10YR2/2	Vローム(φ1~3mm)少量、ローム粒少量、焼土粒極少量、炭化物粒微量、小礫(φ1mm)極微量混入。
6層	暗褐色 10YR3/3	Vaローム(φ1~4mm)少量、ローム粒中量、炭化物粒極微量混入。しまり無。
7層	赤褐色 10YR4/6	にぶい赤褐色土中量、明黄褐色土少量、炭化物粒少量、暗褐色土微量混入。
8層	暗褐色 10YR3/4	ローム粒少量、焼土粒微量、炭化物粒少量混入。しまり無。
9層	黒褐色 10YR2/2	Vローム(φ2~4mm)少量、ローム粒中量、焼土粒微量混入。
10層	黒褐色 10YR2/2	Vaローム(φ1~6mm)少量、ローム粒中量、焼土粒微量、にぶい赤褐色土粘土(φ10mm)1粒混入。
11層	暗褐色 10YR3/3	Vaローム(φ2~5mm)少量、ローム粒少量、焼土(φ1~3mm)微量、炭化物粒極少量混入。

### SK19

1層	黒褐色 10YR2/2	Vローム(φ3~10mm)極少量、ローム粒微量、粘土粒極少量混入。
2層	黒褐色 10YR2/3	Vローム(φ2~14mm)少量、ローム粒中量、焼土(φ10mm)1粒、焼土粒微量、炭化物(φ1~2mm)極微量混入。
3層	褐色 7.5YR4/4	Vローム(φ2~15mm)中量、ローム粒少量、焼土(φ1~10mm)多量、焼土粒少量、にぶい赤褐色土粘土(φ20mm)極微量、炭化物(φ1~2mm)極少量混入。
4層	暗褐色 7.5YR3/4	Vローム(φ2~20mm)少量、ローム粒中量、焼土(φ1~30mm)中量、炭化物(φ2~11mm)少量、赤褐色粘土(φ30mm)1粒混入。
5層	褐色 7.5YR4/4	Vローム(φ2~3mm)極微量、赤褐色粘土(φ50mm)1個、焼土粒微量、炭化物粒微量混入。
6層	褐色 7.5YR4/4	ローム粒中量、焼土粒少量、焼土(φ10mm)1粒、炭化物(φ2~15mm)少量混入。しまり無。
7層	黄褐色 10YR5/8	Vローム(φ1~20mm)多量、暗褐色土少量、炭化物粒極微量混入。
8層	黒褐色 10YR2/2	Vローム(φ1~3mm)微量、ローム粒微量混入。

### SK20

1層	暗褐色 10YR3/4	焼土(φ2~15mm)微量、ローム(φ1~10mm)微量、炭化物(φ1~5mm)極少量混入。
2層	黒褐色 10YR2/2	ローム(φ1mm)微量、炭化物(φ2~10mm)多量混入。
3層	褐色 10YR4/6	ローム(φ1~5mm)中量混入。
4層	黄褐色 10YR5/8	焼土(φ1mm)多量混入。
5層	黄褐色 10YR5/6	ローム(φ1~8mm)多量、焼土(φ2mm)微量混入。
6層	褐色 10YR4/6	ローム(φ1~10mm)多量、暗褐色土全体混入。
7層	褐色 10YR4/4	ローム(φ1~5mm)少量混入。
8層	褐色 10YR4/6	ローム(φ1~8mm)中量混入。
9層	黄褐色 10YR5/6	ローム(φ1~10mm)中量混入。上位焼けている。

### E-152-13Dit3・4

1a層	暗褐色 10YR3/4	Vローム(φ1~5mm)微量、Vaローム(φ2~3mm)極微量、炭化物(φ1~2mm)微量、焼土(φ1~7mm)極少量混入。
1b層	暗褐色 10YR3/3	Vローム(φ1~2mm)極微量、Vaローム(φ1~12mm)極少量、ローム粒微量、炭化物(φ1~10mm)極少量、焼土(φ1~2mm)微量混入。
2層	褐色 10YR4/6	Vローム(φ1~3mm)微量、Vaローム(φ1~5mm)少量、VとVaロームの混合土中量混入。
3a層	褐色 10YR4/4	Vaローム(φ1~3mm)微量、VとVaロームの混合土主体。しまり無。
3b層	褐色 10YR4/4	VとVaロームの混合土主体。Vaローム(φ2~5mm)極少量混入。しまり無。
3c層	にぶい黄褐色 10YR5/4	VとVaロームの混合土。しまり無。
4層	褐色 10YR4/4	ローム粒少量混入。しまり無。
5層	黄褐色 10YR5/6	Vaローム。

**土層** 11層に分層された。色調は、全体的に黒褐色～暗褐色を基調としており、ローム粒、焼土等が混入している。7層は赤褐色を呈する焼土ブロックを多く含む層である(註)。混入物等よりみて、ほとんどの層が人為堆積層であると考えられる。(註)焼土の網掛け範囲は、焼土層ではなく、焼土ブロックが目立って混入している層の範囲である。 **遺物等の出土状態** 7、8、9層の上層から土師器片、生焼けの土器等が出土している。生焼けの土器は7層のほぼ上面に出土している。

## 第19号土坑 (SK19) (図25)

**概要** E-151グリッドに位置する。至近距離にSK19が位置している。重複はない。 **構造** 平面形は、確認面、底面とも不整な円形を呈する。規模は、確認面で103×108cm、深さは30~33cmを測る。壁面は、やや歪んでいるが、ほぼ斜めに立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦である。 **土層** 8層に分層された。色調は、黒褐色、暗褐色、褐色、黄褐色と様々みられる。1、2、8層の下層にはローム、焼土、炭化物、粘土等の多種の混入物がみられる。特に3、5層には焼土粒~ブロックが目立って混入している(註)。混入物等よりみて、1層を除いたほとんどの層は人為堆積層である可能性が考えられる。(註)焼土の網掛け範囲は、焼土層ではなく、焼土ブロックが目立って混入している層の範囲である。 **遺物等の出土状態** 土師器片、須恵器片が覆土の3、4層を中心に出土している。ほぼ底面には窯壁片がかたまって3点出土している。

## 第20号土坑 (SK20) (図25)

**概要** F-153グリッドに位置する。至近距離にSK09が位置している。重複はない。 **構造** 平面形は、確認面、底面とも不整な楕円形を呈する。規模は、確認面で141×118、深さは20~28cmを測る。壁面の形状は部位によって様々みられるが、斜め~垂直に立ち上がっている。底面は、ロームを基底にしており、ほぼ平坦であるものの、南側がやや落ち込んでいる。 **土層** 9層に分層された。色調は、褐色~黄褐色と様々みられる。4層は焼土粒を多量に含む層で、2層は炭化物を多量に混入する層である(註)。混入物や層のライン等よりみて、1層は自然堆積土であると考えられる。 **遺物等の出土状態** 炭化材が多数出土している。(註)焼土の網掛け範囲は、焼土粒を多量に含む層の範囲である。

(木村 高)

### 3 井戸跡

1 基のみ検出された。

#### 第1号井戸跡 (SE01) (図26~27)

**概要** C-154グリッド他に検出されている。平坦地に位置しており、付近には2H、3H、SK02がある。重複はなし。

**構造** 開口部が楕円形、底面が円形~楕円形を呈する、土坑が上部において重複するような形状を呈すもので、ロクロピットの形状にも類似している。上位の楕円形土坑状の部分（上位と呼称）と下位の筒状の部分（下位と呼称）とに分けて述べる。上位の形状は、確認面が楕円形、底面が円形~楕円形を呈すもので、底面の中央に下位が掘り込まれる。上位の規模は、確認面で180×216cm、深さ64cmを測る。壁面はやや歪みつつも外反しながら立ち上がり、底面はほぼ平坦につくられている。下位の形状は、開口部、底面とも円形を呈すが、底面は開口部の直下に位置しておらず、西方にずれている。下位の規模は、開口部で78×74cm、底面73×70cm、上位の底面からの深さ216cmを測る。確認面からの深さは280cmを測る。壁面は微妙に内傾しつつも、垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦につくられている。

**土層** 土層断面図は、湧水と安全確保のため上半しか作成できなかった。上半部では35層

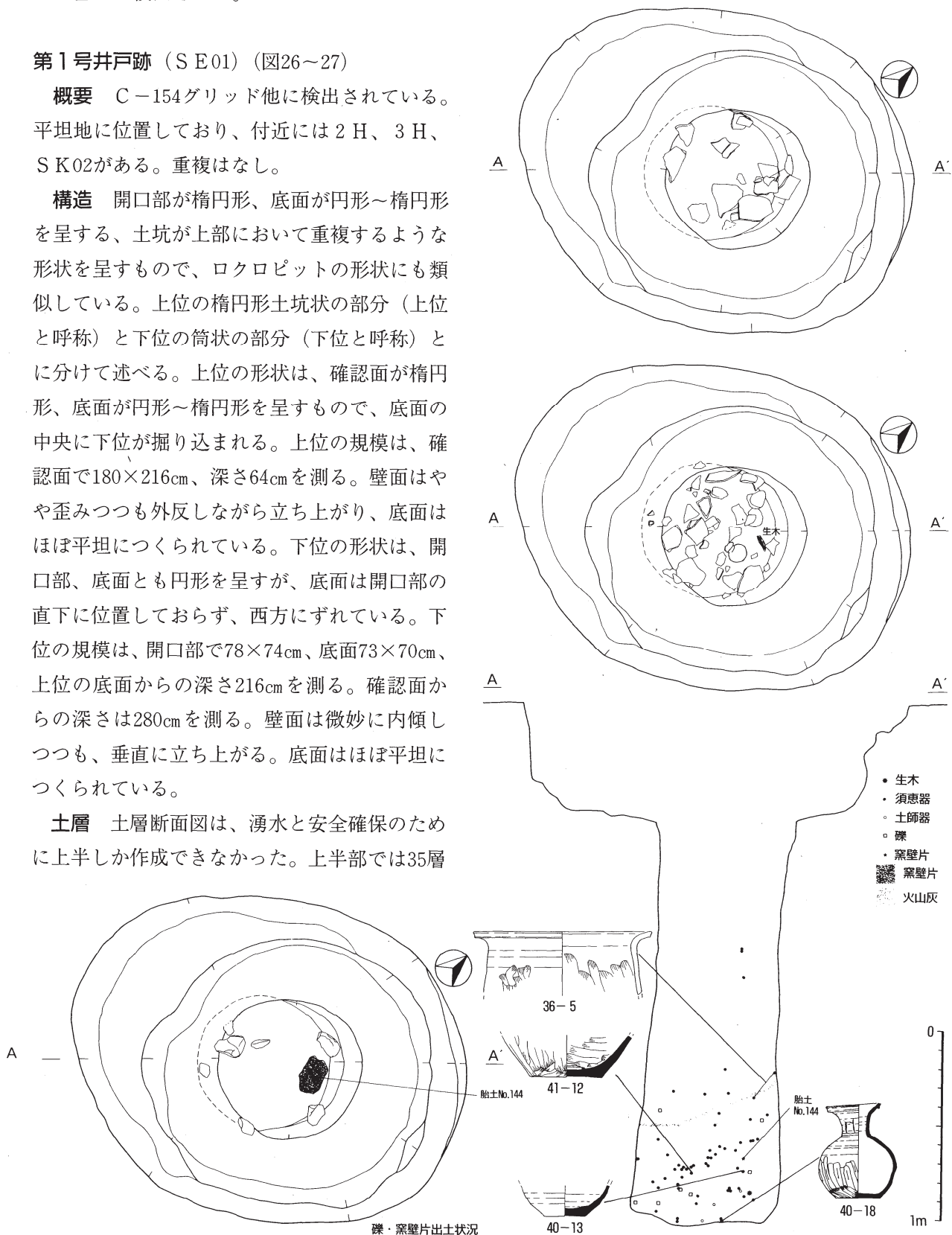
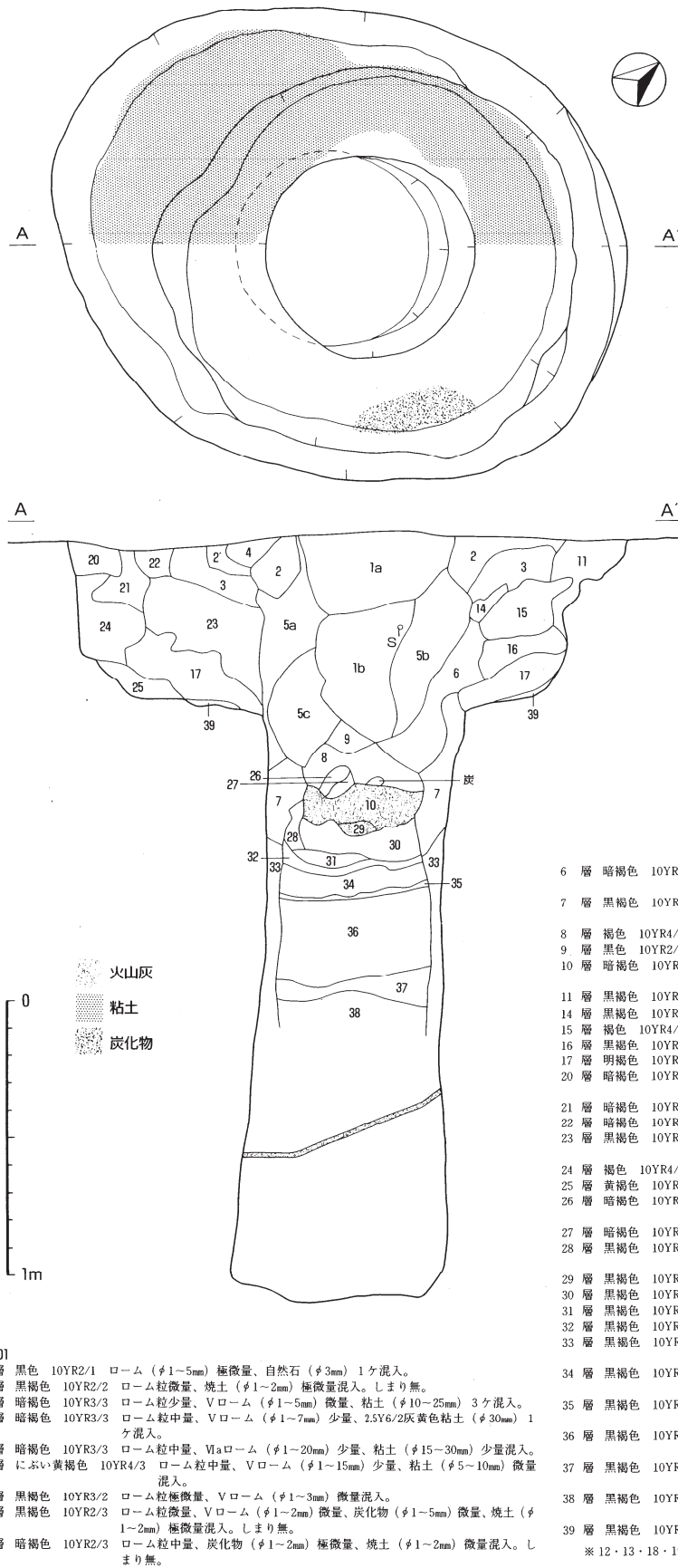


図26 第1号井戸跡遺物出土状況





に分層された。下半部は平面的に掘り下げながら大まかに土層を観察した。黒褐色～暗褐色土を主体とし、ローム、炭化物、粘土、焼土等を混入する。26～30層にはB-Tmが含まれている。B-Tmが目立って含まれているのは、10・29層であるが、やや汚染されている点から、これらの層は二次的な堆積層の可能性が高いと思われる。純粋にB-Tmを混入する層は39層よりも下位にあるB-Tmの層である。この層は不純物が肉眼ではほとんど確認できないほど純粋な層である。なお、この層のラインは面的に掘り下げながらレベル計測し、その数値をもとに室内で作成したものである。7、33層は壁面に平行する縦長の層であり、非常に剥がれやすいもので

- 6 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒中量、Vローム(φ1-7mm)少量、炭化物(φ-5mm)微量、焼土(φ1-10mm)中量混入。しまり無。
  - 7 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒中量、Vローム(φ1-2mm)微量、炭化物(φ1-2mm)微量、焼土粒(φ1-3mm)微量混入。しまり無。
  - 8 層 褐色 10YR4/4 ローム粒極微量、焼土(φ1-5mm)極少量混入。
  - 9 層 黒色 10YR2/1 VIaローム(φ2-5mm)少量、炭化物粒微量、粘土質土微量混入。
  - 10 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒微量、Vローム(φ1-2mm)極微量、炭化物(φ1-7mm)少量、焼土(φ1-5mm)少量、黒色土(褐色系)、B-Tm混入。
  - 11 層 黒褐色 10YR3/4 ローム粒微量、Vローム(φ1-3mm)微量混入。しまり無。
  - 14 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒微量、炭化物粒微量、Vローム(φ1-2mm)微量混入。
  - 15 層 褐色 10YR4/6 粘土(φ1-40mm)多量、ローム(φ1-20mm)少量混入。しまり無。
  - 16 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒少量、Vローム(φ1-10mm)少量、炭化物(φ1-5mm)微量混入。
  - 17 層 明褐色 10YR6/6 粘土。粘性有。浅黄色(一部)～明黄褐色～褐色～白色～黄色を呈す。
  - 20 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒微量、Vローム(φ1-15mm)極少量、VIaローム(φ1-10mm)少量混入。
  - 21 層 暗褐色 10YR4/4 ローム粒微量、Vローム(φ1-10mm)中量混入。
  - 22 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒極少量、Vローム(φ1-3mm)微量混入。しまり無。
  - 23 層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒中量、Vローム(φ1-25mm)中量、VIaローム(φ1-7mm)微量混入。しまり無。
  - 24 層 褐色 10YR4/6 ローム粒多量、Vローム(φ1-25mm)中量、黒色土粒状混入。しまり無。
  - 25 層 黄褐色 10YR5/8 ローム(φ1-10mm)多量混入。
  - 26 層 暗褐色 10YR3/3 B-Tmを含む焼土。炭化物粒極微量、焼土(φ1-2mm)微量、黒褐色土(粒状)微量混入。
  - 27 層 暗褐色 10YR3/3 黒褐色土とB-Tmの混合した焼土。炭化物粒、焼土粒極微量混入。
  - 28 層 黒褐色 10YR2/3 B-Tm極少量、Vローム(φ1-2mm)微量、炭化物粒微量、焼土(φ1-5mm)微量混入。
  - 29 層 黒褐色 10YR2/3 B-Tm(下部に多い)少量Vローム(φ1-2mm)微量、炭化物粒極微量混入。
  - 30 層 黒褐色 10YR2/2 B-Tm極少量、Vローム(φ1-5mm)微量、炭化物粒微量混入。
  - 31 層 黒褐色 10YR3/2 ローム粒微量、炭化物粒微量混入。
  - 32 層 黒褐色 10YR3/1 ローム粒微量、炭化物粒極少量混入。しまり無。
  - 33 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ2-8mm)少量、ローム粒多量、炭化物(φ1-3mm)微量混入。しまり無。
  - 34 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-5mm)極少量、VIaローム(φ2-8mm)極少量、ローム粒少量、炭化物粒微量混入。
  - 35 層 黒褐色 10YR2/3 VIaローム(φ2-3mm)微量、ローム粒微量、炭化物(φ2-5mm)少量混入。しまり無。
  - 36 層 黒褐色 10YR2/3 Vローム(φ2-8mm)少量、VIaローム(φ2-5mm)中量、ローム粒中量、炭化物粒微量混入。しまり無。
  - 37 層 黒褐色 10YR3/2 VIaローム(φ2-5mm)極少量、ローム粒少量、炭化物(φ2-3mm)極少量混入。しまり無。
  - 38 層 黒褐色 10YR3/2 Vローム(φ2-8mm)極少量、VIaローム(φ2-10mm)中量、ローム粒中量、炭化物(φ1-5mm)極少量混入。しまり無。
  - 39 層 黒褐色 10YR2/3 ローム含む粘土質土。しまり強い。
- ※ 12・13・18・19層は欠番層。

図27 第1号井戸跡

ある。また、2、5 a、5 b、6の層は、下位の壁面から、やや歪みつつもほぼ垂直に立ち上がる層である。これらの層の状態より、本井戸跡は、(1)上位の楕円形状の土坑を掘り、(2)その底面中央を垂直に掘り下げ、(3)下位の壁面から延長するようにして上位に筒状(板状?)のものを積み上げ、(4)上位の筒状部分の外を充填土で満たす。という工法でつくられていたものではないかと推察される。なお、上位の底面には、多量の粘土が下位の開口部を避けるように堆積している<sup>(註)</sup>。2～4・11・14～17・20～25・39層を除き、大半は自然堆積層と考えられる。

(註)土層断面図A-A'の手前にも粘土はみられたが、平面図は作成しなかった。

**遺物等の出土状態** 下層のB-T mより下層に土師器の甕、須恵器坏、壺、大甕、自然木(割棒1点)が出土している。特に須恵器大甕の破片は多量に出土しており、ほぼ底面からは略完形の、小型の長頸壺が出土している。(木村 高)

## 4 並列溝状遺構

### 第1号並列溝状遺構(SDX01)(図28)

**概要** 調査区のほぼ中央域で検出された。検出範囲は広いものの、削平が著しいことと、両末端が確認できた溝跡は1条もなかったことから、全体の形状については不明である。9条(a～i)の溝跡が縞状に並んでいるもので、隠川(4)遺跡においても酷似した遺構((4)SDX01)が検出されている。確認面も(4)の検出例と同様に第Ⅲ層の上面である。

**重複** 4H、5H、5HSD01、SK08・11・15・16・17と重複し、本遺構はいずれよりも新しい。

**確認状況** 確認面である第Ⅲ層上面は削平が著しく、加えて多くの攪乱を受けているため、良好な検出状況ではない。第Ⅲ層の上面を露呈させたところ、縞状に並ぶ9条の溝跡の存在が認識されたが、削平が著しいことと、(4)のSDX01と同様、確認面における溝跡の覆土の色調は、黒色を呈する第Ⅲ層の土壌を基調としていることから、プランの把握は非常に困難であった。しかし、溝跡の覆土は、B-T mを混入しているために、快晴の日に限って、火山ガラスがよく光り、手触りも非常にさらさらするものであったことから、調査は快晴日を狙ってすすめた。なお、最も多くB-T mを含んでいた溝跡は溝跡bである。

**構造** 9条(確認数:a～i)の溝跡が縞状に並んでいる。著しく削平をうけていることから、本来的にはさらに数条存在していた可能性が推定される。個々の溝跡には広狭の差がみられ、1条の溝跡をとってみても広狭がみられる。両端部の確認された溝跡は1条も無いことから、全長については全く不明である。溝跡cと溝跡dはE-159グリッド杭付近において結合し、1条になっている。両者の重複関係を確認すべく確認面と断面で土壌を入念に観察したが、新旧関係は確認されなかった。溝跡iは、僅か96cmしか検出されなかった短い溝跡であるが、この溝跡は、溝跡bと溝跡cを北に延長した場合、それら2条の溝跡の中間に位置している。上述の溝跡c、dの結合例とこの溝跡iの不規則な検出位置より考えて、本遺構は一度に構築されたものではなく、2回以上の構築の結果を示している可能性が考えられる。確認面における幅は24～128cm、深さは5～15cmを測る。隣接する溝と溝との心心距離は112～312cmで、全体の平均値は224cmである。両末端が捉えられた溝跡は1条もなかったことから、長さについては不明であるが、最も長い溝跡bは検出長(直線長)で34.24mを測る。

隠川(12)遺跡

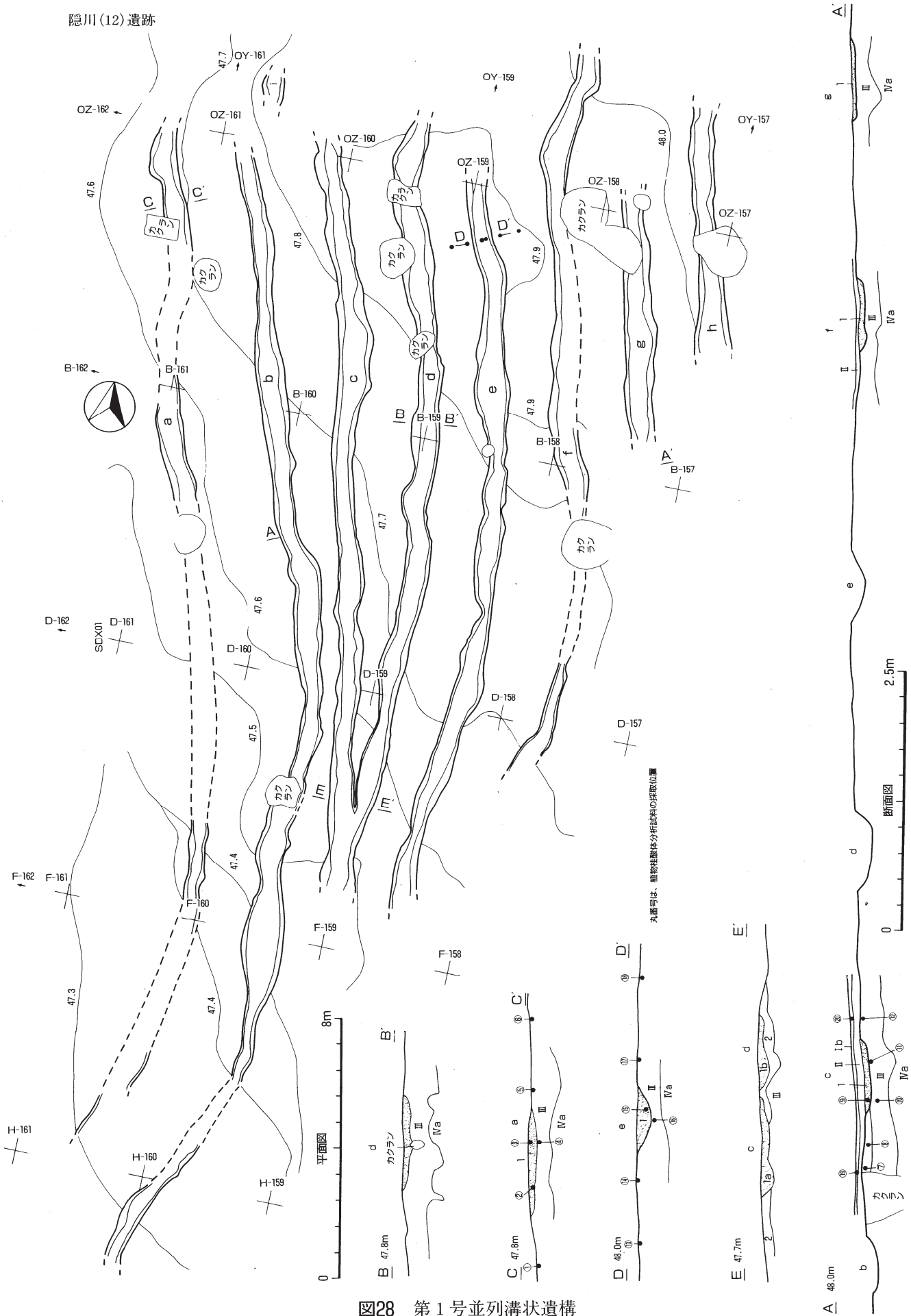


図28 第1号並列溝状遺構



断面形は基本的に平坦な皿状を呈す。底面には僅かに凹凸がみられるが、工具痕として認定できるものは確認されなかった。なお、底面は第Ⅲ層を基底にしているが、ほぼグリッドのDライン以南は底面に第Ⅳ層がうっすらと見えているところが多い。これらの溝跡は、ほぼ等高線に斜交しており、方向はN-16°-W~N-6°-Eを示している。

**土層** a~iの全ての溝跡の覆土は、黒色のシルトをベースにB-T<sub>m</sub>がパウダー状、層状に混入しているものである。B-T<sub>m</sub>は底面に近づくにつれて若干、厚く堆積する傾向がみられるものの、火山灰の平面的な混入状況を見ると、厚く堆積している部分や薄い部分、或いは微量にしか混入していない部分等があり、全面を均一に覆うものではない。なお、底面に第Ⅳ層がうすく見えているところは、覆土中にローム粒が微量に混入している。

**出土遺物** 数点の土師器、須恵器の小破片と土玉1点が出土したのみである。これらのほとんどは、付近にある住居跡や土坑の覆土から浮上したものや、散在していたものが混入したものと思なされる。1点のみ出土した土玉は、溝跡cと溝跡dの接する部分(D-158-1グリッド)から出土しており、注意される。なお、この土玉は断面形が筒状を呈しており、住居跡等から出土している一般的なものとは形状が明らかに異なっている。

**その他** 本遺構が、畝跡に関連した遺構であるか否かを判断するために、プラントオパール分析を実施した。結果は第Ⅸ章第4節を参照されたい。また、炭化種子を検出すべく、土壌サンプルを採取し、フローテーションを行った。結果は第Ⅸ章第5節を参照。

## 第2・3・4号並列溝状遺構(SDX02・03・04)(図29~30)

**概要** 調査区の南東域に3群(3面・SDX02・03・04)検出されている。これらはいずれも形態の面において酷似するものであるが、単に記述の便宜上、3群に分けただけのものであり、1面として捉えるほうが自然であることから、ここでは全てをまとめて述べる。

**確認状況** 確認面である第Ⅳ層の上層は現代の耕作土であり、削平が著しいことから、途切れているものが多く、良好な検出状況ではない。第Ⅳ層の上面を露呈させたところ、縞状に並ぶ12条(SDX02)、3条(SDX03)、18条(SDX04)の溝跡の存在が確認された。著しく上面を削平されているものの、確認面である第Ⅳ層は、にぶい黄褐色土であり、確認面における溝跡の覆土の色調は、黒褐色~暗褐色を呈するものであったため、プランの把握は極めて容易であった。ただし、2Hと重複している部分はプランが全くつかめなかった。

**SDX02** 4HSD01、SK09、SK20と重複する。SK09と4HSD01より新しいことは確認されたが、SK20との新旧関係は不明である。3群の中では中央部に位置し、12条で構成されている。方向はN-45°-W前後を示し、等高線に直交している。心心間隔は64~112cm(平均92cm)である。各々の幅は16~48cm、深さは確認面より4~16cmを測る。底面には凹凸がみられ、これらの凹凸は、工具痕である可能性がある。堆積土は黒褐~暗褐~褐色を呈す。

**SDX03** 4HSD01と重複し、本遺構が新しい。3群の中では南東部に位置し、東側は斜面になっている。3条で構成されており、方向はN-26°-Wを示し、ほぼ等高線に直交している。心心間隔は68~104cm(平均87cm)である。各々の幅は24~36cm、深さは確認面より4~12cmである。底面には凹凸がみられ、これらは、工具痕である可能性がある。堆積土は黒褐~暗褐~褐色を呈す。

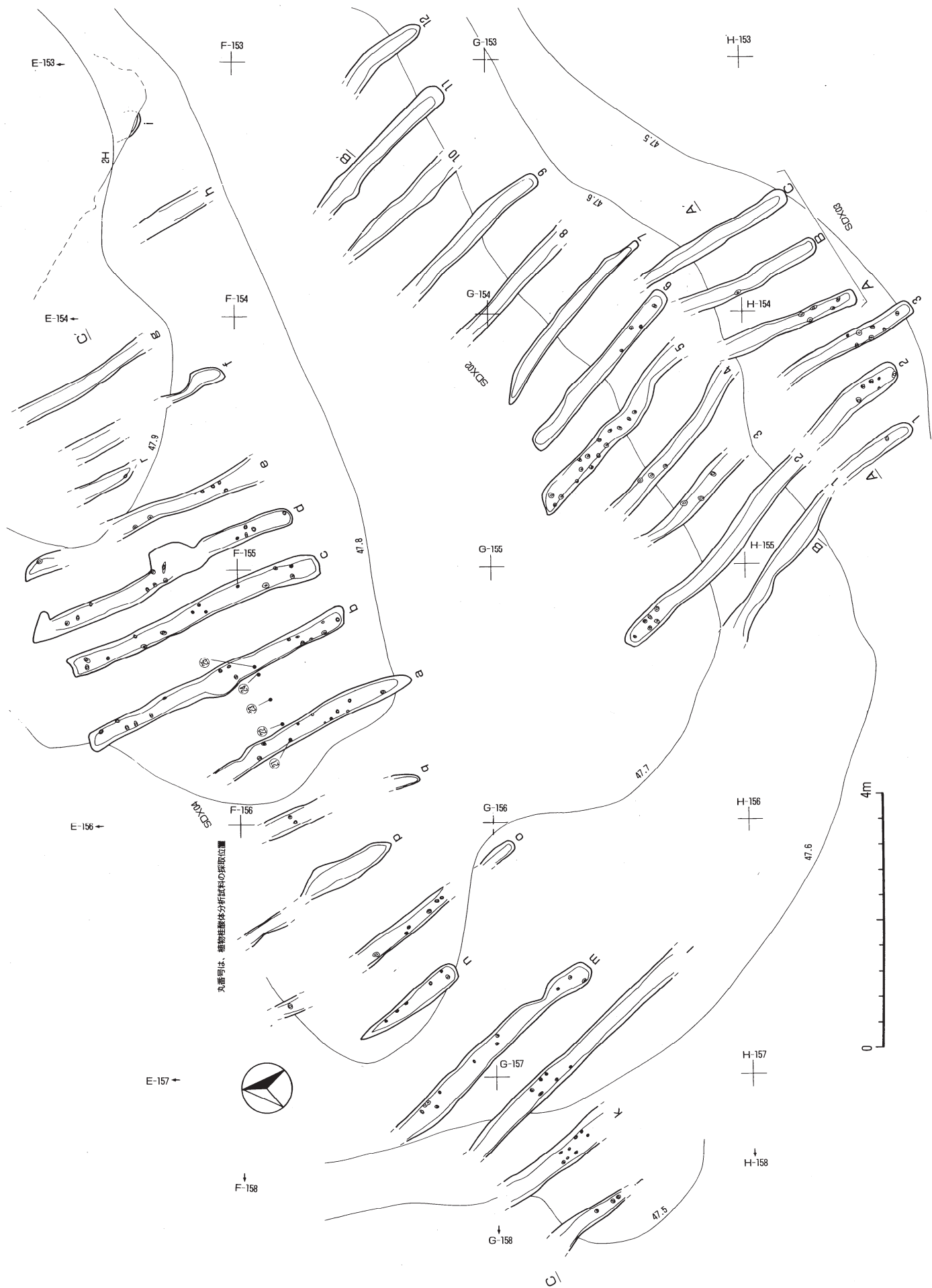


図29 第2・3・4号並列溝状遺構

SDX04 4 H S D01と重複し、本遺構が新しい。3群の中では北西部に位置し、18条で構成されている。方向はN-25~38°-Wを示し、等高線に直交~斜交している。心心間隔は64~152cm(平均107cm)である。各々の幅は12~48cm、深さは確認面より2~18cmである。底面には凹凸があり、これらは、工具痕である可能性がある。堆積土は黒褐~暗褐~褐色を呈す。

(木村 高)

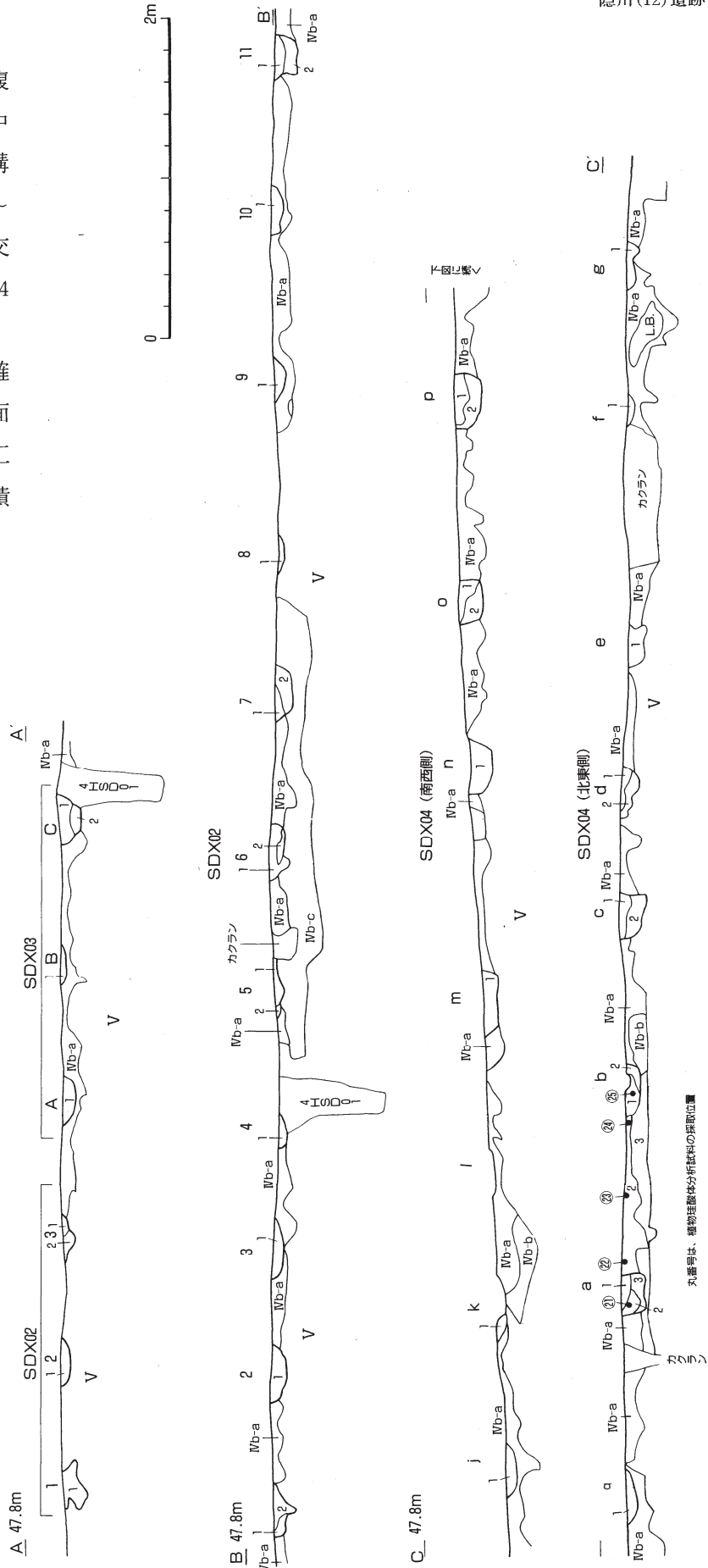


図30 第2・3・4号並列溝状遺構



## 隠川(12)遺跡

### SDX01 (A-A')

- c**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量、焼土粒極微量、炭化物粒極少量、炭化物粒極少量、B-Tm混入。  
 2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒極少量混入。

- f**  
 1 層 黒色 10YR2/1 ローム粒(φ2mm)1粒混入。B-Tmの混入状態は、II層と同じ。

- g**  
 1 層 黒色 10YR2/1 ローム粒極微量、炭化物粒極微量、B-Tm混入。

- d (B-B')**  
 1 層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量、炭化物粒極微量、B-Tm混入。

- a (C-C')**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、焼土粒極少量、炭化物(φ1-2mm)微量、B-Tm多量混入。

- e (D-D')**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極微量、B-Tm混入。粘性有。

- c・d (E-E')**  
 1a 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)極微量、焼土粒極少量、B-Tm多量混入。  
 1b 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)海微量、焼土粒微量、炭化物粒極微量、B-Tm多量混入。  
 2 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ2-20mm)極微量、炭化物粒微量混入。粘性、湿性有。

### SDX02 (A-A')

- 1**  
 1 層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ2-4mm)少量、炭化物(φ1-2mm)微量、黒褐色土少量混入。し  
 まり無。

- 2**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ2-3mm)極微量、ローム粒中量、炭化物粒微量混入。

- 3**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム粒微量、炭化物(φ2-3mm)微量混入。し  
 まり無。  
 2 層 褐色 10YR4/4 ローム(φ2-5mm)少量、ローム粒少量、炭化物(φ1-2mm)極少量混入。

### SDX02 (B-B')

- 1**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-3mm)少量、炭化物粒極微量、焼土粒極微量混入。  
 2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ1-2mm)少量、焼土粒微量混入。

- 2**  
 1 層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ1-10mm)少量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。

- 3**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ1-10mm)少量、炭化物(φ1-2mm)微量、炭化物粒少量混入。

- 4**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ-10mm)微量、炭化物(φ1-2mm)極少量混入。

- 5**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-10mm)微量混入。  
 2 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒少量、炭化物粒極微量混入。

- 6**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-10mm)微量混入。  
 2 層 褐色 10YR4/6 ローム粒多量、炭化物粒少量混入。

- 7**  
 1 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ1-10mm)微量、炭化物(φ2-5mm)微量混入。  
 2 層 褐色 10YR4/4 ローム(φ1-4mm)微量、炭化物粒微量混入。

- 8**  
 1 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ2-30mm)中量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。し  
 まり無。

- 9**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ2-25mm)中量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。

- 10**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒少量、炭化物粒極微量混入。

- 11**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒少量、炭化物粒極微量混入。  
 2 層 褐色 10YR4/6 ローム(φ2-10mm)微量、炭化物粒極微量混入。し  
 まり無。

### SDX03 (A-A')

- A**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-40mm)中量、炭化物(φ1-3mm)微量、暗褐色土少量混入。し  
 まり無。

- B**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-40mm)中量、炭化物(φ1-3mm)微量、暗褐色土少量混入。

- C**  
 1 層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ2-10mm)微量、炭化物(φ1-2mm)少量、黒褐色土少量混入。  
 2 層 褐色 10YR4/4 ローム(φ2-15mm)少量、炭化物粒極少量混入。し  
 まり無。

### SDX04 (C-C')

- k**  
 1 層 褐色 10YR4/4 ローム(φ2-5mm)少量、炭化物(φ1-2mm)微量混入。し  
 まり無。

- m**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ2-5mm)少量、炭化物(φ2-3mm)微量、褐色土(φ1mm)、極  
 微量混入。

- n**  
 1 層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ2-3mm)極少量、炭化物(φ1-2mm)微量、炭化物粒微量、焼土(φ  
 1-3mm)極少量混入。

- o**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)微量、炭化物粒微量混入。  
 2 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ1-3mm)少量、炭化物粒極少量混入。し  
 まり無。

- p**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ2-5mm)微量、焼土粒極少量混入。  
 2 層 暗褐色 10YR2/3 ローム(φ2-25mm)少量、炭化物粒微量混入。し  
 まり無。

- q**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2-20mm)微量、炭化物粒微量、焼土粒微量混入。し  
 まり無。

- a**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)微量、炭化物粒微量混入。  
 2 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-3mm)微量、炭化物粒微量混入。  
 3 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒中量、炭化物粒極少量混入。し  
 まり無。

- b**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-3mm)微量、炭化物(φ2-5mm)微量、焼土粒極少量混入。  
 2 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ2-10mm)少量混入。

- c**  
 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm)微量、炭化物粒微量混入。  
 2 層 暗褐色 10YR3/4 ローム粒中量、炭化物粒極少量混入。

- d**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-3mm)微量、炭化物粒少量混入。  
 2 層 暗褐色 10YR3/4 ローム(φ2-5mm)中量混入。

- e**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ2-40mm)少量、炭化物(φ1-2mm)極少量混入。

- f**  
 1 層 黒褐色 10YR2/3 ローム(φ2-3mm)微量、炭化物粒少量混入。

- g**  
 1 層 暗褐色 10YR3/3 ローム(φ2-8mm)少量、炭化物(φ2-3mm)微量、褐色土粒極微量混入。

### SDX02・03・04下層基本土層

- IV b-a 層 におい黄褐色 10YR4/3 ローム(φ1-3mm)中量、暗褐色土全体混入。  
 IV b-b 層 におい黄褐色 10YR4/3 VIaローム(φ1-20mm)少量混入。  
 IV b-c 層 明黄褐色 10YR6/6 VIa層程黄色くなく、固さもみられない。

## 5 溝跡

### 第1号溝跡 (SD01) (図31)

**概要** 調査区西域で検出された。削平が著しく、東端は確認できなかったため、全体形状は不明である。確認面は、第IV b層中である。

**重複** 東端が攪乱を受けている。

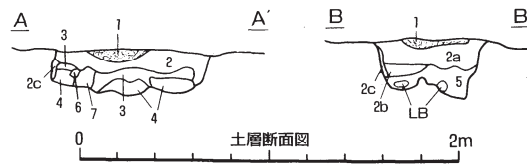
**確認状況** 確認面である第IV b層は削平が著しく、加えて東端が攪乱を受けているため、良好な検出状況ではない。

**構造** 1条で構成されている。若干の広狭がみられるものの、ほぼ均一な幅を保っている。底面には多数の工具痕がみられる。攪乱のため、全長については不明であるが、検出長で18.44mを測る。確認面における幅は40~88cm、深さは16~32cmを測る。

**土層** 黒色~黒褐色のシルトをベースに断面皿状を呈すB-T<sub>m</sub>が確認面にみられる。B-T<sub>m</sub>は確認面のみに堆積しているが、平面的な分布状況を見ると、厚く堆積している部分や薄い部分、或いは微量にしか混入していない部分等があり、全面を均一に覆うものではない。

**出土遺物** 数点の土師器、須恵器の小破片が出土したのみである。これらのほとんどは、散在していたものが混入したものと考えられる。

(木村 高)



SD01 (A-A') (B-B')

- 1層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ1mm) 極微量、火山灰(φ1-30mm) 中量混入。
- 2層 黒褐色 10YR2/2 火山灰(φ1-10mm) 微量、ローム(φ1-20mm) 極微量混入。鉄分がある。
- 2a層 黒褐色 10YR2/2 火山灰(φ1-20mm) 微量、ローム(φ1-50mm) 微量混入。
- 2b層 黒色 10YR2/1 火山灰(φ20mm) 極微量、ローム(φ10mm) 微量混入。
- 2c層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-10mm) 微量、火山灰(φ1mm) 極微量混入。
- 3層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-10mm) 少量、火山灰(φ15mm) 極微量黒色土(φ1-10mm) 微量、鉄分がある。
- 4層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-30mm) 多量、鉄分有。
- 5層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-50mm) 中量混入。
- 6層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-2mm) 極少量混入。
- 7層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-15mm) 微量、鉄分有。

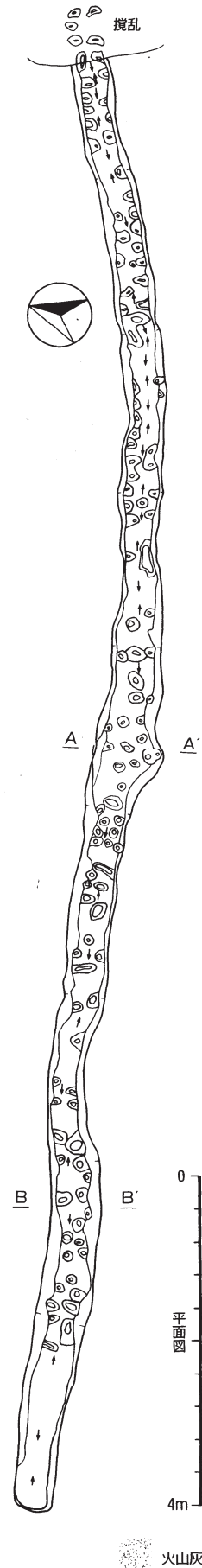


図31 第1号溝跡

## 第2節 平安時代の出土遺物

### 土師器・須恵器の概要

この時期の遺物出土総量はダンボールで約40箱である。このうち、竪穴住居跡からの出土は、全体の約1/2である。その中でも、2・4・5Hからの出土が特に多い。

#### 1 土師器

##### 皿・坏 (図33-17~48、図34-1~5、21、39~46)

器形ではバリエーションがあるが、口径160mm前後のものは34-1のみであり、法量は比較的まとまっているように思われる。34-45はSK01出土のほぼ完形の耳皿である。胎土、焼成、色調の面では特に特異な点は見受けられない。34-46は高台部である。内外面とも平滑に調整されている。また、隠川(4)遺跡に比べヘラ書きの比率が低く、そのヘラ書きも線の細い、不明瞭なものである(33-19・33、45-4)。

##### 甕 (図35~39)

長胴甕 (I群) 外面のケズリは口縁部近くまで施すものはほとんどなく、おおよそ胴部中央から下半にかけてである。隠川(4)遺跡のものより口縁部から胴部にかけての形態にバリエーションがあるように感じる。外面胴部上半から口縁部近くにタタキ痕を有するものがある(36-13、37-9、39-33)。38-12は胴部下半にタタキ痕を有するもので、格子状のタタキ目を確認できる。条数は不明である。38-20は2Hの支脚であるが、底径70mmと非常に小さく、砂が密な砂底である。

長胴甕 (II群) 35-7は口縁部があまり外反せず、胴部には接合痕が明瞭である。隠川(4)の40-8と似ているが、炭化物の付着、二次焼成はない。35-4は4H床面、SD05など5つの遺構から出土した破片の接合個体である。胎土が非常に密で質感があり、隠川(4)40-7、隠川(12)38-3と似ている。外面にはほぼ胴部全体に粘土が厚く付着している。36-11は口縁部が法量のわりには短く、外面のケズリが口縁部直下にまで及び、その余剰粘土が付着したままである。37-1・2は胴部上半にタタキ痕の確認できるものである。1はタタキ後のヨコナデが強くタタキ痕が不明瞭だが、2は格子状のタタキ痕が明瞭に確認でき、条数は5~7本である。1・2とも内面の調整がしっかりと施されており、当て具痕は確認できない。共に赤褐色系を呈し、内外面にタール状の黒色物質の付着を見る。

小型甕 (I群) 器形・法量など隠川(4)のものと大差ないが、37-16~21のように口縁内面に段を有するような口唇部の作りだしをしたものが多い。口縁部内面に炭化物が付着しているものも多く、また内外面にケズリ、ナデの調整を施すものは少ない。底部は回転糸切り、砂底、ケズリのものなどがある。38-3は胴部上半にヘラ書きを有している。

小型甕 (II群) 39-28~31など口径不明の細片は多いが、器形のほぼ全体を把握できるのは38-13のみである。口縁部内外面には微かにヨコナデの痕跡が見えるが、ヨコナデ後のナデツケにより不明瞭である。外面のケズリ調整1単位の中に筋状のものが何本か見えるが、工具の先の凹凸によるものと思われる。

##### 壺 (図40-20、図41-1)



20は4H出土である。外面はロクロ調整痕が顕著である。口縁部内面はヨコナデと呼称し得る調整かもしれないが、甕などにみられる顕著なヨコナデとは趣を異にするので、図には現していない。色調は明黄褐色を呈し、胎土には砂粒を多量に含む。焼成は堅緻である。1はSK10の出土である。20に比べやや口径の大きく、残存破片の傾きから胴部最大径が下半にくるかもしれない。胎土・焼成・色調は20と似ている所もあるが、別個体である。

#### 埴 (図41-16~26)

遺構内からの出土が多い。ロクロ調整のもの(16~21、23~25)と非ロクロ調整のもの(22・26)に分けることができる。20は胴部上半から口縁部にかけて緩やかに外反し、口唇部は先細りを呈する。器面の磨滅が著しい。17・18は口縁部形態、胴部の形状が非常に似ている。胎土に砂粒を多く含み、色調は黄橙色系で、外面胴部上半には炭化物が付着している。19・20は口縁部から胴部にかけての形状は17・18に近いものがあるが、口唇部の作りだし、内外面の調整、胎土・色調などの面で他の埴とは趣を異にする点が多い。口縁部外面のほぼ直線を呈する箇所には(ヨコ)ナデを丁寧に施し、胴部には明瞭に格子目状のタタキによる調整痕が残存している。成形段階のものであると思われるタタキは口縁部にも施されていた可能性はあるが、確認できない。口縁部内面は丁寧にヨコナデを施されており、胴部はナデ調整が部分的に観察できる。胎土には他の土師器に比べやや径の大きい砂粒を含む。色調は赤褐色系であり、焼成は非常に堅緻で土師器というよりは須恵器に近い堅さである。外面胴部上半に炭化物が付着している。23は口縁部外反の胴部にやや膨らみをもつ、器高の高いものと思われる。内外面の磨滅が著しいが、外面胴部上半に炭化物が付着している。26は口唇部が先細りし、口縁部がやや内湾するものである。口縁部外面のヨコナデが顕著であり、それより下半は指又は工具(不明)によるナデツケにより器面を調整している。

#### 羽釜 (図41-27~32、図42-1~9)

出土個体数は少ないが、口縁部直下の張り出しの形状、口縁部形態などの点で、いくつかに分類可能であると思われる。42-6・7以外は黄橙色系を呈し、胎土・焼成とも似ている。おおむねロクロによる調整であるが41-27~32は細片の為不明な点が多い。42-3は胴部の膨らみが大きく、他に比べ特異な形状である。42-6・7は暗赤褐色系を呈し、焼成は堅緻である。口縁部直下の張り出しが大きく、作りも他に比べやや丁寧な感がある。

(三林 健一)

## 2 須恵器

### 皿・坏 (図32、図33-1~16、図34-6~20、22~38)

口縁部は隠川(4)遺跡に比べ外反するものが少なく、ほぼ直線的に立ち上がるものが多いように思われる。ヘラ書きは明確に文字と読みとれるものがなく、何かの記号と思われるものがほとんどである。34-7は口縁端部を内側に屈曲させているもので、このような口縁形態のものは他には見受けられない。32-18は2H出土の墨書土器である。墨書土器は隠川(4)・(12)遺跡の中でこの1点のみである。細片であり、何が書かれていたかは不明である。

### 鉢 (図40-1~17)

内外面にロクロ調整後ケズリ・ナデ調整を施すものが1・7・12・17と少ない。法量のわりに器厚が約6~8mmと厚いものが多い。底部は回転糸切りがほとんどである。7・12は外面に自然釉がほぼ

全面に付着している。17は口径196mmとやや大きく、外面胴部には全面にミガキ調整を施し、頸部にはヘラ書きを有する。胴部最大径が口径より小さく、器形的には鉢形に含めたが、法量では壺に近いものがある。

#### 壺 (図40-18、19、20-35、図41-2-15)

長頸壺と短頸壺がある(観察表に記載)が、ともに口縁部から底部まで把握できる個体は少ない。18はSE01出土の長頸壺であり、ほぼ完形である。色調は灰オリーブ色を呈し、頸部にはヘラ書きを有する。底部はケズリ調整である。22は器形的には19と似ているが、口唇部が非常に厚い。外面のケズリ、内面のナデとも口唇部近くまで施している。23は肩部であると思われ、他の壺には見られない文様(?)を外面に有する。色調は赤褐色である。27-35は長頸壺の口縁部であり、色調は青灰色で、口径は約90-120mmである。31は頸部内面の接合痕が顕著である。2-9は短頸壺の口縁部であり、ヘラ書きを有するものは2・5である。底部片では、ケズリ調整のもの(10・12・14)と菊花状のもの(11・13・15)がある。26は未焼成と思われる須恵器の長頸壺である。SK18からの出土であり、出土時点では、非常に水分を多く含んでいて、周りの土と一緒に取り上げなくてはならない状況であった。出土破片は頸部から肩部にかけてであり、1条の段を有する。内外面は褐灰色系で、ひび割れが著しく、そのひび割れから内外面が剥がれるように割れている部分がある。断面にはぶい黄橙色を呈している。非常に脆く、ひび割れしている箇所に対し少し加えるだけで、ひび割れが開閉するほどである。

#### 大甕 (図42-10-20)

12・15・17・19・20は外面の拓本のみ(全て平行叩き目)だが、内面は当て具痕を確認できるものではなく、全てナデなどの調整を施している。12・14・18は頸部にタタキ痕を微かに残す。また、ここには掲載していないが、2H床面から外面格子状叩き目、内面鳥足状当て具痕を有する胴部破片が出土している。器厚は約5-7mmと薄いものであり、外面はうすい青灰色、断面は橙色を呈している。類似破片は山本遺跡第123図121である。(三林 健一)

### 3 ミニチュア土器

住居跡では2・3・4H、土坑ではSK10からの出土である。ロクロ調整のものではなく、内外面に調整を施すものが大部分である。須恵器がSK10から1点出土している。

#### I-B-a類 (図46-9-11)

9の口縁部は剥離ではなく、無調整であるため、体部中央で段を有するものになっていると思われる。10、11は口径と器高から人差し指と親指で形作ることのできるものと思われる。

#### I-B-b類 (図46-1-6、8、12-30)

1は外面を底部から口縁部にかけて調整を施しており、口縁部はつまみ出し風に外反している。体部の最下端を横に撫でている為、その粘土のはみ出しによりやや上げ底になっている。内面は先の細かい工具と思われるもので細かな調整が施されている。底部は平滑な調整の後、一部に外面と同じ調整を施している。胎土にしまりがあり、他のミニチュアに比べ硬質の方である。2は口縁部が内湾しており、口唇部はケズリにより面取りしている。胎土には砂粒が目立つ。3は外面に光沢をもち、口縁部は一部折り返し状になっている。5の外面にはミガキ調整が施されており光沢を有する。胎土・色調、また口縁部形態などの点で3と似ている。13は口縁部に粘土紐を貼り付けて外反口縁を形作って

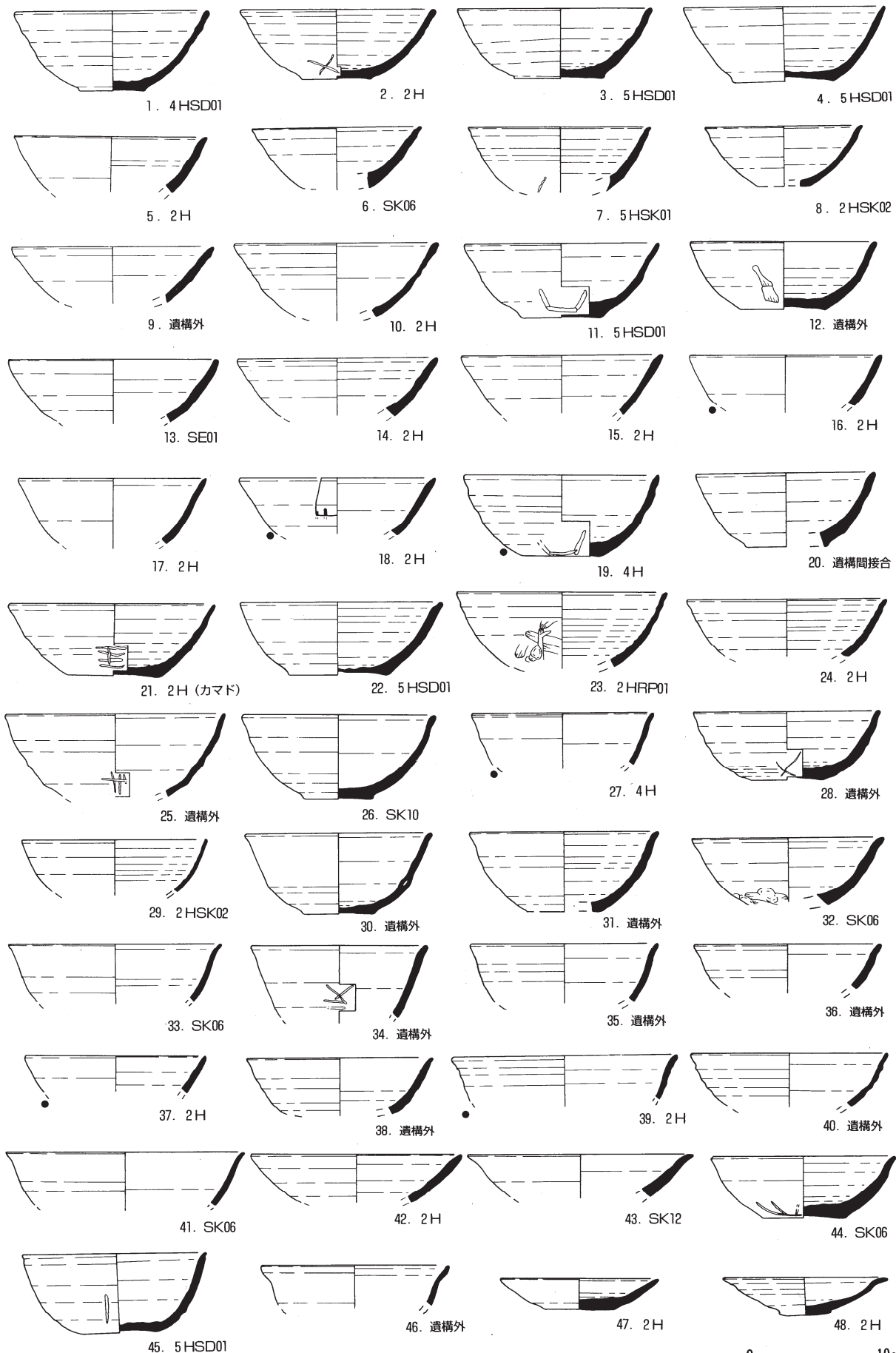


図32 皿・坏 (須恵器)



隠川(12)遺跡

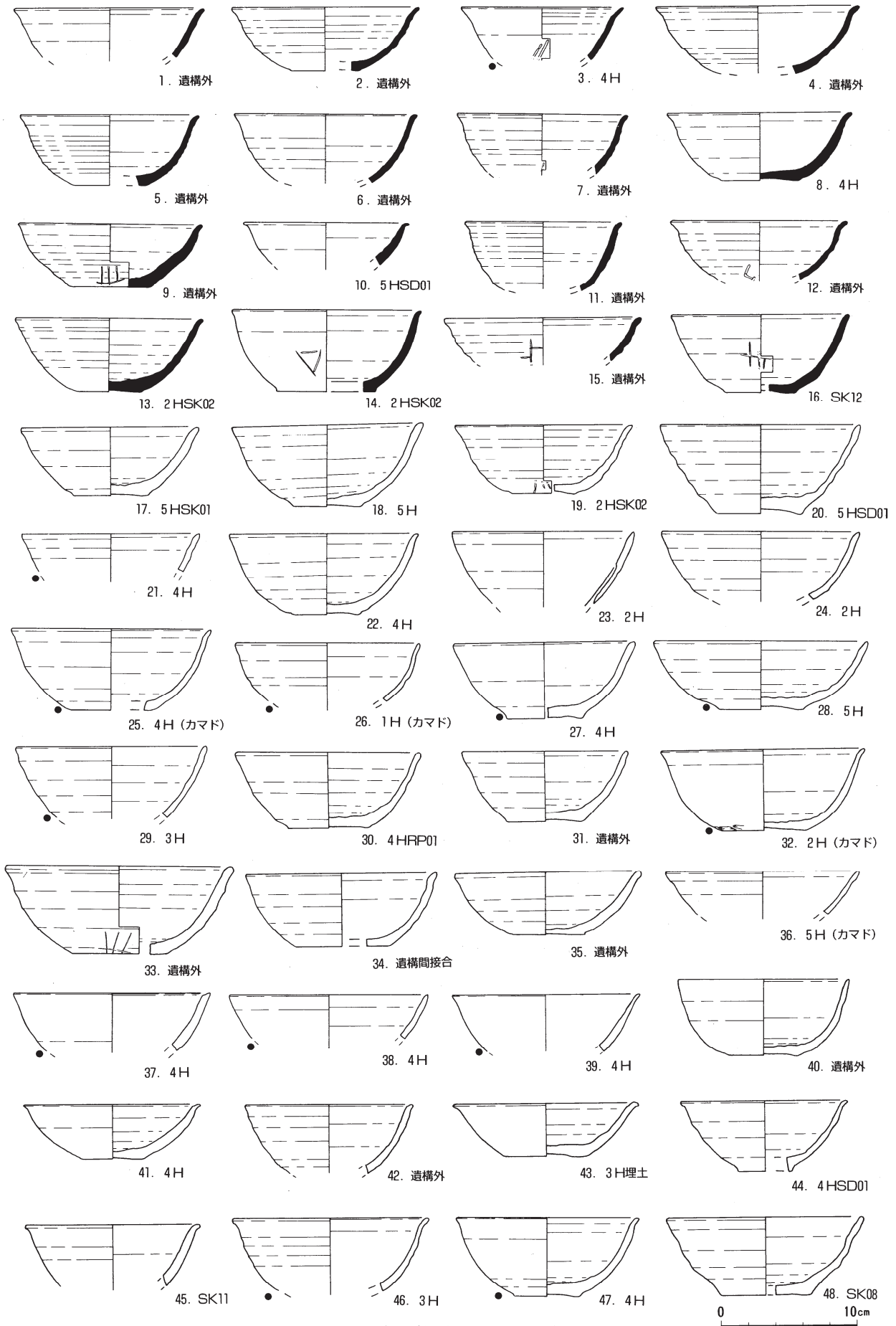


図33 坏 (須恵器・土師器)

いる可能性がある。28は外面に断面半円形の浅い沈線を有する。27は胎土に砂粒の混入があまり見られず、硬質である。器形的に不明だが、残存している口唇部はケズリにより面取りされている。

Ⅱ類 (図46-7)

外面は口縁下部から全体にタタキを施しており、条数は5~7本と思われる。内面はタタキの際に押さえたと思われる指痕が明瞭である。内・断面は赤茶褐色を呈しており、胎土に砂粒をあまり含まない。口縁部は外反している。  
(三林 健一)

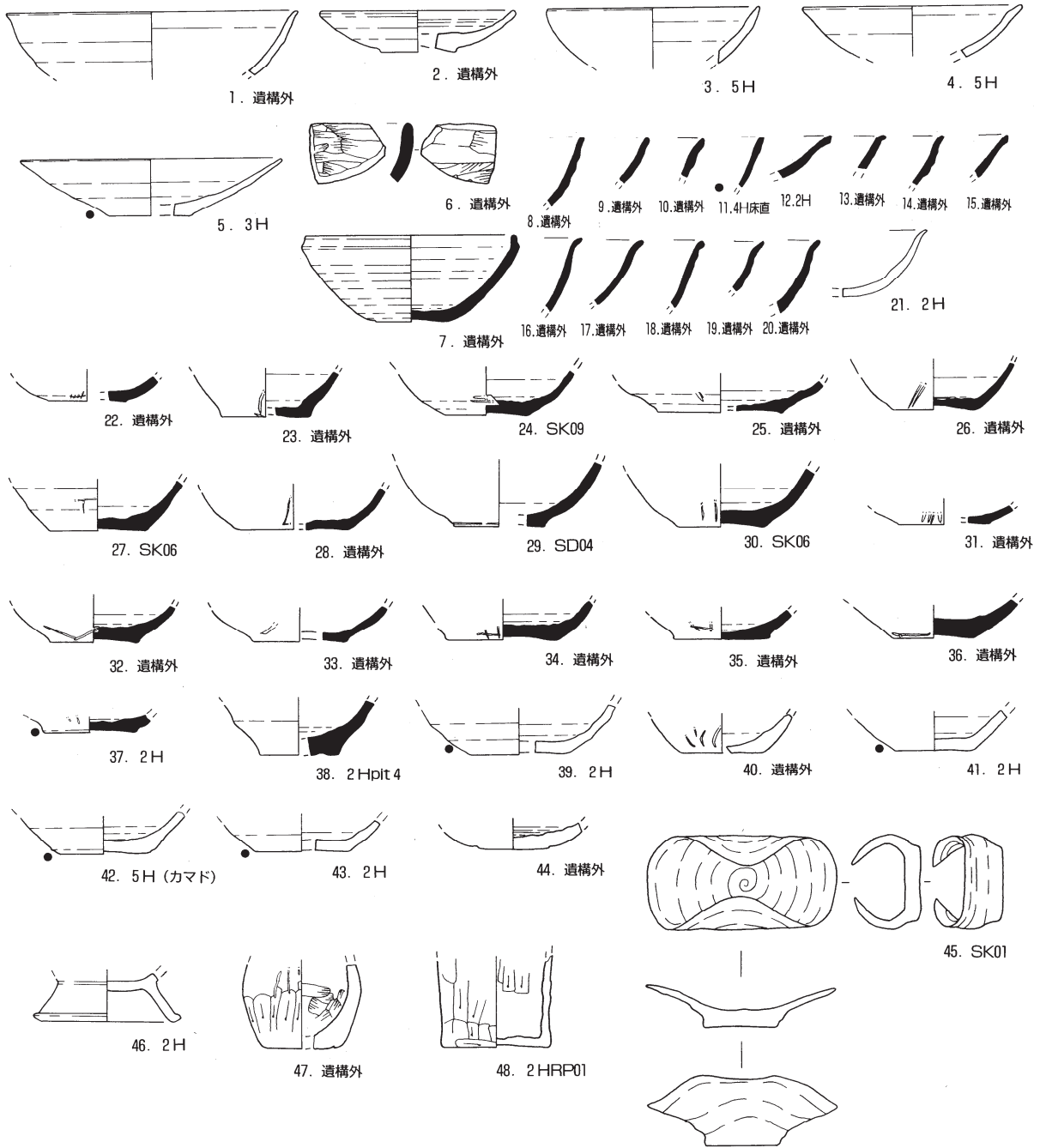
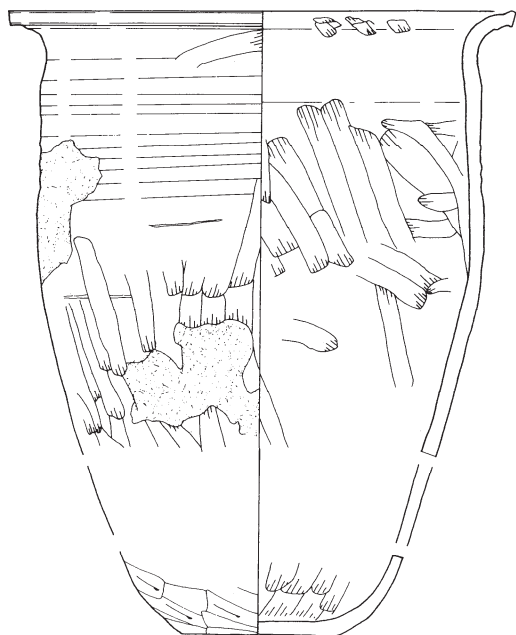
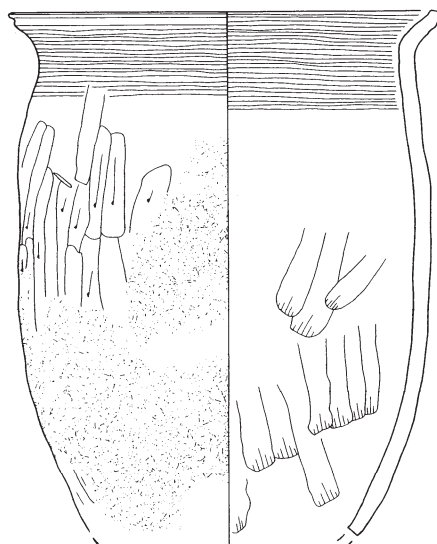


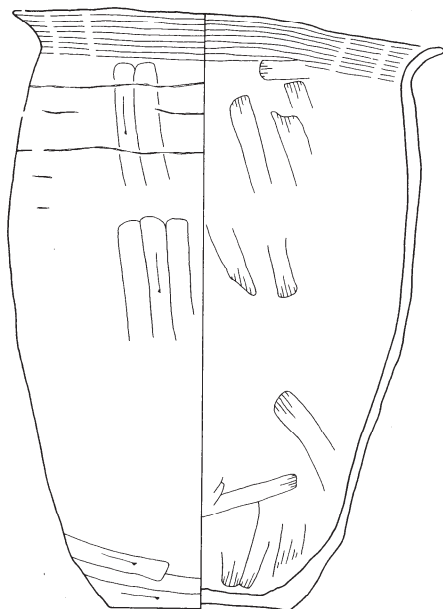
図34 皿・坏, その他 (須恵器・土師器)



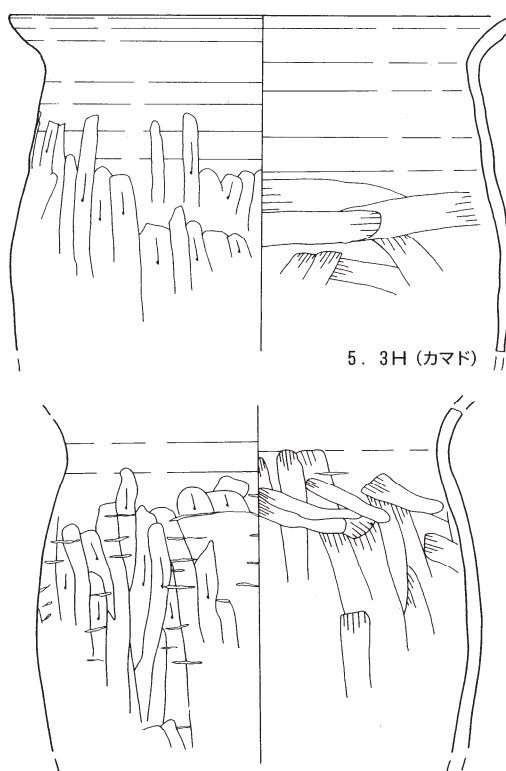
1. 3H (カマド)



4. 遺構間接合



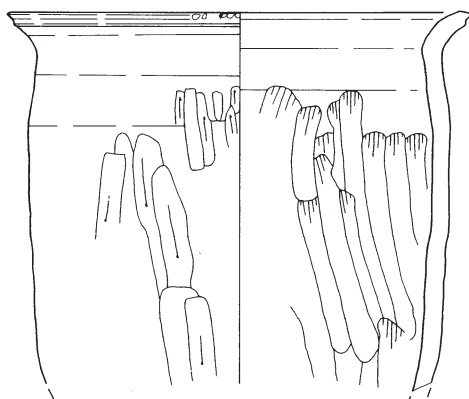
2. SK08



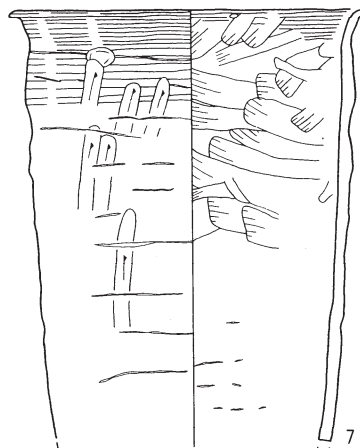
5. 3H (カマド)



6. 5HSK01



3. 遺構間接合

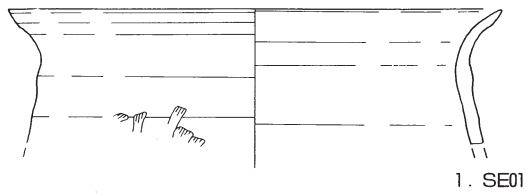


7. 1H (カマド)

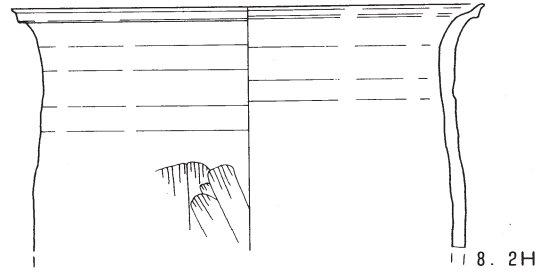
図35 甕 (土師器)

0 10cm

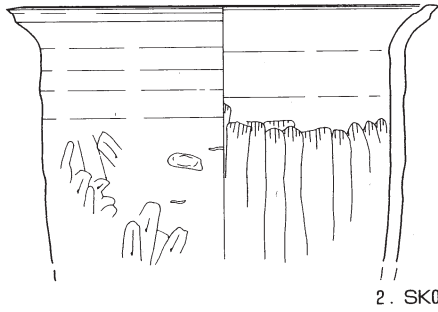




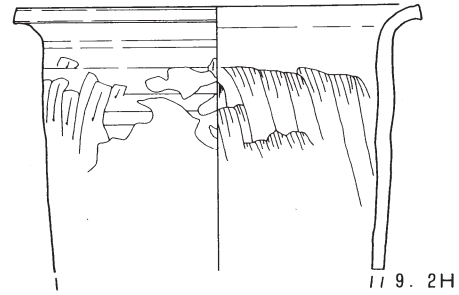
1. SE01



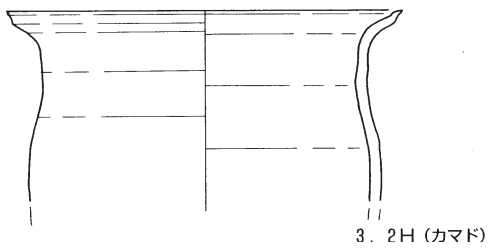
8. 2H



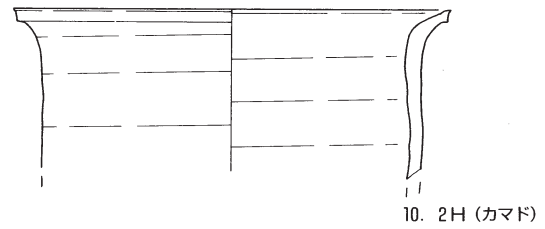
2. SK08



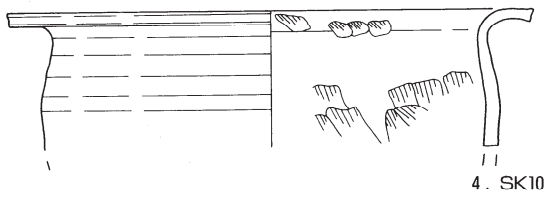
9. 2H



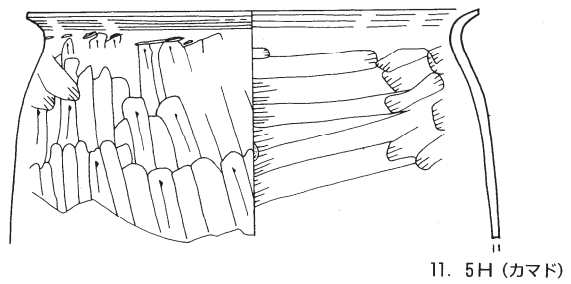
3. 2H (カマド)



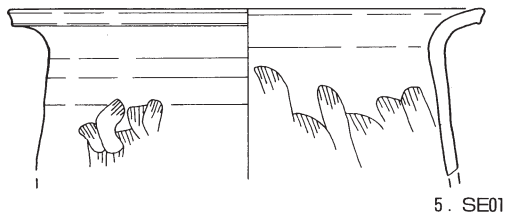
10. 2H (カマド)



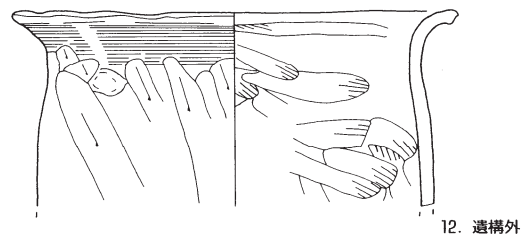
4. SK10



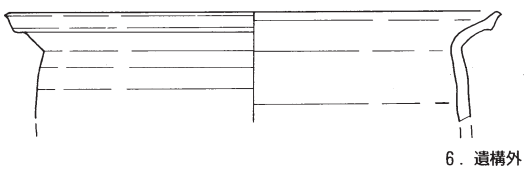
11. 5H (カマド)



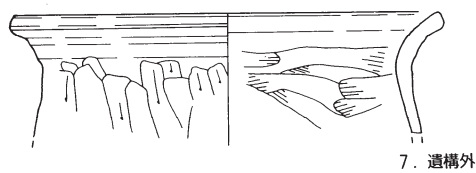
5. SE01



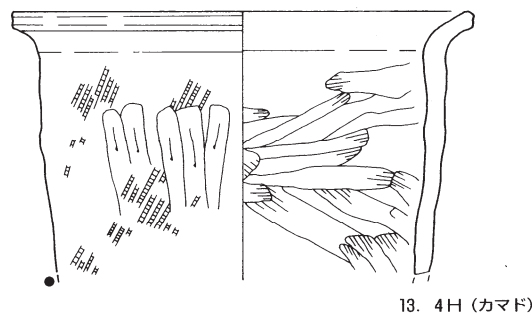
12. 遺構外



6. 遺構外



7. 遺構外



13. 4H (カマド)



図36 甕 (土師器)

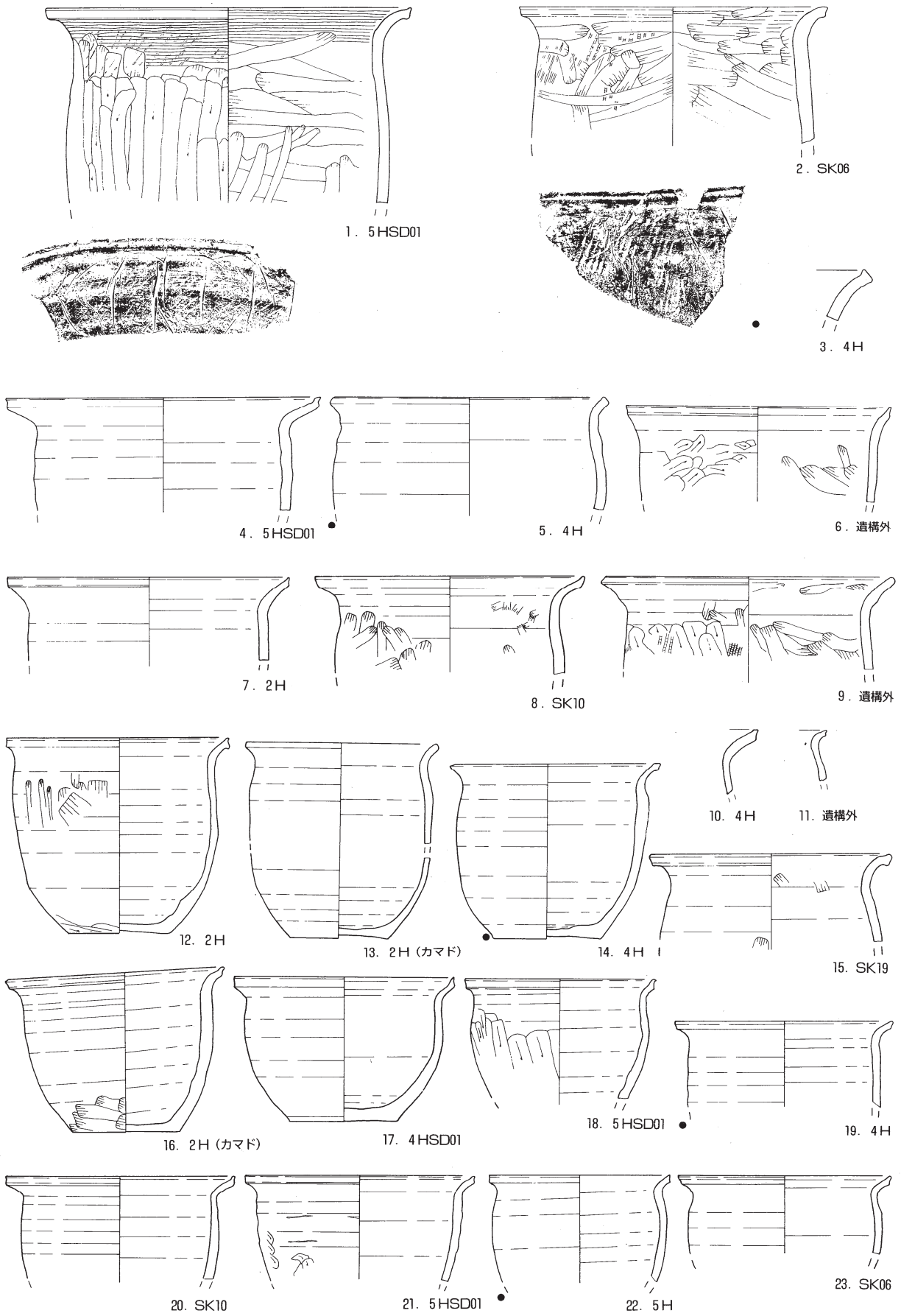


図37 甕 (土師器)

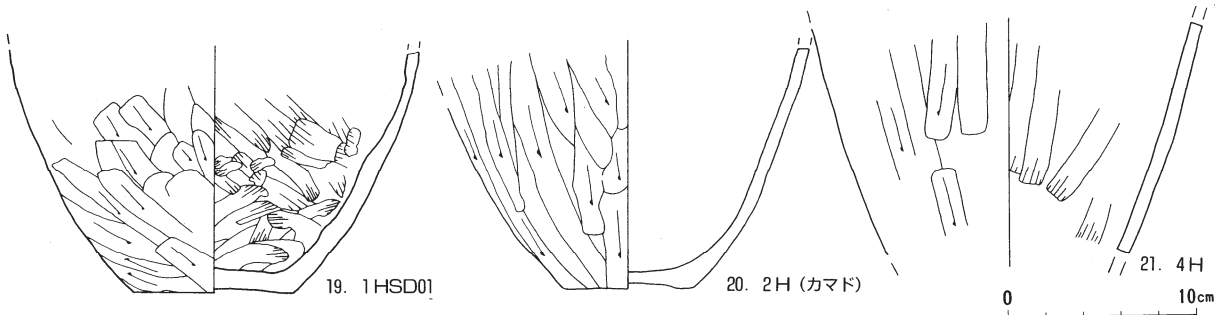
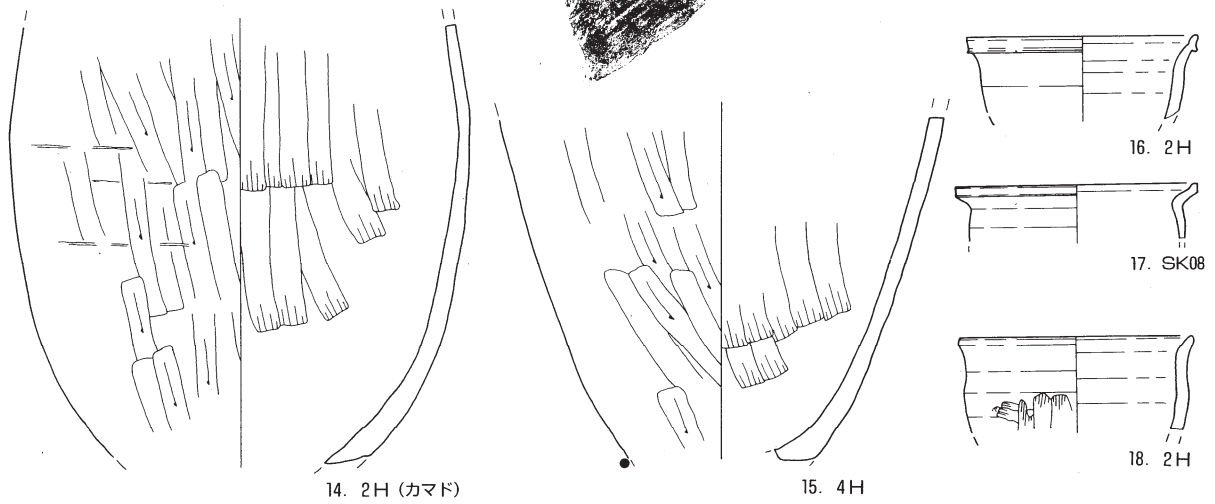
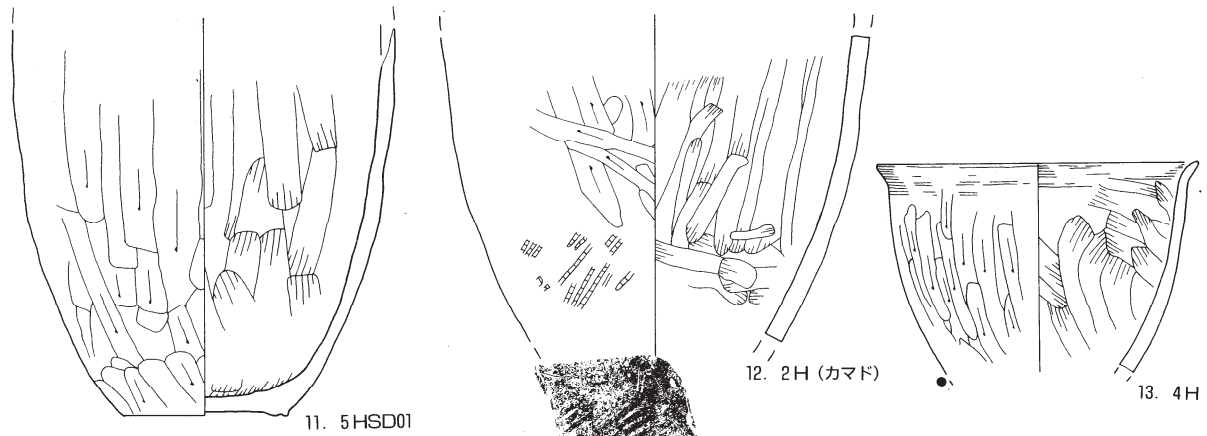
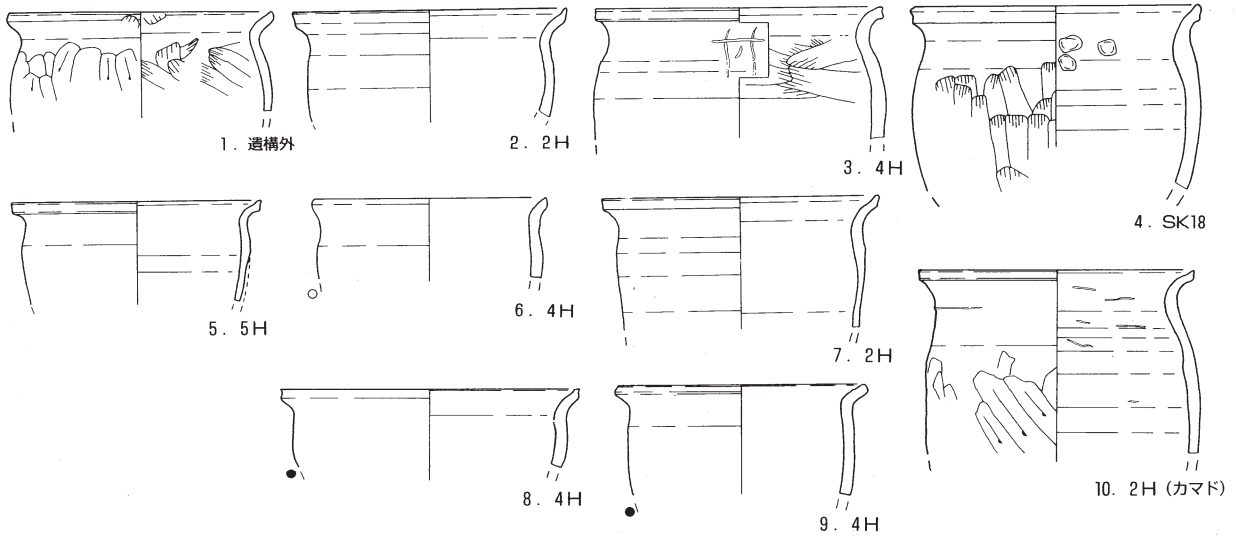


図38 甕 (土師器)



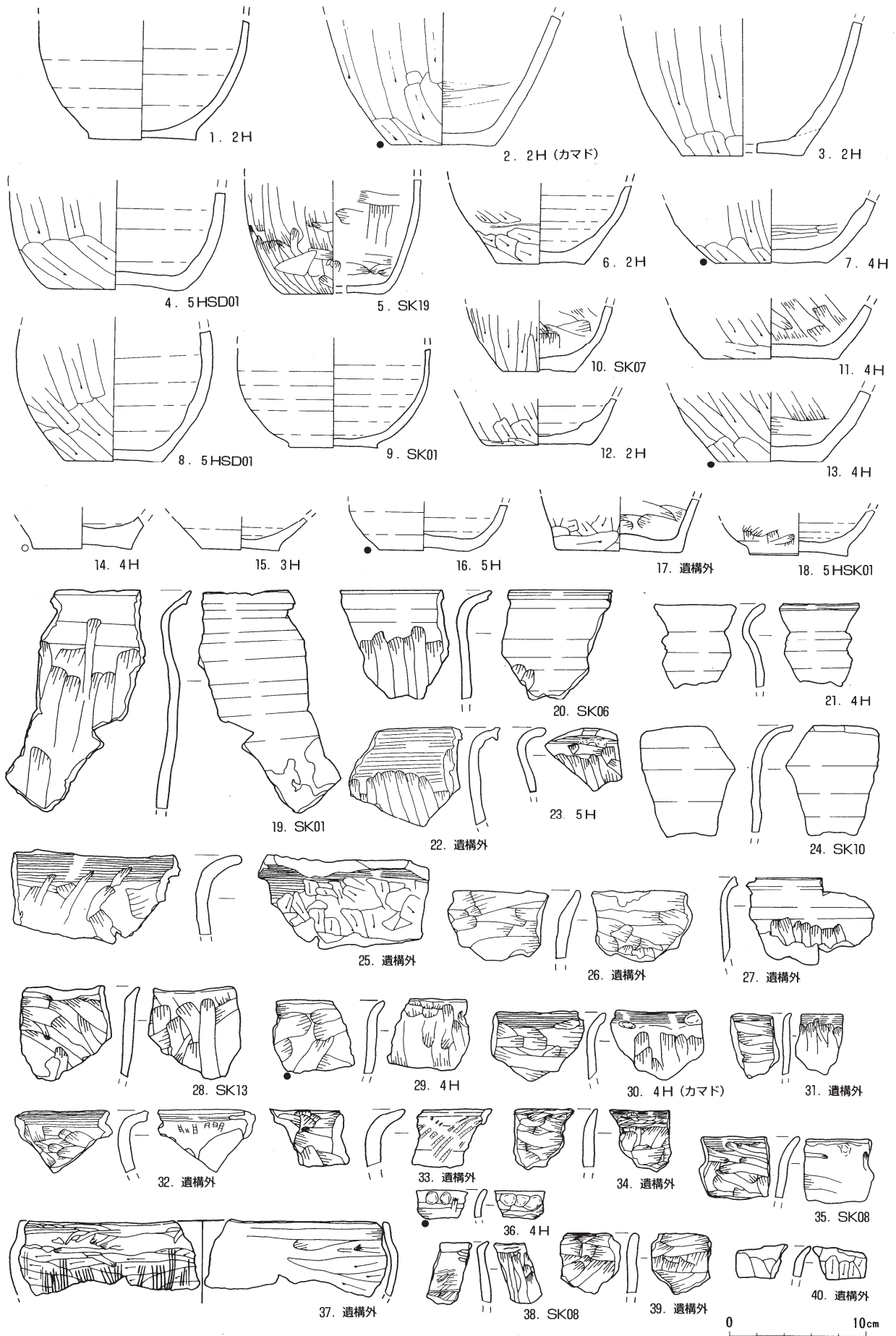
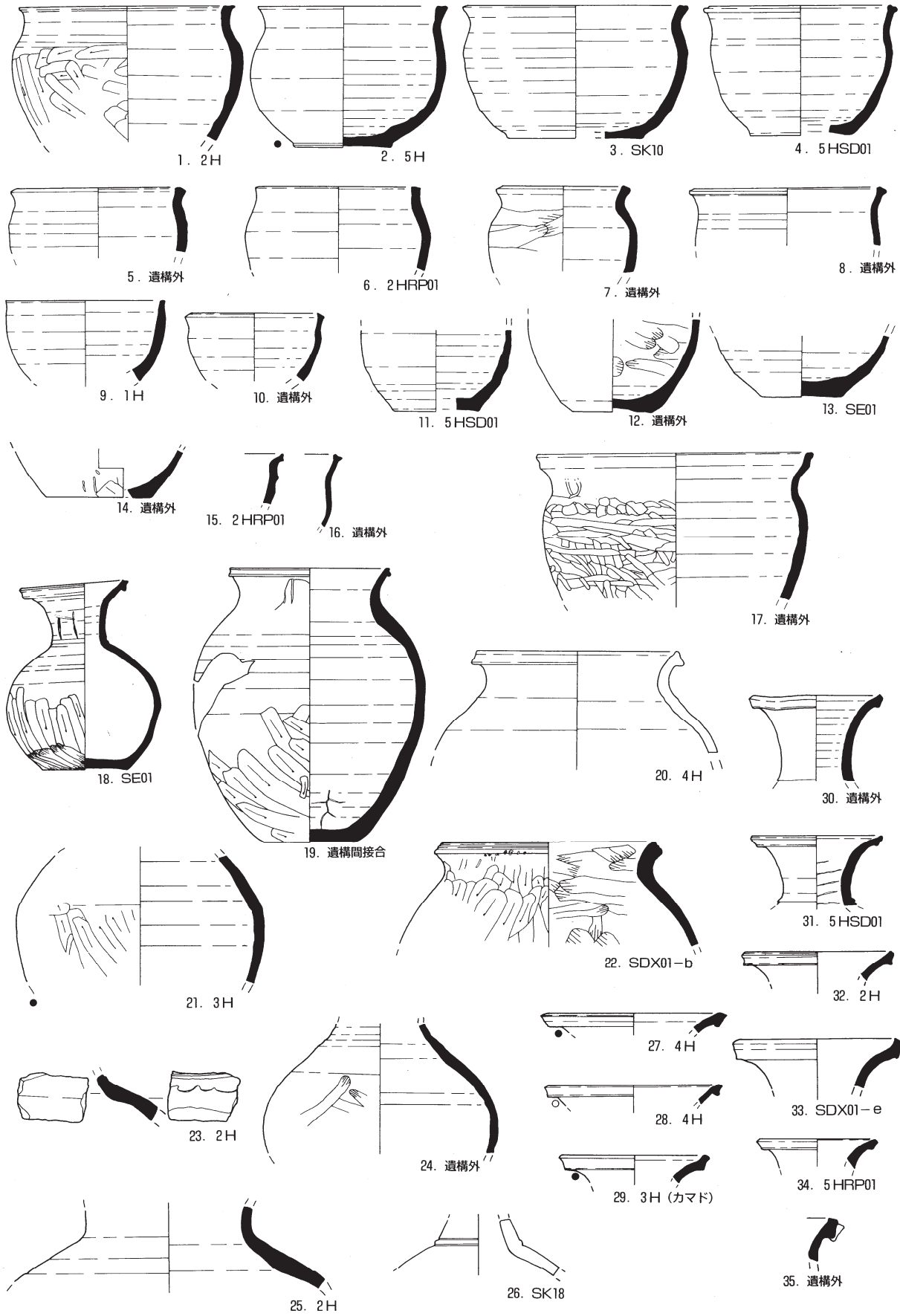


図39 甕 (土師器)



0 10cm

図40 鉢・壺 (須恵器・土師器)

隱川(12)遺跡

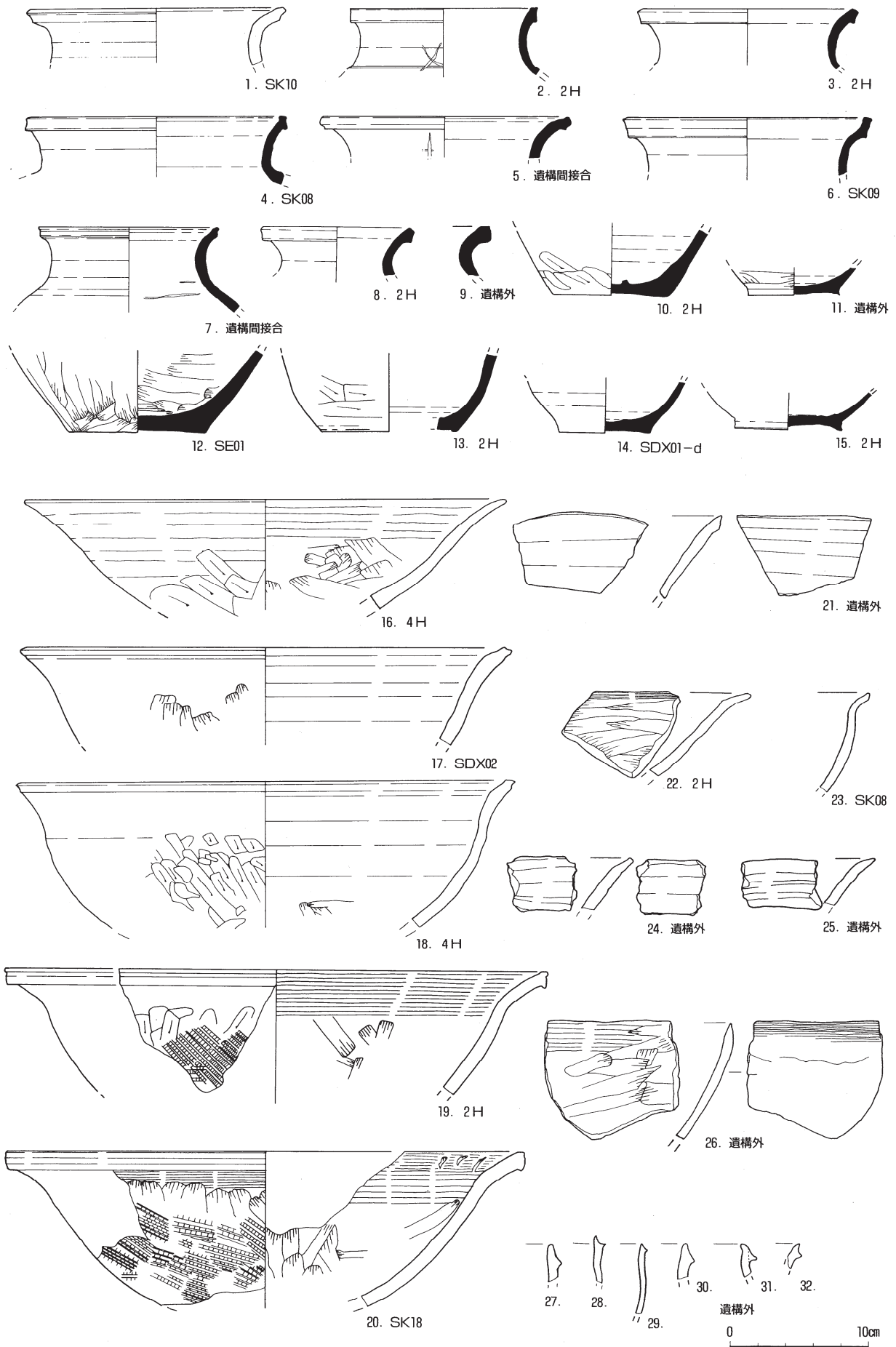


図41 壺・埴 (須恵器・土師器)



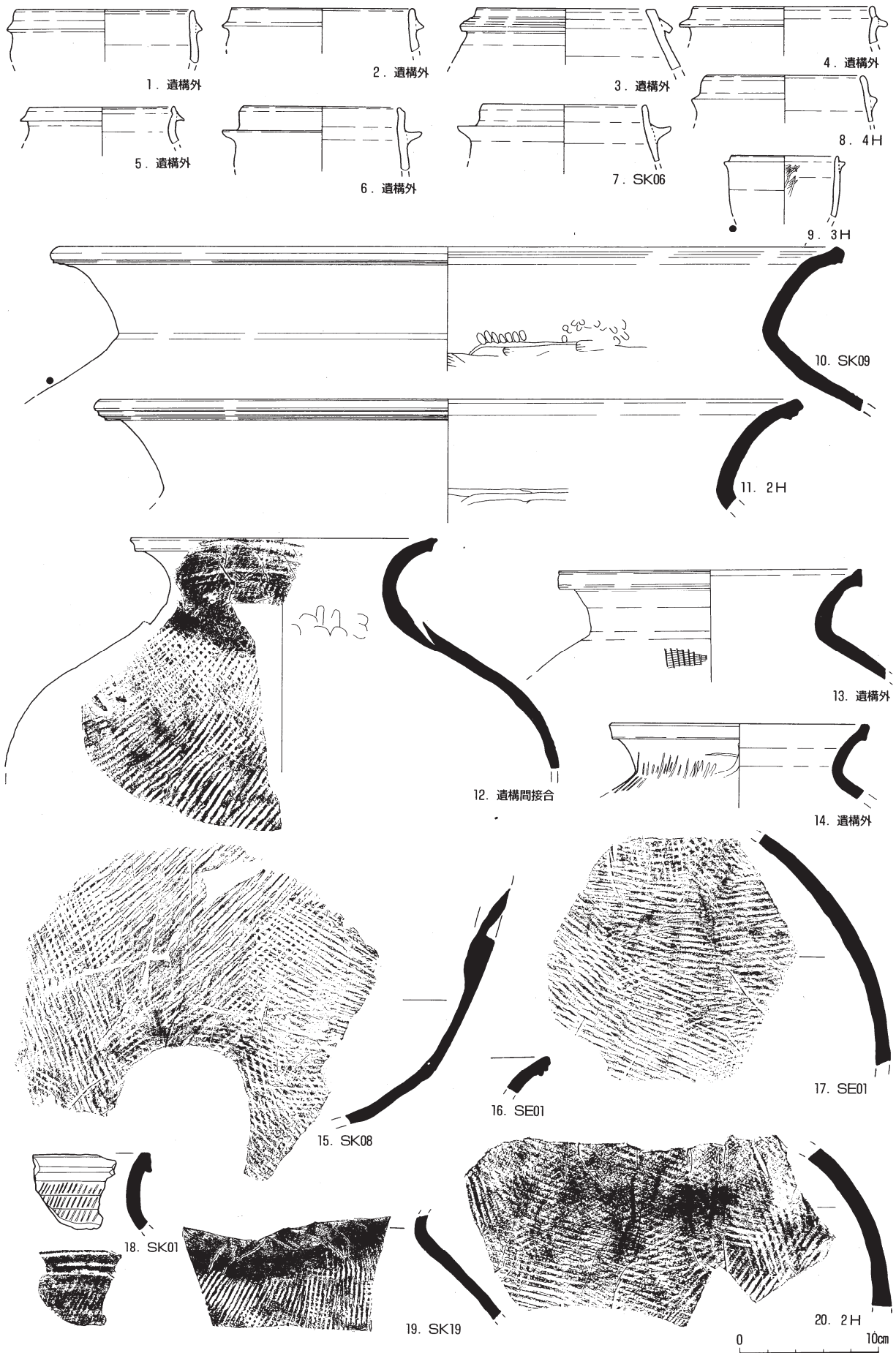


図42 羽釜・大甕 (須恵器・土師器)

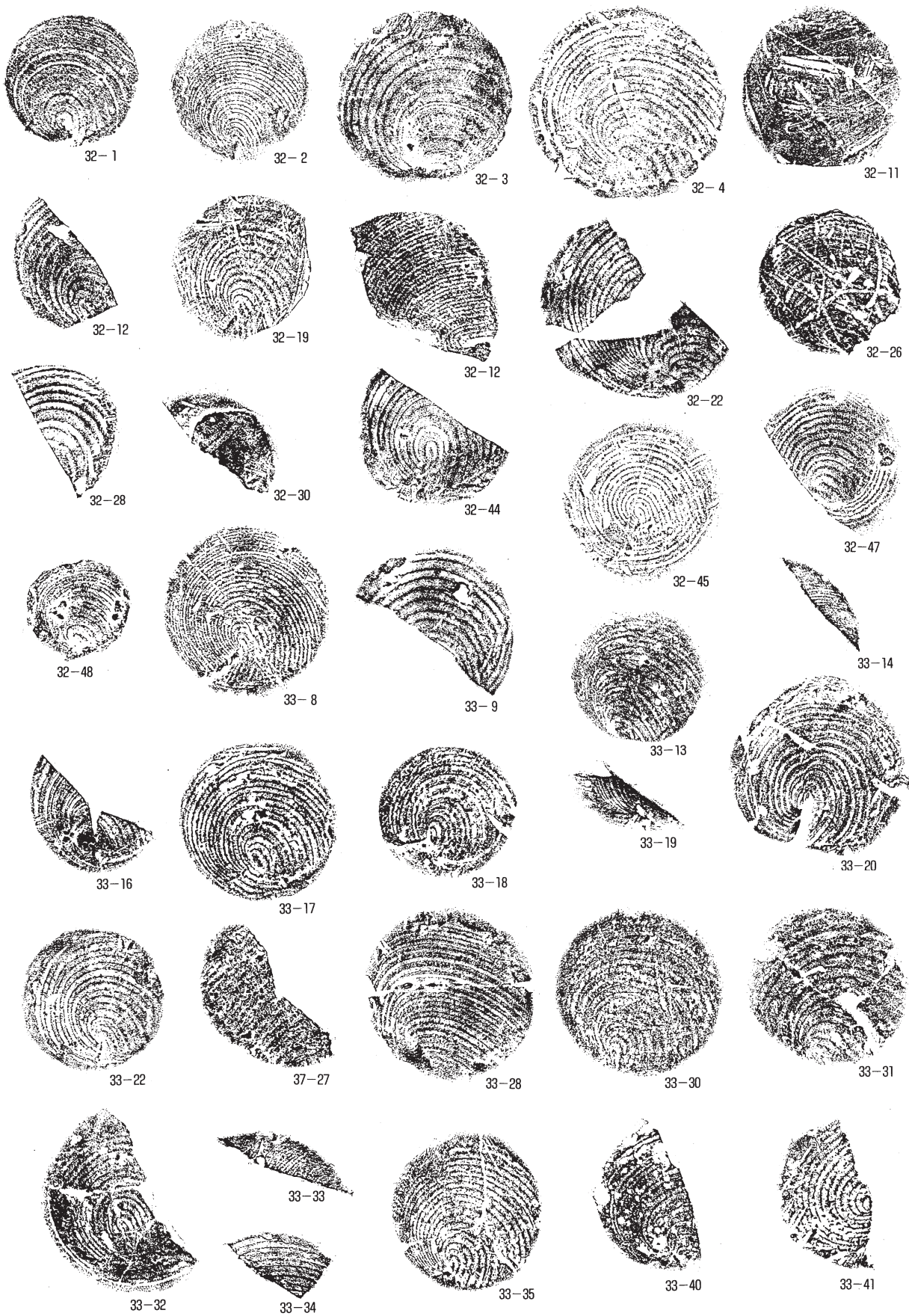


图43 底部拓本 (S = 1/2)



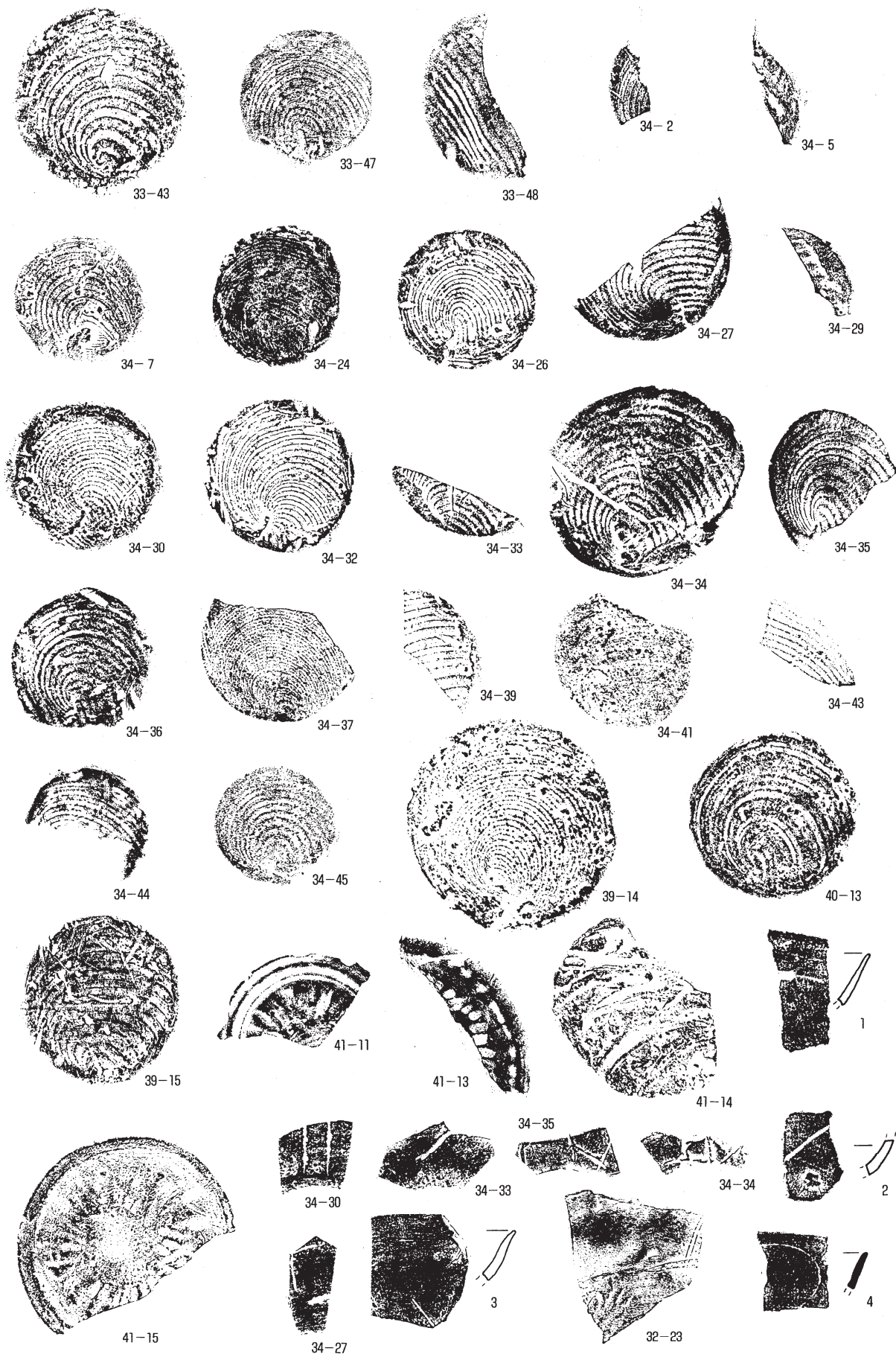


図44 底部・ヘラ書き拓本 (拓本S = 1/2、断面S = 1/4)



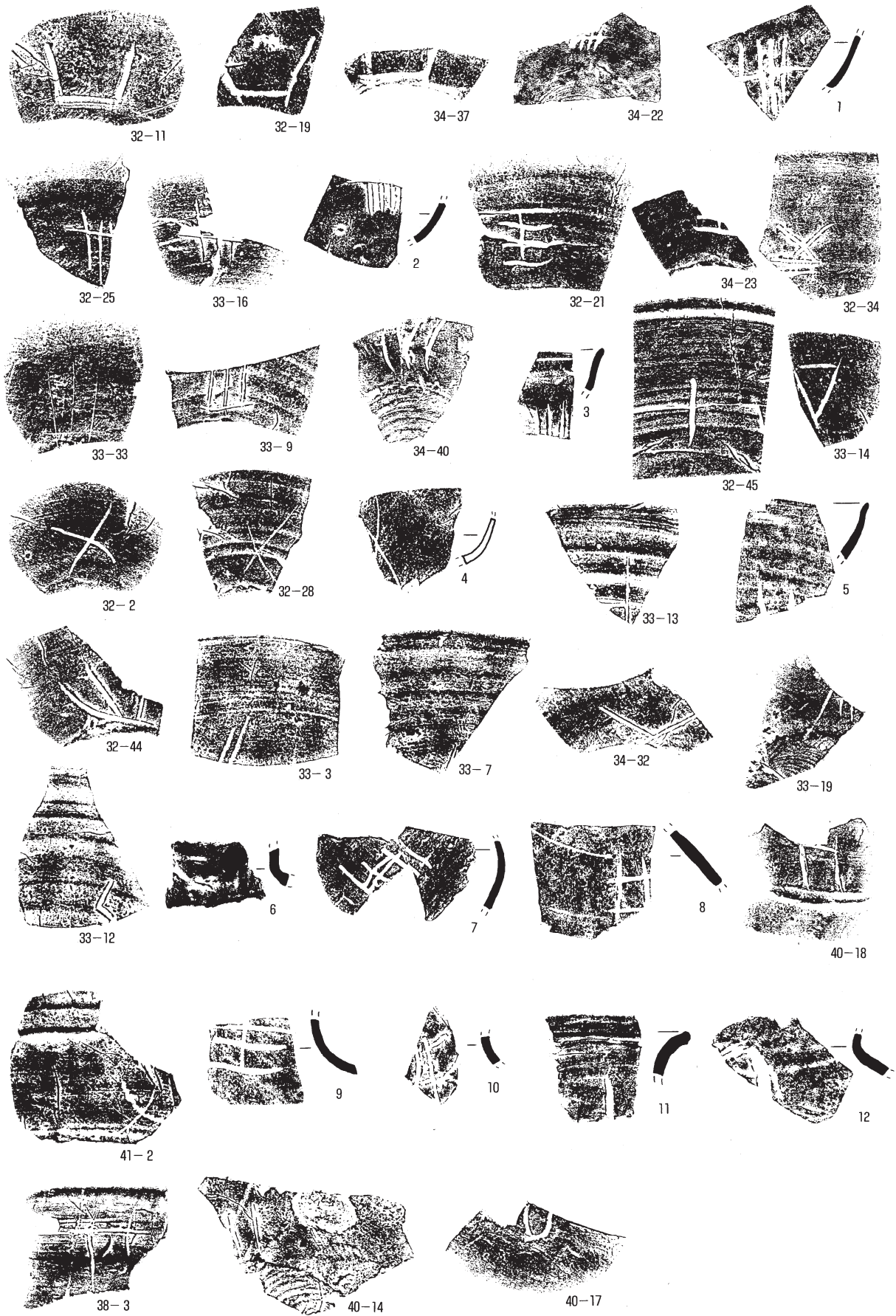


図45 ヘラ書き拓本 (拓本S = 1/2、断面S = 1/4)

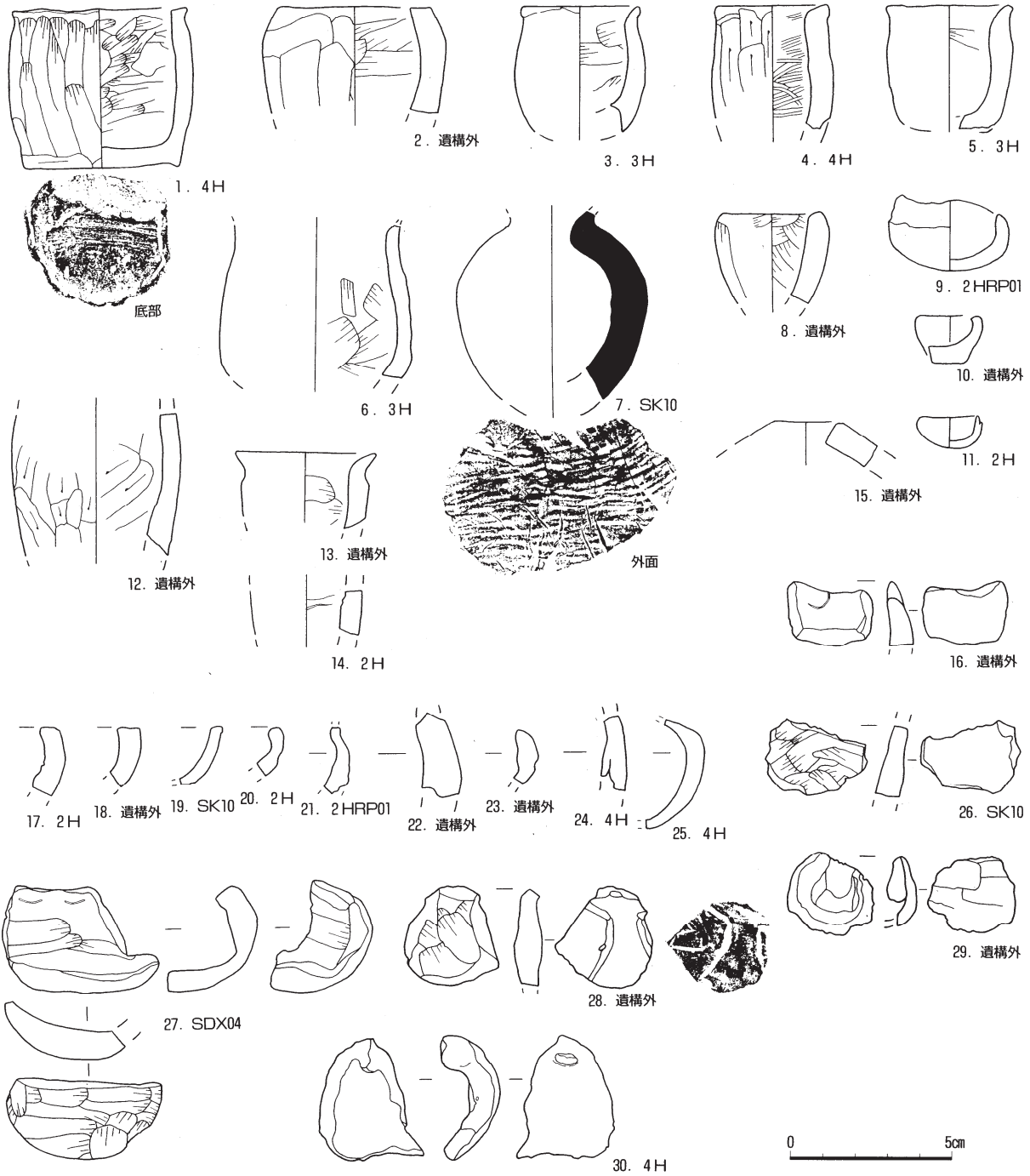


図46 ミニチュア土器

#### 4 土製品 (図47~48)

第1群、第4群、第6群の土製品が総数で18点出土した。

##### 第1群土製品：玉類 (図47-1~18)

遺構内から14点、遺構外から4点(1~3、16)の計18点出土している。穿孔は全て焼成前である。4~7、9~14、17~18の12点は2Hからの出土であり、出土率の高さを示している。1~16の丸玉の断面形は、横楕円形のものや幅に対して厚くつくられるもの等様々みられる。また、外面の色調には黒色系(1、2、6、7、13、14、17、18)、灰色系(5、16)、橙色系(3、4、8、9~12、15)の3種がみられる。17と18は勾玉で、外面は入念にみがかれ、黒色を呈す。

##### 第2群土製品：球状 (図47-19)

1点のみの出土である。外面はややざらついているが、均整がとれている。

##### 第3群土製品：土鈴 (図48-1~6)

6点出土している。5を除いていずれも紐部のみが残存であり、土鈴としての形状を留めていないが、土師質特殊遺物とは異なり、(1)ミガキが施されている(2)紐孔がみられる等の特徴から、土鈴と推定したものである。4は2Hカマドから、5はと2HRP01からの出土で、他は全て遺構外からの出土である。1と5は、体部が若干残存している。ただし、5は明らかに土鈴であるにもかかわらず、ミガキが施されておらず、非常に粗雑な作りである。4には紐孔が認められる。

##### 第4群土製品：当具状 (図48-8~10)

8~10は、キノコ状・スタンプ状の形態を呈すものであるが、従来までに報告されているキノコ形土製品やスタンプ型土製品とは明らかに異なるものである。無論、これらの用途については全く不明であるが、今回とりあえず当具状と呼称した。8の平坦部はやや膨らむものであるが、9、10はほぼ平坦なものである。8の上部は欠損しており、割口には沈線状の刺突?が観察される。この沈線状の部分の内部には入念にミガキが加えられているが、途中穿孔のような状態であったのか上面に溝状に掘り込まれていたのかは判然としない。9は外面が歪曲する粗雑な作りのものであるが、僅かにミガキが施されている。10の側面には入念なミガキが施されているが、平坦部には雑な指頭押圧が施されているのみでミガキは施されていない。9も平坦部は10と同様の作りである。(木村 高)

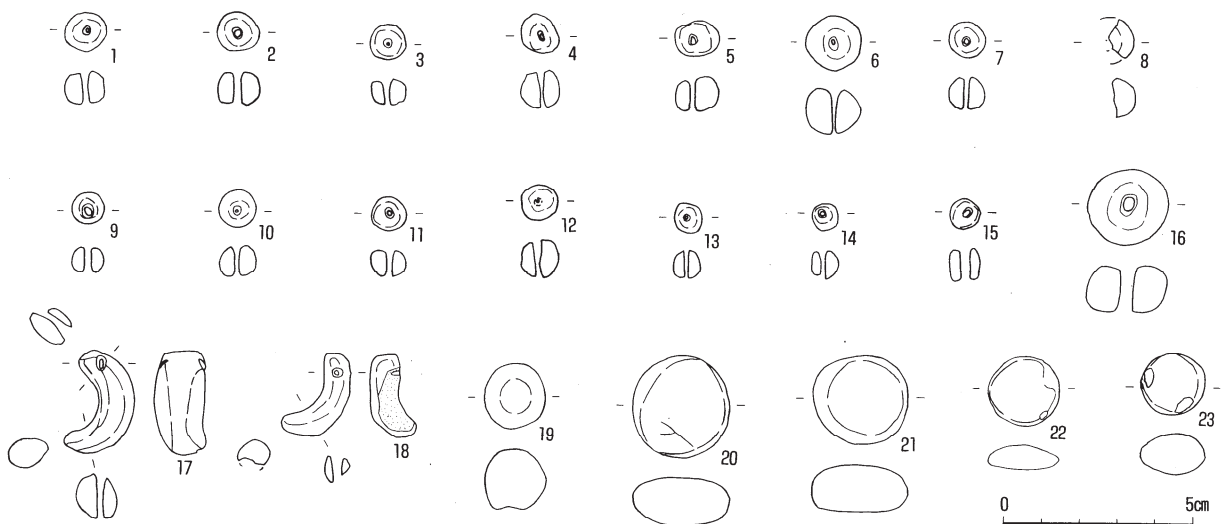


図47 土製品-1



第6群土製品：碁石状 (図47-20-23)

20と21はやや大型、22と23は小型のもので、大別すると大小2つのサイズに分かれる。色調は、基本的に黒色を呈すが、やや灰色系のもの(23)もみられる。

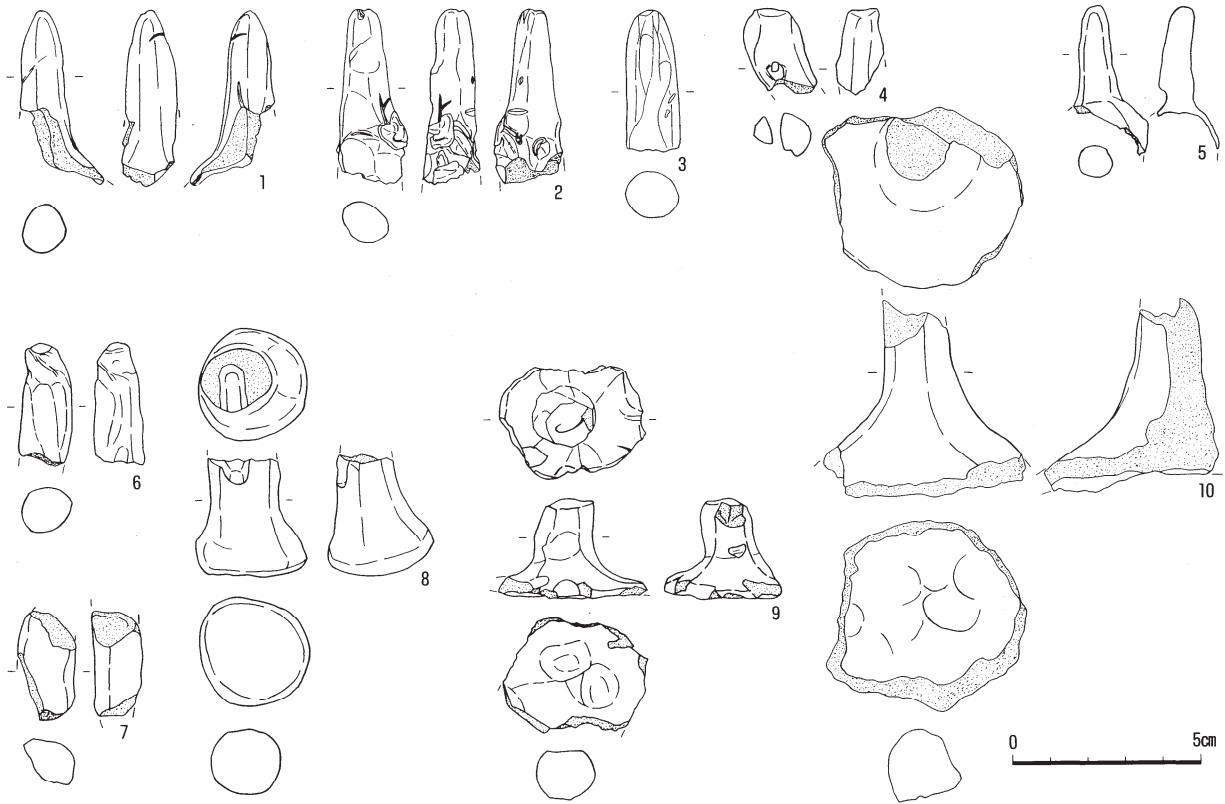


図48 土製品-2

5 土師質特殊遺物 (図49)

遺構外からの出土が圧倒的ではあるが、2H、4Hからの出土もやや目立つ。色調は、大半がにぶい橙色～橙～明赤褐色で、まれに褐色～黒褐色のものがみられる。

第1群土師質特殊遺物：粘土紐状のもの (図49-2～8)

2の表面には瘤のような粘土が貼り付いているが、偶発的な付着と考えられる。3はやや平坦につくられ、粘土紐を潰したものと思われる。4は弓状に曲げられ、両端部はさらにねじられている。6には指頭圧痕が目立つが、これは棒状にのばした後の指つまみによって生じた痕跡と考えられる。8は、棒状であったものが平坦に潰されているものと思われ、表面には須恵器甕に施されるタタキ目のような筋がかすかに観察される。

第2群土師質特殊遺物：粒状のもの (図49-9～12、33)

12は、筒状の粘土の半分が押圧によって潰れたような形状を呈す。9には、粒状の粘土を摘んだ時に生じたと思われるしわが明瞭にみられる。33の表面には植物性の繊維の圧痕が明瞭にみられる。

第3群土師質特殊遺物：板状のもの (図49-1、14～25)

1の胎土は焼成粘土塊に類似するが、側縁にはナデによる調整が一周している。14は整った楕円状を呈している。15は黒色の焼成で、やや黒光りしているところも認められるものである。裏面は非常に平坦で、何か平らなものの上でプレスしたものと推察される。16は、下端部を押圧によって平坦にしており、その際の粘土のはみ出



図49 土師質特殊遺物

しが顕著である。17は、裏面が極めて平坦で、平らなものの上でプレスしたことが明瞭にわかるものである。20の平坦面には編み方も推定できるほどの布圧痕が明瞭に残っている。繊維は非常に細いもので、ガーゼのような状態を呈す。21～25は、二本の指で薄く延ばされた状態のものと思われる。23の表面には靱痕が1つ観察される。

**第4群土師質特殊遺物：不整のもの** (図49-13・26～32・34～36)

13は、欠損した玉のような形状を呈すが、中央の抉れた部分は、棒状のもの?による貫通によってつくられているようである。35の表面は指頭によるランダムな押圧の結果、歪んでいるもので、爪先の刺突痕が顕著にみられる。34には、粘土の水分が少なかったためか粘土時のひび割れが多く認められる。36の表面には複数の粘土を合体させたようなもので、焼成前のしわが著しい。これらは粘土を無作為にまるめたり、潰したりした結果を呈しているものと思われる。(木村 高)

**6 粘土塊** (図50)

1、2とも胎土分析を実施している。詳細については観察表と第IX章第2節を参照。

**第1群粘土塊：長さ×幅5cm前後** (図50-2)

2は、にぶい橙色を呈し、胎土中には石英粒?を主体にした多量の小礫が混入している。焼成しているように硬質で、堅緻である。裏面は非常に平坦で、何か平らなものに押しつけていると考えられる。5HSD01の深部からの出土である。

**第2群粘土塊：長さ×幅7cm前後以上** (図50-1)

1は、灰黄褐色を呈すものである。2Hの4区の床面に出土している(註)。(木村 高)

(註) 図7に出土地点が示されている。スクリーントーンはシルト礫のものが貼られているが、粘土塊が正しい。ここに訂正しておく。

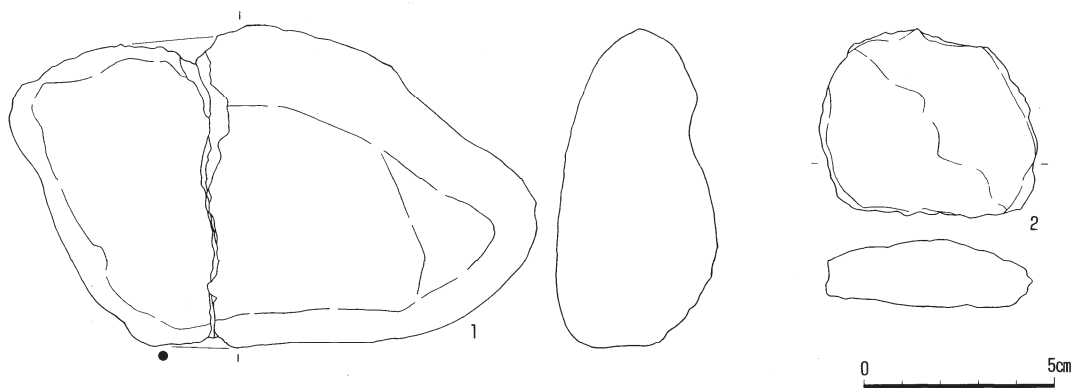


図50 粘土塊

**7 焼成粘土塊** (図51)

隠川(4)遺跡と比べると出土点数は非常に少ない。

**第1群焼成粘土塊：断面厚さ8～20mm** (図50-1～5)

1は、表面に一部段を有しつつ球状に丸みを帯びているもので、(4)図55-14の土師質特殊遺物に



類似しているが、胎土・焼成が一般的な焼成粘土塊に非常に近いものである。2、3は、周縁に割口がほとんどみられないことから、土師質特殊遺物に含めることも可能なものであるが、外面全体に著しく植物性の繊維が観察される。2点とも褐灰～黒褐色を呈し、焼成粘土塊全体のなかでみるとやや異質である。4の外面にはナデがみられるが、軟質であるためあまりはっきりしない。5の割口には植物性の繊維の混入が観察され、堅緻な焼成である。

第2群焼成粘土塊：断面厚さ26mm以上 (図50-6、7)

6の表面は平坦で、裏面には植物性の繊維の混入が顕著にみられる。植物性の繊維はかなり太いものであり、他の焼成粘土塊に見える植物性の繊維の痕跡と比較してもやや異質である。表面の平坦面には稜がついていて、3面形成されている。7は、カマドから出土したものであるが、堅緻な焼成ではあるもののやや粉っぽく、一般的な焼成粘土塊とは異なる。裏面には卵形の窪みがみられる。(木村 高)

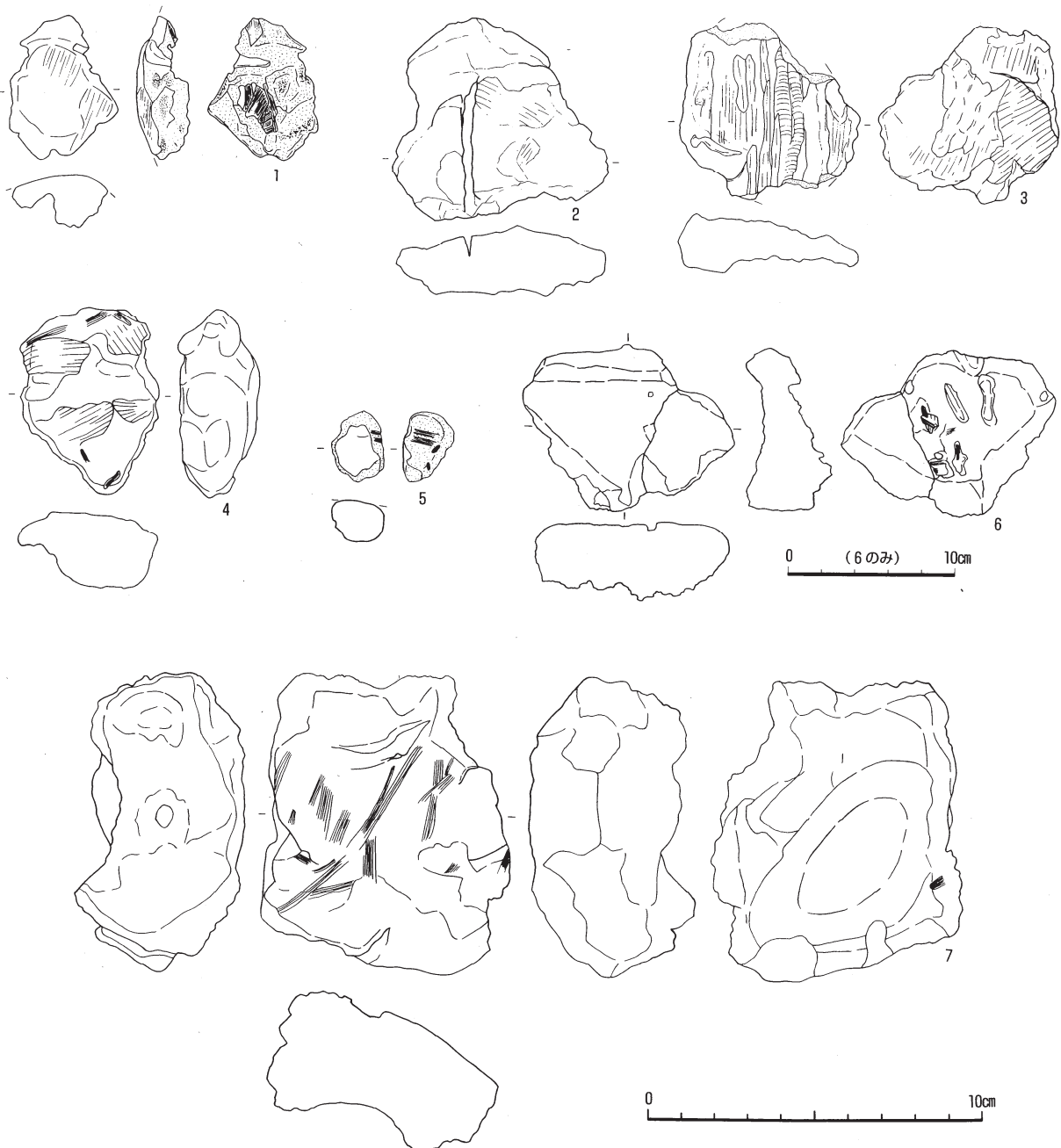


図51 焼成粘土塊

## 8 須恵器窯壁片 (図52~53)

隠川(12)遺跡からは、まとまった数量の須恵器窯壁片が出土している。大型のものは、2 H、4 H、S K 08等から主に出土しているが、小破片は遺構外からの出土が多く、2 Hの東方の斜面に目立っている。表面(窯内面)の色調は、暗赤褐色系のものから、完全に還元を受けて自然釉が生じている黒~褐灰色のものまで様々みられる。裏面は、窯構築時の掘り方の壁面あるいは充填土と接していた部分と考えられるが、あまり被熱していないため非常に軟質で、粉っぽい。色調は灰白~灰色を呈す。

### 第1群須恵器窯壁片：焼土の付着がみられるもの (図53-1~3、6~8)

焼土は、主として還元面(図の表面)に付着しているが、側面の割口や裏面にもかすかに確認できる。特に8の焼土は、還元面にある、植物性の繊維痕の窪みに、めり込むように付着していることから、二次利用時に粘土が塗られ、その後被熱しているものと考えられる。焼土の中に植物性の繊維の痕跡はみられない。3、7、8には心材痕がみられる。特に3の心材痕は良好に残存しており、心材の断面径(5.6cm)を推定できるものである。8の断面直角を呈す部分は角材の痕であろうか。他の資料の心材痕はいずれも「材」の痕跡というよりは「棒」の痕跡と言うべき細いもの(2.0~2.4cm)である。

### 第2群須恵器窯壁片：焼土の付着がみられないもの (図52-1~7・図53-4、5)

5の表面には心材痕がみられる。7の平坦面には須恵器片が溶着している。全面が還元されていることと、須恵器片の溶着から、窯内において焼成中に崩落し、須恵器と接していたものと推定される。

(木村 高)

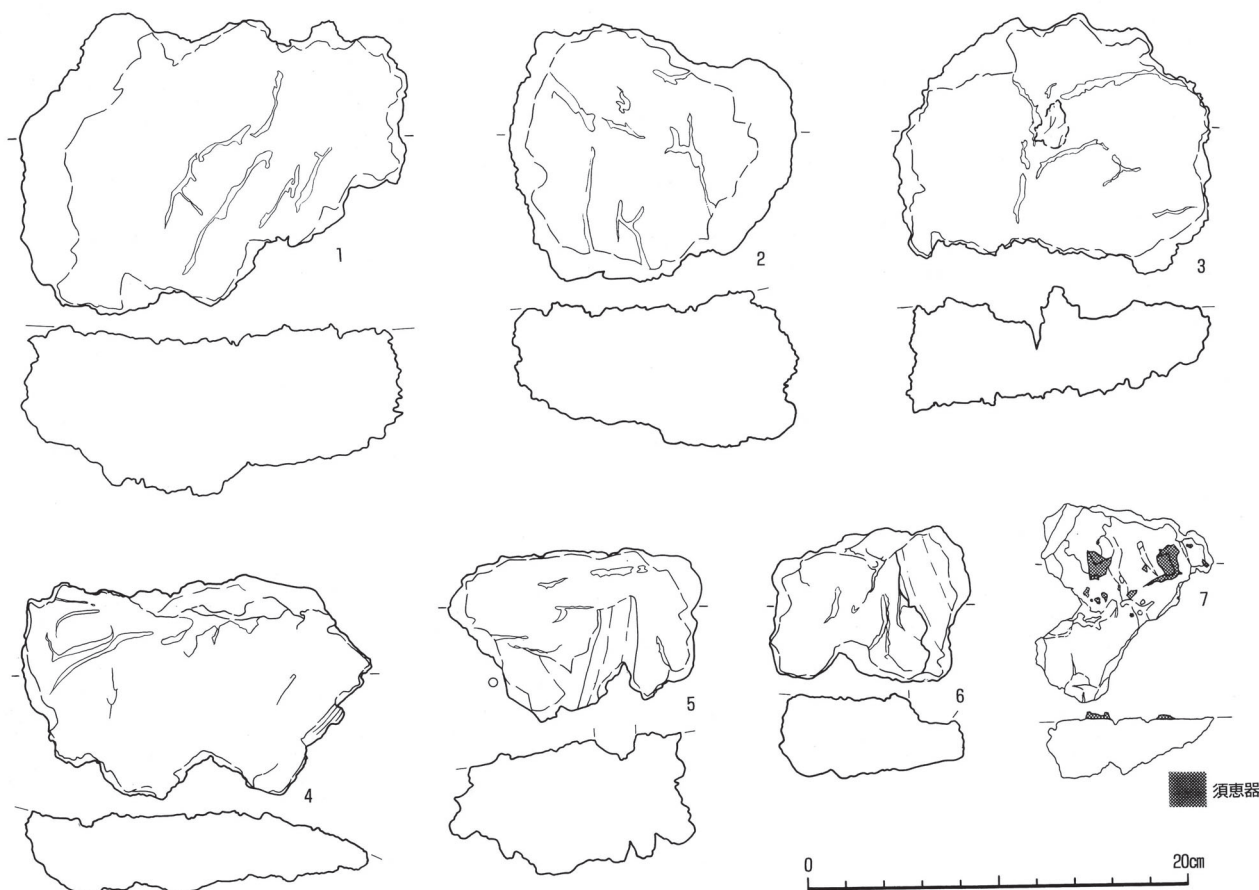


図52 窯壁片-1

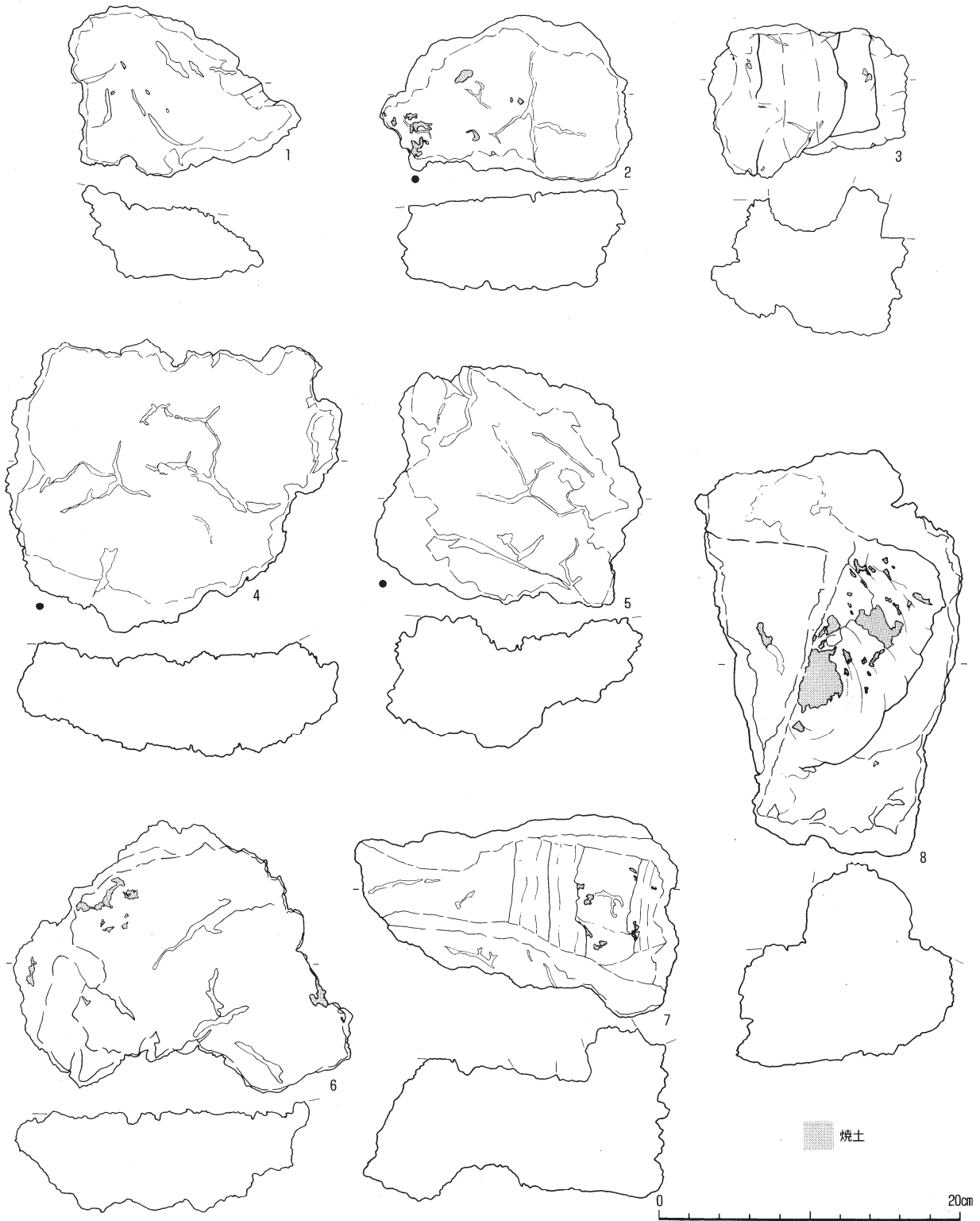


図53 窯壁片-2

## 9 石製品 (図54)

第1群石製品：玉類 (図54-1)

1は、自然孔をそのまま利用し、外面調整を一切施さないものである。SK08の覆土から出土していることより、自然遺物ではないと判断した。



第2群石製品：砥石 (図54-6)

平安期の一般的な砥石とはやや異なり、自然礫の平坦面を磨っているだけのものである。砥面は1面で、非常に滑沢である。この資料が確実に平安期のものかどうかの判別は困難であるが、4Hの覆土から出土していることから平安期に含めておいた。

第3群石製品：礫を直方体に成形しているもの (図54-8、図55-1~3)

図54-8は、5Hの床面、5HRP01のすぐそば(11区)に出土したものである。五角形状の断面直方体の礫であり、床面にしっかりと安置されていた。砂粒を多量に混入する凝灰岩を素材としており、表面には粘土が付着している。器面がざらついたものであるため、加工痕は見いだせないが、形状から判断して、人為的に整形されているものと思われる。

図55-1~3は、シルトを直方体に整形しているものである。被熱痕の認められるものが少なくないことと、2Hカマドの付近に出土しているものが多いことから、カマドの構築材として使用されて

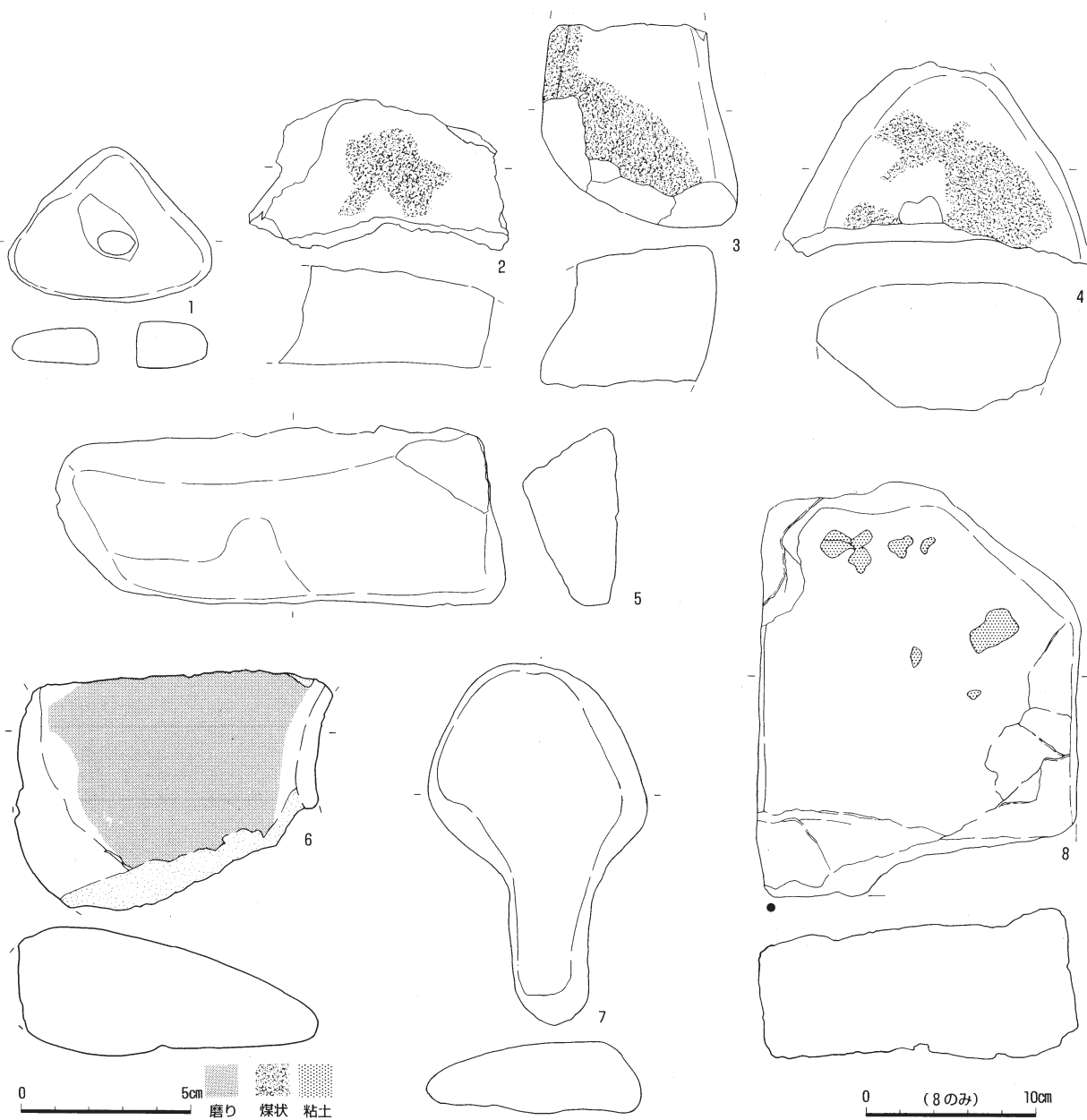


図54 石製品・礫

いたと推定される。ここでは形状の良くわかる2点と、SK08から出土した1点のみ図示した。1は、被熱痕の認められるもので、1面欠損しているが、原形にかなり近いものと推定される。2は、4面残存しているもので、表面には、切り出した時の擦痕や削痕がかすかに観察され、一部に焼土が付着している。3は、2面のみの残存であるが、擦痕と被熱痕が認められる。これらの資料の色調は灰白色で、所々に明赤褐色の筋が縞状に入っている。非常に軟質で脆く、全面が粉状である。

**使用された可能性の高い自然礫** (図54-2~4、7)

2~4の外表面には被熱痕がみられ、いずれも割れている。7には人為的に付加された要素がみられないが、形状が非常に特徴的なことと、SK08から出土していることから参考までに掲載しておいた。

(木村 高)

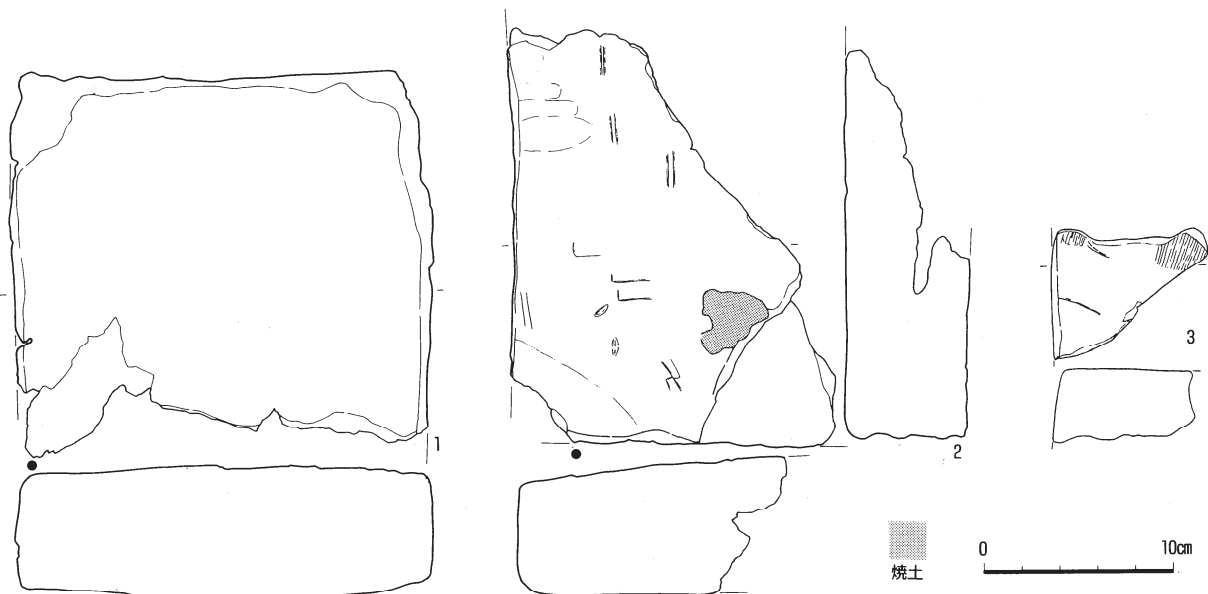


図55 シルト礫

**10 鉄製品** (図56-1~5)

鉄製品は総数でわずか5点のみの出土である。

**第1群鉄製品：刀子** (図56-3~5)

3~5は、刀子の破片で、5Hの覆土に出土したものである。恐らく3点とも同一個体であると思われる。5は刃部を有している。

**第2群鉄製品：用途不明** (図56-1、2)

錆が多量に付着しているため、本来の形状は不明であるが、1は楕円形のリング状のものに、棒状のものが刺さるような形状を呈すものである。2は、不整楕円形で板状を呈すものである。(木村 高)

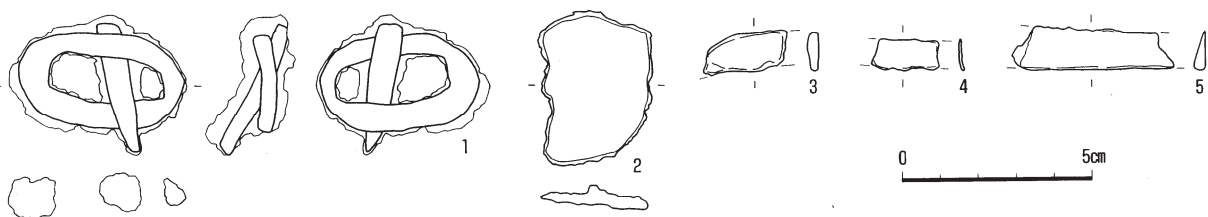


図56 鉄製品

### 第3節 縄文時代の検出遺構

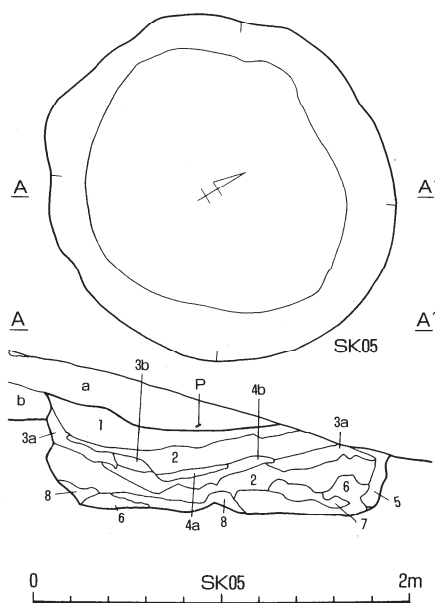
#### 1 土坑

検出した縄文時代の土坑は総数で2基のみである。隠川(4)遺跡と比較すると極端に少ない。SK05は調査区東域の斜面の下位にある平坦地に確認され、砂層を掘り込んでおり、壁面、底面も同じく砂層である。SK22は、第IV層の上面に確認されている。SK05の堆積土は、層のラインと混入物の状態よりみて自然堆積と推定されるものであるが、SK22は自然堆積か人為堆積か推定できない。平面形はSK05が不整形円形、SK22が楕円形で、断面形はSK05、SK22ともに箱形を呈す。

本節においては、紙数の都合上、検出位置(グリッド)、規模、出土遺物等を一覧表にまとめて記載した。(木村 高)

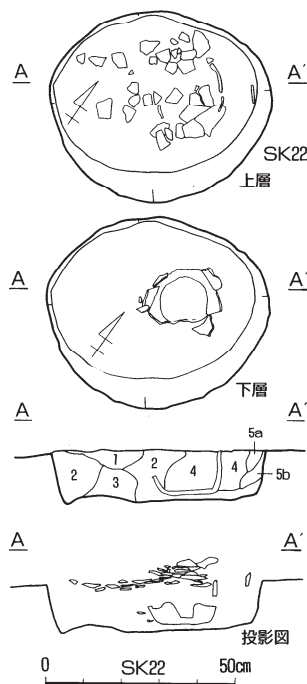
表 土坑(縄文時代)観察表

土坑番号	検出位置	形態		規模 (cm)			出土遺物・備考
		平面形	断面形	長軸	短軸	深さ	
SK05	I/J-150	不整形円形	箱形	184	184	44-60	
SK22	F-161	楕円形	箱形	59	51	12-14	縄文土器(図-58-36) 底部は底面付近、胴部は確認面出土



SK05

- a 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~15mm)少量、炭化物(φ3~10mm)極微量混入。
- b 層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1~10mm)極微量混入。
- 1 層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1~15mm)微量、炭化物(φ5~8mm)極微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR3/1 炭化物(φ1~5mm)極微量、砂ブロック(φ5~40mm)少量混入。
- 3a 層 黒色 10YR2/1 砂ブロック(φ5~10mm)極微量混入。
- 3b 層 黒色 10YR2/1 砂ブロック(φ10~30mm)極微量混入。
- 4a 層 黒褐色 10YR2/2 炭化物(φ1mm)極微量、砂ブロック(φ10mm)微量混入。
- 4b 層 黒色 10YR2/1 炭化物(φ1~4mm)極微量、砂ブロック(φ3~20mm)少量混入。
- 5 層 黒色 10YR2/1 炭化物(φ3~8mm)極微量、砂ブロック(φ5~30mm)少量混入。
- 6 層 黒褐色 10YR3/1 砂層、浮石(φ10mm)1つ混入。
- 7 層 黒色 10YR2/1 砂ブロック(φ10~45mm)少量混入。
- 8 層 黒褐色 10YR3/1 炭化物(φ1~5mm)極微量、砂ブロック(板状)少量混入。



SK22

- 1 層 黒色 10YR1.7/1 ローム粒微量混入。
- 2 層 黒褐色 10YR3/1 ローム粒子(φ1~3mm)全体混入。
- 3 層 黄褐色 10YR5/8 ローム。
- 4 層 黒褐色 10YR2/1 2層と混入物同。
- 5a 層 黒色 10YR2/1 ローム粒(φ1~4mm)多量混入。
- 5b 層 黒褐色 10YR2/3 ローム粒(φ1~4mm)多量混入。

図57 土坑(縄文時代)



## 第4節 縄文時代の出土遺物

### 1 土器

遺構内外出土の破片はおよそダンボール1箱分で、グリッドH-150～J-160に分布する傾向が認められる。おおよそ縄文前期中葉から晩期にかけての遺物が出土した。

#### 第Ⅱ群土器 (図58-1～9、13、36)

1から5はいづれも連続刺突列が確認できる。1は半裁竹管によるコンパス文が施されている。表館・芦野Ⅰ群から早稲田6類の範疇に収まるものと思われる。6～9、13、36は撚糸圧痕、撚糸文を主文様とする。

#### 第Ⅲ群土器 (12・33)

12は撚糸圧痕の施された隆帯間に、馬蹄状の撚糸圧痕が施される。円筒上層b式と思われる。33は貼り付けの弱い隆帯間に地文の縄文が見受けられる。円筒上層d式と思われる。

#### 第Ⅳ群土器 (14～19)

おおよそ後期初頭から十腰内Ⅰ式である。14は横位の貼り付け部に連続的な竹管状の工具による刺突を施す。色調は橙色を呈し、器面は平滑である。17・19は同一個体と思われ、地文の縄文に細い沈線を施す。18は外反口縁部を磨消し、接合痕が明瞭である。

#### 第Ⅴ群土器 (20～28、30～32、35)

25・27は同種の器形で大洞C1式と思われる。26はやや口縁部が波状を呈し、内面・磨消部分ともミガキにより平滑に調整されている。28は工字文施文であり、内外面とも平滑である。30・31の地文は条痕であり、31は口縁部に幅の広い3条の沈線を有するが、施文後ミガキが施されている。35は文様間の地文が顕著に残存している。沈線は幅の広い、しっかりとしたものである。底部付近にも同様の沈線を有する。内面はミガキより非常に平滑に仕上げられている。

#### 第Ⅵ群土器 (10、11、29、34)

10は縄文原体の端部も押圧され、それが横の区画を形成しているかもしれないが不明である。前期前葉の所産か。11は多軸絡条体を施しており、前期後葉の所産か。34は黄橙色を呈し、鉤状の沈線状の凹み部分は断面と似たざらつきを呈している。(三林 健一)

### 2 土製品 (図58-37)

1点出土した。4Hの床面から出土したものである。欠損しているが、角棒状を呈すものと推察される。長軸の上下に貫通孔、外面の4面にU字状の沈線が施され、その外側には4辺に沿うように円形の連続刺突が巡らされる。焼成は堅緻でミガキも加えられているが、一部磨滅している。(木村 高)

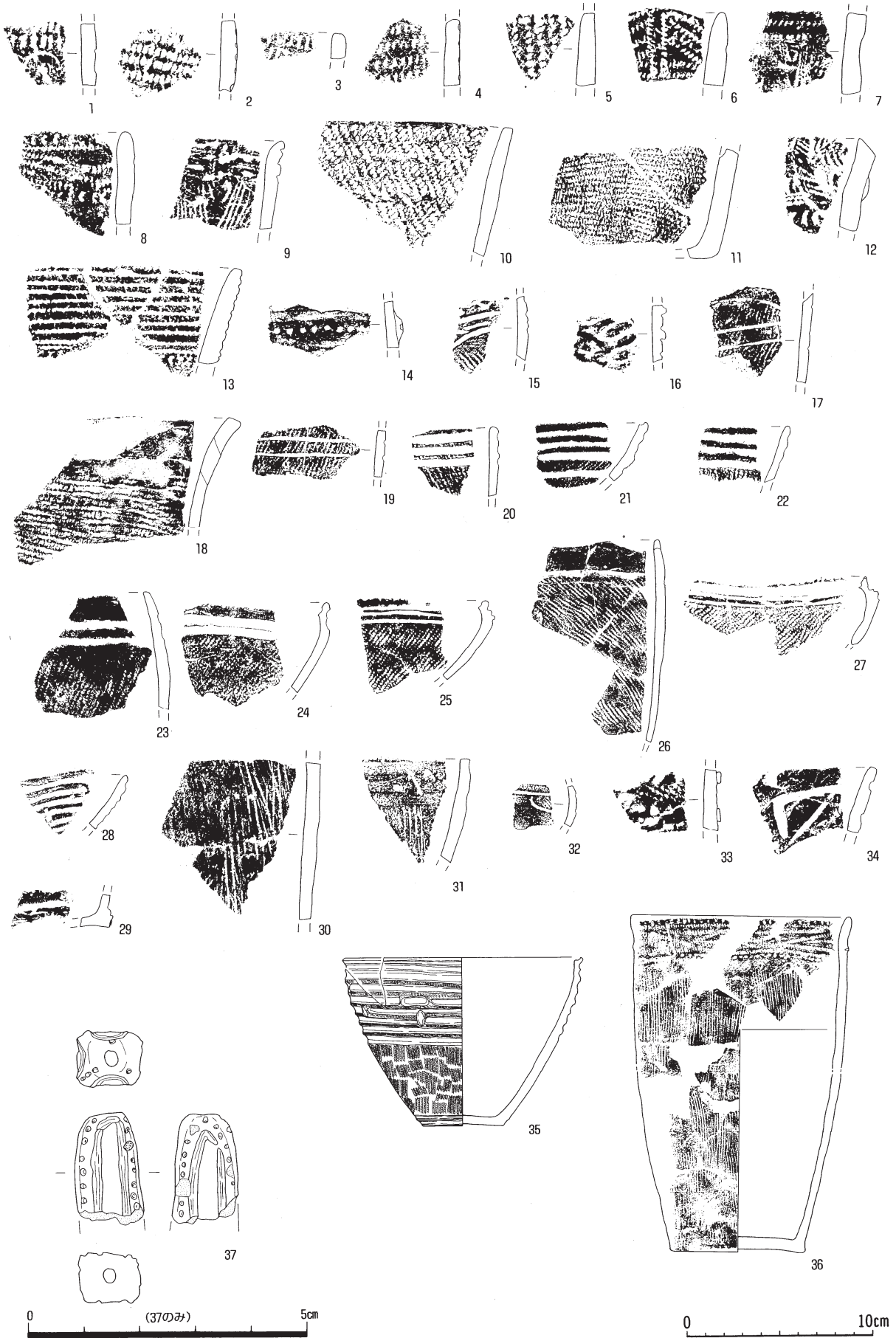


図58 縄文土器

### 3 石器 (図59~62)

石器は、土器との共伴関係が極めて希薄であるため、土器型式毎の記載は行い得ないが、他遺跡で出土している資料との大まかな比較では、縄文時代のものが主体的であると推定される。

いわゆる定形石器は全点掲載した。※参考までに煤状炭化物の付着する自然礫(図62-10)も参考までに掲載した。縄文時代のものであるかどうかは不明である。

#### 第1群石器：石鏃 (図59-1~22)

基部に着目すると、平基(1~4)、凹基(5~6)、尖基(7~12)、円基(13)、有茎(14~18)の5種がみられる。有茎は、Y基がほとんどである。19~22は、基部が欠損している。

#### 第2群石器：スクレイパー類 (図60~図61-11)

図60-1~3は、つまみ部を有すいわゆる石匙で、いずれも縦型である。全ての裏面は主要剥離面を大きく残すもので、側縁の一部に調整剥離が若干施されている。図60-1はつまみをつけた尖頭器として認識することもできるが、刃部の断面角よりみて搔器的な用途に用いられたものである可能性もある。

図60-4、5は、剥片に対する加工法等が、図60-2、3の石匙と類似しているが、つまみ部を持たない。図60-6、7は、ごく一部に刃部が作出されているものである。図60-8~14、図61-1~

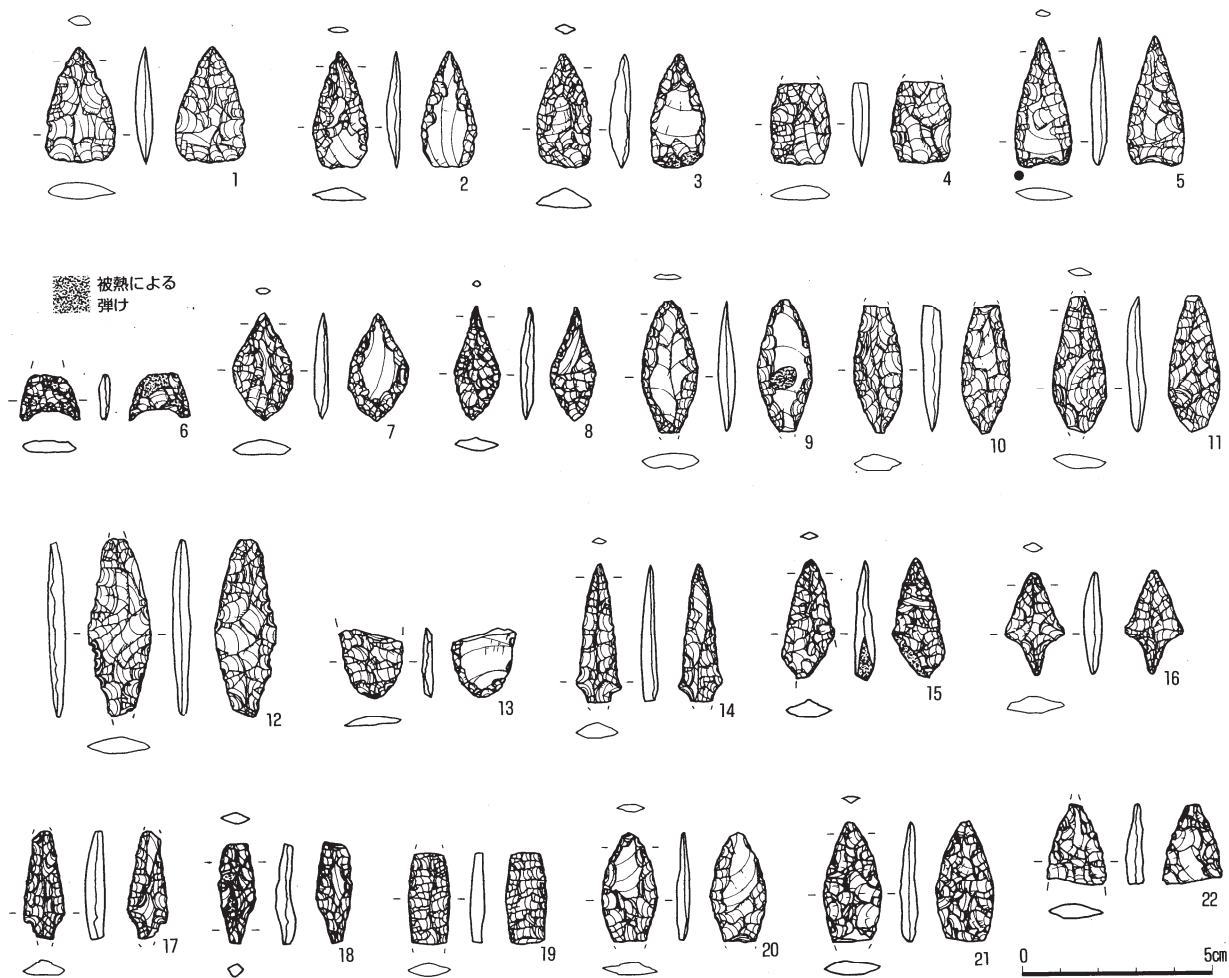


図59 石器-1



3は、形状にややばらつきがあるが、いわゆる石篋及び石篋様のものである。欠損資料（図60-13、14、図61-3）を除くと、上部が狭く、下部は広がる形状のものが主体で、楕円形のもののみはみられない。図60-8、12の頭部は器体に対して斜めであるが、その他はほぼ水平である。ほとんどの資料は左右側縁の両面に調整剥離が施されているのに対し、下方側縁の調整剥離は片面のみのものが多い。図60-11、12、図61-2、3の下側縁の刃部は搔器的なものである。ただし、図61-2、3は平面形と刃部作出の方法でみる限り、図60-8～14とは全く異なった用途のものと考えられる。図61-5は、搔器的な刃部を持つ。図61-4、6、7、9は、一部に刃部作出のための調整が加えられている。図61-8の右側縁のくぼんだ部分には潰れた痕が観察される。図61-10の側縁には、使用によって生じたと思われる微細な剥離が観察される。図61-11は全面剥離しており、一部に節理面が観察される。

#### 第4群石器：磨製石斧（図62-1、2）

2点出土した。いずれも欠損している。1は装着部が欠損しており、2は刃部のみ残存している。1の刃部は両凸刃で、鑄はみられない。刃部はやや偏刃状を呈す。

#### 第5群石器：石皿（図62-9）

1点出土した。欠損しているため、全体の形状は不明であるが、恐らく楕円形を呈していたものと考えられる。外縁は微妙に高まり、底面は丸みを帯びている。

#### 第6群石器：磨石（図62-3～8）

3～5は、不整楕円形～隅丸長方形を呈す礫の長側縁を磨っているもので、3、4は1側縁、5は両側縁を磨っている。いずれも磨面の縁には剥離がみられるが、使用時に生じた剥離であると思われる。3の平坦面のほぼ中央には敲打痕が観察される（第7群石器）。6は礫の平坦面の1面を磨っている。7、8は楕円形の礫を素材としており、8は両平坦面に磨面が認められるが、7は被熱のために風化が著しいためあまりはっきりしない。

#### 第7群石器：敲打痕のある礫（図62-3）

1点出土した。3の平坦面のほぼ中央には敲打痕が観察される。1側縁には磨面もみられ、第6群石器にも該当する2つの要素を兼有するものである。（木村 高）

## 4 石製品（図61-12）

石器として捉えるべきものかも知れないが、特殊なものであるため石製品として独立させた。12は、磨製石斧の破片を素材としており、剥離していない部分には、擦痕を有す磨製石斧の独特の器表面が観察される。側縁の両面に調整剥離が全周しているが、刃先部に相当する部分は潰され、白くなっている。（木村 高）

隠川(12)遺跡

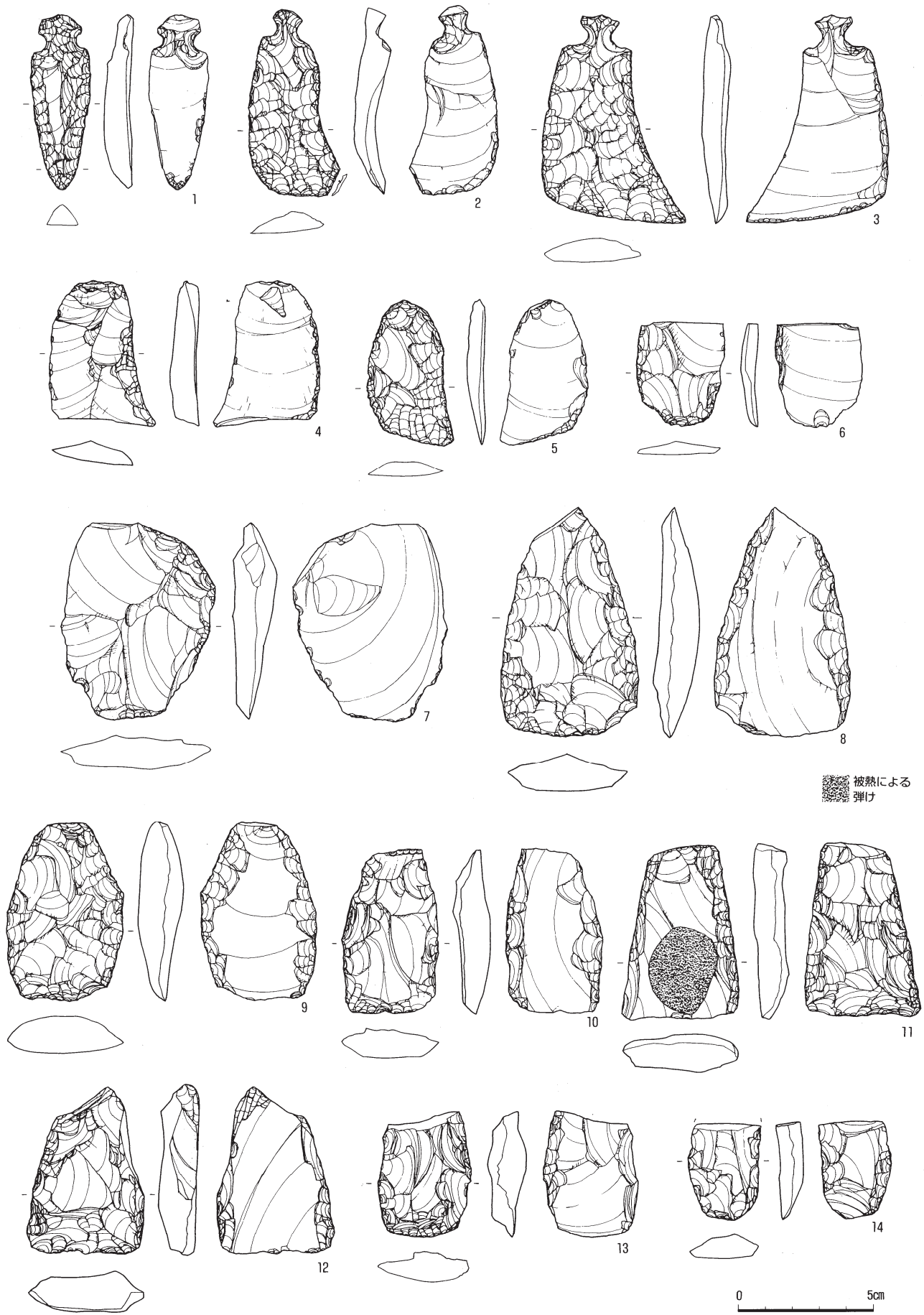


図60 石器-2



图61 石器-3



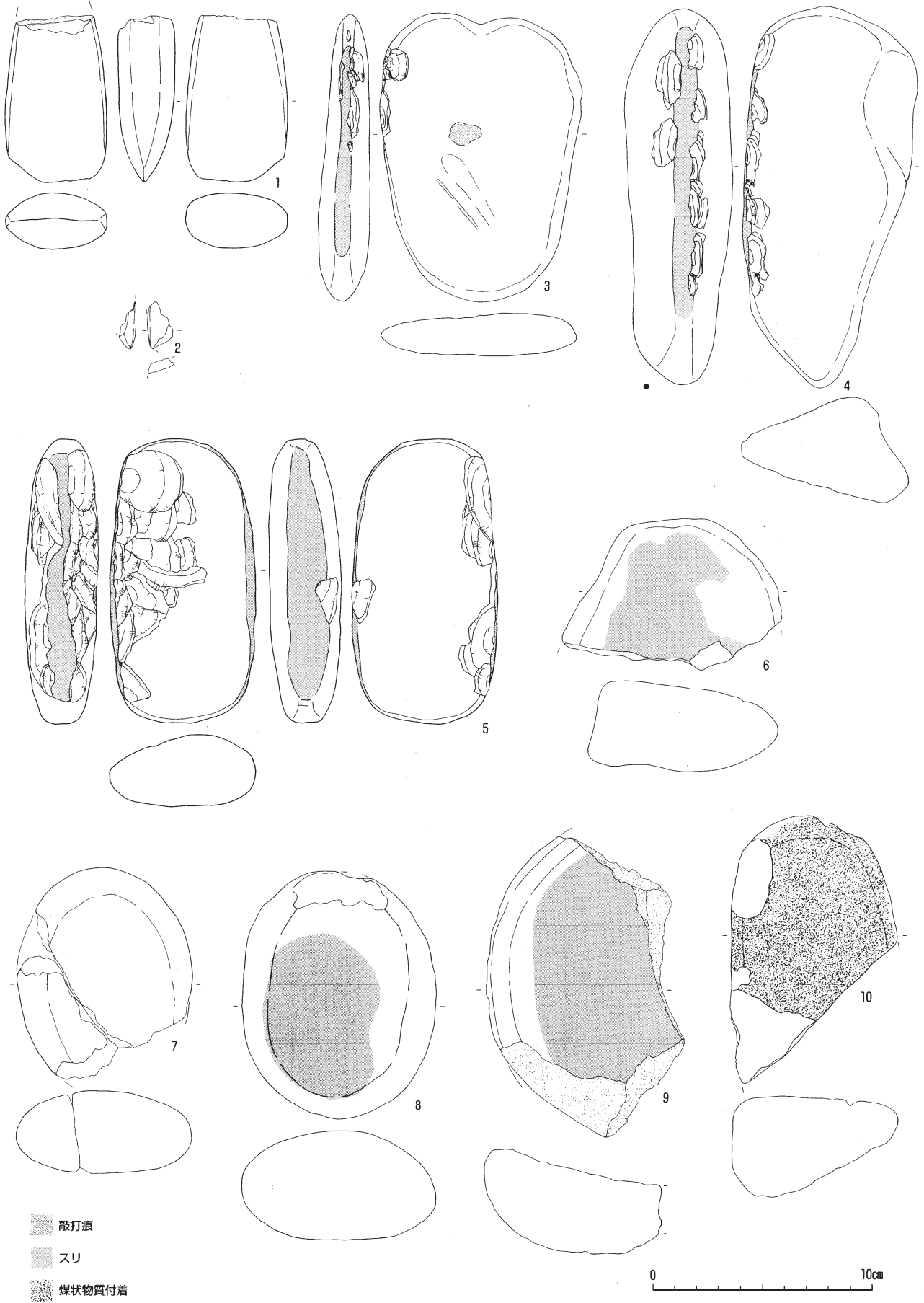


図62 石器-4

## 第5節 弥生時代の出土遺物

### 1 土器 (図63)

#### 第1群弥生土器：前期前半の土器 (1)

ほぼ1期弥生土器に相当するものである。変形工字文を施す鉢であると思われ、上位に2条、底部付近に1条の横走沈線が巡る。胎土は極めて精選され、目立った混入物はほとんど観察されない。内外面とも滑沢で、単位は観察できないがミガキが加えられているものと推察される。沈線の幅も非常に均一(3~4mm)である。色調はにぶい黄橙色(10Y R 7/4)を呈す。型的には砂沢式に併行するものと考えられる。

#### 第4群弥生土器：後期の土器 (2~4)

胎土に混入する砂粒・調整・整形技法等の面で見ると、3点とも同一個体と思われる。他にも同一個体と考えられる小破片が出土しているが、ここでは状態の良好な資料のみ掲載した。器種は特定できないが、広口壺あるいは甕であると思われる。2、3の資料は受口状を呈す口縁部~頸部までの破片であり、若干残存している頸部はやや内傾するものと推定される。口縁部は肥厚し、いわゆる複合口縁である。口唇端部は直角に面取りされ、角張っている。内外面の横位ナデ→面取り→面取りした口唇部のナデがなされているため、口唇部直下の内外面にはわずかなくびれがみられる。口縁外面には3段の刺突列が巡らされており、原体は半裁竹管であると判断される。上段の刺突列は斜め上方向から、中段は斜め右方向から、そして下段はほぼ正面から彫り取るように加えられている。これらは全て斜め方向から加えられているため、V字状~半長楕円形状を呈す。これらの刺突は、平均して幅3.5mm、長さ4.5~8mmを測る。複合口縁の下端には縦位の刻み目が巡らされ、それは下段の刺突列の刺突間に加えられている。結果的に下段の刺突列と下端の刻み目の列は交互刺突文的に配列されている。4は胴部破片で、沈線と縄文が施されている。恐らくほぼ胴部中央辺りのものと思われる。沈線の断面は半円形で、幅は平均して2~2.5mmを測る。沈線の文様構成は不明であるが退化的な鋸歯文あるいは波状文的なものと思われる。沈線の下位には0段多条のRL縄文が施されている。回転は横位~斜意方向である。施文の単位(幅)は指1本分ほど(1.2~1.5mm)である。成形~整形~施文の順序は、口縁部=内外面の横ナデ→口唇端部の面取り→口唇端部のナデ→刺突列→刻目列、胴部=ナデ→縄文・沈線の工程と観察される。器厚は、複合口縁部で4.5~8.5mm、頸部から胴部で4~6mmを測る。胎土には、全体的に砂粒を含み、所々に小礫も観察される。焼成は堅緻で、暗褐色~黒褐色を呈す。

(木村 高)

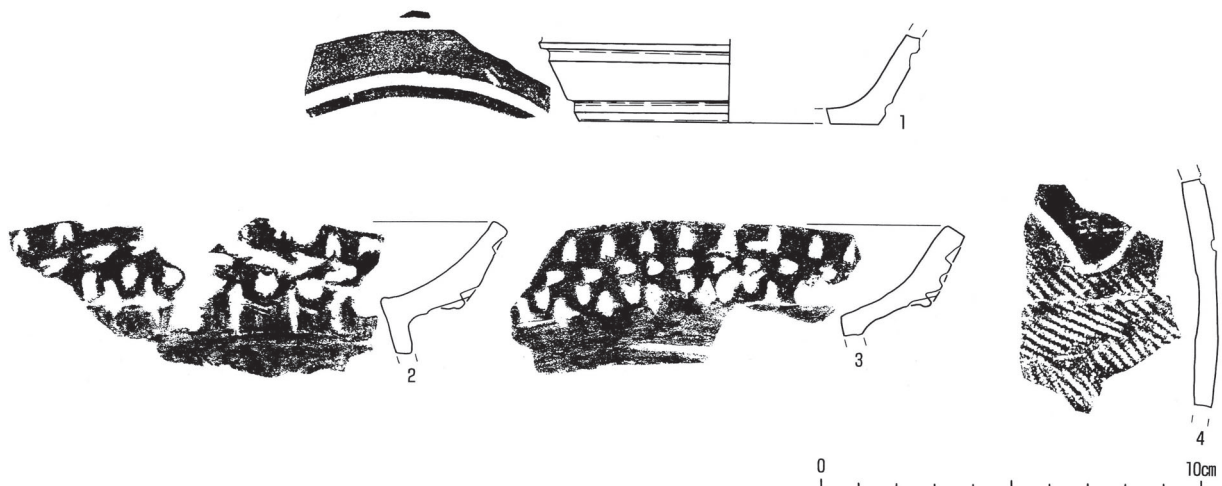


図63 弥生土器

## 第6節 近世以降の出土遺物 (図64)

陶磁器・砥石・銭貨・煙管が出土した。

### 1 陶磁器 (1、2、5)

1と5は陶器で、両者とも産地、時期不明である。1の外面には灰釉が施釉されているが、口唇部と外面の下位、そして内面は無釉である。口縁部内面は受口状を呈していることから、小型の土瓶等の蓋物であると思われる。5は内外面に灰釉が施釉されているが、外面の下位と畳付は無釉である。底径の大きさより、鉢であると思われる。2は、外面に染付の施される小型の碗で、時期は肥前系V期と考えられる。畳付は無釉である。 (木村 高)

### 2 石製品 (6)

6は、一部欠損している砥石で、平面形、断面形ともに長方形を呈す。橙色に白色が混じった硬質の凝灰岩を素材としていて、切り出した際の擦痕が2面にみられる。砥面は3面である。 (木村 高)

### 3 銅製品 (3、4、7)

3、4は銭貨(寛永通宝)で、7は煙管の吸口である。3、4とも新寛永であり、状態は良い。7の吸口には継ぎ目がみられる。 (木村 高)

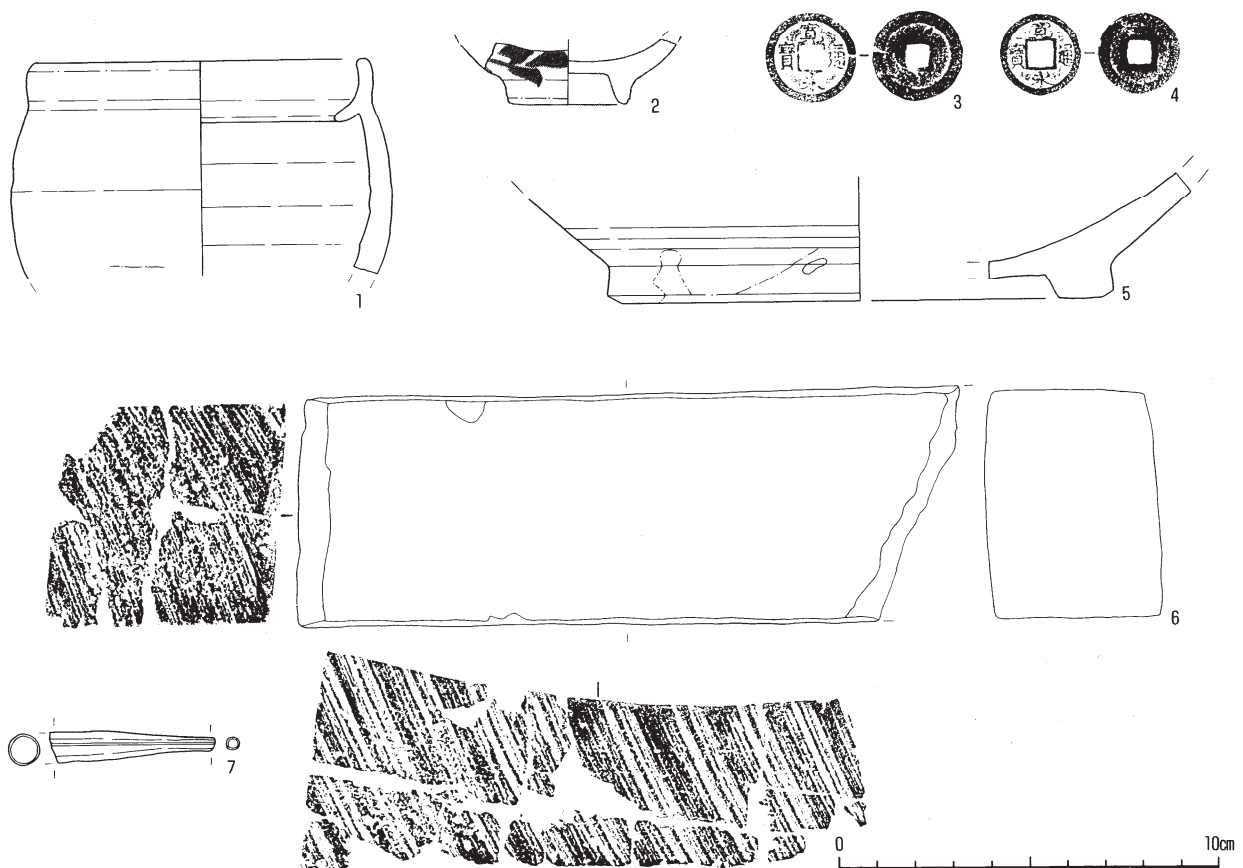


図64 近世以降の出土遺物



## 第7節 時代不明の遺構

### 1 溝跡

#### 第2・3・4号溝跡 (SD02・03・04) (図65)

**概要** 平行する3条の溝跡が一体となって機能したものと考えられるが、調査区域外に伸びているため、全長については不明である。調査区東部の平坦部の端(斜面際)に沿って構築されており、地形と無関係ではないものと言える。

**重複** SD02はSK17と重複し、本溝跡の方が新しい。

**構造** 3条とも北東～南西方向に延びる。02、03、04ともにわずかな広狭はみられるものの、ほぼ均一な幅を保っている。幅・深さは、02→03→04の順に広く、深く構築されており、斜面に近くなるほど大きく掘り込まれている。断面形は、02と03は皿形を呈すが、04は半楕円形～逆台形を呈し、底面の平坦な部分が多い。長さは、検出長(直線長)で02が45.4m、03が45.6m、04が46.4mを測る。確認面における幅は02が20～60cm、03が30～60cm、04が80～140cmを測る。深さは02が10～13cm前後、03が15～18cm前後、04が60～63cm前後を測る。

**土層** 黒褐色を基調とし、ローム粒が混入する。堆積土のラインと混入物の状態よりみて、自然堆積であると思われる。

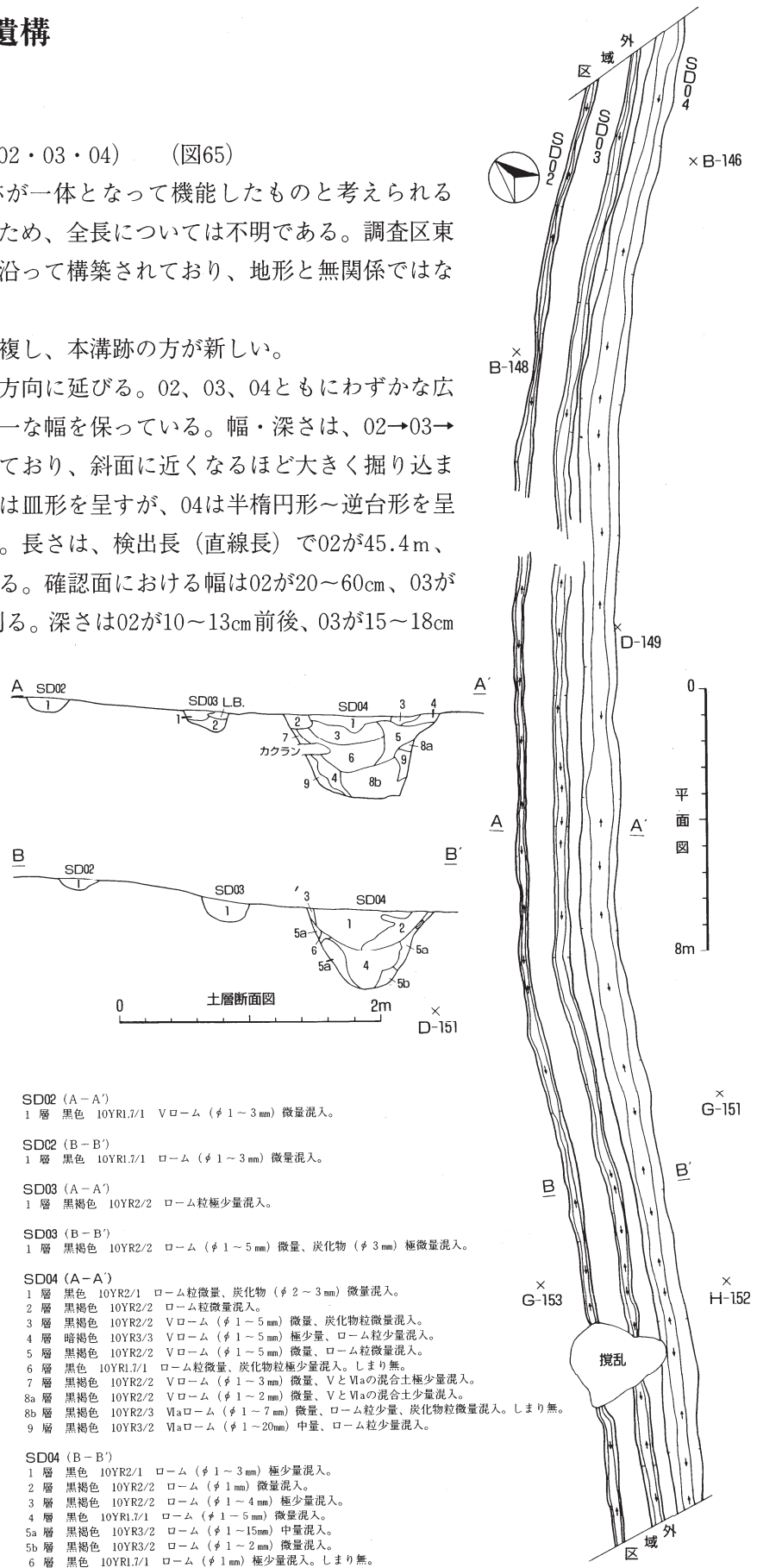
**出土遺物** 数点の土師器、須恵器の小破片が出土したのみである。これらのほとんどは自然に混入したものと考えられる。

(木村 高)

### 2 ピット群

#### 第1号ピット群 (図66)

**概要** ほぼ1Hと2Hの間、グリッド0Z～D、148～156ラインの範囲で、第IV層上面に46基のピットを検出した。一部に掘立柱建物跡のような規則的な配列が認められる(線で結んでいるもの)が、建物跡としては認定できない。



- SD02 (A-A')
- 1層 黒色 10YR1.7/1 Vローム(φ1-3mm)微量混入。
- SD02 (B-B')
- 1層 黒色 10YR1.7/1 ローム(φ1-3mm)微量混入。
- SD03 (A-A')
- 1層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒極少量混入。
- SD03 (B-B')
- 1層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-5mm)微量、炭化物(φ3mm)極微量混入。
- SD04 (A-A')
- 1層 黒色 10YR2/1 ローム粒微量、炭化物(φ2-3mm)微量混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム粒微量混入。
  - 3層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)微量、炭化物粒微量混入。
  - 4層 暗褐色 10YR3/3 Vローム(φ1-5mm)極少量、ローム粒少量混入。
  - 5層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-5mm)微量、ローム粒微量混入。
  - 6層 黒色 10YR1.7/1 ローム粒微量、炭化物粒極少量混入。しり無し。
  - 7層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-3mm)微量、VとVIaの混合土極少量混入。
  - 8a層 黒褐色 10YR2/2 Vローム(φ1-2mm)微量、VとVIaの混合土少量混入。
  - 8b層 黒褐色 10YR2/3 VIaローム(φ1-7mm)微量、ローム粒少量、炭化物粒微量混入。しり無し。
  - 9層 黒褐色 10YR3/2 VIaローム(φ1-20mm)中量、ローム粒少量混入。
- SD04 (B-B')
- 1層 黒色 10YR2/1 ローム(φ1-3mm)極少量混入。
  - 2層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1mm)微量混入。
  - 3層 黒褐色 10YR2/2 ローム(φ1-4mm)極少量混入。
  - 4層 黒色 10YR1.7/1 ローム(φ1-5mm)微量混入。
  - 5a層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ1-15mm)中量混入。
  - 5b層 黒褐色 10YR3/2 ローム(φ1-2mm)微量混入。
  - 6層 黒色 10YR1.7/1 ローム(φ1mm)極少量混入。しり無し。

図65 第2・3・4号溝跡

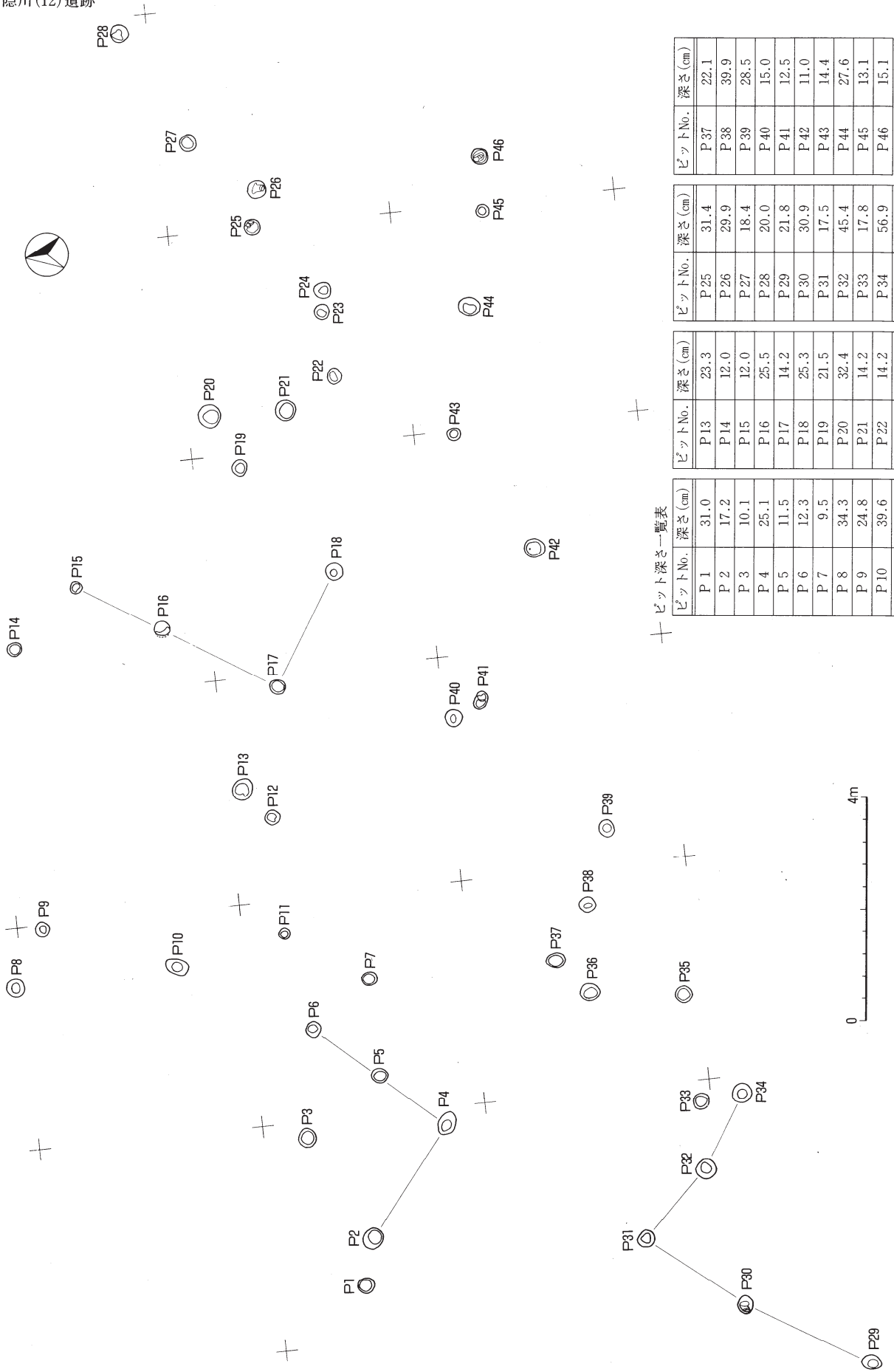


図66 ピット群

**出土遺物** 出土遺物は、数点の土師器、須恵器の小破片が出土したのみである。これらのほとんどは自然に混入したものと考えられる。

**構築時期** 構築時期は明確ではないが、ほとんどのピットの覆土は本遺跡における平安期の遺構の堆積土に近いものであったことと、図中に引いた線が掘立柱建物跡の一部であると仮定すれば、軸方向が住居跡と近いものになることから、これらの構築は平安時代である可能性が高いと思われる。

(木村 高)



土師器・須恵器

図番	器種	出處	層位	グッド	計測値(mm)	口径	高さ	口径(%)	外周調整	内周調整	底面	分刻	社名	その他の特徴(備考)	
32 1	須恵環	4H	視土 E-156-5地	136	57	46	33	070	070	070	070	1 2 3	039	分刻社	
32 2	須恵環	2H	視土 D-152-6	135	49	48	63	070	070	070	070	4	017	ハラ書き	
32 3	須恵環	5H	視土 A-159-12	138	51	64	72	070	070	070	070	2	010		
32 4	須恵環	5H	視土 A-159-12	146	55	70	91	070	070	070	070	3	009		
32 5	須恵環	2H	視土 E-153-16	136	-	-	-	070	070	070	070	4	-		
32 6	須恵環	SK06	視土 A-159	120	-	-	-	25	070	070	070	4	-		
32 7	須恵環	5H	視土 A-159	130	-	-	-	24	070	070	070	4	-		
32 8	須恵環	2H	視土 D-153-11	112	42	38	13	070	070	070	070	4	-		ハラ書き、P-51
32 9	須恵環	遺構外	I層 F-156	144	-	-	-	25	070	070	070	4	-		
32 10	須恵環	2H	視土 D-152-3	146	-	-	-	15	070	070	070	3	-		
32 11	須恵環	5H	視土 A-159-12地	138	53	56	36	070	070	070	070	2	-		ハラ書き、(底部:回糸→ケズリ)
32 12	須恵環	遺構外	I層 A-12地	132	49	60	13	070	070	070	070	2	-		
32 13	須恵環	SE01	視土 C-154-3	150	-	-	-	16	070	070	070	4	-		
32 14	須恵環	2H	視土 D-153-9	140	-	-	-	11	070	070	070	4	-		
32 15	須恵環	2H	視土 D-152-3地	142	-	-	-	19	070	070	070	4	-		
32 16	須恵環	2H	床面 D-152-5	136	-	-	-	10	070	070	070	4	-		
32 17	須恵環	2H	視土 D-152-2	132	-	-	-	21	070	070	070	2	-		
32 18	須恵環	2H	床面 D-153-5地	138	-	-	-	21	070	070	070	2	-		
32 19	須恵環	4H	床面 G-159-8	138	58	54	24	070	070	070	070	2	-		裏書土器、P-8, 14, 15 (未接合だが同一個体)
32 20	須恵環	遺構間接合	-	126	52	58	39	070	070	070	070	2	-		036 ハラ書き、(副:臥→散入り)、産地不明、リカシ、P-127
32 21	須恵環	2H	(下) 視土 E-152-4	146	52	64	75	070	070	070	070	4	-		4Hハラ(細)と8号環(便)と5HSX03(便)P-61(給、(副:水)
32 22	須恵環	5H	視土 A-159-8地	144	52	70	50	070	070	070	070	2	-		ハラ書き、P-30、左袖の奥から出土
32 23	須恵環	2H	視土 D-153-9	150	-	-	-	24	070	070	070	3	-		
32 24	須恵環	2H	視土 D-152-6	142	-	-	-	13	070	070	070	2	-		
32 25	須恵環	遺構外	I層 B-153	156	-	-	-	11	070	070	070	5	-		ハラ書き
32 26	須恵環	SK10	視土 E-160-2	138	55	50	49	070	070	070	070	2	016		ハラ書き
32 27	須恵環	4H	床面 H-160地	130	-	-	-	19	070	070	070	1	-		
32 28	須恵環	遺構外	I層 B-145	132	49	50	14	070	070	070	070	2	-		
32 29	須恵環	2H	SK02 視土 D-153-15	132	-	-	-	14	070	070	070	1	-		
32 30	須恵環	遺構外	I層 A-14地	134	58	50	8	070	070	070	070	2	-		
32 31	須恵環	遺構外	如麻壇 B-145	134	57	55	18	070	070	070	070	4	-		
32 32	須恵環	SK06	視土	136	-	-	-	38	070	070	070	3	-		
32 33	須恵環	SK06	確認面 C-160-15	152	-	-	-	16	070	070	070	1	-		
32 34	須恵環	遺構外	II層 AX-158	124	-	-	-	11	070	070	070	1	-		
32 35	須恵環	遺構外	I層 G-159-15	134	-	-	-	20	070	070	070	4	-		
32 36	須恵環	遺構外	如麻壇 C-144	132	-	-	-	13	070	070	070	2	-		
32 37	須恵環	2H	床面 D-152-3地	128	-	-	-	30	070	070	070	4	-		
32 38	須恵環	遺構外	如麻壇 D-146	132	-	-	-	14	070	070	070	2	-		
32 39	須恵環	2H	床面 D-152-7	160	-	-	-	10	070	070	070	2	-		
32 40	須恵環	遺構外	如麻壇 B-144	140	-	-	-	12	070	070	070	1	-		
32 41	須恵環	SK06	視土 C-160-16	170	-	-	-	9	070	070	070	2	-		
32 42	須恵環	2H	視土 D-152-1地	150	-	-	-	21	070	070	070	4	-		
32 43	須恵環	SK12	視土 B-158-5	160	-	-	-	18	070	070	070	1	-		
32 44	須恵環	SK06	視土 C-160-16	128	44	58	9	070	070	070	070	4	-		
32 45	須恵環	5H	視土 A-159-8	130	58	54	73	070	070	070	070	2	011		ハラ書き
32 46	須恵環	遺構外	II層 OZ-159-9	134	-	-	-	19	070	070	070	2	-		
32 47	須恵環	2H	視土 D-152-6	112	22	48	6	070	070	070	070	2	-		
32 48	須恵環	2H	視土 E-152-13	116	29	37	74	070	070	070	070	2	-		
33 1	須恵環	遺構外	如麻壇 H-149	140	-	-	-	28	070	070	070	2	-		
33 2	須恵環	遺構外	如麻壇 D-147	138	47	52	14	070	070	070	070	2	-		
33 3	須恵環	4H	床面 G-159-7	120	-	-	-	14	070	070	070	2	-		

土師器・須恵器

図番	器種	仕置	仕置2	層位	グリップ	計測値(mm)		調整		調整		底面	外調			色調	その他特徴(備考)	整理番号
						口径	底径	調整	調整	調整	調整		調整	調整	調整			
33	須恵環	遺構外	-	如麻中層E-147	-	150	-	-	19	070	070	-	I	Bby	2	-	1347	
33	4須恵環	遺構外	-	如麻中層D-147	-	132	54	-	-	070	070	-	I	Bby	2	-	1380	
33	6須恵環	遺構外	-	I層F-158	-	132	-	-	29	070	070	-	I	Bby	2	-	1342	
33	7須恵環	遺構外	-	I層G-146	-	126	-	-	13	070	070	-	I	Bb	2	-	1404	
33	8須恵環	4H	-	覆土A-160-13	136	50	56	12	070	070	070	回糸	Bby	4	-	1094		
33	9須恵環	遺構外	-	如麻中層G-149	136	48	60	24	070	070	070	回糸	Bbx	2	083	1094		
33	10須恵環	5H	SD01	覆土A-159-12	122	-	-	-	19	070	070	-	I	Bb	2	-	1433	
33	11須恵環	遺構外	-	I層H-159	116	-	-	-	16	070	070	-	I	Bby	2	-	1402	
33	12須恵環	遺構外	-	如麻中層B-145	128	-	-	-	12	070	070	070	-	I	-	1	-	1348
33	13須恵環	2H	SK02	覆土D-153-7	138	54	46	29	070	070	070	070	I	Abx	3	-	1078	
33	14須恵環	2H	SK02	覆土D-153-10	138	60	72	29	070	070	070	070	回糸	Bbx	4	-	1099	
33	15須恵環	遺構外	-	如麻中層D-147	144	-	-	-	18	070	070	-	I	Ba	4	-	1353	
33	16須恵環	SK12	-	覆土B-157	130	58	50	6	070	070	070	070	回糸	I	Abx	3	-	1244
33	17土師環	5H	SK01	覆土A-159	130	50	54	18	070	070	070	070	回糸	Abx	7	-	1245	
33	18土師環	5H	-	覆土A-160-11	140	62	48	81	070	070	070	070	回糸	Aay	7	020	1073	
33	19土師環	2H	SK02	覆土D-153-11	130	50	44	15	070	070	070	070	回糸	Aay	7	-	1278	
33	20土師環	5H	SD01	覆土A-159-12	146	65	60	2	070	070	070	070	回糸	Aax	6	-	1100	
33	21土師環	4H	-	床面H-159-4	130	-	-	-	16	070	-	-	Aa	7	-	1666		
33	22土師環	4H	-	覆土G-161-16	138	60	51	81	070	070	070	070	回糸	Bay	7	-	1022	
33	23土師環	2H	-	覆土D-153-6	132	-	-	-	13	070	070	-	Aa	7	-	1528		
33	24土師環	2H	-	覆土D-153-11	144	-	-	-	22	070	070	070	-	Aa	7	-	1276	
33	25土師環	4H	(灰下)	類(如麻)G-160-13	146	-	-	-	25	070	070	070	回糸	Bay	7	-	1289	
33	26土師環	1H	(灰下)	類(如麻)OY-151-1	136	-	-	-	18	070	070	070	-	Aa	7	-	1286	
33	27土師環	4H	-	床面G-159-2	134	56	56	10	070	070	070	070	-	Abby	7	085	1229	
33	28土師環	5H	-	床面A-159-2	156	50	60	45	070	070	070	070	回糸	Aay	6	-	1095	
33	29土師環	3H	-	床面D-156-11	138	-	-	-	11	070	070	-	Ab	7	-	1667		
33	30土師環	4H	RP01	覆土G-160-16	132	55	58	78	070	070	070	070	回糸	Abby	7	014	1010	
33	31土師環	遺構外	-	如麻中層C-114	122	53	54	75	070	070	070	070	回糸	Abx	7	-	1091	
33	32土師環	2H	(灰下)	類(如麻)E-152-3	149	59	60	43	070	070	070	070	回糸	Bcy	7	042	1083	
33	33土師環	遺構外	-	I層F-160	168	65	68	20	070	070	070	070	-	Abby	7	-	1101	
33	34土師環	遺構外	-	-	D-153-15	140	54	68	17	070	070	070	回糸	Bby	7	-	1101	
33	35土師環	遺構外	-	II層B-100-14	136	48	53	76	070	070	070	070	回糸	Bby	7	-	1021	
33	36土師環	5H	(灰下)	覆土A-159-1	142	-	-	-	23	070	070	-	Ab	7	-	1292		
33	37土師環	4H	-	床面G-160-1	144	-	-	-	13	070	070	-	Ab	7	-	1665		
33	38土師環	4H	-	床面G-159-3	144	-	-	-	9	070	070	-	Aa	7	-	1668		
33	39土師環	4H	-	床面G-160-13	136	-	-	-	12	070	070	-	Aa	8	-	1675		
33	40土師環	遺構外	-	如麻中層G-150	125	56	50	4	070	070	070	070	回糸	Aa	7	-	1417	
33	41土師環	4H	-	覆土G-159-2	130	41	44	31	070	070	070	070	回糸	Bax	-	-	1022	
33	42土師環	遺構外	-	I層A-153	123	-	-	-	22	070	070	-	Aa	7	-	1538		
33	43土師環	3H	-	覆土D-156-11	136	39	60	19	070	070	070	070	回糸	Bbx	7	-	1247	
33	44土師環	4H	SD01	覆土G-155-5	122	52	39	31	070	070	070	070	不明	Ba	7	-	1281	
33	45土師環	環	SK11	覆土	128	-	-	-	38	070	070	-	Ba	7	-	1492		
33	46土師環	3H	-	床面D-156-15	144	-	-	-	13	070	070	070	-	Bcy	7	-	1284	
33	47土師環	環	4H	床面H-160-12	134	58	48	27	070	070	070	070	回糸	Bby	7	-	1093	
33	48土師環	環	SK08	覆土F-159-11	144	57	61	46	070	070	070	070	-	Abz	7	043	1098	
34	1土師環	環	遺構外	II層OY-159	180	-	-	-	13	070	070	-	Aa	7	-	1541		
34	2土師環	環	遺構外	I層OY-154	120	26	46	13	070	070	070	070	回糸	Abx	-	-	1326	
34	3土師環	環	5H	覆土A-160-14	128	-	-	-	19	070	-	-	Aa	7	-	1649		
34	4土師環	環	5H	覆土B-160-15	136	-	-	-	16	070	070	-	Aa	-	-	1295		
34	5土師環	環	3H	床面D-156-11	160	34	52	6	070	070	070	070	回糸	Aax	-	-	1038	
34	6須恵環?	遺構外	-	I層B-156	160	-	-	-	11	070	070	-	I	Ab	-	-	1601	

土師器・須恵器

図番	器種	土師器	位	リット	計測値(mm)	容積	容積率	内面調整	外面調整	底面	分類	その他の特徴(備考)
34 7	須恵環	-	丸底土層C-145	-	130	53	44	63	63	63	2	044
34 8	須恵環	-	土層OY-159	-	木	-	-	070	070	-	1	-
34 9	須恵環	-	土層B-152	-	木	-	-	070	070	-	2	-
34 10	須恵環	-	土層A-157	-	木	-	-	070	070	-	2	-
34 11	須恵環	-	床面E-159-1	-	木	-	-	070	070	-	3	P-151
34 12	須恵環	2H	稜土E-153-14	-	木	-	-	070	070	-	-	-
34 13	須恵環	-	土層B-148	-	木	-	-	070	070	-	-	-
34 14	須恵環	-	土層C-147	-	木	-	-	070	070	-	2	-
34 15	須恵環	-	土層D-151	134	-	-	21	070	070	-	1	-
34 16	須恵環	-	丸底土層D-146	-	木	-	-	070	070	-	1	-
34 17	須恵環	-	丸底土層C-145	-	木	-	-	070	070	-	2	-
34 18	須恵環	-	土層OY-157	-	木	-	-	070	070	-	1	-
34 19	須恵環	-	土層A-137	-	木	-	-	070	070	-	1	-
34 20	須恵環	-	土層A-146	-	木	-	-	070	070	-	7	-
34 21	土師環	2H	稜土D-153-10	-	42	木	-	070	070	070	-	-
34 22	須恵環	-	土層B-153	-	-	-	48	-	-	070	-	-
34 23	須恵環	-	土層OY-159	-	-	-	54	-	-	070	-	-
34 24	須恵環	-	稜土F-154	-	-	-	51	-	-	070	-	-
34 25	須恵環	-	土層A-153	-	-	-	76	-	-	070	-	-
34 26	須恵環	-	土層A-154	-	-	-	50	-	-	070	-	-
34 27	須恵環	-	SK06	-	-	-	60	-	-	070	-	-
34 28	須恵環	-	確認面C-160-11	-	-	-	66	-	-	070	-	-
34 29	須恵環	-	確認面A-157	-	-	-	56	-	-	070	-	-
34 30	須恵環	SK04	稜土H-152	-	-	-	50	-	-	070	-	-
34 31	須恵環	-	土層C-158	-	-	-	56	-	-	070	-	-
34 32	須恵環	-	土層B-154	-	-	-	54	-	-	070	-	-
34 33	須恵環	-	丸底土層D-146	-	-	-	56	-	-	070	-	-
34 34	須恵環	-	土層OY-156	-	-	-	68	-	-	070	-	-
34 35	須恵環	-	土層B-161	-	-	-	58	-	-	070	-	-
34 36	須恵環	-	丸底土層E-150	-	-	-	50	-	-	070	-	-
34 37	須恵環	2H	床面D-153-1	-	-	-	56	-	-	070	-	-
34 38	須恵環	2H	土層P1104	-	-	-	48	-	-	070	-	-
34 39	土師環	2H	床面D-153-11	-	-	-	60	-	-	070	-	-
34 40	土師環	2H	土層C-163	-	-	-	50	-	-	070	-	-
34 41	土師環	2H	床面D-153-11	-	-	-	48	-	-	070	-	-
34 42	土師環	5H	稜(丸底)A-159-1	-	-	-	52	-	-	070	-	-
34 43	土師環	2H	床面E-153-15	-	-	-	58	-	-	070	-	-
34 44	土師環	2H	土層B-148	-	-	-	44	-	-	070	-	-
34 45	土師皿	SK01	稜土	114	43	43	18	070	070	070	-	-
34 46	土師台部	2H	稜土E-153-15	-	-	-	80	-	-	070	-	-
34 47	土師不明	遺構外	土層B-146	-	-	-	48	-	-	070	-	-
34 48	土師不明	2H	丸底土層D-153-9	-	-	-	68	-	-	070	-	-
35 1	土師I長胴	SK08	稜土D-156-11	269	(336)	83	69	070	070	070	-	-
35 2	土師II長胴	SK08	丸底土層F-159-7	230	313	96	46	070	070	070	-	-
35 3	土師I長胴	遺構間接合	-	246	-	-	49	070	070	070	-	-
35 4	土師II長胴	遺構間接合	-	231	-	-	75	070	070	070	-	-
35 5	土師I長胴	3H	稜土D-156-11	266	-	-	26	070	070	070	-	-
35 6	土師II長胴	5H	SK01	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35 7	土師I長胴	1H	稜土A-159	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36 1	土師I長胴	SE01	稜(丸底)OY-151-1	190	-	-	51	070	070	070	-	-
36 2	土師I長胴	SK08	稜土C-154	258	-	-	13	070	070	070	-	-
36 2	土師I長胴	SK08	稜土F-159-11	228	-	-	24	070	070	070	-	-



土師器・須恵器

図番	器種	出處	部位	リット	計測値(mm)	容積(%)	外周調整	内周調整	底面	断面	分類	1	2	3	色調	土質	その他の特徴(備考)	整理番号
36	土師I長胴	2H	(灰土)	覆土E-152地	210	-	24	070	070	-	-	-	-	-	-	-	2Hカマド(P-12)、磨滅著しい	1266
36	土師I長胴	SK10	-	覆土E-160-2	276	-	6	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-15、外面炭化物付着	146
36	土師I長胴	SE01	-	覆土C-154-3	250	-	12	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-5,6	1466
36	土師I長胴	遺構外	-	灰土C-145	260	-	16	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1571
36	土師I長胴	遺構外	-	I層	220	-	14	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1416
36	土師I長胴	2H	-	覆土D-152-3	250	-	15	070	070	-	-	-	-	-	-	-	磨滅著しい	138
36	土師I長胴	2H	-	覆土D-152-2	212	-	28	070	070	-	-	-	-	-	-	-	磨滅著しい	124
36	土師I長胴	2H	(灰土)	覆土A-152-3	230	-	20	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-18、外面磨滅著しい	146
36	土師I長胴	5H	(灰土)	覆土D-160-16	240	-	22	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-9、口縁部外面ケズリによる粘土溜まり有	144
36	土師I長胴	遺構外	-	灰土C-144	236	-	34	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1321
36	土師I長胴	4H	(灰土)	床面G-160-14地	242	-	38	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-3,15,53,4H7D(P-10,13,20),SD05(P-11),外壁部,磨滅	293
37	土師II長胴	5H	SD01	覆土A-159-12	262	-	22	070	070	-	-	-	-	-	-	-	068 外面タタキ→ヨコナテ	1120
37	土師II長胴	SK06	-	確認面G-160-16	219	-	20	070	070	-	-	-	-	-	-	-	外面タタキ→ケズリ	156
37	土師I長胴	4H	-	床面H-160-12	224	-	-	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-100、内外面磨滅	1672
37	土師I長胴	5H	SD01	覆土A-159-12	224	-	34	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1629
37	土師I長胴	4H	-	床面G-160-8	190	-	19	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-17、外面胴部中央炭化物付着	1631
37	土師I長胴	遺構外	-	I層H-159-3	188	-	14	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1418
37	土師I長胴	2H	-	覆土D-152-6	204	-	13	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1440
37	土師I長胴	SK10	-	覆土B-160-2	190	-	24	070	070	-	-	-	-	-	-	-	タタキ有	1462
37	土師I長胴	遺構外	-	灰土C-146	204	-	16	070	070	-	-	-	-	-	-	-	磨滅著しい	1413
37	土師I長胴	4H	-	床面G-159-11	220	-	19	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1591
37	土師I長胴	遺構外	-	I層D-146	120	-	21	070	070	-	-	-	-	-	-	-	内外面口縁部炭化物付着、磨滅	1570
37	土師I小型	2H	-	覆土D-152-4地	158	140	72	63	070	070	-	-	-	-	-	-	-	072
37	土師I小型	2H	(灰土)	覆土E-152-3	136	140	70	80	070	070	-	-	-	-	-	-	P-2,3,17,28、支脚	1121
37	土師I小型	4H	-	床面H-160-7地	150	126	76	66	070	070	-	-	-	-	-	-	P-76,102,108,109,111,112,211	104
37	土師I小型	SK19	-	覆土E-151-13	173	-	19	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	181
37	土師I小型	2H	(灰土)	覆土E-152-3	153	118	76	100	070	070	-	-	-	-	-	-	P-19、支脚、内面口縁部炭化物付着	1072
37	土師I小型	4H	SD01	覆土A-159-5	157	103	77	23	070	070	-	-	-	-	-	-	P-44	1083
37	土師I小型	5H	SD01	覆土G-159-6	136	-	28	070	070	-	-	-	-	-	-	-	内外面磨滅、径5mmの小石多く含む	165
37	土師I小型	4H	-	床面G-159-6	154	-	8	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-45	173
37	土師I小型	SK10	-	覆土E-160地	164	-	29	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-10,20、磨滅	1465
37	土師I小型	5H	SD01	覆土A-159-12	164	-	19	070	070	-	-	-	-	-	-	-	輪積痕	1192
37	土師I小型	5H	-	床面A-160-13地	128	-	43	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-8,12,13	139
37	土師I小型	SK06	-	覆土C-159	152	-	38	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1130
38	土師I小型	遺構外	-	灰土C-145	138	-	19	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1414
38	土師I小型	2H	-	覆土D-152-6	144	-	34	070	070	-	-	-	-	-	-	-	磨滅、口縁内面炭化物付着	1602
38	土師I小型	4H	-	覆土G-159-3地	150	-	45	070	070	-	-	-	-	-	-	-	ハラ書き、P-90	159
38	土師I小型	SK18	-	覆土E-151-4地	152	-	68	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-5	113
38	土師I小型	5H	-	覆土A-160-9	130	-	16	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1644
38	土師I小型	4H	-	確認面H-160-10	120	-	9	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-218	1659
38	土師I小型	2H	-	覆土D-152-6	146	-	36	070	070	-	-	-	-	-	-	-	口縁部内面炭化物付着	1442
38	土師I小型	4H	-	床面G-159-4	156	-	12	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-25	1670
38	土師I小型	4H	-	床面G-160-10	128	-	16	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-57	1636
38	土師I長胴	2H	(灰土)	覆土E-152-3	146	-	10	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-29、支脚	1056
38	土師I長胴	5H	SD01	覆土A-159-12地	-	-	90	-	070	070	-	-	-	-	-	-	-	1153
38	土師I長胴	2H	(灰土)	覆土E-152-3	-	-	-	-	070	070	-	-	-	-	-	-	P-15,16,21、磨滅著しい	1617
38	土師I長胴	4H	-	床面G-159-4地	169	-	14	070	070	-	-	-	-	-	-	-	P-27,107,126,169	1410
38	土師I長胴	2H	(灰土)	覆土E-152-3	-	-	-	-	070	070	-	-	-	-	-	-	P-8、外面輪積痕明瞭	1650
38	土師I長胴	4H	-	床面G-160-12	-	-	-	-	070	070	-	-	-	-	-	-	-	1648
38	土師I小型	2H	-	覆土D-152-1地	122	-	26	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	141
38	土師I小型	SK08	-	覆土	128	-	19	070	070	-	-	-	-	-	-	-	-	1458

土師器・須恵器

図番	器種	吐口	仕立	層位	グッド	口径	高さ	計測値(mm)	容積(%)	外周調整	内周調整	底面	種類	分	備考	整理番号
38	18 土師 I 小型	2H	-	覆土 D-153-10	122	-	-	-	-	49	叩	-	-	-	-	121
38	19 土師 I 長胴	4H	-	覆土 E-159-4	-	-	-	-	-	84	-	-	-	-	-	120
38	20 土師 I 長胴	2H	(ア)	覆土 E-152-3	-	-	-	-	-	70	-	砂底	-	-	-	1308
38	21 土師 I 長胴	4H	-	覆土 G-159-8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1647
39	1 土師 I 長胴	2H	-	覆土 E-153-8	-	-	-	-	-	78	-	叩	-	-	-	1611
39	2 土師 I 長胴	2H	(ア)	床面 E-152-4	-	-	-	-	-	76	-	叩	-	-	-	1619
39	3 土師 I 長胴	2H	-	覆土 D-153-11	-	-	-	-	-	88	-	砂底	-	-	-	1640
39	4 土師 I 長胴	5H	SD01	覆土 A-159-12	-	-	-	-	-	92	-	叩	-	-	-	1628
39	5 土師 I 小型	SK19	-	覆土 E-151-13	-	-	-	-	-	74	-	叩	-	-	-	1302
39	6 土師 I 長胴	2H	-	覆土 D-152-3	-	-	-	-	-	63	-	叩	-	-	-	1609
39	7 土師 I 長胴	4H	-	床面 G-160-16	-	-	-	-	-	80	-	叩	-	-	-	1641
39	8 土師 I 小型	5H	SD01	覆土 A-159-12	-	-	-	-	-	70	-	叩	-	-	-	1643
39	9 土師 I 小型	SK01	-	覆土	-	-	-	-	-	64	-	叩	-	-	-	1014
39	10 土師 I 小型	SK07	-	覆土 B-148-7	-	-	-	-	-	52	-	叩	-	-	-	1503
39	11 土師 I 長胴	4H	-	覆土 G-160-14	-	-	-	-	-	98	-	叩	-	-	-	1653
39	12 土師 I 小型	2H	-	覆土 E-153-15	-	-	-	-	-	74	-	叩	-	-	-	1652
39	13 土師 I 長胴	4H	-	床面 G-160-11	-	-	-	-	-	74	-	叩	-	-	-	1651
39	14 土師 I 長胴	4H	-	床面 G-161-14	-	-	-	-	-	72	-	叩	-	-	-	1639
39	15 土師 I 小型	3H	-	敷土 D-156-16	-	-	-	-	-	56	-	叩	-	-	-	1300
39	16 土師 I 小型	5H	-	床面	-	-	-	-	-	64	-	叩	-	-	-	1625
39	17 土師 I 長胴	遺構外	-	炊土 E-144	-	-	-	-	-	92	-	叩	-	-	-	1499
39	18 土師 I 小型	5H	SK01	覆土 A-159	-	-	-	-	-	72	-	叩	-	-	-	1448
39	19 土師 I 長胴	SK01	-	I 層	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1598
39	20 土師 I 長胴	SK06	-	覆土 G-160-16	224	-	-	-	-	10	-	叩	-	-	-	1482
39	21 土師 I 長胴	4H	-	覆土 G-160-13	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1552
39	22 土師 II 長胴	遺構外	-	確認面 E-153	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1592
39	23 土師 II 長胴	5H	-	覆土 B-160-16	-	-	-	-	-	33	-	叩	-	-	-	1553
39	24 土師 II 長胴	SK10	-	覆土 E-160-3	-	-	-	-	-	33	-	叩	-	-	-	1554
39	25 土師 II 長胴	遺構外	-	I 層 B-150	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1600
39	26 土師 II 長胴	遺構外	-	I 層 OY-159	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1603
39	27 土師 I 長胴	遺構外	-	I 層 E-153	164	-	-	-	-	11	-	叩	-	-	-	1593
39	28 土師 II 小型	SK13	-	覆土 F-158-11	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1572
39	29 土師 II 小型	4H	-	床面 H-160-8	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1550
39	30 土師 II 小型	4H	(ア)	覆土 G-160-13	-	-	-	-	-	33	-	叩	-	-	-	1551
39	31 土師 II 小型	遺構外	-	I 層 G-155	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1578
39	32 土師 II 長胴	遺構外	-	I 層 B-157	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1604
39	33 土師 II 長胴	遺構外	-	I 層 F-48	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1549
39	34 土師 II 小型	遺構外	-	炊土 B-146	-	-	-	-	-	33	-	叩	-	-	-	1480
39	35 土師 II 小型	SK08	-	覆土 E-159-9	-	-	-	-	-	33	-	叩	-	-	-	1577
39	36 土師 II 小型	4H	-	床面 G-159-2	-	-	-	-	-	21	-	叩	-	-	-	1479
39	37 土師 II 長胴	遺構外	-	炊土 F-149	266	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1396
39	38 土師 II 小型	SK08	-	覆土 F-159-16	-	-	-	-	-	21	-	叩	-	-	-	1579
39	39 土師 II 小型	遺構外	-	炊土 C-145	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1484
39	40 土師 II 小型	遺構外	-	I 層 B-158	-	-	-	-	-	-	-	叩	-	-	-	1580
40	1 須恵 鉢	2H	-	覆土 D-152-2	150	-	-	-	-	18	-	叩	-	-	-	1119
40	2 須恵 鉢	5H	-	床面 B-160-12	133	100	64	45	07	叩	-	叩	-	-	-	1395
40	3 須恵 鉢	SK10	-	覆土 E-160-6	160	94	95	25	07	叩	-	叩	-	-	-	1118
40	4 須恵 鉢	5H	SD01	覆土 A-159-8	130	92	72	14	07	叩	-	叩	-	-	-	1103
40	5 須恵 鉢	遺構外	-	炊土 F-148	124	-	-	-	-	13	-	叩	-	-	-	1449
40	6 須恵 鉢	2H	RP01	覆土 D-153-9	118	-	-	-	-	24	-	叩	-	-	-	1430
40	7 須恵 鉢	遺構外	-	I 層 A-147	86	-	-	-	-	18	-	叩	-	-	-	1539

土師器・須恵器

図番	器種	出土層	出土地	層位	カド	計測値(mm)	口径	底径	高さ	容積(%)	外面調整	内面調整	底面	片割	社名	その他特徴(備考)	整理番号
40 8	須恵鉢	遺構外	-	1層 B-158	140	-	11	11	140	0	0	0	7	-	-	外面自然釉	1467
40 9	須恵鉢	1H	-	視土 D-152-16	112	-	18	13	112	0	0	0	7	-	-	碗形?	1428
40 10	須恵鉢	遺構外	-	知呪層 B-146	98	-	13	10	98	0	0	0	7	-	-	-	1298
40 11	須恵鉢	5H	SD01	視土 A-159-8	-	-	60	-	-	0	0	0	7	-	-	082 (底部:回糸?→ケズリ)	1614
40 12	須恵鉢	遺構外	-	知呪層 D-146	-	-	58	-	-	0	0	0	7	-	-	外面自然釉	1226
40 13	須恵鉢	遺構外	-	知呪層 C-154-3	-	-	76	-	-	0	0	0	7	-	-	P-25	1506
40 14	須恵鉢	遺構外	-	知呪層 B-148	-	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	ハラ書き	1341
40 15	須恵鉢	2H	RP01	視土 D-153-9	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	-	1528
40 16	須恵鉢	遺構外	-	1層 B-158	166	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	-	1468
40 17	須恵鉢?	遺構外	-	1層 B-159	196	-	21	10	196	0	0	0	7	-	-	ハラ書き、外面ミカキ光沢有り、壺?	324
40 18	須恵壺	SE01	-	知呪層 C-154-3	78	132	60	15	78	0	0	0	7	-	-	028 ハラ書き、長頸壺	1017
40 19	須恵壺	遺構間接合	-	視土 B-158-5他	114	195	65	14	114	0	0	0	7	-	-	026 ハラ書き、SK10とSK12の接合	1084
40 20	土師壺	4H	-	II層 G-159-4	142	-	24	10	142	0	0	0	7	-	-	073	1126
40 21	須恵壺?	3H	-	床面 D-156-12	-	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	P-8	1278
40 22	須恵壺	SDX01	b	視土 E-159-5	146	-	19	10	146	0	0	0	7	-	-	短頸壺?	1411
40 23	須恵壺	2H	-	視土 D-153-13	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	長頸壺?	1488
40 24	須恵壺	遺構外	-	知呪層 B-144他	-	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1228
40 25	須恵壺	2H	-	視土 D-153-11	-	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	-	1280
40 26	須恵壺	SK18	-	視土 B-152-16	-	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	067 未焼成の長頸壺、P-6,9	1622
40 27	須恵壺	4H	-	床面 G-160-1	130	-	9	10	130	0	0	0	7	-	-	P-64、長頸壺	1305
40 28	須恵壺	4H	-	床面 F-160-9	126	-	20	10	126	0	0	0	7	-	-	P-205	1559
40 29	須恵壺	3H	(下)	知呪層 D-156-11	106	-	16	10	106	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1301
40 30	須恵壺	遺構外	-	知呪層 C-145	95	-	43	10	95	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1393
40 31	須恵壺	5H	SD01	視土 A-159-12	92	-	20	10	92	0	0	0	7	-	-	長頸壺、内面輪積痕	1436
40 32	須恵壺	2H	-	視土 D-152-3	108	-	18	10	108	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1548
40 33	須恵壺	SDX01	e	視土 D-158-10	120	-	20	10	120	0	0	0	7	-	-	ハラ書き、長頸壺	1296
40 34	須恵壺	5H	RP01	視土 A-160-9	85	-	19	10	85	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1426
40 35	須恵壺	遺構外	-	I層 D-151	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1330
41 1	土師壺	遺構外	-	視土 B-160-2	184	-	14	10	184	0	0	0	7	-	-	ハラ書き、短頸壺	1605
41 2	須恵壺	2H	-	視土 D-153-1	134	-	7	10	134	0	0	0	7	-	-	短頸壺	1409
41 3	須恵壺	2H	-	視土 D-153-13	160	-	19	10	160	0	0	0	7	-	-	短頸壺	1425
41 4	須恵壺	SK08	-	視土 F-159-8	188	-	12	10	188	0	0	0	7	-	-	短頸壺	1456
41 5	須恵壺	遺構間接合	-	視土 A-160-9	178	-	21	10	178	0	0	0	7	-	-	ハラ書き、5HとSK11の接合、短頸壺	1676
41 6	須恵壺	SK09	-	視土 B-148	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	短頸壺	1454
41 7	須恵壺	遺構間接合	-	視土	130	-	38	10	130	0	0	0	7	-	-	短頸壺、5HSX03(P-61),SK08(P-16)	1441
41 8	須恵壺	2H	-	I層 F-154	112	-	15	10	112	0	0	0	7	-	-	長頸壺	1303
41 9	須恵壺	遺構外	-	1層 D-165	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	短頸壺	1460
41 10	須恵壺	2H	-	視土 E-153-15	-	-	84	-	-	0	0	0	7	-	-	長頸壺、底部内面長さ38mm・幅3mm・高さ2mmの粘土(不明)付	1283
41 11	須恵壺?	遺構外	-	知呪層 G-149	-	-	66	-	-	0	0	0	7	-	-	短頸壺	1261
41 12	須恵壺?	SE01	-	知呪層 C-154-3	-	-	100	-	-	0	0	0	7	-	-	P-41	1502
41 13	須恵壺	2H	-	視土 D-153-2他	-	-	58	-	-	0	0	0	7	-	-	断面還元部分有	1290
41 14	須恵壺?	SDX01	d	視土 D-159-8	-	-	66	-	-	0	0	0	7	-	-	鉢?	1288
41 15	須恵壺	2H	-	視土 D-153-14	-	-	78	-	-	0	0	0	7	-	-	P-92、外面スサ?付着	1287
41 16	土師壺	埴	-	視土 J-160-13他	350	-	30	10	350	0	0	0	7	-	-	051 P-15,32,34	1082
41 17	土師壺	埴	-	確認層 H-159-6他	356	-	13	10	356	0	0	0	7	-	-	-	1187
41 18	土師壺	埴	-	視土 G-160-9	360	-	8	10	360	0	0	0	7	-	-	P-43	1180
41 19	土師壺	埴	-	視土 E-153-15	332	-	11	10	332	0	0	0	7	-	-	P-34、外面タタキ有り	1188
41 20	土師壺	SK18	-	視土 E-152-16	374	-	20	10	374	0	0	0	7	-	-	021 灰化物付着、胎土密・硬質、橙色	1088
41 21	土師壺	遺構外	-	I層 D-146	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	磨滅	1194
41 22	土師壺	埴	-	視土 D-153-11	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	磨滅、断面にタール状黒色物質付着	1610
41 23	土師壺?	SK08	-	視土 F-159-11	161	-	-	-	-	0	0	0	7	-	-	-	1594





ミニチュア土器

図番号	遺構名	吐壺	種別	外面調整	内面調整	色調(外面)	特徴	重量(g)	口径(㎝)	高さ(㎝)	径(㎝)	厚さ(㎝)	発掘層	整理番号
46 01	4H	F-160-9	土師器	ナデ	ナデ	10YR7/4	貼床土中、完形	56.0	55	50	48	6	97	01
46 02	遺構外	D-148	土師器	ケズリ	ナデ	5YR6/6	火山灰下層、口唇部面取り	11.7	48	(33)	-	9	-	60
46 03	3H	D-156-16	土師器	ミガキ	ナデ	5YR5/6	I層	9.0	36	(40)	-	8	89	56
46 04	4H	F-160-13	土師器	ケズリ	ケズリ	7.5YR6/6P	20A、貼床土中	8.7	35	(38)	-	8	94	86
46 05	3H	D-156-10	土師器	ミガキ	ナデ	10YR4/2	埋土、内周溝	18.2	39	39	-	7	96	43
46 06	3H	D-156-16	土師器	ナデ	ナデ	7.5YR5/3	I層	11.3	(60)	(48)	-	6	-	63
46 07	SK10	F-160	須置器	タタキ	てづくね	7.5YR4/2	覆土、H-159と接合	58.8	(58)	(62)	-	11	93	51
46 08	遺構外	C-148	土師器	ケズリ	ナデ	5YR5/6	I層	5.8	36	(35)	-	8	-	57
46 09	2HRP01	D-153-9	土師器	てづくね	てづくね	10YR6/2	覆土、鬚器型の底部	13.7	33	22	不明	5	90	42
46 10	遺構外	B-157	土師器	てづくね	てづくね	10YR8/3	I層、底部	2.5	19	15	10	6	-	61
46 11	2H	D-152-2	土師器	てづくね	てづくね	7.5YR7/6	覆土	2.1	18	10	不明	2	100	40
46 12	遺構外	D-146	土師器	ケズリ	ケズリ	10YR5/2	火山灰上層	11.8	(53)	(45)	-	9	-	62
46 13	遺構外	H-149	土師器	ナデツケ	ナデ	10YR5/4	口縁	7.9	45	(24)	-	7	-	02
46 14	2H	D-152-5	土師器	不明	不明	7.5YR6/6	埋土、(床近く)	4.2	(31)	(14)	-	7	-	47
46 15	遺構外	F-148	土師器	ナデ	ナデ	7.5YR5/4	火山灰上層	4.6	20	(15)	-	8	-	55
46 16	遺構外	D-147	土師器	てづくね	てづくね	7.5YR6/6	火山灰中層	3.5	(20)	(25)	-	8	-	58
46 17	2H	D-153-10	土師器	てづくね	てづくね	5YR6/8	床面、口縁	3.2	(22)	(21)	-	7	-	50
46 18	遺構外	C-144	土師器	てづくね	てづくね	5YR6/6	火山灰上層、口唇部面取り	3.7	(27)	(19)	-	7	-	59
46 19	SK10	E-160	土師器	てづくね	てづくね	5YR6/6P	-18、覆土、口縁	2.1	(26)	(18)	-	4	-	67
46 20	2H	D-152-8	土師器	てづくね	てづくね	5YR6/8	埋土(床近く)、口縁	1.8	(20)	(15)	-	5	-	48
46 21	2HRP01	D-153-9	土師器	てづくね	てづくね	5YR6/8	覆土	2.1	(25)	(20)	-	6	-	41
46 22	遺構外	G-149	土師器	ナデ	ナデ	10YR6/6	火山灰中層	6.8	(23)	(28)	-	12	-	83
46 23	遺構外	E-147-12	土師器	てづくね	てづくね	5YR5/6	火山灰中層	2.0	(22)	(16)	-	7	-	49
46 24	4H	G-159-6	土師器	ケズリ	てづくね	10YR8/1P	-199、貼床土中	4.8	(28)	(23)	-	2	91	53
46 25	遺構外	F-148-13	土師器	てづくね	てづくね	10YR4/2	火山灰下層	6.3	(31)	(34)	-	6	-	46
46 26	SK10	E-160-2	土師器	不明	ナデ	10YR5/3P	-1、覆土	5.2	(31)	(22)	-	8	-	45
46 27	SDA04	E-155	土師器	ナデ	ナデ	10YR4/3	確認面、略完形	17.2	(48)	(26)	-	10	-	52
46 28	遺構外	G-155	土師器	てづくね	ナデ	10YR4/1	I層、沈線有	6.3	(31)	(30)	-	9	-	54
46 29	遺構外	D-147-3	土師器	てづくね	てづくね	10YR5/3	火山灰上層	3.8	(28)	(21)	-	10	-	39
46 30	4H	H-160-16	土師器	てづくね	てづくね	5YR6/6P	-27、底部	9.1	(28)	(37)	-	11	-	44

隠川(12)遺跡

土製品

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
47-1	丸玉	1Aa1	遺構外斜面	D-147-9	B-Tm下層	10.5	11.0	8.5	1.0	外面ミガキ。	
47-2	丸玉	1Aa2	遺構外	E-150-6	第1層	10.5	11.5	9.0	1.0	外面ミガキ。	
47-3	丸玉	1Aa3	遺構外	F-157-9	第1層	9.5	9.5	7.0	0.5	—	
47-4	丸玉	1Aa3	S K 2.0	F-153-7	覆土	10.5	10.0	10.0	1.0	全面不整。	
47-5	丸玉	1Ab2	2 H	E-153-7	覆土	10.1	12.0	9.0	1.0	表面ざらつく。一部欠損。	
47-6	丸玉	1Ac1	2 H P 7	E-153-15	覆土	14.5	15.0	11.5	2.3	海綿骨針含む。	
47-7	丸玉	1Ac1	2 H	E-153	覆土	9.0	9.4	8.2	0.7	外面ミガキ。海綿骨針含む。	
47-8	丸玉	1Ac3	5 H	A-160-3	覆土	(10.0)	(6.0)	10.0	0.5	海綿骨針含む。2分の1以上欠損。	
47-9	丸玉	1Ac3	S K 2.0	F-153-15	覆土	9.0	8.2	8.0	0.4	海綿骨針含む。孔は大きい。	
47-10	丸玉	1Ac2	2 H	D-152-5	覆土	10.0	10.0	8.0	0.8	—	
47-11	丸玉	1Ac3	2 H	E-153-16	覆土	9.0	9.5	7.0	0.7	—	
47-12	丸玉	1Ad3	2 Hカマド	E-152-3	覆土	9.5	9.0	10.0	0.8	穿孔時の粘土のめくれを押しつぶしている。	
47-13	丸玉	1Af1	2 HRP01	D-153-9	覆土	7.5	7.0	7.3	0.4	外面ミガキ。	
47-14	丸玉	1Af1	2 HRP01	D-153-9	覆土	7.0	6.5	7.0	0.4	海綿骨針含む。しわ多し。	
47-15	丸玉	1Af3	SDX01-C.D	D-158-1	確認面	8.0	8.0	8.5	0.6	海綿骨針混入。	
47-16	丸玉	1Aa2	遺構外	A-148	第1層	20.0	21.5	12.5	6.1	海綿骨針含む。	
47-17	勾玉	1Ba a	2 HSK01	E-152-4	覆土	26.5	18.5	12.0	5.0	外面入念なミガキ。海綿骨針混入。黒色。	
47-18	勾玉	1Ba a	2 H	E-153-7	壁溝埋土	23.0	18.5	7.0	2.1	外面入念なミガキ。海綿骨針混入。黒色。	
47-19	球状	2-	2 H	D-152-7	覆土	18.0	17.0	15.0	4.2	一部に窪み。かすかにしわあり。	
47-20	碁石状	6A a	遺構外	A-149-14	第1層	26.0	26.0	12.5	9.8	外面弱いミガキ。海綿骨針混入。石英粒混入。	
47-21	碁石状	6A a	遺構外	A-148	第1層	23.0	24.0	12.0	8.4	外面弱いミガキ。海綿骨針混入。指紋あり。	
47-22	碁石状	6B a	遺構外	B-150-15	第1層	19.0	19.0	7.0	2.3	海綿骨針混入。石英粒混入。指紋あり。	
47-23	碁石状	6B b	2 H	D-152-6	覆土	16.0	17.0	11.0	3.0	海綿骨針混入。石英粒混入。指紋あり。	
48-1	土鈴	3A	遺構外斜面	F-148-8	B-Tm下層	(46.5)	(22.0)	13.0	7.5	かすかにミガキ。海綿骨針混入。爪痕?あり。体部内面残存。	
48-2	土鈴	3A	遺構外斜面	D-147-5	B-Tm下層	(46.5)	19.0	11.0	9.1	表面歪曲。海綿骨針混入。めくれが多い。爪痕?あり。	
48-3	土鈴	3A	遺構外斜面	D-147-1	B-Tm上層	(38.0)	14.0	12.5	7.9	入念なミガキ。	
48-4	土鈴	3A	2 Hカマド	E-152-3	覆土	(22.5)	(19.0)	12.0	3.5	焼成前穿孔。ナデあり。	
48-5	土鈴	3A	2 HRP01	D-153-9	覆土	(40.0)	(20.0)	8.9	3.2	紐部は粘土時のヒビ多し。体部若干残存。	
48-6	土鈴	3A	遺構外	B-149	第1層	(32.5)	13.0	12.5	6.2	歪み著し。ミガキあり。粘土時のしわ多し。	
48-7	土鈴	3A	遺構外	D-156	第1層	(29.0)	(15.0)	12.0	4.8	外面ミガキ。10と同一個体か?	
48-8	当具状	4B	5 H	A-159-5	覆土	(31.5)	30.0	29.0	21.0	外面ミガキ。海綿骨針混入。爪痕?箇所。擦痕有。指紋痕。	
48-9	当具状	4A	遺構外斜面	B-148-8	B-Tm下層	27.0	39.5	30.0	14.3	外面不整。平坦面ミガキなし。平坦部粘土時のしわ多し。	
48-10	当具状	4A	遺構外	H-155-2	第1層	(52.0)	(53.0)	51.0	48.7	平坦面ミガキなし。平坦部指圧痕。海綿骨針混入。	

土師質特殊遺物

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
49-1	板状	3-	4 H	G-159-12	床面	50.0	47.0	12.5	25.4	片面植物性繊維圧痕。赤色の小礫含む。	
49-2	粘土紐状	1-	遺構外	F-148-7	B-Tm中	28.0	11.5	7.0	1.7	粘土時ヒビ多し。瘤状の粘土付着。	
49-3	粘土紐状	1-	2 Hカマド	E-152-4	覆土	32.5	9.0	7.0	1.2	粘土時のヒビあり。	
49-4	粘土紐状	1-	2 H	E-153	覆土	26.0	17.5	9.0	2.3	指押圧2箇所。	
49-5	粘土紐状	1-	遺構外	A-154	第1層	26.5	14.5	10.5	3.4	粘土時のヒビ多し。植物性繊維擦痕?あり。	
49-6	粘土紐状	1-	S K 0.8	F-159-15	覆土	47.0	12.5	10.0	5.7	指押圧一つあり。	
49-7	粘土紐状	1-	遺構外	E-147	B-Tm中	(14.0)	(6.5)	7.0	0.7	粘土時のヒビあり。	
49-8	粘土紐状	1-	遺構外	H-151	第1層	(32.0)	13.0	6.0	2.3	表面叩き板の圧痕?。裏面指押圧。	
49-9	粒状	2-	2 Hカマド	E-153-15	覆土	13.0	14.0	9.5	1.6	指ツブシによるしわあり。	
49-10	粒状	2-	2 H	D-152-6	覆土	15.0	13.0	10.0	1.4	表面風化著しい。	
49-11	粒状	2-	遺構外斜面	C-146-13	B-Tm中	15.0	16.0	11.5	2.4	粘土時のしわ多し。	
49-12	粒状	2-	4 H	G-159-11	覆土	16.0	17.5	11.0	2.8	指ツブシ。	
49-13	不整	4-	遺構外	DZ-155	第1層	25.0	18.5	14.0	4.6	袂部は貫通孔。指紋あり。孔のまわり粘土めくれ。	
49-14	板状	3-	遺構外	C-146	B-Tm上層	(31.0)	(17.0)	8.0	2.9	粘土時のしわ片面に多し。袂部は貫通孔。	
49-15	板状	3-	遺構外	A-147	第1層	34.5	29.5	7.0	7.7	片面極めて平坦。植物性繊維圧痕。	
49-16	板状	3-	4 H	G-159-3	床面	19.5	31.0	9.0	4.6	下端部押圧により平坦。平坦部の脇めくれ。	
49-17	板状	3-	遺構外	B-148	第1層	26.0	20.0	7.0	3.5	片面平坦。砂圧痕?有。粘土時のツブシによるしわ多し。	
49-18	板状	3-	遺構外	F-148-12	第1層	(33.0)	24.5	7.4	4.8	粘土時のしわ・ヒビ多し。植物性繊維圧痕。	
49-19	板状	3-	遺構外	B-148	第1層	16.0	11.5	6.5	1.1	植物性繊維圧痕。粘土時のツブシのヒビ。	
49-20	板状	3-	遺構外	C-151	第1層	19.0	14.5	8.5	2.0	繊維(布)圧痕。上面植物性繊維圧痕?。指紋痕。	
49-21	板状	3-	2 HRP01	D-153-9	覆土(5b)	28.0	20.0	5.0	2.0	裏面非常に平坦。表面指押圧。	
49-22	板状	3-	S K 0.6		覆土	28.0	21.0	4.0	1.6	薄くのはばした粘土を一部折り曲げ。	
49-23	板状	3-	遺構外	G-155	第1層	25.0	17.5	6.0	2.0	薄くて断面弓状。粉痕あり。	
49-24	板状	3-	S K 2.0	F-153-7	覆土	19.0	16.5	3.0	0.7	裏面非常に平坦。植物性繊維圧痕。	
49-25	板状	3-	SDX01-a	C-158-1	覆土	15.0	15.5	6.0	1.0	裏面やや平坦。表面摩滅。	
49-26	不整	4-	遺構外	A-150	第1層	21.5	20.0	12.0	2.5	表面剥落著し。	
49-27	不整	4-	遺構外	H-150	B-Tm上層	25.0	18.0	11.0	3.3	粘土時のしわ多し。一部植物性繊維擦痕?。	
49-28	不整	4-	3 H	D-156	床面	(15.0)	19.0	14.0	3.5	上端部に刺突?あり。粘土時のヒビあり。	
49-29	不整	4-	4 H	F-159-1	覆土	19.0	18.0	8.0	2.1	軟質の焼成。	
49-30	不整	4-	S K 0.6		覆土	24.0	21.5	12.0	3.8	表面やや平坦。裏面植物性繊維圧痕。	
49-31	不整	4-	S K 0.9		覆土	13.0	10.5	6.0	0.7	—	
49-32	不整	4-	遺構外	L-154	第1層	19.0	22.0	6.0	1.9	表面粘土時のヒビ。	
49-33	粒状	2-	2 H	E-153-14	覆土	24.0	22.0	12.0	4.8	表面植物性繊維圧痕。裏面粘土時のしわ。	
49-34	不整	4-	遺構外	E-147	B-Tm中	21.0	33.0	13.5	7.8	表面粘土時のしわ・ヒビ多し。2つの粘土接着。指押圧あり。	
49-35	不整	4-	遺構外	G-150	B-Tm上層	35.0	19.0	13.0	7.4	表面粘土時のヒビ多し。爪刺突3箇所。	
49-36	不整	4-	2 HRP01	D-153-9	覆土(8)	21.5	19.0	13.0	6.2	表面歪曲著し。粘土時のしわ多数。	胎分1.3.0

粘土塊

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
50-1	—	2-	2 H	E-153-15	床面	140.5	86.0	42.5	331.9	割れ口に植物性の繊維。赤色小礫やや含む。全体的に脆い。	胎分1.2.9
50-2	—	1-	5HSD01	DZ-159-5	覆土	51.0	56.0	18.0	41.3	裏面平坦。石英粒?多量混入。堅緻だが焼成していない。	胎分1.3.1

焼成粘土塊

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
51-1	—	1-	S K 1.0	E-160-6	覆土	43.0	32.0	16.0	10.9	表面丸み。ケズリ状ナデ。内面植物性繊維圧痕。海綿骨針含む。	
51-2	—	1-	遺構外	F-156	第1層	61.5	65.0	21.0	58.6	黒褐色。表面亀裂。全面歪曲激し。表面わずかなナデ。	
51-3	—	1-	遺構外	C-146	B-Tm中	53.5	54.5	18.0	32.6	表面植物性繊維圧痕。内面ナデ。茶褐色~黒褐色の焼成。	
51-4	—	1-	5HSD01	DZ-159-9	覆土	56.0	42.0	22.5	33.5	表面ナデ。植物性繊維圧痕。	
51-5	—	1-	5HSD01	A-159-12	覆土	22.0	16.0	12.5	3.5	割れ口植物性繊維痕。	
51-6	—	2-	4HSD01	G-155-5	覆土	100.0	127.0	47.5	265.2	表面ナデ?。段あり。裏面植物性繊維混入。全体的に脆い。	胎分1.3.2
51-7	—	2-	2 Hカマド	E-152-5	覆土	90.0	75.0	47.0	208.4	表面植物性繊維圧痕。一部平坦面。裏面卵形窪み。やや脆い。	胎分1.2.8



須恵器窯壁片

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
52-1	-	2B	S K 19		覆土	157.5	205.5	90.0	1357.0	表面還元。裏面軟質で粉状。	
52-2	-	2B	S K 19		覆土	135.0	151.5	82.0	841.6	表面還元。裏面軟質で粉状。	胎分139
52-3	-	2B	4 H	G-159-7	覆土	167.0	136.0	65.5	903.6	表面還元。裏面も還元。粘土付着。	
52-4	-	2B	2 H	D-152-3	覆土	116.0	182.0	42.0	547.5	表面還元。裏面軟質で粉状。	
52-5	-	2A	4 H	G-160-13	床構築土	89.0	133.0	73.5	443.3	表面還元。裏面軟質で粉状。表面芯材痕あり。	
52-6	-	2A	2 H	D-153-14	覆土	81.0	105.5	44.0	251.6	表面還元。裏面軟質で粉状。表面芯材痕あり。	
52-7	-	2B	遺構外斜面	C-145-1	B-Tm上層	103.0	94.0	33.0	194.2	全面還元。表面須恵器片溶着。	胎分133
53-1	-	1B	S E 01	C-154-3	床B-Tm下層	114.5	153.5	63.0	508.7	表面還元。裏面軟質で粉状。	
53-2	-	1B	4 H	G-160-13	床面	110.0	165.0	65.5	783.8	表面焼土付着。裏面2次？	胎分143
53-3	-	1A	S K 08	F-159-12	覆土	102.0	134.0	98.5	696.2	表面還元。裏面軟質粉状。表面芯材痕。表、側、裏面焼土付着。	
53-4	-	2B	4 H	G-159-7	床面	193.0	224.0	74.5	2239.9	表面還元。裏面軟質で粉状。裏面の一部に還元土付着。	胎分142
53-5	-	2B	2 H	D-153-11	床面	159.0	178.5	88.0	1206.6	表面還元。裏面軟質で粉状。	胎分137
53-6	-	1B	2 H	D-152-2	覆土	179.0	211.9	72.1	1512.8	表面還元。裏面軟質粉状。裏面還元土付着。表、側面焼土付着。	
53-7	-	1A	遺構外斜面	E-147-16	B-Tm下層	134.0	116.0	210.0	1780.8	全面還元。表面に芯材痕(3本)あり。全面焼土付着。	胎分150
53-8	-	1A	S K 08	F-159-12	覆土	267.0	136.0	166.0	2975.7	表面還元。裏面軟質粉状。表面芯材痕？。表、側、裏面焼土付着。	胎分147

石製品・礫

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
54-1	玉類	1B	S K 08	F-159-12	覆土	46.0	61.0	14.0	31.3	孔は自然。	凝灰岩
54-2	使用痕礫	-	S K 08		覆土	44.0	(77.0)	30.0	117.0	被熱礫。表面一部黒みがかかる。	流紋岩
54-3	使用痕礫	-	4 H S D 01	G-156	覆土	(60.5)	58.0	42.0	192.3	被熱礫。表面一部黒みがかかる。	安山岩
54-4	使用痕礫	-	4 H	I-160-4	覆土	(60.0)	91.0	38.0	136.4	被熱礫。表面一部黒みがかかる。	流紋岩
54-5	使用痕礫	-	4 H	G-160-15	覆土	132.0	53.0	28.0	271.5	左端と上側縁の一部に粘土付着。	安山岩
54-6	砥石	2B	4 H 壁際	H-160-16	覆土	71.0	(93.5)	37.5	245.5	表面スリ。被熱礫？	流紋岩
54-7	使用痕礫	-	S K 08		覆土	106.0	64.0	20.5	154.8	-	凝灰岩
54-8	直方体礫	3B	5 H		床面	244.0	187.0	88.0	8000.0	砂礫多量混入。粘土付着。	凝灰岩
55-1	直方体礫	3A	2 H カマド	E-153-15	床面2a上	203.0	222.5	73.0	1759.0	表面焼土微量付着。裏面切出時のケズリ痕。全面被熱。シルト。	胎分170
55-2	直方体礫	3A	2 H	D-153-2	床面	218.0	171.0	71.0	935.7	表裏面切出時のケズリ痕。表面に焼土一部付着。	シルト
55-3	直方体礫	3A	S K 08		覆土	(68.0)	82.0	39.0	85.2	表面に切出時の擦痕。表面～側面～裏面の一部被熱。	シルト

鉄製品

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
56-1	用途不明	2C	4 H	H-160-12	覆土	37.0	48.0	11.0	17.5	腐食著しい。	未処理
56-2	用途不明	2B	4 H カマド	G-160-5	覆土	40.5	29.8	6.0	8.9	板状。腐食著しい。	未処理
56-3	刀子	1-	5 H		覆土	23.0	18.0	3.0	1.3	刃部	保存処理済
56-4	刀子	1-	5 H		覆土	16.0	8.0	1.0	0.3	刃部	保存処理済
56-5	刀子	1-	5 H		覆土	(42.0)	15.0	3.0	2.2	刃部	保存処理済

縄文土器

図番号	出土遺構	出土地点	分類	器種	部位	地文	炭化物	その他の特徴
58 01	4H	G-159	II	深鉢	胴部	-	-	連続刺突文、コンパス文、表銘・芦野I
58 02	5H	A-159	II	深鉢	胴部	-	-	連続刺突文、表銘・芦野I、3~5類似破片
58 06	4H	H-160	II	深鉢	口縁	-	-	R燃糸圧痕、円筒下層c式?
58 07	SK08		II	深鉢	口縁下	-	-	L燃糸圧痕、燃糸文、円筒下層d式
58 08	遺構外	A-121	II	深鉢	口縁	-	-	L燃糸圧痕、円筒下層d式
58 09	遺構外	B-147	II	深鉢	口縁	燃糸	-	燃糸文、磨滅著しい、円筒下層d式
58 10	遺構外	B-160	VI-2	深鉢	口縁	RL	-	原体の端部?→ヨコの区画状に見える、前期前葉か
58 11	4H	H-160	VI-2	深鉢	底部	多軸絡糸体	-	縦線含む、円筒下層c~d式?
58 12	遺構外	D-155	III	深鉢	口縁	-	-	馬蹄形燃糸圧痕、L圧痕、隆帯、円筒上層b式
58 13	遺構外	G-159	II	深鉢	口縁	-	-	縦線含む、L圧痕、刺突、円筒下層d式
58 14	遺構外	H-150	IV	深鉢	口縁下	-	-	砂粒多量に含む、隆帯上の連続刺突(竹管状)、牛ヶ沢並行
58 15	SK11		IV	深鉢	胴部	RL	-	沈線、刺突、器面ミガキ?
58 16	SK08		IV	深鉢	胴部	-	-	粘土組貼付による区画→区画内を粘土紐に沿って沈線、十腰内I
58 17	SK08		IV	深鉢	胴部	LR	○	細く浅い沈線
58 18	遺構外	J-127	IV	深鉢	口縁	-	-	口縁部無文帯・折り返し状の外反口縁
58 19	SK08		IV	深鉢	胴部	不明	○	細く浅い沈線
58 20	遺構外	OX-160	V	深鉢	口縁	LR	-	3条の幅広沈線、沈線内光沢有り、22も地文・文様構成同じ
58 21	遺構外	B-160	V	浅鉢	口縁	LR	-	磨滅著しい、沈線間磨消?
58 23	遺構外	A-156	V	深鉢	口縁	LR	-	内面砂粒の動き明瞭な調整、磨滅著しい、幅広の浅い沈線
58 24	遺構外	O-168	V	深鉢	口縁	不明	○	内外面黒褐色、口縁内面1条の沈線
58 25	遺構外	I-153	V	浅鉢	口縁	LR	-	内面先の細い工具で調整、連続突起、平行沈線、27同一個体、大洞C1式
58 26	SK09	F-154	V	深鉢	口縁	LR	-	波状口縁部ミガキによる無文帯、沈線2~3回同一箇所施す
58 28	遺構外	OX-161	V	浅鉢	口縁	-	-	工字文、沈線施文後ミガキ、内外面光沢有り、大洞A式
58 29	遺構外	I-152	VI	不明	底部	-	-	沈線
58 30	SK06		V	深鉢	胴部	条痕	○	砂粒多量に含む
58 31	SK11		V?	深鉢	口縁	条痕	-	砂粒多量に含む、口縁部無文帯、沈線施文後ミガキ?調整
58 32	5H		V?	浅鉢	胴部	不明	-	磨消縄文
58 33	4H	G-160	III	深鉢	胴部	LR	-	細く、しっかり貼り付けていない隆帯、円筒上層d式
58 34	遺構外	A-140	VI	深鉢	口縁	→	-	銅灰の沈線とは違う、断面の様子と似た抉れ、斜沈線、橙色
58 35	遺構外	I-151	V	鉢	口~底	-	○	工字文、内面と底部付近に沈線、沈線間に地文明瞭に残存、大洞A~A'
58 36	SK22		II	深鉢	口~底	LR	-	口唇部連続押圧、燃糸文、L圧痕、刺突、円筒下層d式

土製品(縄文)

図-No	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
58-37	-	-	4 H	G-159-7	底面	19.5	12.0	10.0	2.2	4側面にU字状沈線。4辺に刺突。上→下へ貫通孔。	

隠川(12)遺跡

石器・礫(縄文)

図-No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	石質	
59-1	石 錐	1A	遺構外	D-151	攪乱	31.0	18.0	4.0	2.3	-	珉質頁岩	
59-2	石 錐	1A	遺構外	C-168	第1層	31.0	15.0	3.5	1.5	-	珉質頁岩	
59-3	石 錐	1A	遺構外	A-157	第1層	30.5	14.5	5.5	2.1	裏面基部被熱によるはじけ。	珉質頁岩	
59-4	石 錐	1A	遺構外	E-157	第1層	22.0	16.0	4.0	1.8	先端欠損。	珉質頁岩	
59-5	石 錐	1B	4	H	G-160-15	床面	35.0	15.0	3.5	1.7	-	珉質頁岩
59-6	石 錐	1B	遺構外	D-156	第1層	13.0	16.0	3.0	0.5	表裏面被熱によるはじけ。	珉質頁岩	
59-7	石 錐	1C	遺構外	C-148-4	第1層	28.5	16.0	3.5	1.7	裏面の主要剥離面は節理面。	珉質頁岩	
59-8	石 錐	1C	遺構外	B-159-15	第II層	30.0	12.0	3.5	0.8	-	珉質頁岩	
59-9	石 錐	1C	遺構外	DZ-161	第1層	36.0	15.0	4.5	1.6	裏面被熱によるはじけ。	珉質頁岩	
59-10	石 錐	1C	遺構外	B-156-2	第1層	34.5	13.0	4.5	2.3	先端欠損。基部被熱。	珉質頁岩	
59-11	石 錐	1C	遺構外	A-151-4	第1層	36.5	14.0	4.0	2.0	先端と基部欠損。	珉質頁岩	
59-12	石 錐	1C	遺構外	C-166-16	第1層	47.0	17.0	4.5	3.3	左側やや鋸歯状の刃。右側微細な平坦加工。削器の可能性も大。	珉質頁岩	
59-13	石 錐	1D	遺構外	H-150	第1層	18.5	17.0	3.0	0.9	先端欠損。基部表面被熱によるはじけ。	珉質頁岩	
59-14	石 錐	1E	遺構外	D-145-8	B-Tm下層	37.0	12.0	4.0	1.2	基部欠損。	珉質頁岩	
59-15	石 錐	1E	遺構外	E-162	第II層	31.0	14.0	5.0	1.5	被熱による欠損。	珉質頁岩	
59-16	石 錐	1E	遺構外	DZ-157-4	第1層	27.0	16.0	5.0	1.2	-	珉質頁岩	
59-17	石 錐	1E	遺構外	C-167	第1層	28.0	11.0	4.0	1.5	裏面中央の高い部分はバルブ。横長剥片素材。先端と基部欠損。	珉質頁岩	
59-18	石 錐	1E	遺構外	DZ-161-15	第1層	27.0	10.0	3.5	1.0	先端欠損。表面被熱によるはじけ。	珉質頁岩	
59-19	石 錐	1-	遺構外	D-149	第1層	24.5	11.0	3.5	1.1	先端と基部欠損。	珉質頁岩	
59-20	石 錐	1-	遺構外	F-163-11	第1層	29.0	15.0	3.5	1.6	基部?欠損。上下不明。	珉質頁岩	
59-21	石 錐	1-	遺構外	DZ-159	第1層	31.5	15.0	4.0	1.9	基部?欠損。上下不明。	珉質頁岩	
59-22	石 錐	1-	3	H	D-156-11	覆土	21.0	15.5	4.0	1.6	先端?基部?欠損。上下不明。	珉質頁岩
60-1	スクレイパー	2Aa2	遺構外	DX-160-13	第1層	66.0	22.0	8.0	12.7	尖頭器形。つまみ部はバルブ。裏面左側縁ポリッシュ。	珉質頁岩	
60-2	スクレイパー	2Aa2	遺構外	G-161-11	第1層	70.0	35.5	7.5	16.6	つまみ部バルブか。右側縁使用による微細剥離か。左側縁刃部。	珉質頁岩	
60-3	スクレイパー	2Aa2	4	H	G-160-8	覆土	78.0	53.0	9.5	24.9	裏面下端と表面右側縁使用による微細剥離か。左側縁刃部。	珉質頁岩
60-4	スクレイパー	2Ab	遺構外	G-158	第1層	53.5	39.5	9.0	17.5	下端欠損。裏面左側縁使用による微細剥離。	珉質頁岩	
60-5	スクレイパー	2Ab	遺構外	C-162-7	第1層	54.0	32.0	5.0	12.3	裏面左側縁使用による微細剥離。左側縁刃部。	珉質頁岩	
60-6	スクレイパー	2B	遺構外	C-150	第1層	39.0	32.5	5.0	8.9	上部欠損。表面左側縁・裏面左側縁調整剥離。	珉質頁岩	
60-7	スクレイパー	2B	遺構外	DZ-161	第1層	73.5	57.0	12.0	55.9	表面下端及び右側縁の一部に調整剥離。	珉質頁岩	
60-8	スクレイパー	2Ac	遺構外	DX-160-14	第1層	84.0	50.0	15.0	62.1	裏面下端ポリッシュ。	珉質頁岩	
60-9	スクレイパー	2Ac	遺構外	DX-157-1	第1層	67.0	43.5	13.5	45.4	裏面下端ポリッシュ。	珉質頁岩	
60-10	スクレイパー	2Ac	遺構外	F-150	第1層	61.5	36.0	11.0	28.8	表面先端節理面あり。	珉質頁岩	
60-11	スクレイパー	2Ac	遺構外	B-150-4	第1層	64.0	43.0	14.0	32.2	表面被熱によるはじけ。裏面下端ポリッシュ。	珉質頁岩	
60-12	スクレイパー	2Ac	遺構外	E-153	第1層	62.0	43.5	16.0	41.2	裏面下端ポリッシュ。上端は礫表皮。	珉質頁岩	
60-13	スクレイパー	2Ac	遺構外	DZ-158	第1層	46.5	35.0	10.0	21.5	先端欠損。	珉質頁岩	
60-14	スクレイパー	2Ac	遺構外	C-161	第1層	36.0	27.0	9.0	11.1	上端?欠損。	珉質頁岩	
61-1	スクレイパー	2B	S K O 1		7層下層	84.5	60.0	16.5	82.8	表面右側縁・裏面左側縁調整剥離。	珉質頁岩	
61-2	スクレイパー	2B	遺構外	DZ-157	第1層	42.5	37.0	13.0	24.6	下部断面急角度。	珉質頁岩	
61-3	スクレイパー	2D	遺構外	D-151	第1層	44.0	30.0	9.0	16.1	表面左右側縁使用による微細剥離か?上部欠損。	珉質頁岩	
61-4	スクレイパー	2B	4HSD01	G-158	覆土	39.0	25.0	8.0	8.3	表面右側縁調整剥離。	珉質頁岩	
61-5	スクレイパー	2-	遺構外	E-152	第1層	19.5	45.5	14.0	9.9	刃部断面急角度。	珉質頁岩	
61-6	スクレイパー	2B	遺構外	F-149	第1層	44.0	25.0	9.5	12.8	表面左側縁刃部断面急角度。	珉質頁岩	
61-7	スクレイパー	2D	4	H	G-159-2	覆土	43.0	38.5	8.0	15.1	表面左側縁と下端に調整剥離。	珉質頁岩
61-8	スクレイパー	2D	遺構外	G-156	第1層	42.0	41.0	13.5	20.3	表面右側縁の袂部つぶれ。	珉質頁岩	
61-9	スクレイパー	2C	遺構外	C-155	第1層	30.5	32.0	9.0	9.3	表面右側縁調整剥離。	珉質頁岩	
61-10	スクレイパー	2C	遺構外	C-144	B-Tm中	47.0	39.0	6.0	12.8	表面右側縁使用による剥離。礫表皮周囲の約4分の3残存。	珉質頁岩	
61-11	スクレイパー	2B	遺構外	G-160	第1層	67.0	50.0	23.0	74.9	粗い調整剥離による刃部作出。礫表皮、節理面あり。削器。	珉質頁岩	
62-1	磨製石斧	4-	遺構外	E-160-4	第1層	77.0	47.0	26.0	149.0	装着部欠損。	安山岩	
62-2	磨製石斧	4-	遺構外	B-154-12	第1層	21.5	12.0	5.0	2.0	-	凝灰岩	
62-3	磨石	6B	2	H	E-153-6	覆土	133.0	93.0	92.5	320.2	表裏面黒色物質付着。表面の一部擦痕。	安山岩
62-4	磨石	6B	5	H	床面	172.5	77.5	48.0	803.0	-	安山岩	
62-5	磨石	6B	遺構外	E-147	B-Tm上層	130.0	67.0	33.0	461.2	楕円形の礫を隅丸形状に整形。	閃緑岩	
62-6	磨石	6A	遺構外	G-158	第II層	69.0	100.5	40.0	294.2	磨面かなり滑沢。上端は平たく整形されている。	凝灰岩	
62-7	磨石	6A	2Hカマド	E-152-3	覆土	90.3	80.0	42.0	334.3	カマド(平安)出土のため、被熱による風化著しい。	閃緑岩	
62-8	磨石	6A	遺構外	F-159	第1層	113.0	89.0	50.0	745.6	上端の欠損は最近のもの。	閃緑岩	
62-9	石皿	5-	遺構外	E-147-8	B-Tm下層	(137.0)	(91.0)	48.0	531.0	中心部はかなり滑沢。	安山岩	
62-10	使用痕礫	-	遺構外	B-149	第1層	(123.0)	(76.0)	46.0	341.8	表面黒色物質付着。	流紋岩	

石製品(縄文)

図-No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	石質	
61-12	-	-	4	H	G-160	確認面	67.0	70.0	18.0	130.1	周縁つぶれ。	凝灰岩

弥生土器

図-No.	時期	分類	出土位置1	出土位置2	層位	器種	部位	地文	備付型式	特徴	備考
63-1	前期前半	1-	遺構外	A-154	第1層	鉢	底部	-	砂沢	内面黒斑あり。全面ミガキ。沈線断面やや三角形。底径7.9cm。	
63-2	後期	4-	S K 1 1	D-158	覆土	甕	口縁部	-	天王山	外黒褐色(10YR3/2)~内黒褐色(10YR5/3)。内面に赤褐色(10YR6/3)。磨面あり。	平安期土坑
63-3	後期	4-	S K 1 1	D-158	覆土	甕	口縁部	-	天王山	外黒褐色(10YR3/2)。内面に赤褐色(10YR6/3)~黒褐色(7.5YR5/6)。磨面あり。	平安期土坑
63-4	後期	4-	S K 1 1	D-158	覆土	甕	胴部	R L	天王山	外黒褐色(10YR4/1)。内面に赤褐色(10YR6/3)~黒褐色(7.5YR5/6)。磨面あり。	平安期土坑

近世以降

図-No.	種別	分類	出土位置1	出土位置2	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	特徴	備考
64-1	陶器蓋物	1Bb	遺構外	DZ-154	第1層	8.8	-	-	-	灰釉。口唇部内面。下位無釉。下位に煤状炭化物付着。	
64-2	磁器碗	2Aa	遺構外	D-152	第1層	-	3.2	-	-	染付。畳付無釉。高台内面透明釉。高台内外面鉄塗→透明釉。	
64-3	銭貨	1-	遺構外	A-143	第II層	24.2	24.0	1.2	2.8	寛永通寶。ひびあり。	
64-4	銭貨	1-	遺構外	A-145	第1層	22.0	22.2	0.8	1.9	寛永通寶。「通」の下に小孔あり。	
64-5	陶器皿	1Ba	遺構外	B-151	第1層	-	12.6	-	-	灰釉。高台内無釉。内底面胎土目。全面貫入。	
64-6	砥石	1-	遺構外	G-158	第1層	(174.0)	63.0	47.0	1020.0	外面黒色物質付着。複雑に割れている。	凝灰岩
64-7	煙管	2-	遺構外	A-144	第II層	(44.0)	8.0	9.0	(2.7)	両端僅かに欠損。外面緑青著しい。	